

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 9

— 柏市内山遺跡(1)～(20) —

令和5年3月

千葉県教育委員会

柏北部中央地区 埋蔵文化財調査報告書 9

かひしうちやまいせき
— 柏市内山遺跡 (1)~(20) —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会では、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業に係る埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第46集として、柏北部中央地区土地区画整理事業に伴って実施した柏市内山遺跡の発掘調査報告書です。今回の調査では、旧石器時代のナイフ形石器、尖頭器や細石器の石器製作跡をはじめ、古墳時代中期及び平安時代の集落跡など、長期間にわたる様々な人々の営みの跡が検出されました。既に調査報告第36集として報告した柏市屋敷内遺跡などの周辺遺跡の調査成果と合わせ、当地域における各時代の様相や変遷などを知る上での貴重な資料を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和5年3月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長 金井 一喜

凡 例

1 本書は、千葉県県土整備部による柏北部中央地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2 本書は、下記遺跡における第1次～第20次調査地点の調査成果を取録したものである。

内山遺跡 柏市正連寺字内山394-3ほか(遺跡コード217-037)

なお、第1章第1節でも記しているが、第1次からの各調査地点の表記は、第1次は(1)のように略号で記し、遺構番号の前に各調査地点の略号を付して表記している。

3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、平成24年度まで公益財団法人千葉県教育振興財団が実施し、平成25年度からは千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。

4 調査組織及び発掘調査と整理事業の期間・担当者等は、第1章第1節に記載したとおりである。

5 本書の執筆は、第1章～第2章第2節、第3章第1節を文化財主事 渡邊 玲、第2章第3節を文化財主事 小澤政彦、第2章第4節～第7節、第3章第2節～第4節を主任首席文化財主事 金丸 誠、第3章第5節を主任首席文化財主事 蜂屋孝之が行い、編集は、主任首席文化財主事 蜂屋孝之と田島 新が行った。

6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県県土整備部市街地整備課、同柏区画整理事務所、柏市教育委員会ほか機関及び多くの方々から御指導、御協力を得た。

7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。

8 本書で使用した地形図は下記の通りである。

第1図 柏市都市計画課発行 1/2,500 都市計画地図「11・17」平成5年3月修正測量を編集

第4図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「流山」平成22年8月発行を編集

第5図 地図史料編集会編 明治前期 関東平野地誌図集成 1/25,000「流山」を編集

9 図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和48年撮影のものを使用した。

10 母岩番号は、「石材コード」+「4桁」の番号でSH1002のように表記した。色調や石質が近似する母岩については細分し、SH1002やSH2001のように番号の千の位を振り分けて表記した。また、単独母岩についてはSH0000のように表記している。

11 挿図・表に使用した記号の用例は、次のとおりである。

石材:黒曜石(OB)、メノウ(CC)、頁岩(SH)、黒色頁岩(BS)、珪質頁岩(SS)、硬質頁岩(HS)、
嶺岡産珪質頁岩(MS)、ガラス質黒色安山岩(GA)、トトロ石(TO)、流紋岩(RH)、チャート(CH)、ホルンフェルス(HO)、緑色凝灰岩(GT)、凝灰岩(TU)、安山岩(AN)、砂岩(SA)
礫石材:安山岩(AN)、黒色頁岩(BS)、メノウ(CC)、チャート(CH)、礫岩(CO)、花崗岩(GR)、
ホルンフェルス(HO)、石英斑岩(QP)、流紋岩(RH)、砂岩(SA)、頁岩(SH)、蛇紋岩(SP)、トトロ石(TO)、凝灰岩(TU)

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査に至る経緯と経過	1
2	調査の方法と概要	1
第2節	遺跡の位置と環境	7
1	遺跡の位置と地形	7
2	周辺の遺跡	7
第2章	調査の成果	21
第1節	遺跡の概要	21
第2節	旧石器時代の遺構と遺物	25
1	第1文化層	30
2	第2文化層	63
3	第3文化層	71
4	第4文化層	108
5	第5文化層	214
6	第6文化層	266
7	単独出土石器	283
第3節	縄文時代の遺構と遺物	287
1	竪穴住居跡	287
2	礫集中地点	288
3	陥穴	289
4	遺構外出土石器	297
5	遺構外出土石器	298
第4節	古墳時代の遺構と遺物	313
1	竪穴住居跡	313
2	竪穴状遺構	327
第5節	平安時代の遺構と遺物	336
1	竪穴住居跡	336
第6節	中・近世の遺構と遺物	352
1	地下式坑	352
2	井戸	352
3	土坑	352
4	溝	354
第7節	遺構外遺物	361

第3章 総括	362
第1節 旧石器時代	362
第2節 縄文時代	365
第3節 古墳時代	365
第4節 平安時代	368
第5節 中・近世以降	370
1 中・近世	370
2 近代	370
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 柏北部中央地区遺跡位置図	4	第19図 第1文化層23AA-99ブロック出土石器	40
第2図 上層確認トレンチ配置・本調査範囲	5	第20図 第1文化層23AA-99ブロック器種別・母岩別分布図	41
第3図 下層確認グリッド配置・本調査範囲	6	第21図 第1文化層24AA-19ブロック出土石器(1)	42
第4図 内山遺跡と周辺の遺跡	8	第22図 第1文化層24AA-19ブロック出土石器(2)	43
第5図 内山遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)	9	第23図 第1文化層24AA-19ブロック器種別・母岩別分布図	44
第6図 上層遺構分布	23	第24図 第1文化層24BB-20ブロック器種別分布図	46
第7図 内山遺跡下層全測図	24	第25図 第1文化層24BB-20ブロック母岩別分布図	47
第8図 周辺地形と旧地形復元	27	第26図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(1)	48
第9図 基本層序	28	第27図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(2)	49
第10図 内山遺跡文化層別ブロック位置図	29	第28図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(3)	50
第11図 第1文化層ブロック位置図	31	第29図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(4)	51
第12図 第1文化層18U-22ブロック器種別・母岩別分布図	32	第30図 第1文化層24BB-31ブロック器種別・母岩別分布図	53
第13図 第1文化層18W-01ブロック器種別・母岩別分布図	33		
第14図 第1文化層25W-06ブロック器種別・母岩別分布図	34		
第15図 第1文化層25W-06ブロック出土石器(1)	35		
第16図 第1文化層25W-06ブロック出土石器(2)	36		
第17図 第1文化層25W-06ブロック出土石器(3)	37		
第18図 第1文化層ユニット1母岩別分布図	39		

第31図	第1文化層24BB-31ブロック出土石器 (1).....	54	第53図	第3文化層15P-95ブロック出土石器(2)	84
第32図	第1文化層24BB-31ブロック出土石器 (2).....	55	第54図	第3文化層15P-97ブロック出土石器(1)	85
第33図	第1文化層24BB-61ブロック器種別・母岩 別分布図.....	57	第55図	第3文化層15P-97ブロック出土石器(2)	86
第34図	第1文化層24BB-61ブロック出土石器	58	第56図	第3文化層15P-97ブロック器種別・母岩 別分布図.....	87
第35図	第1文化層24AA-58ブロック器種別・母 岩別分布図.....	60	第57図	第3文化層16P-16ブロック器種別・母岩 別分布図.....	88
第36図	第1文化層24AA-58ブロック出土石器	61	第58図	第3文化層16Q-15ブロック器種別・母岩 別分布図.....	90
第37図	第1文化層24AA-55ブロック器種別・母 岩別分布図・出土石器.....	62	第59図	第3文化層16Q-15ブロック出土石器(1)	91
第38図	第2文化層ブロック位置図.....	64	第60図	第3文化層16Q-15ブロック出土石器(2)	92
第39図	第2文化層19Q-43ブロック器種別・母岩 別分布図.....	66	第61図	第3文化層16Q-15ブロック出土石器(3)	93
第40図	第2文化層19Q-43ブロック出土石器	67	第62図	第3文化層18T-71ブロック器種別・母岩 別分布図・出土石器.....	94
第41図	第2文化層24W-78ブロック器種別・母岩 別分布図・出土石器.....	68	第63図	第3文化層18U-46ブロック器種別・母岩 別分布図・出土石器.....	95
第42図	第2文化層24Z-22ブロック出土石器	69	第64図	第3文化層21S-69ブロック器種別・母岩 別分布図.....	97
第43図	第2文化層24Z-22ブロック器種別・母岩 別分布図.....	70	第65図	第3文化層21S-69ブロック出土石器	98
第44図	第3文化層ブロック位置図.....	72	第66図	第3文化層27O-62ブロック器種別・母岩 別分布図.....	99
第45図	第3文化層ユニット3器種別・母岩別分布 図.....	74	第67図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(1)	100
第46図	第3文化層15P-66ブロック器種別・母岩 別分布図.....	76	第68図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(2)	101
第47図	第3文化層15P-66ブロック出土石器(1)	77	第69図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(3)	102
第48図	第3文化層15P-66ブロック出土石器(2)	78	第70図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(4)	103
第49図	第3文化層15P-78ブロック器種別・母岩 別分布図.....	79	第71図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(5)	104
第50図	第3文化層15P-78ブロック出土石器	80			
第51図	第3文化層15P-95ブロック器種別・母岩 別分布図.....	82			
第52図	第3文化層15P-95ブロック出土石器(1)	83			

第72図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(6)	105	第93図	第4文化層24N-15ブロック母岩別分布図	131
第73図	第3文化層27O-62ブロック出土石器(7)	106	第94図	第4文化層24N-09ブロック器種別・母岩 別分布図.....	133
第74図	第3文化層28L-11ブロック器種別・母岩 別分布図.....	107	第95図	第4文化層24N-09ブロック出土石器	134
第75図	第4文化層ブロック位置図.....	109	第96図	第4文化層ユニット4b器種別分布図	136
第76図	第4文化層19Q-11ブロック器種別分布図	111	第97図	第4文化層ユニット4b母岩別分布図	137
第77図	第4文化層19Q-11ブロック母岩別分布図	112	第98図	第4文化層25N-06ブロック器種別分布図	138
第78図	第4文化層19Q-11ブロック出土石器(1)	113	第99図	第4文化層25N-06ブロック母岩別・礫分 布図.....	139
第79図	第4文化層19Q-11ブロック出土石器(2)	114	第100図	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (1).....	141
第80図	第4文化層19Q-11ブロック出土石器(3)	115	第101図	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (2).....	142
第81図	第4文化層19Q-11ブロック出土石器(4)	116	第102図	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (3).....	143
第82図	第4文化層ユニット4a器種別分布図	119	第103図	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (4).....	144
第83図	第4文化層ユニット4a母岩別分布図	120	第104図	第4文化層25N-09ブロック器種別分布 図.....	146
第84図	第4文化層23N-31ブロック器種別・母岩 別分布図・出土石器(1).....	122	第105図	第4文化層25N-09ブロック母岩別・礫 分布図.....	147
第85図	第4文化層23N-31ブロック出土石器(2)	123	第106図	第4文化層25N-09ブロック出土石器	148
第86図	第4文化層23N-31ブロック出土石器(3)	124	第107図	第4文化層25N-18ブロック器種別・母 岩別分布図・出土石器.....	150
第87図	第4文化層23N-31ブロック出土石器(4)	125	第108図	第4文化層25O-10ブロック器種別・母 岩別分布図.....	151
第88図	第4文化層23N-63ブロック器種別・母岩 別分布図.....	126	第109図	第4文化層25O-10ブロック出土石器	152
第89図	第4文化層23N-63ブロック出土石器	127	第110図	第4文化層25N-46ブロック器種別・母岩 別分布図.....	154
第90図	第4文化層23N-65ブロック器種別・母岩 別分布図.....	128	第111図	第4文化層25N-46ブロック器種別・母岩 別詳細分布図.....	155
第91図	第4文化層24N-15ブロック出土石器	129	第112図	第4文化層25N-46ブロック出土石器(1)	157
第92図	第4文化層24N-15ブロック器種別分布図	130	第113図	第4文化層25N-46ブロック出土石器(2)	158

第114図	第4文化層25N-46ブロック出土石器(3)159	第133図	第4文化層25S-15ブロック出土石器(2)184
第115図	第4文化層25N-46ブロック出土石器(4)160	第134図	第4文化層25S-15ブロック出土石器(3)185
第116図	第4文化層25N-46ブロック出土石器(5)161	第135図	第4文化層25S-26ブロック器種別分布図186
第117図	第4文化層25N-53ブロック器種別分布 図.....164	第136図	第4文化層25S-26ブロック母岩別分布図187
第118図	第4文化層25N-53ブロック母岩別分布 図.....165	第137図	第4文化層25S-26ブロック出土石器188
第119図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (1).....166	第138図	第4文化層24T-90ブロック器種別・母岩 別分布図.....189
第120図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (2).....167	第139図	第4文化層24T-90ブロック出土石器(1)190
第121図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (3).....169	第140図	第4文化層24T-90ブロック出土石器(2)191
第122図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (4).....170	第141図	第4文化層ユニット4 d 器種別・母岩別分 布図.....193
第123図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (5).....171	第142図	第4文化層21V-66ブロック器種別分布図195
第124図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (6).....172	第143図	第4文化層21V-66ブロック母岩別分布図196
第125図	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (7).....173	第144図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(1)197
第126図	第4文化層25N-51ブロック器種別・母 岩別分布図・出土石器.....175	第145図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(2)199
第127図	第4文化層23P-43ブロック出土石器176	第146図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(3)200
第128図	第4文化層23P-43ブロック器種別・母岩 別分布図.....177	第147図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(4)201
第129図	第4文化層ユニット4 c 器種別・母岩別分 布図.....179	第148図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(5)202
第130図	第4文化層25S-15ブロック器種別分布図181	第149図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(6)203
第131図	第4文化層25S-15ブロック母岩別分布図182	第150図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(7)204
第132図	第4文化層25S-15ブロック出土石器(1)183	第151図	第4文化層21V-66ブロック出土石器(8)205

第152図	第4文化層21V-96ブロック器種別分布図207	第173図	第5文化層26O-03ブロック出土石器 (1).....235
第153図	第4文化層21V-96ブロック母岩別分布図208	第174図	第5文化層26O-03ブロック出土石器 (2).....236
第154図	第4文化層21V-96ブロック出土石器 209	第175図	第5文化層26O-03ブロック出土石器 (3).....237
第155図	第4文化層22V-95ブロック器種別・母岩 別分布図.....210	第176図	第5文化層26O-05ブロック器種別・母岩 別分布図.....239
第156図	第4文化層22V-95ブロック出土石器(1)211	第177図	第5文化層26O-05ブロック出土石器 (1).....240
第157図	第4文化層22V-95ブロック出土石器(2)212	第178図	第5文化層26O-05ブロック出土石器 (2).....241
第158図	第5文化層ブロック位置図.....215	第179図	第5文化層26O-05ブロック出土石器 (3).....242
第159図	第5文化層17P-68ブロック出土石器 216	第180図	第5文化層26O-05ブロック出土石器 (4).....243
第160図	第5文化層17P-68ブロック器種別・母岩 別分布図.....217	第181図	第5文化層ユニット5 b 器種別分布図245
第161図	第5文化層ユニット5 a 器種別分布図...218	第182図	第5文化層ユニット5 b 母岩別分布図246
第162図	第5文化層ユニット5 a 母岩別分布図...219	第183図	第5文化層27L-03ブロック出土石器 247
第163図	第5文化層25O-93ブロック器種別・母岩 別分布図.....222	第184図	第5文化層27L-03ブロック器種別・母岩 別分布図.....248
第164図	第5文化層25O-93ブロック出土石器(1)223	第185図	第5文化層27L-21ブロック器種別・礫分 布図.....250
第165図	第5文化層25O-93ブロック出土石器(2)224	第186図	第5文化層27L-21ブロック母岩別分布図251
第166図	第5文化層25O-85ブロック器種別・母岩 別分布図.....225	第187図	第5文化層27L-21ブロック出土石器 (1).....253
第167図	第5文化層25O-85ブロック出土石器 226	第188図	第5文化層27L-21ブロック出土石器 (2).....254
第168図	第5文化層25O-94ブロック器種別・母岩 別分布図.....228	第189図	第5文化層27L-21ブロック出土石器 (3).....255
第169図	第5文化層25O-94ブロック出土石器 (1).....229	第190図	第5文化層27L-21ブロック出土石器 (4).....256
第170図	第5文化層25O-94ブロック出土石器 (2).....230	第191図	第5文化層27L-76ブロック器種別分布図258
第171図	第5文化層25O-94ブロック出土石器 (3).....231		
第172図	第5文化層26O-03ブロック器種別・母岩 別分布図.....234		

第192図	第5文化層27L-76ブロック母岩別分布図259	第215図	(7) SI-003287
第193図	第5文化層27L-76ブロック出土石器 (1).....260	第216図	(7) SX-002288
第194図	第5文化層27L-76ブロック出土石器 (2).....261	第217図	(1) SK-001・SK-002・SK-003・290
第195図	第5文化層26T-03ブロック器種別分布図263	第218図	(1) SK-004、(2) SK-001・SK-002、 (4) SX-002292
第196図	第5文化層26T-03ブロック母岩別分布図264	第219図	(4) SK-003・SK-004・SK-005、(5) SK-001・SK-002・SK-003294
第197図	第5文化層26T-03ブロック出土石器 265	第220図	(5) SX-001・SK-004・SK-005、(11) SK-001、(14) SK-001295
第198図	第6文化層ブロック位置図.....267	第221図	(14) SK-002・SK-013・SK-014296
第199図	第6文化層ユニット6器種別分布図・269	第222図	遺構外出土石器(1)299
第200図	第6文化層ユニット6母岩別分布図・270	第223図	遺構外出土石器(2)300
第201図	第6文化層15Q-52ブロック器種別・母岩 別分布図.....272	第224図	遺構外出土石器(3)301
第202図	第6文化層15Q-91ブロック器種別・母岩 別分布図.....273	第225図	遺構外出土石器(1)302
第203図	第6文化層15Q-52・15Q-91ブロック礫 分布図.....274	第226図	遺構外出土石器(2)303
第204図	第6文化層15Q-52・15Q-91ブロック出 土石器.....275	第227図	遺構外出土石器(3)304
第205図	第6文化層16Q-11ブロック器種別・母岩 別分布図.....276	第228図	(2) SI-001314
第206図	第6文化層18V-79ブロック礫分布図 277	第229図	(2) SI-002(1)315
第207図	第6文化層25S-95ブロック礫分布図 278	第230図	(2) SI-002(2)316
第208図	第6文化層21I-35ブロック出土石器(1)279	第231図	(2) SI-003(1)317
第209図	第6文化層21I-35ブロック器種別・母岩 別分布図.....280	第232図	(2) SI-003(2)318
第210図	第6文化層21I-35ブロック出土石器(2)281	第233図	(2) SI-006(1)320
第211図	第6文化層21I-35ブロック出土石器(3)282	第234図	(2) SI-006(2)321
第212図	単独出土石器(1)284	第235図	(2) SI-007322
第213図	単独出土石器(2)285	第236図	(2) SI-008(1)324
第214図	単独出土石器(3)286	第237図	(2) SI-008(2)325
		第238図	(2) SI-008(3)326
		第239図	(2) SI-009(1)328
		第240図	(2) SI-009(2)329
		第241図	(4) SI-003330
		第242図	(2) SK-004331
		第243図	(2) SI-004337
		第244図	(2) SI-005(1)338
		第245図	(2) SI-005(2)339
		第246図	(2) SI-005(3)340
		第247図	(2) SI-010343
		第248図	(2) SI-011344

第249図	(4) SI-001・SI-002	345	第259図	(2) SD-001・SD-003	360
第250図	(7) SI-001(1)	346	第260図	遺構外遺物	361
第251図	(7) SI-001(2)	347	第261図	文化層別主要石器	364
第252図	(14) SI-001	348	第262図	古墳時代遺構分布図	366
第253図	(4) SK-008、(3) SK-001、(2) SK-003・SK-005・SK-006、(4) SK-007・SK-009	353	第263図	古墳時代の竪穴住居跡と出土遺物	367
第254図	溝分布図	354	第264図	平安時代の竪穴住居跡と出土遺物	369
第255図	(3) SD-001、(1) SD-001	356	第265図	中・近世以降の遺構等位置図	371
第256図	(1) SD-001、(2) SD-001	357	第266図	内山遺跡(19)に位置する掩体壕③	373
第257図	(1) SD-002	358	第267図	内山遺跡(9)に位置する燃料貯蔵庫⑧	373
第258図	(1) SD-002、(2) SD-002	359	第268図	内山遺跡(14)に位置する燃料貯蔵庫⑦	374

表目次

第1表	内山遺跡(1)～(20)調査一覧表	2	第17表	第1文化層24BB-61ブロック石器組成表	56
第2表	周辺の遺跡概要一覧表	16	第18表	第1文化層24AA-58ブロック石器組成表	59
第3表	竪穴住居跡等一覧表	22	第19表	第1文化層24AA-55ブロック石器組成表	59
第4表	陥穴・地下式坑・井戸・土坑一覧表	22	第20表	第2文化層ブロック別石材組成表	63
第5表	溝一覧表	22	第21表	第2文化層石器組成表	63
第6表	第1文化層ブロック別石材組成表	30	第22表	第2文化層19Q-43ブロック石器組成表	65
第7表	第1文化層石器組成表	30	第23表	第2文化層24W-78ブロック石器組成表	65
第8表	第1文化層18U-22ブロック石器組成表	32	第24表	第2文化層24Z-22ブロック石器組成表	69
第9表	第1文化層18W-01ブロック石器組成表	32	第25表	第3文化層ブロック別石材組成表	71
第10表	第1文化層25W-06ブロック石器組成表	33	第26表	第3文化層石器組成表	71
第11表	第1文化層ユニット1ブロック別石材組成表	38	第27表	第3文化層ユニット3ブロック別石材組成表	73
第12表	第1文化層ユニット1石器組成表	38	第28表	第3文化層ユニット3石器組成表	73
第13表	第1文化層23AA-99ブロック石器組成表	40	第29表	第3文化層15P-66ブロック石器組成表	75
第14表	第1文化層24AA-19ブロック石器組成表	42	第30表	第3文化層15P-78ブロック石器組成表	78
第15表	第1文化層24BB-20ブロック石器組成表	45	第31表	第3文化層15P-95ブロック石器組成表	81
第16表	第1文化層24BB-31ブロック石器組成表	52	第32表	第3文化層15P-97ブロック石器組成表	85
			第33表	第3文化層16P-16ブロック石器組成表	88

第34表	第3文化層16Q-15ブロック石器組成表	89	第66表	第4文化層ユニット4 d 石器組成表	192
第35表	第3文化層18T-71ブロック石器組成表	93	第67表	第4文化層21V-66ブロック石器組成表	194
第36表	第3文化層18U-46ブロック石器組成表	95	第68表	第4文化層21V-96ブロック石器組成表	206
第37表	第3文化層21S-69ブロック石器組成表	96	第69表	第4文化層22V-95ブロック石器組成表	209
第38表	第3文化層27O-62ブロック石器組成表	96	第70表	第5文化層ブロック別石材組成表	214
第39表	第3文化層28L-11ブロック石器組成表	107	第71表	第5文化層石器組成表	214
	107	第72表	第5文化層17P-68ブロック石器組成表	216
第40表	第4文化層ブロック別石材組成表	108		216
第41表	第4文化層石器組成表	108	第73表	第5文化層ユニット5 a ブロック別石材組成表	217
第42表	第4文化層19Q-11ブロック石器組成表	110	第74表	第5文化層ユニット5 a 石器組成表	220
第43表	第4文化層ユニット4 a ブロック別石材組成表	118	第75表	第5文化層25O-93ブロック石器組成表	221
第44表	第4文化層ユニット4 a 石器組成表	118		221
第45表	第4文化層23N-31ブロック石器組成表	121	第76表	第5文化層25O-85ブロック石器組成表	224
第46表	第4文化層23N-63ブロック石器組成表	125		224
第47表	第4文化層23N-65ブロック石器組成表	128	第77表	第5文化層25O-94ブロック石器組成表	227
第48表	第4文化層24N-15ブロック石器組成表	129		227
第49表	第4文化層24N-09ブロック石器組成表	132	第78表	第5文化層26O-03ブロック石器組成表	233
第50表	第4文化層ユニット4 b ブロック別石材組成表	135		233
	135	第79表	第5文化層26O-05ブロック石器組成表	238
第51表	第4文化層ユニット4 b 石器組成表	135		238
第52表	第4文化層25N-06ブロック石器組成表	140	第80表	第5文化層ユニット5 b ブロック別石材組成表	244
第53表	第4文化層25N-09ブロック石器組成表	145		244
第54表	第4文化層25N-18ブロック石器組成表	149	第81表	第5文化層ユニット5 b 石器組成表	244
第55表	第4文化層25O-10ブロック石器組成表	149	第82表	第5文化層27L-03ブロック石器組成表	247
第56表	第4文化層25N-46ブロック石器組成表	153		247
第57表	第4文化層25N-53ブロック石器組成表	163	第83表	第5文化層27L-21ブロック石器組成表	249
第58表	第4文化層25N-51ブロック石器組成表	174	第84表	第5文化層27L-76ブロック石器組成表	257
第59表	第4文化層23P-43ブロック石器組成表	176	第85表	第5文化層26T-03ブロック石器組成表	262
第60表	第4文化層ユニット4 c ブロック別石材組成表	178	第86表	第6文化層ブロック別石材組成表	266
	178	第87表	第6文化層石器組成表	266
第61表	第4文化層ユニット4 c 石器組成表	178	第88表	第6文化層ユニット6 ブロック別石材組成表	268
第62表	第4文化層25S-15ブロック石器組成表	180		268
第63表	第4文化層25S-26ブロック石器組成表	185	第89表	第6文化層ユニット6 石器組成表	268
第64表	第4文化層24T-90ブロック石器組成表	189	第90表	第6文化層15Q-52ブロック石器組成表	271
第65表	第4文化層ユニット4 d ブロック別石材組成表	192	第91表	第6文化層15Q-91ブロック石器組成表	271
	192	第92表	第6文化層16Q-11ブロック石器組成表	275

第93表	第6文化層21I-35ブロック石器組成表	278	第99表	鉄製品属性表	349
第94表	縄文時代土器観察表	305	第100表	平安時代土器観察表	350
第95表	縄文時代石器属性表	312	第101表	遺構外遺物土器観察表	361
第96表	古墳時代土器観察表	332	第102表	遺構外遺物石製品観察表	361
第97表	古墳時代石製品属性表	335	第103表	銭貨計測表	361
第98表	平安時代石製品属性表	349			

図版目次

図版1	内山遺跡周辺航空写真				
図版2	22V-84東壁セクション 20V-46東壁セクション 26L-94東壁セクション 26M-72東壁セクション		図版6	第4文化層23P-43ブロック(西から) 第4文化層25S-15ブロック(南西から) 第4文化層24T-90ブロック(北東から) 第4文化層21V-66ブロック(南から) 第4文化層21V-66ブロック旧石器拡張区セクション(東から) 第4文化層22V-95ブロック(南から) 第5文化層ユニット5 a 東側(南から) 第5文化層ユニット5 a 東側(南から) 第5文化層27L-03ブロック(西から) 第5文化層27L-21ブロック(西から)	
図版3	第1文化層ユニット1(西から) 第1文化層18W-01ブロック(南西から) 第1文化層25W-06ブロック(西から) 第1文化層24BB-20ブロック(西から) 第2文化層19Q-43ブロック(西から) 第2文化層24W-78ブロック(南から) 第2文化層24Z-22ブロック(北から) 第3文化層16Q-15ブロック(南西から)		図版7	第5文化層27L-21ブロックセクション(西から) 第5文化層27L-76ブロック(北から) 第5文化層26T-03ブロック(南から) 第6文化層15Q-52ブロック(南西から) 第6文化層15Q-91ブロック(北東から) 第6文化層16Q-11ブロック(北東から) 第6文化層18V-79ブロック(南東から) 第6文化層22S-95ブロック(南から)	
図版4	第3文化層18T-71ブロック(西から) 第3文化層21S-69ブロック(南から) 第3文化層27O-62ブロック(西から) 第3文化層28L-11ブロック(北から) 第4文化層19Q-11ブロック(南西から) 第4文化層23N-63ブロック(西から) 第4文化層23N-65ブロック(西から) 第4文化層24N-15ブロック(北東から)		図版8	(1) 調査前全景(西から) (4) 調査前全景(西から)	
図版5	第4文化層24N-09ブロック(西から) 第4文化層25N-06ブロック(東から) 第4文化層25N-09ブロック(西から) 第4文化層25O-10ブロック(西から) 第4文化層25N-46ブロック(西から) 第4文化層25N-53ブロック(西から)		図版9	(7) SI-003全景(西から) (7) SI-003遺物出土(東から)	
			図版10	(7) SI-003セクションA-A'(南から) (7) SI-003セクションB-B'(西から) (7) SI-002遺物出土(西から)	

- (7) SI-002セクション(北から)
- (1) SK-001全景(西から)
- (1) SK-003全景(西から)
- 図版11 (1) SK-002全景(北から)
- (1) SK-004全景(南東から)
- (2) SK-001全景(西から)
- (2) SK-002全景(南から)
- (4) SK-002全景(南から)
- (4) SK-003全景(南西から)
- 図版12 (4) SK-004全景(南東から)
- (4) SK-004セクション(南東から)
- (4) SK-005全景(南から)
- (5) SK-001全景(南から)
- (5) SK-002全景(南から)
- (5) SK-003全景(南西から)
- (5) SX-001全景(南から)
- (5) SK-004全景(北から)
- 図版13 (5) SX-001・SK-004全景(西から)
- (5) SK-005全景・セクション(南から)
- (11) SK-001全景(南から)
- (11) SK-001セクション上部(南から)
- (11) SK-001セクション中部(南から)
- (14) SK-002全景(南東から)
- (14) SK-001全景(北東から)
- (14) SK-001セクション(南西から)
- 図版14 (2) SI-001全景(北から)
- (2) SI-002全景(南から)
- 図版15 (2) SI-001遺物出土(北から)
- (2) SI-001貯蔵穴遺物出土(南から)
- (2) SI-002遺物出土(北から)
- (2) SI-002遺物(1)出土(北東から)
- (2) SI-002遺物(2)出土(西から)
- (2) SI-002遺物(3・4)出土(北から)
- (2) SI-002遺物(5・7)出土(南から)
- (2) SI-002遺物(6)出土(西から)
- 図版16 (2) SI-003全景(南から)
- (2) SI-003遺物(1)出土(北西から)
- (2) SI-003遺物(2)出土(東から)
- (2) SI-003遺物(6)出土(南東から)
- (2) SI-003白玉出土(北から)
- 図版17 (2) SI-006全景(北から)
- (2) SI-007全景(東から)
- 図版18 (2) SI-006貯蔵穴遺物出土(西から)
- (2) SI-007貯蔵穴遺物出土(南から)
- (2) SI-008全景(南から)
- (2) SI-008南西側遺物出土(西から)
- (2) SI-008北西側遺物出土(南西から)
- 図版19 (2) SI-008遺物出土(南から)
- (2) SI-009全景(東から)
- 図版20 (2) SI-009遺物出土(南から)
- (2) SI-009貯蔵穴周辺遺物出土(北西から)
- (4) SI-003全景(南西から)
- (2) SK-004全景(南から)
- (2) SK-004遺物出土(南から)
- 図版21 (2) SI-004全景(南から)
- (2) SI-004遺物出土(南から)
- 図版22 (2) SI-005全景(南から)
- (2) SI-005遺物出土(南から)
- 図版23 (2) SI-005北西側遺物出土(北から)
- (2) SI-005遺物(7)出土(南東から)
- (2) SI-005遺物(29)出土(東から)
- (2) SI-010遺物(2)出土(西から)
- (2) SI-010全景(西から)
- 図版24 (2) SI-011全景(東から)
- (4) SI-001・002全景(南東から)
- (7) SI-001セクションB-B'(西から)
- 図版25 (7) SI-001全景(南から)
- (7) SI-001カマド(南から)
- (14) SI-001遺物出土(東から)
- (14) SI-001セクションA-A'(北から)
- 図版26 (14) SI-001セクションB-B'(西から)
- (14) SI-001全景(東から)
- (4) SK-008全景(北東から)

	(3) SK-001全景 (南西から)	図版38	第2文化層24Z-22ブロック出土石器
図版27	(2) SK-003全景 (東から)		第3文化層15P-66ブロック出土石器
	(2) SK-005全景 (西から)	図版39	第3文化層15P-78ブロック出土石器
	(2) SK-006全景 (西から)		第3文化層15P-95ブロック出土石器 (1)
	(4) SK-007全景 (南から)	図版40	第3文化層15P-95ブロック出土石器 (2)
	(4) SK-009全景 (北東から)		第3文化層15P-97ブロック出土石器
	(3) SD-001全景 (南から)	図版41	第3文化層16Q-15ブロック出土石器 (1)
	(1) SD-001全景 (1) (南から)	図版42	第3文化層16Q-15ブロック出土石器 (2)
図版28	(1) SD-001全景 (2) (南から)		第3文化層18T-71ブロック出土石器
	(1) SD-002全景 (1) (南から)		第3文化層18U-46ブロック出土石器
	(2) SD-001全景 (北から)	図版43	第3文化層21S-69ブロック出土石器
	(1) SD-002全景 (2) (南から)		第3文化層27O-62ブロック出土石器 (1)
	(1) SD-002全景 (3) (南から)	図版44	第3文化層27O-62ブロック出土石器 (2)
図版29	(2) SD-002全景 (1) (北から)	図版45	第3文化層27O-62ブロック出土石器 (3)
	(2) SD-002全景 (2) (南から)	図版46	第4文化層19Q-11ブロック出土石器 (1)
	(2) SD-003全景 (1) (西から)	図版47	第4文化層19Q-11ブロック出土石器 (2)
	(2) SD-003全景 (2) (東から)	図版48	第4文化層19Q-11ブロック出土石器 (3)
図版30	第1文化層25W-06ブロック出土石器 (1)		第4文化層23N-31ブロック出土石器 (1)
図版31	第1文化層25W-06ブロック出土石器 (2)	図版49	第4文化層23N-31ブロック出土石器 (2)
	第1文化層23AA-99ブロック出土石器	図版50	第4文化層23N-31ブロック出土石器 (3)
図版32	第1文化層24AA-19ブロック出土石器	図版51	第4文化層23N-63ブロック出土石器
	第1文化層24BB-20ブロック出土石器 (1)	図版52	第4文化層24N-15ブロック出土石器
図版33	第1文化層24BB-20ブロック出土石器 (2)		第4文化層24N-09ブロック出土石器
	(2)	図版53	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (1)
図版34	第1文化層24BB-20ブロック出土石器 (3)	図版54	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (2)
	(3)	図版55	第4文化層25N-06ブロック出土石器 (3)
	第1文化層24BB-31ブロック出土石器 (1)		第4文化層25N-09ブロック出土石器
図版35	第1文化層24BB-31ブロック出土石器 (2)		第4文化層25N-18ブロック出土石器
	(2)	図版56	第4文化層25O-10ブロック出土石器 (1)
	第1文化層24BB-61ブロック出土石器	図版57	第4文化層25O-10ブロック出土石器 (2)
図版36	第1文化層24AA-58ブロック出土石器	図版58	第4文化層25N-46ブロック出土石器 (1)
	第1文化層24AA-55ブロック出土石器	図版59	第4文化層25N-46ブロック出土石器 (2)
	第2文化層19Q-43ブロック出土石器 (1)		第4文化層25N-46ブロック出土石器 (3)
図版37	第2文化層19Q-43ブロック出土石器 (2)	図版60	第4文化層25N-46ブロック出土石器 (4)
	第2文化層24W-78ブロック出土石器	図版61	第4文化層25N-53ブロック出土石器 (1)
			第4文化層25N-53ブロック出土石器 (2)
			第4文化層25N-53ブロック出土石器 (3)

図版62	第4文化層25N-53ブロック出土石器(4)	図版80	第5文化層26O-05ブロック出土石器(3)
図版63	第4文化層25N-53ブロック出土石器(5)		第5文化層27L-03ブロック出土石器
	第4文化層25N-51ブロック出土石器	図版81	第5文化層27L-21ブロック出土石器(1)
	第4文化層23P-43ブロック出土石器	図版82	第5文化層27L-21ブロック出土石器(2)
図版64	第4文化層25S-15ブロック出土石器(1)	図版83	第5文化層27L-21ブロック出土石器(3)
図版65	第4文化層25S-15ブロック出土石器(2)		第5文化層27L-76ブロック出土石器(1)
	第4文化層25S-26ブロック出土石器	図版84	第5文化層27L-76ブロック出土石器(2)
図版66	第4文化層24T-90ブロック出土石器		第5文化層26T-03ブロック出土石器
図版67	第4文化層21V-66ブロック出土石器(1)		第6文化層15Q-52ブロック出土石器
図版68	第4文化層21V-66ブロック出土石器(2)		第6文化層15Q-91ブロック出土石器
図版69	第4文化層21V-66ブロック出土石器(3)	図版85	第6文化層21I-35ブロック出土石器
図版70	第4文化層21V-66ブロック出土石器(4)	図版86	単独出土石器(1)
図版71	第4文化層21V-66ブロック出土石器(5)	図版87	単独出土石器(2)
図版72	第4文化層21V-96ブロック出土石器	図版88	縄文時代出土遺物(1)
	第4文化層22V-95ブロック出土石器(1)	図版89	縄文時代出土遺物(2)
図版73	第4文化層22V-95ブロック出土石器(2)	図版90	縄文時代出土遺物(3)
	第5文化層17P-68ブロック出土石器	図版91	縄文時代出土遺物(4)
	第5文化層25O-93ブロック出土石器(1)	図版92	古墳時代出土遺物(1)
図版74	第5文化層25O-93ブロック出土石器(2)	図版93	古墳時代出土遺物(2)
図版75	第5文化層25O-85ブロック出土石器	図版94	古墳時代出土遺物(3)
	第5文化層25O-94ブロック出土石器(1)	図版95	古墳時代出土遺物(4)
図版76	第5文化層25O-94ブロック出土石器(2)	図版96	古墳時代出土遺物(5)・平安時代出土遺物(1)
図版77	第5文化層26O-03ブロック出土石器(1)	図版97	平安時代出土遺物(2)
図版78	第5文化層26O-03ブロック出土石器(2)	図版98	平安時代出土遺物(3)
	第5文化層26O-05ブロック出土石器(1)	図版99	その他の出土遺物
図版79	第5文化層26O-05ブロック出土石器(2)		

【CD】

旧石器属性表

第1章 はじめに

第1節 調査の概要(第1～3図、第1表)

1 調査に至る経緯と経過

千葉県企業庁は、つくばエクスプレス(旧・常磐新線)の建設に関連して柏北部中央地区一体型土地区画整理事業を計画した。この計画の実施に先立って、平成7年5月に当事業地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会に提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成9年3月に事業地内には埋蔵文化財の包蔵地12か所(面積483,480㎡)が存在する旨の回答を行った。この回答に基づき、埋蔵文化財の取扱いについて千葉県企業庁、千葉県教育委員会、柏市教育委員会の関係諸機関による協議を行った結果、可能な限り緑地として現状保存を図る一方、事業の性格上、現状保存及び計画変更が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。発掘調査は千葉県企業庁(平成18年度からは千葉県県土整備部)の委託を受け財団法人千葉県文化財センター(現・公益財団法人千葉県教育振興財団)が実施することとなった。なお、平成25年度からは県事業に係る発掘調査について県教育委員会が実施することとなった。

内山遺跡(第1図、図版1)については、平成15年度から発掘調査を実施し、令和2年度末で第20次調査地点、192,247.7㎡が終了している。今回報告する内容は、第1次調査地点から第20次調査地点までを対象としている。基礎整理である水洗注記作業は発掘調査と並行して実施し、平成28年度から本格的な整理作業を実施することとなり、令和4年度に発掘調査報告書を刊行する運びとなった。

各年度の調査範囲は第2・3図、調査組織及び担当者・期間・内容は第1表のとおりである。

2 調査の方法と概要

発掘調査にあたっては、公共座標系(平面直角座標系IX系)に基づくグリッド設定を行なった。柏北部中央地区事業地全体を網羅するように40m×40mの大グリッドを設定し、名称は北から南へ1、2、3…、西から東へA、B、C…とし、Z以降はAA、BB、CC…と表記することとした。大グリッドは更に4m×4mの小グリッドに100分割し、北西隅を00、南東隅を99とした。これらを組み合わせて、内山遺跡では15P-66や24BB-20のように表記した。大グリッド起点の01A-00は、旧日本測地系座標(Tokyo Datum 9系 EPSG:30169)でX=-10,500m、Y=10,000m、世界測地系(JGD2011 EPSG:6677)でX=-10,145,2955m、Y=9706,8197mである。世界測地系への座標変換はWeb版 TKY 2JGD ver.1.3.80を使用した。なお既に刊行されている柏北部中央地区事業の報告書は、座標を全て旧日本測地系座標で表記しているため、本報告書についても全て旧日本測地系座標で表記する。

上層の確認調査は重機を使用し、調査対象面積の10%を目安に、調査区の形状や地形に合わせて2m幅の確認トレンチを設定した。ただし、調査対象面積が1,000㎡以下の場合は、100%確認調査を実施した。確認調査の結果、遺構が複数検出され、遺構の広がりや想定される地点について本調査範囲を決定し本調査を実施した。ただし、遺構が単独で検出された場合や遺構の分布が散漫な場合は、その周辺を拡張し確認調査を終了した。本調査は重機で表土を除去し、包含層・遺構検出、精査、記録作成、写真作成、遺物取上げなどの作業を行った。

第1表 内山道跡(1)～(20)調査一覧表

【発掘調査】

年度	事業名	調査期間	調査体制	担当	対象面積	単位：㎡						
						確認調査面積		本調査面積				
						上層/割合	下層/割合	上層/下層	下層/割合			
(1)	平成13	栃北郡中央地区内山道跡文化財調査委員(その4)	2003.4.11 ～ 2003.8.29	財団法人千葉県文化財センター	西部調査事務所	調査部長 森本 勝 所長 田坂 浩	相調査室長 川島利雄 上層研究員 竹内久美子 石倉圭一	31,000	3,436 / 11.1%	1,306 / 4.5%	2,810	908
(2)	平成15	栃北郡中央地区内山道跡文化財調査委員	2003.6.2 ～ 2003.12.28	財団法人千葉県文化財センター	西部調査事務所	調査部長 森本 勝 所長 田坂 浩	相調査室長 川島利雄 上層研究員 竹内久美子 磯田貞昭	22,000	2,263 / 10.3%	944 / 4.3%	14,400	836
(3)	平成16	栃北郡中央地区内山道跡文化財調査委員(その2)	2004.9.21 ～ 2004.11.30	財団法人千葉県文化財センター	西部調査事務所	調査部長 矢口三男 所長 田坂 浩	相調査室長 相島利雄	2,998.76	482 / 16.1%	187 / 6.2%	0	430
(4)	平成18	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2006.9.1 ～ 2006.12.25	財団法人千葉県文化財センター	西部調査事務所	調査部長 矢口三男 所長 田坂 浩	上層研究員 石川 誠	17,700	1,770 / 10.0%	708 / 4.0%	1,130	540
(5)	平成19	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2007.6.1 ～ 2007.8.10	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 矢口三男 所長 及川淳一	上層研究員 柴田田司 川野聖文	18,500	2,900 / 15.7%	576 / 3.1%	0	630
(6)	平成20	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査その2)	2008.8.25 ～ 2008.9.10	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 大塚正義 上層研究員兼所長 及川淳一	上層研究員 石倉亮司	2,448	244 / 10.0%	36 / 1.5%	0	0
(7)	平成20	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査その2)	2008.9.11 ～ 2008.12.10	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 大塚正義 上層研究員兼所長 及川淳一	上層研究員 石倉亮司	7,036	714 / 10.1%	208 / 3.0%	487	43,113
(8)	平成21	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2010.3.1 ～ 2010.3.19	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 大塚正義 上層研究員兼所長 森本勝	上層研究員 田井圭二	3,020	1,440 / 47.7%	36 / 1.2%	0	0
(9)	平成22	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2010.9.13 ～ 2010.11.17	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 大塚正義 上層研究員兼所長 森本勝	上層研究員 川島利雄	1,880	188 / 10.0%	72 / 3.8%	0	509
(10)	平成22	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2010.12.6 ～ 2011.1.28	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 大塚正義 上層研究員兼所長 森本勝	上層研究員 川島利雄	10,920	1,092 / 10.0%	436 / 4.0%	0	404
(11)	平成23	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査その2)	2011.6.6 ～ 2011.7.25	財団法人千葉県教育振興財団	西部調査事務所	調査部長 大塚正義 上層研究員兼所長 森本勝	上層研究員 岸本雅人	7,230	866 / 11.1%	280 / 3.9%	0	400
(12)	平成24	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査その2)	2012.11.21 ～ 2013.1.31	公益財団法人千葉県教育振興財団	調査研究部	調査部長 陶川達彦 課長 森本勝	主任上層文化財主事 田井圭二	14,750	1,475 / 10.0%	548 / 3.7%	0	0
(12-2)	平成25	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2013.8.1 ～ 2013.10.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 湯浅章子 副長 榎尾孝之	主任上層文化財主事 香取正彦	-	-	-	-	910
(13)	平成25	公共つくばエクスプレス沿線整備委員(内蔵文化財調査)	2013.9.2 ～ 2013.9.30	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 湯浅章子 副長 榎尾孝之	主任上層文化財主事 田井圭二	2,271	288 / 12.7%	52 / 2.3%	0	0
(15)	平成26	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2014.10.1 ～ 2014.12.24	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 水沼律明 副長 榎尾孝之	主任上層文化財主事 田島 新	13,383	1,338 / 10.0%	636 / 4.7%	0	0
(14)	平成26	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2015.7.1 ～ 2015.2.26	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 水沼律明 副長 榎尾孝之	主任上層文化財主事 田島 新	23,920	2,392 / 10.0%	406 / 17.0%	0	0
(14)-2	平成27	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2015.10.8 ～ 2016.1.26	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 水沼律明 副長 榎尾孝之	文化財主事 武藤 敦	600	60 / 10.0%	374 / 62.0%	0	2,500
(16)	平成27	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2015.10.5 ～ 2015.11.17	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 水沼律明 副長 榎尾孝之	文化財主事 武藤 敦	2,040	200 / 9.8%	80 / 3.9%	0	195
(17)	平成28	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2016.8.1 ～ 2016.10.14	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 水沼律明 副長 田井圭二	文化財主事 武藤 敦	9,613	952 / 9.9%	308 / 3.2%	0	232
(18)	平成28	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2017.1.16 ～ 2017.1.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 水沼律明 副長 田井圭二	文化財主事 武藤 敦	698	70 / 10.0%	24 / 3.4%	0	0
(19)	平成29	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2017.12.1 ～ 2018.1.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 榎尾孝之 副長 山田賢久	文化財主事 田嶋 純	3,450	350 / 10.1%	172 / 5.0%	0	136
(20)	令和2	栃北郡中央地区1地区西整理事業(内蔵文化財調査)	2020.9.1 ～ 2020.11.13	千葉県教育庁教育振興部文化財課	発掘調査班	課長 大森いず子 副長 大内千年	文化財主事 藤田真由望	7,360	736 / 10.0%	356 / 5.1%	0	750
合 計						392,247.7	22,137	7,507	18,827	51,607		

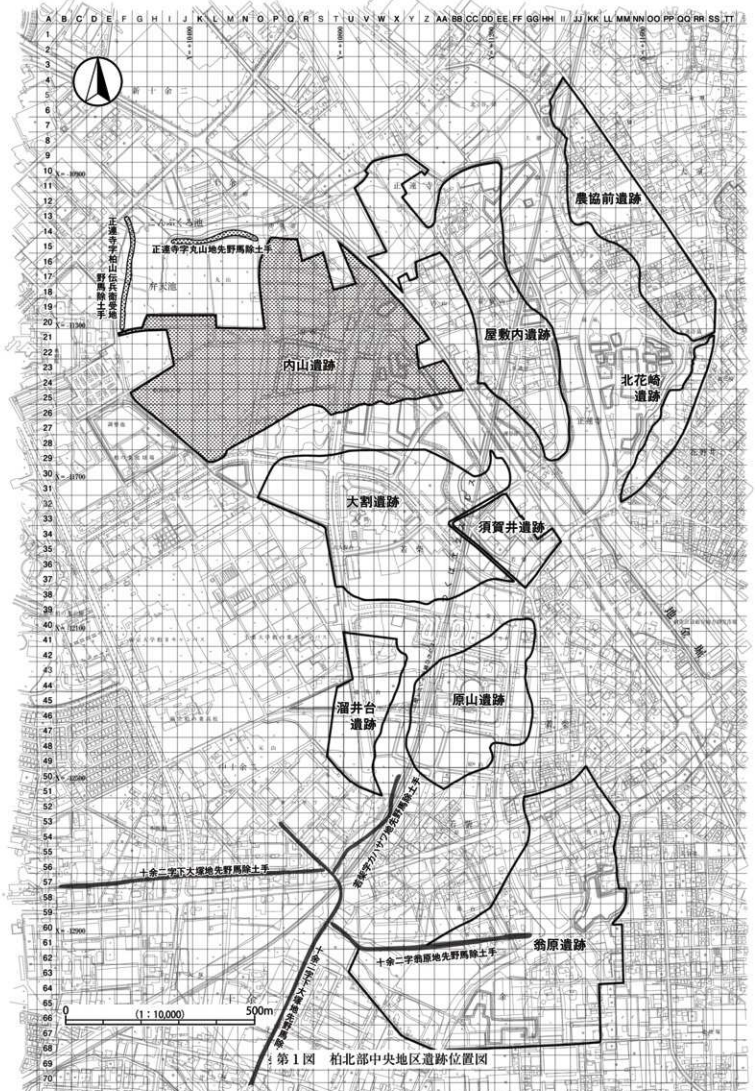
【整理作業】

年度	事業名	調査期間	調査機関	担当者	内容	
(1) ～ (12)	平成15～21 柏北部中央地区埋蔵文化財調査委託はか		財団法人千葉県文化財センターはか	調査部長 森本 浩 所長 田坂 浩 はか	水伐・注記	
(1) ～ (20)	平成23 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2016.4.1 ～ 2017.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 水沼律典 副長 田井和二	主任上席文化財主事 田島 義	水伐・注記の一部
	平成29 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2017.4.1 ～ 2018.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 萩原 一 副長 山田貴久	上席文化財主事 望月 弘 文化財主事 小澤政彦	水伐・注記の一部～記録整理の一部まで
	平成30 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2018.4.1 ～ 2019.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 吉原弘志 副長 山田貴久	主任上席文化財主事 落合孝雄 文化財主事 川田航平 文化財主事 小澤政彦	記録整理の一部～分館統合の一部まで
	平成30 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2018.4.1 ～ 2019.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 吉原弘志 副長 山田貴久	主任上席文化財主事 落合孝雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 小澤政彦	記録整理の一部～実測の一部まで
	令和元 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 大森けい子 副長 大内千年	主任上席文化財主事 落合孝雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 渡邊 玲	実測の一部～トレースの一部まで
	令和2 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2020.4.1 ～ 2021.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 田中文昭 副長 大内千年	主任上席文化財主事 落合孝雄 主任上席文化財主事 金丸 誠 文化財主事 渡邊 玲	実測、トレースの一部～原級執筆・編集の一部まで (30)水伐・注記～分館統合の一部
	令和3 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2021.4.1 ～ 2022.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 田中文昭 副長 吉野 一	文化財主事 渡邊 玲	原級執筆・編集の一部 (30)分館統合～原級執筆・編集の一部まで
	令和4 柏北部中央地区土地区画整理事業(埋蔵文化財調査)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	千葉県教育庁教育振興部文化財課	課長 金井 一 副長 加賀 崇	主任上席文化財主事 峰屋孝之 主任上席文化財主事 田島 義	編集の一部～報告書発行まで

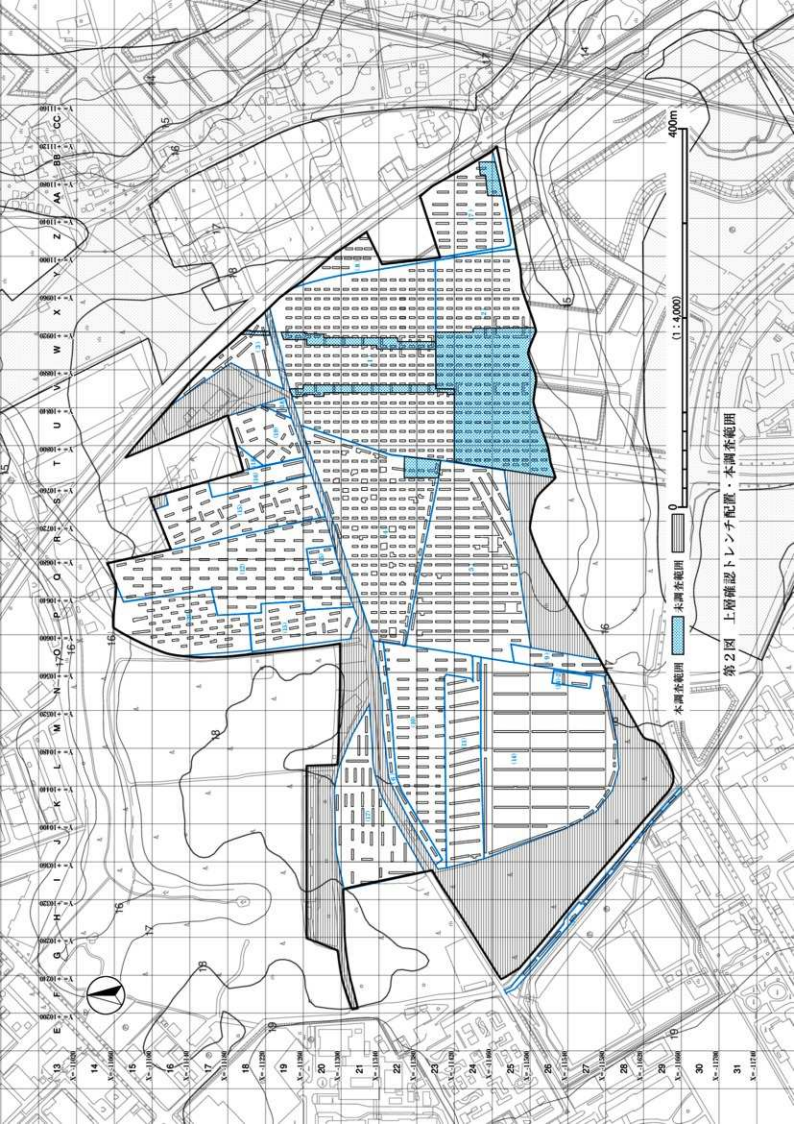
下層の確認調査は、調査対象面積の2%を目安に2m×2mの確認グリッドを設定した。石器が出土した場合は、出土地点の周辺に確認グリッドを追加し、または確認グリッドを拡張し石器の広がりを捉えて本調査範囲を決定した。ただし、上層確認調査と同様に石器の分布の広がりが認められなかった場合は、確認調査で終了した。本調査は重機で表土から石器が出土した層位に影響を及ぼさない深さまでローム層を除去し、石器集中地点の精査、記録作成、写真撮影、遺物取上げなどの作業を行った。なお、谷部や谷に面した斜面を調査区とする第5・6・9・10・11・20次調査では、現表土面から0.6m～1.1mの深さで湧水があり、一部で上層及び下層確認調査を実施することはできなかった。

発掘調査の記録作成は平板測量で行ったが、平成27年度に実施した第14-2次調査に際しては、遺構実測支援システム「遺構くん」を使用して行った。写真撮影はフィルムカメラ(35mmモノクロ、120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)を使用した。平成24年度の第12次調査地点の調査からフィルムカメラ(120mmモノクロ、35mmカラーリバーサル)及びデジタルカメラ(RAW+JPEG)により実施した。上層調査に当たっては、遺構種類ごとに記号を付け掘立柱建物跡・柱穴列はSB、堅穴住居跡はSI、地下式坑・土坑・火葬遺構はSK、井戸はSE、溝はSD、その他はSXとし、種類記号ごとに3桁の通し番号と合わせてSI-001のように遺構番号として表記した。遺物は遺構ごとに通し番号を付け、旧石器時代の遺物や帰属遺構が不明確なものについては小グリッド単位で取り上げた。

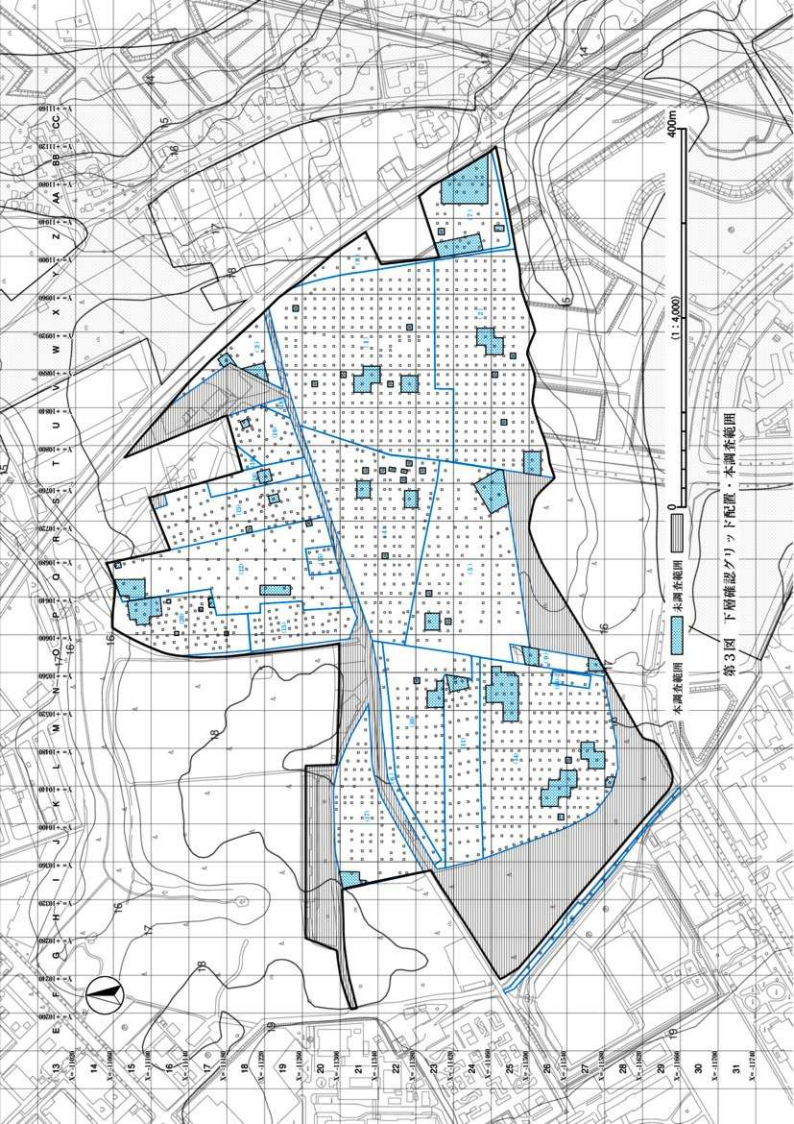
報告書作成に当たっては、遺構番号は調査地点ごとに001から付けられていることから、第1次調査地点ならば「(1)」の調査地点番号を種類記号の前に付けて(1)SI-001と表記することとした。整理作業段階で遺構と判断できなかったものについては欠番とし、遺構一覧に記載した。旧石器時代の遺物については、25W-06、21のように小グリッド番号の後ろに取り上げ番号を付けて表記した。小グリッド単位で取り上げられていない遺物についても、整理作業段階で出土位置のXY座標に基づいて遺物番号を振り直した。ただし、第7次調査地点については、全ての遺物が発掘調査時に設定した仮ブロック単位で取り上げられているため、遺物番号を変更せず「Aブロック-1」のように表記した。



第1図 柏北部中央地区道跡位置図



第2区 上層確認トレンチ配置・本調査範囲



400m

(1:4,000)

0

未調査範囲

本調査範囲

第3図 下層確認グリッド配置・本調査範囲

13 X=10000 Y=10000
 14 X=11000 Y=10000
 15 X=12000 Y=10000
 16 X=13000 Y=10000
 17 X=14000 Y=10000
 18 X=15000 Y=10000
 19 X=16000 Y=10000
 20 X=17000 Y=10000
 21 X=18000 Y=10000
 22 X=19000 Y=10000
 23 X=20000 Y=10000
 24 X=21000 Y=10000
 25 X=22000 Y=10000
 26 X=23000 Y=10000
 27 X=24000 Y=10000
 28 X=25000 Y=10000
 29 X=26000 Y=10000
 30 X=27000 Y=10000
 31 X=28000 Y=10000



第2節 遺跡の位置と環境(第4・5図、第2表、図版1)

1 遺跡の位置と地形

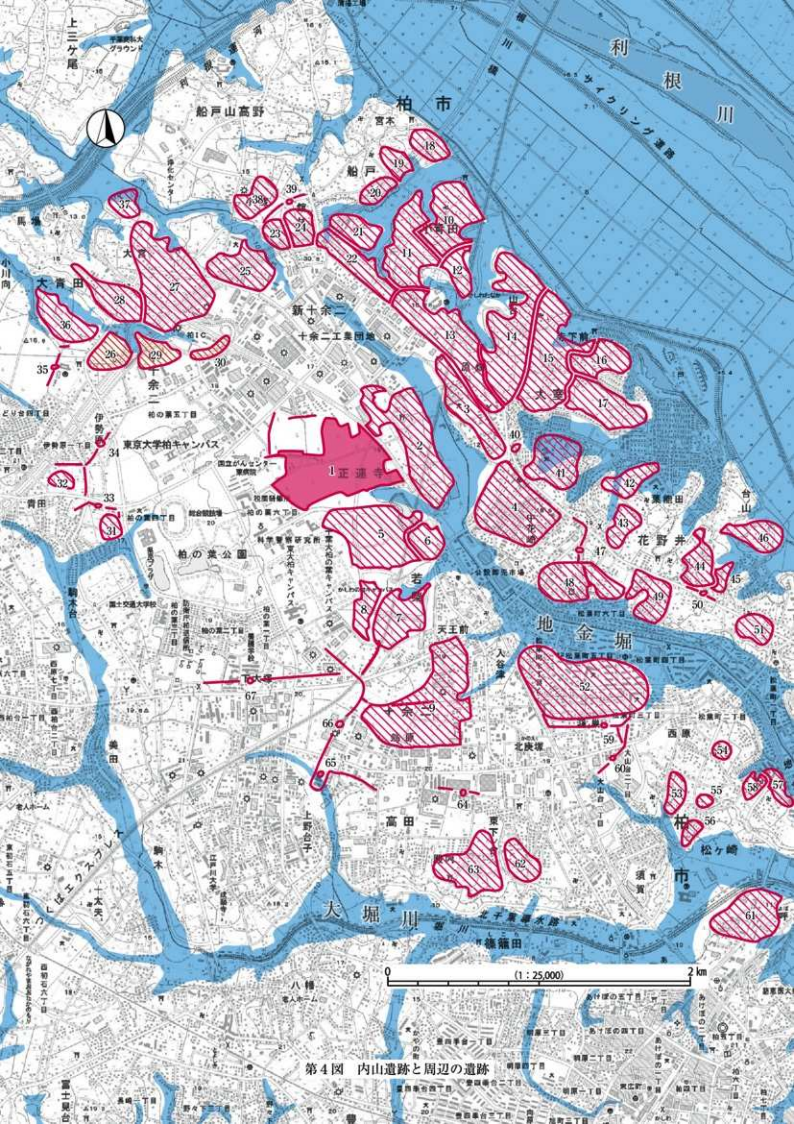
柏市は千葉県北西部に位置し、北西は野田市、北東は利根川を挟んで茨城県、東は我孫子市と印西市、南に鎌ヶ谷市と白井市、西に松戸市と流山市に接し、面積約115km²、人口約42万人の県内2番目の中核市である。鉄道はJ R常磐線及びつくばエクスプレス、東武アーバンパークラインが通り、公共交通による通勤・通学へのアクセスが良好で、特に、つくばエクスプレスが開業した平成17年度以降は駅周辺に高層住宅や大規模商業施設などが建設され、良質な居住地域として注目を集め、人口の増加が顕著である。道路は常磐自動車道をはじめ国道6号や国道16号などの幹線道路が交差する交通の要衝であり、これらの幹線道路沿いにはいくつもの工業団地が立地し製造・物流の拠点となっている。

柏市周辺の地形は、下総台地の北西端に当たる利根川と江戸川に挟まれた、標高18m～29mの台地であり、利根川・手賀沼水系の大堀川・大津川と江戸川水系の坂川及び東京湾に注ぐ国分川・大柏川の分水界となっている。市内にはいずれも手賀沼水系で、北から地金堀、大堀川、大津川、「染井入り落とし」と呼ばれる河谷、「金山入り落とし」と呼ばれる河谷が流れ、更にそれらの支流などにより樹枝状に開析されている。柏北部中央地区土地区画整理事業地区が所在する柏市十余二、若柴、正連寺は、市北部の大堀川と地金堀に三方を囲まれた、標高が18m前後と比較的低く平坦な台地である。内山遺跡は事業地区の北寄りに位置し、南北側と東側は「こんぶくろ池」や「弁天池」を水源とする地金堀とその支流により開析され、標高は高い所で19mほどで低地と5m前後の標高差があるが、東に隣接する屋敷内遺跡の低地に近い場所では標高差は2m～3mになる。

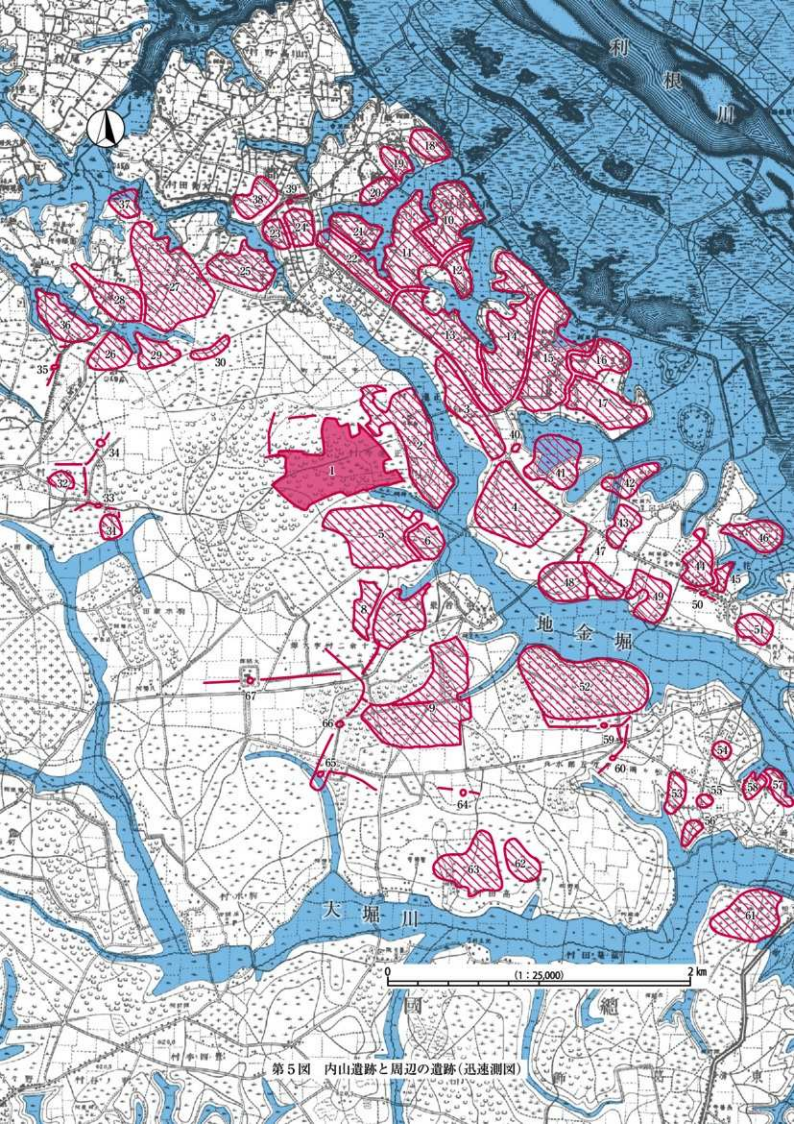
2 周辺の遺跡

本遺跡<1>の周辺では、常磐自動車道路建設事業を始めとして、現在進行中のつくばエクスプレス関連事業などに伴う大規模な発掘調査が行われ、その調査成果についても既に数多くの報告書が刊行されている。本遺跡を中心とした周辺遺跡の状況については、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書に詳細が記載されているので、ここでは時代ごとに特徴的な遺跡について記述することにし、周辺の遺跡の概要については第2表の一覧に記載した。なお、第4・5図の低湿地範囲は、明治前期の低湿地データ(国土地理院技術資料D1-No.633)を用いて明治前期の迅速測地形図(守谷・流山)をGISで幾何補正した後に、改めて低湿地範囲をトレースし作成した。遺跡範囲は、ふさの国文化財ナビゲーション(千葉県教育委員会2015)を基に、柏北部中央地区及び柏北部東地区に係る発掘調査報告書並びに柏市教育委員会による柏市市内遺跡発掘調査報告書などを参考に、迅速測地形図の地形に合わせて位置や形状を調整して作成した。

第4・5図の範囲は、概ね利根川・手賀沼水系の大堀川北岸および地金堀兩岸の台地にあたる。周辺の遺跡の分布は、本遺跡が立地する手賀沼水系の地金堀西岸の台地、地金堀を北上した大青田谷津周辺の台地、東に向かって利根川に面する地金堀東岸の台地に分かれる。また図の範囲外であるが大堀川を越えた南西の江戸川水系・坂川流域の台地にも遺跡が分布する。これらの遺跡の分布域は、それぞれ柏北部中央地区事業地、常磐自動車道路建設事業地、柏北部東部地区事業地、流山新市街地地区及び流山運動公園周辺地区土地区画整理事業地に相当する。これらの台地全城を覆うような大規模な開発事業に伴う発掘調査により、本地域の台地上の面的な遺跡の分布が明らかになっている。



第4図 内山遺跡と周辺の遺跡



第5図 内山遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)

旧石器時代 学史上著名な中山新田Ⅰ遺跡を始め、多くの石器群が検出されている。

立川ローム最下層であるⅩ層の石器群については、下総台地北西地域では類例が乏しい。地金堀東岸の富士見遺跡<11>第1文化層は、出土層位はⅩc層下部であるが古相を示す石器群としてあげられる。基部にわずかな加工を施したナイフ形石器と局部磨製石斧に特徴付けられ、単独搬入された多様な珪質石材を用いる。

暗色帯最下部のⅩ層上部～Ⅸ層下部の石器群については、台形様石器と局部磨製石斧、周縁型による石刃生産とナイフ形石器、環状ブロックを特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では、本遺跡に連続する大割遺跡<5>第1文化層、原山遺跡<7>第Ⅰ・Ⅱa文化層、また整理中であるが翁原遺跡<9>でもⅩc層からまとまった資料が検出されている。大青田谷津周辺の中山新田(Ⅰ)遺跡<26>・聖人塚遺跡<29>などは指標的な石器群である。地金堀東岸では富士見町遺跡<11>第2文化層・原畑遺跡<13>第1文化層などがあげられる。石刃素材として高原山基盤岩などを多用する一方、信州産黒曜石などの遠隔地石材を利用するなど多様な石材が用いられる。

第二暗色帯中部のⅨ層上部～Ⅷ層の石器群については、台形様石器、小型の石刃生産とブランティング加工のナイフ形石器などを特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では原山遺跡<7>第Ⅱb文化層、地金堀東岸では大松遺跡<12>第1文化層・小山台遺跡<14>第2文化層・矢船(Ⅱ)遺跡<22>第1文化層などがあげられる。高原山黒産曜石や伊豆柏峠産などが用いられ、遺跡内で消費される。

第二暗色帯最上部のⅧ層～Ⅵ層の石器群については、ブランティング加工のナイフ形石器と「下総型石刃再生技法」と特徴とする石器群が確認されている。地金堀西岸では屋敷内遺跡<2>Ⅷ層文化層・原山遺跡<7>第Ⅲ文化層、青大田谷津周辺では聖人塚遺跡<29>第3文化層、池金堀東岸では駒形遺跡<10>第1文化層・富士見遺跡<11>第3文化層・原畑遺跡<13>第2文化層・小山台遺跡<14>第3文化層・矢船(Ⅰ)遺跡<21>第1文化層・矢船(Ⅱ)遺跡<22>第2文化層・館林(Ⅱ)遺跡<24>第3文化層などがあげられる。聖人塚遺跡<29>第3文化層・富士見遺跡<11>第3文化層などの頁岩類の中～大型の石刃を用いる一群は古相を示し、館林(Ⅱ)遺跡<24>第3文化層や小山台遺跡<14>第3文化層などの黒曜石製の小型ナイフ形石器や搔器を伴う一群は後出的な様相を示す。整理中であるが翁原遺跡<9>ではⅥ層から信州産黒曜石を用いた石刃生産を示す良好な接合資料が出土している。

AT上位のハードローム層下部のⅤ層～Ⅳ層下部の石器群については、角錐状石器や甲高な切出形ナイフ形石器を特徴とする石器群が確認されている。礫・礫群を伴う石器群が増加する。地金堀西岸では屋敷内遺跡<2>Ⅳ～Ⅴ層文化層・原山遺跡<7>第Ⅳ文化層・溜井台遺跡<8>第3文化層、青大田谷津周辺では元割遺跡<30>No.2地点・聖人塚遺跡<29>第2文化層、地金堀東岸では駒形遺跡<10>第2文化層・富士見遺跡<11>第4文化層・原畑遺跡<13>第3文化層・小山台遺跡<14>第4文化層・矢船Ⅱ遺跡<22>第3文化層などがあげられる。高原山産黒曜石・黒色安山岩・頁岩などを多用する。

AT上位のハードローム上部以上の石器群については、ソフト化が進んでソフトロームに取り込まれるⅣ層からⅢ層にかけて、「砂川期」およびナイフ形石器終末期に相当する石器群、有髄尖頭器石器群、細石刃石器群が確認されている。「砂川期」およびナイフ形石器終末期に相当する石器群は、全周加工の尖頭器や斜軸の柳葉形のナイフ形石器と礫群に特徴付けられる。地金堀東岸の小山台遺跡<14>第5文化層、上ヶ屋型彫器を特徴とする大松遺跡<12>第2文化層がある。有髄尖頭器石器群は、地金堀西岸の屋敷内遺跡<2>Ⅲ～Ⅳ層文化層、地金堀東岸の駒形遺跡<10>第3文化層・原畑遺跡<13>第4文化層・矢船

Ⅱ遺跡<22>第4文化層・館林Ⅱ遺跡<24>第5文化層がある。細石刃石器群については、屋敷内遺跡<2>Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層、小山台遺跡<14>第6文化層・矢船Ⅱ遺跡<22>第5文化層がある。

終末期石器群については、矢船Ⅱ遺跡<22>第6文化層で神子柴・長者久保石器群が確認されている。

縄文時代 早期の遺構としては、竈穴や陥穴といったものが中心となるが、鵜ガ島台式期の駒形遺跡<10>、鵜ガ島台式期～茅山下層式期の富士見遺跡<11>、田戸下層式期～野島式期の小山台遺跡<14>などはこの時期の数少ない集落跡として重要な存在である。これらの遺跡は、地金掘東岸の台地上にあり、集落跡は利根川から延びる小支谷を挟んで対峙するような位置関係にある。竈穴や陥穴などについては、調査面積の大小にも関係するが、地金掘西岸の大割遺跡<5>、青大田谷津の中山新田(Ⅰ)遺跡<26>、聖人塚遺跡<29>からまとまった数が検出されている。

前期は竈穴住居跡を中心とした遺構数が急増する。地金掘東岸では関山式期～黒浜式期の駒形遺跡<10>、花積下層式期～黒浜式期の富士見遺跡<11>、花積下層式期～黒浜式期の大松遺跡<12>から大規模な集落が検出されている。3遺跡は利根川から延びる小支谷により樹枝状に開析された同一台地上に位置しており、特に、花積下層式期の竈穴住居跡は3遺跡で一つの集落を形成するよう見え、黒浜式期には竈穴住居跡が台地全体に拡大していくことから、この地域における拠点集落として存在していたものと思われる。この3遺跡以外では、地金掘西岸では黒浜式期の屋敷内遺跡<2>・原山遺跡<7>、地金掘東岸では黒浜式期の原畑遺跡<13>・田中小遺跡<41>・上前留遺跡<48>、黒浜式期～浮島式期の小山台遺跡<14>・花前(Ⅰ)遺跡<18>、黒浜式期～興津式期の矢船(Ⅰ)遺跡<21>、黒浜式期～諸磯式期の鴻ノ巣遺跡<52>で竈穴住居跡が検出されている。竈穴住居跡は検出されていないが、地金掘東岸の原畑遺跡<44>から黒浜式期～諸磯式期の土坑群が検出されている。これらは集落としての規模は小さく、先に述べた拠点的な集落の周縁に存在する短期的な小集落と考えられる。

中期は、池金掘東岸の大松遺跡<12>で五領ヶ台式期～加曾利E式期の竈穴住居跡が多数検出され、前期から引き続き集落を形成している。小支谷を挟んで対峙する小山台遺跡<14>でも阿玉台式期～加曾利E式期の竈穴住居跡が多数検出され、2か所の環状集落が存在していたことが明らかになり、大松遺跡とともに当該時期の拠点集落を形成していたものと思われる。小規模な集落としては、池金掘東岸では阿玉台式期の寺下前遺跡<15>・田中小遺跡<41>、阿玉台式期～中峠式期の原畑遺跡<13>、加曾利E式期の原畑遺跡<44>、青大田谷津周辺では阿玉台式期の中山新田(Ⅱ)遺跡<27>、阿玉台式期～中峠式期の水砂遺跡<25>・聖人塚遺跡<29>、阿玉台式期～加曾利E式期の中山新田(Ⅰ)遺跡<26>などがあげられる。田中小遺跡<41>の放射状に並ぶ掘立柱建物跡と柱穴列の存在が注目される。これらの遺跡は、前期と同様に拠点的な集落の周縁に存在する短期的な小集落と考えられる。

後期になると遺跡の数は激減し、拠点的な集落もなくなり、駒形遺跡<10>・富士見遺跡<11>・花前(Ⅰ)遺跡<18>・花前(Ⅱ)遺跡<19>・中山新田(Ⅰ)遺跡<26>で堀之内式期を中心とした竈穴住居跡が1～2軒検出されるにとどまっている。

晩期については、遺物は出土しているものの、遺構の存在は明らかではない。

弥生時代 周辺地域では前期・中期に属する遺構が検出された遺跡はなく、後期も極めて少ない。池金掘東岸で田中小遺跡<41>・香取神社遺跡<49>・鴻ノ巣遺跡<52>、大堀川を隔てて南の呼塚遺跡<61>などから竈穴住居跡が数軒検出されているだけである。これらの竈穴住居跡はいずれも北関東系の影響を受け、長岡式期や白井南式期に属するものである。常磐自動車道路建設地区や柏北部中央地区・柏北部東

地区といった広い範囲を面的に発掘調査しているにも関わらず、これらの地区では明確な弥生時代遺構は検出されていない。

古墳時代 前期で注目されるのは、手賀沼に注ぐ大堀川下流の南岸の台地上にある呼塚遺跡<61>から大規模な集落と規模150m×110mと推定される方形環濠が検出されたことである。呼塚遺跡は陸上・水上交通の要衝地にあり、方形環濠とそれに伴う布堀、大型堅穴住居、環濠内に東海系・畿内系・北陸系などの儀礼用の土器が多量に廃棄されていたことなどから、この地域における重要な拠点集落(首長居館)であった可能性が指摘されている。そのほかは池金堀東岸の田中小遺跡<41>から小規模な集落、駒形遺跡<10>・富士見遺跡<11>・原遺跡<44>・宿連寺遺跡<51>、地金堀西岸下流の八幡遺跡<54>から2～3軒の堅穴住居跡が検出されているだけである。

中期では呼塚遺跡で前期から引き続き拠点集落が存在していたものと思われる。この時期は堅穴住居跡が検出される遺跡が増加する傾向にあるが、後期に続かない遺跡が大部分である。地金堀東岸では駒形遺跡<10>・富士見遺跡<11>・矢船(Ⅱ)遺跡<22>・田中小遺跡<41>、大堀側北岸では殿内遺跡<63>などで小規模な集落が検出されている。

後期になると遺構が検出された遺跡は減少し、呼塚遺跡においても典型的な後期の土器を伴う堅穴住居跡は検出されていない。大青田谷津周辺の水砂遺跡<25>、地金堀東岸の尾井戸遺跡<42>から小規模な集落が検出されている。第4・5図の範囲外となるが、呼塚遺跡とは大堀川を挟んで東側に対峙する中馬場遺跡では古墳時代後期から集落が形成され、平安時代に最も規模が大きくなることが知られており、この時期に呼塚遺跡から中馬場遺跡へ拠点集落が移っていったものと思われる。

古墳は地金堀東岸の利根川を臨む台地上に分布している。尾井戸遺跡<42>には墳丘は失われているが、土坑を埋葬主体とする6世紀前半の円墳がある。原遺跡<44>には下総型円筒埴輪をもち、輓立貝式前方後円墳の可能性がある6世紀後半の「変則的古墳」がある。さらに東に行くと同様に塚原古墳群<46>がある。

奈良・平安時代 奈良時代は、青大田谷津周辺で多くの遺跡が検出されている。花前(Ⅰ)遺跡<18>～花前(Ⅲ)遺跡<20>・館林(Ⅰ)遺跡<23>・水砂遺跡<25>・中山新田(Ⅰ)遺跡<26>～中山新田(Ⅲ)遺跡<28>から複数の堅穴住居跡が検出されており、水砂遺跡では掘立柱建物跡と小鍛冶跡も検出されている。また大堀川南岸の呼塚遺跡<61>でも少数の堅穴住居跡が検出されている。

平安時代は、花前(Ⅰ)遺跡<18>～花前(Ⅲ)遺跡<20>からは、奈良時代に引き続いて10軒以上の堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出され、その中で、花前(Ⅱ)遺跡<19>では製鉄炉・精錬炉が複数存在していることから、これらの3遺跡は製鉄と鉄製品の管理・供給地としての拠点集落であったと考えられている。また、地金堀西岸下流の鴻ノ巣遺跡<52>では堅穴住居跡から鉄滓と馬形土製品が出土し、大堀側北岸の松ヶ崎泉遺跡<55>からは小鍛冶跡と思われる鍛冶炉をもつ堅穴住居跡が検出されるなど、この地域には製鉄関連遺構をもつ遺跡が多い。古墳時代の概要でも述べた中馬場遺跡は、160軒を超える堅穴住居跡が検出されており、古代東海道における下総国の駅路沿いの拠点集落であったと考えられる。

中・近世 中世は、地金堀西岸の須賀井遺跡<6>から台地整形区画や掘立柱建物跡などが検出されている。遺構の時期は14世紀～15世紀前半としている。また、掘立柱建物跡の規模などから屋敷跡ではなく「土坑墓・火葬墓を含む墓域や小屋・井戸などを伴う作業空間であった。」としている。屋敷内遺跡<2>からは掘立柱建物跡や多数の溝からなる小規模な屋敷跡が検出されている。遺構の時期は15世紀後半～16世紀後半としている。利根川に面する地金堀東岸では中世の屋敷跡と考えられる堀込区画(台地整形区

画)や竪穴状遺構などが検出された遺跡がいくつか存在している。富士見遺跡<11>は遺構の時期としては15世紀前半としている。また、その性格は「掘り込みを伴う『屋敷地』2か所と隣接する墓所からなる一単位の生活空間」であったとしている。小山西遺跡<14>・寺下前遺跡<15>・寺前遺跡<43>でも台地整形区画や竪穴状遺構などが検出されている。これらの遺構は出土遺物は少ないが、古瀬戸後期様式(15世紀代)の期間に機能していたとされている。遺構の性格としては平行もしくは直交する堀や溝で区画された墓域、それに関係する非日常的な建物群、仮小屋や倉庫的な小屋などを想定している。なお、中馬場遺跡では土塁と堀・溝に区画された中に地下式坑や土坑などを伴う掘立柱建物群が複数検出され、前代に引き続き古代東海道沿いの拠点集落であったと思われる。

近世は、地金掘西岸の屋敷内遺跡<2>で中世末から継続する小規模な屋敷跡が検出されている。(27)SD-001は本遺跡の(1)～(3)SD-001につながる溝と考えられる。須賀井遺跡<6>でも小規模な屋敷跡が検出されている。地金掘東岸では、富士見遺跡<11>で18世紀後半から19世紀前半を主体とする掘立柱建物跡や区画溝が、小山西遺跡<14>から掘立柱建物跡や土坑墓などが検出されている。駒形遺跡<10>・大松遺跡<12>でも地下式坑などがわずかに検出されているが、調査面積に比べて希薄である。花前(Ⅲ)遺跡<20>からは建物跡が検出され、17世紀後半から18世紀前半の肥前系唐津産陶器や18世紀代から19世紀代の肥前系染など多種多様な陶磁器、在地産の土器、キセル・包丁・刀子等の金属製品など多くの遺物が出土している。遺構の規模や出土遺物の内容などから、富裕農民層の屋敷跡と推定される。花前(Ⅰ)遺跡<18>から17世紀中葉以降の屋敷跡が検出されている。寺前遺跡<43>の18世紀代の掘立柱建物跡や井戸、区画溝が検出されている。近世の牧については、柏市周辺には上野牧と高田台牧が広がっており、本遺跡を含む柏北部中央地区の全ての遺跡が高田台牧の範囲内にある。

参考文献

- 文1 1997 「千葉県埋蔵文化財分布地図(1)－東葛飾・印旛地区(改訂版)－」千葉県教育委員会 財団法人千葉県文化財センター
- 文2 2003 「千葉県文化財センター年報No.27－平成13年度－」
- 文3 2007 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－柏市溜井台遺跡－」千葉県教育振興財団調査報告第585集
- 文4 2009 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書2－柏市原山遺跡－旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第631集
- 文5 2011 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書3－柏市農協前遺跡－旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第657集
- 文6 2012 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書4－柏市大割遺跡・須賀井遺跡－旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第692集
- 文7 2013 「柏北部中央地区埋蔵文化財発掘調査報告書5－柏市原山遺跡－縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第699集
- 文8 2016 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書6－柏市大割遺跡・農協前遺跡－縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第6集
- 文9 2017 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書7－柏市須賀井遺跡－縄文時代以降編」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第18集
- 文10 2008 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書1－柏市大松遺跡－旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第589集
- 文11 2009 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書2－柏市駒形遺跡－(縄文時代以降編1)」千葉県教育振興財団調査報告第616集
- 文12 2011 「柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書3－柏市原山遺跡－(縄文時代以降編1)」千葉県教育振興財団調査報告

告第660集

- 文13 2011 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書4-柏市大松道跡- 縄文時代以降編1」千葉県教育振興財団調査報告第666集
- 文14 2013 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書5-柏市胸形道跡-(縄文時代以降編2)」千葉県教育振興財団調査報告第691集
- 文15 2014 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書6-柏市富士見道跡- 縄文時代以降編1」千葉県教育振興財団調査報告第728集
- 文16 2015 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書7-柏市富士見道跡- 縄文時代以降編2」千葉県教育振興財団調査報告第736集
- 文17 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書8-柏市富士見道跡・原畑道跡・胸形道跡- 旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第737集
- 文18 2016 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書9-柏市大松道跡- 縄文時代以降編2」千葉県教育振興財団調査報告第754集
- 文19 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書10-柏市小山台道跡- 旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第763集
- 文20 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書11-柏市花前Ⅱ道跡・花前Ⅲ道跡・矢船Ⅰ道跡・矢船Ⅱ道跡・館林Ⅱ道跡・寺下前道跡・八反目台道跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第764集
- 文21 2017 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書12-柏市小山台道跡A区-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第770集
- 文22 2018 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書13-柏市矢船Ⅰ道跡・矢船Ⅱ道跡・胸形道跡・富士見道跡・原畑道跡・花前道跡・花前Ⅲ道跡・寺下前道跡・大松道跡・小山台道跡・八反目台道跡・館林Ⅱ道跡-旧石器時代編」千葉県教育振興財団調査報告第771集
- 文23 2018 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書14-柏市花前Ⅰ道跡・胸形道跡・富士見道跡・原畑道跡・寺下前道跡-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第774集
- 文24 2019 「柏北部東地区埋藏文化財発掘調査報告書15-柏市小山台道跡B区-縄文時代以降編」千葉県教育振興財団調査報告第775集
- 文25 1982 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅰ-館林、水砂、花前Ⅱ-1」財団法人千葉県文化財センター
- 文26 1984 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅱ-花前Ⅰ・中山新田Ⅱ・中山新田Ⅲ」財団法人千葉県文化財センター
- 文27 1985 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅲ-花前Ⅱ-1、花前Ⅱ-2、矢船」財団法人千葉県文化財センター
- 文28 1986 「常磐自動車道埋藏文化財調査報告書Ⅳ-元割、聖人塚、中山新田Ⅰ」財団法人千葉県文化財センター
- 文29 1973 「北柏道跡-発掘調査概報」北柏道跡発掘調査団 旧北柏道跡C地区
- 文30 1974 「柏市鴻ノ巣道跡」財団法人千葉県都市公社
- 文31 1980 「柏市埋藏文化財調査報告書」柏市教育委員会
- 文32 1980 「千葉県柏市尾井戸道跡」尾井戸道跡調査団
- 文33 1981 「殿内道跡発掘調査報告書」(財)柏市都市開発公社 殿内道跡調査団
- 文34 1983 「松ヶ崎(Ⅱ)道跡発掘調査報告書」松ヶ崎(Ⅱ)道跡発掘調査会 山武考古学研究所
- 文35 1986 「柏市埋藏文化財調査報告書12」柏市教育委員会
- 文36 1988 「昭和62年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文37 1989 「昭和63年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文38 1990 「平成元年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文39 1990 「平成2年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文40 1990 「柏市埋藏文化財調査報告書16-田中小道跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文41 1992 「平成3年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文42 1992 「柏市埋藏文化財調査報告書20」柏市教育委員会
- 文43 1992 「柏市埋藏文化財調査報告書22 殿台道跡 寺前道跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文44 1995 「柏市埋藏文化財調査報告書29 呼塚道跡」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文45 1996 「柏市埋藏文化財調査報告書31」柏市教育委員会 柏市道跡調査会
- 文46 1997 「平成7年度市内道跡群発掘調査報告書」柏市教育委員会

- 文47 1997 「柏市埋蔵文化財調査報告書33 水砂遺跡(Ⅱ)」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文48 1998 「平成8年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文49 1999 「平成9年度市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文50 2001 「柏市埋蔵文化財調査報告書44」柏市教育委員会
- 文51 2002 「平成12年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文52 2002 「柏市埋蔵文化財調査報告書48 寺前遺跡」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
- 文53 2003 「平成13年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文54 2003 「柏市埋蔵文化財調査報告書50 呼塚遺跡」柏市教育委員会
- 文55 2005 「平成15年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文56 2006 「平成16年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文57 2006 「柏市埋蔵文化財調査報告書54」柏市教育委員会
- 文58 2007 「平成17年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」 柏市教育委員会
- 文59 2007 「柏市埋蔵文化財調査報告書61 寺前遺跡第9次調査」柏市教育委員会 加藤建設株式会社
- 文60 2008 「平成18年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文61 2008 「柏市埋蔵文化財調査報告書62 平成20年度柏市呼塚遺跡8次調査報告書」柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文62 2008 「柏市埋蔵文化財調査報告書63 平成20年度柏市呼塚遺跡第10次調査報告書」有限会社勾玉工房Mogi
- 文63 2009 「平成19年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文64 2010 「原遺跡(第1次・2次)」柏市埋蔵文化財調査報告書67
- 文65 2011 「平成21年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文66 2011 「柏市埋蔵文化財調査報告書68」柏市教育委員会
- 文67 2012 「平成23年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文68 2012 「柏市埋蔵文化財調査報告書71 柏市呼塚遺跡(第15次)」株式会社地域文化財研究所
- 文69 2013 「柏市埋蔵文化財調査報告書75 原畑遺跡(第26次)」柏市教育委員会 有限会社勾玉工房Mogi
- 文70 2013 「原遺跡(第3～6次)」柏市埋蔵文化財調査報告書74
- 文71 2014 「平成24年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文72 2014 「柏市埋蔵文化財調査報告書79 千葉県柏市呼塚遺跡(第17次)」株式会社地域文化財研究所
- 文73 2015 「平成25年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文74 2016 「平成26年度柏市市内遺跡発掘調査報告書」柏市教育委員会
- 文75 2016 「柏市埋蔵文化財調査報告書82」柏市教育委員会
- 文76 2016 「柏市埋蔵文化財調査報告書83 千葉県柏市呼塚遺跡(第22次)」有限会社勾玉工房Mogi
- 文77 2021 「柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書8-柏市屋敷内遺跡」千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告書第36集

その他参考文献

- 2005 「千葉県の歴史 通史編 古代2」千葉県
- 1964 「柏市根戸中馬場住居址調査報告書」柏市教育委員会
- 1972 「中馬場・妻小原調査報告書」日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
- 1976 「中馬場遺跡 第三次調査報告書」中馬場遺跡第三次調査団
- 1999 「柏市埋蔵文化財調査報告書38 中馬場遺跡(第4次)」柏市教育委員会 柏市遺跡調査会

番号	遺跡名	目録名	遺構	所在	占領	発見年度	調査年度	調査面積	土層
15	寺子遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×520センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)4、土城2基、階段2基、竈穴7基、方形石塔・石冑、黒色土山(遺構)・玉置	①中層部穴2層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
16	宮原遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
17	八反田台遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
18	尾原(1)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
19	尾原(2)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
20	尾原(3)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
21	矢野(1)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
22	矢野(2)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
23	新林(1)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
24	新林(2)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
25	水師遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土
26	中山田(1)遺跡		①遺1 文化層(遺構)170センチ×100センチ(遺構)遺、黒色土山(遺構)・石冑、石、ナベト、土城1基	①中層部穴1層	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土	①遺1 土

第2章 調査の成果

第1節 遺跡の概要 (第6・7図、第3～5表)

本遺跡の(1)～(20)の調査成果としては、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、平安時代、中・近世などの遺構・遺物が検出されている。本節ではその概要を記し、第2節以降において詳述する。

旧石器時代 中央に埋没谷が走る東西二つの台地に分かれ、埋没谷や湧水点の周辺に多数のブロックが濃密に分布している。各文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 総計295点の石器・礫、10か所のブロックで構成され、Ⅸ層中部～上部の石器群と推定される。定型的な石器はなく、剥片・砕片・石核で構成され、石材はチャート、ガラス質黒色安山岩、頁岩などで構成される。

第2文化層 総計56点の石器・礫、3か所のブロックで構成され、Ⅷ層～Ⅵ層の石器群と推定される。出土層位が第二暗色帯上半にまとまる一群について、文化層を設定した。透明度の高い黒曜石のナイフ形石器などが出土している。

第3文化層 総計842点の石器・礫、11か所のブロックで構成され、Ⅴ層～Ⅳ層下部の石器群と推定される。角錐状石器と切出形ナイフ形石器に特徴づけられる文化層である。石材は黒曜石とガラス質黒色安山岩、頁岩などで構成される。

第4文化層 総計1,011点の石器・礫、20か所のブロックで構成され、Ⅳ層中部の石器群と推定される。いわゆる砂川期に属する石器群である。石材は東西の台地で異なり、西側台地の一群は、頁岩類やメノウなどの硬質石材が集中的に用いられるのに対し、東側台地の一群は、黒曜石が集中的に用いられる。一方、ガラス質黒色安山岩は、石刃生産やナイフ形石器の素材として、両者に共通して用いられる。

第5文化層 総計1,167点の石器・礫、10か所のブロックで構成され、Ⅳ層上部の石器群と推定される。ナイフ形石器と両面調整の尖頭器や有櫛尖頭器を伴う石器群である。石材は硬質石材と黒曜石が主体である。

第6文化層 総計433点の石器・礫、6か所のブロックで構成され、Ⅲ層の石器群と推定される。出土層位などを勘案して第4・5文化層と区別される一群について本文化層を設定した。21I-35ブロックでは黒曜石や頁岩の稜柱型細石刃核が出土している。

縄文時代 中期阿玉台式期の竪穴住居跡1軒・礫集中地点1か所のほか、早期～前期の時期と思われる陥穴21基が検出されている。限定的な範囲ではあるが、早期の遺物包含層などが確認されている。

古墳時代 中期の竪穴住居跡8軒と竪穴状遺構1基が検出されている。概ね台地の南東から入り込む小支谷の谷頭周辺にまとまっている。後期へと継続しない短期的な小規模集落である点に特徴がある。工房跡とみられる竪穴状遺構も含まれている。

平安時代 竪穴住居跡8軒が検出されている。古墳時代中期の竪穴住居跡群と同様に、概ね台地の南東から入り込む小支谷の谷頭周辺にまとまっている。竪穴住居跡群の時期は、ほぼ10世紀代で、平安時代中葉の短期的な集落である。

中・近世 検出された遺構は少なく、地下式坑1基、井戸1基、土坑5基、溝3条などである。

第3表 竪穴住居跡等一覧表

() 想定値、() 現存値

遺構番号	位 置	土軸方向	規 模 (単位: m)			伊・カマド	貯蔵穴	埋没溝	時 期	備 考
			長軸長	短軸長	深さ					
(2) SI-001	24V-21・22・31・32	N-50°-W	4.10	3.53	0.18	12.63	北西壁寄り	南東隅	全面	古墳中期
(2) SI-002	25V-03・04・12・13	N-68°-W	4.38	3.80	0.31	14.74	北西壁寄り	南東隅	無	古墳中期
(2) SI-003	25U-27・28・48・49・58・59	N-29°-W	6.96	6.90	0.21	42.57	北西壁寄り	南東隅	全面	古墳中期
(2) SI-004	26U-12・13・22・23	N-14°-W	3.16	2.86	0.36	5.26	北西壁中央	無	一部	平安
(2) SI-005	26V-58・59・68・69	N-9°-W	4.35	3.32	0.26	10.77	北西壁寄り	南西隅	一部	平安
(2) SI-006	24U-83・84・85・94・95	N-22°-W	(5.16)	(5.16)	0.14	26.19	不明	南西隅	不明	古墳中期
(2) SI-007	23V-98・99・23W-90・24V-08・09・24W-00	N-64°-W	6.20	6.06	0.08	35.96	北西壁寄り	北・東隅	無	古墳中期
(2) SI-008	25U-90・26U-09・25V-90・26V-00	N-38°-W	5.20	5.08	0.40	22.11	北西壁寄り	北・西・東隅	一部	古墳中期
(2) SI-009	24U-45・46	N-104°-W	4.60	3.60	0.42	13.09	西壁寄り	南東隅	一部	古墳中期
(2) SI-010	24T-45・46・55・56	N-84°-E	3.52	3.30	0.12	10.29	東壁中央	無	無	平安
(2) SI-011	23U-99・23V-90・24U-09・24V-00	N-21°-E	<5.70>	<1.92>	0.08	-	不明	不明	有	平安
(2) SK-001	23W-97	N-15°-E	3.62	3.05	0.38	3.84	南西壁寄り	無	無	古墳中期
(4) SI-001	23T-24・34	N-31°-W	3.58	<1.72>	0.06	-	無	西隅	無	平安 (4) SI-002と重複
(4) SI-002	23T-14・24	N-22°-W	3.54	(3.40)	0.10	(10.56)	無	南隅	無	平安 (4) SI-001と重複
(4) SI-003	22T-94・95・23T-01・05	N-36°-W	5.04	5.02	0.14	23.14	無	無	無	古墳中期
(7) SI-001	24BB-73・74・83・84	N-3°-W	4.36	(3.50)	0.44	(12.81)	北西隅	無	無	平安
(7) SX-002	25AA-27	-	1.20	0.75	0.40	-	-	-	-	縄文(阿台)
(7) SI-001	25Z-08・18・25AA-09・19	N-8°-E	4.30	4.08	0.51	10.76	無	無	無	縄文(阿台)
(14) SI-001	25M-56・57・66・67	N-2°-E	4.46	3.48	0.32	12.78	無	無	無	平安

第4表 陥穴・地下式坑・井戸・土坑一覧表

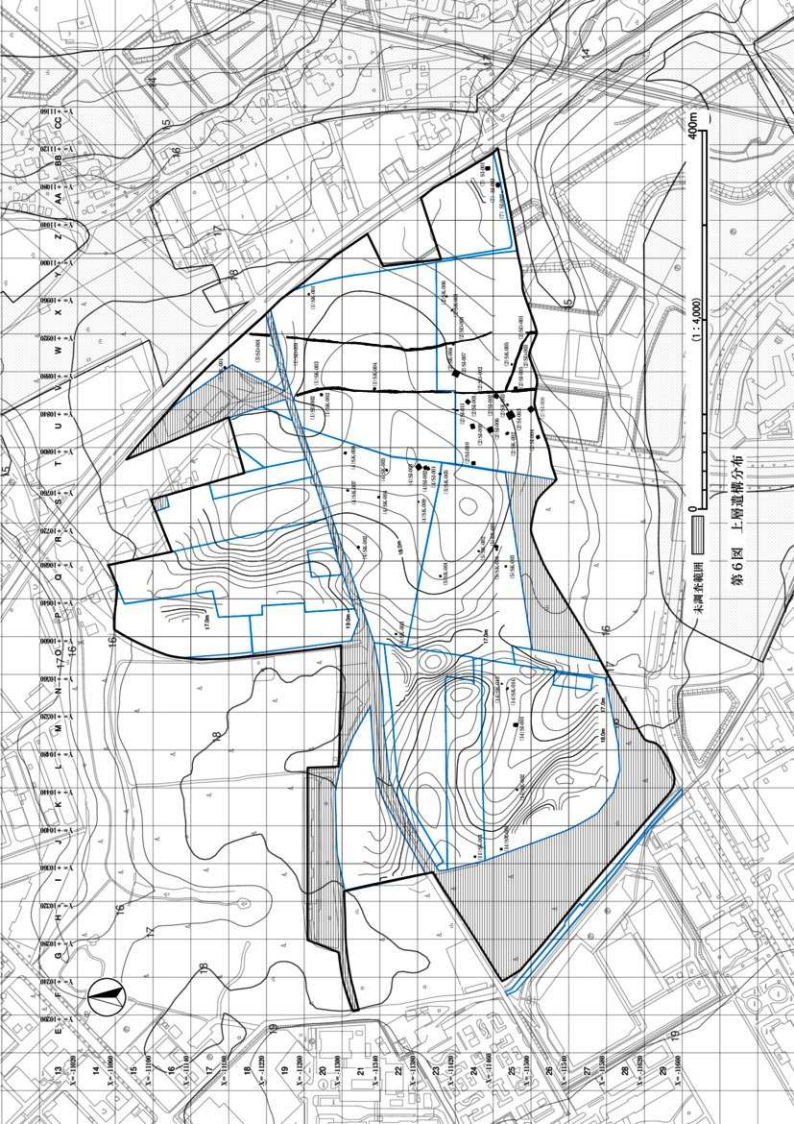
() 想定値、() 現存値

遺構番号	種 類	位 置	土軸方向	規 模 (単位: m)			時 期	備 考
				長軸長	短軸長	深さ		
(1) SK-001	陥穴	20V-00・01・10・11	N-75.3°-W	1.78	1.45	2.82	縄文	
(1) SK-002	陥穴	20V-43・44	N-45°-E	2.66	2.28	2.45	縄文	
(1) SK-003	陥穴	20V-35	N-73°-W	2.84	1.74	3.02	縄文	(1) SD-002と重複
(1) SK-004	陥穴	21V-85	N-55°-W	2.68	2.28	2.44	縄文	
(2) SK-001	陥穴	21X-86・96	N-56°-W	2.50	0.74	1.12	縄文	
(2) SK-002	陥穴	25U-33・34	N-25°-W	3.36	(2.12)	<2.30>	縄文	湧水のため底面未検出
(2) SK-003	土坑	25V-31	-	(1.94)	(1.74)	0.83	中・近世	
(2) SK-005	土坑	25W-41・42	-	1.54	1.42	0.44	中・近世	
(2) SK-006	土坑	23X-79・23V-70	N-36°-W	1.25	1.10	0.30	中・近世	
(3) SK-001	土坑(井戸)	17W-80・81・90・91	-	2.20	2.20	<1.96>	中・近世	湧水のため底面未検出
(4) SK-002	陥穴	21R-33・43	N-44°-E	2.47	1.83	1.64	縄文	
(4) SK-003	陥穴	22P-33・43	N-75°-E	(1.66)	1.64	<1.60>	縄文	湧水のため底面未検出
(4) SK-004	陥穴	21S-96・97	N-32°-W	2.31	1.82	1.74	縄文	
(4) SK-005	陥穴	22T-13・14	N-52°-E	2.20	(1.66)	2.46	縄文	
(4) SK-007	土坑	21S-18	N-9°-E	2.36	1.38	0.78	中・近世	
(4) SK-008	地下式坑	21T-08・18	N-24°-W	2.64	1.90	0.90	中・近世	
(4) SK-009	土坑	22S-95・23S-05	N-41°-E	(1.44)	(0.82)	0.64	中・近世	
(5) SK-001	陥穴	23Q-55・56・65・66	N-89°-E	1.88	1.62	2.16	縄文	
(5) SK-002	陥穴	24R-52・62	N-25°-E	1.74	1.28	2.20	縄文	
(5) SK-003	陥穴	25Q-28・38	N-35°-W	1.90	1.46	2.24	縄文	
(5) SK-004	陥穴	25R-02・03	N-30°-W	1.98	1.48	2.35	縄文	
(5) SK-005	陥穴	23T-52・53・62・63	N-3°-W	<2.50>	<1.61>	<0.68>	縄文	60%削平
(5) SX-001	陥穴	25R-03・04・13・14	N-8°-E	3.70	2.53	1.96	縄文	
(11) SK-001	陥穴	24J-41・42・51・52	N-35°-E	2.05	1.56	<1.64>	縄文	湧水のため底面未検出
(14) SK-001	陥穴	25J-13・14・23・24	N-28°-E	2.29	1.78	<1.58>	縄文	湧水のため底面未検出
(14) SK-002	陥穴	25K-59	N-20°-E	(1.82)	(1.53)	2.15	縄文	
(14) SK-013	陥穴	25N-17・27	N-34°-E	1.42	(0.96)	<1.98>	縄文	湧水のため底面未検出
(14) SK-014	陥穴	25N-35・36	N-51°-W	3.06	1.00	<1.53>	縄文	湧水のため底面未検出

第5表 溝一覧表

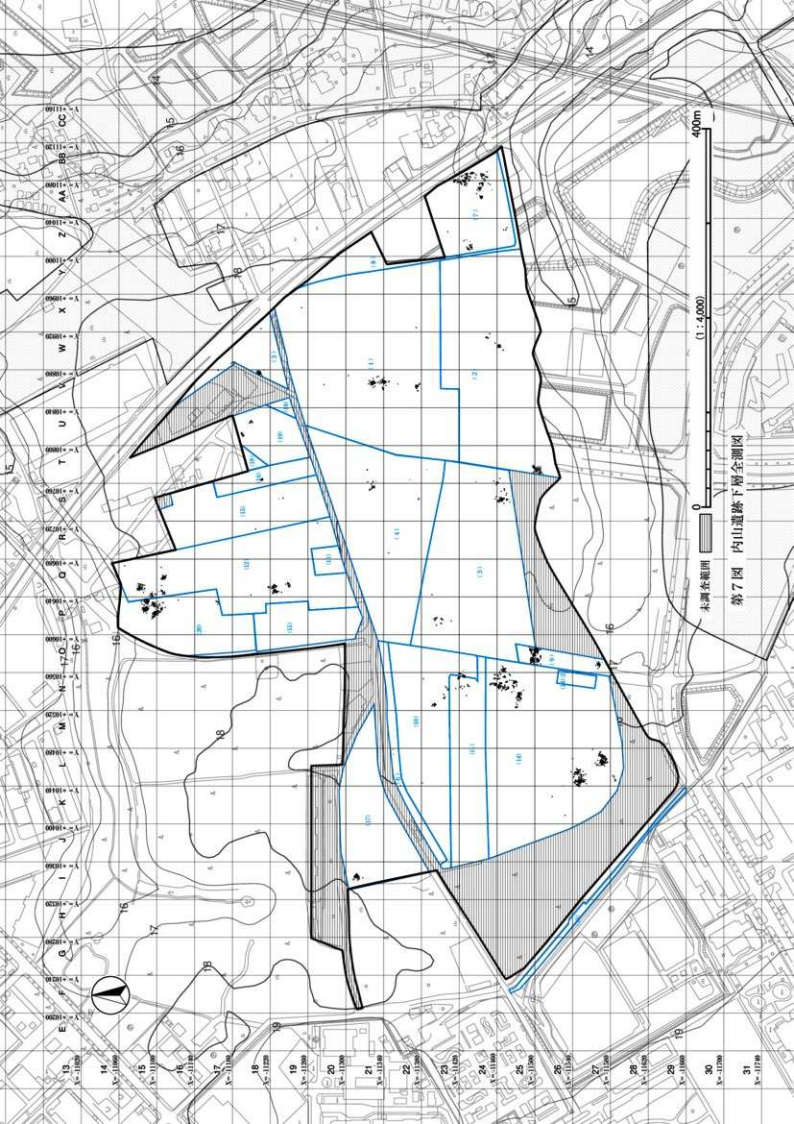
() 現存値

遺構番号	位 置	走行方向	規 模 (単位: m)			時 期	備 考	
			総延長	幅	深さ			
(1) SD-001	19W-59 ~ 23W-66	N-7°-E	<176.5>	0.60	- 2.70/0.44	- 0.78	中・近世	(2) SD-001・(3) SD-001と同一
(1) SD-002	19V-73 ~ 23V-94	N-2°-E	<175.6>	0.80	- 2.50/0.12	- 0.24	中・近世	(2) SD-002と同一 北端で西に15°屈曲
(2) SD-001	23W-66 ~ 24X-99・25X-80 ~ 26W-20	N-10°-W	<76.5>	0.50	- 1.80/0.12	- 0.50	中・近世	(1) SD-001・(3) SD-001と同一
(2) SD-002	24V-04 ~ 26V-15	N-8°-W	<87.3>	0.80	- 3.60/0.18	- 0.44	中・近世	(1) SD-002と同一 調査区域内に屈曲
(2) SD-003	25V-35 ~ 26W-20	N-73°-W	<75.0>	1.20	- 1.80/0.23	- 0.34	中・近世	25X-90で南へ75°屈曲
(3) SD-001	18W-59 ~ 19W-09	N-7°-E	<21.2>	1.60	- 1.80/0.46	- 0.52	中・近世	(1) SD-001・(2) SD-001と同一



第6圖 上層遺構分布

北東表範圍 0 400m (1:4,000)



0 400m
1 : 4,000

水源区域

第7圖 內山遺跡下層全圖

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31



第2節 旧石器時代の遺構と遺物(第8～10図、図版2)

旧地形 内山遺跡は地金堀の西岸、「こんぶくろ池」「弁天池」から地金堀に伸びる南北2本の小支谷に開析された標高16m～18mの舌状台地に位置する。この台地は内山遺跡を最高点として標高13m付近の地金堀に向かい、東に隣接する屋敷内遺跡内でなだらかに東へ傾斜する。

地金堀は現在ではコンクリートで整備された水路として市街地を流れている。しかしながら、屋敷内遺跡・農協前遺跡間のボーリング調査の成果(柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書8)によると、両遺跡間の谷部では、常総粘土層直下の更新世水成層が深さ2m～3m、幅300mに渡り侵食されており、かつての地金堀が水量は豊富だが流域幅が広く、浅く緩やかに手賀沼に向かって流下していたことがわかる。また舌状台地の縁辺にあたる屋敷内遺跡東側の緩斜面では、対岸の農協前遺跡が立地する地金堀東岸の台地に比べて標高が低いことから、本遺跡が立地する舌状台地は更新世(洪積世)末期の風成層が形成される段階の早い時期に水面上に現れた地金堀東岸の台地より離水した時期が遅れたことがわかる。また、関東ローム層が堆積した頃、この舌状台地の縁辺では、地金堀の低地との高低差が今よりもさらに緩やかであったと推定される。

したがって、最終氷期における内山遺跡の周辺の、北側と南側については、現在の「こんぶくろ池」や「弁天池」周辺に広がる低地が地金堀の広大な流域と一体化してひとつの氾濫原を形成し、東側については低地に張り出した舌状台地が次第に緩斜面となりそのまま地金堀に接続していたと推定される。遺跡が立地する舌状台地、低地に続く緩やかな斜面、眼下に流れる広大な地金堀、それを囲む湿地帯という、水辺へのアクセスに富む景観が復元されよう。

微地形については後世の盛土や削平により旧地形の残存状況が一様ではないため、119か所の土層セクションに基づき旧地形を復元し、DEM(数値標高モデル)と等高線を第8図下に示した。図中の白丸は参照した土層セクションの取得位置を示し、DEMは立川ロームVI層の標高値を基準とした。これによると調査区中央の15Qグリッド付近から26Qグリッド付近にかけて、谷が入り込んでおり、標高差1m～2mで舌状台地を東西に分けている。以下本節では、この中央の谷より西を西側台地、東を東側台地と呼称する。

基本層序 本遺跡の立川ローム層序は第9図下のとおりでである。

Ⅲ層 明黄褐色ローム土。ソフトローム層。ソフト化したハードロームを含む。

Ⅳ～Ⅴ層 黄褐色ローム土。大部分は第1暗色帯に相当し、Ⅳ層はソフト化しⅢ層に取り込まれる。

Ⅵ層 明褐色ローム土。AT(始良丹沢火山灰)がブロック上に含まれる。

ソフト化が進みⅢ層のクラックがⅥ層まで到達するところがある。

Ⅶ層 暗黄褐色ローム土。第2暗色帯上部に相当する。湧水の影響により分層できないところがある。

Ⅷ層 暗黄褐色ローム土。第2暗色帯下部に相当する。赤色スコリアを含む。

X層 黄褐色ローム土。Ⅷ層より軟化する。

土層セクションを観察すると、立川ローム層は西側台地では230-01グリッドが東限、東側台地では18Q-81グリッドが西限になっており、両者の間を通る埋没谷が確認できる。ただし、調査区北端の大グリッド15P～15Q付近は旧地形は窪んで谷状になっていながら、立川ローム層は残存しており、石器群が出土している。したがって、調査区内を通る埋没谷は、北は大グリッド16Qグリッド付近から始まり、大グリッド

D210付近を經由して、南は大グリッド27P付近で調査区南側の谷に接続する。大グリッド210の北東については、調査区外に当たるためローム層下の状況は分からないが、大グリッド21K付近から中央の埋設谷に向かって谷筋が伸びており、この谷が調査区外で現在の「弁天池」周辺の低地に繋がると推測される。また西側台地中の22K-22付近を始点として中央の谷に接続する谷筋も確認できる。これらの埋設谷に挟まれた23N-94、16P-84グリッド付近は埋設谷沿いの微高地になっている。

文化層概要 石器群は、西側の谷沿いの微高地や緩斜面に密集しブロック群を形成する石器群と、東側の台地の最高点到散漫に分布する石器群に分かれる。出土層位と石器群の様相から6枚の文化層を設定した。第1・2文化層はAT下位の後期旧石器時代前半期石器群、第3・4・5・6文化層はAT上位の後半期石器群である。このうちAT上位の後半期石器群は、概ね立川ロームV層からⅢ層にかけて包含され、石器群の様相からは明らかな時期差が認められる。しかしながら本地域の層位的分解能ではこれらを出土層位で区分することが難しく、本遺跡においても石器群の出土層位に有意な差は認められなかった。そこで、後半期石器群の文化層の同一性と差異を検討するべく、第3・4・5文化層については母岩分類を行った。

6枚の文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 Ⅹ層中部～上部の石器群と推定される。総計295点が出土し、10か所のブロックで構成される。東側台地に分布し、そのうち南東隅に密集する7か所のブロックがブロック群を形成する。これをユニット1と呼称する。いわゆる搬入石刃を特徴とする石器群である。

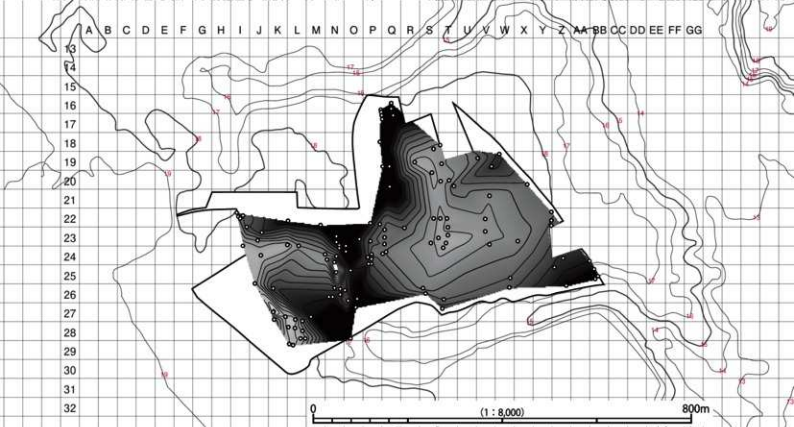
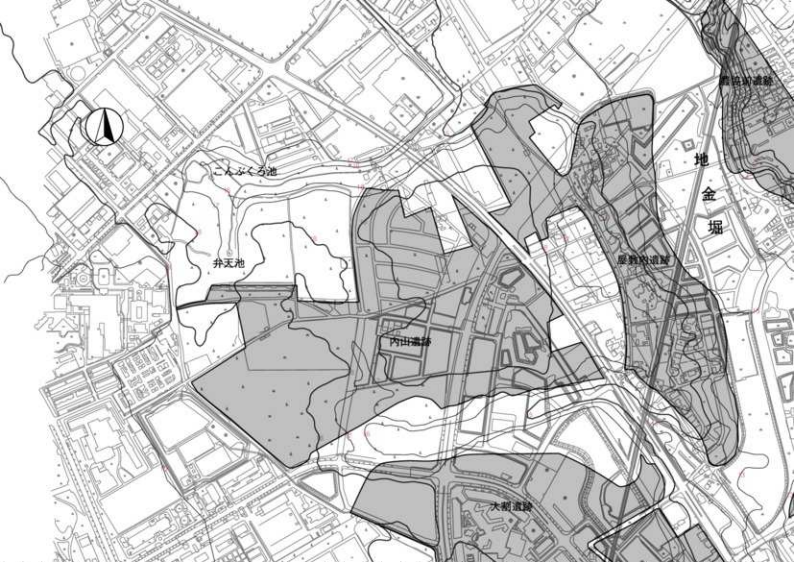
第2文化層 Ⅸ層～Ⅷ層の石器群と推定される。総計56点が出土し、3か所のブロックで構成される。それぞれ100m以上離れて分布しブロック間接合もないため、時期細分される可能性がある。

第3文化層 Ⅷ層～Ⅳ層下部の石器群と推定される。総計842点が出土し、11か所のブロックで構成される。東側台地の北東と台地最高点付近に位置し、そのうち北東の5か所のブロックがブロック群を形成する。これをユニット3と呼称する。角錐状石器と切出形ナイフ形石器を特徴とする石器群である。

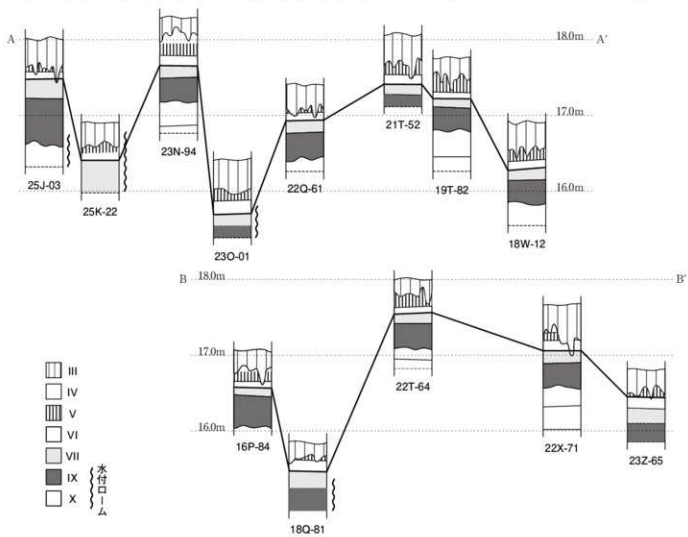
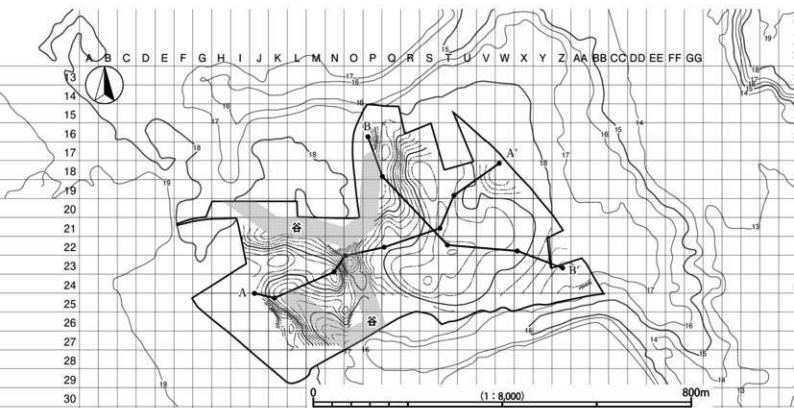
第4文化層 Ⅳ層中部の石器群と推定される。総計1,011点が出土し、20か所のブロックで構成される。西側台地と東側台地に分布する。西側台地の先端の微高地に密集する12か所のブロックが2つのブロック群を形成し、これをユニット4 a・ユニット4 bと呼称する。同様に東側台地の南向き斜面の3か所のブロックをユニット4 c、最高点付近の2か所のブロックをユニット4 dと呼称する。「砂川期」の石器群で両設打面の石刃生産と二側縁加工ナイフ形石器を特徴とする石器群である。西側台地のユニット4 a・4 bは硬質石材を使用する典型的な様相を示すが、東側台地のユニット4 c・4 dは黒曜石を使用する後出の様相を示すため、時期細分される可能性がある。

第5文化層 Ⅳ層上部の石器群と推定される。総計1,167点が出土し、10か所のブロックで構成される。西側台地と東側台地に分布する。西側台地の先端に密集する5か所のブロックと3か所のブロックがブロック群を形成し、それぞれをユニット5 a・ユニット5 bと呼称する。尖頭器を特徴とする石器群である。ユニット5 aはナイフ形石器と尖頭器を持ち、ユニット5 bは有髄尖頭器を持つため、時期細分される可能性がある。

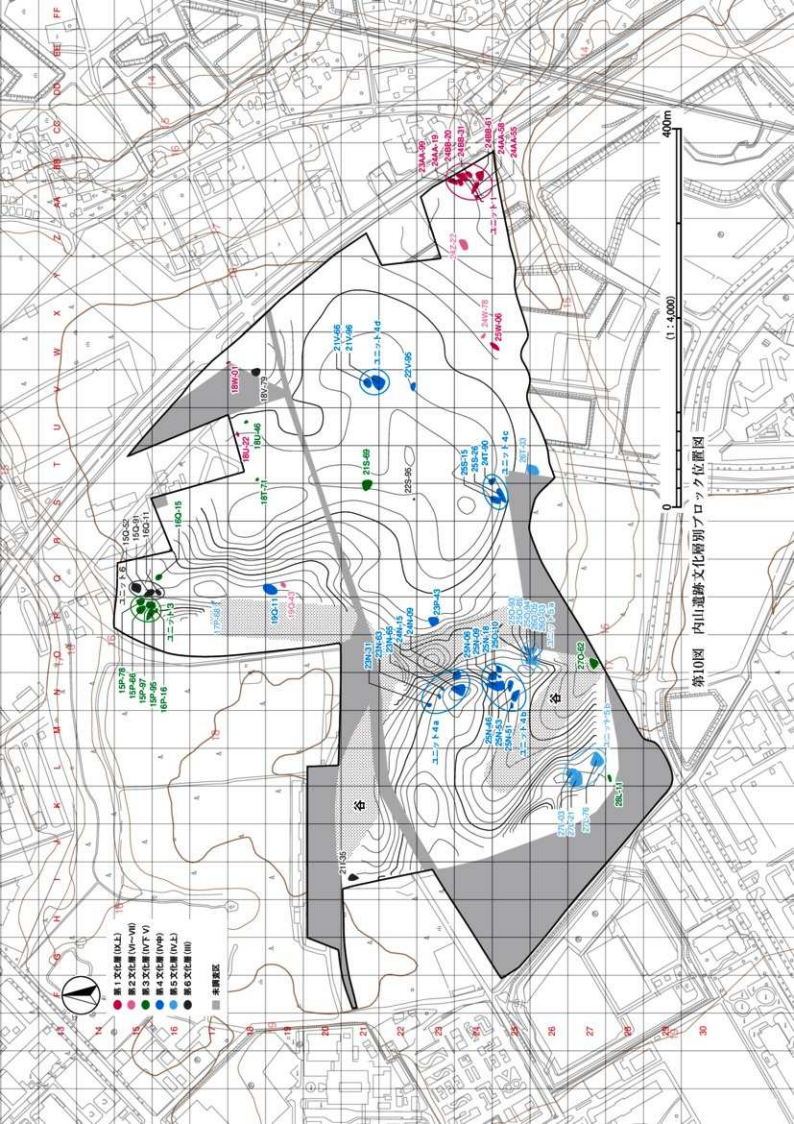
第6文化層 Ⅲ層の石器群と推定される。総計433点が出土し、6か所のブロックで構成される。そのうち東側台地北東の3か所のブロックがブロック群を形成する。これをユニット6と呼称する。ユニット6は礫群が主体で定型的な石器を伴わない。西側台地の21I-35ブロックは細石刃を主体とする。



第8図 周辺地形と旧地形復元



第9图 基本層序



- 第1文化層 (IX上)
- 第2文化層 (VI~VII)
- 第3文化層 (IV上)
- 第4文化層 (IX中)
- 第5文化層 (IV上)
- 第6文化層 (III)
- 未調査区

0 400m
(1 : 4,000)

第10図 内山遺跡文化廊坊ブロック位置図

1 第1文化層(第11図、第6・7表、図版3・30～36)

第1文化層の石器群は、総計291点の石器と4点の礫が出土し、10か所のブロックで構成される。Ⅸ層中部～上部の石器群と推定される。全て東側台地上に分布し、そのうち調査区の南東隅、調査区外の谷に向かう斜面上で7か所の集中地点からなるユニット1がブロック群を形成している。ユニット1以外のブロックはそれぞれ東側台地の緩斜面上に分布する単独ブロックである。現場のセクション記録が不足する地点、斜面部で第2暗色帯の細分が出来なかった地点があるが、垂直分布がおおむね第2暗色帯上半のⅨ層中部～上部付近にまとまるため、同一文化層であると判断した。本遺跡では最古の文化層である。ブロック間接合はユニット1内でのみ確認された。

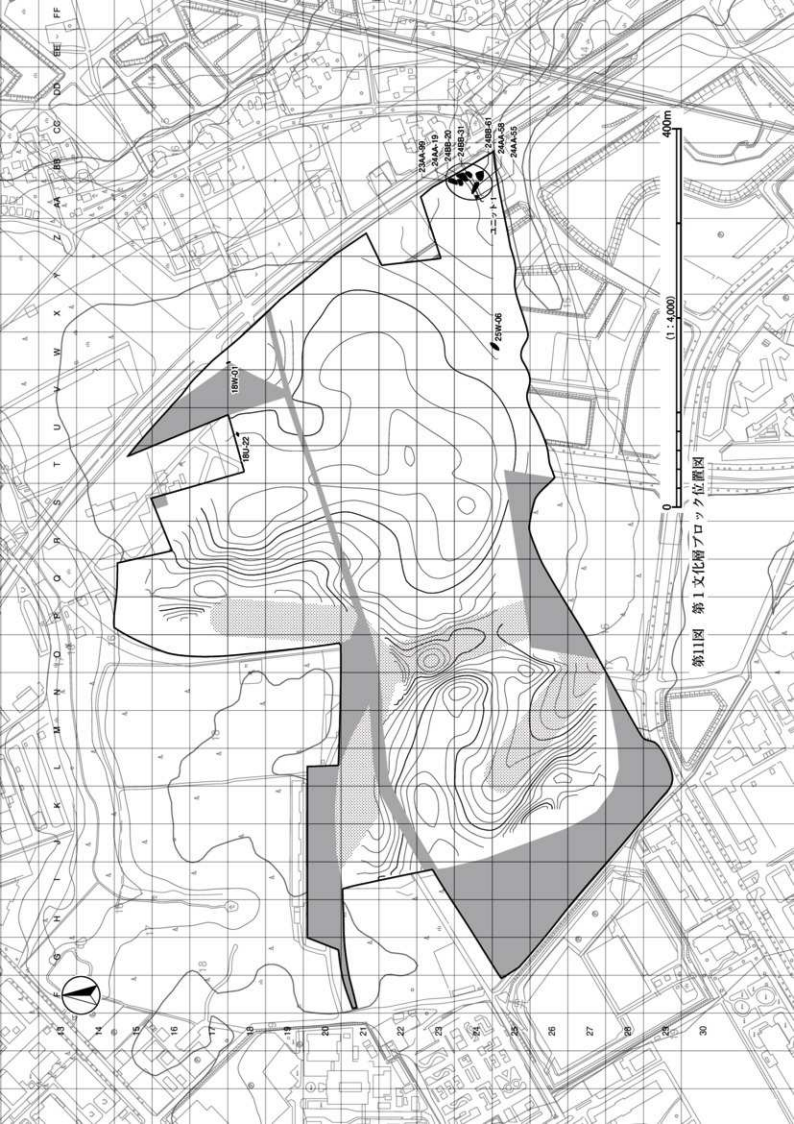
第1文化層のブロック別石材組成と石器組成は第6表と第7表のとおりである。石器石材は、チャート・ガラス質黒色安山岩・頁岩の3種類で文化層全体の74.9%を占める(点数比)。石器器種は、製品は彫器のみだが、ユニット1で縦長剥片が多く、33点でユニット全体の13%を占める(点数比)。

第6表 第1文化層ブロック別石材組成表

石材/ブロック	18U-22	18W-01	25W-06	ユニット1	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	
OB				11	11	3.8	32.35	1.5
CC				8	8	2.7	62.98	2.9
SH			27	36	63	21.6	431.26	19.9
BS	1			19	20	6.9	135.01	6.2
SS	1		1	2	4	1.4	27.29	1.3
GA	5	5	5	56	71	24.4	554.35	25.6
TO				1	1	0.3	4.33	0.2
RH				11	11	3.8	42.08	2.0
CH	5		1	78	84	28.9	608.62	28.1
HO				13	13	4.5	142.67	6.9
GT				1	1	0.3	22.82	1.1
TU				4	4	1.4	84.61	3.9
点数合計	12	5	34	240	291	100.0	-	-
重量合計(g)	206.87	49.05	382.42	1510.03	-	-	2148.37	100.0
礫・礫片(点数)				4	4	100.0	-	-
礫・礫片(g)				21.15	-	-	21.15	100.0

第7表 第1文化層石器組成表

石材/器種	彫器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	原石	合計
OB			7	4			11
CC	1	1	6				8
SH			39	12	1	11	63
BS			18	2			20
SS		1	3				4
GA			60	10	1		71
TO			1				1
RH			9	2			11
CH		2	51	22	9		84
HO			10	3			13
GT			1				1
TU		1	2	1			4
合計	1	5	207	56	11	11	291



第11図 第1文化解ブロック位置図

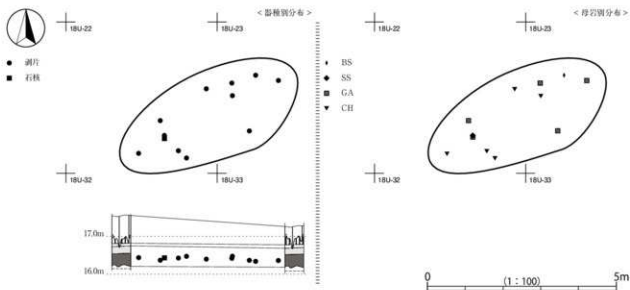
第1文化層 18U-22ブロック (第12図、第8表)

東側台地の北東の平坦面、18U-22・23グリッドに分布する。5.2m×2.4mの範囲から12点の石器が出土した。出土層位はⅨ層中部～上部で、0.13mの高低差をもってほぼ水平に包含される。近接する同一文化層のブロックやブロック間接合はなく単独のブロックである。

石器器種は、剥片と石核で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩・チャート (各5点)・黒色頁岩・珪質頁岩 (各1点) で構成される。

第8表 第1文化層18U-22ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
BS	1		1	8.3	15.86	7.7
SS	1		1	8.3	10.92	5.3
GA	5		5	41.7	51.89	25.1
CH	4	1	5	41.7	128.2	62.0
合計	11	1	12	100.0	206.87	100.0



第12図 第1文化層18U-22ブロック器種別・母岩別分布図

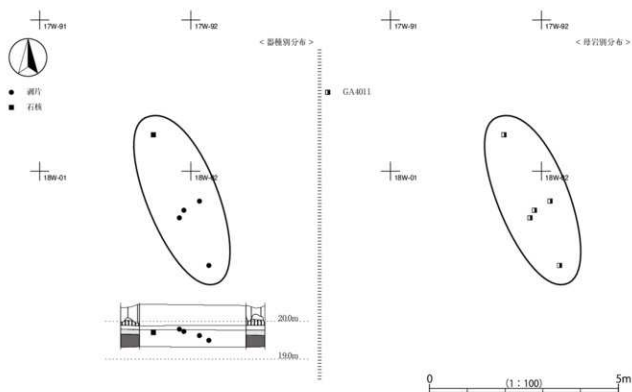
第1文化層 18W-01ブロック (第13図、第9表、図版3)

東側台地の北東の緩斜面、17W-91、18W-01・02グリッドに分布する。4.8m×1.9mの範囲から5点の石器が出土した。出土層位はⅨ～Ⅷ層で、0.29mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層のブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、剥片と石核で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩 (5点) のみで構成される。

第9表 第1文化層18W-01ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
GA	4	1	5	100.0	49.05	100.0
合計	4	1	5	100.0	49.05	100.0



第13図 第1文化層18W-01ブロック器種別・母岩別分布図

第1文化層 25W-06ブロック (第14～17図、第10表、図版3・30・31)

東側台地の南の緩斜面、24W-97、25W-05・06・15グリッドに分布する。12.3m×4.7mの範囲から34点の石器が出土した。中央に集中地点がある。出土層位はⅪ層～Ⅴ層で、0.48mの高低差をもって含まれるが、大半の石器はⅪ層Ⅶ層境界面に集中する。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、剥片・砕片・原石で構成される。石材組成は、頁岩 (27点)・ガラス質黒色安山岩 (5点)・珪質頁岩・チャート (各1点) で構成される。

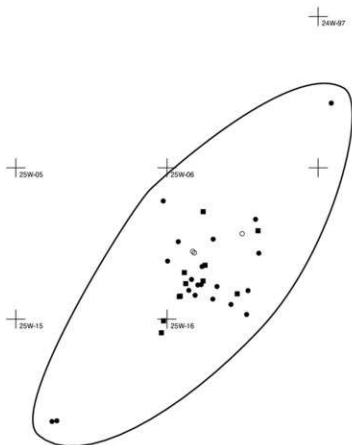
1 (接合資料02012) は頁岩の剥片である、剥離時に同時割れした剥片が2点接合する。2 (接合資料02013) は頁岩の剥片3点が接合する。円礫の自然面を打面として不定形の剥片2-1・2-2を連続剥離している。3 (接合資料02011) は被熱した原石の接合資料である。11点の資料が接合する。人為的な剥離の可能性はあるが、被熱時の割れによるものであると考えたい。1～3は同一母岩である。4 (接合資料02014) はガラス質黒色安山岩の剥片2点が接合する。素材は分割した亜角礫である。亜角礫の角を作業面として幅広剥片を剥離している。4-1を剥離した後、打面を更新して4-2を剥離している。

第10表 第1文化層25W-06ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	砕片	原石	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
SH	14	2	11	27	79.4	251.96	65.9
SS	1			1	2.9	1.09	0.3
GA	5			5	14.7	129.18	33.8
CH		1		1	2.9	0.19	0.01
合計	20	3	11	34	100.0	382.42	100.0



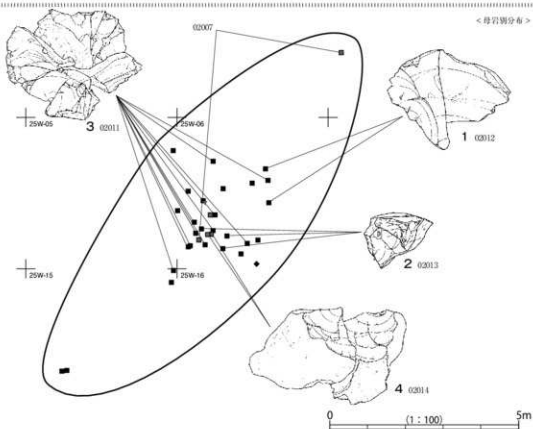
- 洞片
- 破片
- 原石



< 器種別分布 >



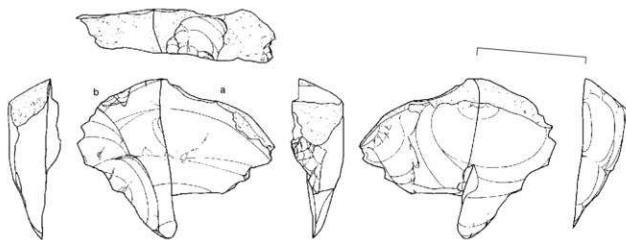
- SH
- ◆ SS
- GA
- ▼ CH



< 母岩別分布 >

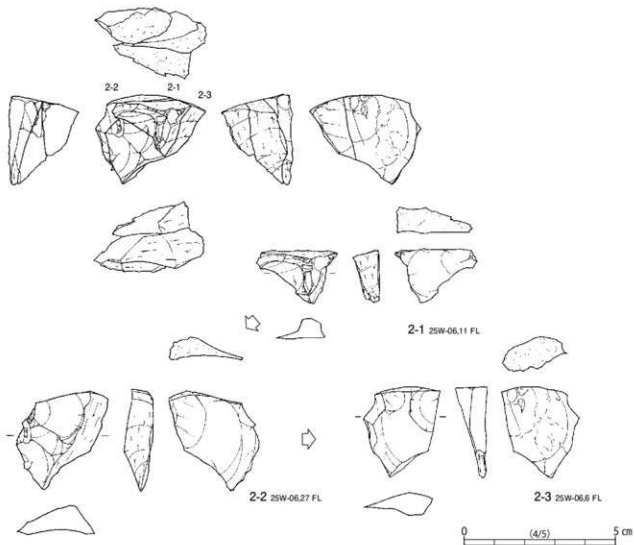
第14図 第1文化層25W-06ブロック器種別・母岩別分布図

SH
接合資料02012



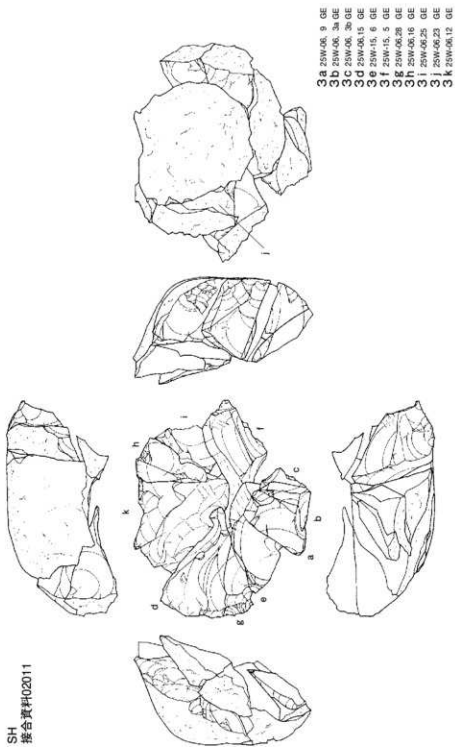
SH
接合資料02013

1 a 25W-06.21 FL
1 b 25W-06.24 FL

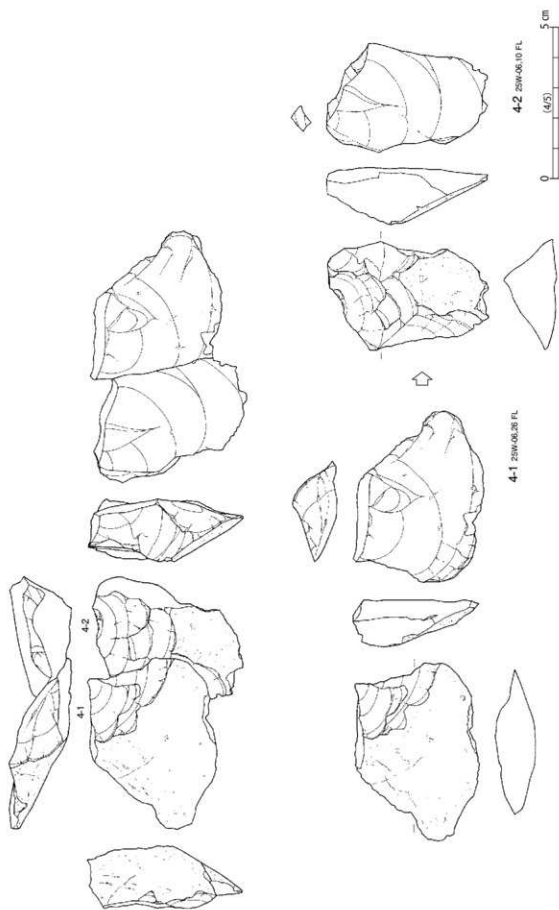


第15図 第1文化層25W-06ブロック出土石器(1)

SH
 総合資料02011



第16図 第1文化層25W-06フロック出土石器(2)



第17図 第1文化層25W-06フロック出土石器(3)

第1文化層 ユニット1 (第18図、第11・12表、図版3・31～36)

東側台地の南東、大グリッド24AA・24BB付近に分布する。総計240点の石器と4点の礫が出土し、7か所の集中地点で構成される。調査区外の谷に向かう斜面上に立地し、Ⅴ層上部の石器群と推定される。それぞれのブロックは近接しており、24BB-20・24BB-31・24AA-58ブロックでブロック間の接合資料が見られる。ブロック群は東の調査区外(現在の国道16号下)に続く可能性が高い。

ユニット1の集中地点別石材組成と石器組成は第11表と第12表のとおりである。石器石材は、チャート・ガラス質黒色安山岩・頁岩に加えて黒色頁岩・ホルンフェルス・黒曜石・流紋岩など多様な石材を使用する。石器器種は、製品は彫器のみだが縦長剥片が多く出土しており、特に北寄りのブロックは縦長剥片の割合が多い。ユニット内に石刃を連続的に剥離する接合資料はなく、石刃石材も多様で出土形態は客体的である。しかしながら、剥離時の事故で折損した石刃が接合する資料がある点、同一母岩から剥離されたと思われる石刃が一定割合みられる点から、全ての石刃が遺跡外からの搬入品であると断定することは難しく、一部遺跡内で石刃生産を行っている可能性がある。

第11表 第1文化層ユニット1ブロック別石材組成表

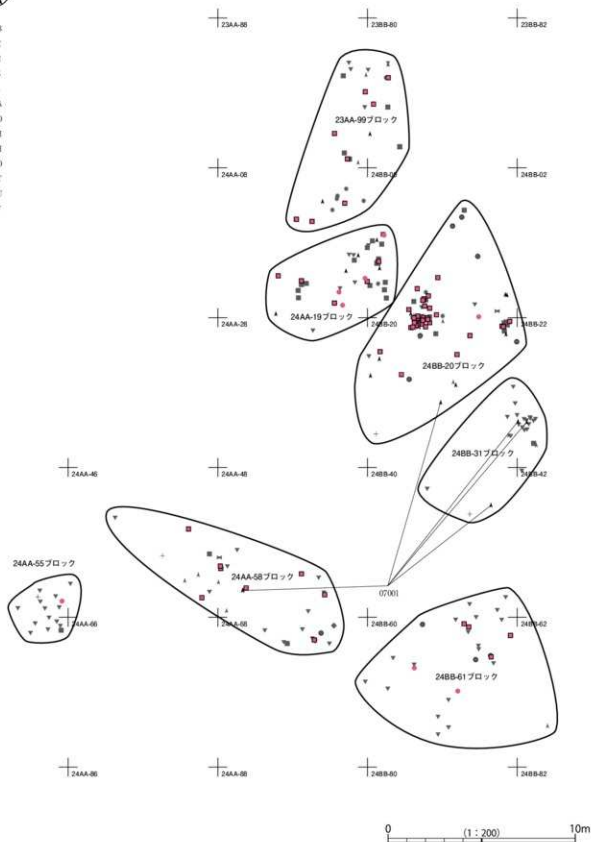
石材/ブロック	23AA -99	24AA -19	24BB -20	24BB -31	24BB -61	24AA -58	24AA -55	点数合計		重量合計	
								(%)	(%)	(g)	(%)
OB			7		3	1		11	4.6	32.35	2.1
CC		4	1		2		1	8	3.3	62.98	4.2
SH	6	17	9	1		2	1	36	15.0	179.3	11.9
BS	2	5	8	3		1		19	7.9	119.15	7.9
SS			1			1		2	0.8	15.28	1.0
GA	8	5	31		4	8		56	23.3	324.23	21.5
TO			1					1	0.4	4.33	0.3
RH	7	1	3					11	4.6	42.08	2.8
CH	4	6	6	18	18	13	13	78	32.5	480.23	31.8
HO	2		3	2	1	5		13	5.4	142.67	9.4
GT	1							1	0.4	22.82	1.5
TU			3			1		4	1.7	84.61	5.6
点数合計	30	38	73	24	28	32	15	240	100.0	-	-
重量合計 (g)	159.58	145.62	444.91	138.74	108.67	351.2	161.31	-	-	1510.03	100.0
礫・礫片 (点数)			1	1		1	1	4	100.0	-	-
礫・礫片 (g)			3.3	9.39		0.71	7.75	-	-	21.15	100.0

第12表 第1文化層ユニット1石器組成表

石材/器種	彫器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	合計
OB			7	4		11
CC	1	1	6			8
SH			25	10	1	36
BS			17	2		19
SS		1	1			2
GA			46	10		56
TO			1			1
RH			9	2		11
CH		2	47	21	8	78
HO			10	3		13
GT			1			1
TU		1	2	1		4
合計	1	5	172	53	9	240



- OB
- CC
- SH
- ▲ BS
- ◆ SS
- GA
- TO
- RH
- ▼ CH
- ▲ HO
- GT
- TU
- PF



第18図 第1文化層ユニット1母岩別分布図

第1文化層 23AA-99ブロック (第19・20図、第13表、図版31)

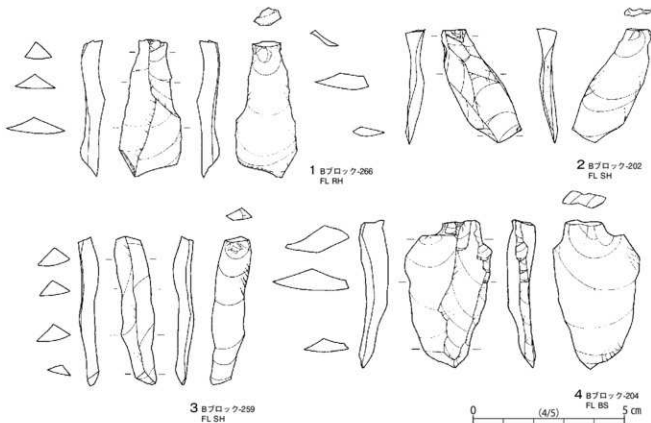
ユニット1北寄りの23AA-89・99、23BB-80・90、24AA-09グリッドに分布する。10.7m×5.3mの範囲から30点の石器が出土した。ブロック範囲内に散漫に分布する。出土層位はⅨ層～Ⅶ層で、0.43mの高低差を持って包含されるが、大半の石器はⅨ層中部に集中する。ブロック間接合はない。

石器器種は、剥片・砕片で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩(8点)・流紋岩(7点)・頁岩(6点)・チャート(4点)・黒色頁岩・ホルンフェルス(各2点)・緑色凝灰岩(1点)で構成される。

1～4は縦長剥片である。いずれも打面は無調整である。1は流紋岩の縦長剥片である。稜上の打面部を突出させるような頭部調整がみられる。2・3は頁岩の縦長剥片である。2は頭部調整がみられる。2の頁岩は22AA-19ブロックの3・5と同一母岩で、右側面に平坦な自然面を取り込んでおり、作業面の小口から剥離されていることがわかる。4は黒色頁岩の縦長剥片である。わずかな頭部調整みられる。

第13表 第1文化層23AA-99ブロック石器組成表

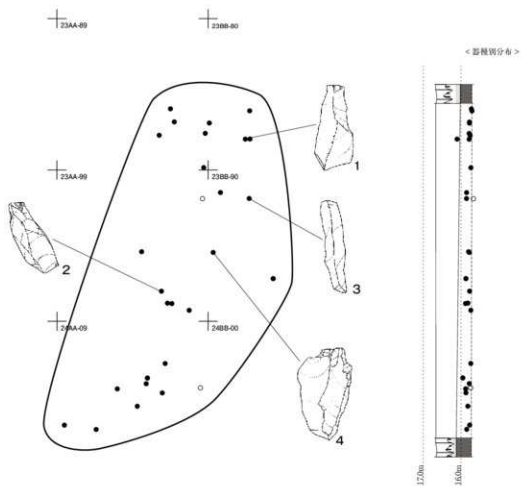
母岩番号/器種	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
SH	5	1	6	20.0	46.05	28.9
BS	2		2	6.7	10.82	6.8
GA	8		8	26.7	33.44	21.0
RH	5	2	7	23.3	24.02	15.1
CH	3	1	4	13.3	10.22	6.4
HO	2		2	6.7	12.21	7.7
GT	1		1	3.3	22.82	14.3
合計	26	4	30	100.0	159.58	100.0



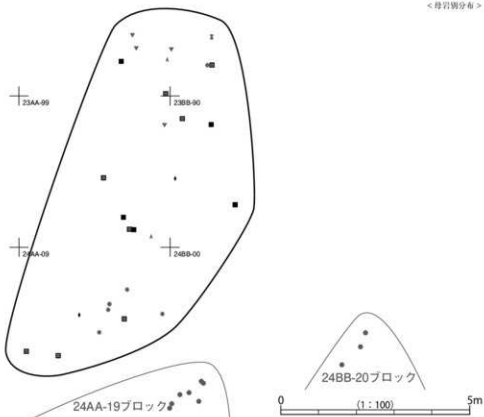
第19図 第1文化層23AA-99ブロック出土石器



- 湖片
- 砂片



- SH
- BS
- GA
- RH
- ▽ CH
- ▲ HO
- Ⅹ GT



第20図 第1文化層23AA-99ブロック器種別・母岩別分布図

第1文化層 24AA-19ブロック (第21～23図、第14表、図版32)

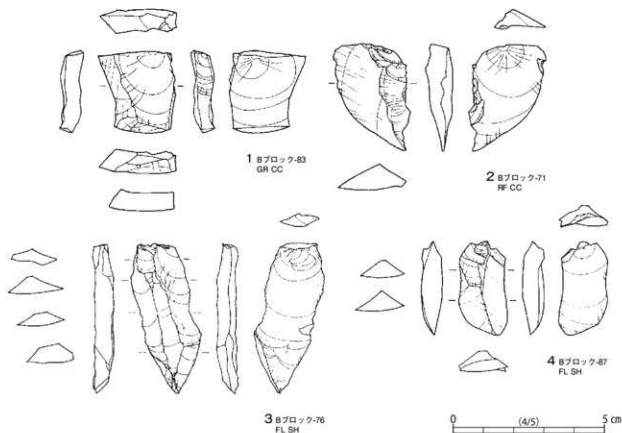
ユニット1北寄りの24BB-00・10、24AA-18・19・29グリッドに分布する。8.1m×4.8mの範囲から38点の石器が出土した。ブロック範囲内に散漫に分布する。出土層位はⅤ層～Ⅵ層で、地形の傾斜に沿って0.74mの高低差を持って包含される。大半の石器はⅤ層中部に集中する。Ⅵ層出土の3点については水平分布・石材・器種の様相が他の石器と有意な差がないため同一ブロックに帰属すると判断した。ブロック間接合はない。

石器器種は、彫器・二次加工のある剥片・剥片・砕片で構成される。石材組成は、頁岩(17点)・チャート(6点)・黒色頁岩・ガラス質黒色安山岩(各5点)・メノウ(4点)・流紋岩(1点)で構成される。

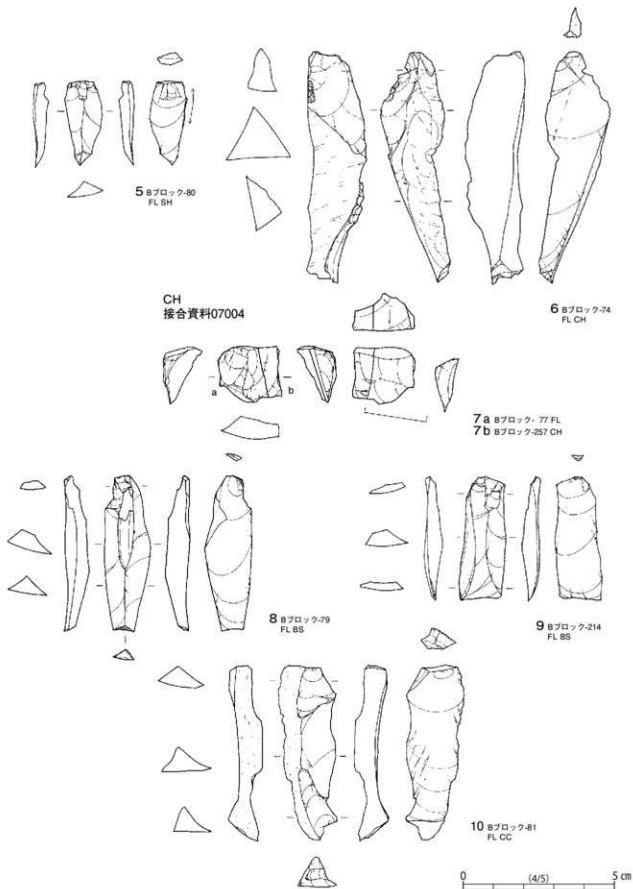
1はメノウの彫器である。右側面が自然面の剥片あるいは縦長剥片を素材とする。右側面に打面から槌状剥離を施している。下半部は折損する。2はメノウの二次加工のある剥片である。寸詰まりの縦長剥片

第14表 第1文化層24AA-19ブロック石器組成表

母岩番号/器種	彫器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	
CC	1	1	2		4	10.5	24.52	16.8
SH			9	8	17	44.7%	29.25	20.1
BS			4	1	5	13.2%	14.98	10.3
GA			3	2	5	13.2%	31.48	21.6
RH			1		1	2.6%	4.4	3.0
CH			4	2	6	15.8%	40.99	28.1
合計	1	1	23	13	38	100.0%	145.62	100.0



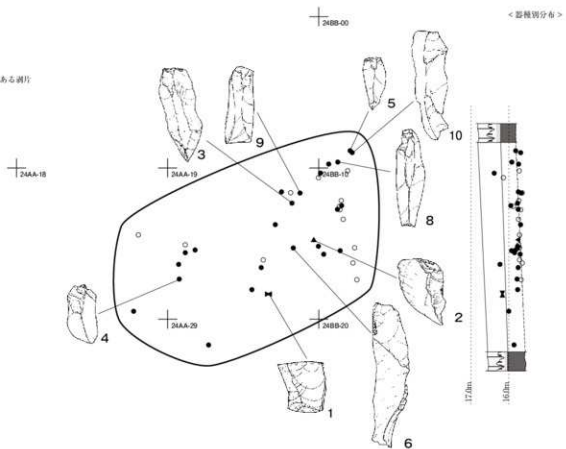
第21図 第1文化層24AA-19ブロック出土石器(1)



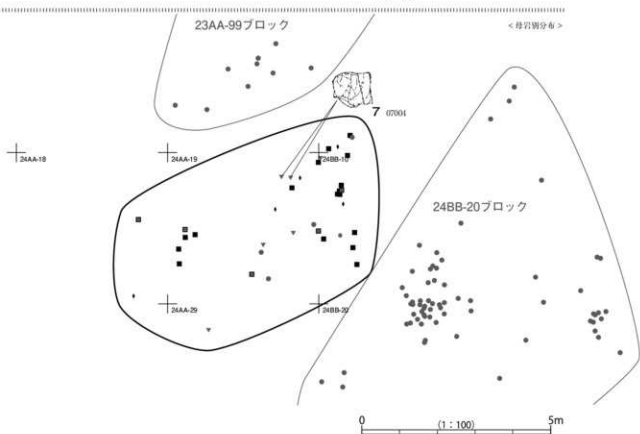
第22図 第1文化層24AA-19ブロック出土石器(2)



- 彫器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片



- CC
- SH
- BS
- GA
- RH
- ▼ CH



第23図 第1文化層24AA-19ブロック器種別・母岩別分布図

を素材とする。裏面側の左側縁に背面側から部分的な調整を施している。1・2は同一母岩である。

3～5は頁岩の縦長剥片である。3は比較的整った作業面から剥離された縦長剥片で、剥離時の調整はわずかな頭部調整のみである。右側面下部に平坦な自然面を取り込んでおり、作業面の小口から剥離されていることがわかる。4は末端がヒンジ状になる縦長剥片である。打面は剥離時の衝撃で破砕している。5は3と同一母岩の小縦長剥片で、末端がヒンジ状になるような頭部調整がみられる。3・5の頁岩は23AA-99ブロックの2と同一母岩である。6はチャートの縦長剥片である。節理面と礫面に挟まれた作業面から剥離されており、剥離工程の初期段階に剥離された稜作剥片であると考えられる。打面と頭部は無調整である。7(接合資料07004)はチャートの剥片である。剥離時に同時割れた2点が接合する。8・9は黒色頁岩の縦長剥片である。どちらも比較的整った作業面から剥離された縦長剥片で、わずかな頭部調整がみられる。10はメノウの縦長剥片である。5と同様の稜作剥片であると考えられる。打面にわずかな調整がみられる。

第1文化層 24BB-20ブロック(第24～29図、第15表、図版3・32～34)

ユニット1中央の24BB-01・10・11・20・21・30グリッドに分布する。13.9m×7.5mの範囲から73点の石器と1点の礫片が出土した。中央西部と中央東部の2か所の集中地点がある。出土層位はⅨ層～Ⅵ層である。集中範囲の中央で地形がやや窪んでおり、地形の変化に沿って0.69mの高低差を持って包含される。大半の石器は地形の窪みに沿ってⅨ層上部に集中する。ブロック間の接合資料が1個体検出されており、24BB-31・24AA-58ブロックとの接合がみられる。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩(31点)・頁岩(9点)・黒色頁岩(8点)・黒曜石(7点)・チャート(6点)・流紋岩・ホルンフェルス・凝灰岩(各3点)・メノウ・珪質頁岩・トロトロ石(各1点)で構成される。礫は、安山岩(1点)である。

1は凝灰岩の二次加工のある剥片である。厚手の横長剥片を素材として、周縁に調整を施している。調整は打面側はやや平坦で、下端側はやや急角度である。左側縁の成形は石斧の刃部成形に似るが全体的に不整形であるため二次加工のある剥片として分類した。

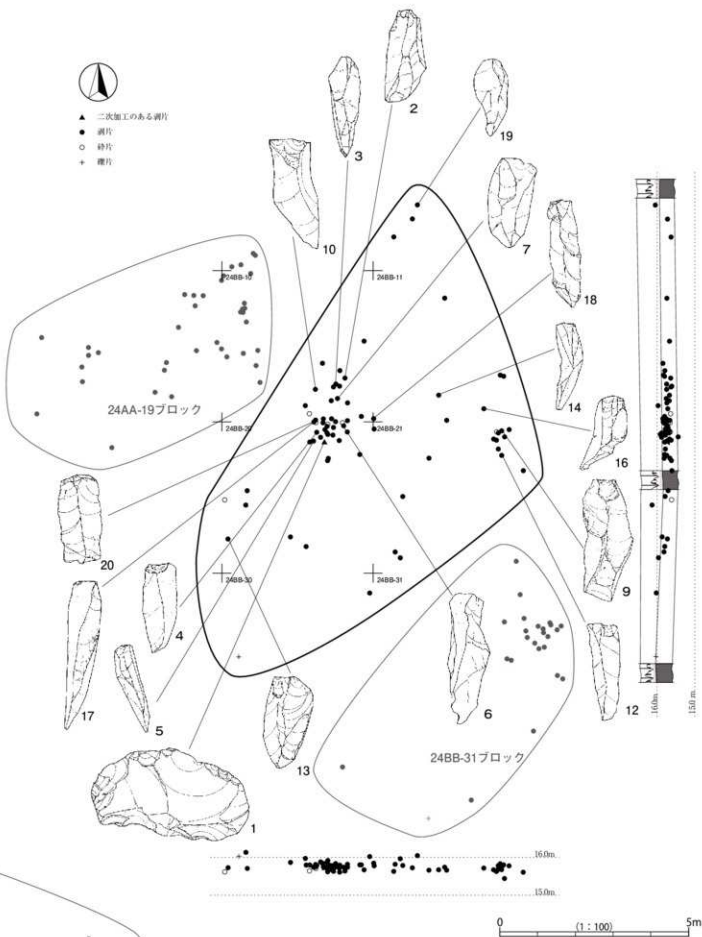
2～20は縦長剥片である。2～7はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。10以外はすべて無調整打面である。2は稜上の打面を突出させる頭部調整がみられる。中腹部が突出した作業面を取り込み背面

第15表 第1文化層24BB-20ブロック石器組成表

母岩番号/器種	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB		7		7	9.6	31.27	7.0
CC		1		1	1.4	4.63	1.0
SH		8	1	9	12.3	52.74	11.9
BS		7	1	8	11.0	34.17	7.7
SS		1		1	1.4	9.1	2.0
GA		29	2	31	42.5	161.47	36.3
TO		1		1	1.4	4.33	1.0
RH		3		3	4.1	13.66	3.1
CH		4	2	6	8.2	12.64	2.8
HO		3		3	4.1	36.47	8.2
TU	1	2		3	4.1	84.43	19.0
合計	1	66	6	73	100.0	444.91	100.0



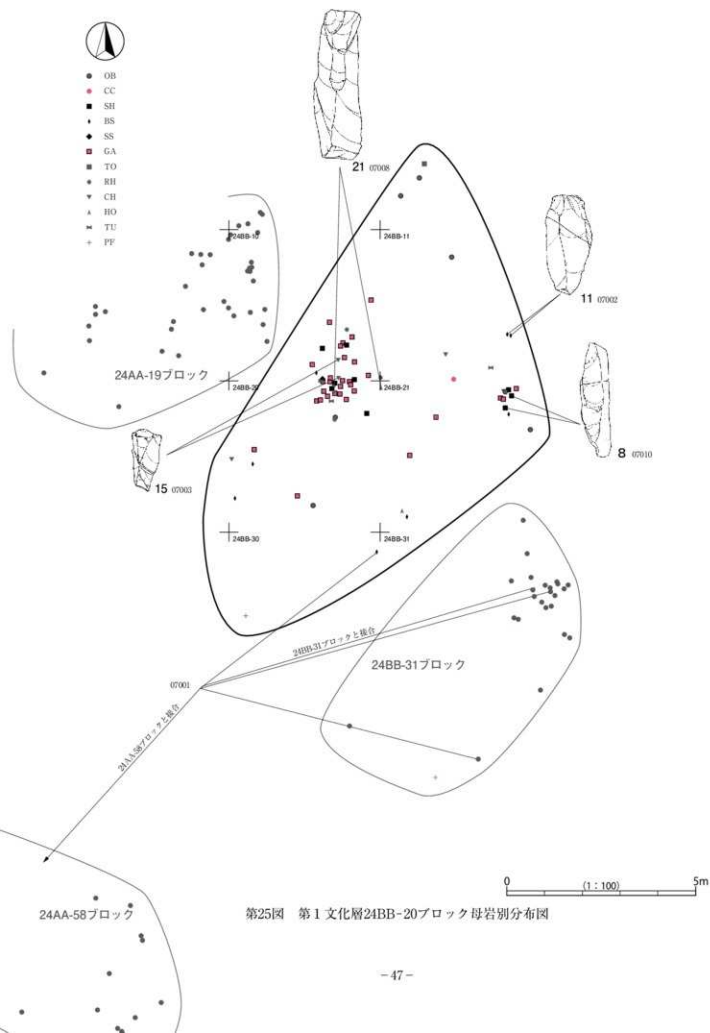
- ▲ 二次加工のある遺片
- 遺片
- 破片
- + 礎片



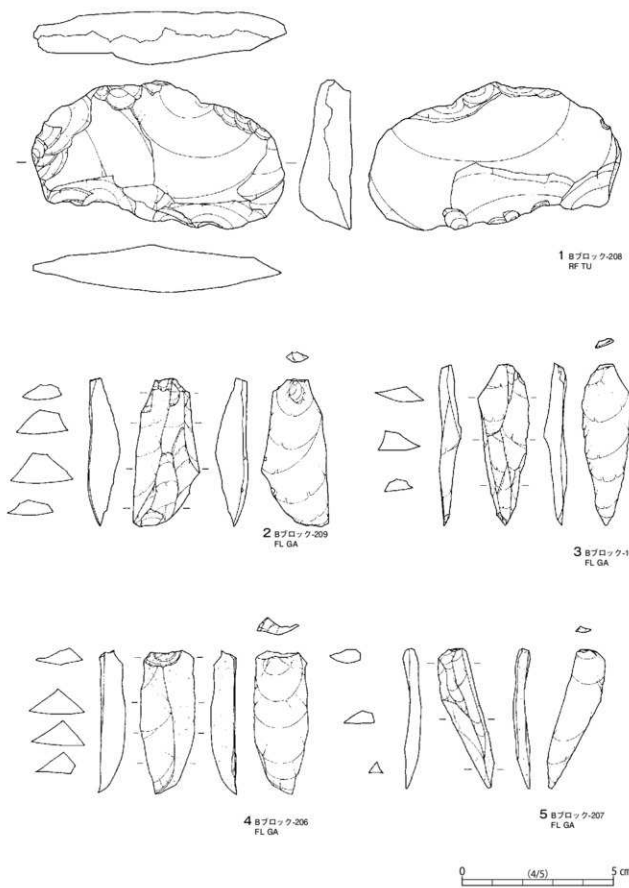
第24図 第1文化層24BB-20ブロック器種別分布図



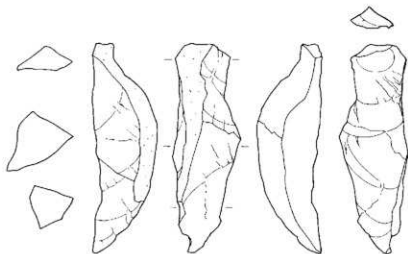
- OB
- CC
- SH
- BS
- SS
- GA
- TO
- RH
- ▼ CH
- ▲ HO
- ▲ TU
- PF



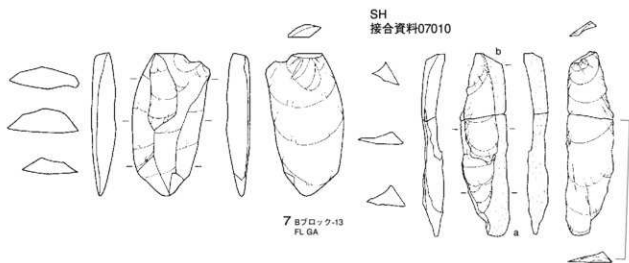
第25図 第1文化層24BB-20ブロック母岩別分布図



第26図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(1)

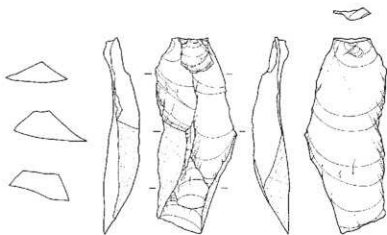


6 Bブロック-231
FL GA

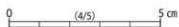


7 Bブロック-13
FL GA

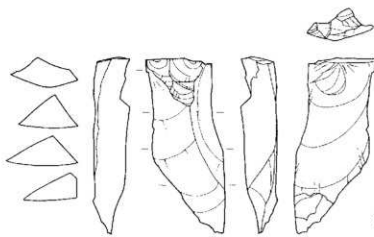
8a Bブロック-253 FL
8b Bブロック- 58 FL



9 Bブロック-238
FL SH

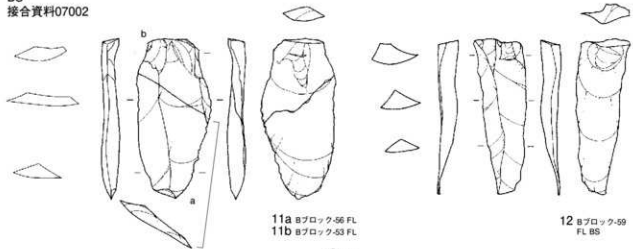


第27図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(2)



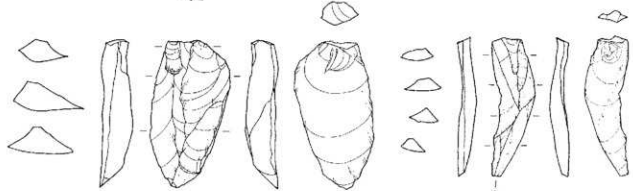
10 Bブロック-15
FL SH

BS
接合資料07002



11a Bブロック-56 FL
11b Bブロック-53 FL

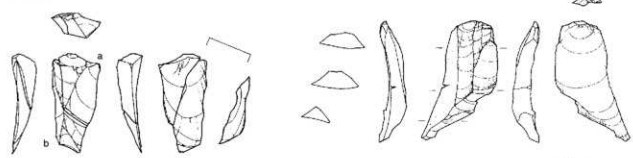
12 Bブロック-59
FL BS



13 Bブロック-25
FL BS

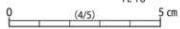
14 Bブロック-52
FL CH

CH
接合資料07003

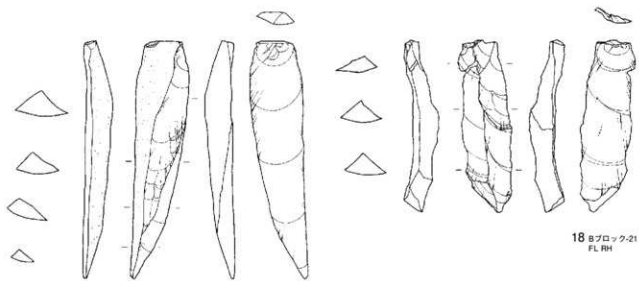


15a Bブロック-227 FL
15b Bブロック-228 FL

16 Bブロック-54
FL TU

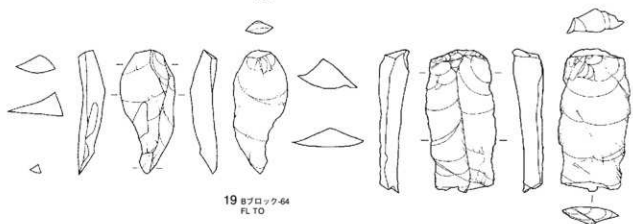


第28図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(3)



17 Bブロック-220
FL TU

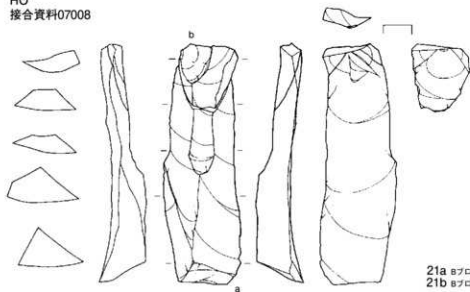
18 Bブロック-21
FL RH



19 Bブロック-64
FL TO

20 Bブロック-10
FL SS

HO
接合資料07008



21a Bブロック-249 FL
21b Bブロック-22 FL

0 (4/5) 5 cm

第29図 第1文化層24BB-20ブロック出土石器(4)

が甲高になっている。3は稜上の頭部に頭部調整がみられる。左側面に大きな剥離面の一部を取り込んでおり、小口状になった作業面から剥離されていることがわかる。4は稜上の頭部を削るような顕著な頭部調整がみられる。右側面に自然面を取り込んでおり、剥離面と自然面に挟まれた作業面の角から剥離されていることがわかる。5は頭部は無調整である。右側面に自然面を取り込んでおり、作業面の角から剥離されていることがわかる。6は背面に大きく自然面が残る。縦長剥片剥離工程の初期段階に剥離された作業面後作剥片であると考えられる。7はわずかな頭部調整がみられる。8～10は頁岩の縦長剥片である。8（接合資料07010）は器体中央で折れた2点が接合する。頭部は無調整である。右側面に自然面を取り込んでおり、作業面の角から剥離されていることがわかる。9は稜上頭部を取る顕著な頭部調整がみられる。両側面に自然面と節理面を取り込むことから、小口状に突出した作業面から剥離されていることがわかる。10は打面調整がみられる。稜上の頭の扱いは頭部調整というよりは、先行剥離が剥離事故を起こしヒンジになっているようにみえる。このヒンジにより他の縦長剥片より打点が高いため打面が分厚い。左側面が大きな剥離面の一部を取り込んでおり、小口状の作業面から剥離されていることがわかる。11～13は黒色頁岩の縦長剥片である。11（接合資料07002）は器体中央で折れた2点が接合する。整った作業面の稜間上の打点から剥離された縦長剥片である。頭部にわずかな頭部調整がみられる。12・13は頭部は無調整である。14・15はチャートの縦長剥片である。14はわずかな頭部調整がみられる。右側面下部に大きな剥離面の一部を取り込んでいる。15（接合資料07003）は剥離時に同時割れた2点が接合する。頭部は無調整である。16・17は凝灰岩の縦長剥片である。16は細かい頭部調整がみられる。左側面に平坦な自然面を取りこんでおり、作業面の角から剥離されていることがわかる。17は頭部は無調整である。6と同様の作業面後作剥片であると考えられる。18は被熱した流紋岩の縦長剥片である。わずかな頭部調整がみられる。両側面を大きな剥離面の一部を取り込み、下部は石核底面を取り込んでいる。19はトロトロ石の縦長剥片である。頭部は無調整である。20は珪質頁岩の縦長剥片である。頭部は無調整である。末端は欠損する。

21（接合資料07008）はホルンフェルスの剥片（b）と縦長剥片（a）が接合する。剥離時の衝撃で打面部が同時割れた接合資料である。打面・頭部ともに無調整である。比較的整った作業面の稜間上の打点から剥離された縦長剥片で下部は石核底面を取り込む。

第1文化層 24BB-31ブロック（第30～32図、第16表、図版34・35）

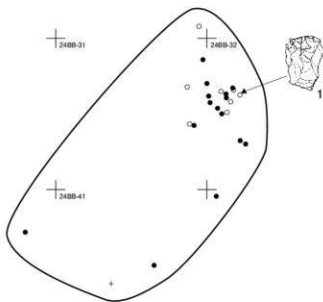
ユニット1中央の24BB-21・31・32・40～42グリッドに分布する。8.1m×4.5mの範囲から24点の石器と1点の礫片が出土した。北東部に集中地点がある。出土層位はⅧ層～Ⅸ層である。南西に傾斜する地形に沿って0.55mの高低差をもって包含される。大半の石器はⅧ層上部に集中する。ブロック間の接合資料が1個体検出されており、24BB-20・24AA-58ブロックとユニット内でブロック間接合がみられる。

第16表 第1文化層24BB-31ブロック石器組成表

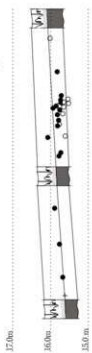
母岩番号/器種	二次加工 のある剥片	剥片	破片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
SH		1		1	4.2	26.66	19.2
BS		3		3	12.5	29.25	21.1
CH	1	10	7	18	75.0	61.06	44.0
HO		1	1	2	8.3	21.77	15.7
合計	1	15	8	24	100.0	138.74	100.0



- ▲ 二次加工のある燧片
- 燧片
- 砕片
- + 礫片

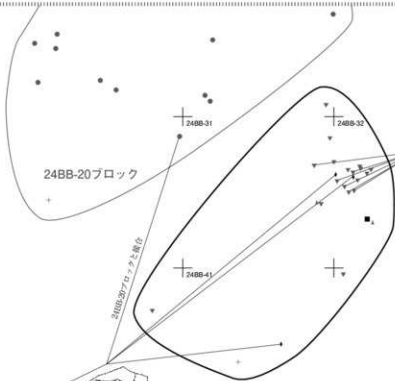


< 器種別分布 >



< 母岩別分布 >

- SH
- BS
- ▼ CH
- ▲ HO
- + PF



24BB-20ブロック

24BB-20ブロックとの集合

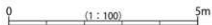
24AA-58ブロックとの集合



07001

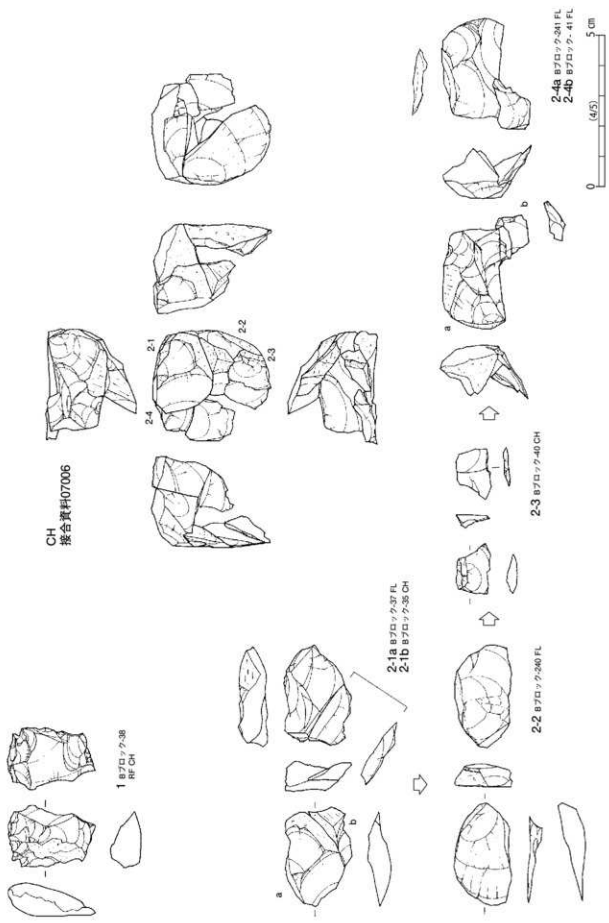


2 07006



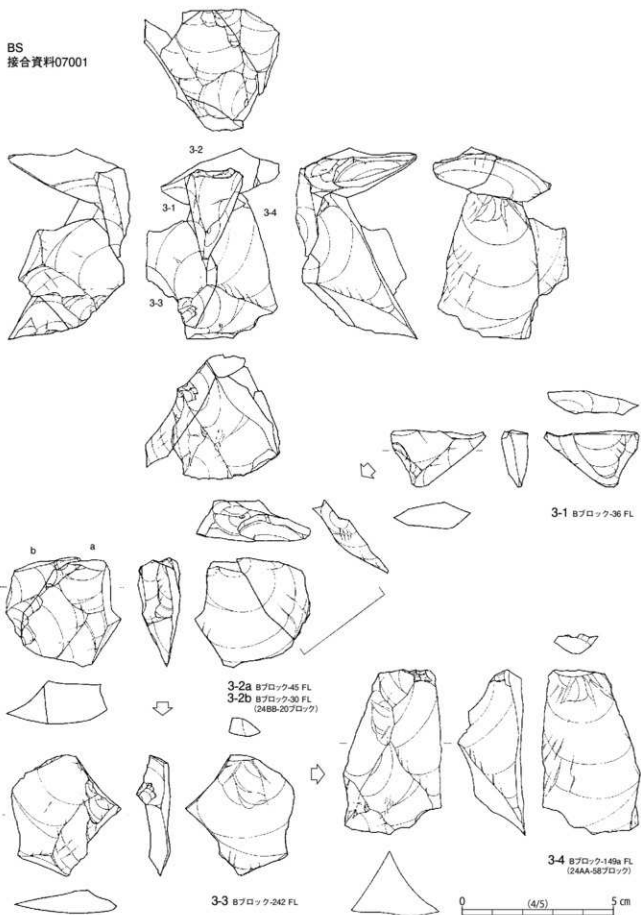
第30図 第1文化層24BB-31ブロック器種別・母岩別分布図

24AA-58ブロック



第31図 第1文化層24BB-31アロツク出土石器(1)

BS
接合資料07001



第32図 第1文化層24BB-31ブロック出土石器(2)

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・破片で構成される。石材組成は、チャート(18点)・黒色頁岩(3点)・ホルンフェルス(2点)・頁岩(1点)で構成される。礫は、砂岩(1点)である。

1はチャートの二次加工のある剥片である。幅広剥片を素材とし、素材の両側縁から急角度の調整が施される。両極剥離による楔形石器と捉えることもできる。

2(接合資料07006)はチャートの剥片4点と破片2点が接合する。素材は円礫の分割個体である。図裏面の分割面(節理面)を打面として剥片剥離を開始し、打面と作業面を繰り返し転移しながら2-1～2-4の不定形剥片が剥離される。

3(接合資料07001)は黒色頁岩の剥片5点が接合する。その内2点はブロック間接合資料である。3つの工程が確認される。第1工程は、大きな剥離により整形された角を作業面として稜上を調整する剥片が剥離され3-1と3-2が剥離される。3-2の一部は24BB-20ブロックで出土している。第2工程は、打面を更新する厚手の剥片が剥離され3-3が剥離される。第3工程は、更新された打面から剥片剥離され突出した作業面を取り込む3-4が剥離される。3-4は24AA-58ブロックで出土している。周辺の集中地点で、硬質な石材を用いて小口状の作業面から剥離された縦長剥片が多く出土していることから、この資料も縦長剥片生産を意図した剥離工程の初期の稜形成段階の接合資料であると考えられる。

第1文化層 24BB-61ブロック(第33・34図、第17表、図版35)

ユニット1南の24BB-51・60・61・70～72グリッドに分布する。9.6m×9.1mの範囲から28点の石器が出土した。ブロック範囲内に散漫に分布し、北部はやや分布が濃い。出土層位はⅨ層～Ⅴ層である。南西に傾斜する地形に沿って1.02mの高低差をもって包含される。大半の石器はⅨ層上部からⅥ層に集中する。ブロック間接合はない。

石器器種は、剥片・破片・石核で構成される。石材組成は、チャート(18点)・ガラス質黒色安山岩(4点)・黒曜石(3点)・メノウ(2点)・ホルンフェルス(1点)で構成される。

1(接合資料07009)はチャートの剥片2点が接合する。剥片あるいは縦長剥片を素材とする。左側面を作業面として1-1・1-2が剥離される。いわゆる下総型石刃再生技法の関連資料であると考えられる。

2(接合資料07007)はチャートの剥片1点と石核3点が接合する。亜円礫の角から剥離された厚手で寸詰りの縦長剥片を素材とする。器体中央で折断あるいは剥離時の折れにより分割された個体を石核に転用する。上半の個体では両端から貝殻状剥片を剥離し、2-1と数枚の剥片が剥離され、石核2-2が廃棄される。下半の個体でも剥片時の背後から剥離を開始するが、一定サイズ以上の剥片を剥離することなく石核2-3が廃棄される。1と同様に剥片を石核に転用小剥片を剥離する、節約的な石材利用を示す資料である。

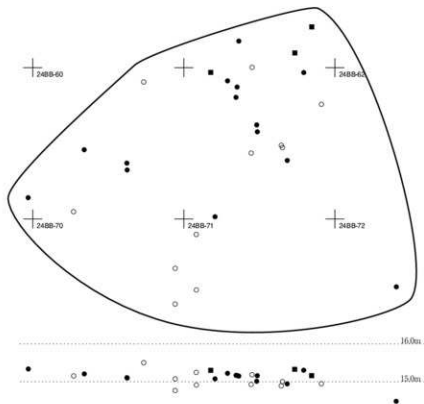
第17表 第1文化層24BB-61ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	破片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB		3		3	10.7	0.73	0.7
CC	2			2	7.1	21.57	19.8
GA	2	2		4	14.3	5.83	5.4
CH	9	6	3	18	64.3	78.61	72.3
HO	1			1	3.6	1.93	1.8
合計	14	11	3	28	100.0	108.67	100.0

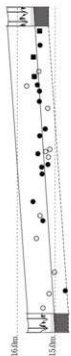
24BB-61



- 湖片
- 砂片
- 石核

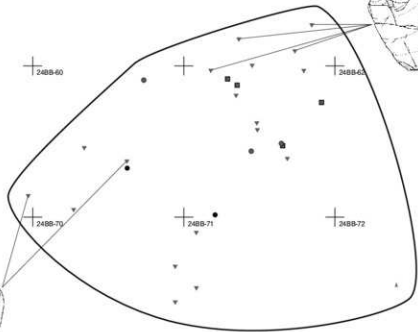


< 器種別分布 >



- OB
- CC
- GA
- ▼ CH
- △ HO

24AA-58ブロック



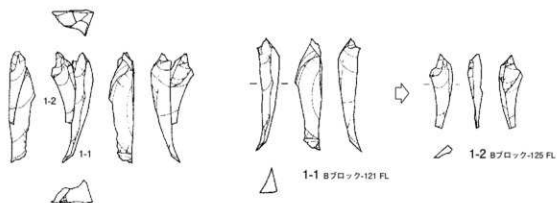
< 母岩別分布 >



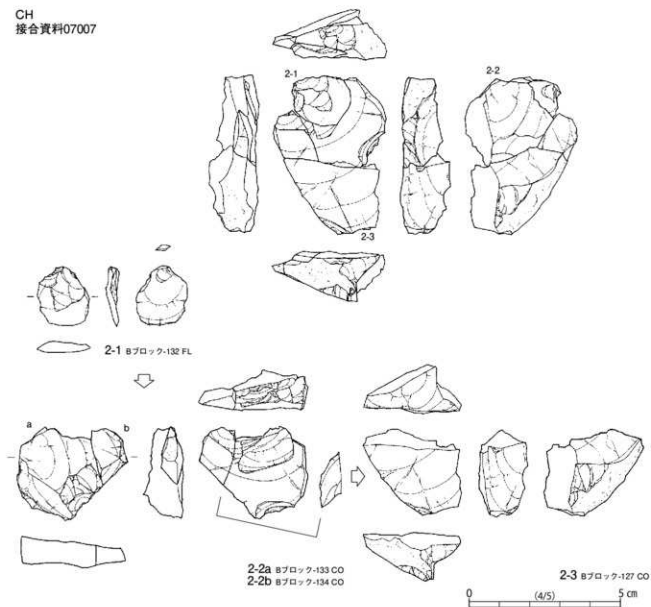
0 (1 : 100) 5m

第33図 第1文化層24BB-61ブロック器種別・母岩別分布図

CH
接合資料07009



CH
接合資料07007



第34図 第1文化層24BB-61ブロック出土石器

第1文化層 24AA-58ブロック (第35・36図、第18表、図版36)

ユニット1 南西の24AA-46・47・57～59・68・69グリッドに分布する。14.3m×4.5mの範囲から32点の石器と1点の礫片が出土した。ブロック範囲内に散漫に分布し、西側はやや分布が濃い。発掘時の取り上げ層位はⅤ層である。南西に傾斜する地形に沿って0.95mの高低差をもって包含される。ブロック間の接合資料が1個体検出されており、24BB-20・24BB-31ブロックとの接合がみられる。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、チャート(13点)・ガラス質黒色安山岩(8点)・ホルンフェルス(5点)・頁岩(2点)・黒曜石・黒色頁岩・珪質頁岩・凝灰岩(各1点)で構成される。礫は、流紋岩(1点)である。

1・2は二次加工のある剥片である。1はチャートの剥片を素材とする。打面部に背面から急角度の調整を施している。2は珪質頁岩の厚手の剥片を素材とする。表裏両面の様々な方向から調整・剥離している。

3はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。比較的整った作業面の稜間上の打点から剥離されている。頂部調整がみられる。

4(接合資料07005)はチャートの剥片1点と石核1点が接合する。素材は小円礫である。2つの剥離工程が見られる。第1工程で複数の剥片が剥離され、4-1が剥離される。第2工程は前工程で作出された剥離面を打面として図の正面で数枚の剥片を剥離する。その後石核4-2が廃棄される。

第18表 第1文化層24AA-58ブロック石器組成表

母岩番号/器種	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
OB			1		1	3.1	0.35	0.1
SH		2			2	6.3	9.88	2.8
BS		1			1	3.1	29.93	8.5
SS	1				1	3.1	6.18	1.8
GA		4	4		8	25.0	92.01	26.2
CH	1	9	1	2	13	40.6	142.38	40.5
HO		3	2		5	15.6	70.29	20.0
TU			1		1	3.1	0.18	0.1
合計	2	19	9	2	32	100.0	351.2	100.0

第1文化層 24AA-55ブロック (第37図、第19表、図版36)

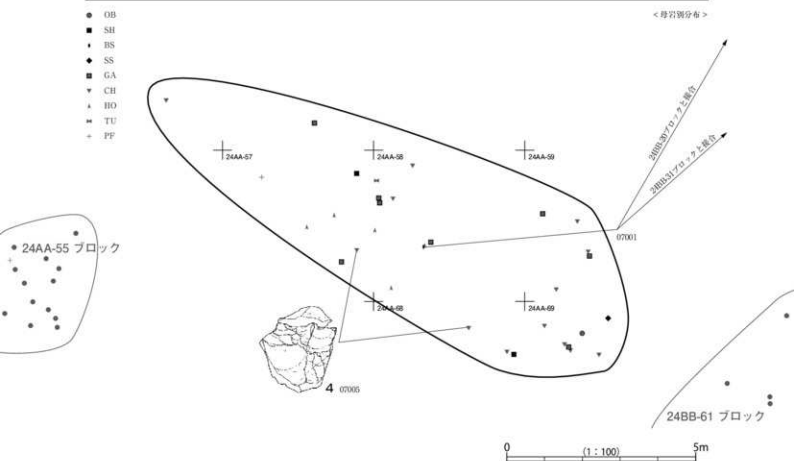
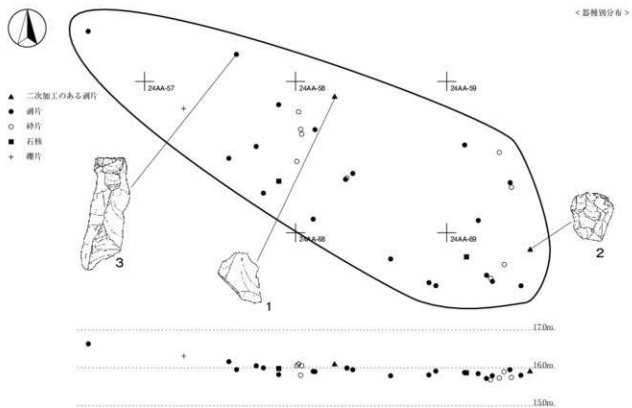
ユニット1 南西の24AA-55・56・65・66グリッドに分布する。4.4m×3.4mの範囲から15点の石器と1点の礫片が出土した。発掘時の取り上げ層位はⅤ層である。0.53mの高低差を持って包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、チャート(13点)・メノウ・頁岩(各1点)で構成される。礫は、ホルンフェルス(1点)である。

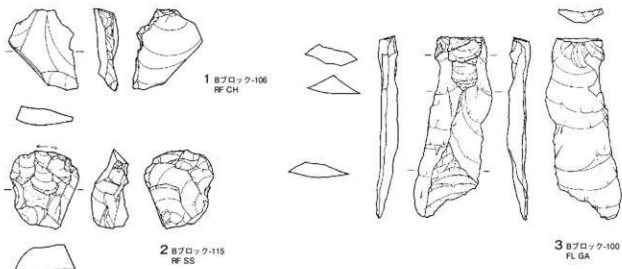
1・2は石核である。どちらもチャートを素材とする。1は小円礫を素材として、作業面を一面に固定して両極剥離を行っている。2は作業面と打面を転移しながら小剥片を剥離している。

第19表 第1文化層24AA-55ブロック石器組成表

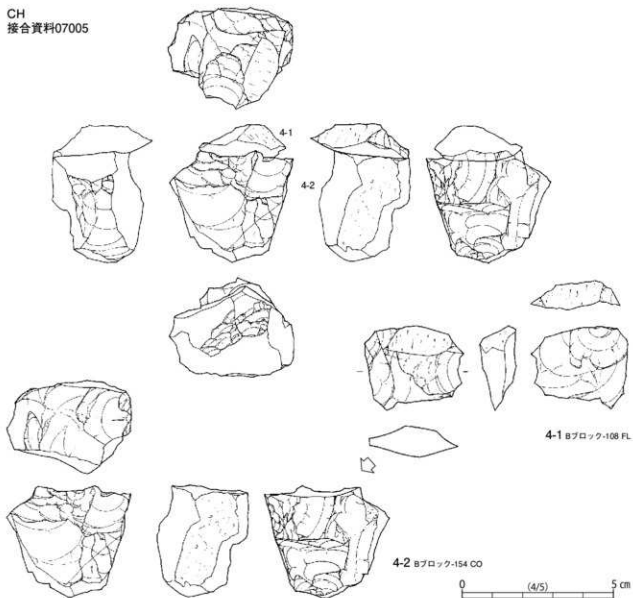
母岩番号/器種	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
CC	1			1	6.7	12.26	7.6
SH			1	1	6.7	14.72	9.1
CH	8	2	3	13	86.7	134.33	83.3
合計	9	2	4	15	100.0	161.31	100.0



第35図 第1文化層24AA-58ブロック器種別・母岩別分布図



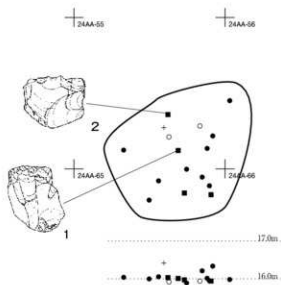
CH
接合資料07005



第36図 第1文化層24AA-58ブロック出土石器



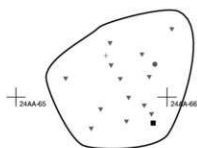
- 湖片
- 砂片
- 石核
- + 礫片



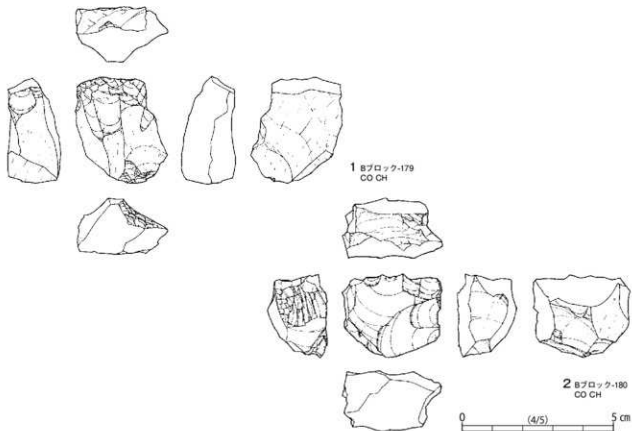
24AA-58ブロック

<器種別分布>

- CC
- SH
- ▼ CH
- + PF



<母岩別分布>



第37図 第1文化層24AA-55ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器

2 第2文化層(第38図、第20・21表、図版3・36～38)

第2文化層の石器群は、総計42点の石器と14点の礫が出土し、3か所のブロックで構成される。Ⅶ層～Ⅵ層の石器群と推定される。いずれも東側台地に分布する。小規模な単独ブロックでブロック間接合はない。3か所のブロックはそれぞれ100m以上離れており、石材と器種にも共通性がない。上下の文化層に対して出土層位と石器群の様相から区別できる一群を文化層として設定したが、Ⅶ層～Ⅵ層にかけて複数段階の石器群に細分される可能性がある。

第2文化層のブロック別石材組成と石器組成は第20表と第21表のとおりである。石器石材は、黒曜石・チャート(各23.8%)・ガラス質黒色安山岩(21.4%)の順に多い(点数比)。石器器種は、製品はナイフ形石器がある他は剥片が主体である。礫石材は、安山岩あるいは流紋岩(57.1%)・チャート(21.4%)・砂岩(14.3%)・その他(7.1%)で構成される。

第20表 第2文化層ブロック別石材組成表

石材/ブロック	19Q-43	24W-78	24Z-22	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB	5	5		10	23.8	31.15	3.6
SH		1	4	5	11.8	16.98	2.0
BS			2	2	4.8	2.31	0.3
SS	2			2	4.8	8.87	1.0
GA	7		2	9	21.4	105.3	12.3
CH			10	10	23.8	42.35	4.9
HO			2	2	4.8	6.6	0.8
TU			1	1	2.4	11.61	1.4
AN			1	1	2.4	632.0	73.7
点数合計	14	6	22	42	100.0	-	-
重量合計(g)	125.41	6.5	725.26	-	-	857.17	100.0
礫・礫片(点数)			14	14	100.0	-	-
礫・礫片(g)			466.47	-	-	466.47	100.0

第21表 第2文化層石器組成表

石材/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	砕片	石核	敲石	合計
OB	2	1	1	5	2			10
SH				5				5
BS					2			2
SS				2				2
GA				8		1		9
CH		1		5	4			10
HO				1	1			2
TU				1				1
AN							1	1
合計	2	2	1	27	9	1	1	42



第38図 第2文化解ブロック位置図

第2文化層 19Q-43ブロック (第39・40図、第22表、図版3・36・37)

東側台地の北東、中央の谷沿い斜面の19Q-42・43・52・53グリッドに分布する。6.4m×4.4mの範囲から14点の石器が出土した。ブロック範囲内に散漫に分布し、南側の分布が濃い。出土層位はⅤ層～Ⅵ層で、西に傾斜する地形に沿って0.27mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層のブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、剥片・砕片で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩(7点)・黒曜石(5点)・珩質頁岩(2点)で構成される。

1・2は同一母岩の珩質頁岩の剥片である。2は縦長剥片で、打面と頭部を僅かに調整している。

3(接合資料12038)はガラス質黒色安山岩の剥片3点が接合する。亜角礫の角を作業面、自然面を打面にして幅広の剥片3-1・3-2・3-3を連続して剥離する。

第22表 第2文化層19Q-43ブロック石器組成表

石材/器種	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
OB	3	2	5	35.7	25.4	20.3
SS	2		2	14.3	8.87	7.1
GA	7		7	50.0	91.14	72.7
合計	12	2	14	100.0	125.41	100.0

第2文化層 24W-78ブロック (第41図、第23表、図版3・37)

東側台地の南の緩斜面、24W-78・89グリッドに分布する。6.6m×3.1mの範囲から6点の石器が出土した。分布は西側に偏る。出土層位はⅤ層～Ⅵ層で、南に傾斜する地形に沿って0.39mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、ナイフ形石器・微細剥離痕のある剥片・剥片で構成される。石材組成は、黒曜石(5点)・頁岩(1点)で構成される。

1・2は黒曜石のナイフ形石器である。1は薄手の縦長剥片を素材とし、打点を先端に設定する。調整は両側縁に施される。左側縁は全体に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は基部側面に腹面から急角度の調整が施される。ガジリにより欠損する先端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられると推定される。2は厚手の剥片を素材とする。調整は両側縁に施される。左側縁は細かい調整により弧状に成形され、右側縁は粗い調整で切断される。また右側縁先端には腹面に平坦調整が施される。ナイフ形石器としたが全体に不整形である。右側縁に先端から槌状剥離痕の調整があり彫器の未製品として分類することもできる。

3は黒曜石の微細剥離痕のある剥片である。縦長剥片あるいは剥片を素材とすると考えられる。両端と右側縁を欠損する。打面部に粗い急角度の調整が施されている。

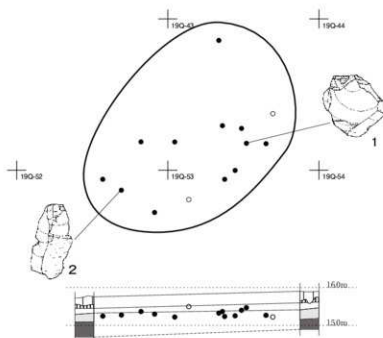
第23表 第2文化層24W-78ブロック石器組成表

石材/器種	ナイフ形石器	微細剥離痕のある剥片	剥片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
OB	2	1	2	5	83.3	5.75	88.5
SH			1	1	16.7	0.75	11.5
合計	2	1	3	6	100.0	6.5	100.0



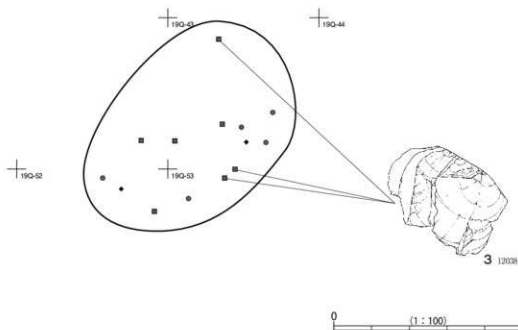
- 洞片
- 破片

< 器種別分布 >

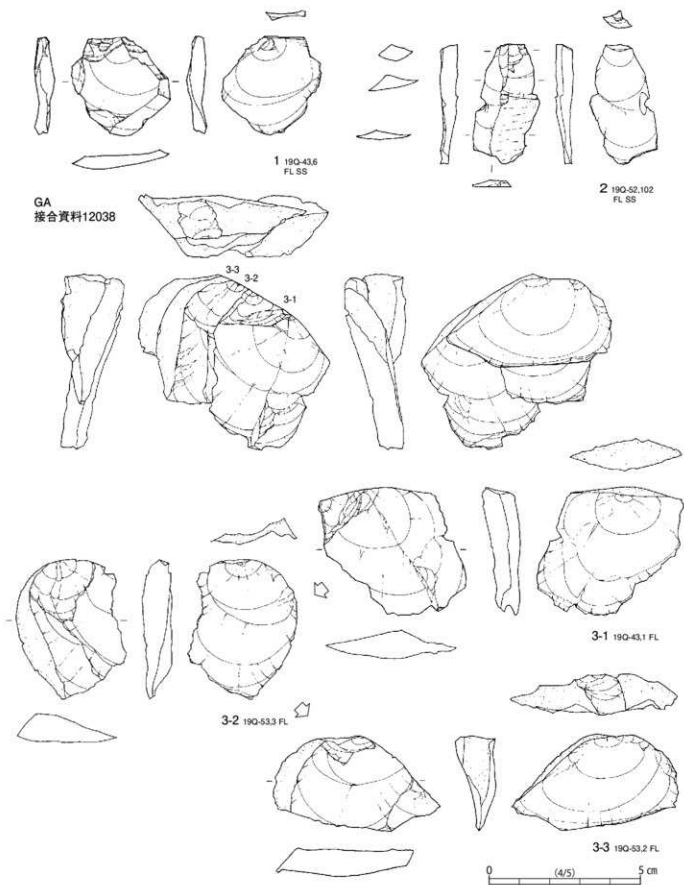


- OB
- SS
- GA

< 母岩別分布 >



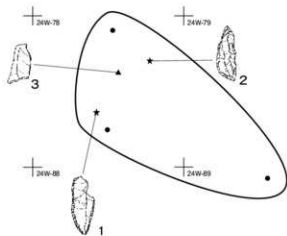
第39図 第2文化層19Q-43ブロック器種別・母岩別分布図



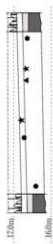
第40図 第2文化層19Q-43ブロック出土石器



- ★ ナイフ形石器
- ▲ 微細割離痕のある割片
- 割片

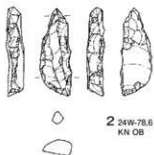
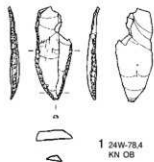
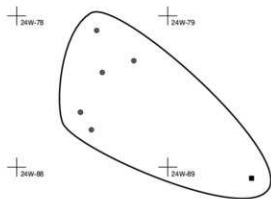


< 器種別分布 >



- OB
- SH

< 母岩別分布 >



第41図 第2文化層24W-78ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器

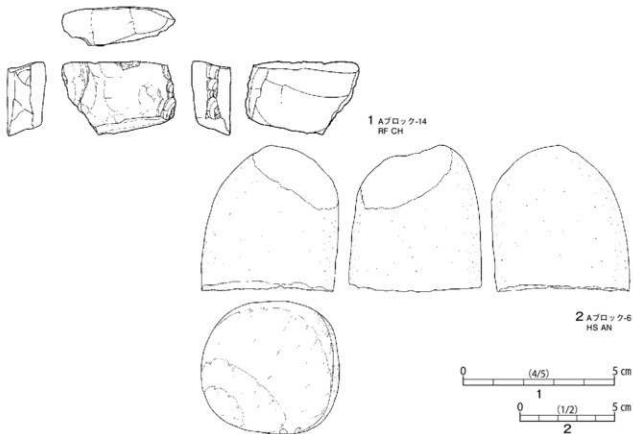
第2文化層 24Z-22ブロック (第42・43図、第24表、図版3・38)

東側台地の南東の緩斜面、24Z-14・21～24・31～33グリッドに分布する。132m×7.4mの範囲から22点の石器が出土した。分布は西側に偏る。出土層位はⅦ層～Ⅲ層で、高低差0.77mの幅広い範囲に散漫に含まれる。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。14点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核・敲石で構成される。石材組成は、チャート(10点)・頁岩(4点)・黒色頁岩・ガラス質黒色安山岩・ホルンフェルス(各2点)・凝灰岩・安山岩(各1点)で構成される。1はチャートの二次加工のある剥片である。厚手の剥片あるいは小礫を素材とし、右側縁に急角度の調整が施され、上半は折損する。2は安山岩の敲石で、敲打部は割れており下半は折損する。

第24表 第2文化層24Z-22ブロック石器組成表

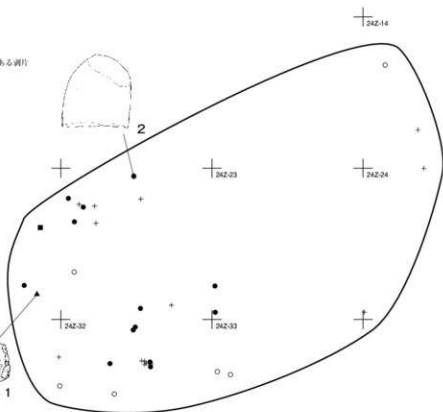
石材/器種	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	敲石	点数合計		重量合計	
							(%)	(g)	(%)
SH		4				4	18.2	16.23	2.2
BS			2			2	9.1	2.31	0.3
GA		1		1		2	9.1	14.16	2.3
CH	1	5	4			10	45.5	42.35	5.8
HO		1	1			2	9.1	6.6	0.9
TU		1				1	4.5	11.61	1.6
AN					1	1	4.5	632.0	87.1
合計	1	12	7	1		22	100.0	725.26	100.0



第42図 第2文化層24Z-22ブロック出土石器



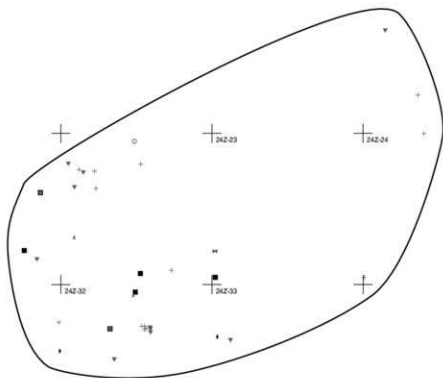
- ▲ 二次加工のある燧石
- 燧片
- 燧片
- 石核
- 燧石
- + 礫・礫片



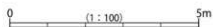
< 器種別分布 >



- SH
- BS
- GA
- ▼ CH
- △ HO
- ≡ TU
- AN
- + PE・PF



< 母岩別分布 >



第43図 第2文化層24Z-22ブロック器種別・母岩別分布図

3 第3文化層(第44図、第25・26表、図版3・4・38～45)

第3文化層の石器群は、総計352点の石器と490点の礫が出土し、11か所のブロックで構成される。V層～IV層下部の石器群と推定される。西側台地と東側台地に分布し、東側台地の北東、中央の埋没谷沿いで5か所のブロックからなるユニット3がブロック群を形成している。9か所のブロックが礫群を伴う。16Q-15・270-62ブロックなどの石器製作址は埋没谷沿いの低い位置に分布する傾向がある。

第3文化層のブロック別石材組成と石器組成は第25表と第26表のとおりである。石器石材は、多様な石材を用いるが黒曜石が全体の67.3%を占める(点数比)。母岩識別率は41%である。石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・搔器がある。ブロック間接合、母岩共有はユニット3内でのみ確認された。礫石材は、安山岩あるいは流紋岩(35.9%)・砂岩(29.8%)・チャート(17.8%)・その他(16.5%)で構成される。

第25表 第3文化層ブロック別石材組成表

石材/ブロック	ユニット3	16Q-15	18T-71	18U-46	21S-69	270-62	28L-11	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
OB	95	120	15	6		1		237	67.3	605.63	28.4
CC					1			1	0.3	1.4	0.1
SH	10	2		1		14		27	7.7	284.15	13.3
BS	14							14	3.9	52.47	2.5
SS				7		1		8	2.3	33.7	1.6
HS						1		1	0.3	2.47	0.1
MS	2			1	3			6	1.7	63.52	3.0
GA	17					21	1	39	11.1	552.29	25.9
TO	1							1	0.3	15.87	0.7
RH	2							2	0.6	168.62	7.9
CH	4				5		1	10	2.8	60.13	2.8
HO					4			4	1.1	254.79	11.9
GT	1							1	0.3	13.83	0.6
TU	1							1	0.3	26.53	1.2
点数合計	147	122	15	15	13	38	2	352	100.0	-	-
重量合計(g)	1079.4	190.14	14.42	80.6	311.54	455.04	4.26	-	-	2135.4	100.0
礫・礫片(点数)	409	4			38	26	13	490	100.0	-	-
礫・礫片(g)	13931.09	155.31			1996.53	1128.45	225.1	-	-	17436.48	100.0

第26表 第3文化層石器組成表

石材/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	搔器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	合計
OB	5	5		12	113	101	1	237
CC						1		1
SH	2		1	2	19	1	2	27
BS	1	2			10	1		14
SS		1			7			8
HS					1			1
MS					5	1		6
GA	1	1		5	27	1	4	39
TO					1			1
RH					1		1	2
CH					9	1		10
HO					4			4
GT							1	1
TU					1			1
合計	9	9	1	19	198	107	9	352



第44図 第3文化層ブロック位置図

第3文化層 ユニット3 (第45図、第27・28表、図版38～40)

東側台地の北東、中央の埋没谷沿いの大グリッド15P～16P付近に分布する。総計147点の石器と409点の礫が出土し、5か所の集中地点で構成される。遺跡北側の小支谷に面し、中央の谷に向かって傾斜する斜面に立地し、V層～IV層下部の石器群と推定される。全てのブロックが礫群を伴う。東側に同様に礫群を伴う第6文化層ユニット6が近接するが、出土層位と石器群の様相から別文化層とした。ブロック間接合は、石器ではみられず、礫群中の礫が15P-95・15P-97ブロック、15P-95・16P-16ブロックでブロック間接合がみられる。

ユニット3のブロック別石材組成と石器組成は第27表と第28表のとおりである。石器石材は、黒曜石(64.6%)が多数を占める(点数比)。石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・搔器がある。母岩共有はユニット内でのみみられ、北寄りと中央のブロックで黒曜石の母岩共有が、南寄りのブロックで黒色頁岩の母岩共有がみられる。角錐状石器は黒曜石・黒色頁岩・ガラス質黒色安山岩を用いて製作される。石材の主体を占める黒曜石は、ナイフ形石器や二次加工のある剥片に素材を供給する傾向があり、黒曜石で角錐状石器製作を行う16Q-15ブロックの様相と対比される。

第27表 第3文化層ユニット3ブロック別石材組成表

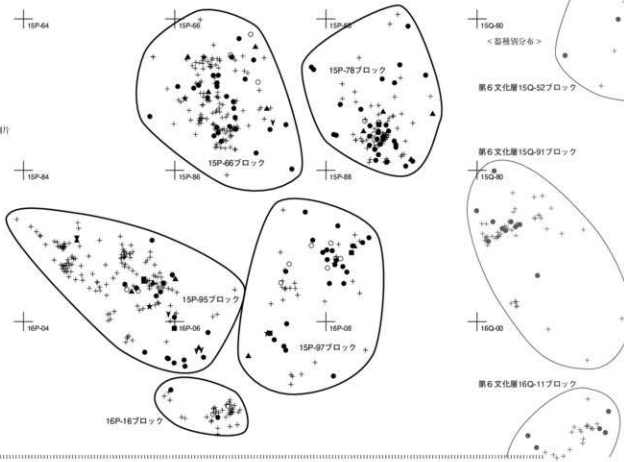
石材/ブロック	15P-66	15P-78	15P-95	15P-97	16P-16	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB	19	35	15	23	3	95	64.6	411.29	37.8
SH	5	1	3	1		10	6.8	85.14	7.8
BS	1		6	6	1	14	9.5	52.47	4.8
MS	2					2	1.4	9.54	0.9
GA	7	3	5	2		17	11.6	266.24	24.5
TO		1				1	0.7	15.87	1.5
RH			1	1		2	1.4	168.62	16.3
CH	3	1				4	2.7	29.87	2.7
GT		1				1	0.7	13.83	1.3
TU				1		1	0.7	26.53	2.4
点数合計	37	42	30	34	4	147	100.0	-	-
重量合計 (g)	234.28	257.96	353.91	227.03	6.22	-	-	1079.4	100.0
礫・礫片 (点数)	128	68	148	27	38	409	100.0	-	-
礫・礫片 (g)	3989.14	2558.12	3664.24	1388.83	2330.76	-	-	13931.09	100.0

第28表 第3文化層ユニット3石器組成表

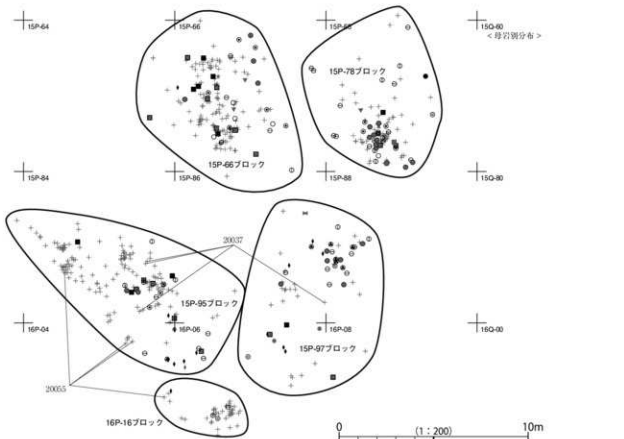
石材/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	搔器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	合計
OB	2	1		11	62	19		95
SH	1		1	2	6			10
BS	1	2			10	1		14
MS					2			2
GA		1		2	12		2	17
TO					1			1
RH					1		1	2
CH					3	1		4
GT							1	1
TU					1			1
合計	4	4	1	15	98	21	4	147



- ★ ナイフ型石器
- ▼ 角錐状石器
- 礫器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 礫・礫片



- OB
- OB半軸
- ▲ OB1004
- OB1007
- OB1008
- OB1009
- OB6007
- OB6008
- SH
- + BS
- ▼ BS008
- * MS
- GA
- TO
- * RH
- ▼ CH
- GT
- + PE・PF



第45図 第3文化層ユニット3器種別・母岩別分布図

第3文化層 15P-66ブロック (第46～48図、第29表、図版38)

ユニット3北東寄りの15P-65～67・75～77・86グリッドに分布する。10.5m×7.9mの範囲から37点の石器が出土した。128点の礫・礫片からなる礫群を伴う。中央に集中地点がある。出土層位はV層～Ⅲ層で、北に傾斜する地形に沿って0.84mの高低差をもって包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石(19点)・ガラス質黒色安山岩(7点)・頁岩(5点)・チャート(3点)・嶺岡産珪質頁岩(2点)・黒色頁岩(1点)で構成される。

1はOB1007の角錐状石器である。基部のみ残存する。厚手の剥片を素材とし、両側縁に腹面から急角度の調整を施している。

2・3はナイフ形石器である。2は黒曜石の寸詰まりで厚手の縦長剥片を素材とする。打点を基部に設定する。調整は両側縁に施される。左側縁は甲高な背縁まで届く急角度の調整により弧状に成形される。右側縁は基部に急角度の調整により弱い挟りが入る。右側縁先端は細かい剥離もみられるが、中間部にかけて素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。3は頁岩の剥片を素材とする。打点を基部に設定し素材を斜位に用いる。調整は右側縁に施され、腹面から急角度の調整により素材が大きく切断される。上半部は欠損する。

4～6はOB1008の二次加工のある剥片である。4は厚手の剥片を素材とする。左側縁の大きな剥離により素材が折断されている。右側縁に腹面から平坦な調整が施されて錐状の先端部が成形される。5は厚手の剥片を素材とする。背面から平坦な調整を施している。下半は欠損する。6は厚手の剥片を素材とする。右側縁は折り取りの後に急角度の調整が施される。下端は欠損する。7はガラス質黒色安山岩の二次加工のある剥片である。大型の剥片を素材とする。左側縁に腹面から平坦な調整が施され、裏面にも部分的に平坦調整が施される。右半部は折損し、折れ面から背面に細かい調整が施される。

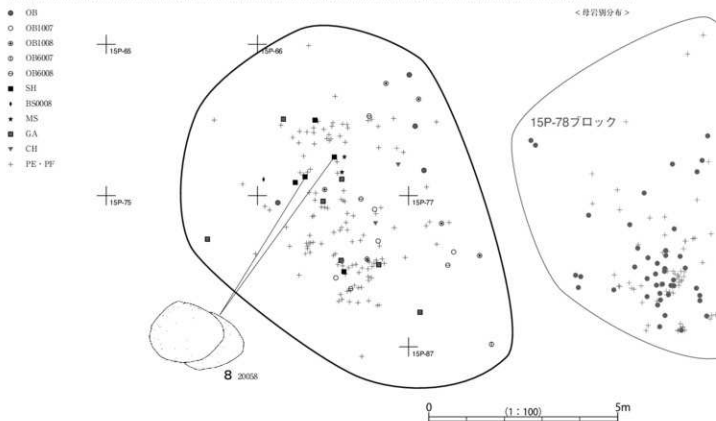
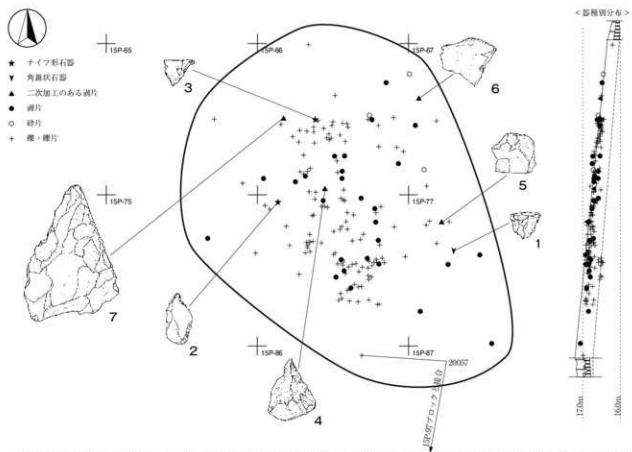
8(接合資料20058)は頁岩の剥片2点が接合する。円礫の分割個体を素材とする。自然面を作業面として8-1の剥片を剥離、打面を更新して8-2の剥片を剥離している。

第29表 第3文化層15P-66ブロック石器組成表

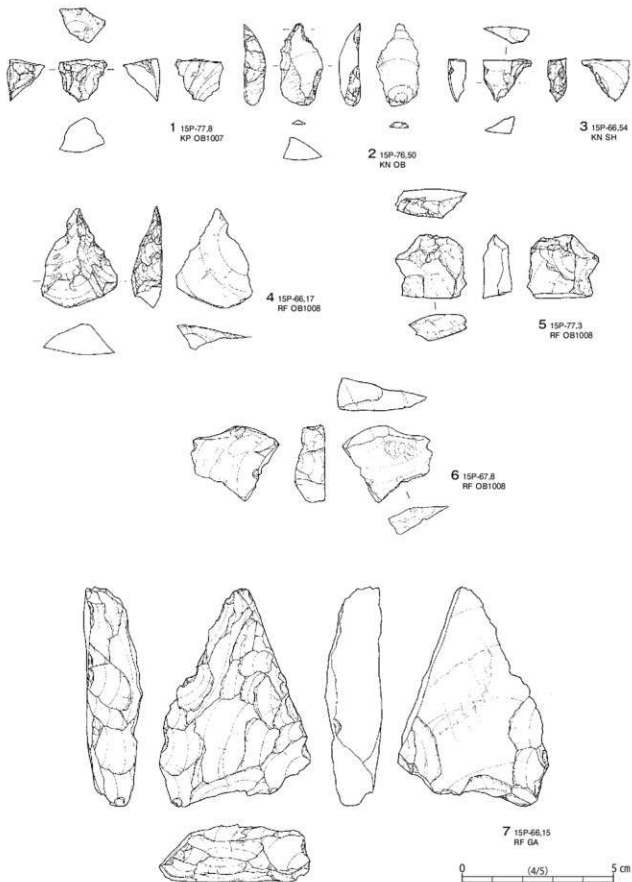
母岩番号/器種	ナイフ形 石器	角錐状石器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB	1			1	2	4	10.8	11.96	5.1
OB1007		1		3		4	10.8	6.54	2.8
OB1008			3	3		6	16.1	33.5	14.3
OB6007				1		1	2.7	1.2	0.5
OB6008				3	1	4	10.8	7.7	3.3
SH	1			4		5	13.5	38.35	16.4
BS0008				1		1	2.7	1.54	0.7
MS				2		2	5.4	9.54	4.1
GA			1	6		7	18.9	111.8	47.7
CH				2	1	3	8.1	12.15	5.2
合計	2	1	4	26	4	37	100.0	234.28	100.0

第3文化層 15P-78ブロック (第49・50図、第30表、図版39)

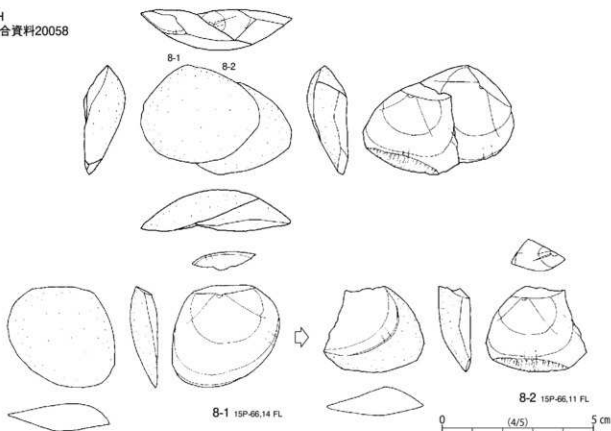
ユニット3北東寄りの15P-67～69・78・79グリッドに分布する。8.5m×7.0mの範囲から42点の石器が出土した。68点の礫・礫片からなる礫群を伴う。南側に集中地点がある。出土層位はV層～Ⅲ層で、北に傾斜する地形に沿って0.91mの高低差をもって包含される。ブロック間接合はない。



第46図 第3文化層15P-66ブロック器種別・母岩別分布図



第47図 第3文化層15P-66ブロック出土石器(1)



第48図 第3文化層15P-66ブロック出土石器(2)

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(35点)・ガラス質黒色安山岩(3点)・頁岩・トトロ石・チャート・緑色凝灰岩(各1点)で構成される。

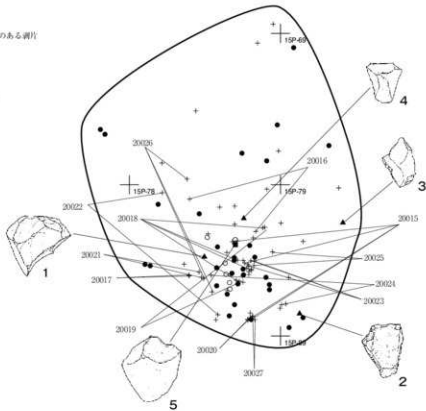
1～4は二次加工のある剥片である。1はOB1008の厚手の剥片を素材として、左側縁を折り取っている。2はOB6008の厚手の剥片を素材として、左側縁を折り取った後に微細な調整を施している。3はOB1009の横長剥片を素材とする。打面部には背面からやや平坦な調整を、反対の縁辺には腹面からやや急角度の

第30表 第3文化層15P-78ブロック石器組成表

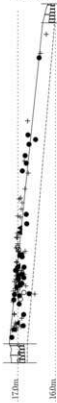
母岩番号/器種	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
OB		6	4		10	23.8	20.56	8.0
OB単独		1			1	2.4	3.2	1.2
OB1007		1			1	2.4	3.22	1.2
OB1008	1	2	1		4	9.5	19.47	7.5
OB1009	1		1		2	4.8	2.69	1.0
OB6007		5			5	11.9	79.96	31.0
OB6008	1	11			12	28.6	60.71	23.5
SH	1				1	2.4	3.61	1.4
GA		3			3	7.1	17.12	6.6
TO		1			1	2.4	15.87	6.2
CH		1			1	2.4	17.72	6.9
GT				1	1	2.4	13.83	5.4
合計	4	31	6	1	42	100.0	257.96	100.0



- ▲ 二次加工のある調片
- 調片
- 砕片
- 石核
- + 礫・礫片

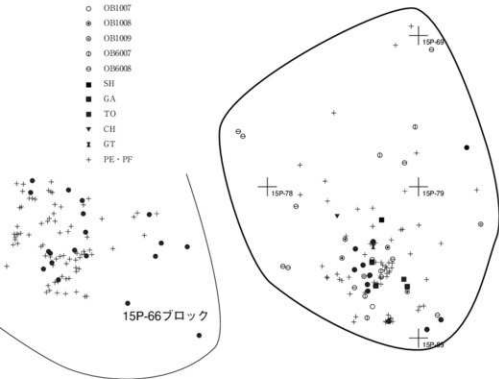


< 器種別分布 >



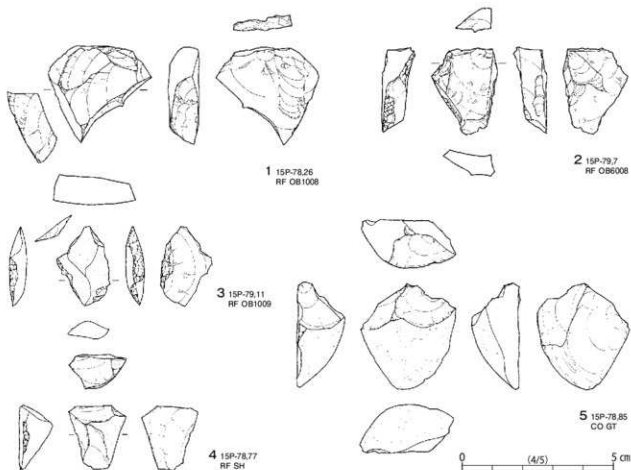
- OB
- OB半披
- OB1007
- OB1008
- OB1009
- OS6007
- OS6008
- SH
- GA
- TO
- ▼ CH
- GT
- + PE・PF

< 母岩別分布 >



0 (1:100) 5m

第49図 第3文化層15P-78ブロック器種別・母岩別分布図



第50図 第3文化層15P-78ブロック出土石器

調整を施している。上半部は夾雑物から折れて折損する。素材剥片を横位に用いた不整形なナイフ形石器として分類することもできる。4は頁岩の厚手の剥片を素材とする。打面部に微細な調整が施される。5は緑色凝灰岩の石核である。小型の円礫の分割個体を石核とする。分割面から小剥片を剥離する。

第3文化層 15P-95ブロック (第51～53図、第31表、図版39・40)

ユニット3西寄りの15P-83～85・94～96、16P-05・06グリッドに分布する。13.3m×6.4mの範囲から30点の石器が出土した。148点の礫・礫片からなる礫群を伴う。石器の分布は南側に偏り、礫は中央と西側の2か所の集中地点がある。出土層位はV層～Ⅲ層で、北に傾斜する地形に沿って0.60mの高低差をもって包含される。礫が16P-16ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・搔器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。製品の割合が高い。石材組成は、黒曜石(15点)・黒色頁岩(6点)・ガラス質黒色安山岩(5点)・頁岩(3点)・流紋岩(1点)で構成される。

1～3は角錐状石器である。1(接合資料20059)はBS0008の角錐状石器の製作工程を示す接合資料である。角錐状石器1点と調整剥片1点が接合する。厚手の横長剥片を素材とする。打面側を左側面に設定する。両側縁に腹面から急角度の調整を施して鋸歯縁状の側縁を形成している。左側縁の調整は、背後ま

で達する調整剥片1-1が剥離された後、連続して側縁に調整が施され、途中で下部に残った自然面でヒンジを起こしている。このヒンジを除去するために背縁上に調整が施されるが、ヒンジが除去しきれなかったため1-2の角錐状石器が廃棄されたと考えられる。2はガラス質黒色安山岩の厚手の幅広剥片を素材とする。素材を斜位に用いる。両側縁に腹面から急角度の調整を施している。基部末端の剥離は背面からの折れである。先端は素材縁辺がそのまま平刃として用いられるため、ナイフ形石器に分類することもできる。3はBS0008の厚手の横長剥片を素材とする。打面側を右側面に用いる。右側縁に腹面から急角度の調整を施して鋸歯縁状の側縁を形成している。左側縁は上半部で素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。下半は欠損するため不明だが、左側縁は器体中央で肩が張り、基部は急角度の調整により細く成形されると推定される。2と同様のナイフ形石器に分類することもできる。

4はOB1008のナイフ形石器である。横長剥片を素材とする。素材を斜位に用いる。両側縁に調整が施される。右側縁は基部に点状の打点が位置し、打点の周囲に腹面から微細な調整が施される。左側縁は下半部にやや粗く平坦な調整が施される。基部は丸く成形され、先端は両側縁ともに素材縁辺がそのまま刃部として残る。

5は頁岩の搔器である。斜軸のし字状剥片を素材とする。し字状剥片の末端が急角度の調整により刃部として成形される。上部は調整がほとんどなく、素材の打面が残置されている。

6～9は二次加工のある剥片である。6はOB6008の厚手の剥片を素材とする。素材を斜位に用いる。両側縁にやや平坦で粗い調整が施される。上半部は折損する。7はOB6007の厚手の剥片を素材とする。右側縁下部に細かい調整が施される。上半部は折損する。8は頁岩の有底剥片を素材とする。左側縁が大ぶりの剥離により調整される。9はガラス質黒色安山岩の縦長剥片を素材とする。右側縁に背面から細かい連続した調整が施される。

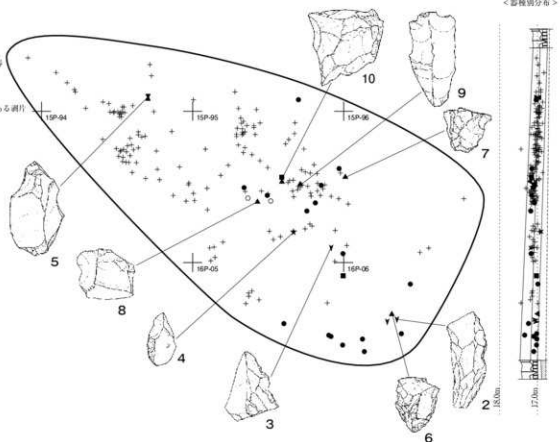
10はガラス質黒色安山岩の石核である。剥離が進行しているため素材形状は不明だが、右側面に平坦な剥離面の一部を取り込んでおり、分割面であると考えられる。表裏両面を作業面として、周縁から剥片を剥離している。

第31表 第3文化層15P-95ブロック石器組成表

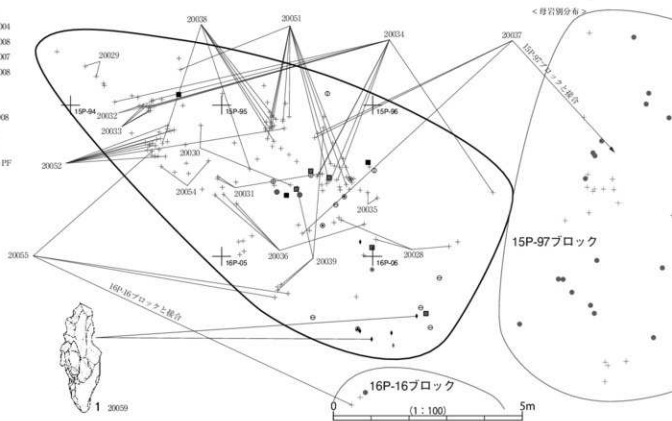
母岩番号/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	搔器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
OB						2		2	6.7	0.35	0.1
OB1004					1			1	3.3	0.88	0.2
OB1008	1				2			3	10.0	3.41	1.0
OB6007				2	2			4	13.3	14.42	4.1
OB6008				1	4			5	16.7	21.17	6.0
SH			1	1	1			3	10.0	28.05	7.9
BS					1			1	3.3	2.2	0.6
BS0008		2			3			5	16.7	30.32	8.5
GA		1		1	2		1	5	16.7	86.12	24.3
RH							1	1	3.3	166.99	47.2
合計	1	3	1	5	16	2	2	30	100.0	353.91	100.0



- ★ ナイフ形石器
- ▼ 角張状石器
- 礫器
- ▲ 二次加工のある礫片
- 礫片
- 礫片
- 石核
- + 礫・礫片

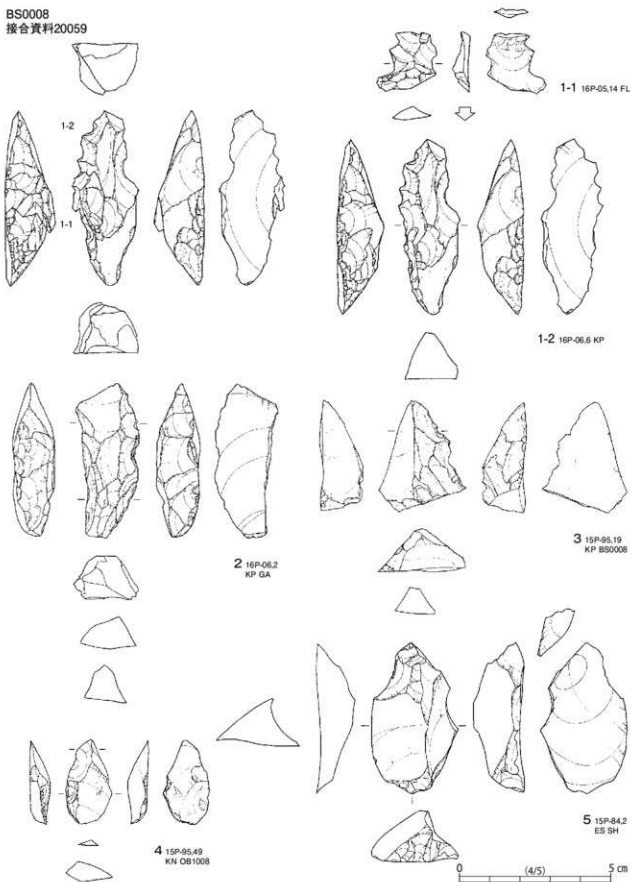


- OB
- OB1004
- OB1008
- OD6007
- OD6008
- SH
- † BS
- † BS008
- GA
- RH
- + PE・PF

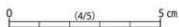
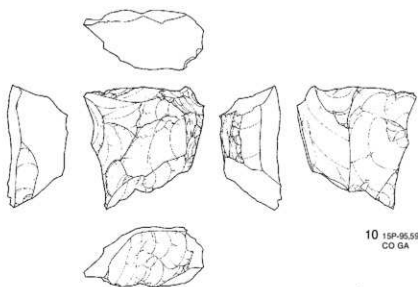
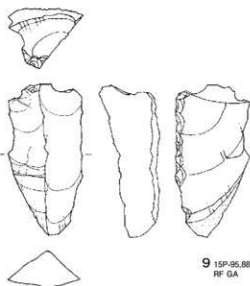
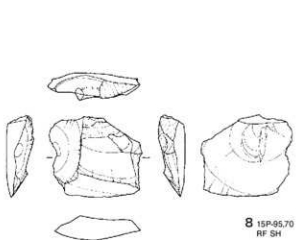
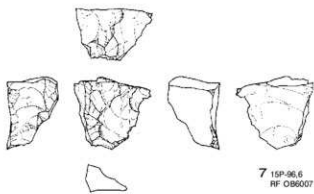
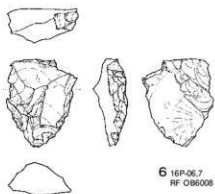


第51図 第3文化層15P-95ブロック器種別・母岩別分布図

BS0008
接合資料20059



第52図 第3文化層15P-95ブロック出土石器(1)



第53図 第3文化層15P-95ブロック出土石器(2)

第3文化層 15P-97ブロック (第54～56図、第32表、図版40)

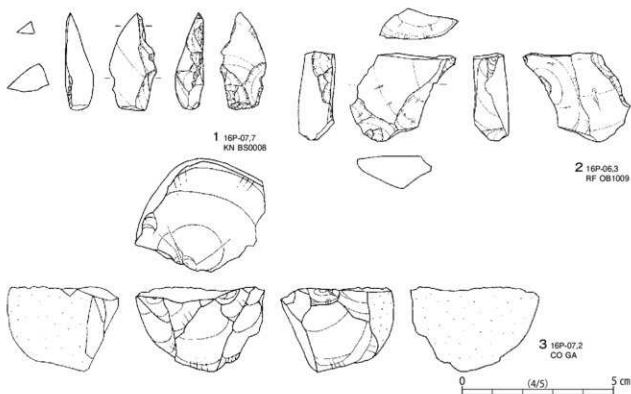
ユニット3中央の15P-87・88・97・98、16P-06～08グリッドに分布する。10.3m×7.3mの範囲から34点の石器が出土した。27点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。石器の分布は北側に偏り、礫は散漫に分布する。出土層位はV層～Ⅲ層で、北に傾斜する地形に沿って0.45mの高低差をもって包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(23点)・黒色頁岩(6点)・ガラス質黒色安山岩(2点)・頁岩・流紋岩・凝灰岩(各1点)で構成される。

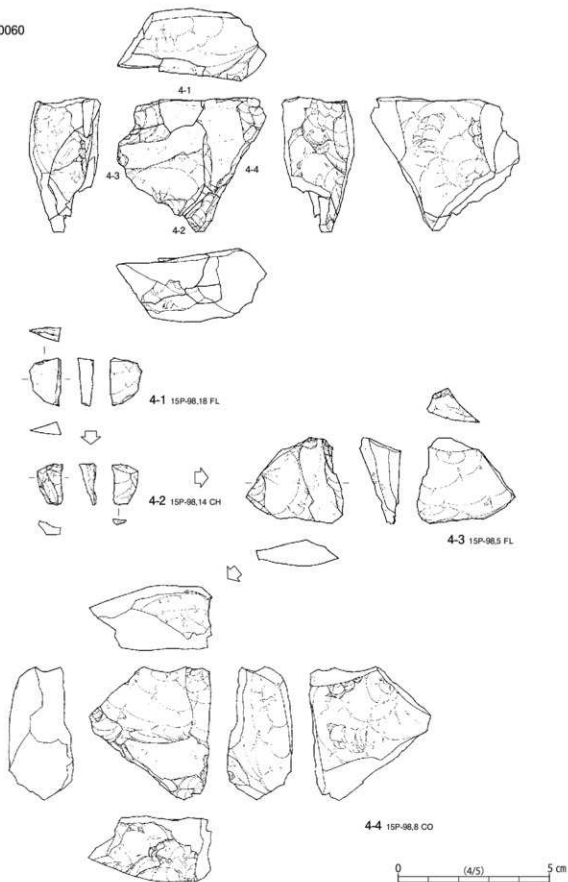
1はナイフ形石器である。BS0008のバルブが発達する剥片を素材とする。打点を基部に設定する。

第32表 第3文化層15P-97ブロック石器組成表

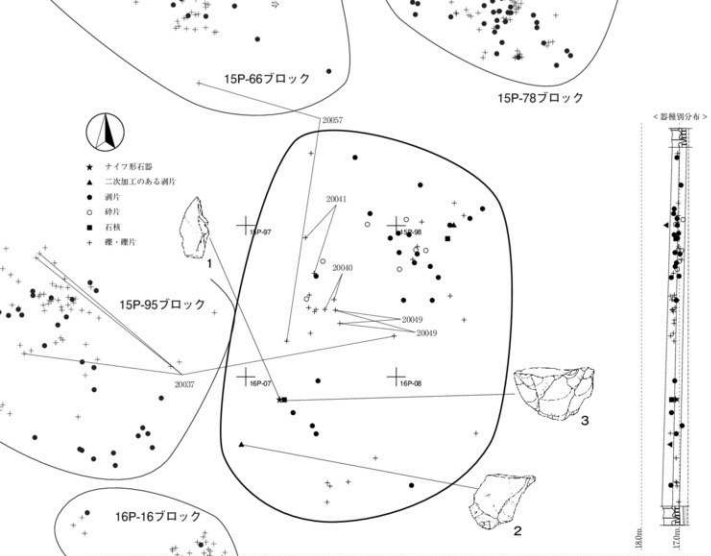
母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計 (%)		重量合計 (g)	
OB			4	2		6	17.6	30.73	13.5
OB1004			3	3		6	17.6	6.29	2.8
OB1009		1	1			2	5.9	23.89	10.5
OB6007			2			2	5.9	6.28	2.8
OB6008		1	4	1	1	7	20.6	48.84	21.5
SH			1			1	2.9	15.13	6.7
BS0008	1		4	1		6	17.6	16.51	7.3
GA			1		1	2	5.9	51.2	22.5
RH			1			1	2.9	1.63	0.7
TU			1			1	2.9	26.53	11.7
合計	1	2	22	7	2	34	100.0	227.03	100.0



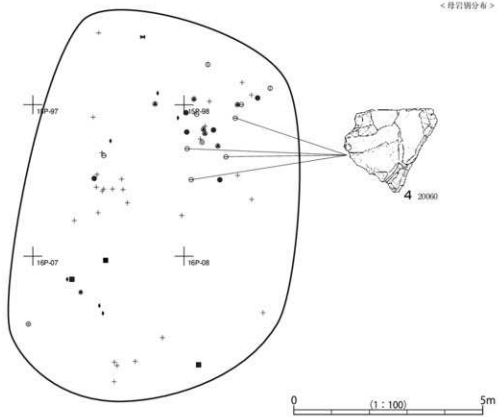
第54図 第3文化層15P-97ブロック出土石器(1)



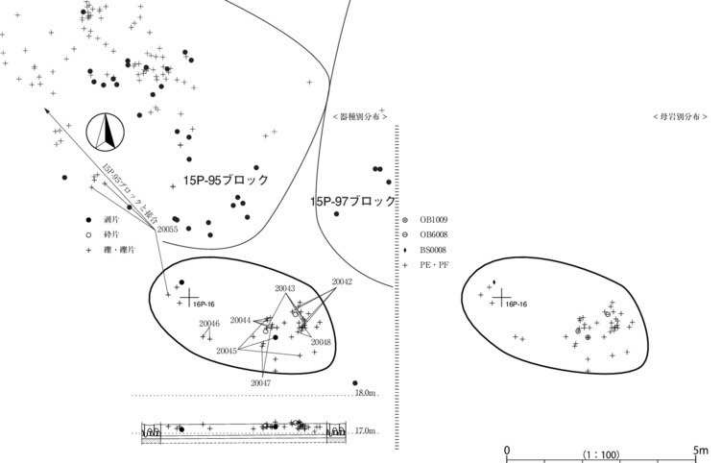
第55図 第3文化層15P-97ブロック出土石器(2)



- OB
- OB1004
- OB1009
- OB6007
- OB6008
- SH
- BS0008
- GA
- RH
- TU
- + PE・PF



第56図 第3文化層15P-97ブロック器種別・母岩別分布図



第57図 第3文化層16P-16ブロック器種別・母岩別分布図

右側縁と基部に調整が施される。右側縁は腹面から急角度の調整が施され、器体中央まで切断される。基部は裏面に平坦調整が施され、パルプの厚みが除去されている。打面は残置する。左側縁上半部は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

2はOB1009の二次加工のある剥片である。厚手の幅広剥片を素材とする。裏面の左半分は背面からの大きな剝離により折り取られ、正面の左側縁は部分的に急角度の調整が施される。

3はガラス質黒色安山岩の石核である。円盤の分割個体を素材とする。分割面から剥片を剝離している。

4（接合資料20060）はOB6008の接合資料である。厚手の剥片を素材とし、求心状に打点を転移させながら4-1剥片・4-2砕片・4-3剥片を剝離し、4-4の石核を廃棄する。

第3文化層 16P-16ブロック（第57図、第33表）

ユニット3南西寄りの16P-05・15・16グリッドに分布する。5.2m×2.8mの範囲から4点の石器が出土した。38点の礫・礫片からなる礫群を伴う。石器は散漫に分布し、礫の分布は東側に偏る。出土層位はV層～Ⅲ層で、ほぼ水平に含まれる。礫が15P-95ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石（3点）・黒色頁岩（1点）で構成される。

第33表 第3文化層16P-16ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
OB1009	1	1	2	50.0	4.05	65.1
OB6008		1	1	25.0	0.27	4.3
BS0008	1		1	25.0	1.9	30.5
合計	2	2	4	100.0	6.22	100.0

第3文化層 16Q-15ブロック (第58～61図、第34表、図版3・41・42)

ユニット3の南東約30m、中央の埋没谷沿いの低くなった地点の16Q-14・15・24・25グリッドに分布する。7.7m×5.5mの範囲から122点の石器と4点の礫片が出土した。中央に集中地点がある。出土層位はV層～Ⅲ層で、0.48mの高低差をもってほぼ水平に含まれる。ブロック間接合はない。

石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石(120点)・頁岩(2点)で構成される。同一母岩の黒曜石を用いてブロック内で角錐状石器を製作し、頁岩のナイフ形石器が持ち込まれる。ユニット3の15P-95様相とは対照的な石材利用を示す。

1～3はOB1003の角錐状石器である。1(接合資料12029)は角錐状石器の製作工程を示す接合資料である。ただし、調整が周縁を巡らず、左側面は背稜から成形していることから、1-4を石核とする剥片剥離工程の資料と分類することもできる。しかしながら一連の工程は、剥片剥出よりも器体成形を目的とするものとして捉えられるため、ここでは1-4を角錐状石器未製品として扱う。素材は剥離軸が傾く縦長剥片あるいは横長剥片である。3つの剥離工程が見られる。第1工程は右側面を作業面とし腹面から大ぶりの調整が施され数枚の剥片と1-1・1-2が剥離される。この時に器体中央に潜在的な亀裂が入る。第2工程は作業面を左側面に転移し、前工程で作出された背稜から連続した調整が施され1-3が剥離される。第3工程は再び作業面を裏面に転移し、基部から平坦調整が施される。ここで潜在的な亀裂により中央で折れたため廃棄されたと考えられる。2は上半部を折損する角錐状石器である。素材は横長剥片である。調整は両側縁に施される。いずれも腹面側からの調整で左側縁で細かく右側縁で大ぶりである。3は大型の角錐状石器未製品で、上半部を折損する。素材は厚手の横長剥片である。1と同様の工程で器体を転がしながら調整が施される。1より調整が大ぶりで粗く不整形で、非周縁調整であるため、石核としての性格が強い。

4～6はナイフ形石器である。4はOB1003のナイフ形石器で甲高な切出形を呈する。素材は厚手の横長剥片で、打点を右側縁に設定する。調整は両側縁に施される。右側縁は腹面から大ぶりの剥離で打面を切り取った後に全体に急角度の調整が施される。左側縁は基部側に腹面から細かい調整が施され、上部は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。5はOB1003のナイフ形石器である。素材は横長剥片で、打点を右側縁に設定する。両側縁の対向する位置に腹面から急角度の調整が施される。6はSH1008のナイフ形石器である。素材は有底横長剥片で、打点を左側縁に設定する。調整は主に左側縁に腹面から粗い調整が施される。右側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられ、基部に微細な調整が施される。

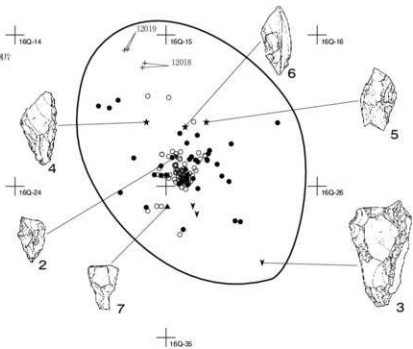
7はOB1003の上半部を折損する二次加工のある剥片である。素材は厚手の横長剥片で、打面を左側縁に設定する。加工は左側縁に腹面から急角度な調整が施される。右側面は素材剥離前の折れ面である。

第34表 第3文化層16Q-15ブロック石器組成表

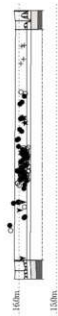
母岩番号/器種	ナイフ形 石器	角錐状 石器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB				5	53	58	90.6	11.11	6.2
OB1003	2	4	1	31	23	61	95.3	164.2	91.7
OB3001				1		1	1.6	0.48	0.3
SH単独				1		1	1.6	11.44	6.4
SH1008	1					1	1.6	2.91	1.6
合計	3	4	1	38	76	122	100.0	190.14	100.0



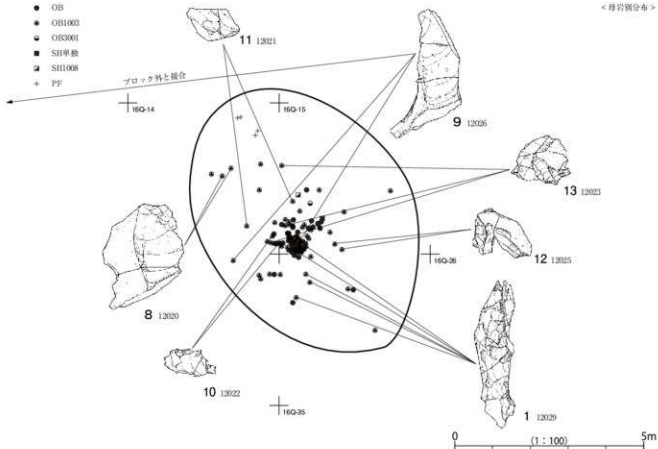
- ★ ナイフ形石器
- ▽ 角筒状石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砂片
- + 礫片



< 器種別分布 >



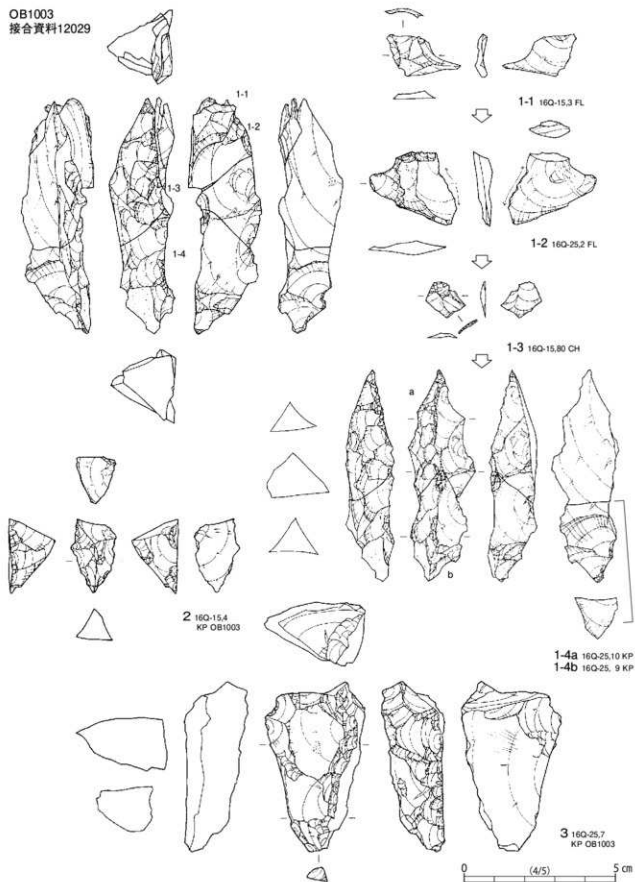
- OB
- OB1003
- OB3001
- SH単独
- SH1008
- + PF



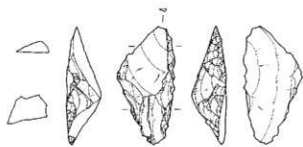
< 母岩別分布 >

第58図 第3文化層16Q-15ブロック器種別・母岩別分布図

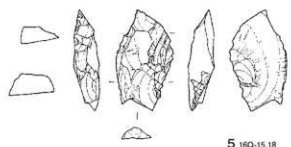
OB1003
接合資料12029



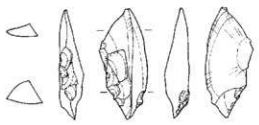
第59図 第3文化層16Q-15ブロック出土石器(1)



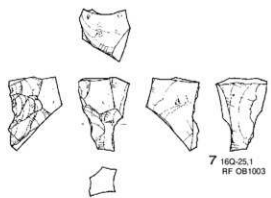
4 16Q-14.4
KN OB1003



5 16Q-15.18
KN OB1003

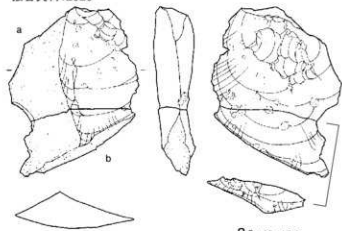


6 16Q-15.21
KN SH1008



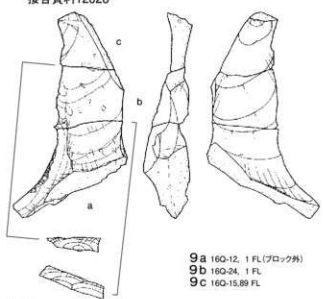
7 16Q-25.1
RF OB1003

OB1003
接合資料12020



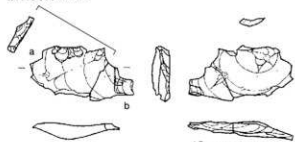
8a 16Q-14.6 FL
8b 16Q-14.7 FL

OB1003
接合資料12026



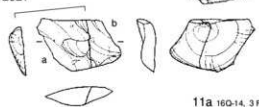
9a 16Q-12, 1 FL (ブロック外)
9b 16Q-24, 1 FL
9c 16Q-15.89 FL

OB1003
接合資料12022

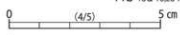


10a 16Q-15.40 FL
10b 16Q-14.17 CH

OB1003
接合資料12021

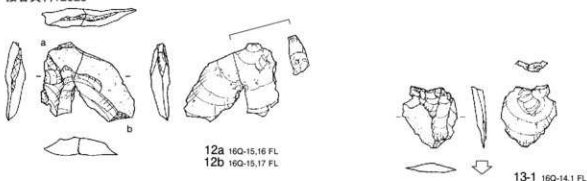


11a 16Q-14, 3 FL
11b 16Q-15.20 FL

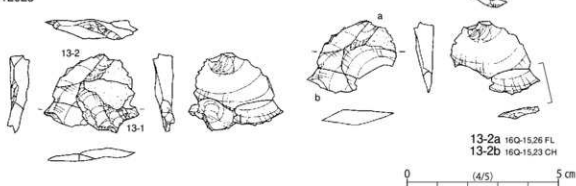


第60図 第3文化層16Q-15ブロック出土石器(2)

OB1003
接合資料12025



OB1003
接合資料12023



第61図 第3文化層16Q-15ブロック出土石器(3)

8～12はOB1003の剥片である。8・9は縦長剥片、10～12は横長剥片である。9(接合資料12026)は3分割して折れた剥片3点が接合し、9aは約7m離れたブロック外から出土している。

13(接合資料12023)はOB1003の剥片2点と砕片1点が接合する。自然面が残る作業面から打面を調整して13-1が剥離され、打面を90度転移し打面を調整した後に13-2が剥離される。

第3文化層 18T-71ブロック(第62図、第35表、図版4・42)

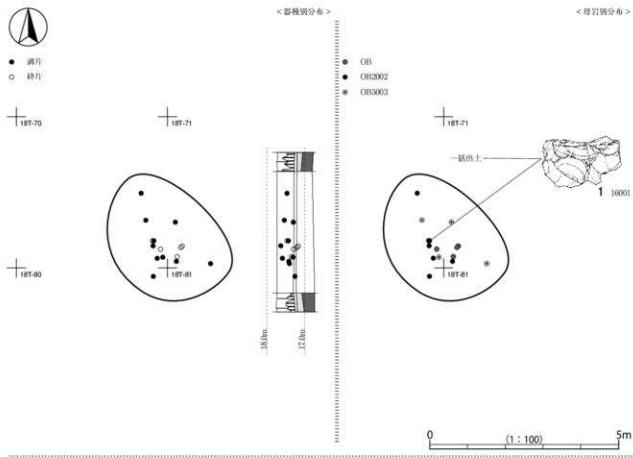
東側台地の最高点の18T-70・71・80グリッドに分布する。3.7m×2.8mの範囲から15点の石器が出土した。出土層位はⅤ層～Ⅲ層で、0.43mの高低差をもってほぼ水平に包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石(15点)のみで構成される。

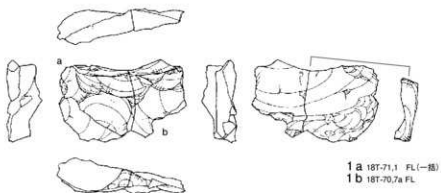
1(接合資料16001)はOB2002の剥片である。剥離時に同時割れた剥片が2点接合する。

第35表 第3文化層18T-71ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
OB		5	5	33.3	1.33	9.2
OB2002	6		6	40.0	8.23	57.1
OB5003	4		4	26.7	4.86	33.7
合計	10	5	15	100.0	14.42	100.0



OB2002
接合資料16001



第62図 第3文化層18T-71ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器

第3文化層 18U-46ブロック (第63図、第36表、図版42)

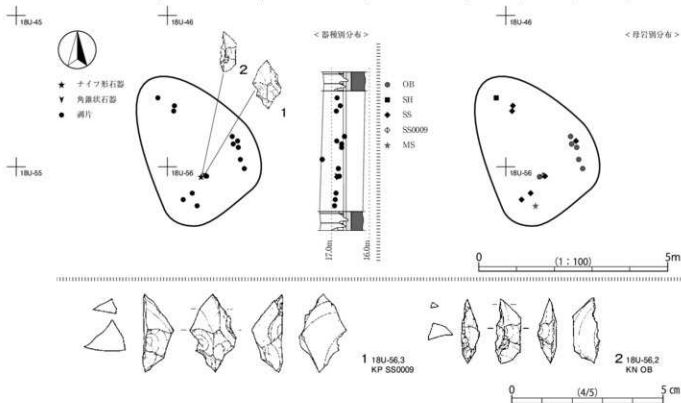
東側台地の最高点の18U-45・46・56グリッドに分布する。4.0m×2.9mの範囲から15点の石器が出土した。出土層位はⅥ層～Ⅲ層で、0.59mの高低差をもってほぼ水平に含まれる。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合は単独ブロックである。

石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・剥片で構成される。石材組成は、珪質頁岩(7点)・黒曜石(6点)・頁岩・嶺岡産珪質頁岩(各1点)で構成される。

1はSS0009の角錐状石器である。剥片を素材として斜位に用いる。両側縁に腹面から急角度の調整を施している。左側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられており、ナイフ形石器として分類することもできる。2は黒曜石のナイフ形石器である。剥片を素材として、打点を左側面に設定する。左側縁に腹面から大ぶりの急角度の調整を施して打面部を切断した後、連続する細かい調整を施している。背面の稜上からも調整が施され、中央の大きな剥離は右側縁まで達している。上端と下端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

第36表 第3文化層18U-46ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形石器	角錐状石器	剥片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
OB	1		5	6	40.0	3.54	4.4
SH			1	1	6.7	26.17	32.5
SS			2	2	13.3	5.53	6.7
SS0009		1	4	5	33.3	19.0	23.7
MS			1	1	6.7	26.36	32.7
合計	1	1	13	15	100.0	80.6	100.0



第63図 第3文化層18U-46ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器

第3文化層 21S-69ブロック (第64・65図、第37表、図版4・43)

東側台地の最高点付近の21S-68・69・78・79、21T-50・60・70グリッドに分布する。11.8m×10.2mの範囲から13点の石器が出土した。38点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。南西に集中地点がある。出土層位はⅤ層～Ⅲ層で、西に傾斜する地形に沿って0.40mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、剥片・砕片で構成される。石材組成は、チャート(5点)・ホルンフェルス(4点)・嶺岡産珪質頁岩(3点)・メノウ(1点)で構成される。

1(接合資料04001)はホルンフェルスの大型剥片である。剥離時に同時割れた剥片2点と風化により剥落した剥片1点が接合する。

第37表 第3文化層21S-69ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
CC		1	1	7.7	1.4	0.4
MS単独	1	1	2	15.4	25.56	8.2
MS0003	1		1	7.7	2.06	0.7
CH単独	2		2	15.4	8.19	2.6
CH0002	2		2	15.4	16.1	5.2
CH0005	1		1	7.7	3.44	1.1
HO	4		4	30.8	254.79	81.8
合計	11	2	13	100.0	311.54	100.0

第3文化層 270-62ブロック (第66～73図、第38表、図版4・43～45)

調査区の南、中央の埋没谷沿いの低くなった地点270-61～63・71・72グリッドに分布する。10.8m×7.5mの範囲から38点の石器が出土した。26点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。中央に集中地点がある。出土層位はⅤ層～Ⅲ層で、北に傾斜する地形に沿って0.40mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

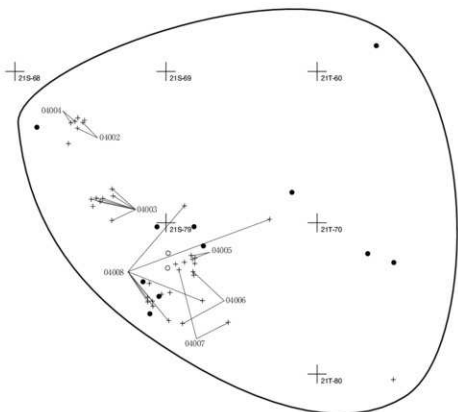
石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩(21点)・頁岩(14点)・黒曜石・珪質頁岩・硬質頁岩(各1点)で構成される。

第38表 第3文化層270-62ブロック石器組成表

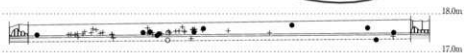
母岩番号/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
							(%)	(g)	(%)
OB				1		1	2.6	0.59	0.1
SH				1		1	2.6	0.22	0.01
SH0004			2			2	5.3	12.99	2.9
SH2002			2		1	3	7.9	38.46	8.5
SH2006			7		1	8	21.1	106.82	23.5
SS0018			1			1	2.6	9.17	2.0
HS単独			1			1	2.6	2.47	0.5
GA1002			4		1	5	13.2	127.34	28.0
GA2001	1	3	9	1	1	15	39.5	155.71	34.2
GA4016			1			1	2.6	1.27	0.3
合計	1	3	27	3	4	38	100.0	455.04	100.0



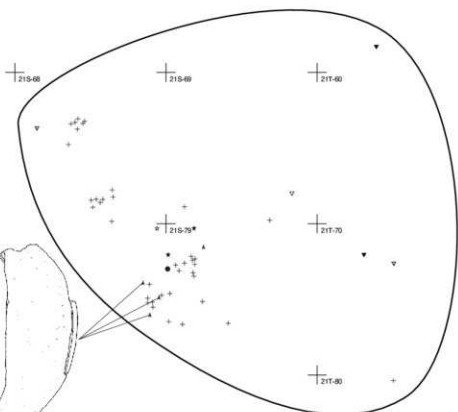
- 洞片
- 破片
- + 穂・穂片



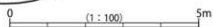
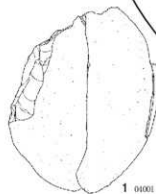
< 器種別分布 >



- CC
- ★ MS半世
- ✦ MS003
- ▼ CH半世
- ▽ CH002
- ▽ CH005
- ▲ IIO
- + PE・PF

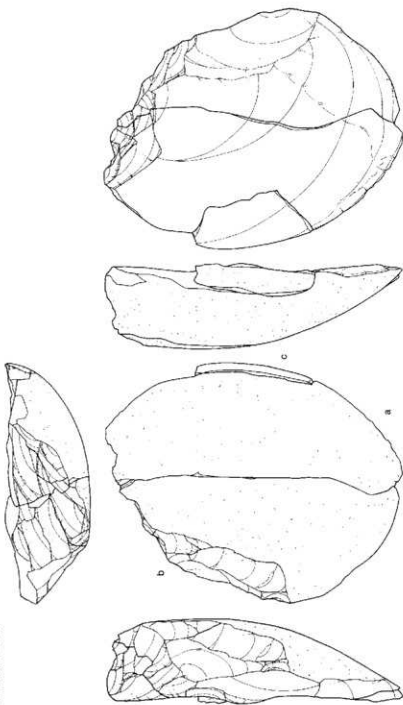


< 母岩別分布 >



第64図 第3文化層21S-69ブロック器種別・母岩別分布図

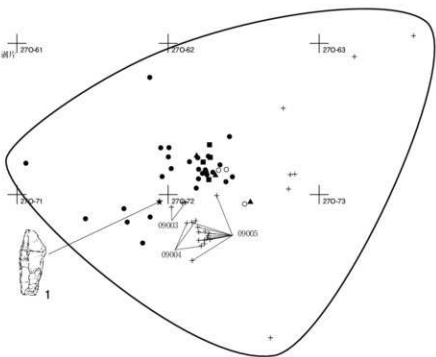
HC
接合資料04001



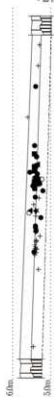
第65図 第3文化層21S-69アロック出土石器



- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 礫・礫片

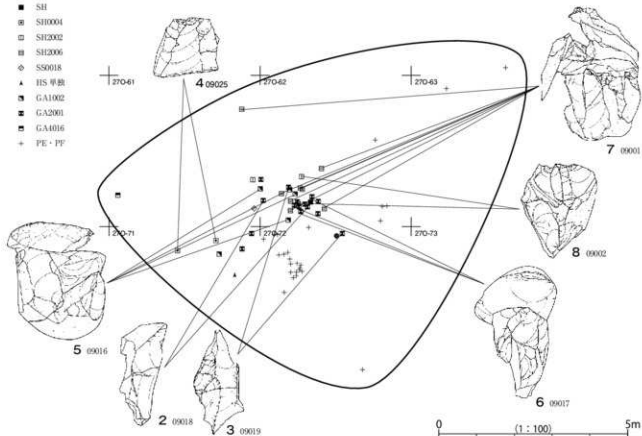


< 器種別分布 >

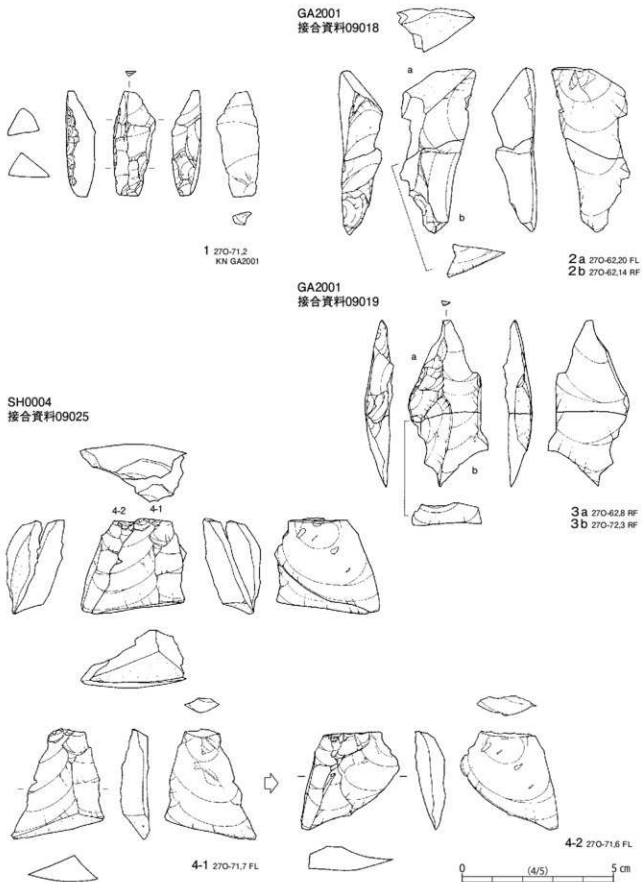


- OB
- SH
- ▣ SH0004
- ▤ SH2002
- ▥ SH2006
- ◇ SS0018
- ▲ HS 準軸
- GA1002
- GA2001
- GA4016
- + PE・PF

< 母岩別分布 >

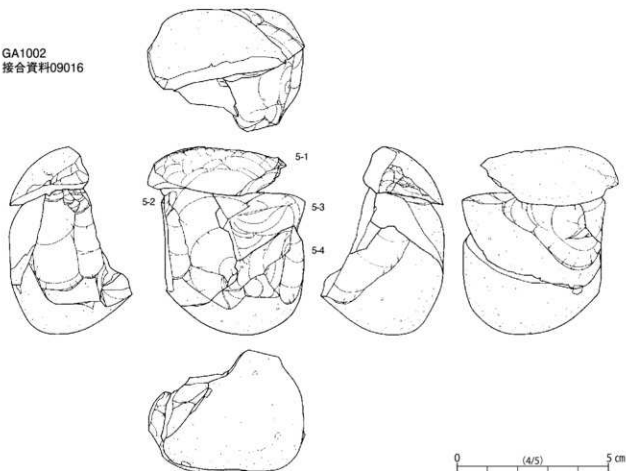


第66図 第3文化層270-62ブロック器種別・母岩別分布図



第67図 第3文化層270-62ブロック出土石器(1)

GA1002
接合資料09016



第68図 第3文化層270-62ブロック出土石器(2)

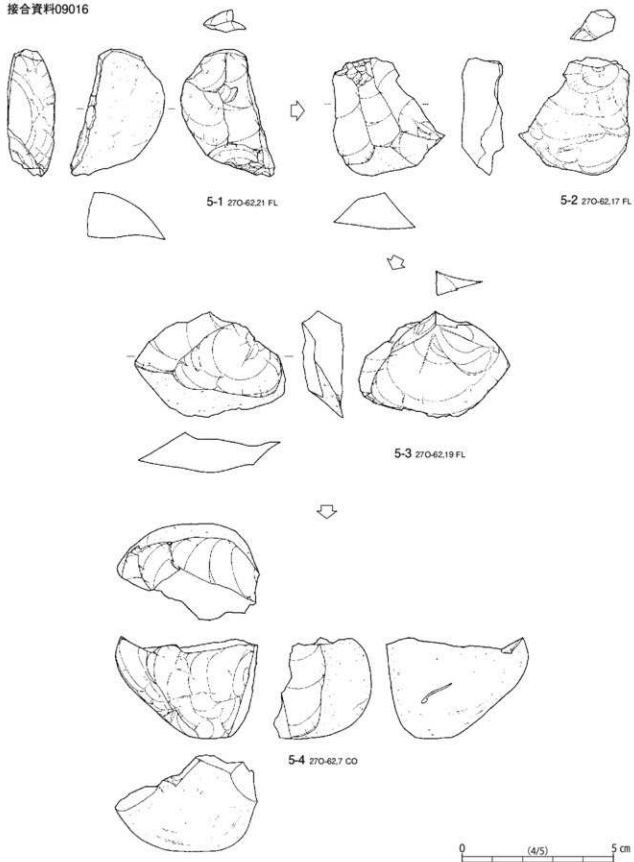
1はGA2001のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。両側縁に調整が施される。左側縁は急角度の細かい調整が施され、右側縁は粗い調整が施される。打面は残置される。右側縁先端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

2・3はGA2001の二次加工のある剥片である。2(接合資料09018)は厚手の縦長剥片を素材とする。左側縁の下端に平坦な調整が施される。3(接合資料09019)は縦長剥片を素材とする。打面部分が折り取られたのちに、折れ面から部分的な調整を施している。

4(接合資料09025)はSH0004の接合資料である。剥片2点が接合する。同一打面から幅広い剥片を連続剥離しており、打点を後退させながら4-1を剥離し、更に1枚剥離後、4-2が剥離される。剥離時に頭部調整が施される。4-1は有底剥片である。

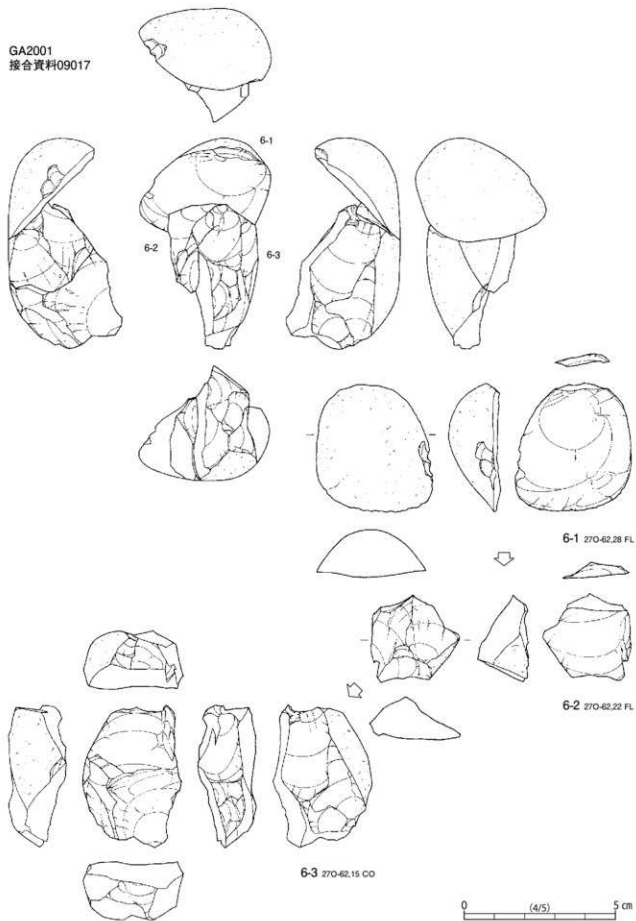
5(接合資料09016)はGA1002の接合資料である。剥片3点と石核1点が接合する。小型の円礫を素材とする。4つの剥離工程がみられる。第1工程は、打面を作成する工程で、図の左側面からの剥離で5-1の打面作出剥片が剥離される。第2工程は、第1工程で作出された打面から剥片を剥離する工程で、数枚の薄手の剥片を剥離し、頭部調整を施した後に5-2が剥離される。第3工程は、作業面を上面に転移して剥片を剥離する工程で5-3が剥離される。第4工程は、第3工程で作出された剥離面を作業面として剥片を剥離する工程である。第4工程の剥離で作業面が乱れたため残核5-4が廃棄されたと考えられる。5-2の後整形と頭部調整は入念である。ここでは1の素材のような厚手の縦長剥片を剥離する剥片剥離工程が復元される。

GA1002
接合資料09016

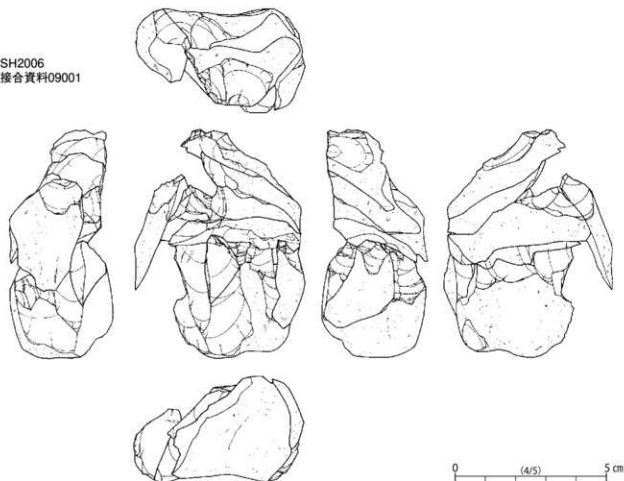


第69図 第3文化層270-62ブロック出土石器(3)

GA2001
接合資料09017



第70図 第3文化層270-62ブロック出土石器(4)

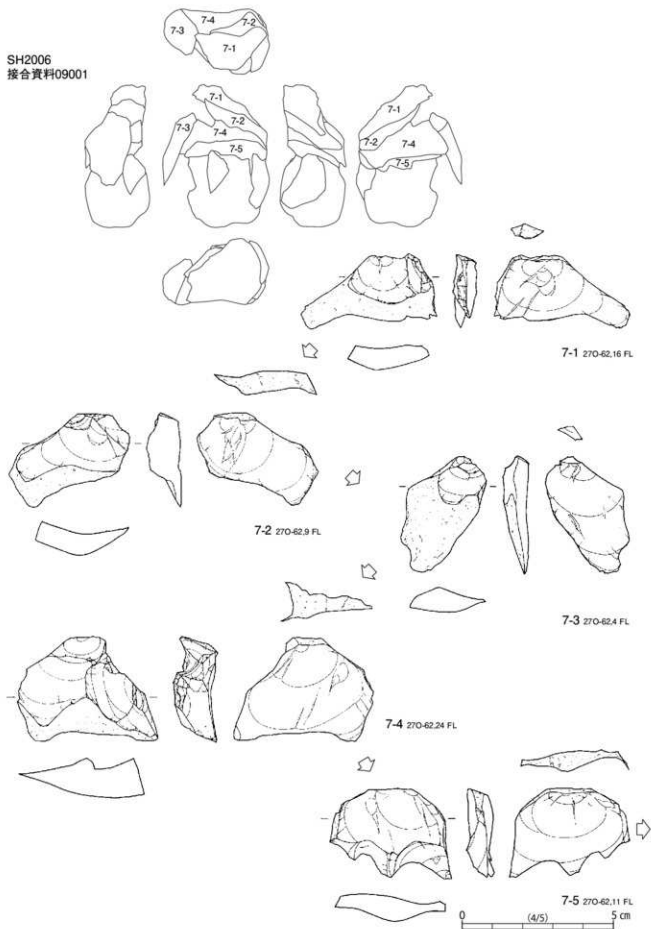


第71図 第3文化層270-62ブロック出土石器(5)

6 (接合資料09017)はGA2001の接合資料である。剥片2点と石核1点が接合する。小型の円礫を素材とする。3つの剥離工程がみられる。第1工程は、打面を作出する工程で、円礫の端部から6-1の打面作出剥片が剥離され上面の打面が作出される。反対の下面でも同様に打面が作出されると考えられる。第2工程は、作業面を整形する工程で、第1工程で作出された打面およびその反対の打面から数枚の剥片が剥離される。第3工程は、剥片を剥離する工程で、第2工程で整形された作業面の整えられた稜線を打点として、下面の打面から6-2の縦長剥片が剥離される。6-2の剥片は石核底面を取り込み、剥離時に器体中央から割れている。その後も作業面を180度転移し上下の打面から剥片が剥離され、残核6-3が廃棄される。

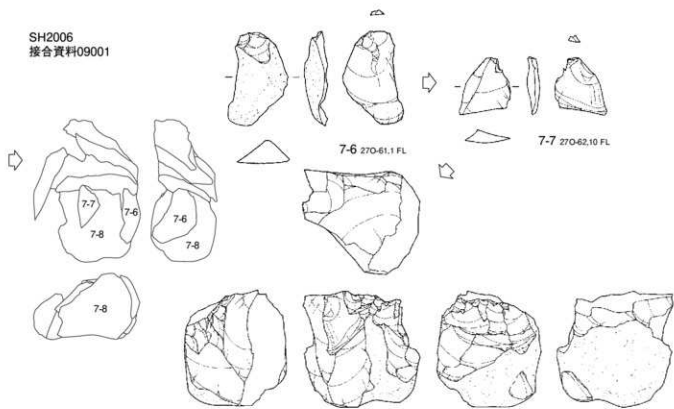
7 (接合資料09001)はSH2006の接合資料である。剥片7点と石核1点が接合する。6つの剥離工程がみられる。第1工程は、打面を作出する工程で、7-1・7-2の打面作出剥片が連続剥離される。第2工程は、作業面を整形する工程で、第1工程で作出された打面から数枚の剥片が剥離され自然面が除去される。第3工程は、再び打面を作出する工程で、第1工程と同方向から打面が作出される。第4工程は、剥片を剥離する工程で、前工程で整備された打面と作業面から7-3と数枚の剥片が剥離される。第5工程は、打面を更新する工程で再び同一方向から打面作出剥片7-4・7-5が剥離される。第6工程は剥片を剥離する工程で、第5工程で作出された打面から数枚の剥片を剥離する。図の右側面の作業面では7-6と数枚の剥片が剥離されるが、ヒンジを起こしており作業面が乱れる。左側面では石核の底面まで通る剥片が数枚と7-7が剥離され、最終的に残核7-8が廃棄される。剥片剥離時の調整は無調整が多いが、第6工程の右側

SH2006
接合資料09001

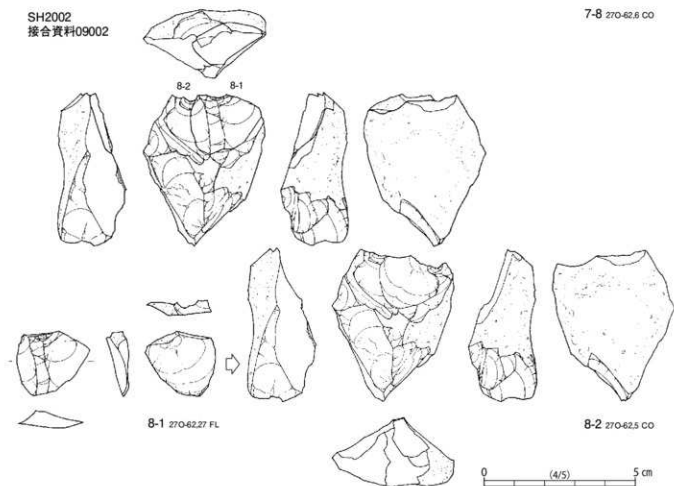


第72図 第3文化層270-62ブロック出土石器(6)

SH2006
接合資料09001



SH2002
接合資料09002



第73図 第3文化層270-62ブロック出土石器(7)

面の剥離でわずかな頭部調整がみられる。

8 (接合資料09002)はSH2002の接合資料である。剥片1点と石核1点が接合する。7と同様の小型で扁平な亜角礫を素材とする。上下に打面を作出し、貝殻状の剥片を剥離する。8-1の剥片には頭部調整がみられる。

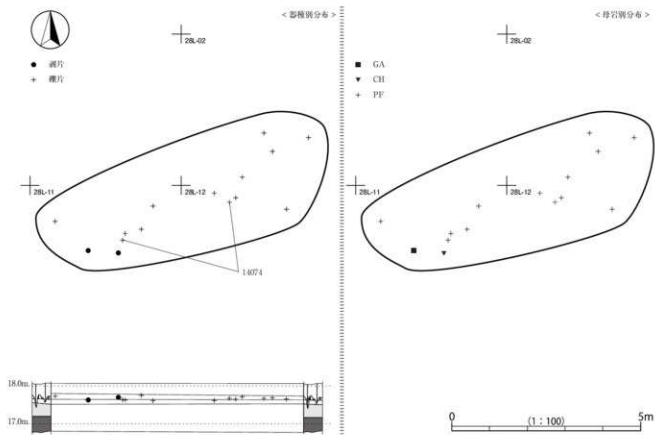
第3文化層 28L-11ブロック (第74図、第39表、図版4)

西側台地の南、28L-02・11・12グリッドに分布する。8.0m×3.1mの範囲から2点の石器が出土した。ブロック範囲内に散漫に分布する。13点の礫片からなる小規模な礫群を伴う。出土層位はⅥ層～Ⅴ層で、Ⅵ層上面にはほぼ水平に包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、剥片のみで構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩・チャート(各1点)で構成される。

第39表 第3文化層28L-11ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	点数合計		重量合計	
			(%)	(g)	(%)
GA	1	1	50.0	1.73	40.6
CH	1	1	50.0	2.53	59.4
合計	2	2	100.0	4.26	100.0



第74図 第3文化層28L-11ブロック器種別・母岩別分布図

4 第4文化層(第75図、第40・41表、図版4～6・46～73)

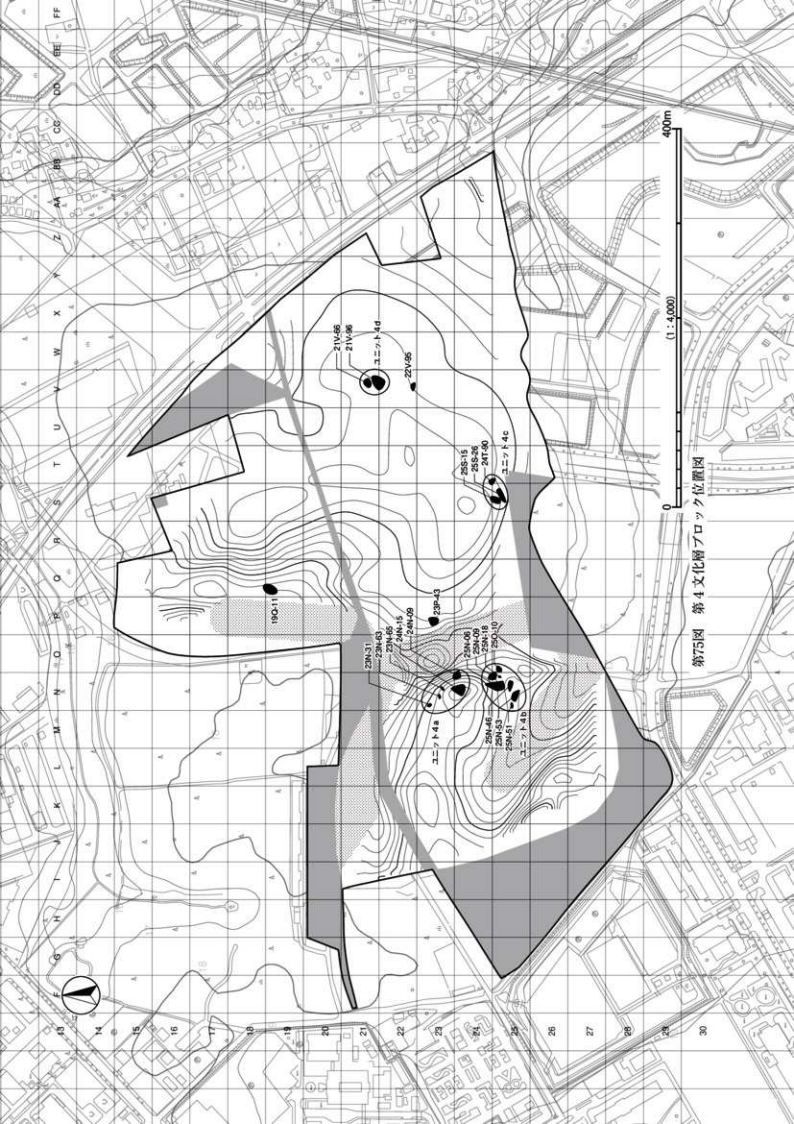
第4文化層の石器群は、総計826点の石器と185点の礫が出土し、20か所のブロックで構成される。IV層中部の石器群と推定される。西側台地の埋没谷沿いと東側台地上に分布する。西側台地では、中央の埋没谷に張り出した微高地に密集する5か所のブロックからなるユニット4 a、7か所のブロックからなるユニット4 bがブロック群を形成している。東側台地では、最高点付近の南で3か所のブロックからなるユニット4 cが、西で2か所のブロックからなるユニット4 dがブロック群を形成している。石刃生産とナイフ形石器製作を技術基盤とする、いわゆる「砂川期」の文化層である。ブロック間接合は、それぞれのユニット内でみられたほか、東側台地のユニット4 cと22V-95ブロック間では40m離れて石刃生産工程

第40表 第4文化層ブロック別石材組成表

石材/ブロック	19Q-11	ユニット4 a	ユニット4 b	23P-43	ユニット4 c	ユニット4 d	22V-95	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
OB	7	1		3	60	150	24	245	29.7	379.92	8.9
CC		3	145		1	7		156	18.9	778.79	18.2
SH	26	19	90	1	5			141	17.1	590.93	13.8
BS	14		11					25	3.0	121.13	2.8
SS		36	54	1			2	93	11.3	403.95	9.4
HS	3	3	4					10	1.2	38.23	0.9
MS			1					1	0.1	4.99	0.1
GA	1	18	42	6	19	23	8	117	14.2	1182.84	27.6
TO	1	1	1		7			10	1.2	155.4	3.6
RH		5	1	1	1			8	1.0	182.56	4.3
CH	1				1			2	0.2	2.51	0.1
HO	10							10	1.2	176.04	4.1
GT	1							1	0.1	59.09	1.4
TU	3	1	1			1		6	0.7	112.97	2.6
AN			1					1	0.1	95.45	2.2
点数合計	67	87	351	12	94	181	34	826	100.0	-	-
重量合計 (g)	627.0	813.21	1522.43	57.54	491.07	668.89	104.66	-	-	4284.8	100.0
礫・礫片(点数)	6	14	135	15	15			185	100.0	-	-
礫・礫片(g)	95.89	3347.08	5445.65	872.15	819.38			-	-	10580.15	100.0

第41表 第4文化層石器組成表

石材/器種	ナイフ形石器	削片	二次加工のある削片	微細剥離痕のある削片	剥片	砕片	石核	敲石	原石	合計
OB	14	1	9	2	100	116	3			245
CC	10		1	1	107	33	3		1	156
SH	2		6		84	42	7			141
BS			1		19	4	1			25
SS	9		3	1	51	26	3			93
HS	1		1		7	1				10
MS					1					1
GA	4		1		102	5	5			117
TO					8		2			10
RH	2		1		2	1	2			8
CH	1				1					2
HO					9		1			10
GT					1					1
TU					6					6
AN								1		1
合計	43	1	23	4	498	228	27	1	1	826



第75図 第4文化解ブロック位置図

を示す資料が接合した。

第4文化層のブロック別石材組成と石器組成は第40表と第41表のとおりである。石器石材は、多様な石材が用いられ、黒曜石(29.7%)・メノウ(18.9%)・頁岩(17.1%)・ガラス質黒色安山岩(14.2%)・珪質頁岩(11.3%)の順に多い(点数比)。母岩識別率は22%である。地点毎に石材の利用傾向に偏差がみられる。メノウや頁岩などの硬質な石材は西側台地のブロック群で多く用いられ、黒曜石は東側台地のブロック群で多く用いられる。ガラス質黒色安山岩は双方のブロック群で用いられる。礫石材は、安山岩あるいは流紋岩(66.5%)・砂岩(28.6%)・石英斑岩(2.2%)・その他(2.7%)で構成される。

石器器種は、ナイフ形石器が多数出土しているほか、西側台地・東側台地の双方のブロック群で石刃生産工程を示す接合資料が多数出土している。

第4文化層 19Q-11ブロック(第76～81図、第42表、図版4・46～48)

中央の谷沿いの低地部、18Q-92、19Q-00～02・11～13・21・31グリッドに分布する。16.5m×10.1mの範囲から67点の石器と6点の礫片が出土した。中央の東西2か所に集中地点がある。出土層位はⅦ層～Ⅲ層で、西に傾斜する地形に合わせて0.73mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、頁岩(26点)・黒色頁岩(14点)・ホルンフェルス(10点)・黒曜石(7点)・硬質頁岩・凝灰岩(各3点)・ガラス質黒色安山岩・トトロ石・チャート・緑色凝灰岩(各1点)で構成される。他ブロックと母岩共有はみられない。

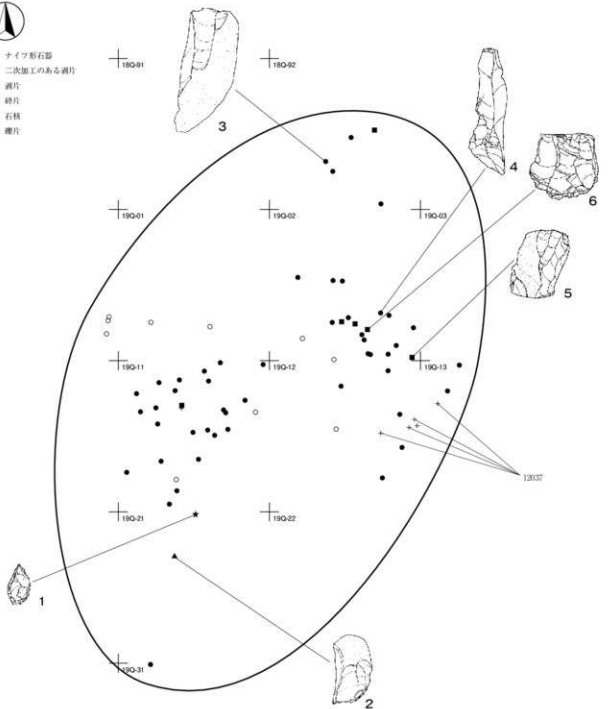
1はHS0001のナイフ形石器でティアドロップ形を呈する。薄手の幅広剥片を斜位に用いて、打点を基部に設定する。調整は両側縁に腹面から急角度の調整が施される。基部にわずかに素材縁辺が残置され、両側縁基部の調整により丸い基部が成形される。右側縁上半部は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

第42表 第4文化層19Q-11ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB			1	3		4	6.0	1.78	0.3
OB6006			3			3	4.5	16.55	2.6
SH				1		1	1.5	0.14	0.01
SH単独			2			2	3.0	10.95	1.7
SH0002					3	3	4.5	73.11	11.7
SH0003			15	4	1	20	29.9	118.78	18.9
BS0001		1	5			6	9.0	21.93	3.5
BS0003			6	2		8	11.9	10.43	1.7
HS単独			1			1	1.5	0.28	0.02
HS0001	1		1			2	3.0	1.62	0.3
GA			1			1	1.5	3.31	0.5
TO0001					1	1	1.5	39.78	6.3
CH0001			1			1	1.5	0.55	0.1
HO			2			2	3.0	32.8	5.2
HO0001			2			2	3.0	27.76	4.4
HO0002			5		1	6	9.0	115.48	18.4
GT			1			1	1.5	59.09	9.4
TU単独			1			1	1.5	55.36	8.8
TU0001			2			2	3.0	37.3	5.9
合計	1	1	49	10	6	67	100.0	627.0	100.0



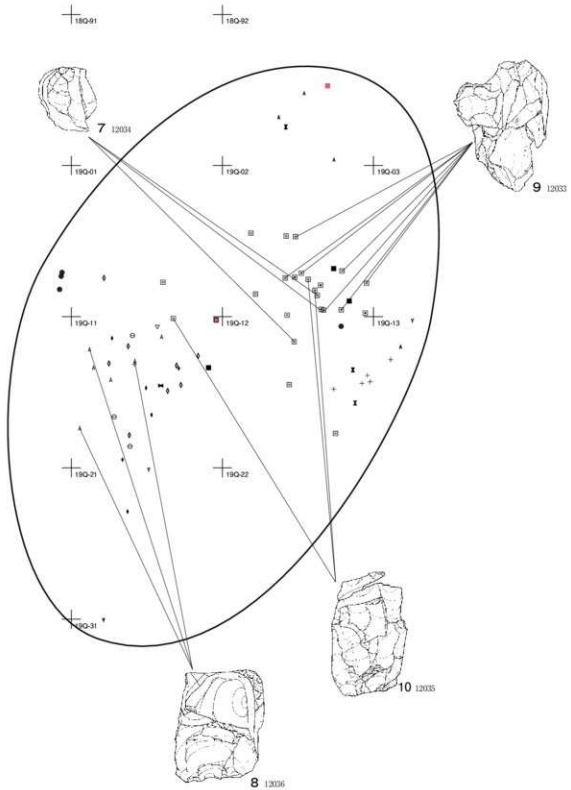
- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 礫片



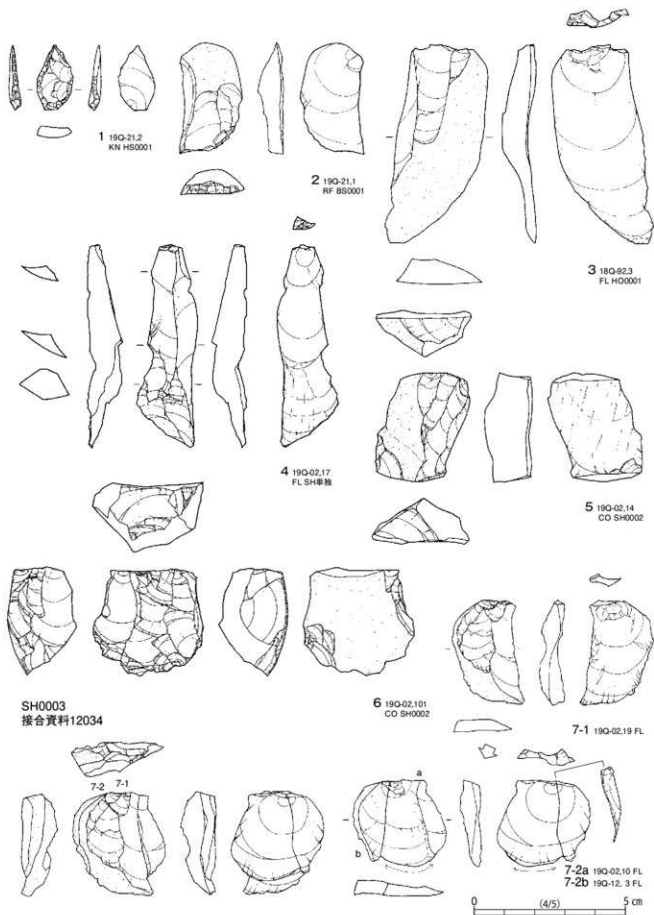
第76図 第4文化層19Q-11ブロック器種別分布図



- OB
- OB006
- SH
- SH半塊
- SH002
- SH003
- SH003
- × HS001
- ◇ BS003
- ▽ HS半塊
- ▽ HS001
- GA
- TO001
- ▽ CH001
- △ HO
- △ HO001
- △ HO002
- GT
- TU半塊
- TU001
- + PF

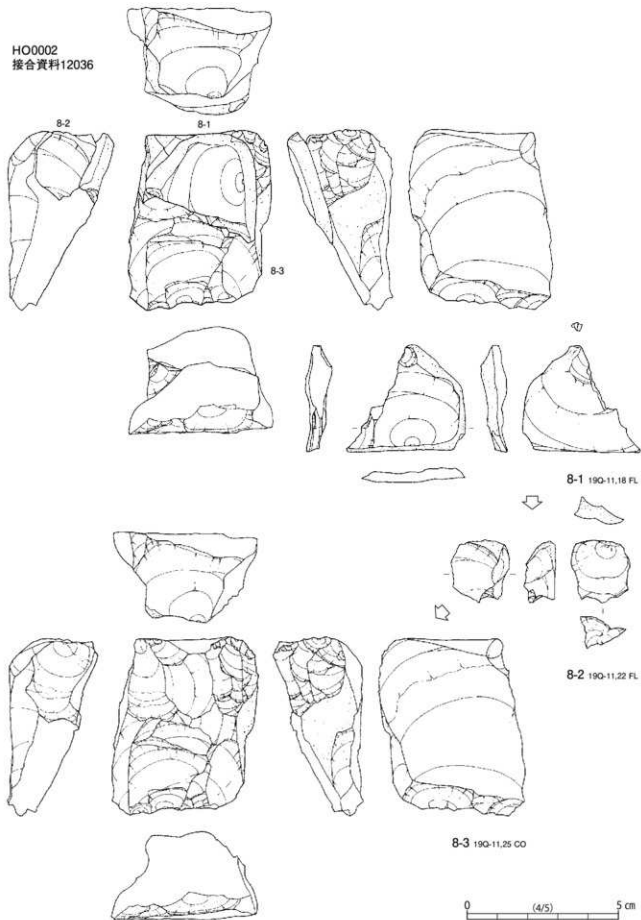


第77図 第4文化層19Q-11ブロック母岩別分布図



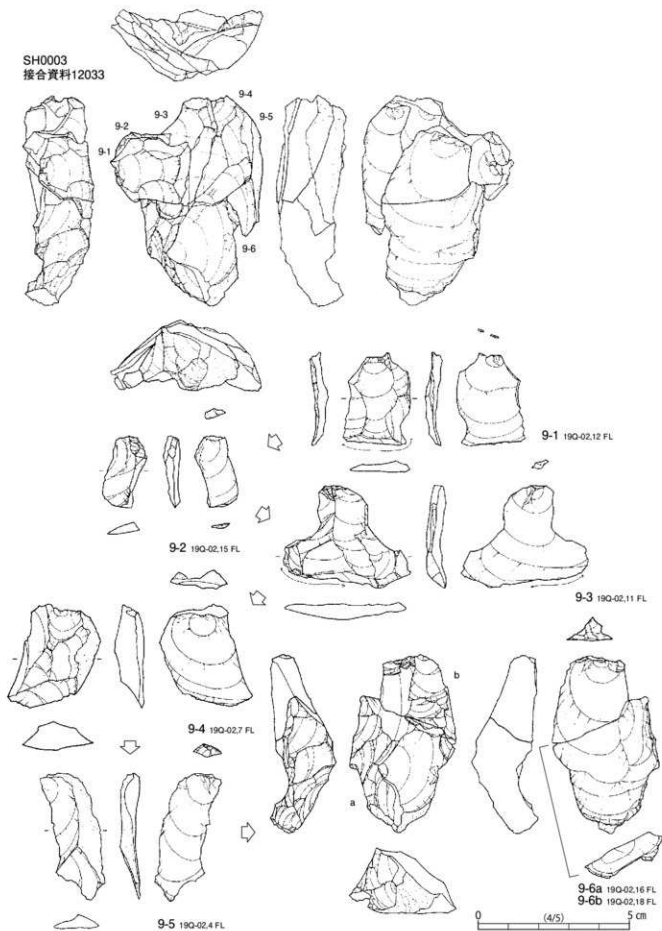
第78図 第4文化層19Q-11ブロック出土石器(1)

HO0002
接合資料12036

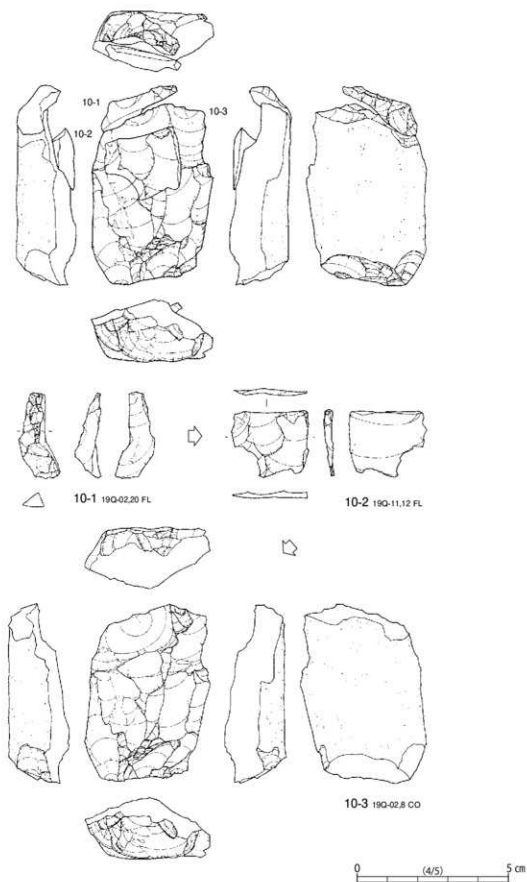


第79図 第4文化層19Q-11ブロック出土石器(2)

SH0003
接合資料12033



第80図 第4文化層19Q-11ブロック出土石器(3)



第81図 第4文化層19Q-11ブロック出土石器(4)

2はBS0001の二次加工のある剥片である。素材は縦長剥片で、素材端部に腹面から急角度の調整が施される。

3・4は縦長剥片である。3はHO0001の縦長剥片である。打面は複剝離打面で、頭部は無調整である。背面に自然面が大きく残る。4は単独母岩の頁岩の縦長剥片である。打面調整及び頭部調整がみられる。

5・6はSH0002の石核である。5の素材は節理面で分割した厚手の剥片で、素材をさらに横に分割した中央の個体を用いる。上面の分割面を打面として、小口状になった右側面で縦長剥片を数枚剝離している。頭部調整がみられる。6の素材は円礫で、両設打面石核から剥片を連続剝離している。上面は分割面から連続して剥片を剝離しており、対向する下面にも複数回の調整により打面を作出し、剥片を剝離している。頭部調整がみられる。

7(接合資料12034)はSH0003の剥片3点が接合する。亜円礫の角を作業面として分割打面から縦長の剥片などを連続剝離している。

8(接合資料12036)はHO0002の剥片2点と石核1点が接合する。大型厚手の剥片を素材とする。4つの剝離工程が見られる。第1工程は、図左上部の剝離面を打面として剥片を剝離する工程で、8-1と数枚の剥片が剝離される。第2工程は、下設の打面から剥片を剝離する工程で、縦長剥片が数枚剝離されるが、末端はヒンジを起こしている。第3工程は、上面の打面を更新する工程である。第4工程は、更新された打面から剥片を剝離する工程で8-2が剝離される。その後、残核8-3が廃棄される。

9(接合資料12033)はSH0003の剥片7点が接合する。縦長剥片を連続剝離する石核の作業面調整の工程を示す接合資料である。亜円礫の分割個体を素材とすると考えられる。図の裏側、9-1～9-3の打面に素材の分割時の大きな剝離面が残る。4つの剝離工程が見られる。第1工程は、図の正面左から剥片を剝離する工程である。9-1～9-3と数枚の剥片が剝離される。作業面調整を目的とする工程と考えられる。第2工程は、打面を90度上面に移転して剥片を剝離する工程で、9-4・9-5と数枚の剥片が剝離される。第3工程は、上面の打面を更新する工程である。第4工程は、更新された打面から剥片を剝離する工程で、数枚の剥片と9-6が剝離される。この時、9-6は末端がウートラパッセ状になり石核底面まで取り込む。残核は検出されなかった。

10(接合資料12035)はSH0003の剥片2点と石核1点が接合する。亜円礫を素材とする。4つの剝離工程が見られる。第1工程は、複数回の剝離により10-1など上面と下面の打面を作出する工程である。第2工程は、第1工程で作出された打面から縦長剥片を剝離する工程である。数枚の剥片が剝離される。打面を反転し下面からも剥片が剝離される。打面調整がみられる。第3工程は、複数回の剝離により作業面を再生する工程である。10-2が剝離される。第4工程は、第3工程で再生された打面から再び縦長剥片を剝離する工程である。ここで剝離された剥片の末端がヒンジを起こし作業面が乱れたため、残核10-3が廃棄されたと思われる。

第4文化層 ユニット4a(第82・83図、第43・44表、図版4・5・48～52)

西側台地の南、大グリッド23N付近に分布する。総計87点の石器と14点の礫が出土し、5か所の集中地点で構成される。中央の谷沿いに張り出した微高地の北向き斜面に立地し、IV層上部の石器群と推定される。各ブロックはそれぞれ10m程度離れて分布し、ブロック間接合はない。

ユニット4aのブロック別石材組成と石器組成は第43表と第44表のとおりである。石器石材は、珪質頁

岩 (41.4%)・頁岩 (21.9%)・ガラス質黒色安山岩 (20.7%)が多い(点数比)。南寄りのブロックで頁岩と珪質頁岩で母岩共有がみられるが、点数は少なく、各ブロックが独立した石材利用形態を示す。石器器種は、ナイフ形石器がある他は、単独母岩の縦長剥片と頁岩・ガラス質黒色安山岩を用いた石刃の生産工程を示す接合資料がみられる。

第43表 第4文化層ユニット4 aブロック別石材組成表

石材/ブロック	23N-31	23N-63	23N-65	24N-15	24N-09	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB				1		1	1.1	1.36	0.2
CC	1		1		1	3	3.4	275.35	33.9
SH	5	1	2	1	10	19	21.9	99.79	12.2
SS	1	3	2	5	25	36	41.4	152.7	18.8
HS	3					3	3.5	7.22	0.9
GA	17				1	18	20.7	140.86	17.3
TO	1					1	1.1	1.65	0.2
RH	2	1		1	1	5	5.8	119.53	14.7
TU					1	1	1.1	14.75	1.8
点数合計	30	5	5	8	39	87	100.0	-	-
重量合計 (g)	140.07	161.78	276.89	58.98	175.49	-	-	813.21	100.0
礫・礫片 (点数)		1		8	5	14	100.0	-	-
礫・礫片 (g)		1376.0		913.56	1057.52	-	-	3347.08	100.0

第44表 第4文化層ユニット4 a石器組成表

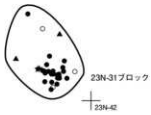
石材/器種	ナイフ形石器	削片	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	合計
OB		1					1
CC				1	1	1	3
SH			3	15	1		19
SS	2		1	20	13		36
HS				3			3
GA				16	2		18
TO				1			1
RH	2			1	1	1	5
TU				1			1
合計	4	1	4	58	18	2	87

第4文化層 23N-31ブロック (第84～87図、第45表、図版48～50)

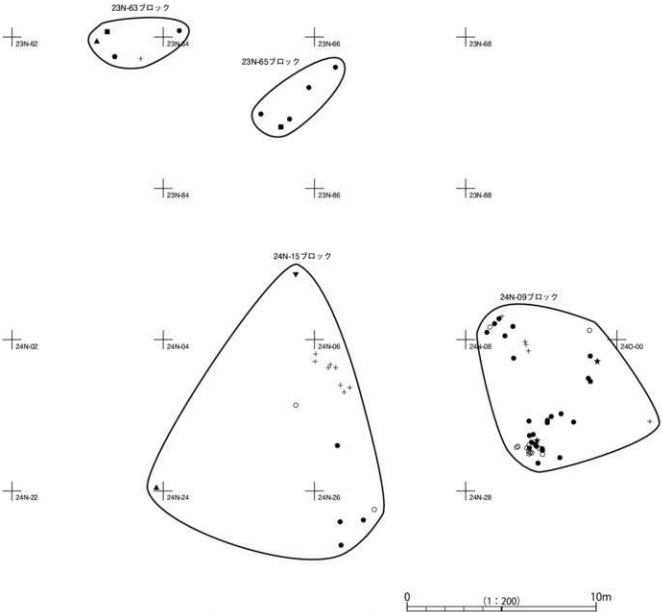
ユニット4 aの北寄りの23N-21・31グリッドに分布する。5.1m×3.5mの範囲から30点の石器が出土した。分布は南側に偏る。出土層位はⅢ層で、0.29mの高低差をもって水平に包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩 (17点)・頁岩 (5点)・硬質頁岩 (3点)・流紋岩 (2点)・メノウ・珪質頁岩・トトロ石 (各1点)で構成される。他ブロックと母岩共有はない。

1 (接合資料10001)はRH0002のナイフ形石器である。薄手の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定する。被熱している。調整は両側縁に施される。左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施される。右側縁先端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。



- ★ ナイフ形石器
- ▼ 削片
- ▲ 二次加工のある削片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 塵・塵片



第82図 第4文化層ユニット4 a 器種別分布図



23N-31ブロック

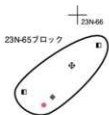
- OB
- CC
- SH
- SH 半旗
- SH1003
- SH1006
- SH1007
- SH2004
- ◆ SS
- ◆ SS 半旗
- ◇ SS0001
- ◇ SS0003
- ◇ SS1004
- ◇ SS3003
- ◆ SS3004
- ▲ HS 半旗
- ▲ HS0002
- GA 半旗
- GA3001
- TO
- RH
- R10002
- TU
- + PE・PF

23N-42



23N-63ブロック

23N-64



23N-65ブロック

23N-66

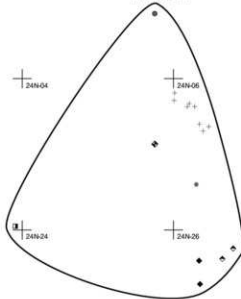
23N-68

23N-68

24N-02

24N-04

24N-15ブロック



24N-22

24N-24

24N-26

24N-09ブロック

24N-08

24N-00

24N-28



第83図 第4文化層ユニット4 a 母岩別分布図

2は頁岩の縦長剥片である。左側面は自然面、右側面は大きな剥離面の一部を取り込んでおり、石核の角から剥離されていることがわかる。打面部は欠損する。

3(接合資料10002)はGA3001の縦長剥片8点が接合する。小型の円礫を素材とする。6つの剥離工程が見られる。第1工程は、円礫から打面を作出する工程である。第2工程は、第1工程の打面から縦長剥片を剥離する工程で、わずかな頭部調整を施して、3-1が剥離される。第3工程は、打面を更新する工程で3-2の打面に複数枚の剥離面が残る。大振りの打面調整の可能性もある。第4工程は、更新された打面から縦長剥片を剥離する工程で、頭部は無調整のまま3-2が剥離される。第5工程は、再び打面を更新する工程で、3-4から3-7の打面の高さが同一であるため、打面全体が更新されたことがわかる。第6工程は、更新された打面から縦長剥片を連続剥離する工程で、作業面を周縁状に巡りながら3-3から3-7と数枚の縦長剥片が連続剥離される。打面調整がみられる。3-3は打面部が欠損する。

4(接合資料10005)はGA3001の剥片4点が接合する。複数回の剥離による打面再生工程を示す接合資料で、間隙があるため接合しなかったが、3の第3あるいは第5工程の接合資料とみられる。打面の周縁を巡るように剥離を施して打面全体を更新している。

5(接合資料10003)はSH2004の二次加工のある剥片2点と剥片1点が接合する。同一の打面・作業面から薄手の縦長剥片が剥離されているが、いずれも打面部は残存していない。5-1は打面部が腹面からの剥離により切り取られ、裏面の右側縁基部に背面から細かい調整が施される。5-2・5-3の打面部は剥離時の衝撃により折損したと思われる。5-3は左側縁に腹面から急角度の調整が施される。

6(接合資料10004)はHS0002の剥片2点が接合する。小型の礫を素材とする。礫の角を作業面とし、複剥離打面から6-1・6-2の剥片が連続剥離される。6-2は頭部調整がみられる。

第45表 第4文化層23N-31ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
CC				1	1	3.3	1.11	0.8
SH			1		1	3.3	10.63	7.6
SH2004		2	2		4	13.3	6.12	4.4
SS			1		1	3.3	3.05	2.2
HS単独			1		1	3.3	1.21	0.9
HS0002			2		2	6.7	6.01	4.3
GA3001			15	2	17	56.7	107.4	76.7
TO			1		1	3.3	1.65	1.2
RH0002	2				2	6.7	2.89	2.1
合計	2	2	23	3	30	100.0	140.07	100.0

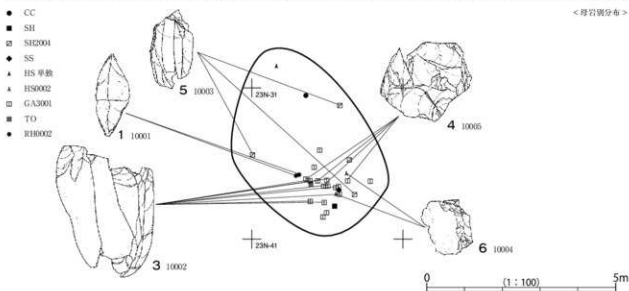
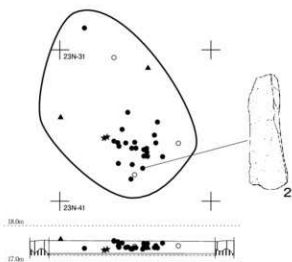
第4文化層 23N-63ブロック(第88・89図、第46表、図版4・51)

ユニット4 aの中央の23N-53・54・63グリッドに分布する。5.4m×2.6mの範囲から5点の石器と1点の礫片が出土した。ブロックの範囲内に散漫に分布する。出土層位はⅢ層で、0.13mの高低差をもってほぼ水平に含まれる。ブロック間接合はない。

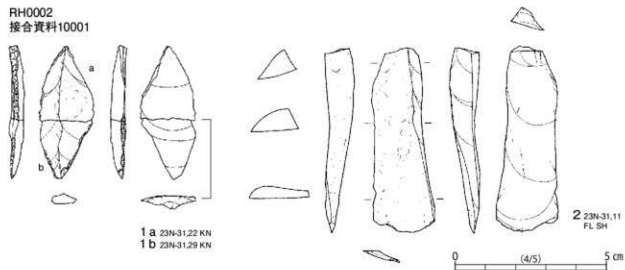
石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、珪質頁岩(3点)・頁岩・流紋岩(各1点)で構成される。他ブロックと母岩共有はない。



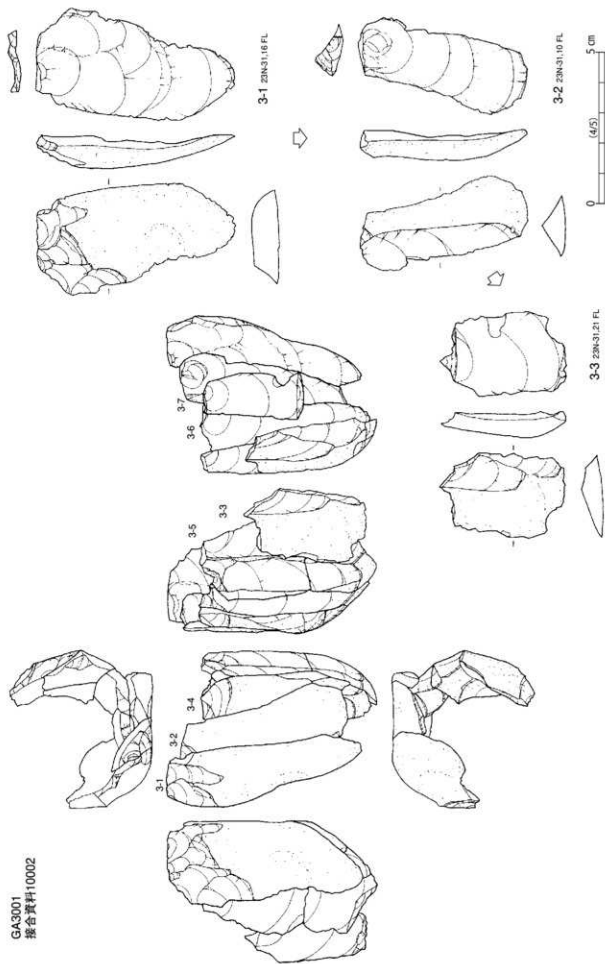
- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 破片



RH0002
接合資料10001

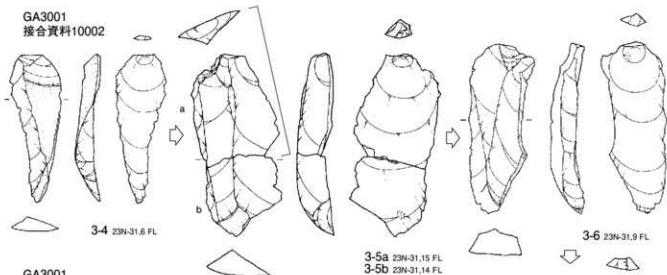


第84図 第4文化層23N-31ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器(1)



第85図 第4文化層23N-31ブロック出土石器(2)

GA3001
接合資料10002

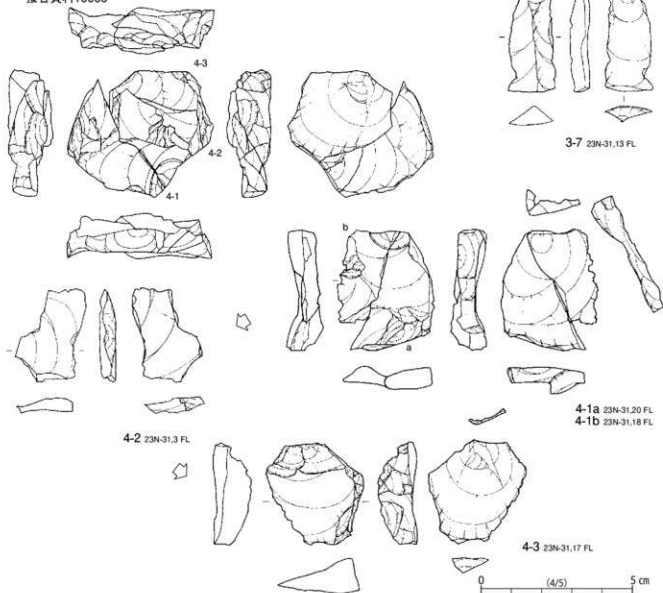


3-4 23N-31.6 FL

3-5a 23N-31.15 FL
3-5b 23N-31.14 FL

3-6 23N-31.9 FL

GA3001
接合資料10005



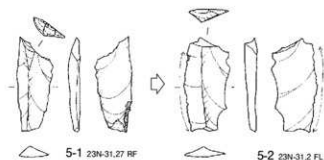
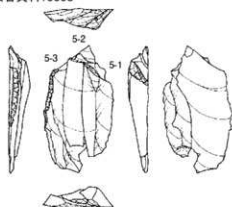
4-2 23N-31.3 FL

4-1a 23N-31.20 FL
4-1b 23N-31.18 FL

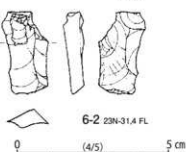
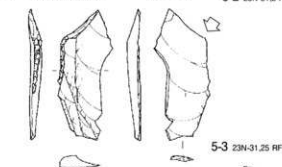
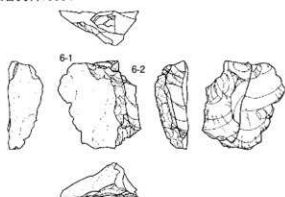
4-3 23N-31.17 FL

第86図 第4文化層23N-31ブロック出土石器(3)

SH2004
接合資料10003



HS0002
接合資料10004



0 (4/5) 5 cm

第87図 第4文化層23N-31ブロック出土石器(4)

1は単独母岩の珪質頁岩の二次加工のある剥片である。厚手の縦長剥片を素材とする。石核底面を取り込む大型の縦長剥片で、左側面に大きな剥離の一部を取り込むため、石核の角から剥離された稜角剥片であると考えられる。打面調整がみられる。調整は右側縁下半に腹面から連続した調整が施される。

2は単独母岩の頁岩の縦長剥片である。わずかな頭部調整がみられる。石核底面を取り込む。

3は単独母岩の流紋岩の石核である。扁平な円盤を素材とする。3つの工程がみられる。第1工程は、左側面の石核の小口から縦長の剥片を連続剥離する工程だが、末端がヒンジを起こし作業面が乱れる。第2工程は、上面の打面を更新する工程である。第3工程は、作業面の角から剥片剥離を再開する工程である。ここで再びヒンジを起こし、石核が廃棄されたと考えられる。

第46表 第4文化層23N-63ブロック石器組成表

母岩番号/器種	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)
SH単独		1			1	20.0	9.94	6.1
SS		1	1		2	40.0	1.14	0.7
SS単独	1				1	20.0	43.54	26.9
RH単独				1	1	20.0	107.16	66.3
合計	1	2	1	1	5	100.0	161.78	100.0



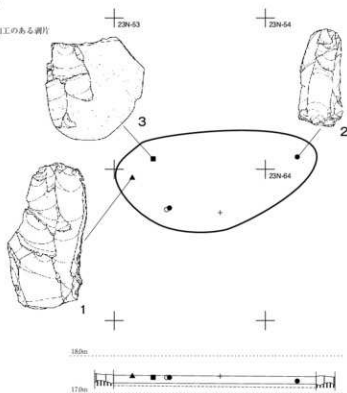
▲ 二次加工のある副片

● 副片

○ 破片

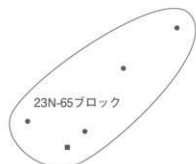
■ 石核

+ 破片



< 器種別分布 >

23N-65



■ SH 単独

● SS

◆ SS 単独

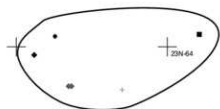
● RH 単独

+ PF

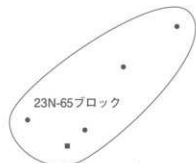
< 母岩別分布 >

23N-63

23N-64

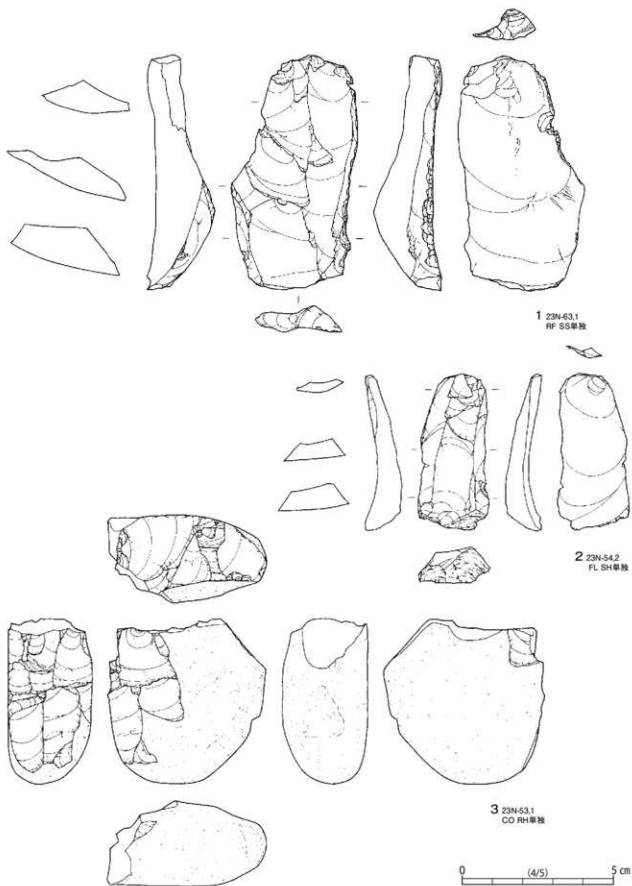


23N-65



0 (1:100) 5m

第88図 第4文化層23N-63ブロック器種別・母岩別分布図



第89図 第4文化層23N-63ブロック出土石器

第4文化層 23N-65ブロック (第90図、第47表、図版4)

ユニット4 aの中央の23N-65・66・75グリッドに分布する。5.7m×3.0mの範囲から5点の石器が出土した。ブロックの範囲内に散漫に分布する。出土層位はⅢ層で、0.08mの高低差をもってほぼ水平に含まれる。ブロック間接合はない。

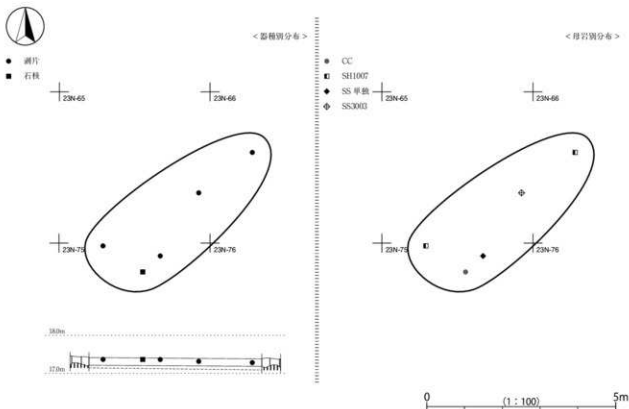
石器器種は、剥片・石核で構成される。石材組成は、頁岩・珪質頁岩(各2点)・メノウ(1点)で構成される。

第47表 第4文化層23N-65ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
CC		1	1	20.0	267.35	96.6
SH1007	2		2	40.0	7.12	2.6
SS単独	1		1	20.0	1.38	0.5
SS3003	1		1	20.0	1.04	0.4
合計	4	1	5	100.0	276.89	100.0

第4文化層 24N-15ブロック (第91～93図、第48表、図版4・51)

ユニット4 aの南寄りの23N-95・24N-05・06・13・16・26グリッドに分布する。15.3m×11.9mの範囲から8点の石器が出土した。8点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。ブロックの範囲内に疎らに分布する。出土層位はⅢ層で、0.42mの高低差をもってほぼ水平に含まれる。ブロック間接合はない。



第90図 第4文化層23N-65ブロック器種別・母岩別分布図

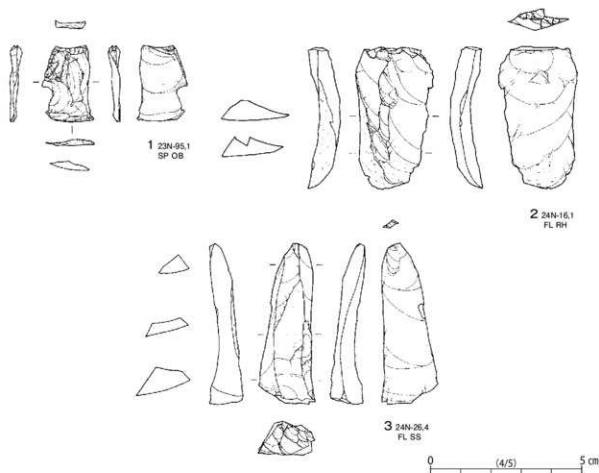
石器器種は、削片・二次加工のある剥片・剥片・破片で構成される。石材組成は、珪質頁岩（5点）・黒曜石・頁岩・流紋岩（各1点）で構成される。母岩SH1003・SS3004がユニット4 aの24N-09ブロックと母岩共有し、母岩SH1003がユニット4 bの25N-06ブロックとユニット間で母岩共有する。

1は黒曜石の削片である。左側面に顕著な平坦調整を施すブランクの縁辺を取り込む。

2・3は縦長剥片である。2は流紋岩の縦長剥片で、打面調整と頭部調整がみられる。3は珪質頁岩の縦長剥片である。打面・頭部は無調整である。底面に対向する下面の打面を取り込んでおり、下面には打面調整がみられる。

第48表 第4文化層24N-15ブロック石器組成表

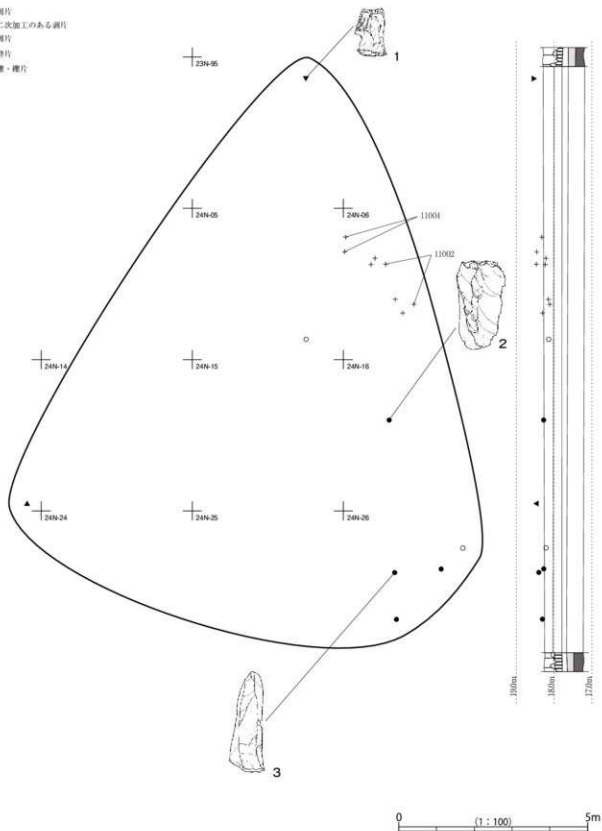
母岩番号/器種	削片	二次加工 のある剥片	剥片	破片	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)
OB	1				1	12.5	1.36	2.3
SH1003		1			1	12.5	1.18	2.0
SS			2		2	25.0	34.03	57.7
SS1004			1	1	2	25.0	12.59	21.3
SS3004				1	1	12.5	0.67	1.1
RH			1		1	12.5	9.15	15.5
合計	1	1	4	2	8	100.0	58.98	100.0



第91図 第4文化層24N-15ブロック出土石器



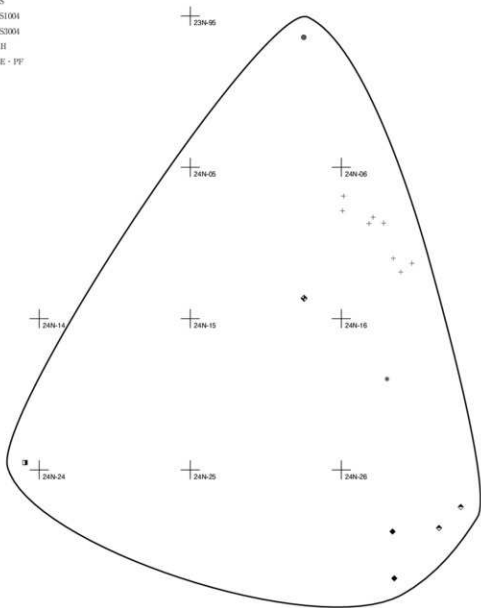
- ▼ 断片
- ▲ 二次加工のある断片
- 断片
- 断片
- + 穂・穂片



第92図 第4文化層24N-15ブロック器種別分布図



- OB
- SH1003
- ◆ SS
- ◆ SSI001
- ◆ SS3001
- RH
- + PE・PF



第93図 第4文化層24N-15ブロック母岩別分布図

第4文化層 24N-09ブロック (第94・95図、第49表、図版5・52)

ユニット4aの南寄りの23N-98・99、24N-08・09・18・19、24O-10グリッドに分布する。10.8m×8.5mの範囲から39点の石器と5点の礫・礫片が出土した。北西と南西の2か所に集中地点がある。出土層位はV層～Ⅲ層で、0.32mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・砕片で構成される。石材組成は、珪質頁岩(25点)・頁岩(10点)・メノウ・ガラス質黒色安山岩・流紋岩・凝灰岩(各1点)で構成される。母岩SH1003・SS3004がユニット4aの24N-15ブロックと共有し、母岩SH1003がユニット4bの25N-06ブロックとユニット間で母岩共有する。

1・2はナイフ形石器である。1は単独母岩の珪質頁岩の薄手の剥片を素材として、打点を先端に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施され、尖鋭な基部が成形される。右側縁先端は素材縁辺が刃部としてそのまま用いられる。2はSS0001の剥片を素材として、打点を先端に設定する。上半部は欠損する。調整は両側縁に施され、左側縁は腹面から急角度の調整が施される。右側縁は基部に腹面から調整が施され、厚みのある尖鋭な基部が成形される。基部裏面には平坦調整が施される。右側縁の調整は器体中央で止まるため、右側縁先端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられると推定される。

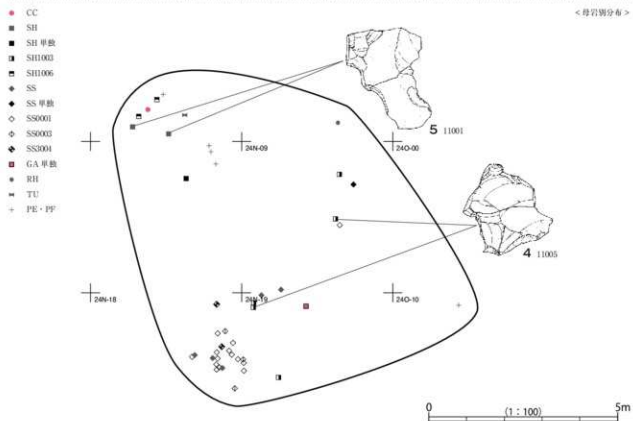
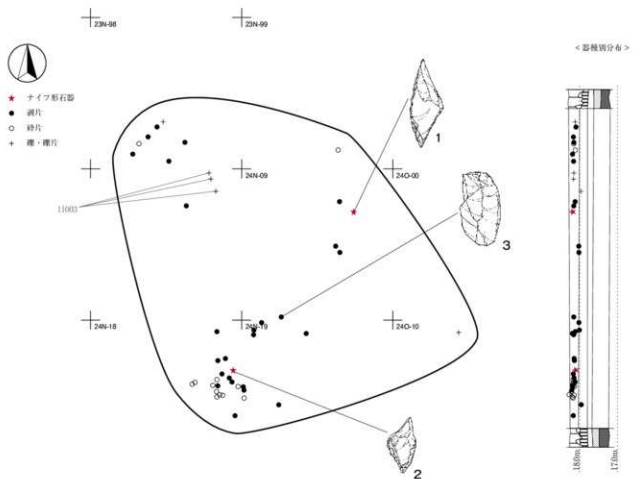
3～5は剥片である。3は珪質頁岩の縦長剥片である。打面調整と顕著な頭部調整がみられる。4(接合資料11005)はSH1003の折損した剥片2点が接合する。5(接合資料11001)は頁岩の折損した剥片2点が接合する。打面部は折損する。

第49表 第4文化層24N-09ブロック石器組成表

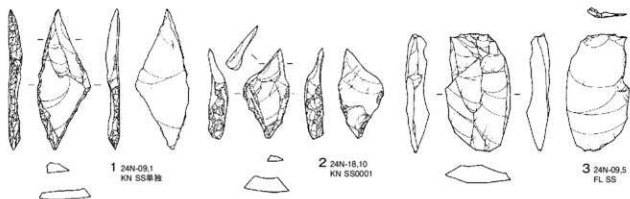
母岩番号/器種	ナイフ形 石器	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
CC		1		1	2.6	6.89	3.9
SH		2		2	5.1	27.79	15.8
SH単独		1		1	2.6	4.61	2.6
SH1003		5		5	12.8	29.72	16.9
SH1006		1	1	2	5.1	2.68	1.5
SS		2	3	5	12.8	23.57	13.4
SS単独	1			1	2.6	3.13	1.8
SS0001	1	6	7	14	35.9	17.45	9.9
SS0003		3		3	7.7	10.09	5.7
SS3004		2		2	5.1	1.02	0.6
GA単独		1		1	2.6	33.46	19.1
RH			1	1	2.6	0.33	0.2
TU		1		1	2.6	14.75	8.4
合計	2	25	12	39	100.0	175.49	100.0

第4文化層 ユニット4b (第96・97図、第50・51表、図版5・52～63)

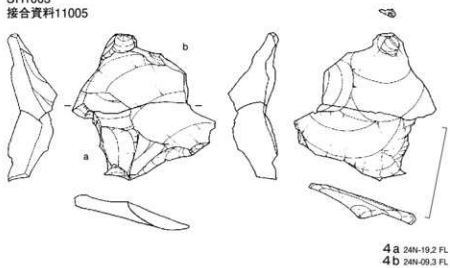
西側台地の南、大グリッド25N付近に分布する。総計351点の石器と135点の礫が出土し、7か所の集中地点で構成される。中央の谷沿いに張り出した微高地の南向き斜面に立地し、IV層上部の石器群と推定される。ユニット内で頻繁にブロック間接合がみられ、25N-06・25O-10ブロック、25N-06・25N-53ブロック、25O-10・25N-53ブロック、25N-46・25N-53ブロックで石器のブロック間接合があり、25N-06・25N-09ブロック間で礫のブロック間接合がある。



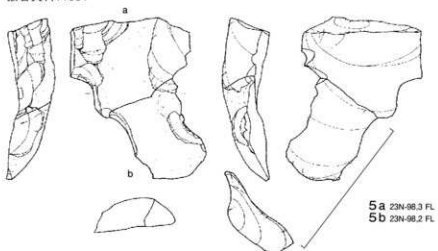
第94図 第4文化層24N-09ブロック器種別・母岩別分布図



SH1003
接合資料11005



SH
接合資料11001



第95図 第4文化層24N-09ブロック出土石器

ユニット4bのブロック別石材組成と石器組成は第50表と第51表のとおりである。石器石材は、メノウ(41.3%)・頁岩(25.6%)・珪質頁岩(15.4%)・ガラス質黒色安山岩(12.0%)が多い(点数比)。母岩共有は、メノウが全てのブロックで母岩共有がみられ、珪質頁岩・ガラス質黒色安山岩がユニット中央のブロックで母岩共有がみられる。石器器種は、ナイフ形石器が多く、20点でユニット全体の6%を占める。南寄りのブロックでは頁岩やガラス質黒色安山岩を用いた石刃生産工程を示す接合資料が出土している。

第50表 第4文化層ユニット4bブロック別石材組成表

石材/ブロック	25N-06	25N-09	25N-18	25O-10	25N-46	25N-53	25N-51	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
CC	54	9	10	9	36	23	4	145	41.3	473.76	31.1
SH	10	5		8	60	4	3	90	25.6	271.53	17.8
BS	11							11	3.1	88.77	5.8
SS	8			1	22	23		54	15.4	244.24	16.0
HS	2	1		1				4	1.1	29.11	1.9
MS						1		1	0.3	4.99	0.3
GA	5			5	3	29		42	12.0	304.97	20.0
TO					1			1	0.3	1.36	0.1
RH						1		1	0.3	5.94	0.4
TU	1							1	0.3	2.31	0.2
AN	1							1	0.3	95.45	6.4
点数合計	92	15	10	24	122	81	7	351	100.0	-	-
重量合計(g)	508.63	130.37	16.07	143.68	235.15	458.04	30.49	-	-	1522.43	100.0
礫・礫片(点数)	58	30	0	38	3	4	2	135	100.0	-	-
礫・礫片(g)	2181.48	2342.54	0	566.05	127.77	111.58	116.23	-	-	5445.65	100.0

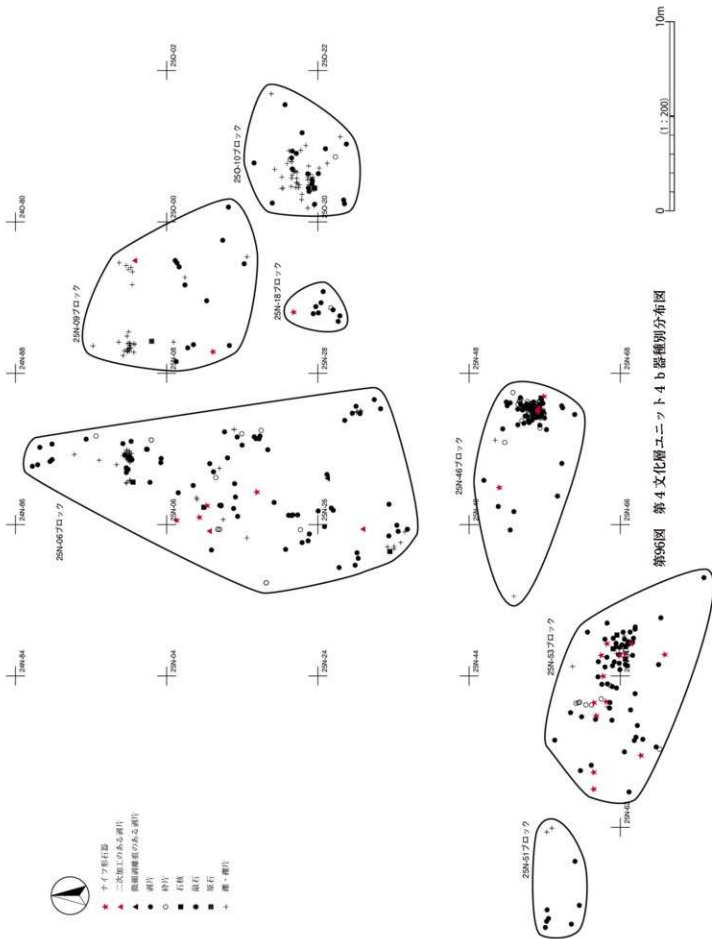
第51表 第4文化層ユニット4b石器組成表

石材/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	砕片	石核	敲石	原石	合計
CC	10		1	100	31	2		1	145
SH	2	3		47	35	3			90
BS				8	2	1			11
SS	5	2		31	13	3			54
HS		1		2	1				4
MS				1					1
GA	3	1		35	1	2			42
TO				1					1
RH				1					1
TU				1					1
AN							1		1
合計	20	7	1	227	83	11	1	1	351

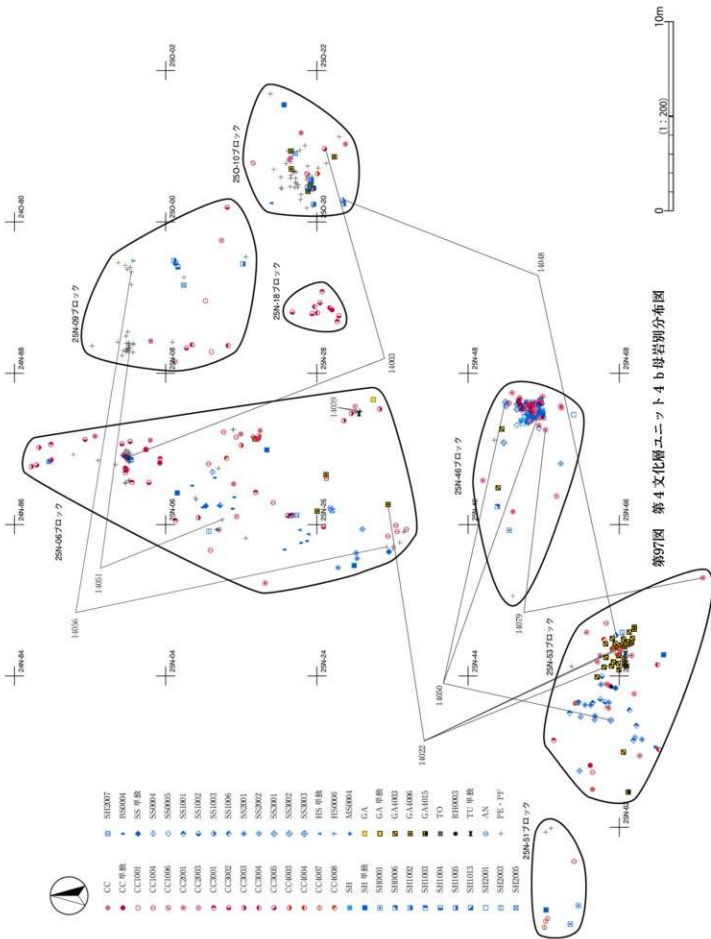
第4文化層 25N-06ブロック(第98～103図、第52表、図版5・52～54)

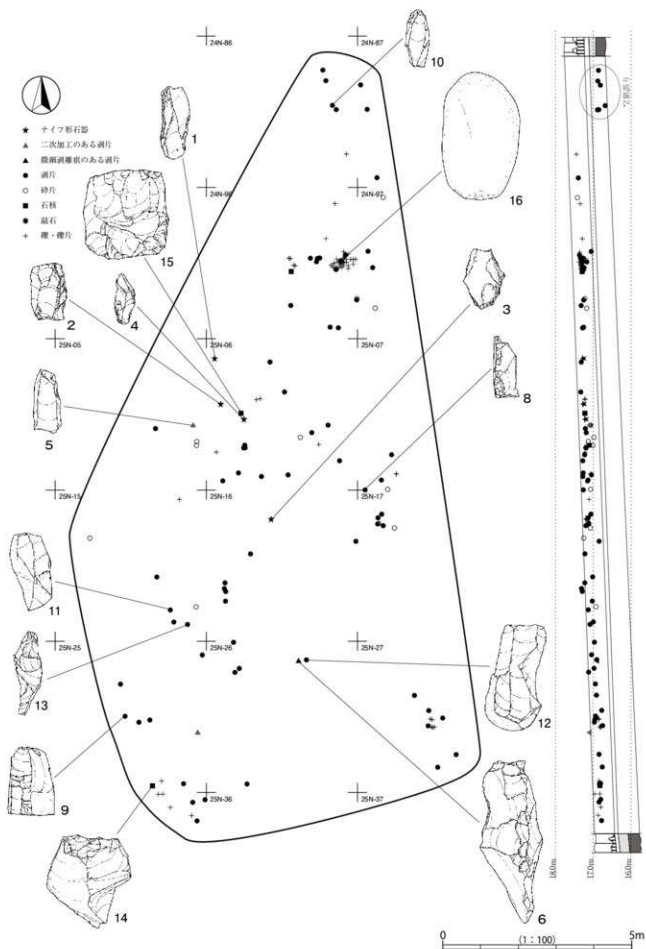
ユニット4bの北寄りの24N-86・87・96・97、25N-05～07・15～17・25～27・35グリッドに分布する。21.2m×10.3mの範囲から92点の石器が出土した。58点の礫・礫片からなる礫群を伴う。ブロックの範囲内に散漫に分布する。出土層位はV層～Ⅲ層で、南に傾斜する地形に沿って0.76mの高低差をもって包含される。25O-10ブロック・25N-53ブロックと石器のブロック間接合があり、25N-09ブロックと礫のブロック間接合がある。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核・敲石で

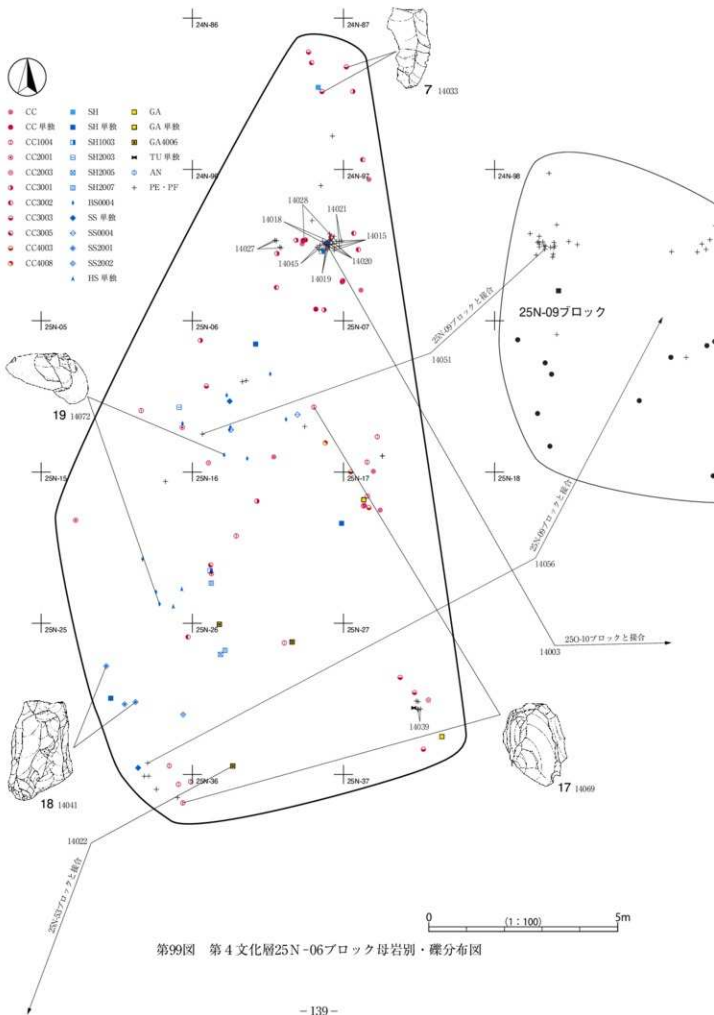


第96図 第4文化層ユニット4 b 器種別分布図





第98図 第4文化層25N-06ブロック器種別分布図



第99図 第4文化層25N-06ブロック母岩別・種分布図

構成される。石材組成は、メノウ (54点)・黒色頁岩 (11点)・頁岩 (10点)・珪質頁岩 (8点)・ガラス質黒色安山岩 (5点)・硬質頁岩 (2点)・凝灰岩・安山岩 (各1点) で構成される。

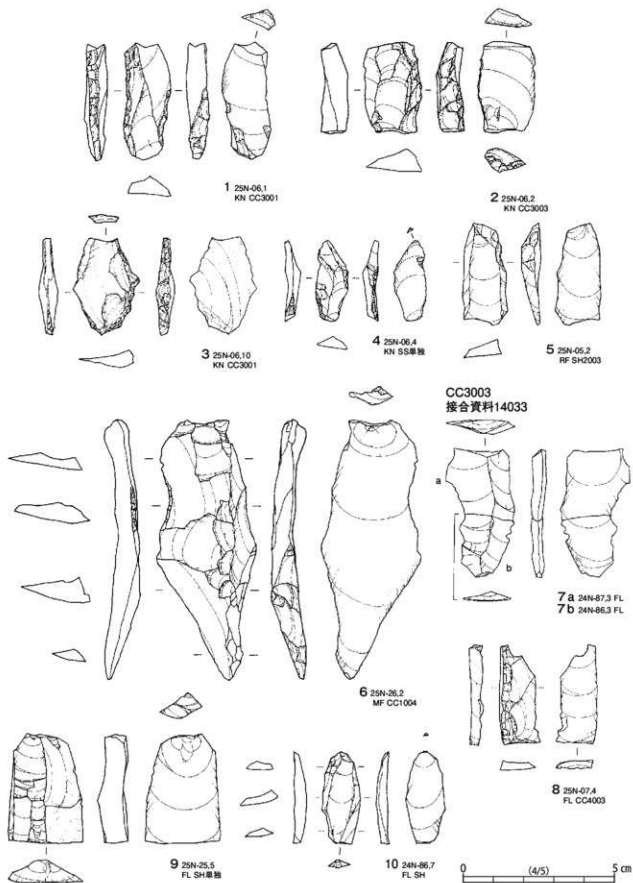
母岩共有はユニット4 b内で頻繁にみられる他、母岩SH1003がユニット4 aの24N-09・24N-15ブロックとユニット間の母岩共有がみられる。メノウはユニット4 bの全てのブロックと母岩共有がみられる。頁岩は25N-09・25O-10・25N-46・25N-53ブロック、珪質頁岩は25N-46・25N-53ブロック、ガラス質黒色安山岩は25O-10・25N-53ブロックと母岩共有がみられる。

1～4はナイフ形石器である。1はCC3001の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定する。上半は欠損する。左側縁は側縁全体に腹面から粗い急角度の調整が施され、右側縁は基部側に同様の調整が施される。基部裏面に側面から平坦調整が施される。基部末端は未調整である。左側縁先端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられると考えられる。

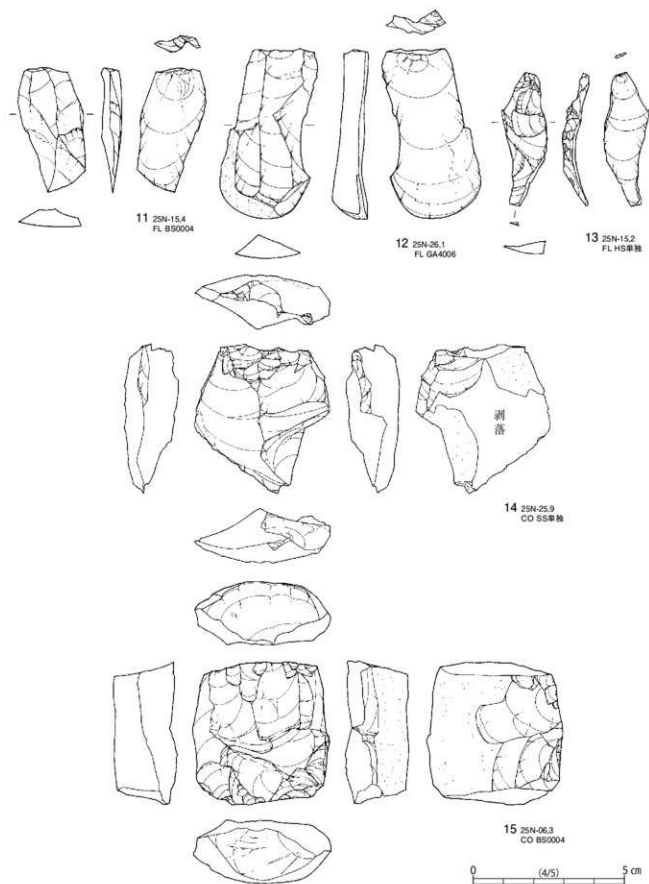
2はCC3003の厚手の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は右側縁に施され、腹面から粗い急角度の調整で側縁が切断された後に、細かい調整が施される。左側縁は素材縁辺がそのまま刃部

第52表 第4文化層25N-06ブロック石器組成表

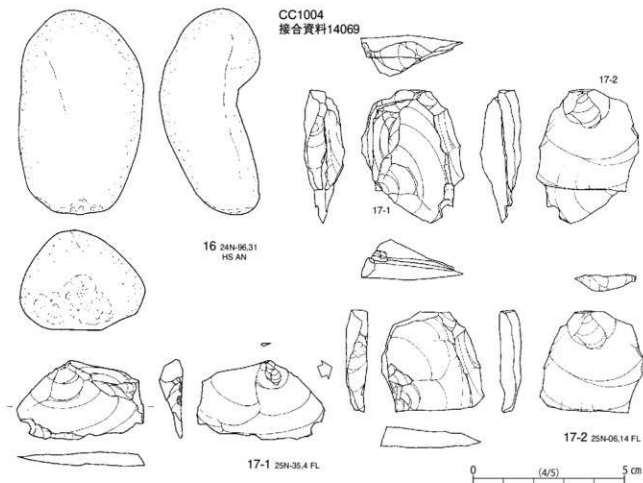
母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離復のある剥片	剥片	砕片	石核	敲石	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
CC				2	5			7	7.7	2.83	0.7
CC単独				1				1	1.1	1.1	0.3
CC1004			1	11				12	13.2	62.77	15.2
CC2001				1	2			3	3.3	4.69	1.1
CC2003				2				2	2.2	6.85	1.7
CC3001	2			4	1	1		8	8.8	42.77	10.4
CC3002				8				8	8.8	14.49	3.5
CC3003	1			6				7	7.7	32.64	7.9
CC3005				3				3	3.3	3.31	0.8
CC4003				2				2	2.2	2.56	0.6
CC4008				1				1	1.1	1.69	0.4
SH				1				1	1.1	0.94	0.2
SH単独				3				3	3.3	18.9	4.6
SH1003				2				2	2.2	9.0	2.2
SH2003		1						1	1.1	2.48	0.6
SH2005				1				1	1.1	0.9	0.2
SH2007				2				2	2.2	2.47	0.6
BS0004				8	2	1		11	12.1	88.77	21.5
SS単独	1					1		2	2.2	31.74	7.7
SS0004				2				2	2.2	7.78	1.9
SS2001				3				3	3.3	29.47	7.1
SS2002		1						1	1.1	1.02	0.2
HS単独				1	1			2	2.2	2.63	0.6
GA				1				1	1.1	5.88	1.4
GA単独				1				1	1.1	2.15	0.5
GA4006				3				3	3.3	31.04	7.5
TU単独				1				1	1.1	2.31	0.6
AN							1	1	1.1	95.45	18.8
合計	4	2	1	70	11	3		92	100.0	508.63	100.0



第100図 第4文化層25N-06ブロック出土石器(1)



第101図 第4文化層25N-06ブロック出土石器(2)



第102図 第4文化層25N-06ブロック出土石器(3)

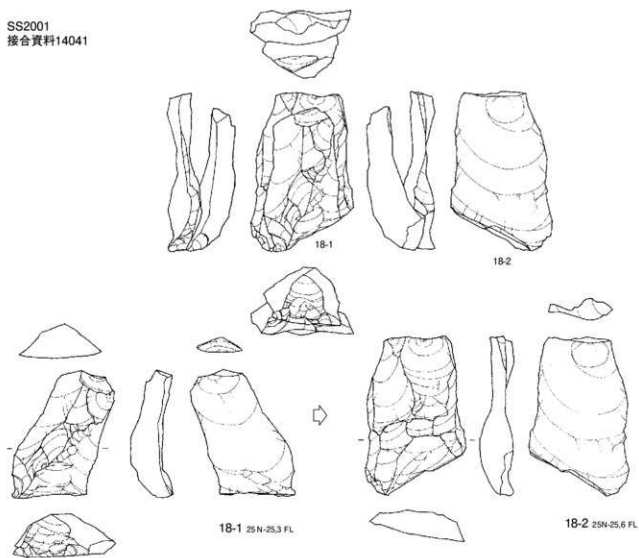
として用いられる。基部は打面が残置され、剥離時の打面調整がみられる。3はCC3001の幅広剥片を素材とし、打点を右側面に設定する。調整は右側縁に施され、側縁全体に腹面から粗い急角度の調整が施され打面部が切断され弧状あるいは山形の側縁が成形される。左側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられるが、基部には折り取りと微細な調整がみられる。4は単独母岩の珪質頁岩の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。基部両側縁に腹面から急角度の調整が施され丸い基部が成形される。先端は両側縁ともに素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

5はSH2003の二次加工のある剥片である。縦長剥片を素材とする。右側縁の打面側に腹面から急角度の抉るような調整が施される。

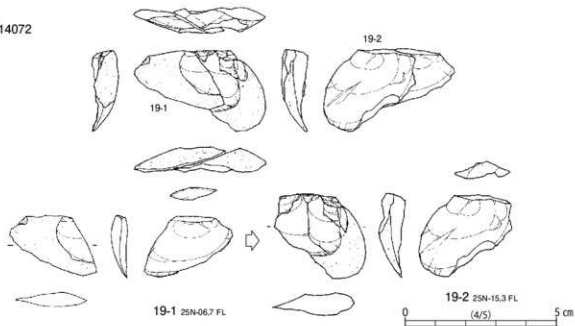
6はCC1004の微細剥離痕のある剥片である。大型の稜付きの縦長剥片で、頭部調整と打面調整がみられる。背面両側に横方向からの剥離痕がみられ、右側面下半は角度が急であることから、石核の角から剥離されていることがわかる。顕著な稜上調整がみられる。右側縁に微細剥離痕がみられる。

7～13は剥片である。7(接合資料14033)はCC3003の折損した剥片2点が接合する。打面は欠損する。8はCC4003の縦長剥片である。打面部と先端は欠損する。左側面から稜上調整がみられる。削片として分類することもできるが、背面と左側面の角度が急であるため、石核の角から剥離された縦長剥片であると判断した。9は単独母岩の頁岩の厚手の縦長剥片である。比較的整った作業面から剥離されている。打

SS2001
接合資料14041



BS0004
接合資料14072



第103図 第4文化層25N-06ブロック出土石器(4)

面調整がみられる。下半は欠損する。10は頁岩の縦長剥片である。点打面で頭部は無調整である。11はBS0004の縦長剥片である。打面調整がみられる。12はGA4006の縦長剥片である。打面調整がみられる。末端は石核底面の自然面を取り込みウトラバッセになっており、円礫素材の角から剥離されていることがわかる。13は単独母岩の硬質頁岩の稜付き剥片である。縦長剥片で顕著な稜上調整がみられる。

14・15は石核である。14は単独母岩の珪質頁岩の剥片を素材とする。背面左の剥離面は素材剥片の主要剥離面である。その主要剥離面を作業面として素材の打面から剥片が剥離されるが、素材のバルブ部分でヒンジを起こしている。なお、腹面の白ヌキは、表皮が剥落したものである。15はBS0004の円礫を素材とする。上下に打面を作成し、頭部調整を施して両設打面から剥片が連続剥離される。剥片剥離は石核の半面を巡り縦長剥片が連続剥離されるが、多くの剥離がヒンジを起こしている。石核左側の小口には裏面に横方向から平坦な作業面調整と稜上調整がみられる。

16は安山岩の敲石である。下部部に敲打痕がみられる。

17(接合資料14069)はCC1004の剥片2点が接合する。17-1を剥離した後に、打面を90度転移して17-2が剥離される。17-2の背面には17-1と対向方向の剥離面がみられるため、求心状に打面を転移あるいは15のような両設打面の石核からの剥片剥離工程が復元される。

18(接合資料14041)はSS2001の縦長剥片2点が接合する。分割面あるいは大きな剥離で作出された平坦な剥離面を打面として、打点をまっすぐ後退させながら18-1と数枚の剥片、18-2が剥離される。18-1は打面部を一部欠損する。18-2は打面と頭部は無調整である。2点とも自然面を残す石核底面を取り込む。

19(接合資料14072)はBS0004の剥片2点が接合する。分割面を打面として自然面の作業面で19-1・19-2と数枚の母指状剥片が連続剥離される。19-2にはわずかに頭部調整がみられる。

第4文化層 25N-09ブロック(第104～106図、第53表、図版5・55)

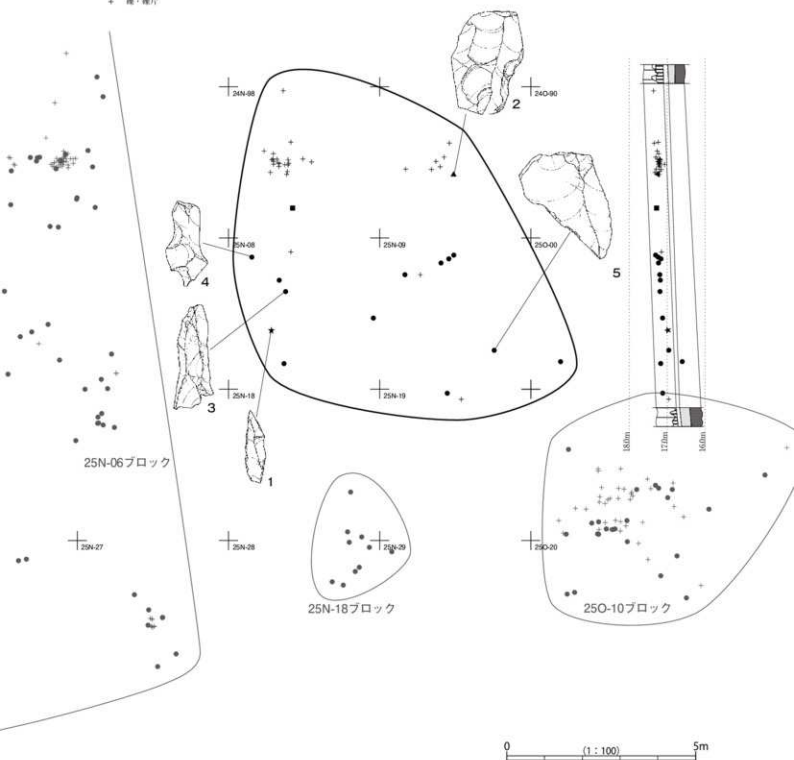
ユニット4bの北寄りの24N-98・99、25N-08・09・19、25O-00グリッドに分布する。11.2m×8.3mの範囲から15点の石器が出土した。30点の礫・礫片からなる礫群を伴う。ブロックの範囲内に散漫に分布する。出土層位はⅢ層～Ⅳ層で、南に傾斜する地形に沿って0.76mの高低差をもって包含される。石器のブロック間接合はないが、礫群中の礫が25N-06ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・原石で構成される。石材組成は、メノウ(9点)・頁岩(5点)・硬質頁岩(1点)で構成される。母岩共有はユニット4b内でみられる。メノウは25N-06・25N-18・25N-46・25N-53ブロック、頁岩は25N-06・25O-10・25N-53ブロックと母岩共有がみられる。第53表 第4文化層25N-09ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工 のある剥片	剥片	原石	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
CC				1	1	6.7	47.99	36.8
CC1001	1		1		2	13.3	3.58	2.7
CC2003			2		2	13.3	17.89	13.7
CC3002			2		2	13.3	13.55	10.4
CC3004			2		2	13.3	7.94	6.1
SH1004			2		2	13.3	6.39	4.9
SH1005			2		2	13.3	4.71	3.6
SH2005			1		1	6.7	3.14	2.4
HS0006		1			1	6.7	25.18	19.3
合計	1	1	12	1	15	100.0	130.37	100.0



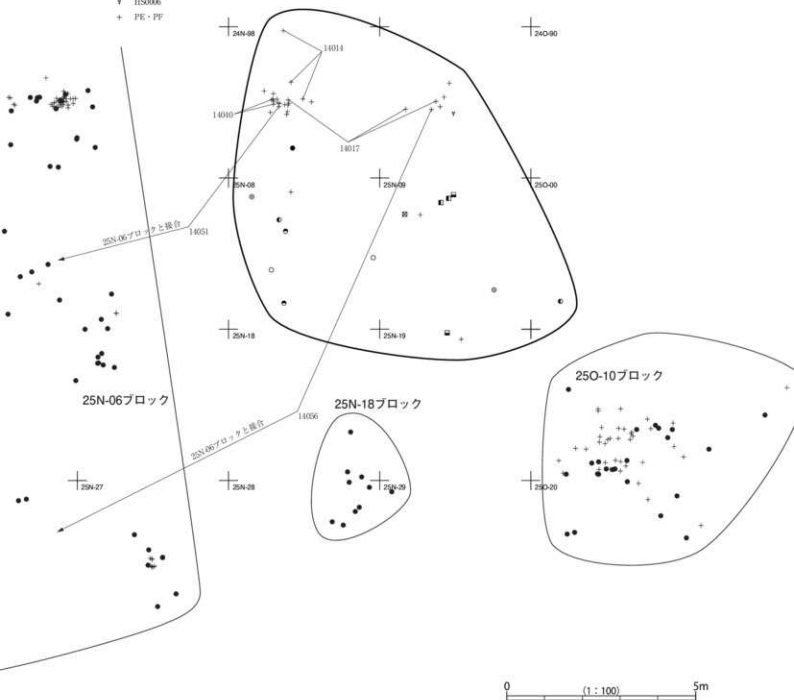
- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある副片
- 副片
- 原石
- + 礫・礫片



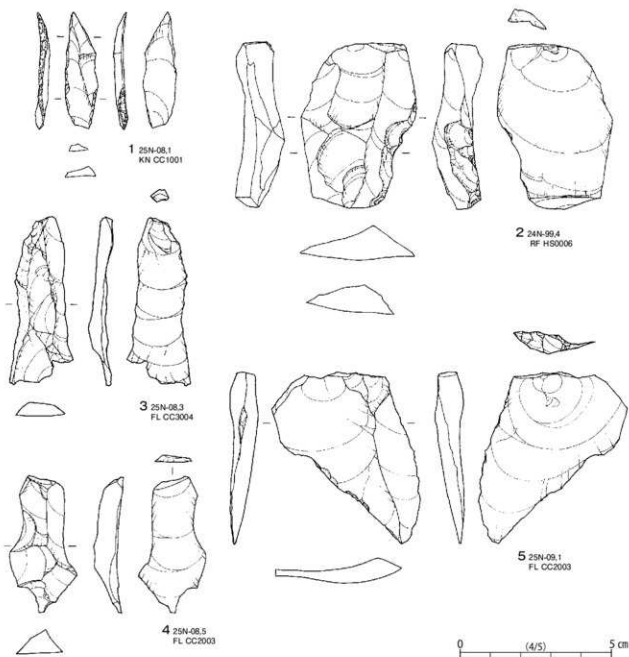
第104図 第4文化層25N-09ブロック器種別分布図



- CC
- CC1001
- ⊙ CC2003
- ⊙ CC3002
- ⊙ CC3004
- SH1004
- SH1005
- ⊙ SH2005
- γ HS0006
- + PE・PF



第105図 第4文化層25N-09ブロック母岩別・礫分布図



第106図 第4文化層25N-09ブロック出土石器

1はCC1001のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に急角度の調整が施され、右側縁は基部に急角度の調整が施され打面部分が除去される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

2はHS0006の二次加工のある剥片である。厚手の縦長剥片を素材とする。右側面に粗い調整が施される。下半は欠損する。

3～5は剥片である。3はCC3004の縦長剥片である。頭部・打面ともに無調整である。4・5はCC2003の縦長剥片である。4は背面に作業面上の稜を取り込む。打面部分が欠損する。5は打面調整がみられる。比較的整った作業面から剥離されているが、先行する作業面を大きく取り込む。

第4文化層 25N-18ブロック (第107図、第54表、図版55)

ユニット4bの中央の25N-18・28・29グリッドに分布する。3.4m×2.6mの範囲から10点の石器が出土した。分布は南側に偏る。出土層位はⅢ層で、0.34mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・砕片で構成される。石材組成は、メノウ(10点)のみで構成される。母岩共有は、メノウがユニット4b内の25N-06・25N-09・25N-46・25N-53ブロックと母岩共有がみられる。

1はCC3002のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として打点を基部に設定する。調整は左側縁に施され、側縁全体に腹面から急角度の調整が施され打面部が切断される。右側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。2(接合資料14070)はCC3002の縦長剥片である。夾雑物で折れた剥片2点が接合する。点打面で頭部は無調整である。

第54表 第4文化層25N-18ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形石器	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
CC単独		1		1	10.0	2.47	15.4
CC3001		2		2	20.0	2.46	15.3
CC3002	1	3		4	40.0	8.82	54.9
CC3004		2	1	3	30.0	2.32	14.4
合計	1	8	1	10	100.0	16.07	100.0

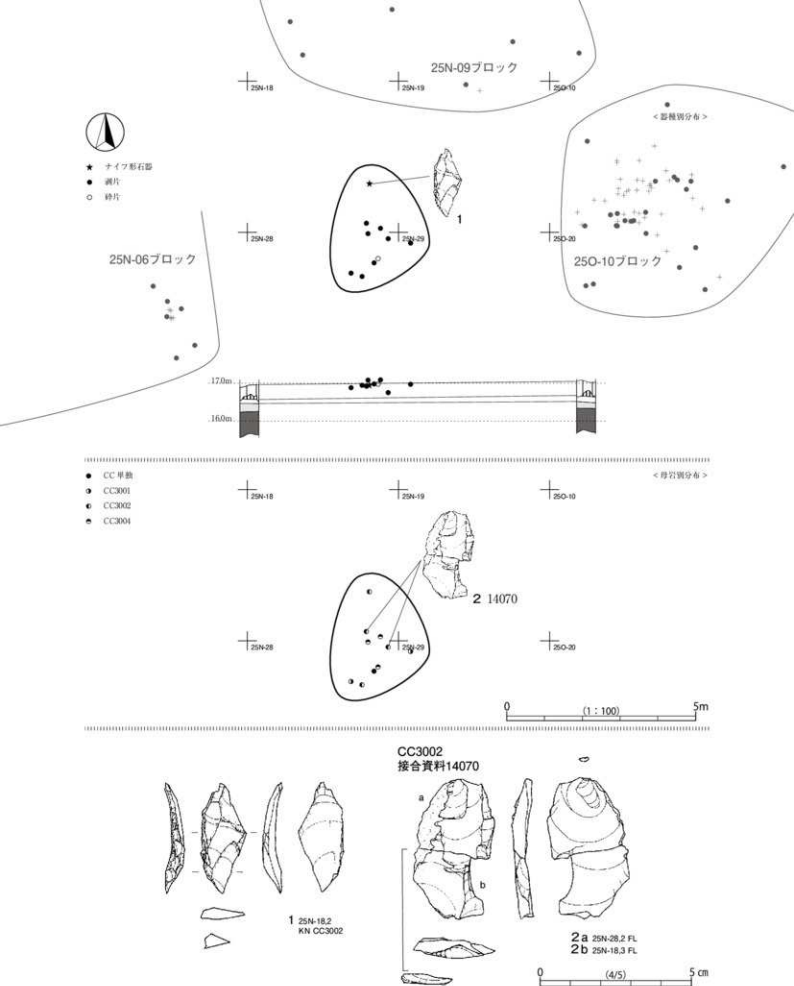
第4文化層 25O-10ブロック (第108・109図、第55表、図版5・55・56)

ユニット4bの東寄りの25O-10・11・20・21グリッドに分布する。8.0m×5.7mの範囲から24点の石器が出土した。38点の礫片からなる礫群を伴う。分布は南側に偏る。出土層位はⅢ層で、南に傾斜する地形に沿って0.76mの高低差をもって包含される。25N-06・25N-53ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、メノウ(9点)・頁岩(8点)・ガラス質黒色安山岩(5点)・珪質頁岩・硬質頁岩(各1点)で構成される。母岩共有は、ユニット4b内でみられる。メノウは25N-06ブロックと、頁岩は25N-06・25N-09ブロックと、ガラス質黒色安山岩は25N-06・25N-53ブロックと、珪質頁岩は25N-53ブロックと母岩共有がみられる。

第55表 第4文化層25O-10ブロック石器組成表

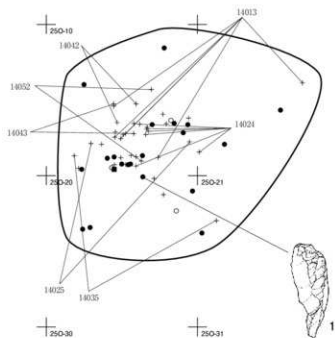
母岩番号/器種	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
CC	3	1		4	16.7	40.45	28.2
CC1006	2	1		3	12.5	2.18	1.5
CC3005	1			1	4.2	2.49	1.7
CC4003	1			1	4.2	7.25	5.0
SH単独	1			1	4.2	6.93	4.8
SH1002	5		1	6	25.0	69.14	48.1
SH2005	1			1	4.2	1.41	1.0
SS1003	1			1	4.2	1.97	1.4
HS単独	1			1	4.2	1.3	0.9
GA4006	4	1		5	20.8	10.56	7.3
合計	20	3	1	24	100.0	143.68	100.0



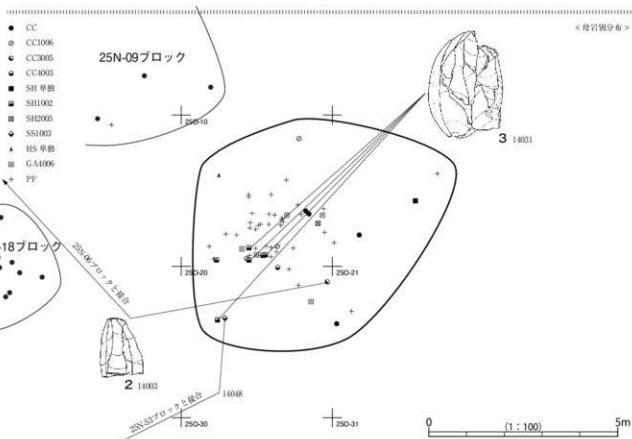
第107図 第4文化層25N-18ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器



- 湖片
- 砂片
- 石核
- + 礫片

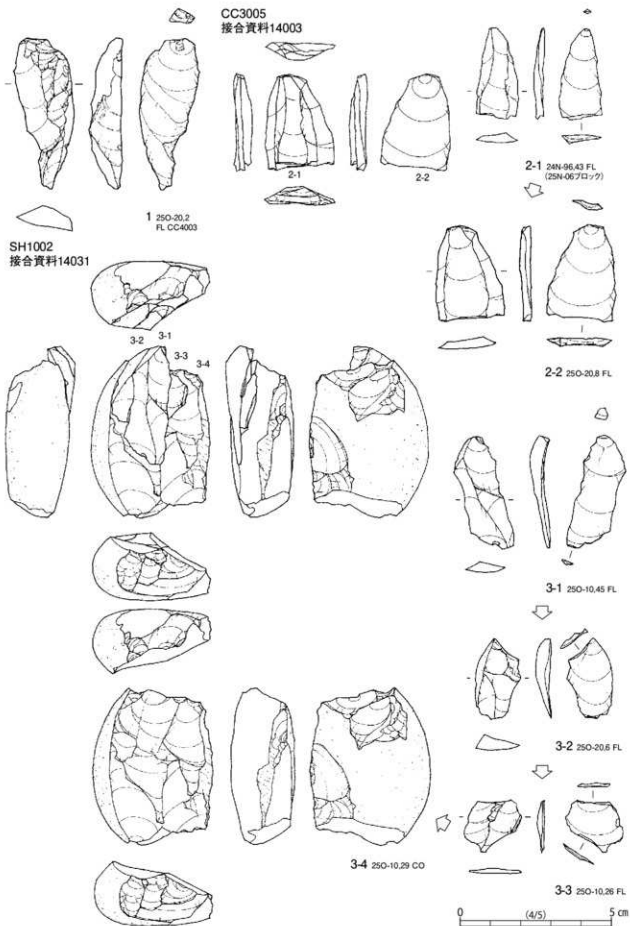


< 器種別分布 >



< 母岩別分布 >

第108図 第4文化層25O-10ブロック器種別・母岩別分布図



第109図 第4文化層250-10ブロック出土石器

1はCC4003の縦長剥片である。打面調整がみられる。右側面に大きな剥離面の一部を取り込んでおり、鋭角な作業面をもつ石核の角から剥離された事がわかる。

2(接合資料14003)はCC3005の縦長剥片2点が接合する。頭部・打面ともに無調整である。同時割れと考えられる。2点とも器体中央で欠損しており、剥離時に折損したものと考えられる。

3(接合資料14031)はSH1002の剥片3点と石核1点が接合する。扁平な円礫を素材とする。4つの工程がみられる。第1工程は、打面を作出する工程で、3-1の打面に平坦な剥離面が残る。第2工程は、作出された打面から縦長剥片を剥離する工程で、3-1・3-2・3-3と数枚の剥片が剥離される。対向する下面の打面からも縦長剥片が剥離される。打面調整がみられる。第3工程は、打面を更新し、右側縁の稜上を調整する工程である。第4工程は、更新された打面から剥片を剥離する工程である。その後、残核3-4が廃棄される。

第4文化層 25N-46ブロック(第110～116図、第56表、図版5・56～59)

ユニット4bの中央の25N-45～47・56・57グリッドに分布する。11.8m×5.2mの範囲から122点の石器と3点の礫片が出土した。土層セクションをみるとブロック範囲の西に地形の窪みがあり、2m×2m程度の窪みの中に112点の石器が集中する。出土層位はⅢ層で、地形の変化に沿って0.60mの高低差をもつて包含される。25N-53ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。石材組成は、頁岩(60点)・メノウ(36点)・珪質頁岩(22点)・ガラス質黒色安山岩(3点)・トトロ石(1点)で構成される。母岩共有は、ユニット4b内で頻繁にみられる他、母岩SS3003がユニット4aの23N-65ブロックとユニット間で母岩共有がみられる。頁岩は25N-06・25N-53・25N-51ブロックと、メノウは25N-06・25N-09・

第56表 第4文化層25N-46ブロック石器組成表

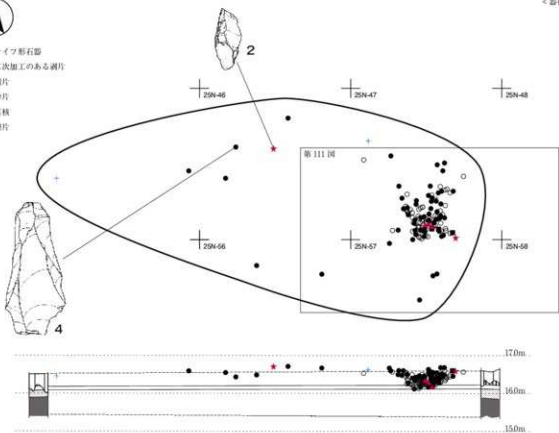
母岩番号/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(%)
CC			1	11		12	9.8	2.89	1.2
CC2001	1		13	3		17	13.9	17.75	7.5
CC2003			3			3	2.5	9.73	4.1
CC3002				2		2	1.6	0.73	0.3
CC3003			2			2	1.6	3.46	1.5
SH				24		24	19.7	2.48	1.1
SH単独					1	1	0.8	37.68	16.0
SH0001			1			1	0.8	5.26	2.2
SH0006			1			1	0.8	12.04	5.1
SH1013			2			2	1.6	6.94	3.0
SH2001		2	18	8	1	29	23.8	63.65	27.1
SH2003				2		2	1.6	0.26	0.1
SS0005			2	4		6	4.9	1.83	0.8
SS1001					1	1	0.8	35.98	15.3
SS2002		1	2			3	2.5	3.75	1.6
SS3001			4	2		6	4.9	8.73	3.7
SS3002			2	3		5	4.1	4.7	2.0
SS3003			1			1	0.8	1.85	0.8
GA4003	1		2			3	2.5	14.08	6.0
TO			1			1	0.8	1.36	0.6
合計	2	3	55	59	3	122	100.0	235.15	100.0



- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある副片
- 副片
- 碎片
- 石核
- + 産片

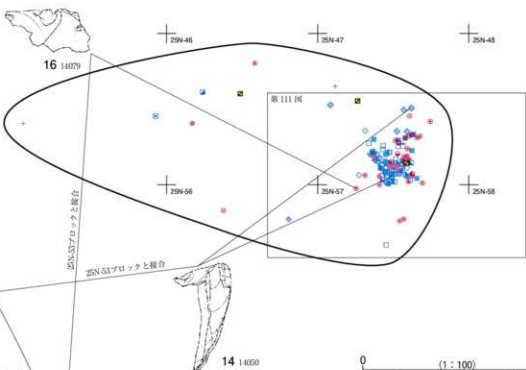
25N-06ブロック

<器種別分布>



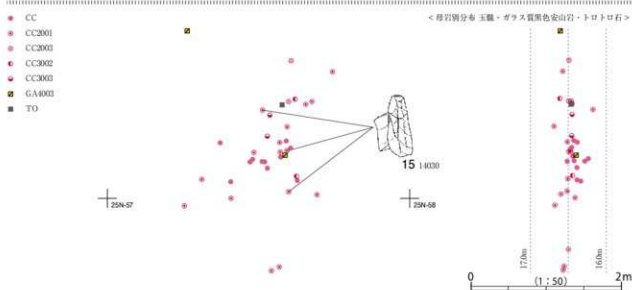
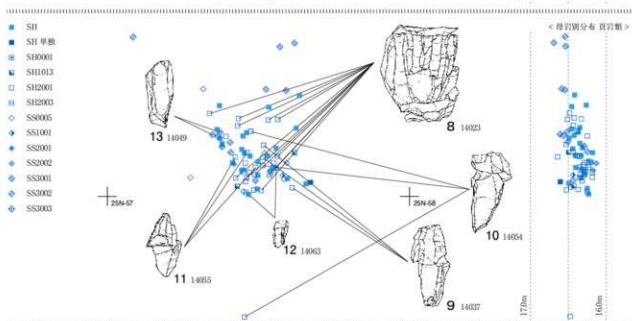
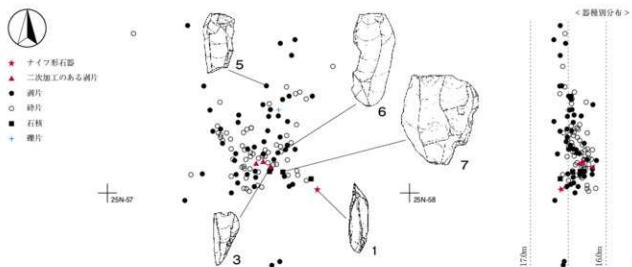
- CC
- CC2001
- CC2003
- CC3002
- CC3003
- SH
- SH 甲類
- SH0001
- SH0006
- SH1013
- SH2001
- SH2003
- ◇ SS0005
- ◇ SS1001
- ◇ SS2002
- ◇ SS3001
- ◇ SS3002
- ◇ SS3003
- GA4003
- TO
- + PF

<母岩別分布>



25N-53ブロック

第110図 第4文化層25N-46ブロック器種別・母岩別分布図



第111図 第4文化層25N-46ブロック器種別・母岩別詳細分布図

25N-18・25N-53ブロックと、珪質頁岩は25N-06・25N-53ブロックと、ガラス質黒色安山岩は25N-53ブロックと母岩共有がみられる。

1・2はナイフ形石器である。1はCC2001の幅広剥片を素材として、打点を左側縁に設定する。調整は左側縁に施され、側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、打面が大きく切断される。右側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられ、基部にわずかに調整が施される。2はGA4003の縦長剥片を素材として、打面を先端に設定する。先端部は欠損する。調整は両側縁に施され、左側縁は上半部に腹面から急角度の調整、対向調整が施され打面部が切断され、右側縁は、基部に腹面から急角度の調整が施される。右側縁上半左側縁下半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

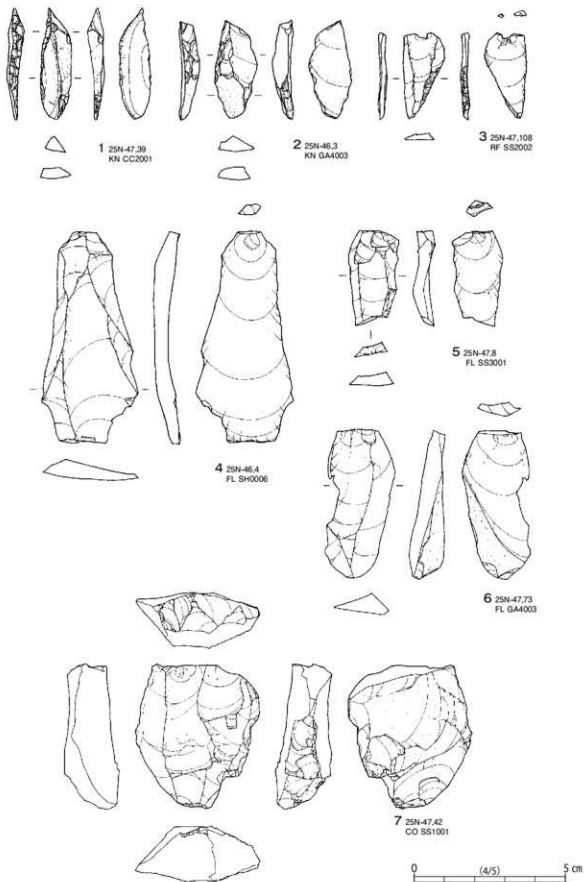
3はSS2002の二次加工のある剥片である。縦長剥片を素材とし右側縁に腹面から急角度の調整が施される。打点部は剥離時に背面の剥離面が同時割れし欠損したと考えられる。

4～6は縦長剥片である。4はSH0006の縦長剥片である。わずかに頭部調整がみられる。下端部は広がる。5はSS3001の縦長剥片である。頭部調整と打面調整がみられる。先端は欠損する。6はGA4003の縦長剥片である。打面・頭部ともに無調整である。石核底面を取り込み、右側面に自然面を取り込むため、作業面の角から剥離されたことがわかる。

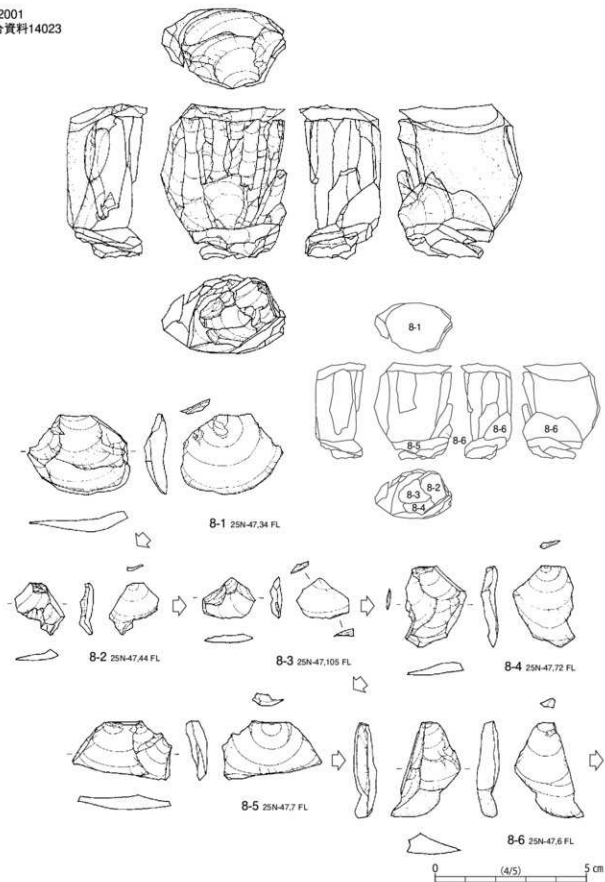
7はSS1001の石核である。素材形状は不明であるが、裏面上半の大きな剥離は自然面の可能性がある。上下に打面を作出し、主に上面の打面から縦長剥片を剥離する。下面の打面に打面調整、右側縁に後上調整がみられる。

8（接合資料14023）はSH2001の剥片11点と石核1点が接合する。小型の縦長剥片の剥離工程をよく示す資料である。工程を詳述する。円礫を素材とする。下面の剥離面の状態は自然面に近いようにみえること、背面が湾曲することから、礫の分割工程を挟まず円礫の状態から工程を開始すると推定される。4つの工程がみられる。第1工程は、正面の作業面を成形する工程である。第1工程の接合資料はないが、背面に残った剥離面からは、上下に打面を作出した後に、大きな剥離により自然面を除去していると考えられる。第2工程は、上下の打面を作出する工程である。上面の打面は、打面の周縁を巡る剥離の後に、打面全体を更新する大ぶりの剥離で8-1が剥離され、この8-1のバルブに挟られ突出した部分が調整され、平坦な打面が成形される。下面の打面も、上面と同様の剥離で8-2・8-3と複数枚の打面調整剥片が剥離された後に、大ぶりの剥離で8-4・8-5が剥離される。その後、横方向からの剥離で8-6が剥離される。8-6の剥離により下面はやや先細り形状になるため、下面の剥離は打面成形ではなく石核末端的作業面成形と捉える事もできる。第3工程は、成形された打面から縦長剥片を連続剥離する工程である。主に上面の打面から剥離される。まず左右の角から裏面と作業面が成す稜を用いて剥離が開始され8-7と8-8～8-10が剥離される。その後、半周縁型の作業面を成形しながら作業面の中央へと進行していき8-11が剥離される。8-11は対向する下面の打面から剥離と同時に割れている可能性があり、角度が付いた下面の打面を台石側に設定し、両極剥離を用いて薄手の縦長剥片を剥離していると考えられる。頭部は無調整で顕著な打面調整がみられる。剥離が進行し、作業面中央にヒンジが残るようになった状態で残核8-12が廃棄される。

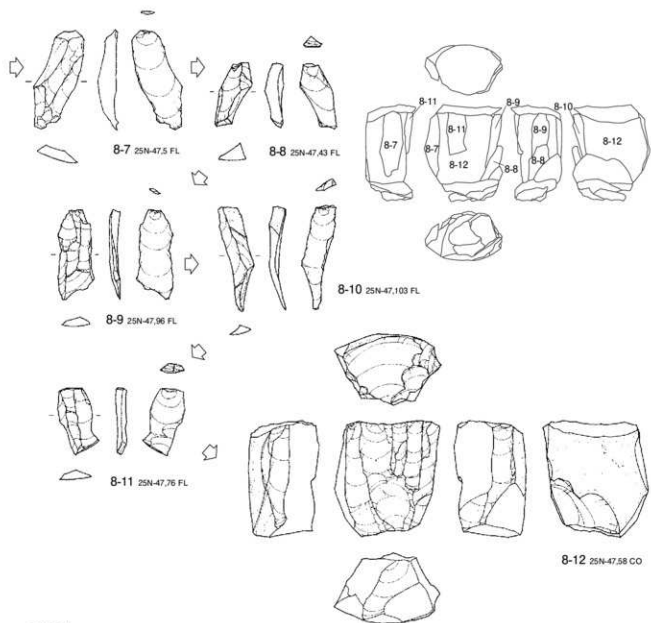
9（接合資料14037）はSH2001の剥片3点が接合する。9-1は同時割れした剥片2点が接合する。両設打面から9-1・9-2と数枚の縦長剥片が連続剥離される。頭部は無調整で打面調整がみられる。9-1は両極剥離で同時剥離されたと考えられる剥片9-1a・9-1bが接合している。9-2も9-1aと同様に末端がヒンジ状になっており、両極剥離で剥離されたと考えられる。



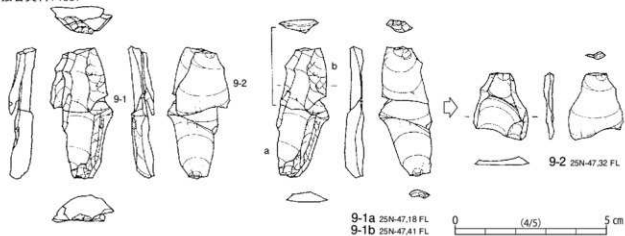
第112図 第4文化層25N-46ブロック出土石器(1)



第113図 第4文化層25N-46ブロック出土石器(2)

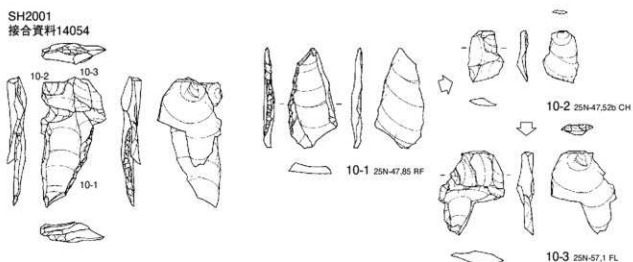


SH2001
接合資料14037

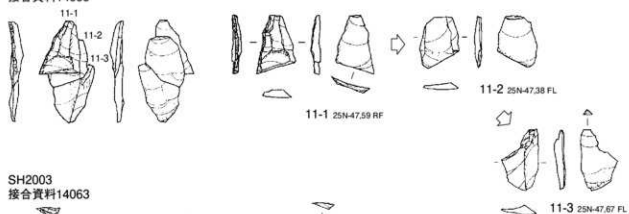


第114図 第4文化層25N-46ブロック出土石器(3)

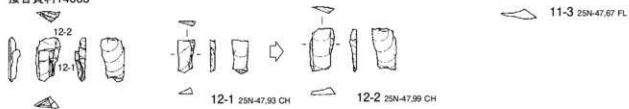
SH2001
接合資料14054



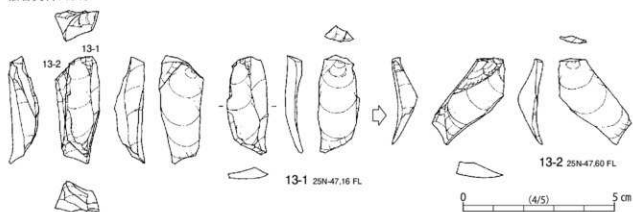
SH2001
接合資料14055



SH2003
接合資料14063

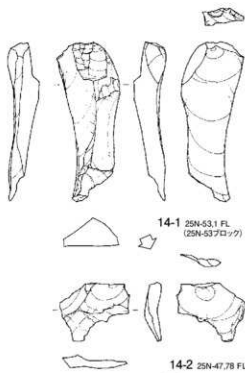
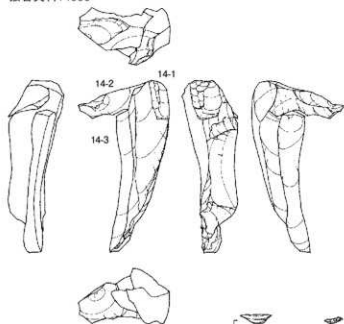


SS3002
接合資料14049



第115図 第4文化層25N-46ブロック出土石器(4)

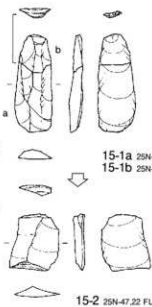
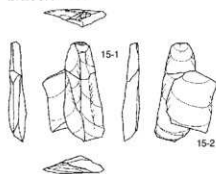
SS3001
接合資料14050



14-1 25N-53.1 FL
(25N-537ブロック)

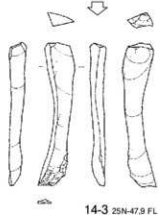
14-2 25N-47.78 FL

CC2001
接合資料14030



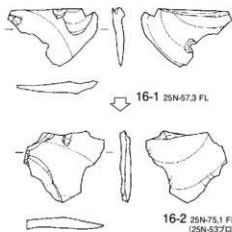
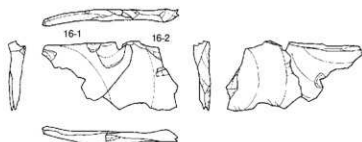
15-1a 25N-47.109 FL
15-1b 25N-47.49 FL

15-2 25N-47.22 FL



14-3 25N-47.9 FL

CC2001
接合資料14079



16-1 25N-57.3 FL

16-2 25N-75.1 FL
(25N-537ブロック)

0 (4/5) 5 cm

第116図 第4文化層25N-46ブロック出土石器(5)

10 (接合資料14054)はSH2001の二次加工のある剥片1点と剥片1点と碎片1点が接合する。両設打面から10-1～10-3と数枚の縦長剥片が連続剥離される。9と同様に両側剥離を用いて薄手の縦長剥片を剥離していると考えられる。頭部は未調整で打面調整がみられる。10-1は左側縁に腹面から急角度の調整が施され、打面部が切断される。右側縁基部が未調整のナイフ形石器未成品として分類することもできる。

11 (接合資料14055)はSH2001の二次加工のある剥片1点と剥片2点が接合する。同一と考えられる打面から11-1～11-3と数枚の縦長剥片が連続剥離される。9・10と同様に両側剥離を用いて薄手の縦長剥片を剥離している。11-1は左側縁に腹面から急角度の調整が施され打面部が切断される。末端が欠損する。ナイフ形石器として分類することもできる。

12 (接合資料14063)はSH2003の碎片2点が接合する。連続剥離された縦長剥片の一部が折損したものである。

13 (接合資料14049)はSS3002の剥片2点が接合する。同一打面から13-1・13-2の縦長剥片が連続剥離される。頭部調整と打面調整がみられる。左側面に大きく平坦な剥離面の一部を取り込んでおり、右側面も大きな剥離面の一部を取り込むことから、小口状の作業面を持つ石核から剥離されていることがわかる。

14 (接合資料14050)はSS3001の剥片3点が接合する。ブロック間接合資料で、14-1は25N-53ブロックから出土した。打面再生剥片14-2を介して縦長剥片14-1・14-3が剥離される。わずかな頭部調整と顕著な打面調整、下端には稜上調整がみられる。左側面と右側面上端に大きく平坦な剥離面の一部を取り込むことから、板状の石核の小口から剥離されていることがわかる。

15 (接合資料14030)はCC2001の剥片3点が接合する。15-1は剥離時に折損した剥片2点が接合する。同一と考えられる打面から縦長剥片15-1・15-2を連続剥離している。頭部は無調整で打面調整がみられる。

16 (接合資料14079)はCC2001の剥片2点が接合する。ブロック間接合資料で、16-2は25N-53ブロックから出土した。多方向から剥離された剥片16-1・16-2が接合する。どちらも打面部を欠損する。

第4文化層 25N-53ブロック (第117～125図、第57表、図版5・59～63)

ユニット4bの南西寄りの25N-52～54・62～64・75グリッドに分布する。13.5m×6.7mの範囲から81点の石器と4点の礫片が出土した。ブロック範囲の中央東側に集中地点がある。出土層位はⅢ層で、東に傾斜する地形に沿って0.51mの高低差をもって包含される。25N-06・25O-10・25N-46ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩(29点)・メノウ・珪質頁岩(各23点)・頁岩(4点)・嶺岡産珪質頁岩・流紋岩(各1点)で構成される。母岩共有は、ユニット4b内でみられる。ガラス質黒色安山岩は25N-06・25O-10ブロックと、メノウは25N-06・25N-09・25N-18・25N-46ブロックと、珪質頁岩は25N-06・25O-10・25N-46ブロックと、頁岩は25N-09・25N-46ブロックと母岩共有がみられる。

1～11はナイフ形石器である。1はGA4003の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。2はGA4004の縦長剥片を素材として調整は両側縁に施され、左側縁は基部に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。打面は残置される。左側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いら

れる。

3はSS2001の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁の基部に背面から調整が施され、打面部が裏面平坦調整によって除去される。先端は両側縁ともに素材縁辺が刃部として用いられ、左側縁と正面先端に衝撃剥離痕がみられる。4（接合資料14071）はSS1002の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定する。折損した2点が接合する。調整は左側縁上半に施され、腹面から急角度の調整が施され打面部が切断される。基部の剥離は剥片剥離時にできた夾雑物による破碎と考えられる。5はSS1001の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は上半に腹面から急角度の調整が施される。右側縁は下半に腹面から急角度の調整が施され打面部が除去される。左側縁下半・右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

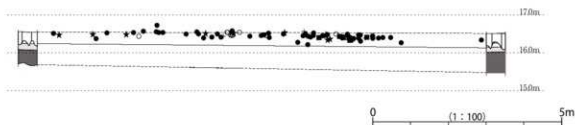
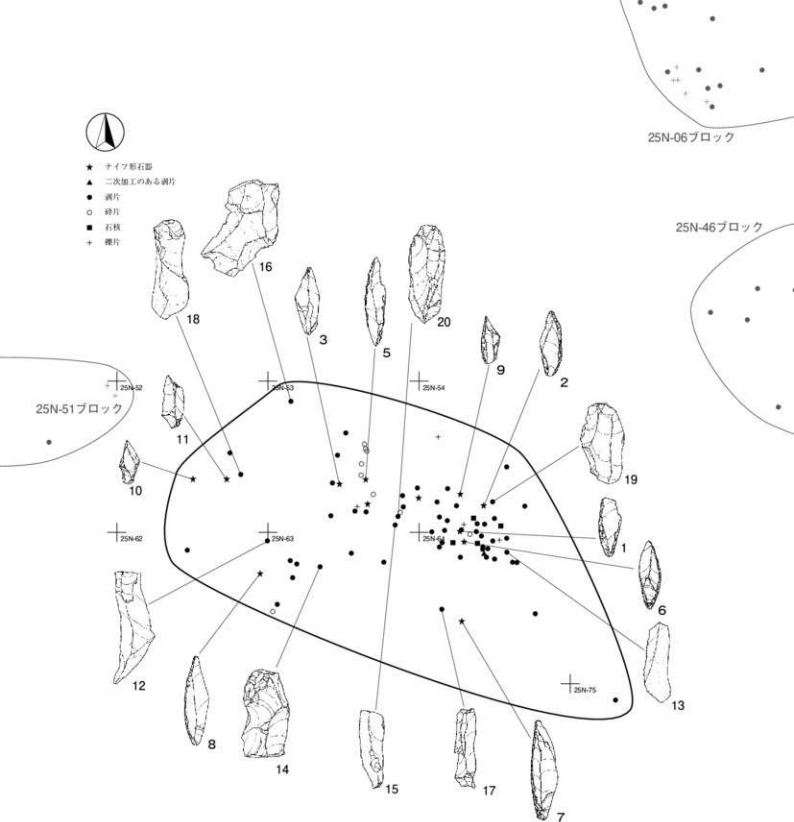
6はSH1005の縦長剥片を素材とする。打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は基部に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。左側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。7は単独母岩の頁岩の縦長剥片を素材として、打点が基部に設定される。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、基部裏面にも平坦調整が施される。右側縁は基部に背面から急角度の調整が施され、末端は平坦調整でバルブが除去される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

第57表 第4文化層25N-53ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	剥片	破片	石核	点数合計		重量合計	
							(%)	(g)	(%)
CC	1			2		3	3.7	1.11	0.2
CC単独			1			1	1.2	8.43	1.8
CC1004	1		1			2	2.5	3.05	0.7
CC2001	2		7	1		10	12.3	21.93	4.8
CC3001			1			1	1.2	14.03	3.1
CC3004			1	1		2	2.5	2.17	0.5
CC4004			2		1	3	3.7	28.41	6.2
CC4008			1			1	1.2	5.71	1.2
SH				1		1	1.2	0.07	0.01
SH単独	1					1	1.2	2.95	0.6
SH1005	1					1	1.2	1.18	0.3
SH2003			1			1	1.2	1.39	0.3
SS単独			1			1	1.2	2.26	0.5
SS1001	1		3	1		5	6.2	12.78	2.8
SS1002	2			1		3	3.7	2.53	0.6
SS1003					1	1	1.2	60.74	13.3
SS1006			1			1	1.2	8.0	1.7
SS2001	1		3	2		6	7.4	8.06	1.8
SS2002			4			4	4.9	12.16	2.7
SS2005			1			1	1.2	1.51	0.3
SS3001			1			1	1.2	7.38	1.6
MS0004			1			1	1.2	4.99	1.1
GA4003	1		18			19	23.5	62.36	13.6
GA4004	1					1	1.2	1.7	0.4
GA4006		1	1		1	3	3.7	64.61	14.1
GA4007			4		1	5	6.2	91.67	20.0
GA4015			1			1	1.2	20.92	4.6
RH0003			1			1	1.2	5.94	1.3
合計	12	1	55	9	4	81	100.0	458.04	100.0



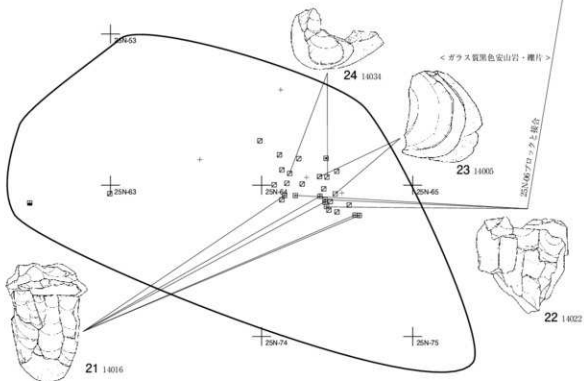
- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 礫片



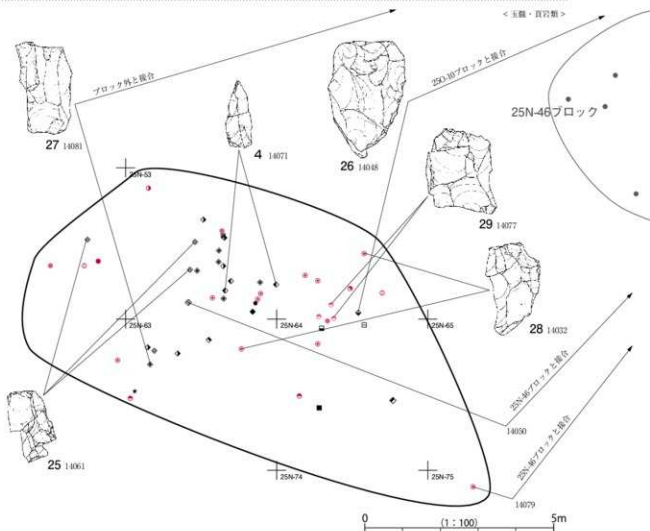
第117図 第4文化層25N-53ブロック器種別分布図



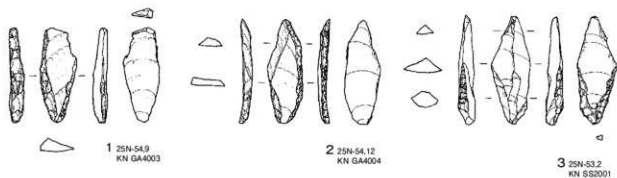
- GA4003
- GA4004
- ▨ GA4006
- ▩ GA4007
- GA4015
- + PF



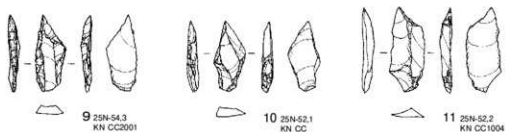
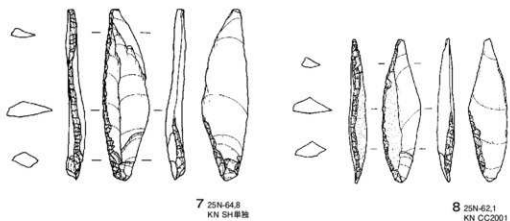
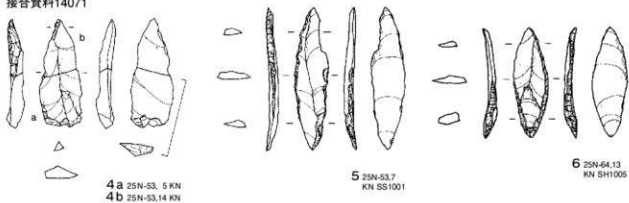
- CC
- CC 半粒
- CC1004
- CC2001
- CC3001
- CC3004
- CC4004
- CC4008
- SH
- SH 半粒
- SH1005
- SH2003
- ◆ SS 半粒
- ◆ SSI001
- ◆ SSI002
- ◆ SSI003
- ◆ SSI006
- ◆ SSS001
- ◆ SSS002
- ◆ SSS005
- ◆ SSS001
- ◆ MS0004
- ◆ RH0003



第118図 第4文化層25N-53ブロック母岩別分布図

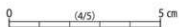
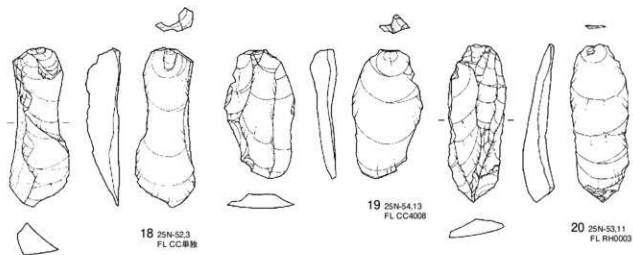
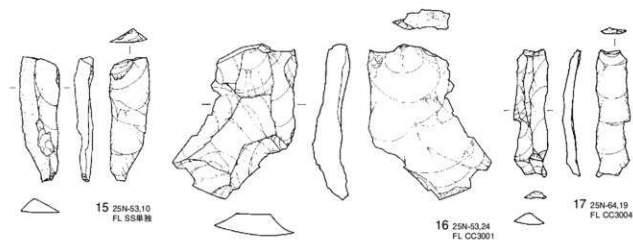
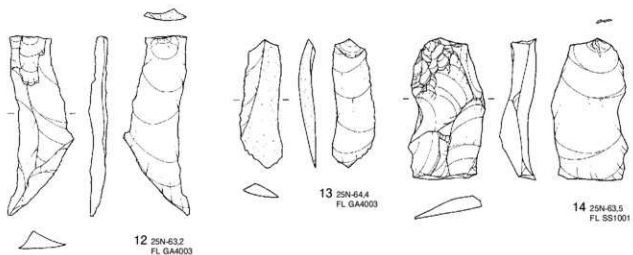


SS1002
接合資料14071



0 (4/5) 5 cm

第119図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(1)



第120図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(2)

8はCC2001の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定し素材を斜位に用いる。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。右側縁は裏面基部に背面からやや平坦な調整が施される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

9はCC2001の剥片を素材として、打点を先端に設定し素材を斜位に用いる。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施される。基部末端は素材縁辺が残置され平基になる。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。10はメノウの剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は腹面から急角度の調整が施され、打面部が除去される。右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。11はCC1004の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定する。調整は右側縁の先端と基部にのみ、腹面から急角度の調整が施され、基部と尖鋭な先端が成形される。左側縁と右側縁の一部は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

12～20は縦長剥片である。12・13はGA4003の縦長剥片である。12は頭部・打面ともに無調整である。13は打面部を欠損する。背面に自然面が大きく残る。

14はSS1001の縦長剥片である。点打面で頭部調整がみられる。多方向からの剥離で乱れた作業面の石核から剥離されている。先端は欠損する。15は単独母岩の珪質頁岩の縦長剥片である。打面部は欠損する。

16はCC3001の縦長剥片である。多方向からの剥離で乱れた作業面から剥離されている。17はCC3004の縦長剥片である。打面部は欠損する。18は単独母岩のメノウの縦長剥片である。打面は調整打面でわずかな頭部調整がみられる。背面の剥離面と自然面との角度が直角に近いことから、石核の角から剥離されたことがわかる。19はCC4008の縦長剥片である。打面は無調整でわずかな頭部調整がみられる。

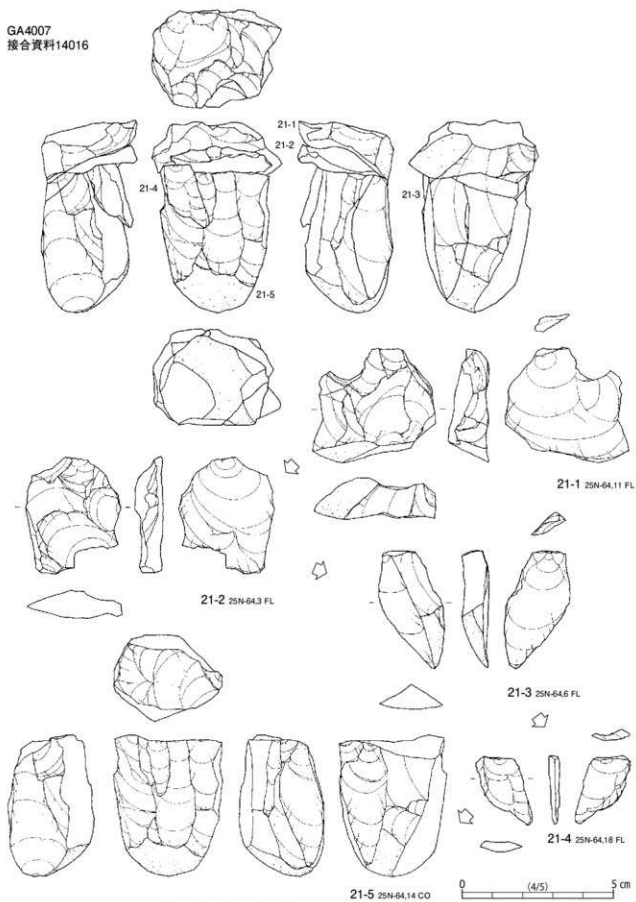
20はRH0003の縦長剥片である。打面調整がみられる。比較的整った作業面の石核から剥離されており、底面に下面の打面を残す。

21(接合資料14016)はGA4007の剥片4点と石核1点が接合する。円礫を素材とする。4つの工程がみられる。第1工程は、打面を更新する工程である。打面全体を更新する打面再生剥片21-1が剥離され、バルブに挟られ突出した部分も調整され、平坦な打面が成形される。第2工程は、更新された打面から剥片を剥離する工程で、21-2の右側面に剥離面が残る。第3工程は、再び打面を更新する工程で、打面再生剥片21-2を剥離し打面を更新する。第4工程は、更新された打面から縦長剥片を連続剥離する工程である。21-3・21-4が剥離される。その後残核21-5が廃棄される。

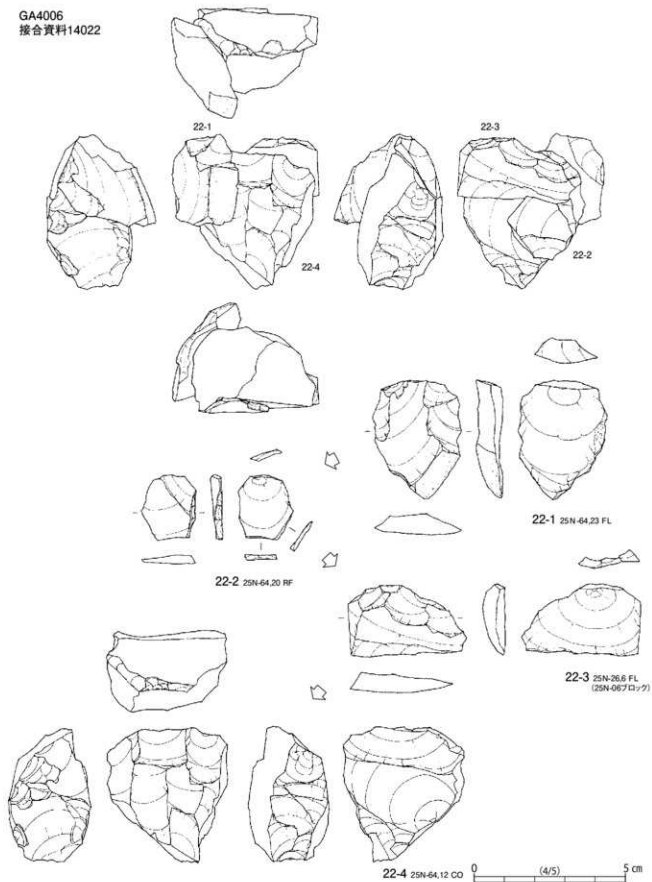
22(接合資料14022)はGA4006の二次加工のある剥片1点と剥片2点と石核1点が接合する。ブロック間接合資料で、22-3は25N-06ブロックから出土した。3つの工程がみられる。第1工程は、図の裏面側を打面として、22-1と数枚の剥片が剥離される。第2工程は、打面を90度転移して22-2・22-3を剥離する。第3工程は、第2工程で剥離された作業面から剥片を剥離する工程である。図の正面にあたる作業面で上下を打面として剥片が剥離される。頭部は無調整でわずかな打面調整がみられる。その後、残核22-4が廃棄される。

23(接合資料14005)はGA4003の剥片2点が接合する。円礫を素材とする。先行する剥離面を取り込む幅広の剥片23-1・23-2が連続剥離される。

24(接合資料14034)はGA4003の剥片2点が接合する。円礫を素材とする。23と同様に先行する剥離面を取り込む幅広の剥片24-1・24-2が連続剥離される。24-2は打面部が欠損する。

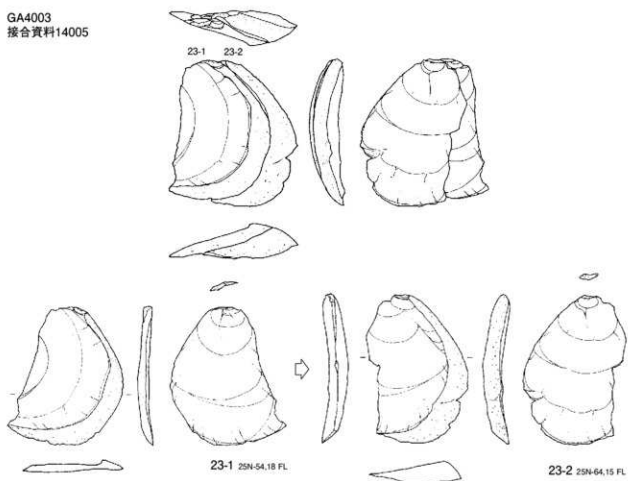


第121図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(3)

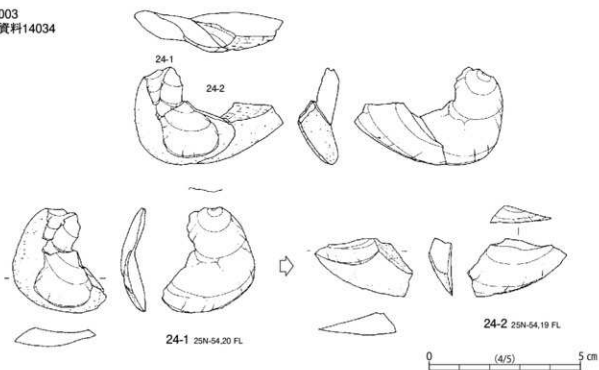


第122図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(4)

GA4003
接合資料14005

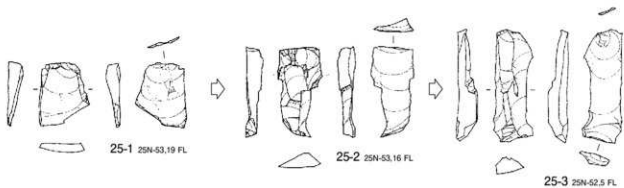
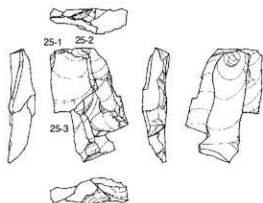


GA4003
接合資料14034

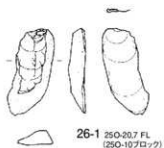
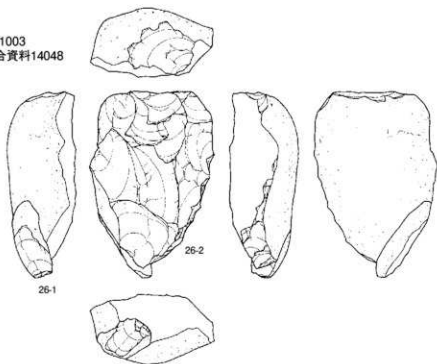


第123図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(5)

SS2002
接合資料14061

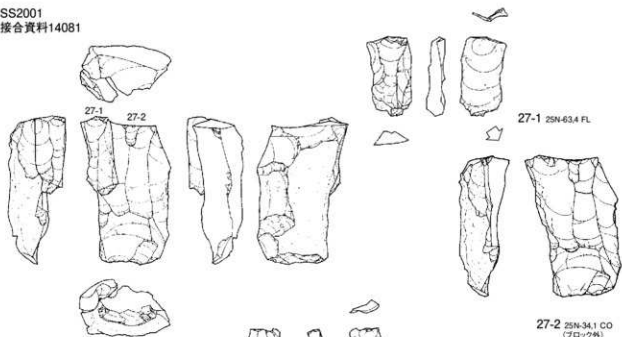


SS1003
接合資料14048

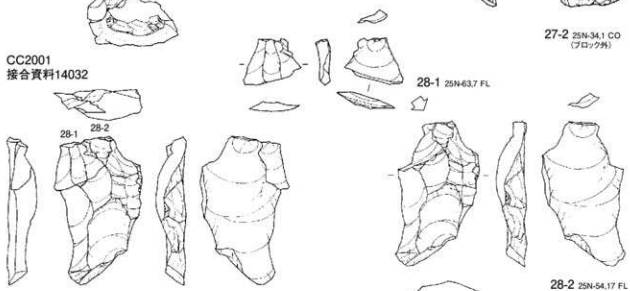


第124図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(6)

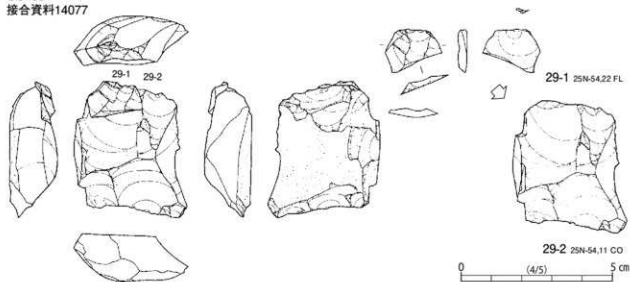
SS2001
接合資料14081



CC2001
接合資料14032



CC4004
接合資料14077



第125図 第4文化層25N-53ブロック出土石器(7)

25(接合資料14061)はSS2002の剥片3点が接合する。同一打面から縦長剥片を連続剥離し、25-1～25-3が剥離される。25-1はヒンジを起し作業面が乱れるが、その後、25-2・25-3が石核底面まで達したことで作業面を取り込みヒンジが除去されている。

26(接合資料14048)はSS1003の剥片1点と石核1点が接合する。ブロック間接合資料で、26-1は250-10ブロックから出土した。小型の円礫を素材とする。礫の分割工程を挟まず円礫の状態から工程を開始する。3つの工程がみられる。第1工程は、打面を作出する工程である。上面・下面ともに円礫の端部を剥離して26-1の剥片が剥離され、打面が作出される。第2工程は、剥片を剥離する工程で、左右側面の自然面を打面として数枚の剥片が剥離される。第3工程は、打面を転移して剥片を剥離する工程で、第1工程で作出された上下の打面から数枚の剥片を剥離する。その後、残核26-2が廃棄される。

27(接合資料14081)はSS2001の剥片1点と石核1点が接合する。石核27-2は11m離れたブロック外から出土した。角礫を素材とする。上下に作出された打面から縦長剥片を連続剥離し、27-1と数枚の剥片が剥離される。頭部調整がみられる。裏面には横方向の作業面調整がみられる。その後、残核27-2が廃棄される。

28(接合資料14032)はCC2001の剥片2点が接合する。同一打面から剥片を連続剥離し、28-1・28-2が剥離される。頭部・打面ともに無調整である。28-2の右側面に稜上調整がみられる

29(接合資料14077)はCC4004の剥片1点と石核1点が接合する。垂角礫を素材とする。接合する2点ともに同じ位置に被熱の影響がみられるため、剥片剥離に際して被熱処理している可能性が高い。表裏の作業面を交互に転移しながら多方向から剥片を剥離し、29-1を剥離する。その後、残核29-2が廃棄される。

第4文化層 25N-51ブロック(第126図、第58表、図版63)

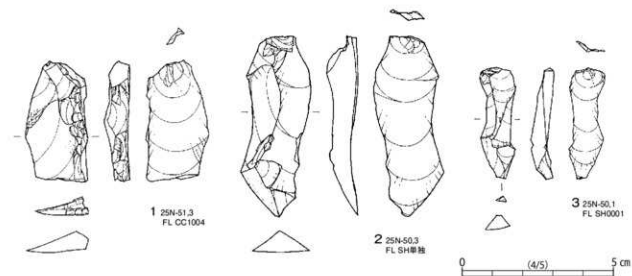
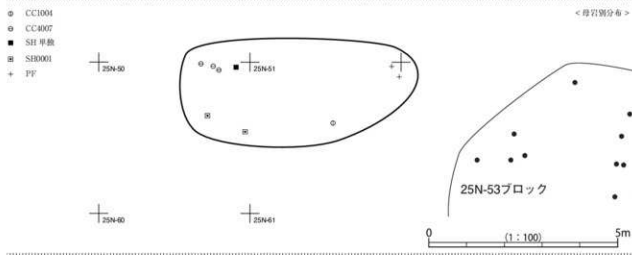
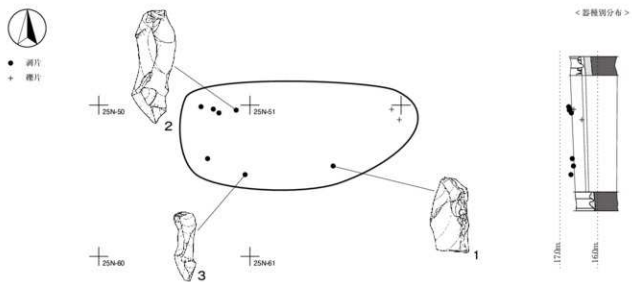
ユニット4bの南西寄りの25N-50・51グリッドに分布する。6.3m×2.9mの範囲から7点の石器と2点の礫片が出土した。分布は西側に偏る。出土層位はⅢ層である。地形は南にやや傾斜するが、石器は0.37mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、剥片のみで構成される。石材組成は、メノウ(4点)・頁岩(3点)で構成される。母岩共有は、ユニット4b内でみられる。メノウは25N-06・25N-53ブロックと、頁岩は25N-46ブロックと母岩共有がみられる。

1～3は縦長剥片である。1はCC1004の縦長剥片である。頭部・打面ともに無調整である。顕著な稜上調整がみられる。2は単独母岩の頁岩の縦長剥片である。頭部を削る剥離面は剥片剥離時の衝撃による同時割れにみえる。背面が甲高で左側面の下端に自然面を取り込むことから、作業面の角から剥離されたことがわかる。3はSH0001の縦長剥片である。頭部調整がみられる。

第58表 第4文化層25N-51ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	点数合計		重量合計	
			(%)	(g)	(%)
CC1004	1	1	14.3	6.44	21.1
CC4007	3	3	42.9	12.83	42.1
SH単独	1	1	14.3	8.48	27.8
SH0001	2	2	28.6	2.74	9.0
合計	7	7	100.0	30.49	100.0



第126図 第4文化層25N-51ブロック器種別・母岩別分布図・出土石器

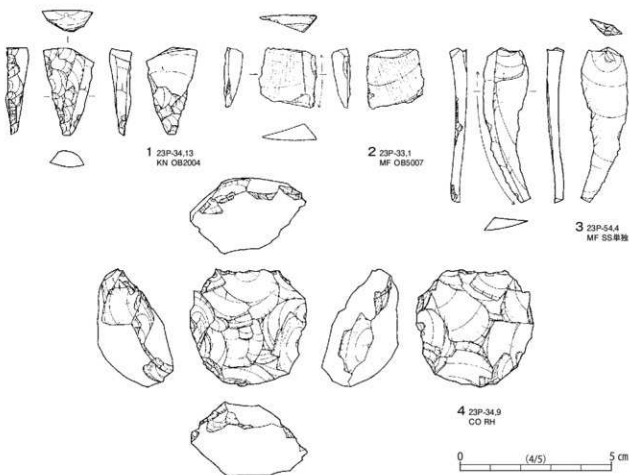
第4文化層 23P-43ブロック (第127・128図、第59表、図版5・63)

東側台地の中央谷寄りの斜面、23P-32～34・42・44・52～54グリッドに分布する。10.2m×9.2mの範囲から12点の石器が出土した。15点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。石器はブロック範囲内に散漫に分布し、礫群は北西隅に分布する。出土層位はⅢ層である。0.32mの高低差をもってほぼ水平に包含される。他ブロックとのブロック間接合はない。

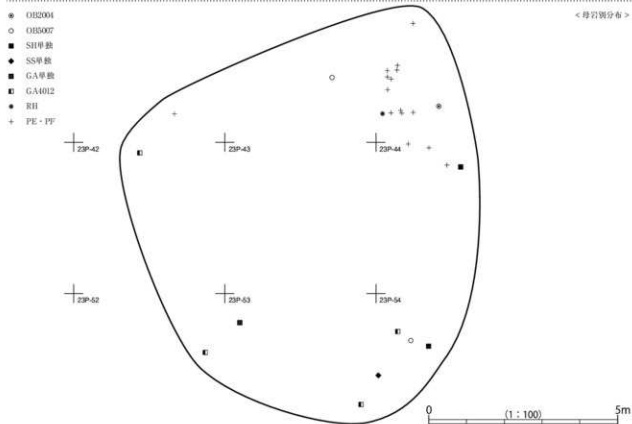
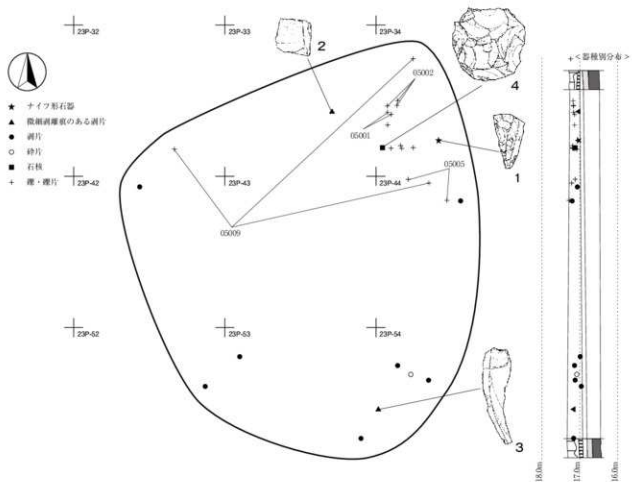
石器器種は、ナイフ形石器・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩(6点)・黒曜石(3点)・頁岩・珪質頁岩・流紋岩(各1点)で構成される。他ブロックとの母岩共有はない。

第59表 第4文化層23P-43ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形 石器	微細剥離痕 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
							(%)	(g)	(%)
OB2004	1					1	8.3	2.76	4.8
OB5007		1		1		2	16.7	2.11	3.7
SH単独			1			1	8.3	0.57	1.0
SS単独		1				1	8.3	2.48	4.3
GA単独			1			1	8.3	2.43	4.2
GA4012			5			5	41.7	14.5	25.2
RH					1	1	8.3	32.69	56.8
合計	1	2	7	1	1	12	100.0	57.54	100.0



第127図 第4文化層23P-43ブロック出土石器



第128図 第4文化層23P-43ブロック器種別・母岩別分布図

1はナイフ形石器である。OB2004の縦長剥片を素材として、打面を基部に設定する。調整は左側縁に腹面からやや平坦な調整が施され打面部が除去される。調整は背縁まで達する。基部裏面には平坦調整が施され、打面部が除去される。上半は欠損する。

2・3は微細剥離痕のある剥片である。2はOB5007の縦長剥片を素材とする。右側縁腹面から部分的に調整が施される。打面部と先端部は欠損する。3は単独母岩の珪質頁岩を素材とする。打面調整がみられる。左側縁に腹面から部分的な調整が施される。

4は流紋岩の石核である。扁平な石核の表裏を作業面とし、周縁を巡るように多方向から剥片が剥離されている。

第4文化層 ユニット4c (第129図、第60・61表、図版5・6・64～66)

東側台地の南、大グリッド25S付近に分布する。総計94点の石器と15点の礫が出土し、3か所の集中地点で構成される。台地の最高点に近い南向き斜面に立地し、IV層上部の石器群と推定される。ユニット内のブロック間接合はない。北東に150m離れる22V-95ブロックとブロック間接合する。

ユニット4cのブロック別石材組成と石器組成は第60表と第61表のとおりである。石器石材は、黒曜石(63.8%)・ガラス質黒色安山岩(20.2%)が多い(点数比)。母岩共有は、ユニット4c内では黒曜石は西寄りのブロックで母岩共有がみられ、ガラス質黒色安山岩は北寄りのブロックで母岩共有がみられる。黒曜石は180m離れたユニット4d・22V-95ブロックとも母岩共有がみられる。石器器種は、ナイフ形石器がある。石刃生産工程を示す接合資料が出土している。

第60表 第4文化層ユニット4cブロック別石材組成表

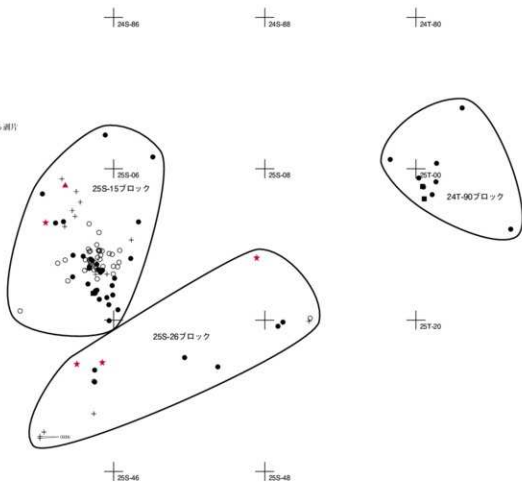
石材/ブロック	25S-15	25S-26	24T-90	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB	52	8		60	63.8	74.43	15.2
CC			1	1	1.1	1.52	0.3
SH	4	1		5	5.3	16.06	3.3
GA	9	1	9	19	20.2	260.09	53.0
TO	7			7	7.4	112.61	22.9
RH	1			1	1.1	24.4	5.0
CH		1		1	1.1	1.96	0.4
点数合計	73	11	10	94	100.00	-	-
重量合計(g)	240.87	104.17	146.03	-	-	491.07	100.00
礫・礫片(点数)	10	5		15	100.00	-	-
礫・礫片(g)	766.54	52.84		-	-	819.38	100.00

第61表 第4文化層ユニット4c石器組成表

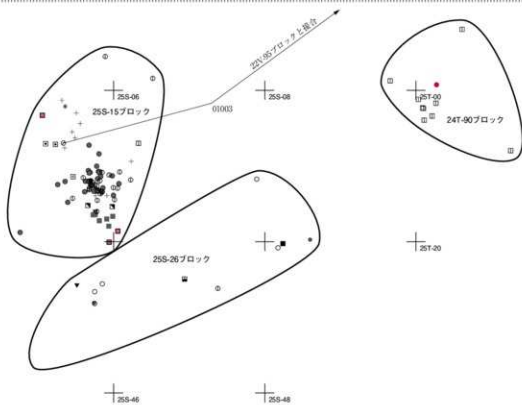
石材/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	合計
OB	2		18	40		60
CC			1			1
SH			4	1		5
GA	1		15	1	2	19
TO			6		1	7
RH		1				1
CH	1					1
合計	4	1	44	42	3	94



- ★ ナイフ型石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 椎・破片



- OB
- OB半数
- OB3004
- OB6001
- OB6003
- CC半数
- SH
- SH1015
- GA
- GA4004
- GA4005
- GA4006
- GA4015
- TO
- RH
- ▼ CH半数
- + PE・PF



第129図 第4文化層ユニット4c 器種別・母岩別分布図

第4文化層 25S-15ブロック (第130～134図、第62表、図版5・64・65)

ユニット4cの西寄りの24S-95・96、25S-05・06・14～16・25グリッドに分布する。11.6m×6.8mの範囲から73点の石器と10点の礫・礫片が出土した。ブロック範囲の南側に集中地点がある。現場記録では出土層位はⅢ層～Ⅳ層である。0.72mの高低差をもって包含される。22V-95ブロックと180m離れてブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(52点)・ガラス質黒色安山岩(9点)・トロトロ石(7点)・頁岩(4点)・流紋岩(1点)で構成される。母岩共有は、ユニット4c内およびユニット4dとユニット間で母岩共有し、黒曜石は25S-26ブロックと21V-66・21V96ブロックで、ガラス質黒色安山岩は24T-90ブロックと21V-66ブロックで母岩共有する。

1はGA4004のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として、打点を基部に設定し斜位に用いる。調整は両側縁の上下に対向する位置に腹面から急角度の調整が施され、上端と下端が切断される。左側縁上半と右側縁下半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

2は流紋岩の二次加工のある剥片である。縦長剥片を素材とする。顕著な頭部調整と稜上調整がみられる。調整は左側縁に大振りの調整と細かい調整が施され、鋸歯縁状の側縁が成形される。

3～7は剥片である。3～5はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。3・4は頭部・打面ともに無調整である。5は打面部を欠損する。6(接合資料05011)はOB6003の縦長剥片である。同時割れた剥片2点と砕片1点が接合する。頭部・打面ともに無調整である。7(接合資料05004)はSH1015の剥片である。同時割れた剥片3点と砕片1点が接合する。

8(接合資料05007)はトロトロ石の剥片1点と石核1点が接合する。円礫から剥離された厚手の剥片あるいは分割個体と考えられる素材とする。正面末端右側の剥離面が素材剥片の主要剥離面と考えたい。3つの工程がみられる。第1工程は、素材主剥離面側を作業面とし、剥片を剥離する作業である。第2工程は、左側縁から稜付き剥片を剥離する工程で、入念な稜上調整を施した後に稜付き剥片8-1が剥離される。8-1は節理面により石核底面を大きく取り込み作業面を更新している。第3工程は、上側の打面から再び剥片を剥離する工程である。その後、残核8-2が廃棄される。

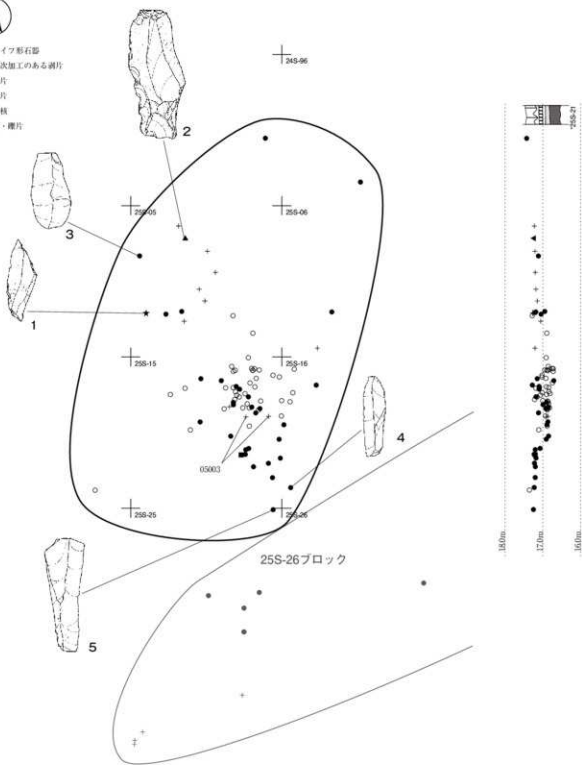
9(接合資料05012)はトロトロ石の剥片2点が接合する。自然面から縦長剥片が連続剥離され、9-1・9-2が剥離される。9-1は両側面が大きな剥離で挟まれており、石核の角から剥離されたことがわかる。

第62表 第4文化層25S-15ブロック石器組成表

母岩番号/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB				28		28	38.4	6.38	2.6
OB単独			1			1	1.4	1.56	0.6
OB6001			1			1	1.4	5.4	2.2
OB6003			12	10		22	30.1	36.53	15.2
SH1015			3	1		4	5.5	12.13	5.0
GA			3	1		4	5.5	17.76	7.4
GA4004	1		1			2	2.7	5.45	2.3
GA4005			2			2	4.1	14.41	6.0
GA4006			1			1	1.4	4.24	1.8
TO			6		1	7	9.6	112.61	46.8
RH		1				1	1.4	24.4	10.1
合計	1	1	30	40	1	73	100.0	240.87	100.0



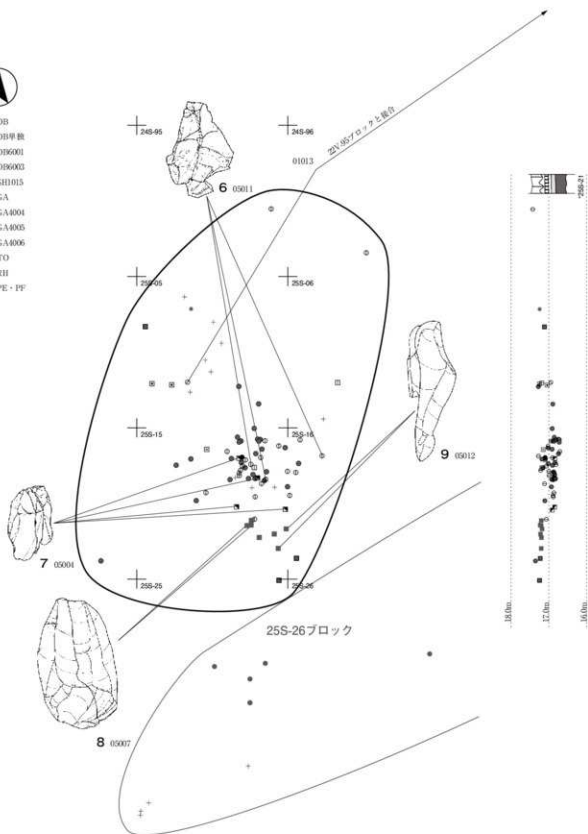
- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 礫・礫片



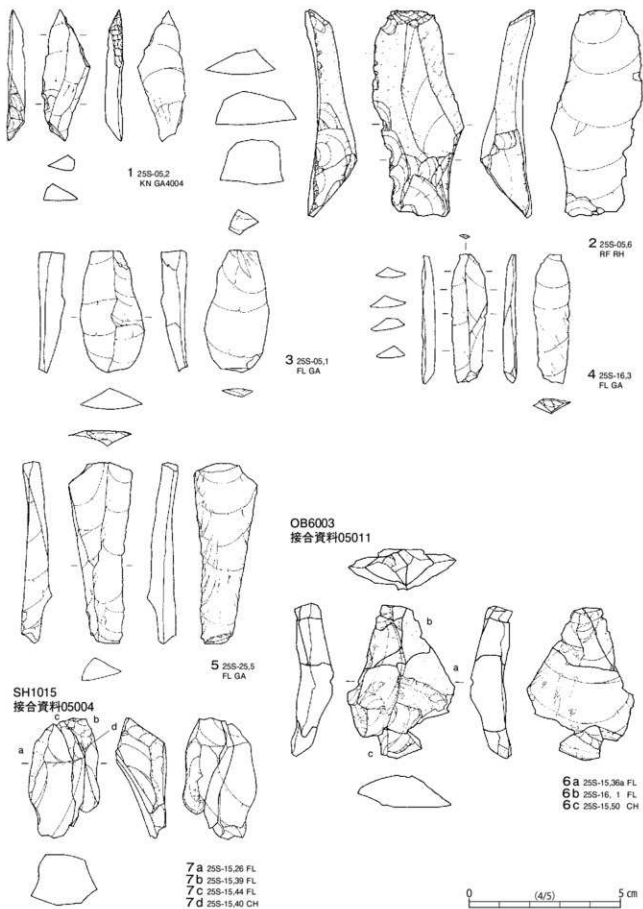
第130図 第4文化層25S-15ブロック器種別分布図



- OB
- OB半段
- OB6001
- OB6003
- SH015
- GA
- GA4004
- GA4005
- GA4006
- TO
- ★ RH
- + PE・PF

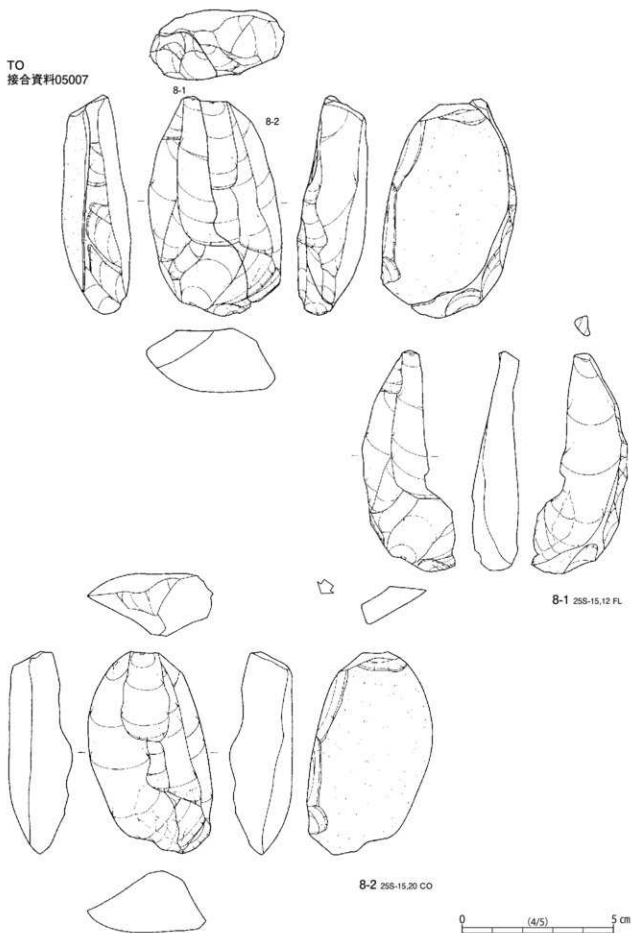


第131図 第4文化層25S-15ブロック母岩別分布図

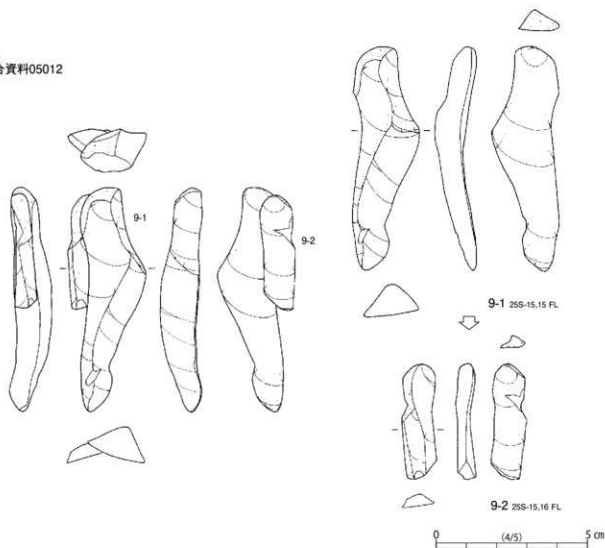


第132図 第4文化層25S-15ブロック出土石器(1)

TO
接合資料05007



第133図 第4文化層25S-15ブロック出土石器(2)



第134図 第4文化層25S-15ブロック出土石器(3)

第4文化層 25S-26ブロック(第135～137図、第63表、図版65)

ユニット4cの西寄りの25S-17・18・25～28・35グリッドに分布する。16.9m×5.2mの範囲から11点の石器と5点の礫・礫片が出土した。石器はブロック範囲に散漫に分布する。現場記録では出土層位はⅢ層である。0.51mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

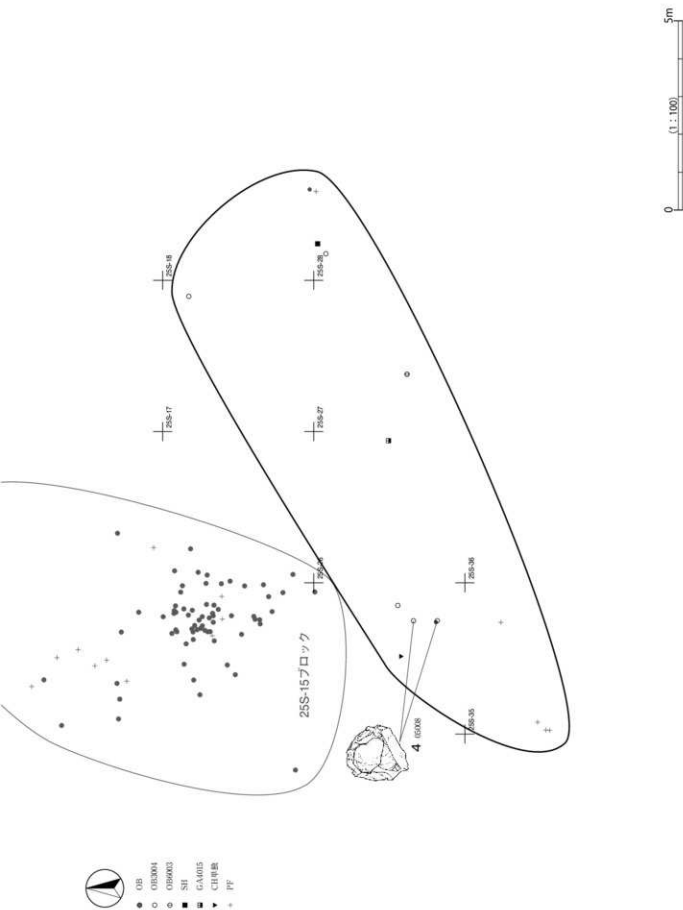
石器器種は、ナイフ形石器・剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石(8点)・頁岩・ガラス質黒色安山岩・チャート(各1点)で構成される。黒曜石がユニット4c内の25S-15ブロックと母岩共有する。

第63表 第4文化層25S-26ブロック石器組成表

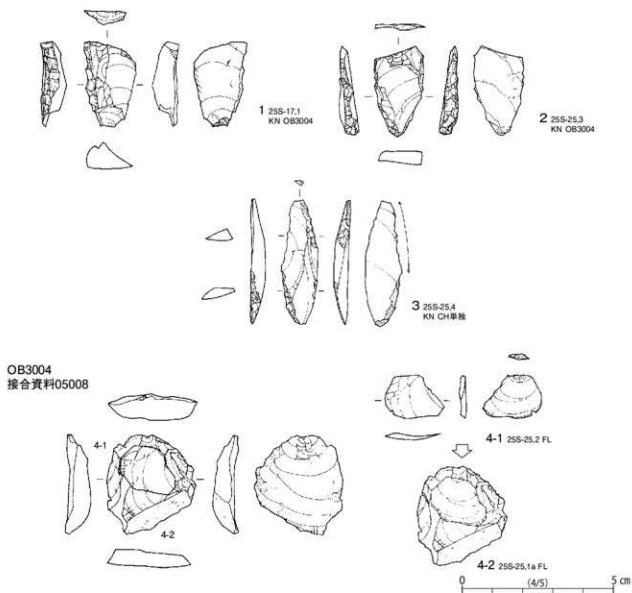
母岩番号/器種	ナイフ形石器	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
OB			2	2	18.2	0.37	0.4
OB3004	2	3		5	45.5	17.44	16.7
OB6003		1		1	9.1	6.75	6.5
SH		1		1	9.1	3.93	3.8
GA4015		1		1	9.1	73.72	70.8
CH単独	1			1	9.1	1.96	1.9
合計	3	6	2	11	100.0	104.17	100.0



第135図 第4文化層25S-26ブロック器種別分布図



第136図 第4文化層25S-26ブロック母岩別分布図



第137図 第4文化層25S-26ブロック出土石器

1～3はナイフ形石器である。1・2はOB3004の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。1は左側縁に腹面から粗い急角度の調整が施された後に、細かい調整が施され側縁が切断される。右側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。背面基部末端の剥離は、調整加工を切る新しい剥離であるが、ヒンジを起こし基部を大きく括るため、意図的な調整ではなく事故剥離や衝撃剥離の可能性が高い。上半は欠損する。2は両側縁に腹面から急角度の調整が施され、尖鋭な基部が成形される。上半が欠損する。残存部の調整からは、左側縁の調整は側縁全体におよび、右側縁の調整は基部にのみ施され、右側縁上半は素材縁辺が刃部として用いられると推定される。3は単独母岩のチャートの縦長剥片を素材とし、打点を基部に設定し斜位に用いる。調整は両側縁に施される。左側縁は基部裏面に平坦調整を施した後に、腹面から急角度の調整が施され、右側縁は先端の対向する位置に腹面から急角度の調整が施され、上端と下端が切断される。左側縁上半と右側縁下半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

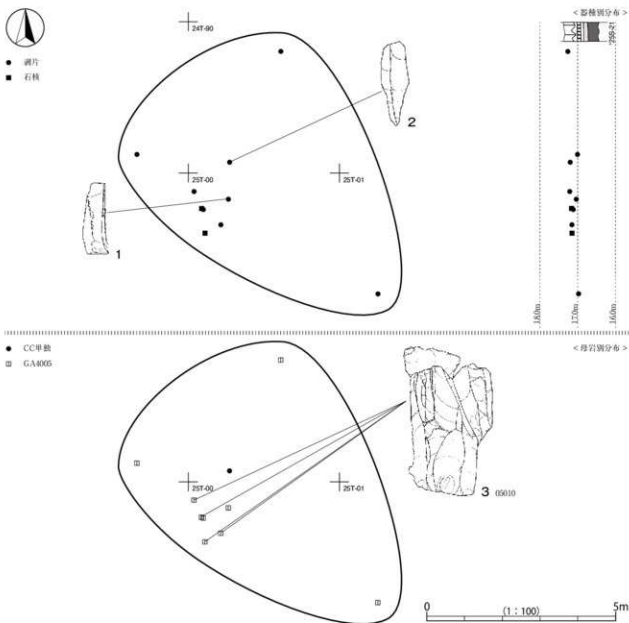
4（接合資料05008）はOB3004の剥片2点が接合する。同一と考えられる打面から剥片を連続剥離し、4-1・4-2が剥離される。

第4文化層 24T-90ブロック (第138～140図、第64表、図版6・66)

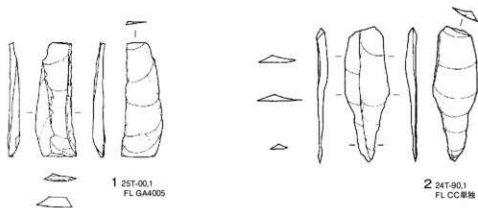
ユニット4cの東寄りの24S-99、24T-90、25T-00・01グリッドに分布する。8.5m×5.5mの範囲から10点の石器が出土した。分布は西側に偏る。投影できるセクションはないが、現場記録では出土層位はⅢ層である。0.28mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

第64表 第4文化層24T-90ブロック石器組成表

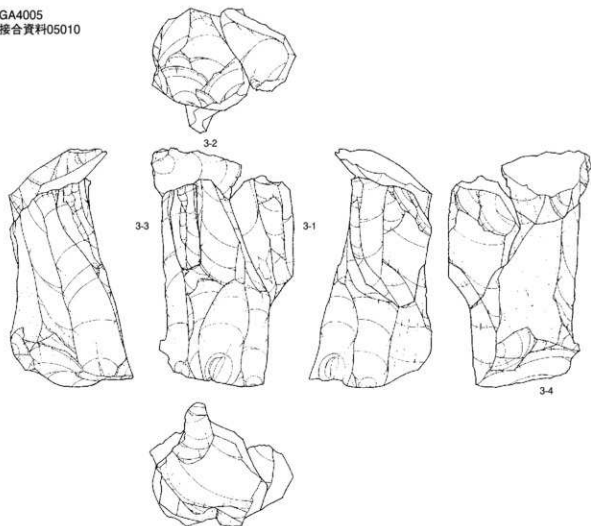
母岩番号/器種	剥片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
CC単独	1		1	10.0	1.52	1.0
GA4005	7	2	9	90.0	144.51	99.0
合計	8	2	10	100.0	146.03	100.0



第138図 第4文化層24T-90ブロック器種別・母岩別分布図

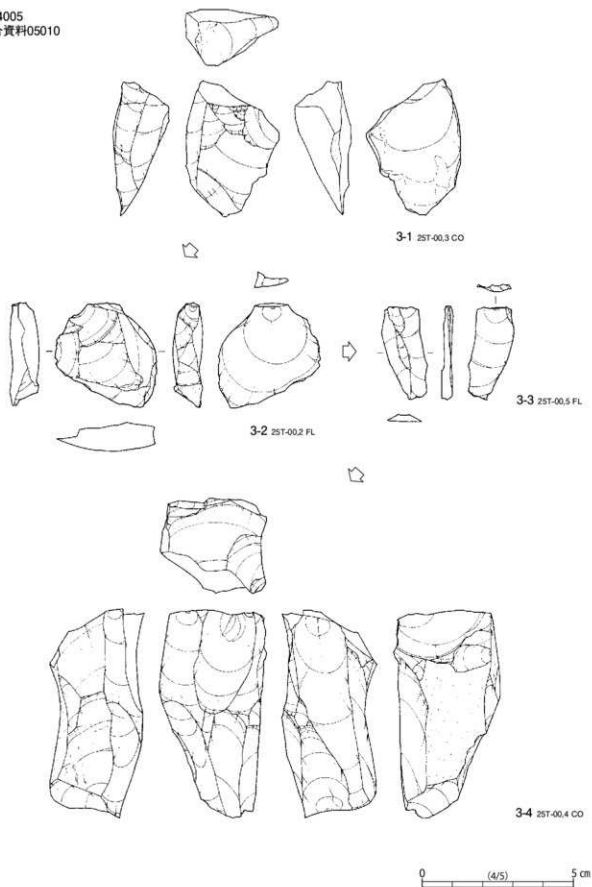


GA4005
接合資料05010



第139図 第4文化層24T-90ブロック出土石器(1)

GA4005
接合資料05010



第140図 第4文化層24T-90ブロック出土石器(2)

石器器種は、剥片・石核で構成される。石材組成は、ガラス質黒色安山岩（9点）・メノウ（1点）で構成される。母岩共有は、ユニット4c内およびユニット4dとユニット間で母岩共有し、母岩GA4005が25S-15ブロックと21V-66ブロックで母岩共有する。

1・2は縦長剥片である。1はGA4005の縦長剥片である。打面部は欠損する。2は単独母岩のメノウの縦長剥片である。打面部は欠損する。2は比較的整った作業面から剥離されている。

3（接合資料05010）はGA4005の剥片2点と石核2点が接合する。剥離が進行しているため素材形状は不明である。3つの工程がみられる。第1工程は、上下の打面から剥片を剥離する工程である。石核の角から3-1が剥離される。3-1は石核に転用される。折れ面を打面として左側面から縦長剥片が剥離されている。第2工程は、打面を更新する工程である。打面の周縁を巡る調整の後に打面全体を更新する大ぶりの調整で3-2が剥離される。第3工程は、剥片を剥離する工程である。上下打面から縦長剥片が剥離され、複数枚の剥片と3-3が剥離される。頭部打面ともに無調整である。その後、残核3-4が廃棄される。

第4文化層 ユニット4d（第141図、第65・66表、図版6・67～72）

東側台地の東、大グリッド21V付近に分布する。総計181点の石器が出土し、2か所の集中地点で構成される。台地の最高点に近い東向き斜面に立地し、IV層上部の石器群と推定される。21V-66・21V-96ブロックでブロック間接合がある。

ユニット4dのブロック別石材組成と石器組成は第65表と第66表のとおりである。石器石材は、黒曜石（82.9%）・ガラス質黒色安山岩（12.7%）が多い（点数比）。母岩共有は、ユニット4d内と22V-95ブロックで黒曜石が頻繁に母岩共有がみられ、40m離れた22V-95ブロック、180m離れたユニット4cとも母岩共有がみられる。

石器器種は、ナイフ形石器がある。ユニット内で多数を占める黒曜石はナイフ形石器と二次加工のある剥片、1例ある石刃生産工程を示す接合資料に用いられるが、多くは小剥片と破片で接合関係は希薄である。硬質石材を用いて石刃を生産する他のユニットの様相と対比される。

第65表 第4文化層ユニット4dブロック別石材組成表

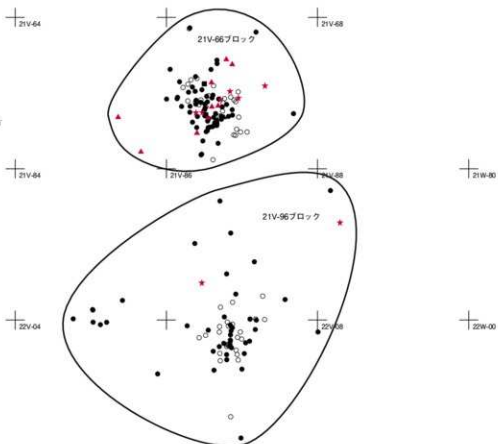
石材/ブロック	21V-66	21V-96	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)
OB	85	65	150	82.9	246.5	36.9
CC	1	6	7	3.9	28.16	4.2
GA	22	1	23	12.7	390.96	58.5
TU		1	1	0.6	3.25	0.5
合計	108	73	181	100.0	-	-
重量合計 (g)	562.85	106.04	-	-	668.89	100.0

第66表 第4文化層ユニット4d石器組成表

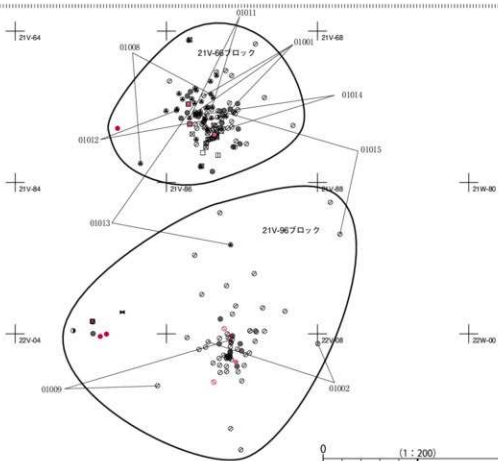
石材/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	破片	石核	合計
OB	8	8	1	72	59	2	150
CC		1		5	1		7
GA				23			23
TU				1			1
合計	8	9	1	101	60	2	181



- ★ ナイフ型石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- ▲ 微細調整痕のある剥片
- 剥片
- 稜片
- 石核



- OB
- OB1001
- OB6001
- OB3005
- CC
- CC甲独
- CC1005
- GA
- GA甲独
- GA4005
- GA4008
- TU甲独



第141図 第4文化層ユニット4 d 器種別・母岩別分布図

第4文化層 21V-66ブロック (第142～151図、第67表、図版6・67～71)

ユニット4 dの北寄り、21V-66・67・75～77グリッドに分布する。10.0m×8.0mの範囲から108点の石器が出土した。ブロック範囲の中央に集中地点がある。出土層位はV層～Ⅲ層である。0.50mの高低差をもってほぼ水平に包含される。21V-96ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(85点)・ガラス質黒色安山岩(22点)・メノウ(1点)で構成される。母岩共有は、ユニット4 d内・22V-95ブロック・ユニット4 cと母岩共有する。黒曜石はユニット4 d内の21V-96ブロック・22V-95ブロック・ユニット4 cの25S-15ブロックと、ガラス質黒色安山岩はユニット4 cの25S-15・24T-90ブロックと母岩共有する。

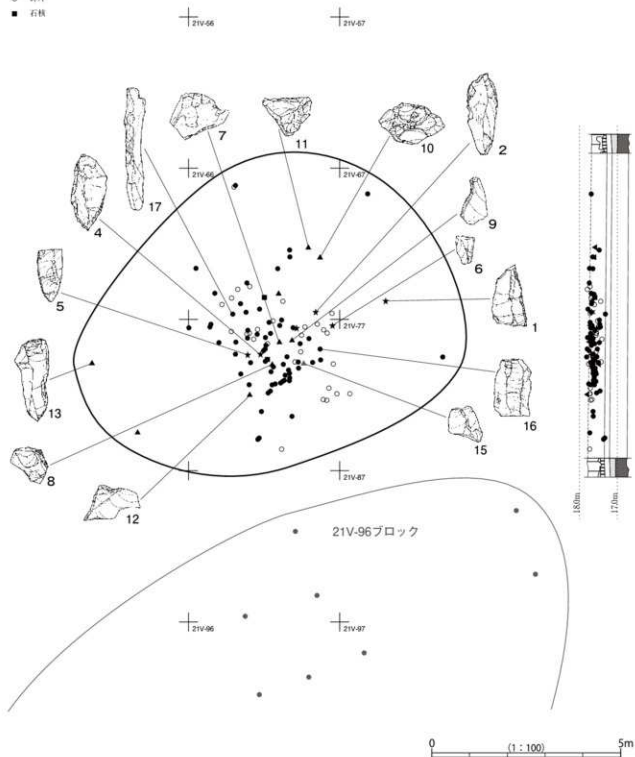
1～6はOB6001のナイフ形石器である。1は薄手の縦長剥片を素材とし、打点を基部に設定する。基部を欠損する。調整は右側縁に施され、側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。左側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられ、上半部に微細剥離痕が認められる。2は縦長剥片を素材とし、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、基部両側縁に背面から急角度の調整が施され、基部末端の調整はやや平坦調整になりバルブが除去される。先端は両側縁とも素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。先端表面の剥離は意図的な調整ではなく、事故剥離や衝撃剥離の可能性が高い。3(接合資料01015)は縦長剥片を素材とする。器体中央で折損した2点が接合し、ブロック間接合資料である。3 bは21V-96ブロックで出土した。打点を基部に設定する。調整は両側縁に施され、左側縁は上半に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は対向する位置の基部に背面から急角度の調整が施される。左側縁基部と右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。4は幅広の剥片を素材とする。図では右上の素材縁辺を刃部と判断して、打点を先端に設定した。調整は両側縁に施され、左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、先端は対向調整が施される。右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施され、尖鋭な基部が成形される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。上側は打面部であった部分の厚みが残るため、こちらが基部になり、薄手で尖鋭に成形されている下側が先端になる可能性もある。5は縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。先端は折損する。調整は両側縁に施され、残存部の調整からは、左側縁は側面全体に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は下半部に背面から急角度の調整が施されると推定される。6は厚手の剥片を素材として、打点を先端に設定する。上半は折損する。両側縁の基部の表面に平坦調整が施される。

第67表 第4文化層21V-66ブロック石器組成表

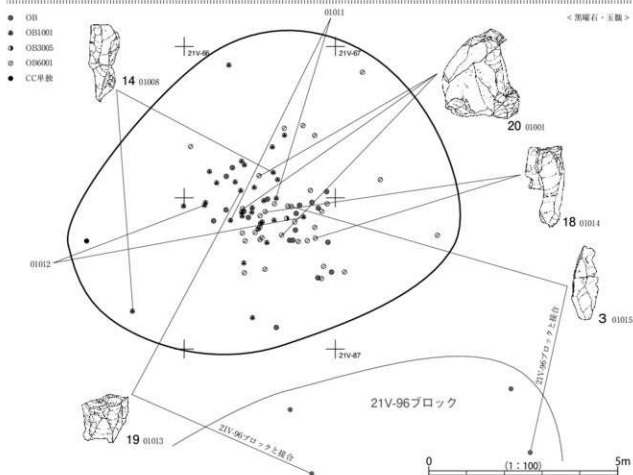
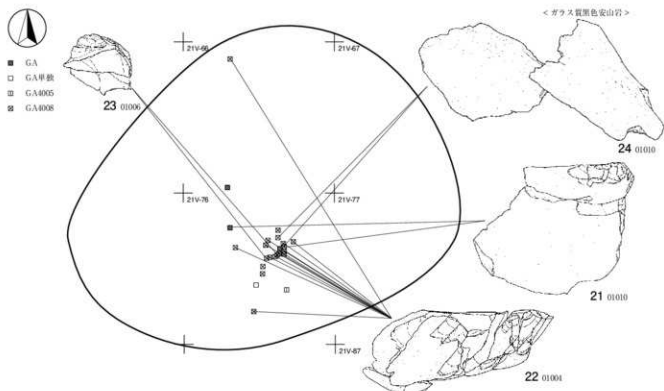
母岩番号/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある 剥片	微細剥離 痕のある 剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
							(%)	(%)	(g)	(%)
OB				4	17		21	19.4	4.63	0.8
OB1001		4		18	7		29	26.9	37.67	6.7
OB3005		1					1	0.9	1.16	0.2
OB6001	6	3	1	18	4	2	34	31.5	127.06	22.6
CC単独		1					1	0.9	3.39	0.6
GA				3			3	2.8	127.38	22.6
GA単独				1			1	0.9	10.28	1.8
GA4005				1			1	0.9	0.85	0.2
GA4008				17			17	15.7	250.43	44.5
合計	6	9	1	62	28	2	108	100.0	562.85	100.0



- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- ▲ 微細剥離痕のある剥片
- 剥片
- 砂片
- 石核

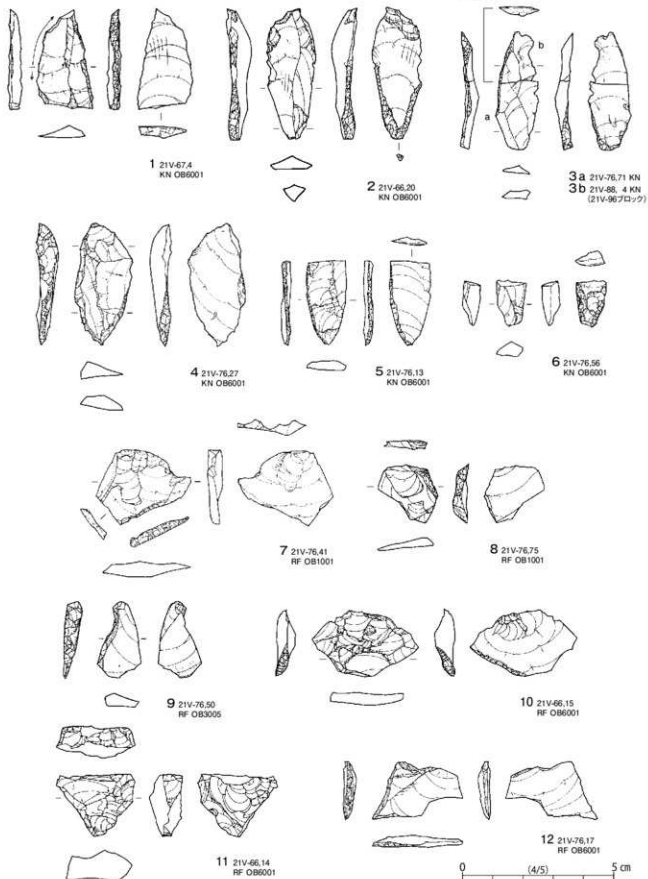


第142図 第4文化層21V-66ブロック器種別分布図



第143図 第4文化層21V-66ブロック母岩別分布図

OB6001
 接合資料01015



第144図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(1)

7～14は二次加工のある剥片である。7・8はOB1001の幅広剥片を素材とする。7は端部に腹面から急角度の調整が施される。その後、左側縁先端が折れて欠損する。8は打面部を折り取った後に、折れ面に腹面から急角度の調整が施される。9はOB3005の剥片を素材とする。打面部が腹面から折り取られた後に、折れ面に腹面から急角度の調整が施され、左側縁がノッチ状に成形される。その後、左側縁先端で腹面を大きく折り取るような調整が施される。この調整を種状剥離と捉え彫器に分類することもできる。10～12はOB6001の剥片を素材とする。10はバルブが発達する横長剥片を素材とする。素材端部に、左側縁は腹面から、右側縁は背面から急角度の調整が施される。調整により両端が先鋭に成形されるため、素材剥片を横位に用いたナイフ形石器として捉えることもできる。しかしながら、背面が長軸方向に大きく反っており、ナイフ形石器としては不整形であるため二次加工のある剥片とした。11は厚手の剥片を素材とする。打面部を折り取った後に、折断面に急角度の調整を施す。12は薄手の幅広剥片を素材とする。打面部を腹面から折断した後に左側縁先端及び末端左側に腹面から急角度の調整が施され、錐状の先端部が整形される。13は単独母岩のメノウの縦長剥片を素材とする。打面部に腹面から急角度の調整が施される。左側縁末端と右側縁打面近くに微細剥離痕が見られる。14(接合資料01008)はOB1001の縦長剥片を素材とする。素材の背縁下半に稜上調整が見られる。打面部が剥離時の同時割れあるいは折り取りにより折損しており、その折断面に腹面から急角度の調整が施される。

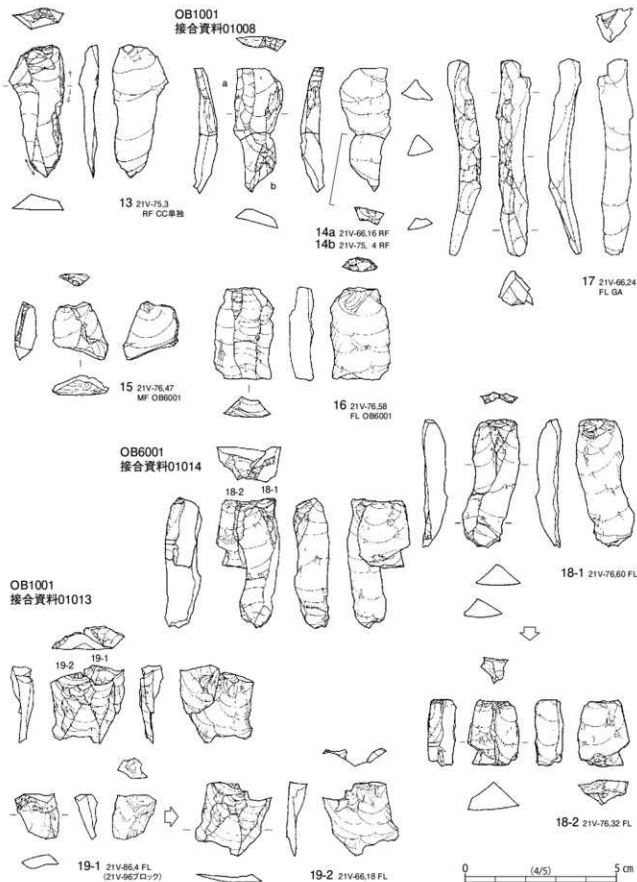
15はOB6001の打面調整がみられる微細剥離痕のある剥片である。左側縁に微細剥離痕が見られる。下半部は欠損する。16・17は剥片である。16はOB6001の縦長剥片である。下半は折損する。打面調整がみられる。17はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。顕著な稜上調整がみられる稜付き剥片である。打面は複剥離打面である。右側面は大きな剥離面の一部が残り、左側面に自然面が残ることから、大型剥片の縁辺から剥離されていることがわかる。

18(接合資料01014)はOB6001の剥片2点が接合する。縦長剥片を連続剥離する接合資料である。18-2の左側面に残るポジティブ面を主要剥離面とする大型剥片を素材とする。18-1の右側面に大きな剥離痕を残し、18-1・18-2を連続剥離する。18-2は夾雑物により剥離時に同時割れし下半を折損する。頭部調整と打面調整が見られる。

19(接合資料01013)はOB1001の剥片2点が接合する。同一打面から19-1・19-2が剥離される。19-1の背面に残る打面直下を決る剥離も含めて同一打点から複数枚の剥片が同時に剥離されていると考えられる。

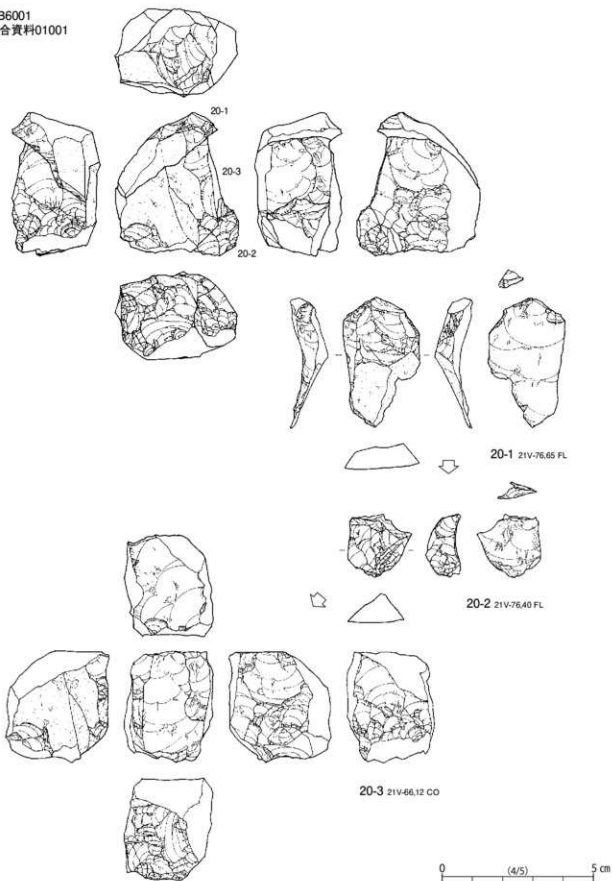
20(接合資料01001)はOB6001の剥片2点と石核1点が接合する。円礫を素材とする。3つの剥離工程がみられる。第1工程は、作業面を転移しながら剥片を剥離する工程である。図の上面や裏面で複数枚の剥片を剥離する。第2工程は、打面を作出する工程である。上面で20-1が剥離され打面が作出される。第3工程は、作出された打面から図の右側面と左側面を作業面として剥片を剥離する工程である。20-2と複数枚の剥片が剥離される。20-2は剥離時の衝撃で折れ上半部を欠損する。その後、打面を反転し複数枚の剥片を剥離するが、いずれも打面直下で砕ける剥離事故を起こしており、最終的に残核20-3が廃棄される。

21(接合資料01010)はGAの剥片2点が接合する。亜円礫の分割個体を素材とすると考えられる。2つの工程がみられる。第1工程は、分割面から剥片を剥離する工程である。稜上調整を施して21-1の縦長剥片が剥離される。その後、右側面の打面を更新して再び同一作業面から剥片を剥離するが、打面直下で



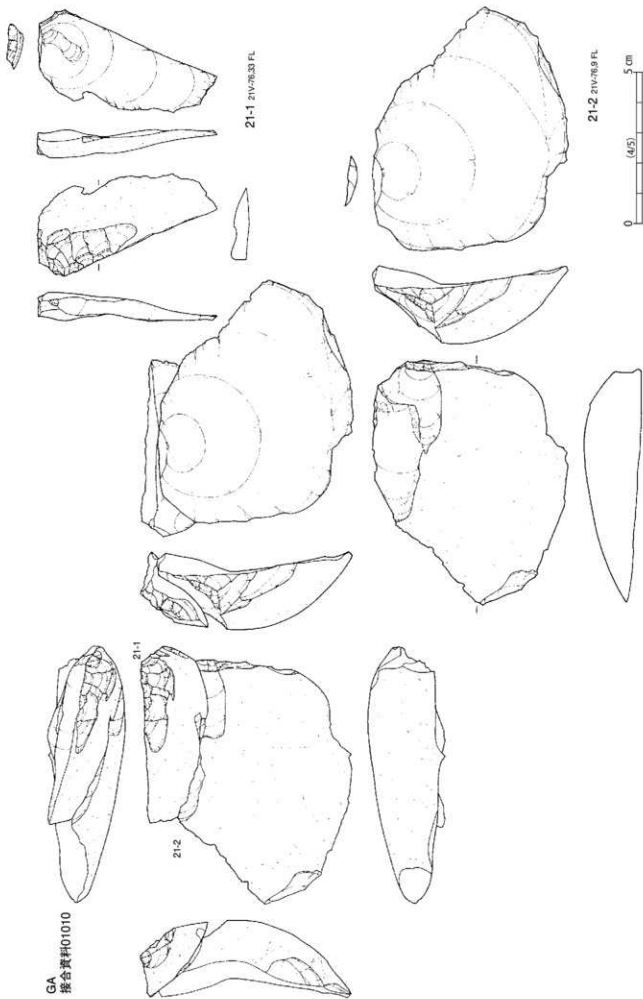
第145図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(2)

OB6001
接合資料01001

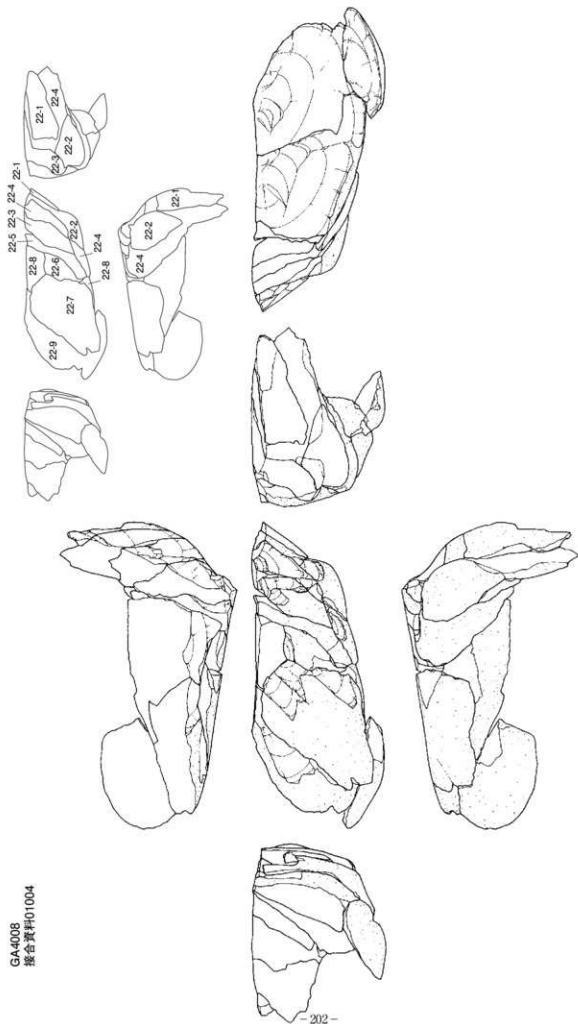


第146図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(3)

GA
接合資料01010

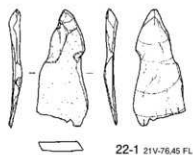


第147図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(4)

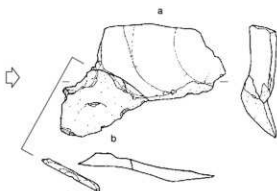


第148図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(5)

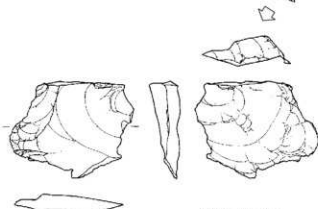
GA4008
接合資料01004



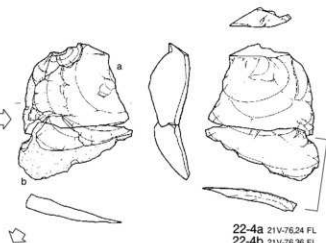
22-1 21V-76.45 FL



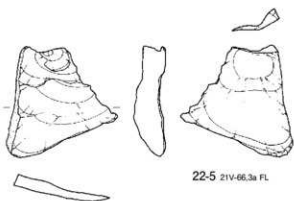
22-2a 21V-76.34 FL
22-2b 21V-76.22 FL



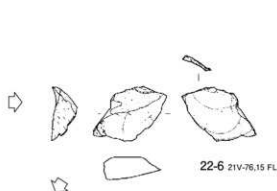
22-3 21V-76.78a FL



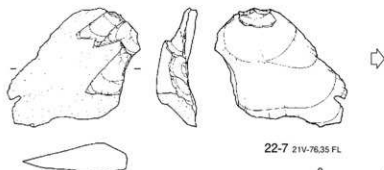
22-4a 21V-76.24 FL
22-4b 21V-76.36 FL



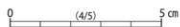
22-5 21V-66.3a FL



22-6 21V-76.15 FL

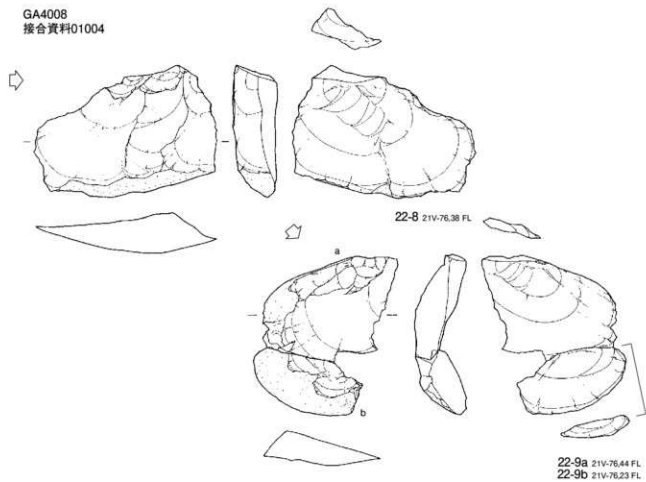


22-7 21V-76.35 FL

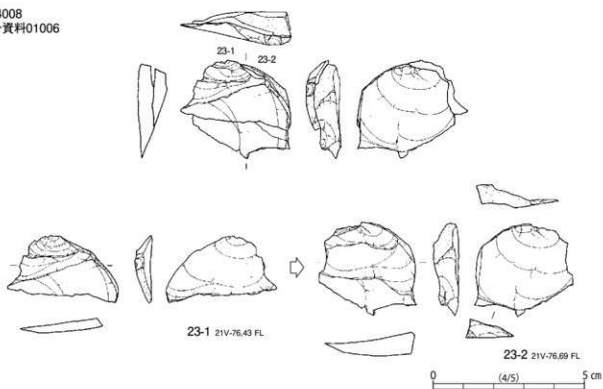


第149図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(6)

GA4008
接合資料01004

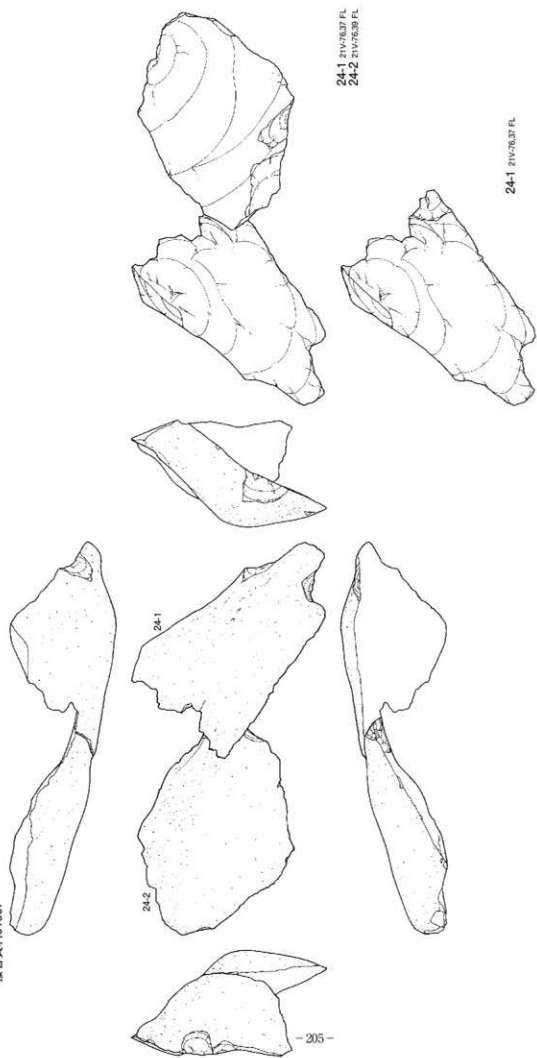


GA4008
接合資料01006



第150図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(7)

GA-4008
接合資料01007



第151図 第4文化層21V-66ブロック出土石器(8)

ヒンジを起こしている。第2工程は、打面を分割面に転移し作業面を大きく取り込んで21-2を剥離する。大ぶりの剥離で第1工程で乱れた作業面を修正し、自然面を除去する意図があると思われる。

22 (接合資料01004) はGA4008の剥片12点が接合する。直角稜の分割個体を素材とすると考えられる。2つの工程がみられる。第1工程は、図の右側面を作業面として剥片を剥離する工程である。横方向からの剥離で22-1が剥離された後、上面の分割面を打面として22-2～22-5が連続剥離される。打点を連続して後退させる剥離で右側面の自然面が除去される。第2工程は、正面を作業面として剥片を剥離する工程である。第1工程よりも幅広の剥片を剥離し、正面の自然面が除去される。残核は検出されなかった。全ての剥片が自然面を取り込む幅広の剥片で、図の正面と右側面で意識的に作業面を作出するように連続して剥離されているため、石核の自然面を除去して作業面を成形する意図があると思われる。

23 (接合資料01006) はGA4008の剥片2点が接合する。同一と考えられる打面から複数枚の幅広剥片が連続して剥離され、23-1・23-2が剥離される。

24 (接合資料01007) はGA4008の剥片2点が接合する。直角稜の分割個体を素材とする。分割面を打面として自然面が除去され24-1・24-2が剥離される。

第4文化層 21V-96ブロック (第152～154図、第68表、図版72)

ユニット4 dの南寄り、21V-86・88・94～97、22V-05～08・16グリッドに分布する。16.4m×12.2mの範囲から73点の石器が出土した。ブロック範囲の中央南寄りに集中地点がある。出土層位はVI層～III層である。0.58mの高低差をもってほぼ水平に包含される。21V-66ブロックとブロック間接合する。

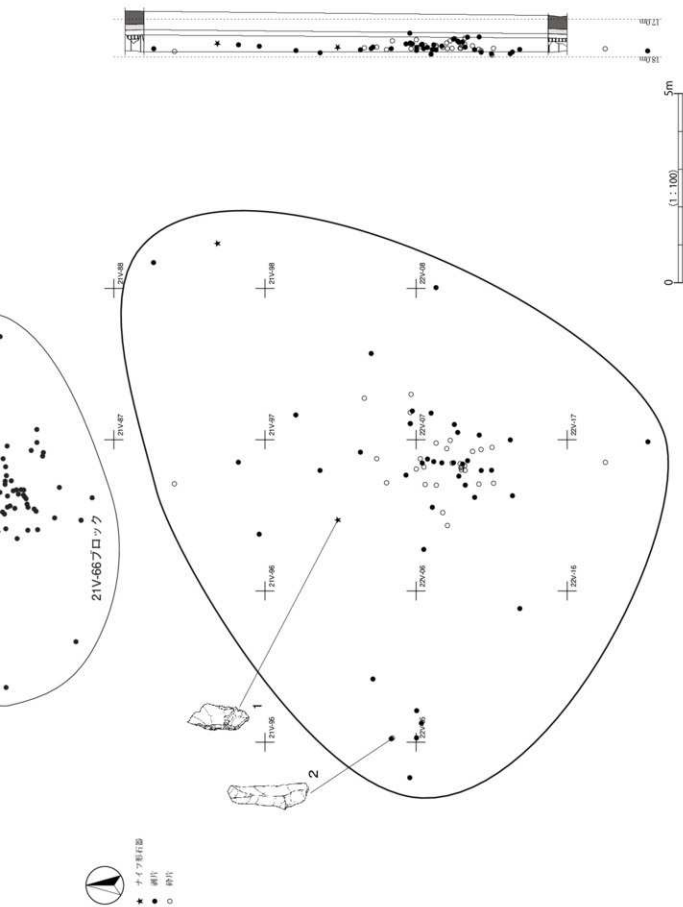
石器器種は、ナイフ形石器・剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石(65点)・メノウ(6点)・ガラス質黒色安山岩・凝灰岩(各1点)で構成される。母岩共有は、黒曜石がユニット4 d内の21V-66ブロック・22V-95ブロック・ユニット4 cの25S-15ブロックと母岩共有する。

1はOB6001のナイフ形石器である。幅広剥片を素材とし、打点を左側面に設定する。調整は両側縁に施される。左側縁は打面部が折り取られた後、腹面・背面の順で急角度の対向調整が施される。右側縁は基部に腹面から急角度の調整が施され、上半部は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

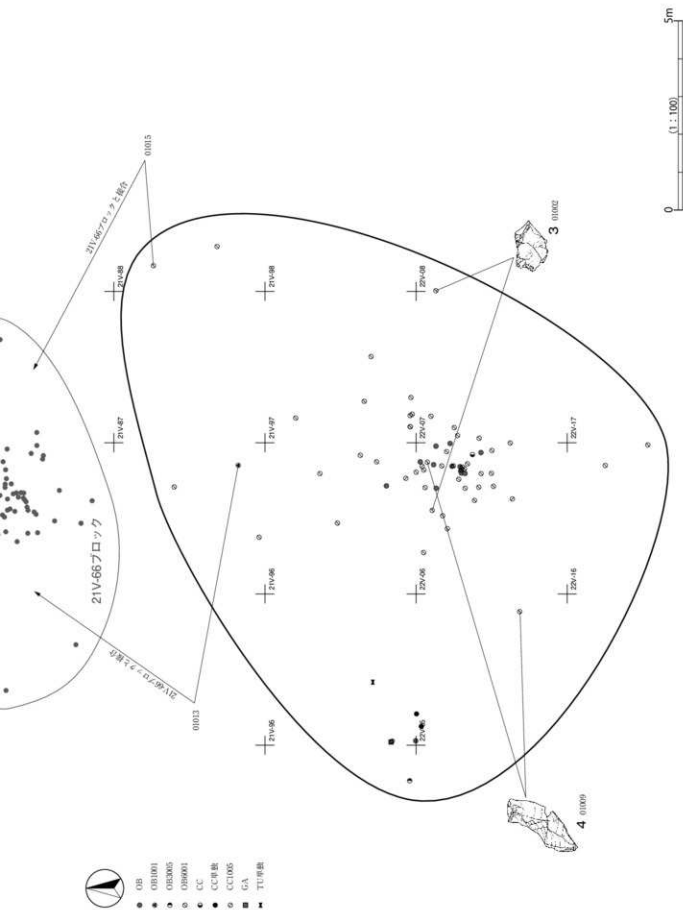
2～4は剥片である。2はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。打面部を欠損する。両設打面石核から剥離されている。3(接合資料01002)はOB6001の剥片である。折損した剥片2点が接合する。打面部を欠損する。4(接合資料01009)はOB6001の縦長剥片である。折損した剥片2点が接合する。頭部と先端部が欠損する。背面左の先行剥離によって乱れた作業面を大きく取り込む。

第68表 第4文化層21V-96ブロック石器組成表

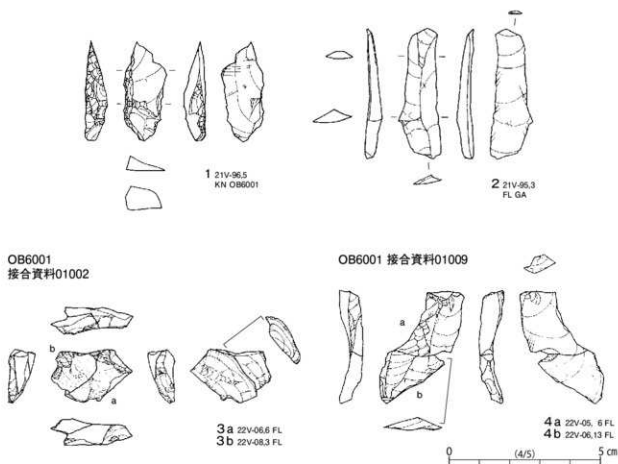
母岩番号/器種	ナイフ形石器	剥片	砕片	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB		2	11	13	17.8	24.04	22.7
OB1001		1	1	2	2.7	1.52	1.4
OB3005		1		1	1.4	0.31	0.3
OB6001	2	28	19	49	67.1	50.11	47.3
CC			1	1	1.4	0.36	0.3
CC単独		2		2	2.7	11.24	10.6
CC1005		3		3	4.1	13.17	12.4
GA		1		1	1.4	2.04	1.9
TU単独		1		1	1.4	3.25	3.1
合計	2	39	32	73	100.0	106.04	100.0



第152図 第4文化層21V-96ブロック器種別分布図



第153図 第4文化層21V-96ブロック母岩別分布図



第154図 第4文化層21V-96ブロック出土石器

第4文化層 22V-95ブロック (第155～157図、第69表、図版6・72・73)

東側台地の最高点付近、ユニット4 d から南に40mの22V-85・94～96グリッドに分布する。7.8m×5.2mの範囲から34点の石器が出土した。ブロック範囲の中央北寄りに集中地点がある。出土層位はⅢ層である。0.25mの高低差をもってやや北に傾斜して包含される。150m離れたユニット4 c の25S-15ブロックとブロック間接合する。

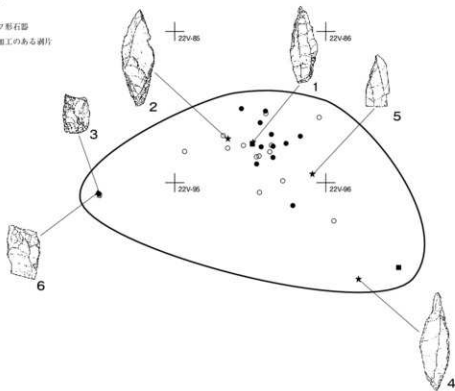
石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(24点)・ガラス質黒色安山岩(8点)・珪質頁岩(2点)で構成される。母岩共有は、黒曜石がユニット4 d 内の21V-66・21V-95ブロック・ユニット4 c の25S-15ブロックと母岩共有する。

第69表 第4文化層22V-95ブロック石器組成表

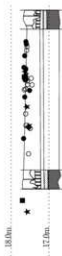
母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	碎片	石核	点数合計		重量合計	
						(%)	(%)	(g)	(%)
OB			2	9		11	32.4	2.5	2.4
OB3005	1			1		2	5.9	3.44	3.3
OB6001	2	1	4	3	1	11	32.4	28.49	27.2
SS0006	2					2	5.9	4.53	4.3
GA				1		1	2.9	0.26	0.2
GA4001			6		1	7	20.6	65.44	62.5
合計	5	1	12	14	2	34	100.0	104.66	100.0



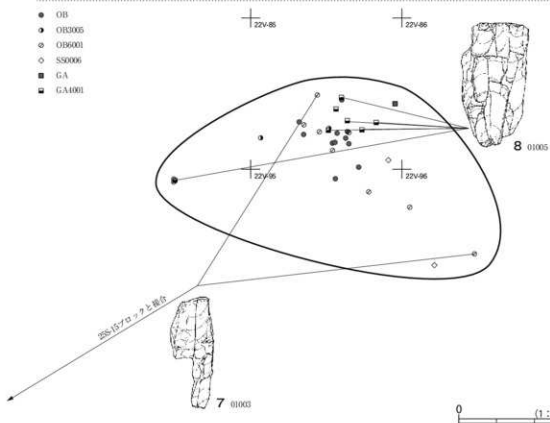
- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 砕片
- 石核



< 器種別分布 >

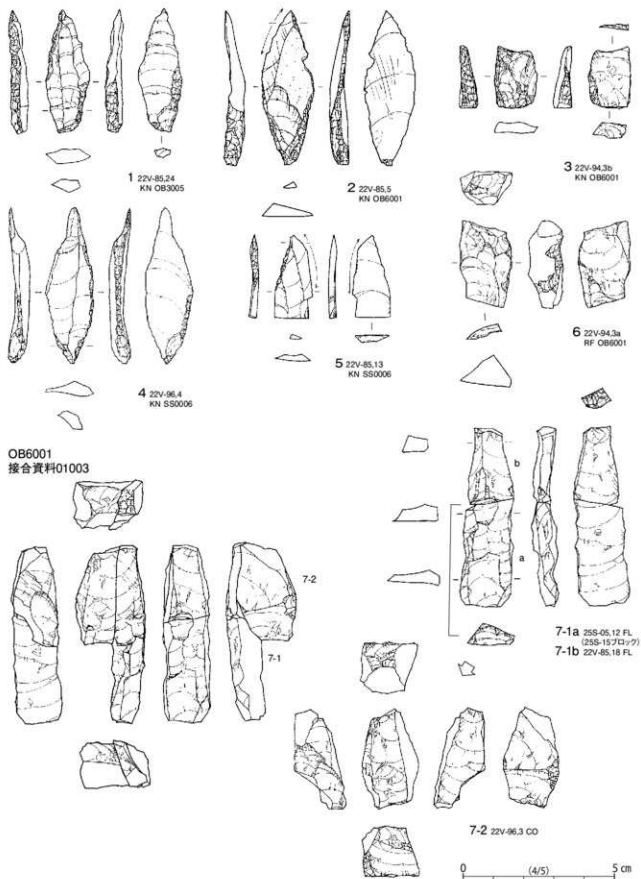


- OB
- OB3005
- OB6001
- SS0006
- GA
- GA4001



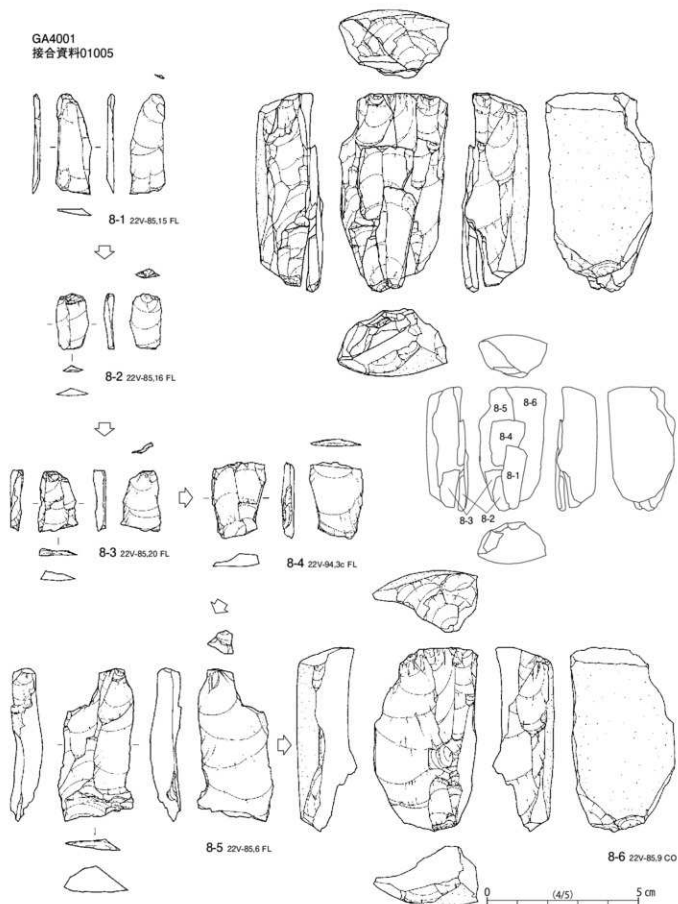
< 母岩別分布 >

第155図 第4文化層22V-95ブロック器種別・母岩別分布図



第156図 第4文化層22V-95ブロック出土石器(1)

GA4001
接合資料01005



第157図 第4文化層22V-95ブロック出土石器(2)

1～5はナイフ形石器である。1はOB3005の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施される。左側縁は上半部に腹面から急角度の調整が、下半部から基部に背面から平坦調整が施される。右側縁は、基部に腹面から急角度の調整が施され、上半部は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。2はOB6001の縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。基部両側縁は腹面から急角度の調整が施され、尖鋭な基部が成形される。基部末端には背面から微細な調整が施される。右側縁は先端まで細かい調整が施される。左側縁は上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられ、微細剥離痕が見られる。3はOB6001の剥片を素材とし、打点を右側面に設定する。基部・先端の両端を欠損する。左側縁は腹面から急角度の調整を施し、右側縁は腹面からやや平坦な調整を施す。残存部の調整からは、左側縁は側縁全体に調整が施され、右側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられると推定される。4はSS0006の両設打面石核から剥離された縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施される。左側縁は基部に背面から裏面平坦調整が施され、上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。右側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。5はSS0006の縦長剥片を素材とし、打点を基部に設定する。下半部は欠損する。左側縁先端に急角度の調整が施される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられ、微細剥離痕がみられる。

6はOB6001の二次加工のある剥片である。厚手の縦長剥片を素材としており、素材の主要剥離面はネガティブ面になっている。左側面と上面に腹面から急角度の調整が施される。先端部は欠損する。

7(接合資料01003)はOB6001の剥片2点と石核1点が接合する。ブロック間接合資料で、7-1aは150m離れたユニット4cの25S-15ブロックから出土した。厚手の大型剥片を石核素材とし、図の裏面に素材の主要剥離面が残る。4つの剥離工程が見られる。第1工程は上面側の打面から剥片を剥離する工程である。この時点で石核消費が進み板状になっている。第2工程は、打面を作出する工程である。石核の小口から上面と下面の打面が作出される。第3工程は、打面を180度転移しながら正面と右側面で数枚の縦長剥片と7-1が剥離される。打面調整が見られる。7-1は器体中央で折損しており、下半部の7-1bが25S-15ブロックから出土しており、ブロック間接合である。第4工程で剥片剥離中に下面からの剥離が剥離事故を起こし、石核が器体中央で折れたため、残核7-2廃棄されたと思われる。

8(接合資料01005)はガラス質黒色安山岩4001の剥片5点と石核1点の接合資料である。円礫を素材とし、両設打面から縦長剥片を剥離する接合資料である。3つの工程が見られる。第1工程は、複数回の剥離で作出された上下の打面から打点を周縁状に巡り縦長剥片を剥離する工程である。打面を180度反転しながら複数枚の縦長剥片と8-1～8-5を剥離する。頭部調整がみられる。縦長剥片は末端がヒンジになるか器体中央で折れている物が多い。8-5は左側面を取り込み作業面を大きく更新する。第2工程は、下面の打面を複数回の剥離により更新する工程である。第3工程は、更新された下面の打面として剥片を剥離する工程である。第3工程の剥離が石核の中央で止まる短い剥離で終わった所で、残核8-6が廃棄される。

5 第5文化層(第158図、第70・71表、図版6・7・73～84)

第5文化層の石器群は、総計1,051点の石器と116点の礫が出土し、IV層上部の石器群と推定される。西側台地の中央の埋没谷沿いと東側台地に分布する。西側台地では、調査区の中央、中央に張り出した微高地で5か所の石器集中からなるユニット5a、谷を挟んで西で3か所の石器集中からなるユニット5bがブロック群を形成している。石刃生産・尖頭器とナイフ形石器が混在する文化層である。ブロック間接合はそれぞれのユニット内でのみみられた。

第5文化層のブロック別石材組成と石器組成は第70表と第71表のとおりである。石器石材は、多様な石材が用いられ、黒曜石(80.7%)・メノウ(6.6%)・頁岩(3.2%)・ガラス質黒色安山岩(2.8%)の順に多い(点数比)。母岩識別率は53%である。地点毎に石材の利用傾向に偏差がみられる。黒曜石はユニット5a・5bでのみ用いられ、黒曜石が主体である。そのほかの2ブロックは頁岩類を主体とする。礫石材は、安山岩あるいは流紋岩(63%)・砂岩(21%)・チャート(6.9%)・その他(9.1%)で構成される。

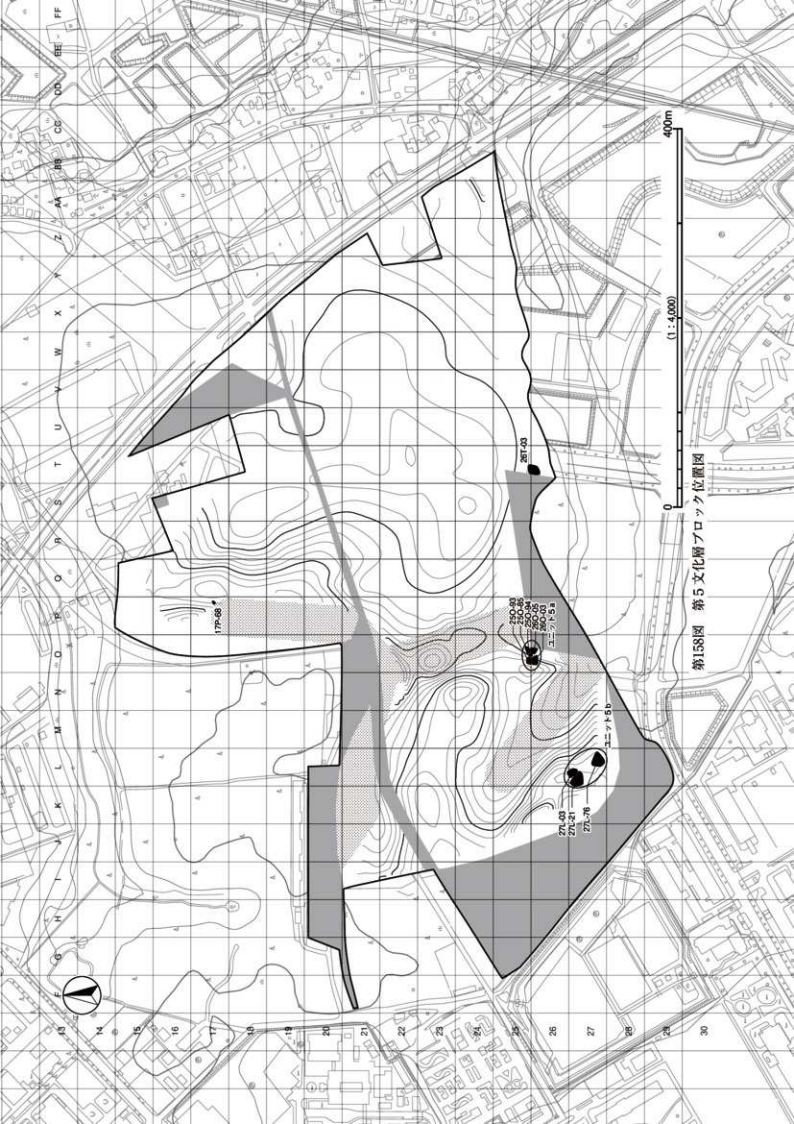
石器器種は、尖頭器・ナイフ形石器・削片・彫器などで構成される。

第70表 第5文化層ブロック別石材組成表

石材/ブロック	17P-68	ユニット5a	ユニット5b	26T-03	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
OB		125	723		848	80.7	988.22	53.9
CC	1	65	2	1	69	6.6	307.8	16.8
SH	2	17	12	3	34	3.2	75.28	4.3
BS		2		5	7	0.7	57.17	3.1
SS	2	6	2	9	19	1.8	80.88	4.1
HS		6	4	2	12	1.1	18.42	1.0
MS	2			9	11	1.0	64.53	3.5
GA		20	7	2	29	2.8	190.79	10.4
TO		2		1	3	0.3	4.61	0.3
CH		12	3	2	17	1.6	45.13	2.5
HO		1			1	0.1	0.01	0.0
TU		1			1	0.1	1.59	0.1
点数合計	7	257	753	34	1051	100.0	-	-
重量合計(g)	32.52	1003.53	683.35	115.03	-	-	1834.43	100.0
礫・礫片(点数)		8	40	68	116	100.0	-	-
礫・礫片(g)		446.09	2304.48	2180.08	-	-	4930.65	100.0

第71表 第5文化層石器組成表

石材/器種	尖頭器	ナイフ形 石器	削片	彫器	二次加工 のある 削片	微細剥離 のある 削片	剥片	砕片	石核	原石	合計
CC		4			4		52	7	2		69
SH		1		1			14	13		3	34
BS	1						6				7
SS	1			1	1		11	4	1		19
HS				1			9	2			12
MS	3			1			6		1		11
GA	1			1			21	6			29
TO							3				3
CH	1		1				10	5			17
HO								1			1
TU							1				1
合計	26	9	3	1	20	4	361	614	9	4	1051



第158図 第5文化層ブロック位置図

第5文化層 17P-68ブロック (第159・160図、第72表、図版73)

西側台地の北、中央の谷沿いの17P-58・68グリッドに分布する。4.4m×2.8mの範囲から7点の石器が出土した。石器はブロック範囲内に散漫に分布する。出土層位はⅢ層である。0.25mの高低差をもってほぼ水平に包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合は単独ブロックである。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・石核で構成される。石材組成は、頁岩・珪質頁岩・嶺岡産珪質頁岩(各2点)・メノウ(1点)で構成される。他ブロックとの母岩共有はない。

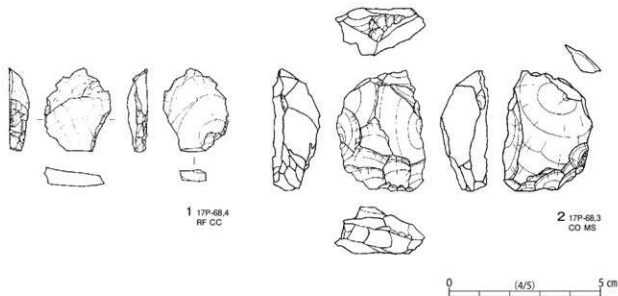
単独ブロックで示準的な石器を欠き、ブロック間接合・母岩共有もみられないため、帰属文化層の判断が難しい。ここでは、石材構成と、26T-03ブロックで量的に用いられる嶺岡産珪質頁岩が用いられることを評価して、第5文化層に帰属するブロックと判断した。

1はメノウの二次加工のある剥片である。剥片を素材として、打点を左側面に設定する。調整は両側縁に施され、基部に腹面から急角度の調整が施され、左側には対向剥離がみられる。先端は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

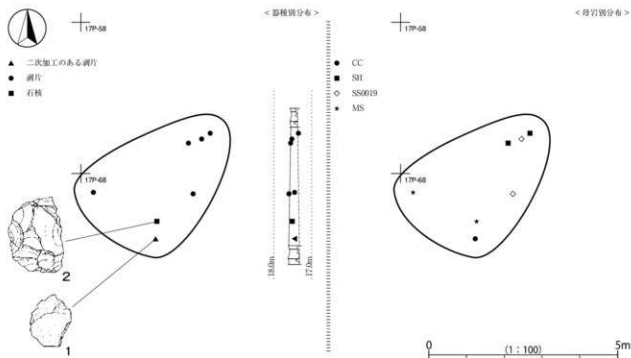
2は嶺岡産珪質頁岩の石核である。厚手の剥片を素材とする。表裏両面に打面を転移しながら、ほぼ上下左右から剥片が剥離される。上下の剥離は両極剥離の可能性がある。

第72表 第5文化層17P-68ブロック石器組成表

母岩番号/器種	二次加工のある剥片	剥片	石核	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
CC	1			1	14.3	4.43	13.6
SH		2		2	28.6	4.12	12.7
SS0019		2		2	28.6	2.22	6.8
MS		1	1	2	28.6	21.75	66.9
合計	1	5	1	7	100.0	32.52	100.0



第159図 第5文化層17P-68ブロック出土石器



第160図 第5文化層17P-68ブロック器種別・母岩別分布図

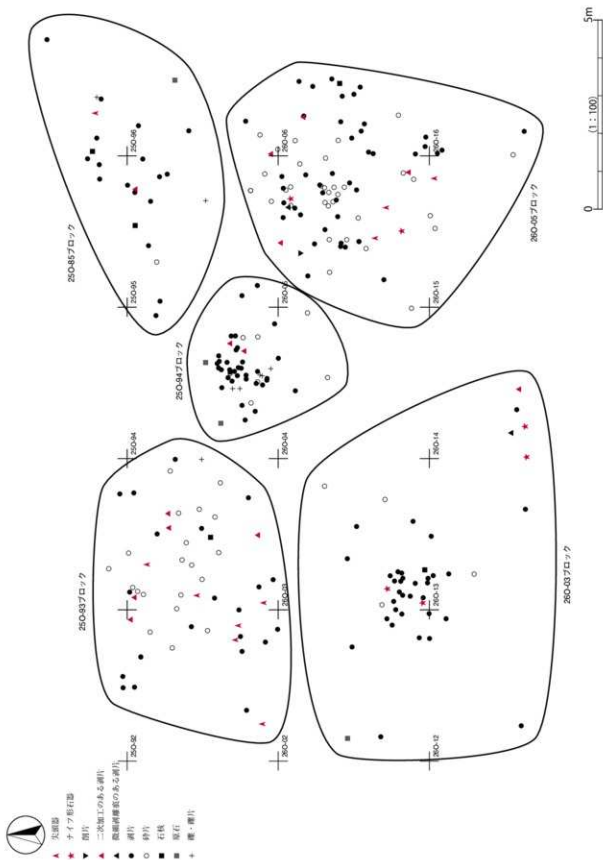
第5文化層 ユニット5 a (第161・162図、第73・74表、図版6・73～80)

西側台地の南、大グリッド250・260付近に分布する。総計257点の石器と8点の礫が出土し、5か所の集中地点で構成される。中央の谷沿いに張り出した微高地の南向き斜面の縁地に立地し、IV層上部の石器群と推定される。250-85・250-94ブロック間、250-94・260-03ブロック間でブロック間接合がある。

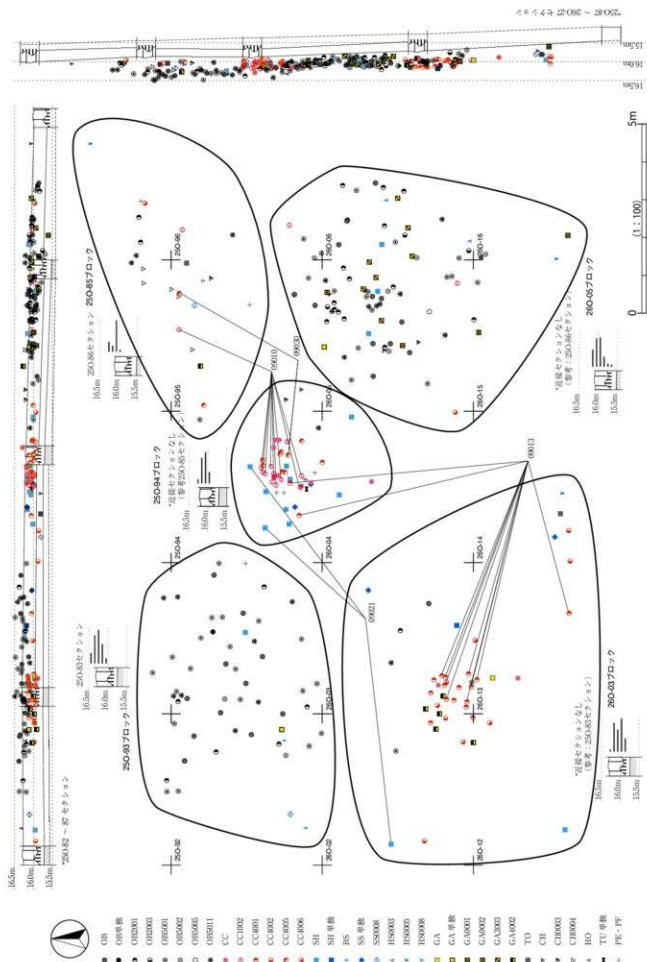
ユニット5 aのブロック別石材組成と石器組成は第73表と第74表のとおりである。石器石材は、黒曜石(48.6%)・メノウ(25.3%)・ガラス質黒色安山岩(7.8%)・頁岩(6.2%)・チャート(4.7%)が多い(点数比)。

第73表 第5文化層ユニット5 aブロック別石材組成表

石材/ブロック	250-93	250-85	250-94	260-03	260-05	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(%)
OB	49	7	1	5	63	125	48.6	363.99	36.3
CC		5	30	27	3	65	25.3	292.07	29.1
SH	1		10	3	3	17	6.2	56.5	5.6
BS	2					2	0.8	38.81	3.9
SS	1	1	2	2		6	2.7	44.32	4.4
HS		2		1	3	6	2.3	11.49	1.1
GA	1	1		6	12	20	7.8	150.66	15.0
TO		1		1		2	0.8	1.95	0.2
CH		6	2		4	12	4.7	42.14	4.2
HO					1	1	0.4	0.01	0.01
TU			1		1	1	0.4	1.59	0.2
点数合計	54	23	46	45	89	257	100.0	-	-
重量合計 (g)	216.85	173.44	161.6	191.82	259.82	-	-	1003.53	100.0
礫・礫片 (点数)	1	2	5			8	100.0	-	-
礫・礫片 (g)	18.9	30.95	396.24			-	-	446.09	100.0



第161図 第5文化層ユニット5 a 器種別分布図



第162図 第5文化層ユニット5 a 母岩別分布図



- OB
- OB甲級
- OI2001
- OI2002
- OI5001
- OI5002
- OI5005
- OI5011
- CC
- CC1002
- CC1001
- CC1002
- CC1005
- CC1006
- SH
- SH 甲級
- BS
- SS 甲級
- SS0008
- ▲ HS0003
- ▲ HS0005
- ▲ HS0008
- GA
- GA 甲級
- GA0001
- GA0002
- GA3003
- GA1002
- TO
- ▼ TO
- ▼ CH
- ▼ CH0003
- ▼ CH0004
- ▲ HO
- ▲ TT 甲級
- ▲ PE-1PF

第74表 第5文化層ユニット5 a 石器組成表

石材/器種	尖頭器	ナイフ形石器	削片	二次加工のある削片	微細剥離のある削片	剥片	砕片	石核	原石	合計
OB	10	2	1	6	1	55	46	3	1	125
CC		4		3	1	48	7	2		65
SH						10	4		3	17
BS	1					1				2
SS					1	3	2			6
HS				1		4	1			6
GA	1			1		14	4			20
TO						2				2
CH	1					9	2			12
HO							1			1
TU						1				1
合計	13	6	1	11	3	147	67	5	4	257

石材利用傾向は大きく二つに分かれ、黒曜石を多用するブロック(250-93・260-05ブロック)とメノウ・頁岩を多用するブロック(250-94・260-03ブロック)に分かれる。250-85ブロックはその中間的様相を示す。母岩共有は、黒曜石を多用するブロック同士、メノウ・頁岩を多用するブロック同士で頻繁にみられ、黒曜石は点数は少ないがユニット内全体で母岩共有がみられる。

石器器種は、尖頭器・ナイフ形石器・削片などがある。尖頭器は黒曜石を多用するブロックでのみ出土し、ナイフ形石器は南側のブロックで出土している。メノウ・頁岩を多用するブロックでは、縦長剥片を連続生産する接合資料が出土しブロック間接合している。

利用石材と石器器種、ブロック間接合の関係から、黒曜石-尖頭器を持つブロック群と、メノウ・頁岩-縦長剥片・ナイフ形石器を持つブロック群という関係が見いだされ、2つのブロック群は重複して分布しながら互いに排他的な様相を示す。異なる時期のブロックが重複している可能性も考えられるため、第162図に各ブロックの垂直分布のヒストグラムを併せて示した。ただし、5 a ユニットは中央の谷沿いに張り出した微高地の縁辺に立地しており、地形が南東に向かって傾斜するため、石器の出土レベル差からブロックの時期差を判断することは難しい。また、現場記録において南北方向のセクションが不足するため石器の出土層位から時期差を判断することも同様に難しい。比較的近接するセクションに垂直分布を投影できた250-93・250-94・250-85ブロックの出土層位から判断すれば、いずれのブロックも帰属層位はⅢ層からソフト化したⅣ層中に求められ、黒曜石を多用する250-93ブロックと中間的様相を示す250-85ブロックはやや上位から出土する傾向がある。以上のことから、黒曜石-尖頭器のブロックが上位、メノウ・頁岩-縦長剥片・ナイフ形石器のブロックが下位となる、時期差がある2つブロック群が重複する可能性を残しつつ、中間的な様相を示すブロックがあること、僅かながら黒曜石の母岩共有がユニット全体でみられることから、5つのブロックを同一文化層の同一ユニットに帰属するブロックと判断した。黒曜石-尖頭器の単相的なユニット5 b と対比される。

第5文化層 250-93ブロック(第163～165図、第75表、図版73・74)

ユニット5 a の北寄り、250-82・83・92・93グリッドに分布する。7.8m×5.2mの範囲から54点の石器が出土した。1点の礫片を伴う。ブロック範囲の中央に集中地点がある。出土層位はⅢ層である。0.31mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、尖頭器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(49点)・黒色頁岩(2点)・頁岩・珪質頁岩・ガラス質黒色安山岩(各1点)で構成される。母岩共有はユニット5 a内でみられ、黒曜石が250-85・250-94・260-03・260-05ブロックで共有し、珪質頁岩が250-85ブロックと母岩共有する。

1～5は尖頭器である。1・2はOB5001の尖頭器である。1は素材剥片の形状は不明である。表裏で器体中央を越える大きな平坦調整が施された後に、全面に細かい平坦調整が施される。2は幅広剥片を素材として、打点を右側面に設定する。主に打点側から表裏に器体中央を越える大きな平坦調整が施された後に、全周に細かい平坦調整が施される。先端と基部は折れにより欠損する。3は黒色頁岩の幅広剥片を素材として、打点を右側面に設定する。表裏で全面に平坦調整が施される。基部は欠損する。4(接合資料09032)はOB5001の尖頭器未成品である。自然面が残る幅広剥片を素材として、打点を右側面に設定する。右側面下端は調整以前に折れにより欠損する。まず、大きな平坦調整が表面・裏面の順で施される。この時、裏面の調整が事故剥離を起こし器体の下半を大きく取り込む。その後も平坦調整が継続されるが、器体中央付近で4 a・4 bに折損したため、廃棄されたと考えられる。5はガラス質黒色安山岩の尖頭器である。単独母岩のガラス質黒色安山岩の剥片を素材とする。表面の全周と裏面の左側縁下端に平坦調整が施される。上半部は欠損する。

6～9は二次加工のある剥片である。6はOB5001の厚手のしの字状剥片を素材とする。左側縁は腹面に器体中央まで届く平坦調整が施され、右側縁は表裏に調整が施される。裏面の調整は尖頭器に似るが、素材形状が大きく湾曲しており、調整も不整形である。7は単独母岩の黒曜石の剥片を素材とする。裏面に上面と左側面から微細な調整を施す。8はOB2001の幅広剥片を素材とすると考えられる。裏面は打面から大きな剥離でバルブ部分が除去され、端部には粗い調整が施される。

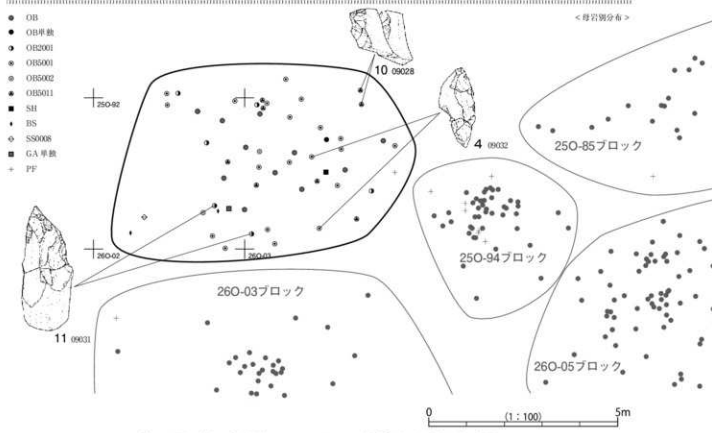
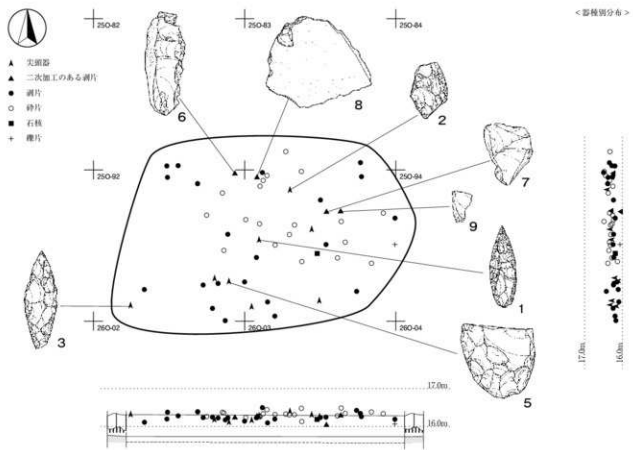
9はOB5001の剥片を素材とする。尖頭器の調整剥片で、器体側面を大きく取り込む。

10(接合資料09028)はOB5011の剥片2点が接合する。自然面と思われる平坦面を打面として、自然面が残る作業面から数枚の剥片と10-1・10-2が剥離される。頭部調整がみられる。

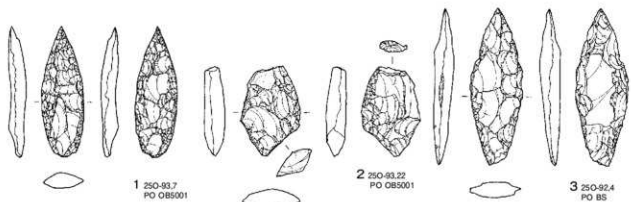
11(接合資料09031)はOB2001の製作途中で折損した尖頭器2点が接合する。円礫を素材とする。表面は大ぶりの剥離で自然面を除去し、裏面は表面の剥離を打面として平坦調整が施される。右側縁の整形時に、表面に施された大ぶりの剥離で器体中央で折損したため、廃棄されたと考えられる。

第75表 第5文化層250-93ブロック石器組成表

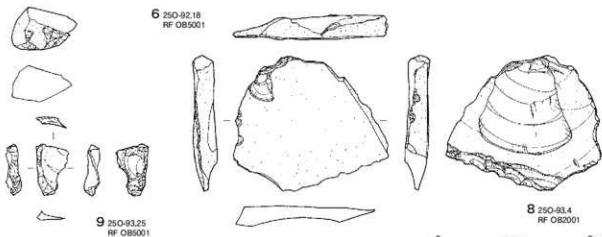
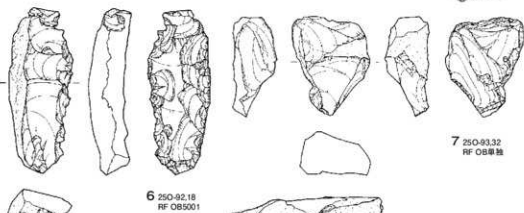
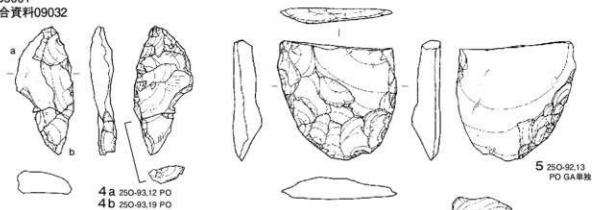
母岩番号/器種	尖頭器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
						(%)	(g)	(%)	(g)
OB			2	10		12	22.2	4.07	1.9
OB単独		1				1	1.9	10.92	5.0
OB2001	2	1	1	2		6	11.1	48.37	22.3
OB5001	4	2	8	6		20	37.0	51.63	23.8
OB5002			1	1		2	3.7	3.77	1.7
OB5011			6	1	1	8	14.8	38.26	17.6
SH			1			1	1.9	4.12	1.9
BS	1		1			2	3.7	38.81	17.9
SS0008			1			1	1.9	1.86	0.9
GA単独	1					1	1.9	15.04	6.9
合計	8	4	21	20	1	54	100.0	216.85	100.0



第163図 第5文化層250-93ブロック器種別・母岩別分布図

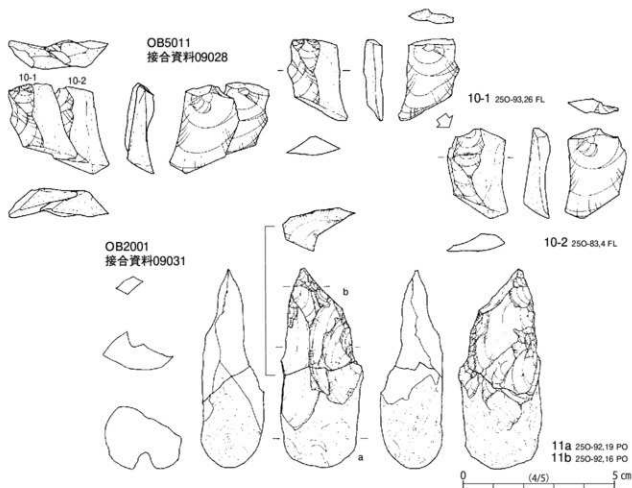


OB5001
接合資料09032



0 (4/5) 5 cm

第164図 第5文化層250-93ブロック出土石器(1)



第165図 第5文化層250-93ブロック出土石器(2)

第5文化層 250-85ブロック (第166・167図、第76表、図版75)

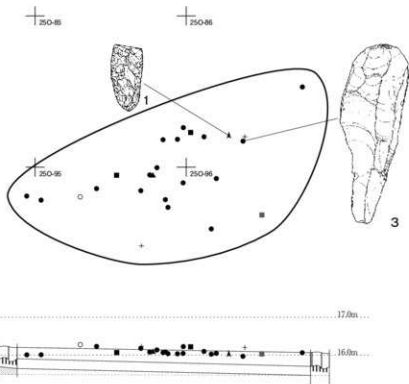
ユニット5 aの北寄り、250-85・86・94～96グリッドに分布する。8.0m×4.3mの範囲から23点の石器が出土した。2点の礫片を伴う。石器はブロック範囲内全体に分布する。出土層位はⅢ層である。東に傾斜する地形に沿って0.45mの高低差をもって包含される。250-94ブロックとブロック間接合する。

第76表 第5文化層250-85ブロック石器組成表

母岩番号/器種	尖頭器	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	石核	原石	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)
OB2001	1		1				2	8.7	8.89	5.1
OB5001			1				1	4.3	1.52	0.9
OB5011			2		1	1	4	17.4	57.32	33.0
CC1002			1		1		2	8.7	50.27	29.0
CC4005		1	1				2	8.7	5.54	3.2
CC4006			1				1	4.3	20.09	11.6
SS0008			1				1	4.3	4.83	2.8
HS0005			1				1	4.3	1.18	0.7
HS0008			1				1	4.3	2.89	1.7
GA4002				1			1	4.3	0.23	0.1
TO			1				1	4.3	1.28	0.7
CH0003			1				1	4.3	1.55	0.9
CH0004			5				5	21.7	17.85	10.3
合計	1	1	17	1	2	1	23	100.0	173.44	100.0

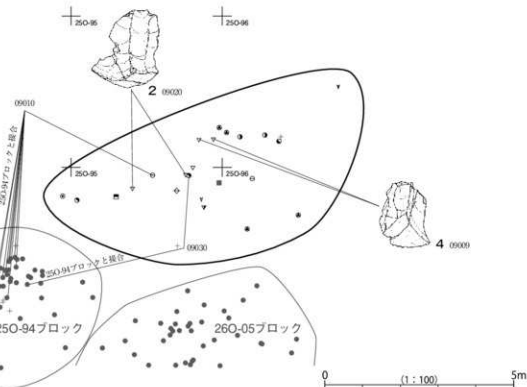


- ▲ 尖頭器
- ▲ 二次加工のある調片
- 調片
- 砕片
- 石核
- 原石
- + 礫片



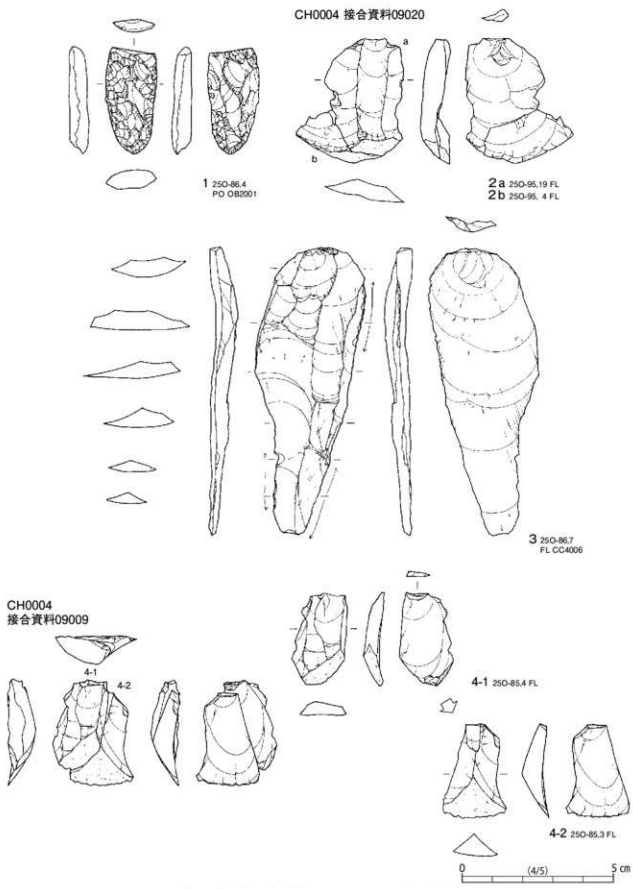
<器種別分布>

- OB2001
- OB5001
- OB5011
- CC1002
- CC4005
- CC4006
- ◇ SS0008
- ▽ HS0005
- ▽ HS0008
- GA4002
- TO
- ▽ CH0003
- ▽ CH0004
- + PF



<母岩別分布>

第166図 第5文化層250-85ブロック器種別・母岩別分布図



第167図 第5文化層250-85ブロック出土石器

石器器種は、尖頭器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核・原石で構成される。石材組成は、黒曜石(7点)・チャート(6点)・メノウ(5点)・硬質頁岩(2点)・珪質頁岩・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石(各1点)で構成される。母岩共有はユニット5a内とユニット外の26T-03ブロックのみで、黒曜石が25O-93・25O-94・26O-03・26O-05ブロックと、チャートが25O-94・26O-05ブロックと、メノウが25O-94・26O-03・26O-05とユニット外の26T-03ブロックと、硬質頁岩が26O-03・26O-05ブロックと母岩共有する。

1はOB2001の尖頭器である。素材形状は不明である。表裏で器体中央を越える大きな平坦調整が施された後に、全面に細かい平坦調整が施される。先端部は欠損する。

2(接合資料09020)はCH0004の縦長剥片である。折損した剥片2点が接合する。頭部調整がみられる。比較的整った作業面を持つ石核から剥離され、石核底面を大きく取り込む。

3はCC4006の剥片である。両設打面石核から剥離された大型の縦長剥片である。複剥離打面で頭部調整がみられる。左側面に平坦な剥離面の一部が残ることから、石核の角から剥離されていることがわかる。

4(接合資料09009)はCH0004の剥片2点が接合する。円礫を素材とし、右側面の大部りの剥離で作出された石核の角から縦長剥片が連続剥離され、4-1・4-2が剥離される。どちらも打面部が欠損する。

第5文化層 25O-94ブロック(第168～171図、第77表、図版75・76)

ユニット5aの中央、25O-94・95、26O-04グリッドに分布する。4.2m×4.0mの範囲から46点の石器が出土した。5点の礫・礫片からなる小規模な礫群を伴う。出土層位はV層～Ⅲ層である。南東に傾斜する地形に沿って0.36mの高低差をもって包含される。25O-85・26O-03ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・砕片・原石で構成される。石材組成は、メノウ(30点)・頁岩(10点)・珪質頁岩・チャート(各2点)・黒曜石・凝灰岩(各1点)で構成される。母岩共有はユニット5a内でみられ、メノウが25O-85・26O-03・26O-05ブロックと、チャートが25O-85・26O-05ブロックと、黒曜石は25O-93・25O-85・26O-03・26O-05ブロックと母岩共有する。

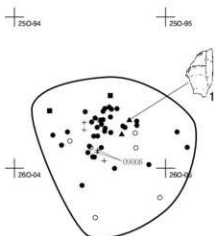
1・2は二次加工のある剥片である。1はCC1002の縦長剥片を素材とする。打面部に腹面から急角度の調整が施される。先端部は欠損する。ナイフ形石器の調整に似るが全体的に不整形である。2(接合資料09030)はCC4005の縦長剥片を素材とする。折損した二次加工のある剥片2点が接合する。ブロック間

第77表 第5文化層25O-94ブロック石器組成表

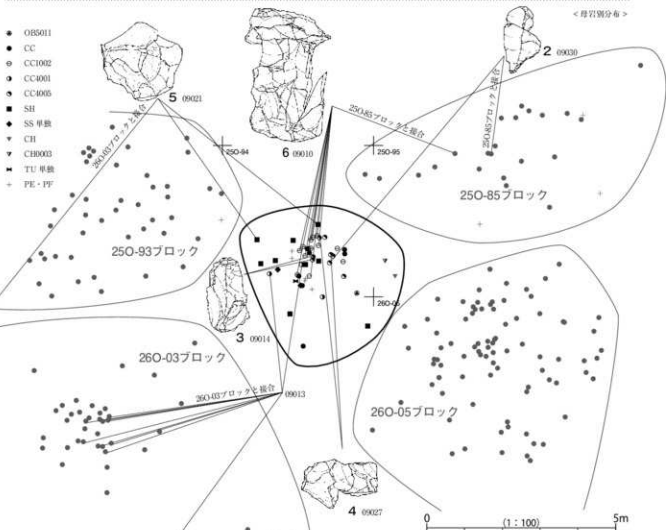
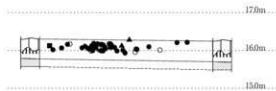
母岩番号/器種	二次加工 のある剥片	剥片	砕片	原石	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
OB5011		1			1	2.2	0.91	0.6
CC		4	2		6	13.0	15.75	9.7
CC1002	1	11	1		13	28.2	52.99	32.8
CC4001		3			3	6.6	8.92	5.5
CC4005	1	6	1		8	17.4	27.4	17.0
SH		6	2	2	10	21.7	18.48	11.4
SS単独		1	1		2	4.3	17.53	10.8
CH		1			1	2.2	4.93	3.1
CH0003		1			1	2.2	13.1	8.1
TU単独		1			1	2.2	1.59	1.0
合計	2	35	7	2	46	100.0	161.6	100.0



- ▲ 二次加工のある燧片
- 燧片
- 砂片
- 原石
- + 礫・礫片

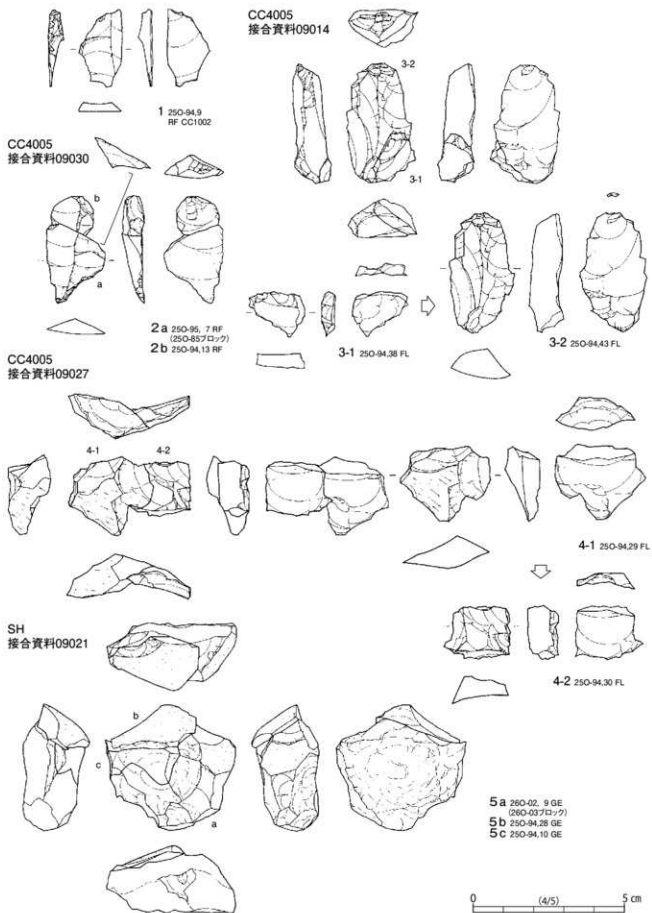


< 器種別分布 >



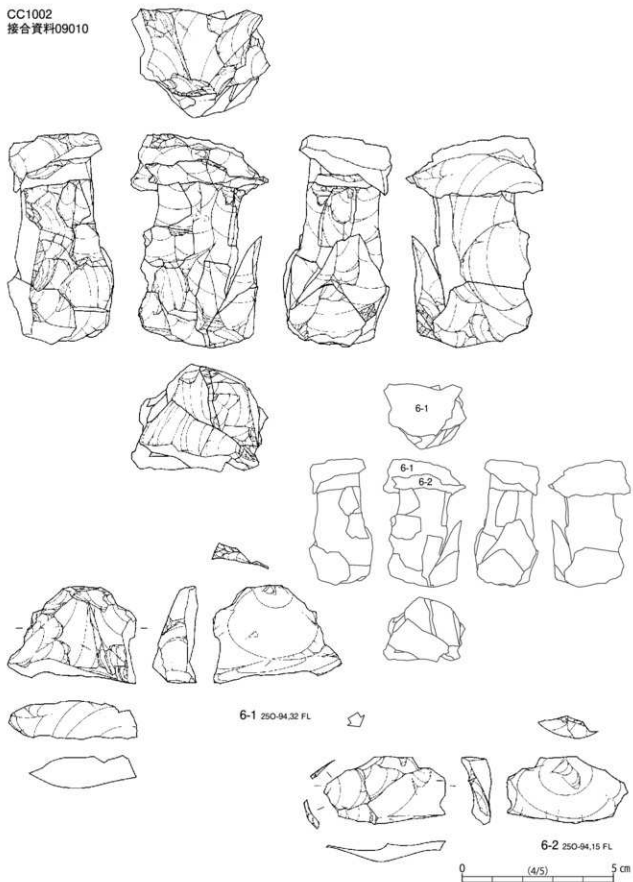
- OBS011
- CC
- CC1002
- CC4001
- CC4005
- SH
- SS 半換
- ▼ CH
- ▼ CH0003
- ▼ TU 半換
- + PE・PF

第168図 第5文化層250-94ブロック器種別・母岩別分布図

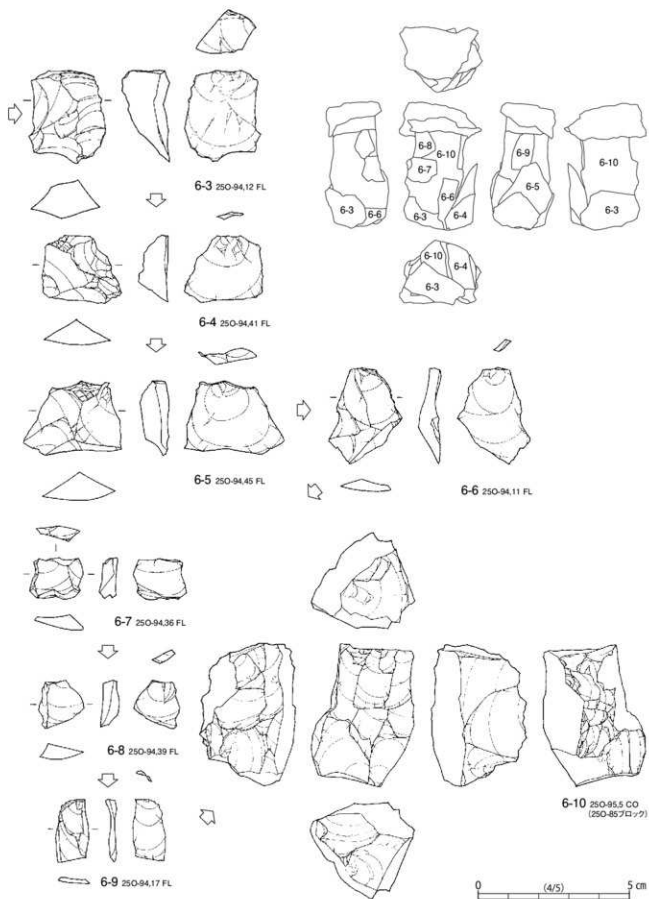


第169図 第5文化層250-94ブロック出土石器(1)

CC1002
接合資料09010



第170図 第5文化層250-94ブロック出土石器(2)



第171図 第5文化層250-94ブロック出土石器(3)

接合資料で、2 a は250-85ブロックから出土した。打面調整がみられる。右側縁末端に急角度の調整が施される。調整時に器体中央で折損し廃棄されたと考えられる。

3 (接合資料09014) はCC4005の剥片2点が接合する。石核の角で剥片が連続剥離され3-1・3-2が剥離される。3-1は大半が欠損しており剥片の末端だけが接合する。3-2は末端がウートラパッセになり作業面を大きく取り込む縦長剥片である。点打面で顕著な頭部調整がみられる。

4 (接合資料09027) はCC4005の剥片2点が接合する。節理面が残る作業面を持つ石核から連続剥離された剥片4-1・4-2が接合する。どちらも打面部が欠損する。

5 (接合資料09021) は被熱した頁岩の原石の接合資料である。3点の資料が接合する。人為的な剥離の可能性はあるが、被熱時の割れによるものであると考えたい。そのうち1点は、260-03ブロックとブロック間接合をしている。

6 (接合資料09010) はCC1002の剥片9点と石核1点が接合する。ブロック間接合資料で、石核6-10は250-85ブロックから出土した。大型の分割個体を素材とし、図の裏面に分割面が残る。打面再生を繰り返して縦長剥片を剥離する資料である。6つの工程がみられる。第1工程は上面の打面を作成する工程である。石核の周縁を巡る剥離の後に大ぶりの剥片6-1が剥離され、打面が作出される。第2工程は、作出された打面から縦長剥片を剥離する工程である。図の正面で数枚の縦長剥片が剥離される。第3工程は、上面の打面を更新する工程である。打面の周縁を巡る剥離の後に6-2が剥離され、打面が更新される。第4工程は、下面の打面と作業面を成形する工程で、横方向の剥離で打面を成形する6-3が、下面からの剥離で作業面を調整する6-4～6-6が剥離される。第5工程は、上面の再び上面の打面から縦長剥片を剥離する工程である。打面の周縁を巡って複数枚の剥片と6-7～6-8が剥離される。多くの剥離がヒンジを起こしている。頭部調整がみられる。第6工程は、石核の側面を剥離する工程で図の左側面で複数枚の剥片が剥離される。その後、残核6-10が廃棄される。

第5文化層 260-03ブロック (第172～175図、第78表、図版77・78)

ユニット5 a の南寄り、260-02・03・12～14グリッドに分布する。11.3m×9.2mの範囲から45点の石器が出土した。ブロック範囲の中央に集中地点がある。現場記録では出土層位はⅢ層である。南東に傾斜する地形に沿って0.40mの高低差をもって包含される。250-94ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核・原石で構成される。石材組成は、メノウ(27点)・ガラス質黒色安山岩(6点)・黒曜石(5点)・頁岩(3点)・珪質頁岩(2点)・硬質頁岩・トロトロ石(各1点)で構成される。CC4001とCC4005は被熱により変質しているが、本来の石質はCC4001に近い。母岩共有はユニット5 a内とユニット外の26T-03ブロックのみで、メノウは250-85・250-94・260-05ブロックとユニット外の26T-03ブロックと、ガラス質黒色安山岩は250-85ブロックと、黒曜石は250-93・250-85・250-94・260-05ブロックと母岩共有する。

1～3はナイフ形石器である。1・2はCC4002の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定する。1は調整は両側縁に施される。左側縁は側縁全体に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は基部に背面からやや平坦な調整が施される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。基部の折れは夾雑物によるもので、調整以前に折損する。2は調整は右側縁に施され、側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。左側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。先端は欠損する。3 (接合資料09015)

はCC4001の縦長剥片を素材として、打点を先端に設定する。器体中央で折れたナイフ形石器2点が接合し、先端は欠損する。調整は右側縁に施され、側縁全体に腹面から急角度の調整が施される。基部裏面には平坦調整が施される。左側縁は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。

4はHS0005の二次加工のある剥片である。石核底面を取り込む縦長剥片を素材とする。打面調整がみられる。調整は右側縁に腹面からやや平坦な調整が施される。

5は単独母岩の珪質頁岩の微細剥離痕のある剥片である。右側面に稜上調整が残ることから、石核の角から剥離されたことがわかる。両側縁に微細剥離痕がみられる。裏面の剥離方向は逆かもしれない。

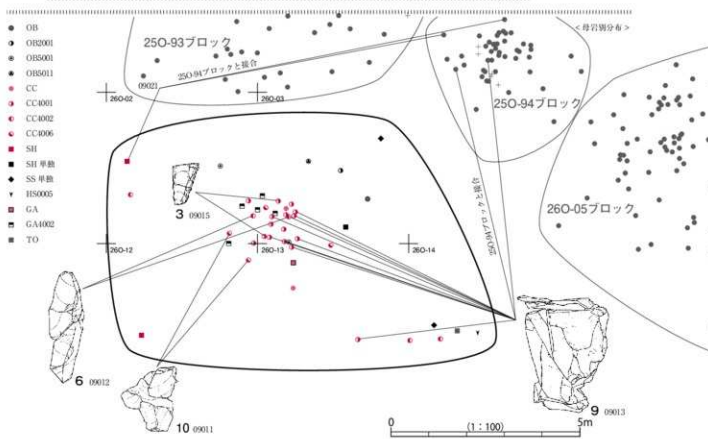
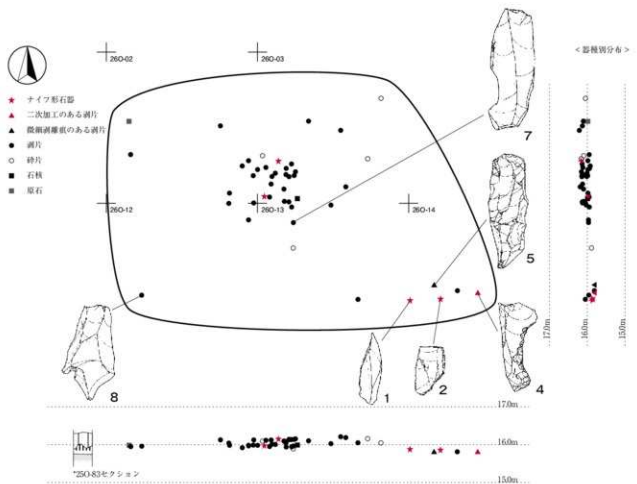
6～8は縦長剥片である。6（接合資料09012）はCC4002の縦長剥片で、節理面で折損した剥片2点が接合する。打面調整がみられる。右側面に大きな剥離面が残ることから、石核の角から剥離されたことがわかる。7はガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。頭部調整がみられる。比較的整った作業面を持つ石核から剥離される。右側面に平坦な自然面が残ることから、石核の角から剥離されていることがわかる。8は頁岩の縦長剥片である。打面調整がみられる。

9（接合資料09013）はCC4001の剥片10点と石核1点が接合する。ブロック間接合資料で剥片9-5・9-7が250-94ブロックから出土した。複数枚の剥離より打面を作出し縦長剥片を剥離する接合資料である。直角稜を素材とする。5つの工程がみられる。第1工程は、石核の周縁を巡る剥離により打面を作出する工程である。9-1～9-4の剥片が剥離される。第2工程は、下面の作業面を成形する工程である。9-5・9-6の剥片が剥離される。第3工程は、上面の打面から縦長剥片を剥離する工程で、数枚の剥片と9-7が剥離される。顕著な頭部調整がみられる。縦長剥片の間に下面からの作業面が調整され9-8が剥離される。9-9は末端がウートラパッセになり作業面を大きく取り込む。第4工程は、下面の打面を作出する工程で、9-10が剥離され狭い打面が作出される。第5工程は、下面の打面から剥片を剥離する工程で、短い縦長剥片が剥離される。その後、残核9-11が廃棄される

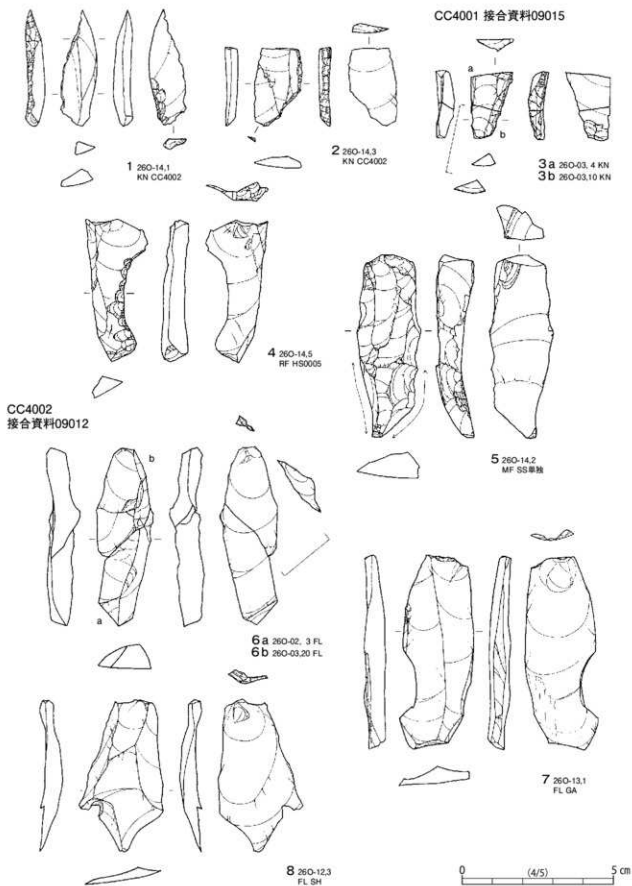
10（接合資料09011）はCC4006の剥片2点が接合する。多方向から剥片を剥離する工程の接合資料で、9の打面作出工程と同様の剥離工程であると考えられる。

第78表 第5文化層260-03ブロック石器組成表

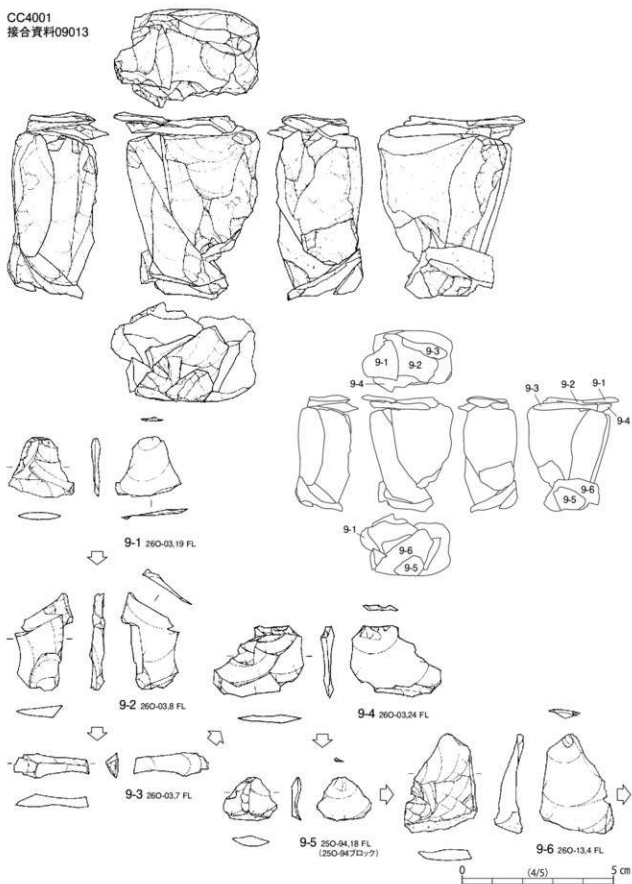
母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	砕片	石核	原石	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	
OB				1	1			1	2.2	0.08	0.01
OB2001				1				1	2.2	3.61	1.9
OB5001				2				2	4.4	1.57	0.8
OB5011				1				1	2.2	0.95	0.5
CC				1	1			2	4.4	13.92	7.3
CC4001	2			13		1		16	35.6	53.94	28.1
CC4002	2			3				5	11.1	32.76	17.1
CC4006				4				4	8.9	9.36	4.9
SH				1			1	2	4.4	34.45	18.0
SH単独				1				1	2.2	1.31	0.7
SS単独			1		1			2	4.4	15.24	7.9
HS0005		1						1	2.2	4.96	2.6
GA				1				1	2.2	10.87	5.7
GA4002				4	1			5	11.1	8.13	4.2
TO				1				1	2.2	0.67	0.3
合計	4	1	1	33	4	1	1	45	100.0	191.82	100.0



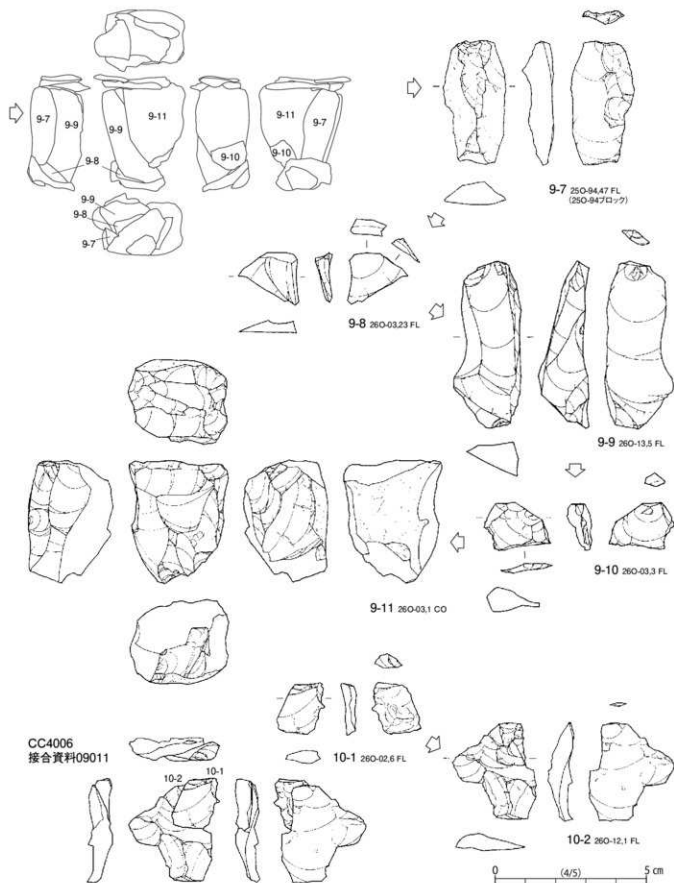
第172図 第5文化層260-03ブロック器種別・母岩別分布図



第173図 第5文化層260-03ブロック出土石器(1)



第174図 第5文化層260-03ブロック出土石器(2)



第175図 第5文化層260-03ブロック出土石器(3)

第5文化層 26O-05ブロック (第176～180図、79表、図版78～80)

ユニット5 aの南寄り、25O-95・96、26O-04～06・15・16グリッドに分布する。7.8m×6.5mの範囲から89点の石器が出土した。石器はブロック範囲内全体に分布する。現場記録では出土層位はⅢ層である。南東に傾斜する地形に沿って0.56mの高低差をもって包含される。ブロック間接合はない。

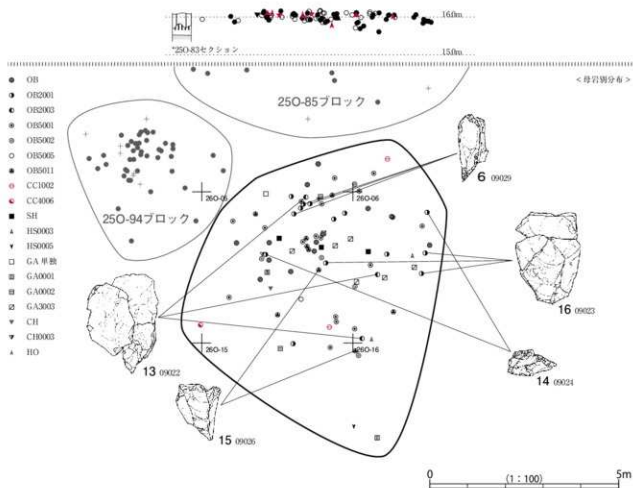
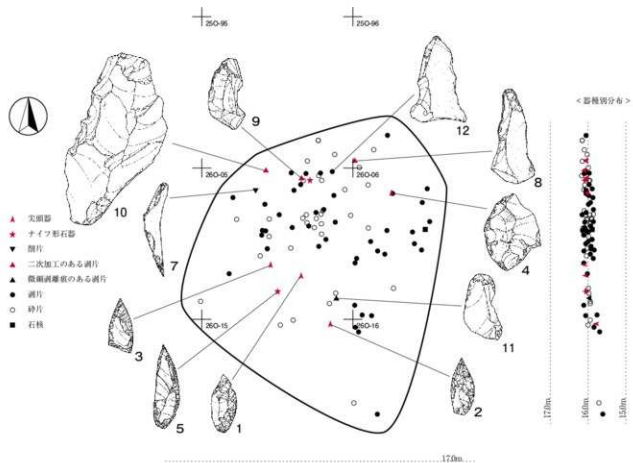
石器器種は、尖頭器・ナイフ形石器・削片・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(63点)・ガラス質黒色安山岩(12点)・チャート(4点)・メノウ・頁岩・硬質頁岩(各3点)・ホルンフェルス(1点)で構成される。母岩共有はユニット5 a内とユニット外の26T-03ブロックでみられ、黒曜石は25O-93・25O-85・25O-94・26O-03ブロックと、チャートは25O-85・25O-94ブロックと、メノウは25O-85・25O-94・26O-03ブロックとユニット外の26T-03ブロックと、硬質頁岩は25O-85・26O-03ブロックと母岩共有する。

1～4は尖頭器である。1はOB5005の剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は、表面左側を除いて表裏全面に平坦調整が施される。表面左側には自然面が残る。先端は欠損する。2はOB5001の剥片を素材とする。表裏両面に大ぶりの平坦調整が施された後に、全面に細かい平坦調整が施される。3はチャートの横長剥片を素材として、打点を右側面に設定する。調整は、表裏全面に細かい平坦調整が施される。基部は欠損する。4はOB5005の尖頭器未成品である。幅広剥片を素材とする。表面に大ぶりの平坦調整の後に細かい平坦調整が施される。右側縁上半は欠損する。意図的な折り取りの可能性もある。左側面に自然面の打面が残置され、全体的に不整形であるため尖頭器未成品とした。

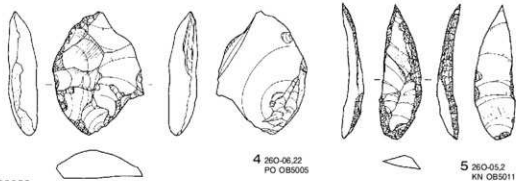
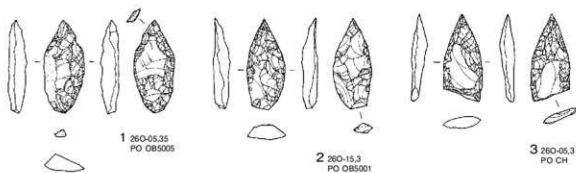
5はOB5011のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は両側縁に施される。左側縁は基部と先端に腹面から細かい急角度の調整が施され、右側縁は側縁全体に腹面からやや平坦な調整が施される。打面部には裏面に細かい平坦調整が施される。

第79表 第5文化層26O-05ブロック石器組成表

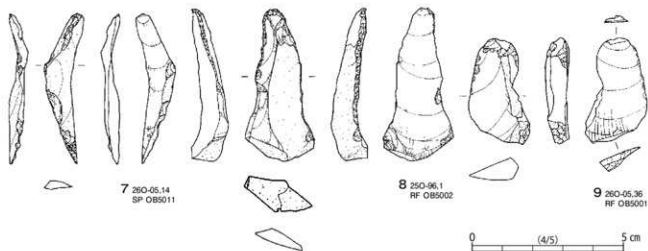
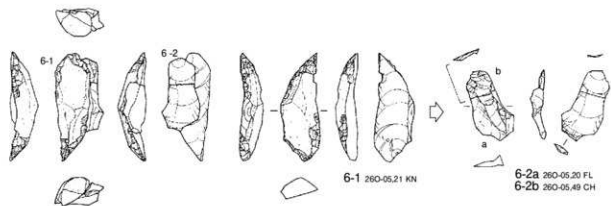
母岩番号/器種	尖頭器	ナイフ形石器	削片	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
									(%)	(g)	(%)	(g)
OB						2	11		13	14.7	2.56	1.0
OB2001		1				9	3	1	14	15.8	42.71	16.4
OB2003						3			3	3.4	18.67	7.2
OB5001	1			1		7	7		16	18.1	20.2	7.8
OB5002				1		3	1		5	5.6	11.47	4.4
OB5005	2								2	2.2	12.33	4.7
OB5011		1	1		1	4	3		10	11.2	24.18	9.3
CC1002						1	1		2	2.2	0.82	0.3
CC4006							1	1	1	1.1	0.31	0.1
SH						1	2		3	3.4	3.0	1.2
HS0003						2			2	2.2	2.29	0.9
HS0005							1		1	1.1	0.17	0.1
GA単独				1					1	1.1	101.14	38.9
GA0001						2			2	2.2	2.37	0.9
GA0002						1	1		2	2.2	2.84	1.1
GA3003						6	1		7	7.9	10.04	3.9
CH	1						2		3	3.4	3.13	1.2
CH0003						1			1	1.1	1.58	0.6
HO							1		1	1.1	0.01	0.01
合計	4	2	1	3	1	42	35	1	89	100.0	259.82	100.0



第176図 第5文化層260-05ブロック器種別・母岩別分布図

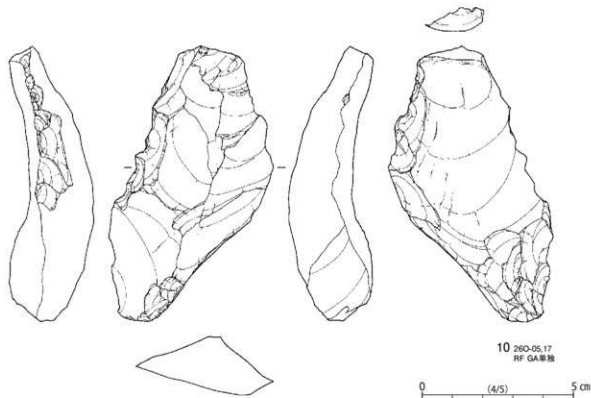


OB2001
接合資料09029



0 (4/5) 5 cm

第177図 第5文化層260-05ブロック出土石器(1)



第178図 第5文化層260-05ブロック出土石器(2)

6 (接合資料09029)はOB2001のナイフ形石器1点と剥片1点と砕片1点が接合する。6-2は折損した剥片と砕片が接合する。自然面の角を作業面として縦長剥片が連続剥離され、6-1・6-2が剥離される。僅かな頭部調整がみられる。6-1は打点を基部に設定して、両側縁に調整が施されナイフ形石器に成形される。左側縁は先端と基部に腹面から急角度の調整が施され、右側縁は先端と基部に細かい調整が施される。

7はOB5011の削片である。板状の剥片の端部から剥離されている。表裏は自然面と古い分割面ないしズリ面に覆われ、稜上調整がみられる。

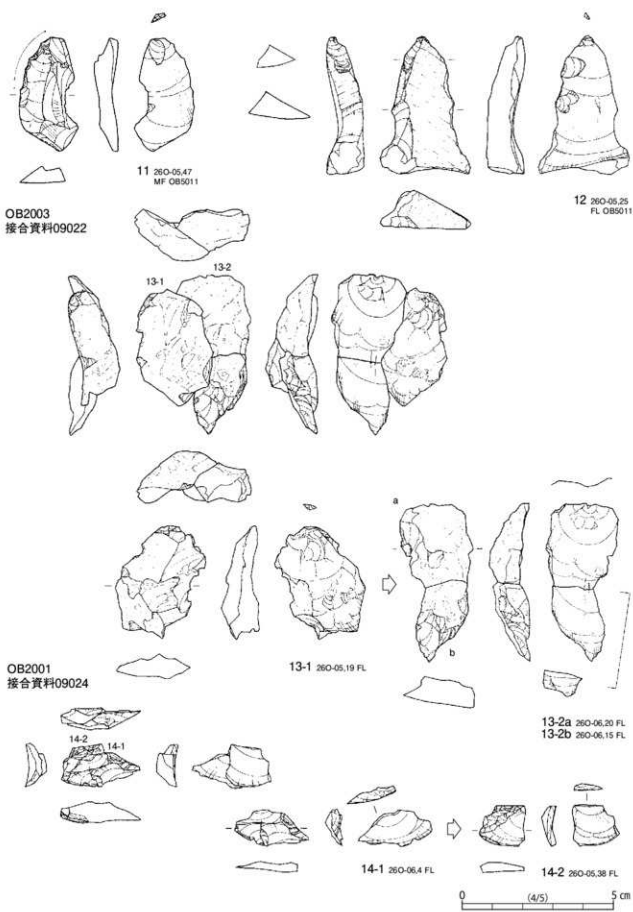
8～10は二次加工のある剥片である。8はOB5002の縦長剥片を素材とする。末端がウートラパッセになり石核底面を取り込む。両側縁に腹面から細かい急角度の調整が施される。9はOB5001の縦長剥片を素材とする。右側縁の基部と先端と左側縁の上半部に腹面から部分的な調整が施される。先端は欠損する。10は単独母岩のガラス質黒色安山岩の大型剥片を素材とする。調整は両側縁に粗い調整が施される。左側縁は上半部に腹面から、下半部に背面から調整が施される。右側縁は上半部に背面から調整が施される。調整が大ぶりであるため、小剥片を剥離する石核と捉えることもできる。

11はOB5011の微細剥離痕のある剥片である。打面調整がみられる。12はOB5011の縦長剥片である。節理面の角から剥離され、石核底面を取り込む。点打面で頭部調整がみられる。

13 (接合資料09022)はOB2003を持つ石核の剥片3点が接合する。13-2は折損した剥片2点が接合する。亜角礫を素材とする。自然面の作業面を持つ石核から剥片が連続剥離され、13-1・13-2が剥離される。打面はそれぞれ点打面・線打面で頭部は無調整である。

14 (接合資料09024)はOB2001の剥片2点が接合する。薄手の幅広剥片が連続剥離され、14-1・14-2が剥離される。どちらも打面は欠損する。

15 (接合資料09026)はOB5011の剥片2点が接合する。石核の角から剥片が連続剥離され、15-1・15-2

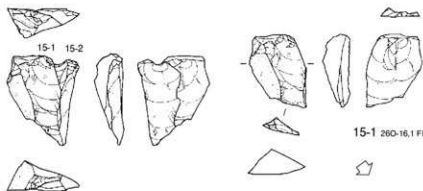


OB2003
接合資料09022

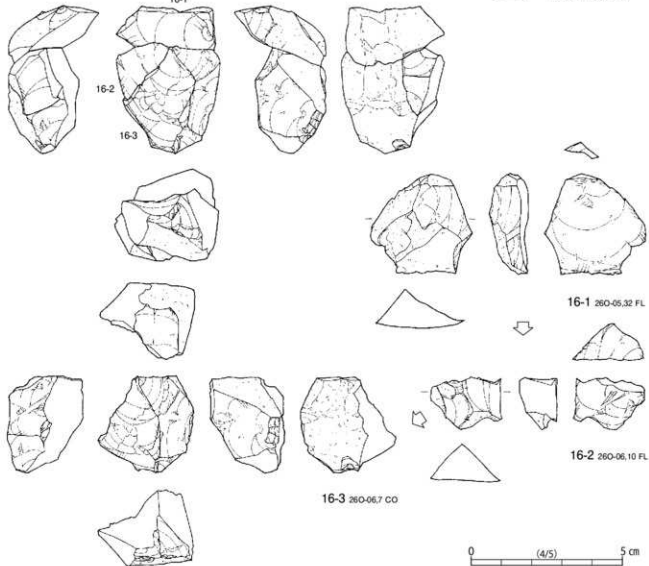
OB2001
接合資料09024

第179図 第5文化層260-05ブロック出土石器(3)

OB5011
接合資料09026



OB2001
接合資料09023



0 (4/5) 5 cm

第180図 第5文化層260-05ブロック出土石器(4)

が剥離される。頭部調整が施される。

16 (接合資料09023)はOB2001の剥片2点と石核1点が接合する。垂角礫を素材とする。2つの工程がみられる。第1工程は、打面を作出する工程である。垂角礫の端部から16-1が剥離され、上面の打面が作出される。第2工程は、剥片を剥離する工程で、上面は第1工程で作出された打面から、下面は自然面を打面として、上下から数枚の剥片と16-2が剥離される。打面は無調整である。その後、残核16-3が廃棄される。

第5文化層 ユニット5b (第181・182図、第80・81表、図版6・7・80～84)

西側台地の南、大グリッド27L付近に分布する。総計753点の石器と40点の礫が出土し、3か所の集中地点で構成される。ユニット5aと窪地を挟んで南西の台地に立地し、IV層上部の石器群と推定される。27L-03・27L-21ブロック間、27L-21・27L-76ブロック間でブロック間接合がある。

ユニット5bのブロック別石材組成と石器組成は第80表と第81表のとおりである。石器石材は、黒曜石(96.0%)が大半を占める(点数比)。母岩共有は、ユニット内で頻繁にみられ、黒曜石はユニット内全体で母岩共有がみられ、頁岩・珪質頁岩は北側のブロックで母岩共有がみられる。

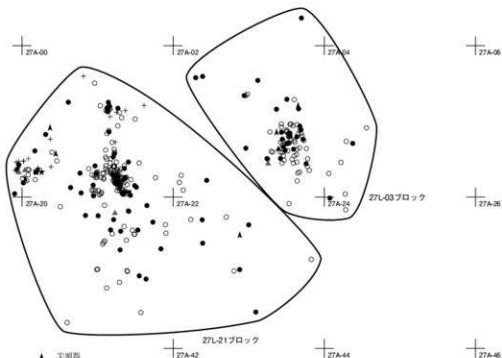
石器器種は、尖頭器・ナイフ形石器・削片・彫器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核が出土している。黒曜石の砕片が多く723点のうち530点は砕片である。有穂尖頭器・黒曜石という単相的な様相を示し、複相的な様相を示すユニット5aと対比される。

第80表 第5文化層ユニット5bブロック別石材組成表

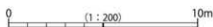
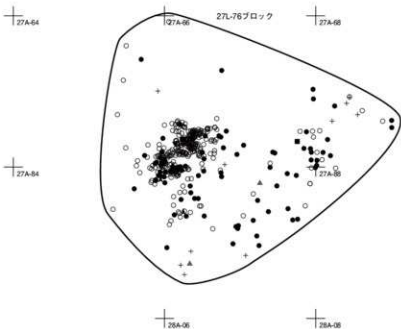
石材/ブロック	27L-03	27L-21	27L-76	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB	84	216	423	723	96.0	624.23	91.3
CC		1	1	2	0.3	4.70	0.7
SH	6	4	2	12	1.6	9.78	1.4
SS	1	1		2	0.3	5.22	0.8
HS	2	1	1	4	0.5	6.18	0.9
GA	1	4	2	7	0.9	30.88	4.5
CH			3	3	0.4	2.36	0.3
点数合計	94	227	432	753	100.0	-	-
重量合計(g)	77.99	308.84	296.52	-	-	683.35	100.0
礫・礫片(点数)		26	14	40	100.0	-	-
礫・礫片(g)		1616.33	688.15	-	-	2,304.48	100.0

第81表 第5文化層ユニット5b石器組成表

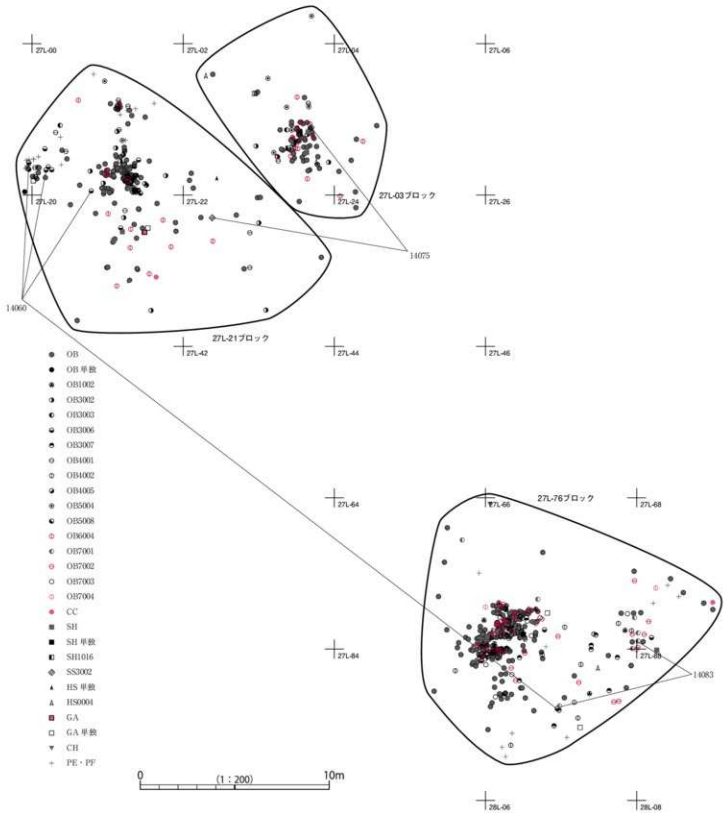
石材/器1種	尖頭器	ナイフ形石器	削片	彫器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	剥片	砕片	石核	合計
OB	9	2	1		6		173	530	2	723
CC							2			2
SH				1		2	1	8		12
SS							2			2
HS							4			4
GA							5	2		7
CH							1	2		3
合計	9	2	1	1	6	2	188	542	2	753



- ▲ 尖頭器
- ★ ナイフ形石器
- ▼ 破片
- 部器
- ▲ 二次加工のある破片
- ▲ 微細調整痕のある破片
- 破片
- 砕片
- 石核
- + 鏃・鏃片



第181図 第5文化層ユニット5b器種別分布図



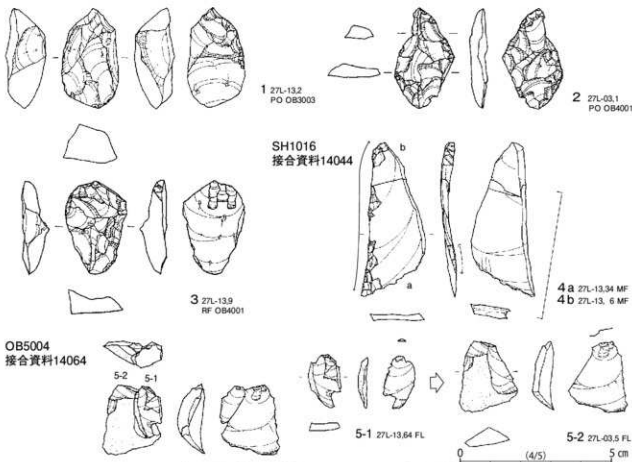
第182図 第5文化層ユニット5b母岩別分布図

第5文化層 27L-03ブロック (第183・184図、第82表、図版6・80)

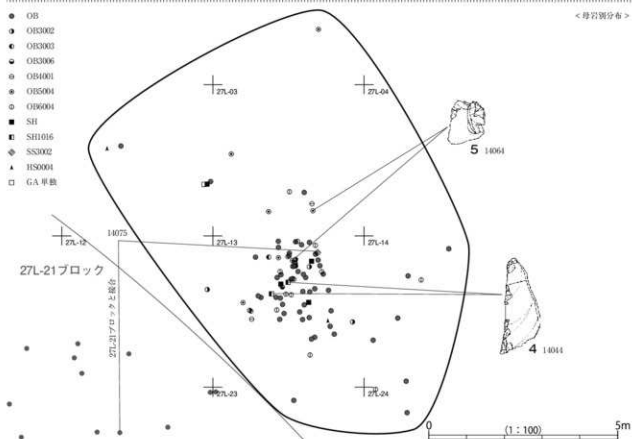
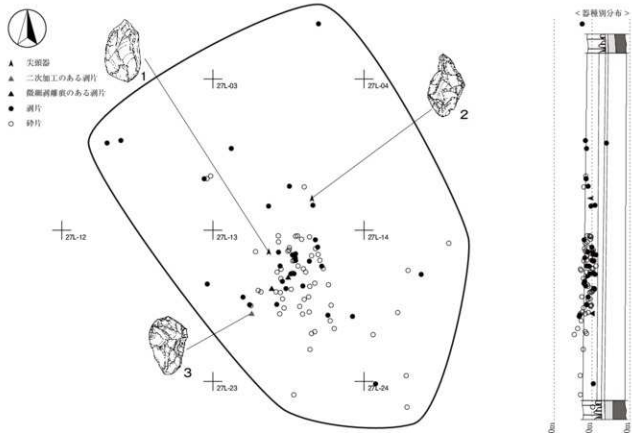
ユニット5bの北寄り、26L-93、27L-02・03・12～14・23・24グリッドに分布する。11.4m×7.6mの範囲から94点の石器が出土した。ブロック範囲の南に集中地点がある。出土層位はⅢ層で、北東に傾斜する地形に沿って0.86mの高低差をもって包含される。27L-21ブロックとブロック間接合する。

第82表 第5文化層27L-03ブロック石器組成表

母岩番号/器種	尖頭器	二次加工 のある剥片	微細剥離痕 のある剥片	剥片	破片	点数合計		重量合計	
						(%)	(%)	(g)	(%)
OB				4	49	53	56.4	28.88	37.0
OB3002				6		6	6.4	4.83	6.2
OB3003	1					1	1.1	6.69	8.6
OB3006				1		1	1.1	3.03	3.9
OB4001	1	1				2	2.1	7.25	9.3
OB5004				7		7	7.4	6.35	8.1
OB6004				9	5	14	14.9	12.12	15.5
SH					4	4	4.3	0.44	0.6
SH1016			2			2	2.1	2.98	3.8
SS3002				1		1	1.1	1.27	1.6
HS0004				2		2	2.1	3.36	4.3
GA単独				1		1	1.1	0.79	1.0
合計	2	1	2	31	58	94	100.0	77.99	100.0



第183図 第5文化層27L-03ブロック出土石器



第184図 第5文化層27L-03ブロック器種別・母岩別分布図

石器器種は、尖頭器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片で構成される。石材組成は、黒曜石(84点)・頁岩(6点)・硬質頁岩(2点)・珪質頁岩・ガラス質黒色安山岩(各1点)で構成される。母岩共有はユニット内でみられ、黒曜石は27L-21・27L-76ブロックと、頁岩・珪質頁岩は27L-21ブロックと母岩共有する。

1・2は尖頭器未成品である。1はOB3003の剥片を素材とする。腹面上部に平坦調整が施される。甲高で不整形であるため尖頭器未成品とした。2はOB4001の剥片を素材として、表裏全面に平坦調整が施される。左側縁上半は夾雑物により折れて欠損しており、剥離時の事故で欠損し廃棄されたと考えられる。

3はOB4001の二次加工のある剥片である。背面は打面部と右側縁に腹面から調整が施され、打面部は腹面にも縦溝状の調整が施される。

4(接合資料14044)はSH1016の微細剥離痕のある剥片である。左側面は剥離時に同時割れした折れ面である。右側面に平坦な剥離面が残し、背面が先行する大きな剥離面で覆われることから、石核の角から短冊状に連続剥離された剥片であることがわかる。

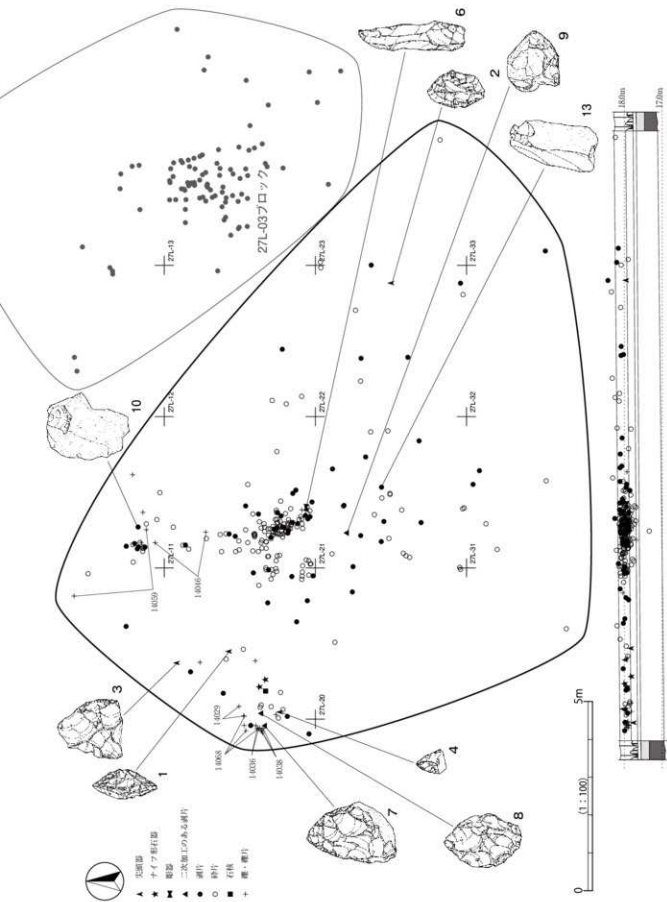
5(接合資料14064)はOB5004の剥片2点が接合する。自然面を作業面として剥片が連続剥離され、5-1・5-2が剥離される。それぞれ点打面・線打面で頭部は無調整である。5-2は石核底面を取り込む。

第5文化層 27L-21ブロック(第185～190図、第83表、図版6・7・81～83)

ユニット5bの北寄り、27K-19・27L-00・01・10～12・20～23・30・31・33グリッドに分布する。17.4m×12.6mの範囲から227点の石器が出土した。26点の礫・礫片からなる礫群が伴う。石器はブロック範囲の中央北寄りに集中地点があり、礫群は北西に分布する。出土層位はⅤ層～Ⅲ層で、1.09mの高低差をもってほぼ水平に包含される。27L-03・27L-76ブロックとブロック間接合する。

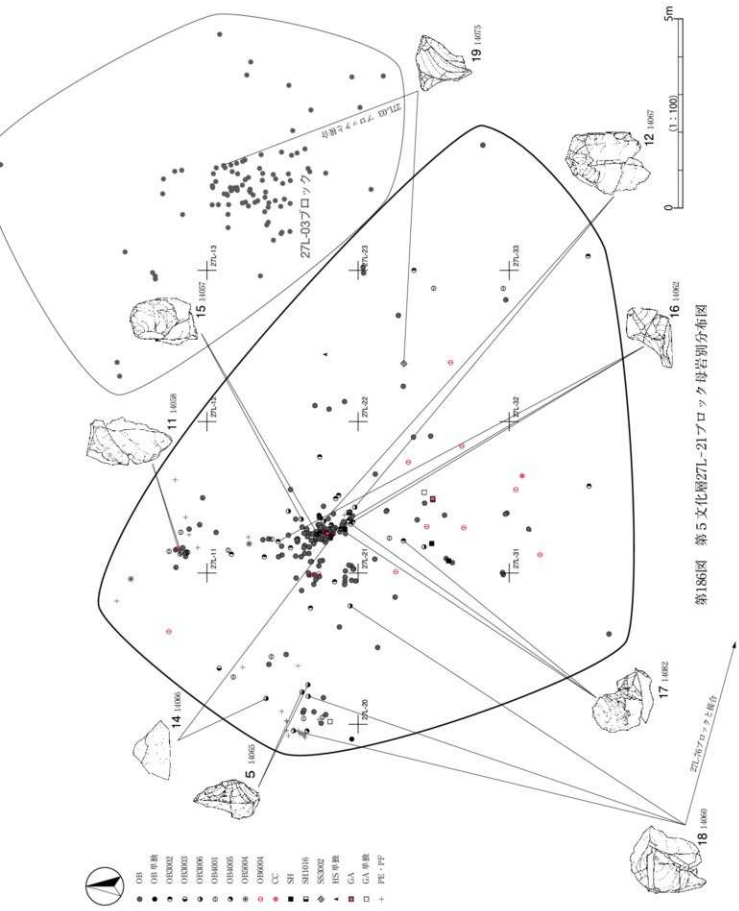
第83表 第5文化層27L-21ブロック石器組成表

母岩番号/器種	尖頭器	ナイフ形石器	彫器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
OB					8	139		147	64.8	27.41	8.9
OB単独					1			1	0.4	17.94	5.8
OB3002					15	7		22	9.7	19.89	6.4
OB3003	1							1	0.4	9.84	3.2
OB3006		2			11		1	14	6.2	69.81	22.6
OB4001	3			2	9			14	6.2	85.72	27.8
OB4005				1				1	0.4	22.13	7.2
OB5004						2		2	0.9	0.87	0.3
OB6004					11	3		14	6.2	15.76	5.1
CC					1			1	0.4	2.43	0.8
SH						3		3	1.3	0.27	0.1
SH1016			1					1	0.4	4.35	1.4
SS3002					1			1	0.4	3.95	1.3
HS単独					1			1	0.4	0.33	0.1
GA						2		2	0.9	0.86	0.3
GA単独					2			2	0.9	27.28	8.8
合計	4	2	1	3	60	156	1	227	100.0	308.84	100.0



第185図 第5文化層27L-21ブロック器種別・露分布図

- OH
- OH 半旗
- OH3002
- OH3003
- OH3006
- OH4001
- OH4005
- OH5001
- OH6004
- CC
- SF
- SH
- SH1016
- ◆ SS3002
- ▲ HS 半旗
- GA
- GA 半旗
- + PE・PF



第186図 第5文化層27L-21ブロック母岩別分布図

石器器種は、尖頭器・ナイフ形石器・彫器・二次加工のある剥片・剥片・碎片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(216点)・ガラス質黒色安山岩・頁岩(各4点)・メノウ・珪質頁岩・硬質頁岩(各1点)で構成される。母岩共有はユニット5 b内でみられ、黒曜石は27L-03・27L-76ブロックと、珪質頁岩は27L-03ユニットと母岩共有する。

1・2はOB4001の有柄尖頭器である。1は剥片を素材として打点を先端に設定する。表面は全周で甲高な背稜まで届く平坦調整が施され、裏面は上半部に平坦調整が施される。その後、先端から左肩にかけて表面側に槌状剥離が施される。2は幅広剥片を素材として、打点を右側面に設定する。表面に全周から甲高な背稜まで届く平坦調整が施され、その後、先端から左肩にかけて表面側に槌状剥離が施されるが、槌状剥離が肩部まで抜けきらず側縁稜が残置される。

3・4は尖頭器である。3はOB3003の尖頭器である。素材形状は不明である。表裏全面に平坦調整が施される。下半部は欠損する。4はOB4001の尖頭器である。素材形状は不明である。先端部以外は欠損する。残存する範囲では表裏全面に平坦調整が施される。

5(接合資料14065)はOB3006のナイフ形石器である。折損した2点が接合する。やや、しの字状になった剥片を素材として、打点を先端に設定する。背面左側は折れ面で、打面部が意図的な折り取りもしくは折損により折れた後、右側縁に腹面から平坦な調整が施される。腹面も先端に僅かに平坦調整が施される。左側縁は折れ面の縁辺がそのまま刃部として用いられる。

6はSH1016の彫器である。背稜が整った縦長剥片を素材とする。先端から右側面に掛けて腹面側に槌状剥離が施された後に、左側縁にかけて再び槌状剥離が施される。打面部は欠損する。

7はOB4005の二次加工のある剥片である。厚手の剥片を素材とする。打面部を折り取り、表面に入念な平坦調整を施す。基部側は石核底面を取り込んだ厚い末端部が残置される。

8・9はOB4001の二次加工のある剥片である。8は剥片を素材として打点を先端に設定する。表面は全周から甲高な背稜まで届く平坦調整が施され、裏面は上半部に平坦調整が施される。先端右側縁は節理面で折れて欠損する。9は厚手の剥片を素材として、末端に急角度の調整が施される。搔器と捉えることもできる。

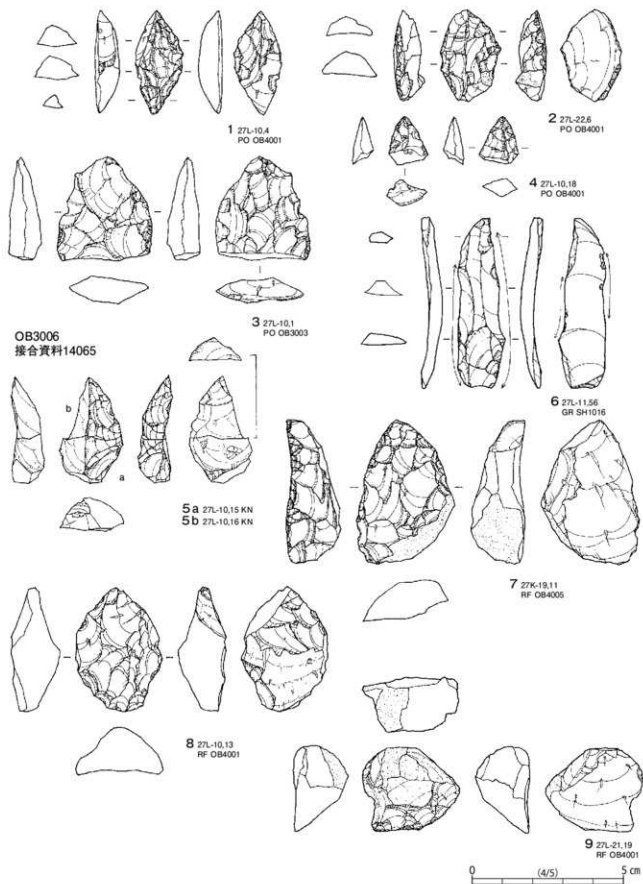
10～14は剥片である。10はOB4001の剥片である。自然面の作業面の角から剥離された剥片である。打面調整がみられる。11(接合資料14058)は折損したOB4001の剥片2点が接合する。打面部は欠損する。

12(接合資料14067)は折損したOB3006の剥片2点が接合する。先端部は欠損する。13は単独母岩のガラス質黒色安山岩の縦長剥片である。頭部調整がみられる。右側面に自然面が残り、左側面に大きな剥離面の一部が残ることから、石核の角から剥離されていることがわかる。14(接合資料14066)は折損したOB3006の剥片2点が接合する。

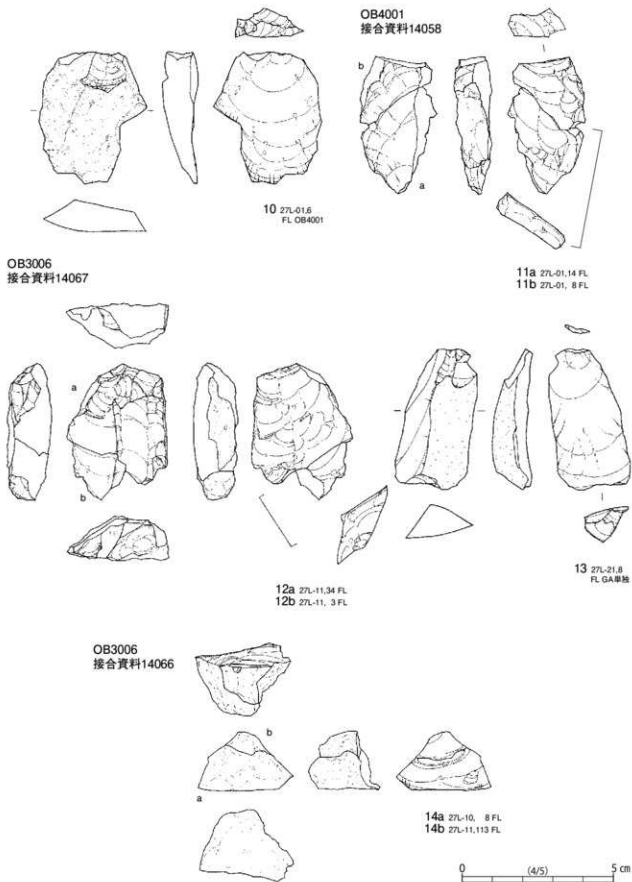
15(接合資料14057)はOB3006の剥片2点が接合する。小型の亜角礫を素材として、石核の角から剥片が連続剥離され、15-1・15-2が剥離される。頭部・打面は無調整である。15-2は打面部が欠損する。

16(接合資料14062)はOB3002の剥片3点が接合する。16-1は折損した2点が接合する。亜角礫を素材とする。石核の角から打面を90°転移しながら剥片が連続剥離され16-1・16-2が剥離される。どちらも打面部が欠損する。

17(接合資料14082)はOB3002の剥片3点が接合する。17-2は折損した2点が接合する。小型の亜角礫を素材とする。石核の角から石核底面を取り込む剥片が連続剥離され、17-1・17-2が剥離される。17-2

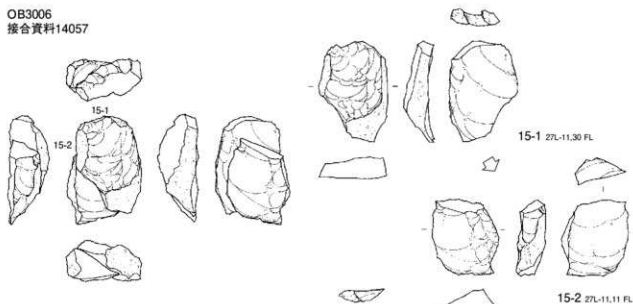


第187図 第5文化層27L-21ブロック出土石器(1)

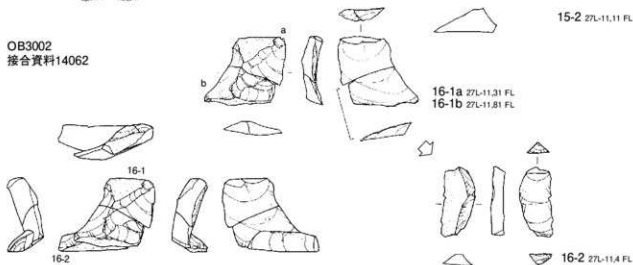


第188図 第5文化層27L-21ブロック出土石器(2)

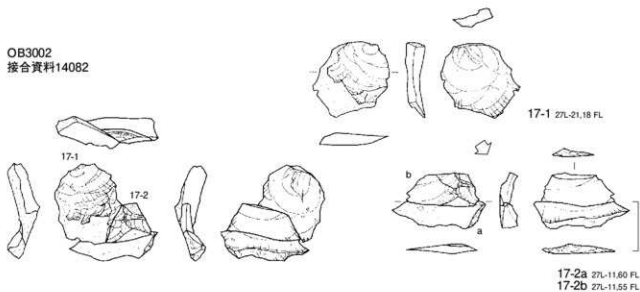
OB3006
接合資料14057



OB3002
接合資料14062



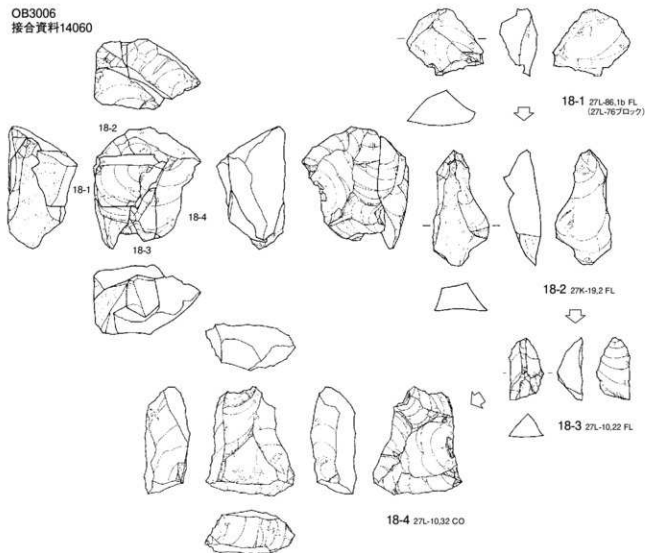
OB3002
接合資料14082



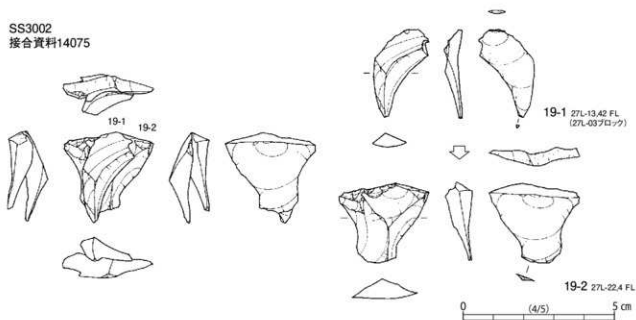
0 (4/5) 5 cm

第189図 第5文化層27L-21ブロック出土石器(3)

OB3006
接合資料14060



SS3002
接合資料14075



第190図 第5文化層27L-21ブロック出土石器(4)

は打面部が欠損する。

18 (接合資料14060)はOB3006の剥片3点と石核1点が接合する。小型の亜角礫を素材とする。表裏の作業面を交互に入れ替えし、打面を上下左右に転移しながら多方向から剥片が連続剥離され、数枚の剥片と18-1～18-3が剥離される。最終的に残核18-4が廃棄される。

19 (接合資料14075)はSS3002の剥片2点が接合する。打面を転移しながら多方向から剥片が連続剥離され、19-1・19-2が剥離される

第5文化層 27L-76ブロック (第191～194図、第84表、図版7・83・84)

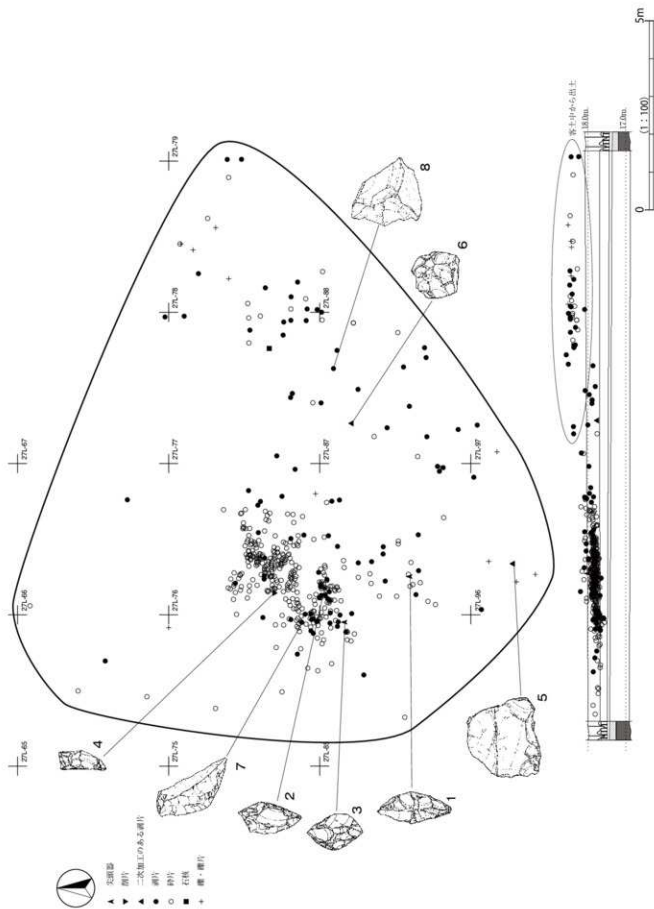
ユニット5bの北寄り、27L-65～68・75～79・85～88・96・97グリッドに分布する。16.0m×13.3mの範囲から432点の石器が出土した。14点の礫・礫片からなる小規模な礫群が伴う。石器はブロック範囲の中央の東西に集中地点があり、礫群は散漫に分布する。出土層位はⅤ層～Ⅲ層で、0.63mの高低差をもってほぼ水平に包含される。27L-21ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、尖頭器・削片・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(423点)・チャート(3点)・頁岩・ガラス質黒色安山岩(各2点)・メノウ・硬質頁岩(各1点)で構成される。母岩共有はユニット5b内でみられ、黒曜石は27L-03・27L-21ブロックと、硬質頁岩は27L-03ブロックと母岩共有する。

1・2は有樋尖頭器である。1はOB5008の剥片を素材として、打点を右側面に設定する。表裏全面に平坦調整が施され、表面は甲高な背稜まで届く平坦調整が施される。その後、先端から左肩にかけて表面側に樋状剥離が施される。2はOB7002の剥片を素材として、打点が右側縁に、腹面が表面に設定される。表裏全面に平坦調整が施され、表面の右側縁は細かい調整が施される。裏面は一部素材の自然面が残置される。その後、先端から左肩にかけて表面側に樋状剥離が2回施される。3はOB3006の尖頭器である。剥片を素材として、打点を基部に設定する。表面に設定しはほぼ全周から平坦調整が施される。左側縁下半

第84表 第5文化層27L-76ブロック石器組成表

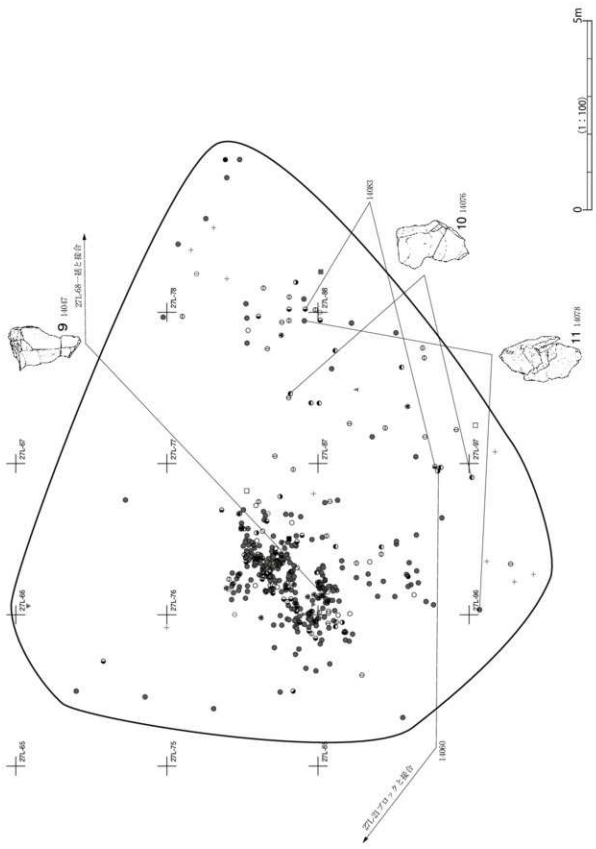
母岩番号/器種	尖頭器	削片	二次加工 のある 剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
							(%)	(g)	(%)	(%)
OB				20	253		273	63.2	60.71	20.5
OB1002				5	8		13	3.0	10.87	3.7
OB3002					2		2	0.5	0.38	0.1
OB3006	1			4			5	1.2	11.17	3.8
OB3007				11	3		14	3.2	19.52	6.6
OB4002			2	10		1	13	3.0	101.53	34.2
OB5008	1						1	0.2	4.4	1.5
OB7001		1		9	20		30	6.9	32.47	10.9
OB7002	1			21	14		36	8.3	29.95	10.1
OB7003				8	21		29	6.7	10.35	3.4
OB7004				3	4		7	1.6	4.36	1.5
CC				1			1	0.2	2.27	0.8
SH					1		1	0.2	0.26	0.1
SH単独				1			1	0.2	1.48	0.5
HS0004				1			1	0.2	2.49	0.8
GA単独				2			2	0.5	1.95	0.7
CH				1	2		3	0.7	2.36	0.8
合計	3	1	2	97	328	1	432	100.0	296.52	100.0



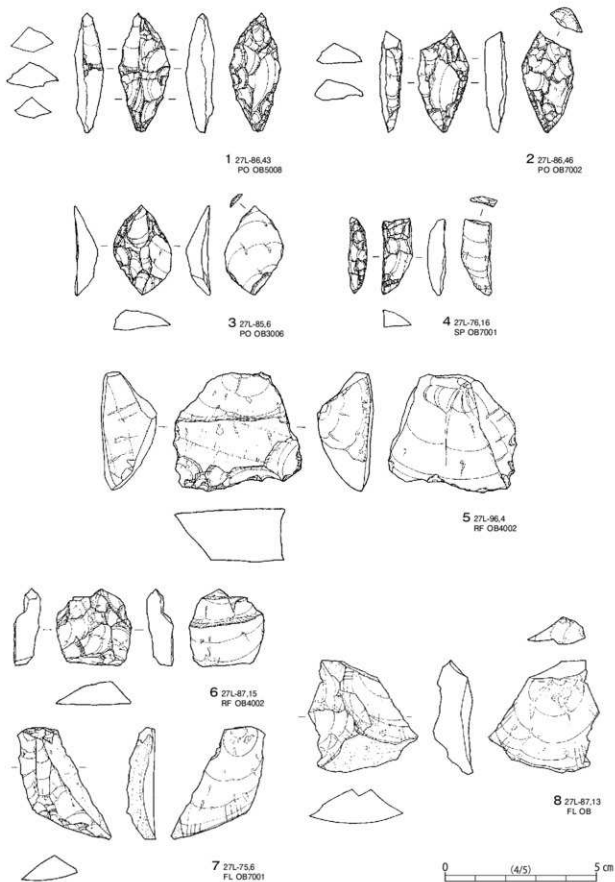
第191図 第5文化層27L-76ブロック器種別分布図



- CR
- CR1002
- CR3002
- CR3006
- CR3007
- CR4002
- CR5008
- CR7001
- CR7002
- CR7003
- CR7004
- CC
- SH
- SH 片断
- ▲ IS5004
- GA 片断
- ▼ CH
- + PE - PF

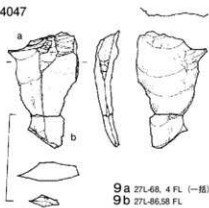


第192図 第5文化層27L-76ブロック母岩別分布図



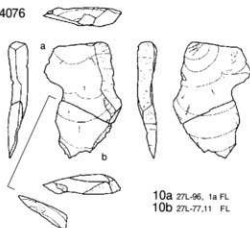
第193図 第5文化層27L-76ブロック出土石器(1)

OB1002
接合資料14047



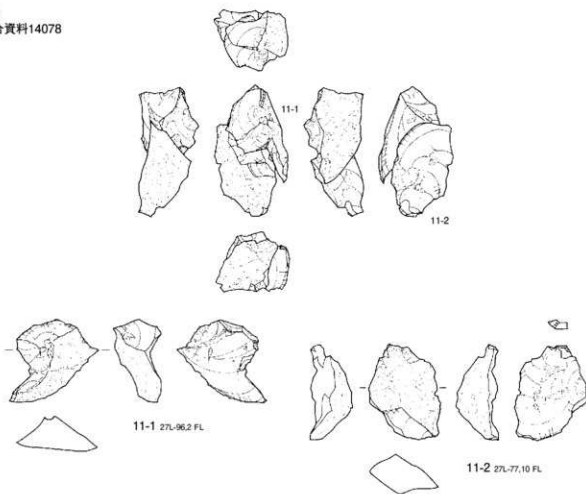
9a 27L-68, 4 FL (一部)
9b 27L-86,58 FL

OB3007
接合資料14076



10a 27L-96, 1a FL
10b 27L-77,11 FL

OB
接合資料14078



11-1 27L-96,2 FL

11-2 27L-77,10 FL



第194図 第5文化層27L-76ブロック出土石器(2)

部は素材縁辺が残置されるため、ナイフ形石器と捉えることもできる。4はOB7001の削片である。両面調整体の側縁から剥離された削片で、有髄尖頭器の楕状剥離によるものと考えられる。打面部は欠損する。

5・6はOB4002の二次加工のある剥片である。5は厚手の剥片を素材として、端部に腹面から粗い平坦調整が施される。6は末端がウートラバッセ状になる剥片を素材とする。背面全面に平坦調整が残り、主剥離面がそれを切ることから、両面調整体の端部から剥離された剥片を素材とすると考えられる。左側面に微細な調整が施される。

7～10は剥片である。7はOB7001の縦長剥片である。線打面で頭部調整がみられる。右側面に自然面が残り、石核の角から剥離されたことがわかる。8は黒曜石の剥片である。石核の角から剥離された剥片で、石核底面を取り込む。9（接合資料14047）はOB1002の縦長剥片である。折損した2点が接合する。線打面で頭部調整がみられる。10（接合資料14076）はOB3007の縦長剥片である。折損した2点が接合する。打面部は欠損する。右側面に平坦な自然面が残ることから、石核の角から剥離されたことがわかる。

11（接合資料14078）は黒曜石の剥片2点が接合する。自然面を作業面として、対向する上下の打面から剥片が連続剥離され、11-1・11-2が剥離される。11-1は打面部が欠損する。11-2は頭部・打面は無調整である。

第5文化層 26T-03ブロック（第195～197図、第85表、図版7・84）

東側台地の南、南向き斜面の25T-92～94、26T-02～04・12～14・22グリッドに分布する。15.1m×11.3mの範囲から34点の石器が出土した。68点の礫・礫片からなる礫群が伴う。ブロック範囲内に散漫に分布する。現場記録では出土層位はⅢ層である。0.47mの高低差をもって南に傾斜して包含される。ブロック間接合はない。

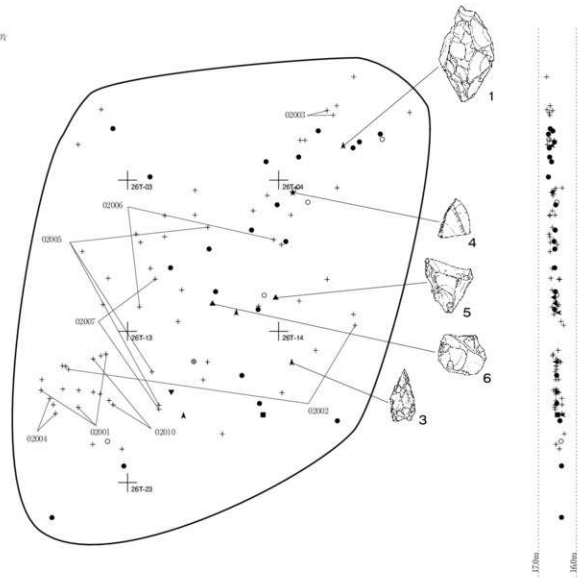
石器器種は、尖頭器・ナイフ形石器・削片・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、珪質頁岩・嶺岡産珪質頁岩（各9点）・黒色頁岩（5点）・頁岩（3点）・硬質頁岩・ガラス質黒色安山岩・チャート（各2点）・メノウ・トロトロ石（各1点）で構成される。母岩共有は、メノウがユニット5aの250-85・260-03・260-05ブロックと母岩共有する。

第85表 第5文化層26T-03ブロック石器組成表

母岩番号/器種	尖頭器	ナイフ 形石器	削片	二次加 工の 剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
								(%)	(g)	(%)	(g)
CC4006				1				1	2.9	6.6	5.7
SH単独		1						1	2.9	1.17	1.0
SH0007				1	1			2	5.9	3.71	3.2
BS0002				5				5	14.7	18.36	16.0
SS				1			1	2	5.9	15.94	13.9
SS単独				1				1	2.9	0.43	0.4
SS0007	1		1	2	2			6	17.6	12.75	11.1
HS0007				1	1			2	5.9	0.75	0.7
MS単独	1			1				2	5.9	14.88	12.9
MS0002	2		1	3				6	17.6	19.64	17.1
MS0005				1				1	2.9	8.26	7.2
GA単独				2				2	5.9	9.25	8.0
TO				1				1	2.9	2.66	2.3
CH			1			1		2	5.9	0.63	0.5
合計	4	1	1	2	20	5	1	34	100.0	115.03	100.0



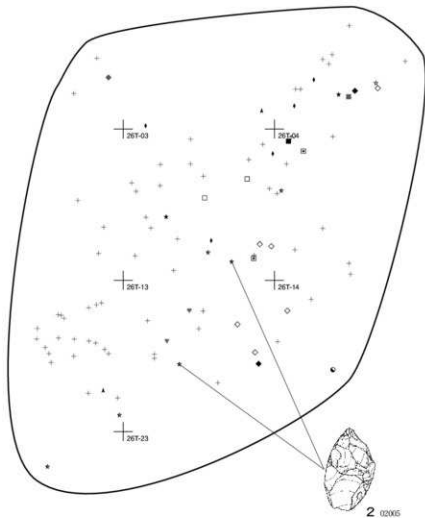
- ▲ 尖頭器
- ★ ナイフ形石器
- ▼ 刮片
- ▲ 二次加工のある刮片
- 剥片
- 砕片
- 石核
- + 塵・塵片



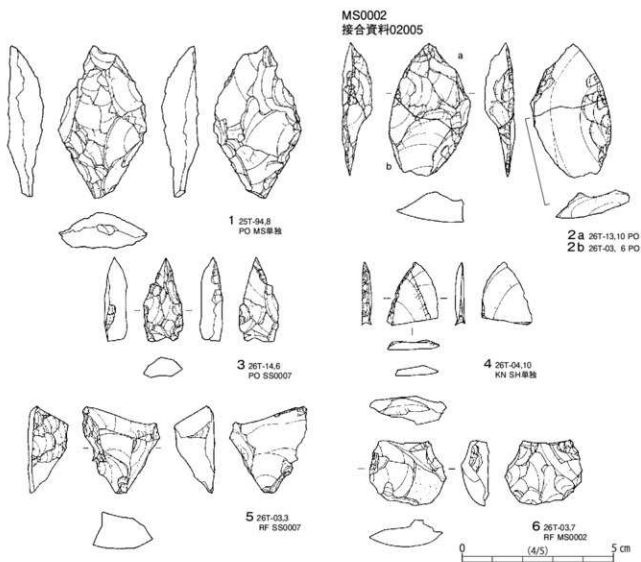
第195図 第5文化層26T-03ブロック器種別分布図



- CC4006
- SH半蝕
- ▣ SH007
- BS0002
- ◆ SS
- ◆ SS半蝕
- SS0007
- ▲ HS0007
- ✱ MS半蝕
- ✱ MS0002
- ✱ MS0005
- GA半蝕
- TO
- ▼ CH
- PE・PF



第196図 第5文化層26T-03ブロック母岩別分布図



第197図 第5文化層26T-03ブロック出土石器

1～3は尖頭器である。1は単独母岩の嶺岡産珪質頁岩の剥片を素材として、打点を先端に設定する。表裏両面に平坦調整が施される。裏面右側縁上半の平坦調整がヒンジを起こしているため、先端部が不整形である。2（接合資料02005）はMS0002の横長剥片を素材として、打点を左側面に設定する。折損した2点が接合する。調整は両側縁に施され、表面に左側縁上半と右側縁下半で平坦調整が施された後に、裏面で平坦調整が施される。表面の基部からの調整が器体中央まで大きく決ってヒンジを起こしているため、薄くなった中央部で折損したと考えられる。3はSS0007の剥片を素材として、打点を左側縁に設定する。基部は欠損する。表面に全周から平坦調整が施される。

4は単独母岩の頁岩のナイフ形石器である。剥片を素材として、打点を左側縁に設定する。左側縁に腹面から急角度の調整が施される。右側縁上半は素材縁辺がそのまま刃部として用いられる。基部は欠損する。

5・6二次加工のある剥片である。5はSS0007の厚手の剥片を素材として、左側縁に腹面から急角度の調整が施される。上半部は欠損する。削器・搔器と捉えることもできる。6はMS0002の剥片を素材とする。裏面全面に平坦調整が施される。先端部は欠損する。

6 第6文化層(第198図、第86・87表、図版7・84・85)

第6文化層の石器群は、総計100点の石器と334点の礫が出土し、6か所の石器集中で構成される。Ⅲ層の石器群と推定される。西側台地と中央の谷沿い、東側台地上に分布する。中央の谷沿いでは3か所の石器集中からなるユニット6がブロック群を形成している。

第6文化層のブロック別石材組成と石器組成は第86表と第87表のとおりである。石器石材は、多様な石材が用いられ、黒曜石(63.0%)・頁岩(17.0%)・ガラス質黒色安山岩(7.0%)の順に多い(点数比)。

石器器種は、細石刃・細石刃核・ナイフ形石器・二次加工のある剥片で構成される。礫石材は、安山岩あるいは流紋岩(68.6%)・砂岩(18.3%)・石英斑岩(7.2%)・その他(5.9%)で構成される。

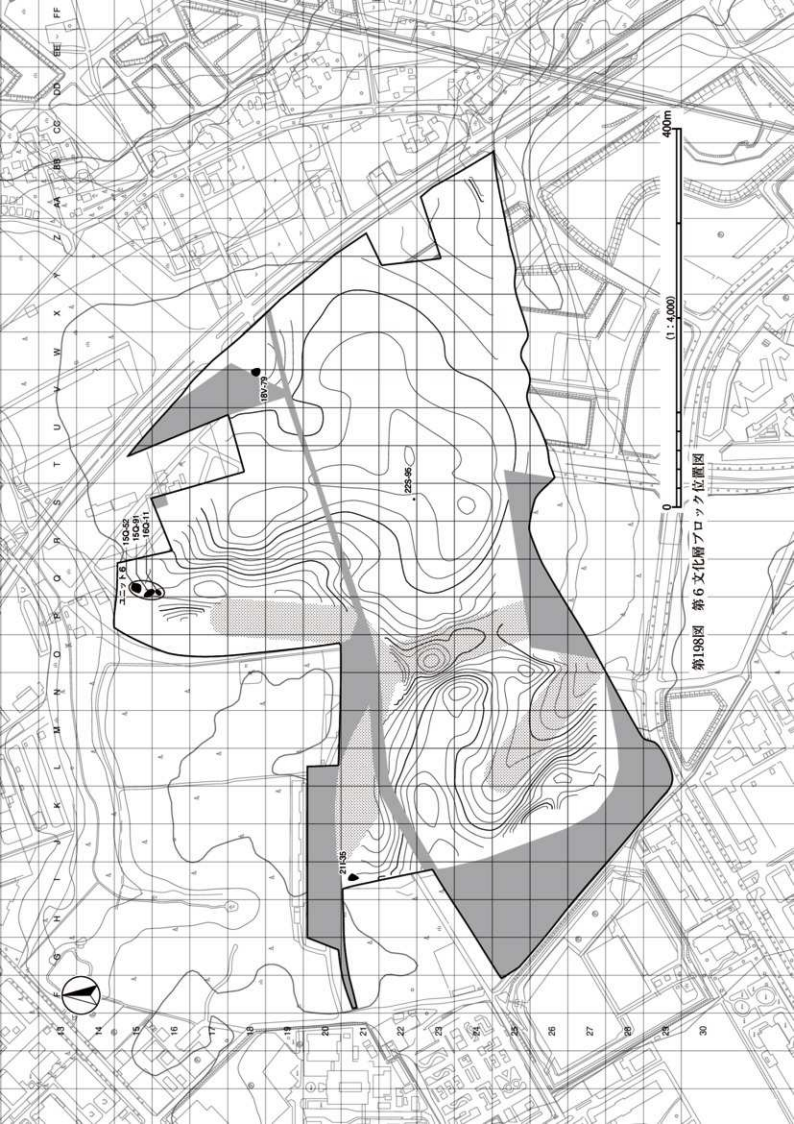
6か所のブロックのうち2か所は礫群のみのブロックで、石器が出土している6ユニットのブロックも全て礫群を伴う。一方、西側台地の西端に位置する21I-35ブロックは細石刃・細石刃核が出土しており、礫群を伴わない。細石刃を主体とする21I-35ブロックとユニット6の間にブロック間接合はみられず、礫群のブロック間接合についてもユニット6内を除いてみられない。したがって第6文化層は、細石刃を主体とする21I-35ブロック、客体的に石器を伴うユニット6、それ以外の礫群というそれぞれ独立した要素で構成される。ここでは、それぞれ異なる時期のブロックである可能性を残しつつ、出土層位がソフトローム層上位にまとまるブロックについて、第4・5文化層と区別される一群として文化層を設定した。

第86表 第6文化層ブロック別石材組成表

石材/ブロック	ユニット6	18V-79	22S-95	21I-35	点数合計		重量合計	
					(%)	(%)	(g)	(%)
OB	20			43	63	63.0	180.77	22.7
CC	3				3	3.0	101.04	12.7
SH	1			16	17	17.0	122.84	15.4
BS	1			1	2	2.0	12.55	1.6
MS	1				1	1.0	8.81	1.1
GA	4			3	7	7.0	236.22	29.6
CH	1			3	4	4.0	14.87	1.9
HO	3				3	3.0	120.11	15.1
点数合計	34			66	100	100.0	-	-
重量合計(g)	655.4	0	0	141.81	-	-	797.21	100.0
礫・礫片(点数)	181	145	6	1	333	100.0	-	-
礫・礫片(g)	7898.45	5142.71	33.89	1.87	-	-	13076.92	100.0

第87表 第6文化層石器組成表

石材/器種	細石刃	細石刃核	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	砕片	石核	原石	合計
OB	16	5	1	1	22	17		1	63
CC					2		1		3
SH		1		1	12	2	1		17
BS					2				2
MS					1				1
GA	1			1	4	1			7
CH					4				4
HO					2		1		3
合計	17	6	1	3	49	20	3	1	100



第198図 第6文化層ブロック位置図

第6文化層 ユニット6 (第199・200図、第88・89表、図版7・84)

東側台地の北東、大グリッド15Q付近に分布する。総計34点の石器と182点の礫が出土し、3か所の集中地点で構成される。遺跡北側の大きな谷と中央の埋没谷に挟まれた馬の背状の微高地に立地し、Ⅲ層の石器群と推定した。石器のブロック間接合はなく、礫群中の礫が15Q-52・15Q-91ブロック間でブロック間接合する。

ユニット6のブロック別石材組成と石器組成は第88表と第89表のとおりである。石器石材は、多様な石材が用いられ黒曜石(58.8%)・ガラス質黒色安山岩(11.8%)が多い(点数比)。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片が出土している。いずれのブロックも石器製作の痕跡が乏しく、礫群を伴う。

第3文化層ユニット3が近接し、黒曜石を主体とし礫群を伴うという点が共通する。しかし、ユニット6は出土層位がⅢ層上位にまとまること、ユニット間でブロック間接合がないこと、明確に類似する母岩を見いだせなかったこと、第3文化層ユニット3は典型的なⅣ下Ⅴ層段階の様相を示すのに対して、ユニット6のナイフ形石器は積極的にⅣ下Ⅴ層段階と評価することはできないことから、両者は別文化層に帰属すると判断した。ただし、ユニット6周辺の地形は南北の谷に向かって傾斜しており、ローム層が一部基本層序に対応できない点は注意が必要である。

第88表 第6文化層ユニット6ブロック別石材組成表

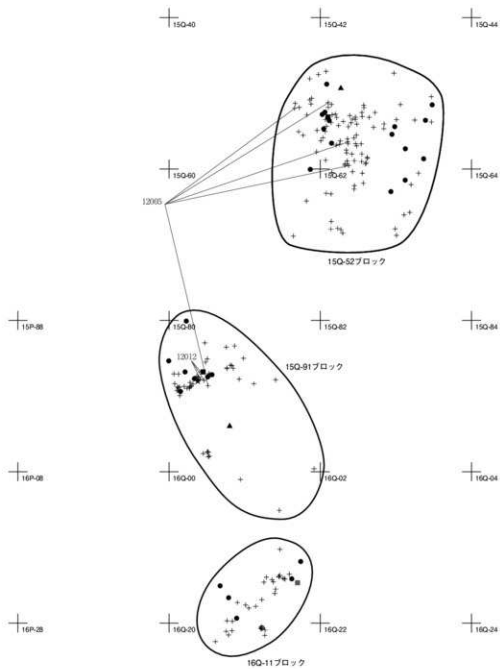
石材/ブロック	15Q-52	15Q-91	16Q-11	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB	10	5	5	20	58.8	144.43	22.0
CC	1	2		3	8.8	101.04	15.4
SH		1		1	2.9	28.75	4.4
BS	1			1	2.9	11.16	1.7
MS			1	1	2.9	8.81	1.3
GA	3	1		4	11.8	234.75	35.8
CH		1		1	2.9	6.35	1.0
HO	2		1	3	8.8	120.11	18.3
点数合計	17	10	7	34	100.0	-	-
重量合計(g)	258.28	351.88	45.24	-	-	655.4	100.0
礫・礫片(点数)	100	49	32	182	100.0	-	-
礫・礫片(g)	2941.62	2229.67	2727.16	-	-	7898.45	100.0

第89表 第6文化層ユニット6石器組成表

石材/器種	ナイフ形 石器	二次加工 のある剥片	剥片	碎片	石核	原石	合計
OB	1	1	16	1		1	20
CC			2		1		3
SH			1				1
BS			1				1
MS			1				1
GA		1	3				4
CH			1				1
HO			2		1		3
合計	1	2	27	1	2	1	34



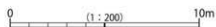
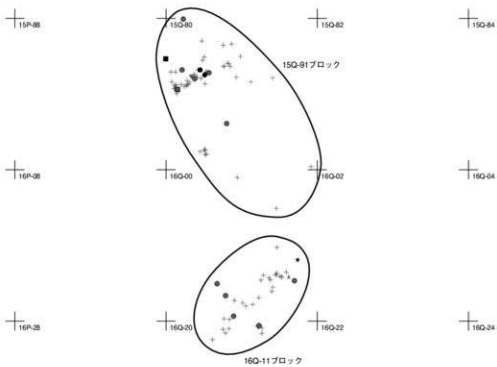
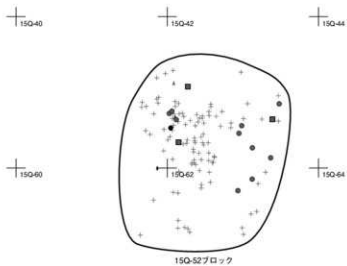
- ★ ナイフ型石器
- ▲ 二次加工のある副片
- 副片
- 砕片
- 石核
- 原石
- + 塵・破片



第199図 第6文化層ユニット6器種別分布図



- OB
- CC
- SH
- † BS
- ✱ MS
- GA
- ▼ CH
- △ HO
- + PE・PF



第200図 第6文化層ユニット6母岩別分布図

第6文化層 15Q-52ブロック (第201・203・204図、第90表、図版7・84)

ユニット6の北寄り、15Q-41・42・51～53・61～63グリッドに分布する。11.8m×9.0mの範囲から17点の石器が出土した。100点の礫・礫片からなる礫群を伴う。石器はブロック範囲に散漫に分布し、礫群は中央に分布する。出土層位は大半がⅢ層中だが、谷に落ち込む斜面の北側は出土層位を標準土層に対比できない。北に傾斜する地形に沿って0.85mの高低差をもって包含される。石器のブロック間接合はないが、礫群中の礫片が15Q-91ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(10点)・ガラス質黒色安山岩(3点)・ホルンフェルス(2点)・メノウ・黒色頁岩(各1点)で構成される。

1はガラス質黒色安山岩の二次加工のある剥片である。寸詰まりの縦長剥片を縦位に用いる。調整は剥片端部に施され、やや急角度である。

第90表 第6文化層15Q-52ブロック石器組成表

母岩番号/器種	二次加工のある剥片	剥片	石核	点数合計		重量合計	
				(%)	(g)	(%)	(g)
OB		10		10	58.8	96.64	37.4
CC		1		1	5.9	6.34	2.5
BS		1		1	5.9	11.16	4.3
GA	1	2		3	17.6	32.54	12.6
HO		1	1	2	11.8	111.6	43.2
合計	1	15	1	17	100.0	258.28	100.0

第6文化層 15Q-91ブロック (第202・203・204図、第91表、図版7・84)

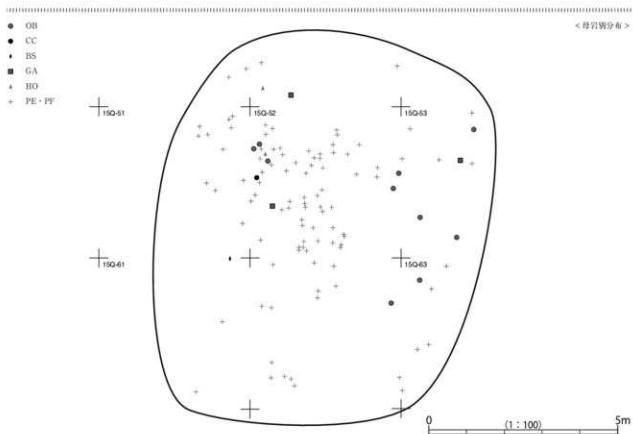
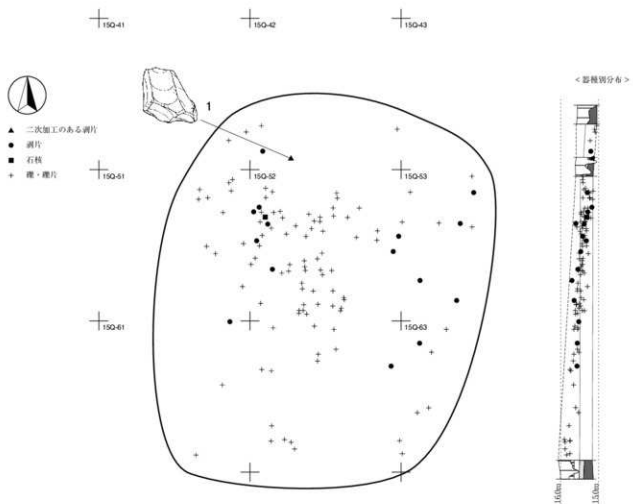
ユニット6の北寄り、15P-89、15Q-80・81・90・91、16Q-00・01グリッドに分布する。12.3m×6.4mの範囲から10点の石器が出土した。49点の礫片からなる礫群を伴う。石器・礫ともにブロック範囲に散漫に分布する。出土層位はⅢ層で、0.50mの高低差をもってほぼ水平に包含される。石器のブロック間接合はないが、礫群中の礫片が15Q-52ブロックとブロック間接合する。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(5点)・メノウ(2点)・頁岩・ガラス質黒色安山岩・チャート(各1点)で構成される。

2は黒曜石のナイフ形石器である。基部は欠損する。石刃あるいは縦長剥片を素材として、打点を基部に設定する。調整は左側縁にのみ施され、腹面からの急角度の調整の後に、背面から対向調整が施される。

第91表 第6文化層15Q-91ブロック石器組成表

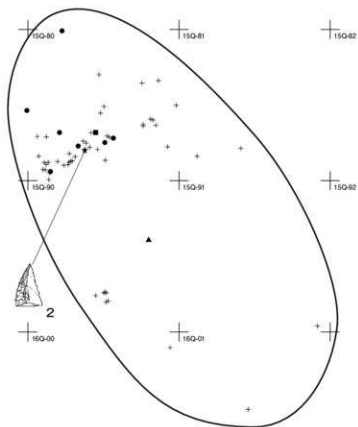
母岩番号/器種	ナイフ形石器	二次加工のある剥片	剥片	石核	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)	(g)
OB	1	1	3		5	50.0	19.87	5.6
CC			1	1	2	20.0	94.7	26.9
SH			1		1	10.0	28.75	8.2
GA			1		1	10.0	202.21	57.5
CH			1		1	10.0	6.35	1.8
合計	1	1	7	1	10	100.0	351.88	100.0



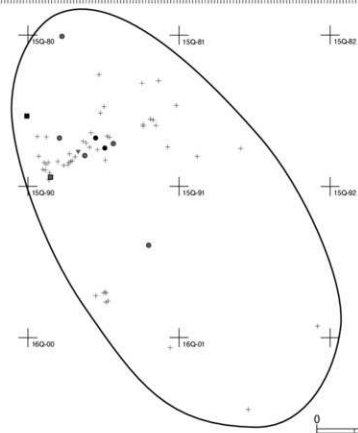
第201図 第6文化層15Q-52ブロック器種別・母岩別分布図



- ★ ナイフ形石器
- ▲ 二次加工のある剥片
- 剥片
- 石核
- + 破片



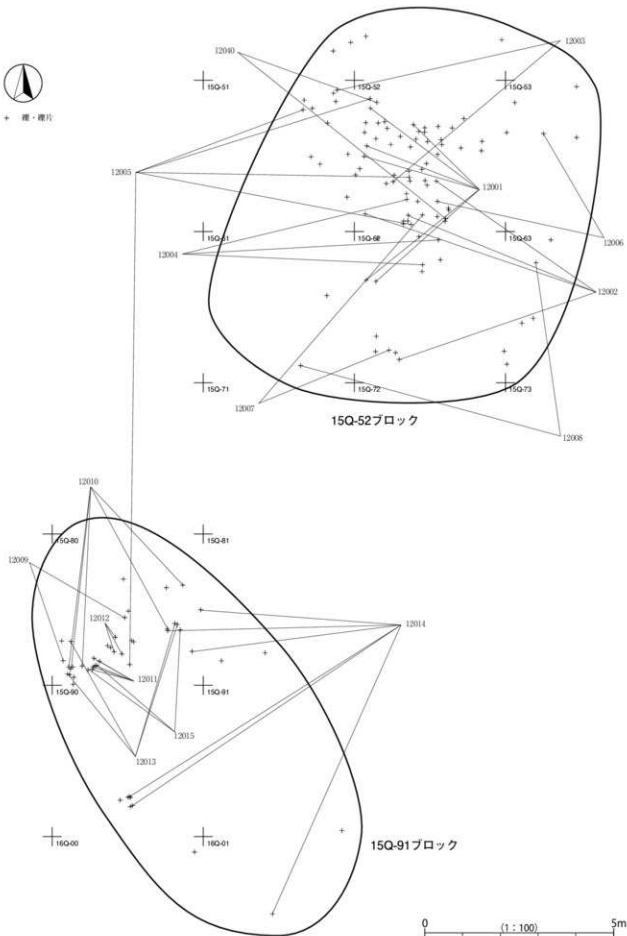
- OB
- CC
- SH
- GA
- ▼ CH
- + PF



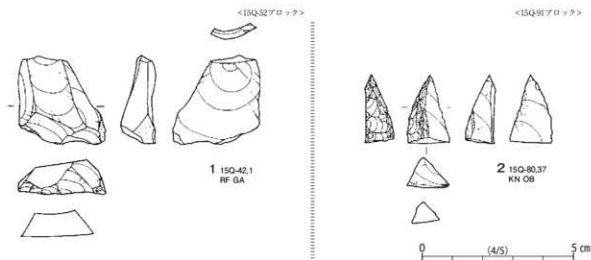
第202図 第6文化層15Q-91ブロック器種別・母岩別分布図



+ 礎・礎片



第203図 第6文化層15Q-52・15Q-91ブロック礎分布図



第204図 第6文化層15Q-52・15Q-91ブロック出土石器

第6文化層 16Q-11ブロック (第205図、図版7)

ユニット6の南寄り、16Q-10・11・20・21グリッドに分布する。7.2m×4.7mの範囲から7点の石器が出土した。33点の礫・礫片からなる礫群を伴う。石器・礫ともにブロック範囲に散漫に分布する。出土層位はⅢ層で、0.40mの高低差をもってほぼ水平に包含される。ブロック間接合はない。

石器器種は、剥片・砕片・原石で構成される。石材組成は、黒曜石(5点)・嶺岡産珪質頁岩・ホルンフェルス(各1点)で構成される。

第92表 第6文化層16Q-11ブロック石器組成表

母岩番号/器種	剥片	砕片	原石	点数合計		重量合計	
					(%)	(g)	(%)
OB	3	1	1	5	71.4	27.92	61.7
MS	1			1	14.3	8.81	19.5
HO	1			1	14.3	8.51	18.8
合計	5	1	1	7	100.0	45.24	100.0

第6文化層 18V-79ブロック (第206図、図版7)

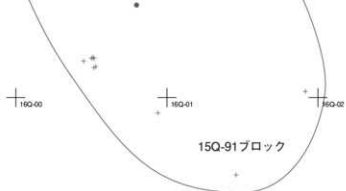
東側台地の北東向き斜面の18V-68・69・78・79、18W-80グリッドに分布する。9.5m×8.6mの範囲から145点の礫・礫片からなる礫群が出土した。石器の出土はない。ブロック範囲の北に集中地点がある。出土層位はⅢ層で、0.49mの高低差をもってほぼ水平に包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

第6文化層 22S-95ブロック (第207図、図版7)

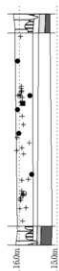
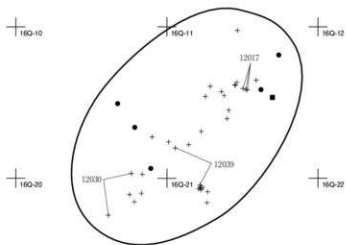
東側台地の最高点付近の22S-95グリッドに分布する。2.3m×2.1mの範囲から6点の礫片からなる小規模な礫群が出土した。石器の出土はない。出土層位はⅢ層で、0.01mの高低差をもって水平に包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。



- 洞片
- 骨片
- 原石
- + 礎・礎片

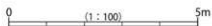
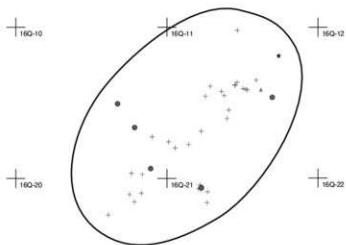


< 器種別分布 >



-
- OB
 - ★ MS
 - ▲ HO
 - + PE・PF

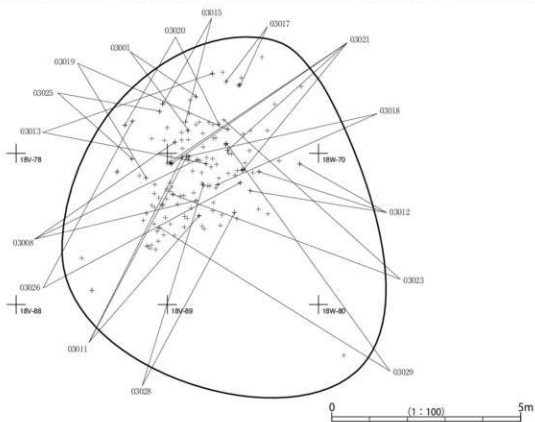
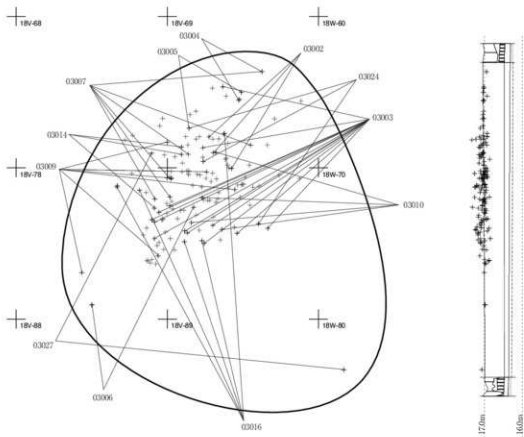
< 母岩別分布 >



第205図 第6文化層16Q-11ブロック器種別・母岩別分布図



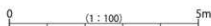
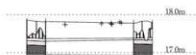
+ 礎・礎片



第206図 第6文化層18V-79ブロック礎分布図



+ 礫片



第207図 第6文化層22S-95ブロック礫分布図

第6文化層 211-35ブロック (第208～211図、第93表、図版85)

西側台地の西、調査区外の北東に伸びる谷沿いの21I-25・26・35・36・45グリッドに分布する。11.0m×7.6mの範囲から66点の石器が出土した。1点の礫片を伴う。ブロック範囲の北東に集中地点がある。出土層位はⅢ層～Ⅱ層で、東に傾斜する地形に沿って0.34mの高低差をもって包含される。近接する同一文化層ブロックやブロック間接合はなく単独ブロックである。

石器器種は、細石刃・細石刃核・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核で構成される。石材組成は、黒曜石(43点)・頁岩(16点)・ガラス質黒色安山岩・チャート(各3点)・黒色頁岩(1点)で構成される。

1～17は細石刃である。1～16は黒曜石、17はガラス質黒色安山岩である。打縁部の調整は頭部調整と打面調整がみられ、頭部調整が多い。1は稜上に剥片剥離前の平坦調整がみられ、左側面には広い剥離面が残るため、削片として捉えることもできる。3・4は末端が石核底面を取り込む。

18～23は細石刃核である。18～22は黒曜石、23は頁岩である。いずれも稜柱型の細石刃核である。18は小型の亜角礫を素材とし、背面、打面、底面の一部に自然面が残る。打面と下面を剥離した後に、上面を打面として、打面の周縁を巡るように細石刃が剥離される。かなり剥離が進行した細石刃核と思われる、打面は背面の自然面間際まで後退している。頭部調整がみられる。19も小型の亜角礫を素材とし、左側面に自然面が残る。18と同様の剥離工程がみられるが、細石刃の剥離の多くが石核底面を取り込んでおり、

第93表 第6文化層21I-35ブロック石器組成表

母岩番号/器種	細石刃	細石刃核	二次加工 のある 剥片	剥片	砕片	石核	点数合計		重量合計	
							(%)	(g)	(%)	(%)
OB	16	5		6	16		43	65.2	36.34	25.6
SH		1	1	11	2	1	16	24.2	94.09	66.3
BS				1			1	1.5	1.39	1.0
GA	1			1	1		3	4.5	1.47	1.0
CH				3			3	4.5	8.52	6.0
合計	17	6	1	22	19	1	66	100.0	141.81	100.0

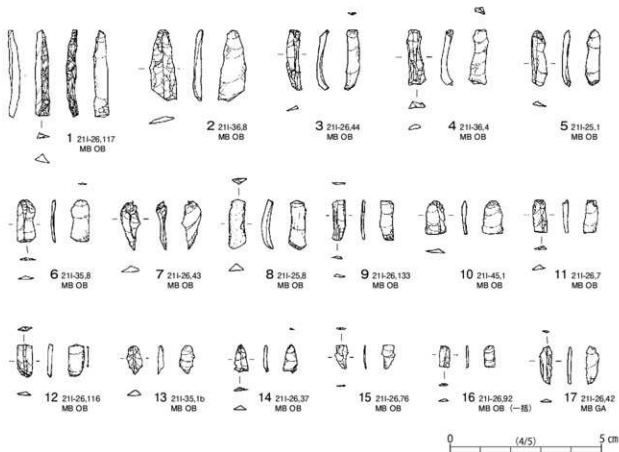
打角が直角に近くなっている。最終剥離は上面の剥離面で、打面再生様の剥離が打面と背面を大きく取り込む。頭部調整がみられる。20も小型の亜角礫を素材とし、裏面に自然面が残る。18と同様の剥離工程がみられるが、下面からも細石刃が剥離される。右側面の下面からの剥離が最終剥離で、作業面を大きく取り込んでいる。頭部調整がみられる。21は素材形状は不明である。18と同様の剥離工程がみられる。かなり細石刃剥離が進行した後に、打面と背面が剥離され、全体に不整形になる。頭部調整がみられる。22は素材形状は不明である。18と同様の剥離工程がみられるが、背面に平坦な剥離がみられる。頭部調整がみられる。23は素材形状は不明である。正面と左側面で細石刃が剥離され、その後上面の打面が再生される。右側面と背面は剥離により大きく乱れ、全体に不整形である。

24は頁岩の二次加工のある剥片である。上半部は欠損する。厚手で幅広の剥片を素材として、背面に左側縁から平坦調整が施される。

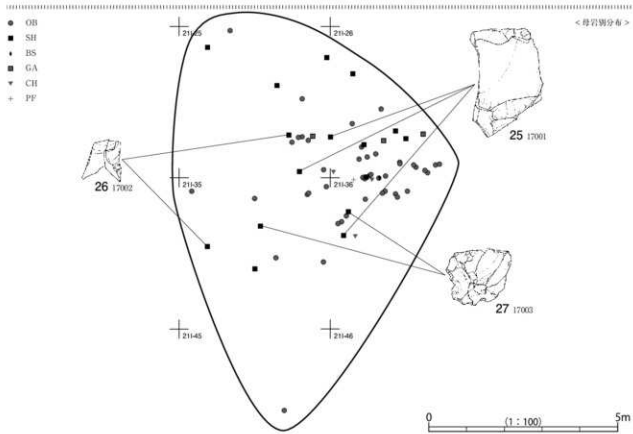
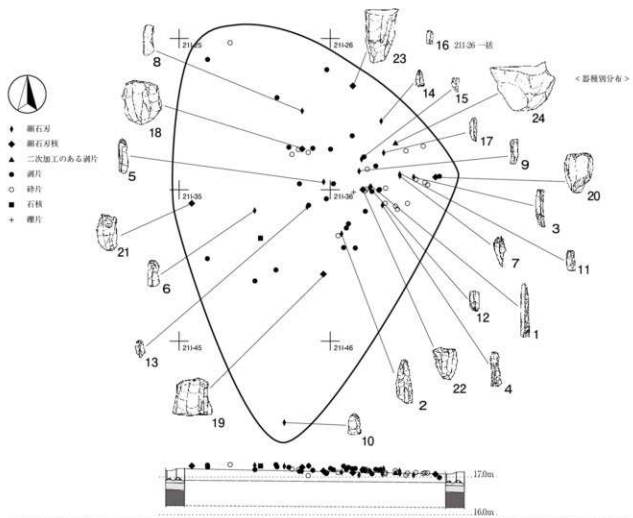
25(接合資料17001)は頁岩の厚手の剥片である。同時割れした剥片3点が接合する。

26(接合資料17002)は頁岩の剥片2点が接合する。板状の石核の端部から剥離されている。剥片剥離の際に同一の打点から2点が同時割れしたものと考えたが、26-2の表裏逆及び主要剥離面の方向逆、1→2の順で剥離された可能性が高い。

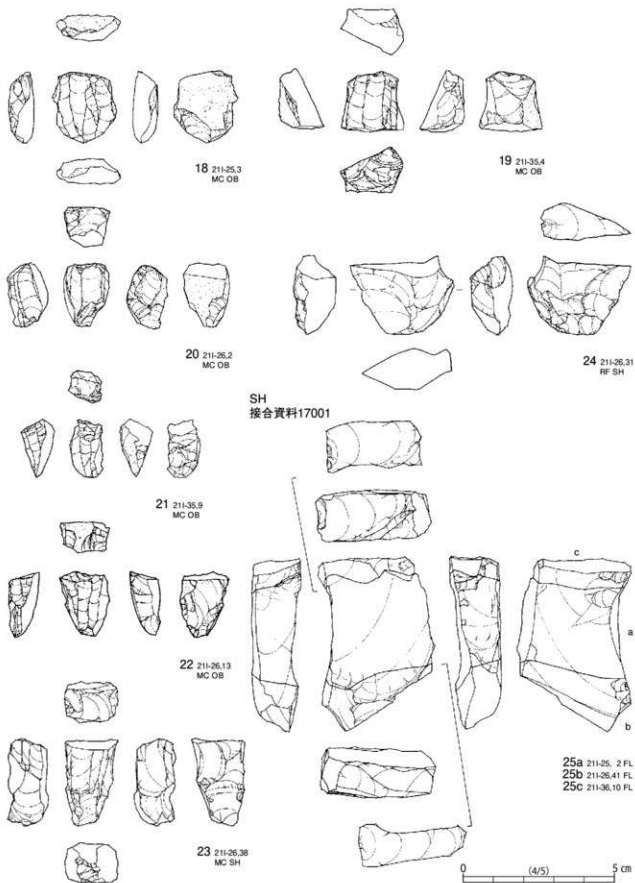
27(接合資料17003)は頁岩の剥片1点と石核1点が接合する。厚手の剥片を素材とする。素材の主要剥離面を打面として、図の背面を作業面として全周から剥片を剥離し、27-1と数枚の剥片が剥離される。最終的に残核27-2が廃棄される。



第208図 第6文化層211-35ブロック出土石器(1)

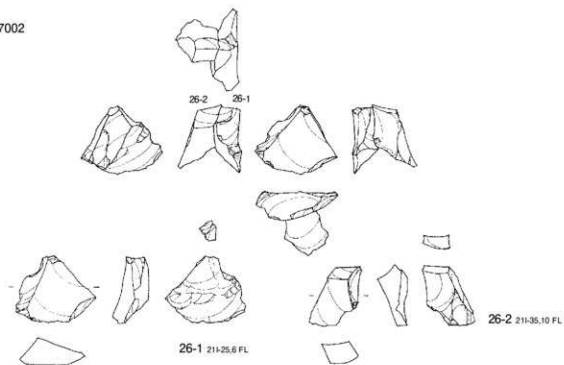


第209図 第6文化層211-35ブロック器種別・母岩別分布図

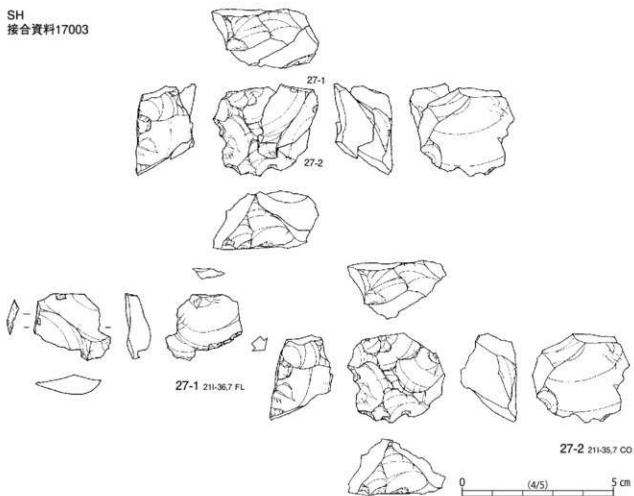


第210図 第6文化層21I-35ブロック出土石器(2)

SH
接合資料17002



SH
接合資料17003



第211図 第6文化層211-35ブロック出土石器(3)

7 単独出土石器 (第212～214図、図版86・87)

各文化層のブロックから離れて出土した石器・礫石器について、本項では単独出土石器としてまとめて取り扱うことにする。各文化層に帰属することが明確だが、いずれのブロックからも離れて出土しており、帰属ブロックの判断に迷う石器についてもここで扱うこととする。計167点が該当する。うち18点を図示した。

1は黒曜石の細石刃である。打面部は欠損する。上層調査時に遺構から出土した。

2～4は細石刃核である。いずれも稜柱型の細石刃核である。2は流紋岩を素材とする。被熱しており全体に稜線が不明瞭である。作業面を固定し、縦長の細石刃を連続剥離している。背面には右側縁からの剥離痕がみられる。第3文化層の15P-97ブロックの範囲から出土した。3・4は黒曜石の細石刃核である。作業面を固定し、打面を調整しながら細石刃を連続剥離している。いずれも最終剥離は石核底面まで達して作業面を大きく取り込んでいる。上層調査時にⅡ層から出土した。

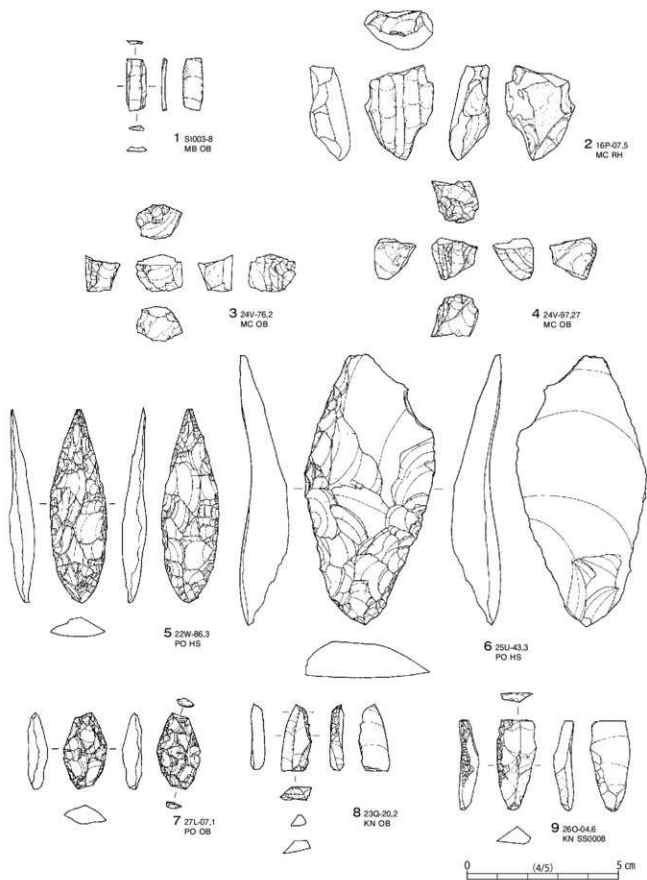
5～7は尖頭器である。5・6は硬質頁岩の尖頭器である。5は調整は表裏両面に施される。大ぶりの平坦剥離、細かい調整剥離の順に調整が施され、全体が左右対称の柳葉形に整形される。上層調査時にⅢ層から出土した。グリッド一括出土。6は片面にのみ調整が施される。厚手の大型剥片を素材とし、背面に平坦調整が施される。裏面は素材の主要剥離面が残る。背面上部には素材剥離に先行する広い剥離面が残っており、かなり大きな石核から剥離された剥片が素材であると考えられる。確認調査時にⅢ層から出土した。グリッド一括出土。7は黒曜石の小型の尖頭器である。調整は表裏両面に施される。調整は第5文化層の尖頭器に似る。Ⅲ層から出土した。

8・9はナイフ形石器である。8は黒曜石の剥片を素材とする。打点を基部に設定する。基部は折損する。調整は右側縁上部に腹面から急角度の調整が施される。Ⅰa層から出土した。9はSS0008の剥片あるいは石刃を素材とする。打点を基部に設定する。先端は折損する。調整は左側縁に腹面から急角度の調整が施される。右側縁腹面の剥離はガジリである。Ⅲ層から出土した。グリッド一括出土。同一母岩の石器が出土している第5文化層に帰属すると考えられる。

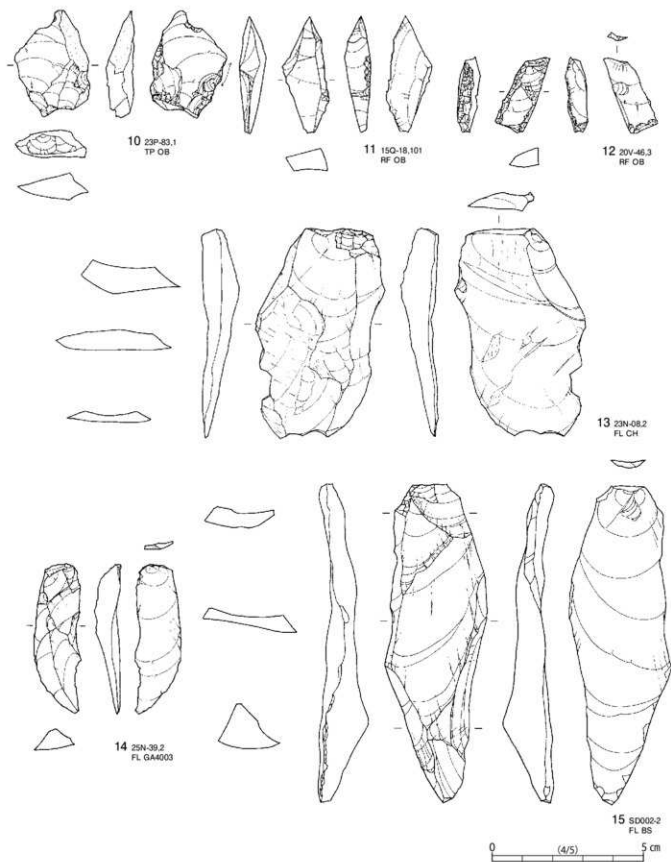
10は黒曜石の台形縁石器である。厚手の剥片を素材とする。打点を基部に設定する。調整は腹面に平坦調整が施され、打面部は背面から折り取られている。Ⅰc層から出土した。グリッド一括出土。

11・12は黒曜石の二次加工のある剥片である。11は幅広の剥片を素材とし、打点を左側面に設定する。打点部は折り取りもしくは折損する。右側縁に部分的な調整が施される。出土層位不明。12は厚手の剥片を素材とする。調整は両側縁に施される。左側縁は腹面から急角度の調整が施され、右側縁は折り取られた後に部分的な調整が施される。確認調査時にⅢ層から出土した。

13～16は剥片である。13はチャートの厚手の剥片である。頭部調整がみられる。出土層位不明。14はGA4003の縦長剥片である。打面は自然面である。Ⅲ層から出土した。同一母岩の石器が出土している第5文化層に帰属すると考えられる。15は黒色頁岩の縦長剥片である。打面は無調整で、大ぶりの頭部調整がみられる。背面に先行する剥離面を取り込み、全体に薄く幅広であるが、末端は作業面の突出部を取り込み厚手である。上層遺構調査時に出土した。16(接合資料14073)はガラス質黒色安山岩の厚手の剥片である。ガジリにより折れた剥片2点が接合する。Ⅲ層から出土した。17・18は尖頭器である。17は黒色頁岩の本ノ木型の尖頭器で、先端部と基部を欠損する。18は先端部のみ遺存している。石材は黒曜石である。

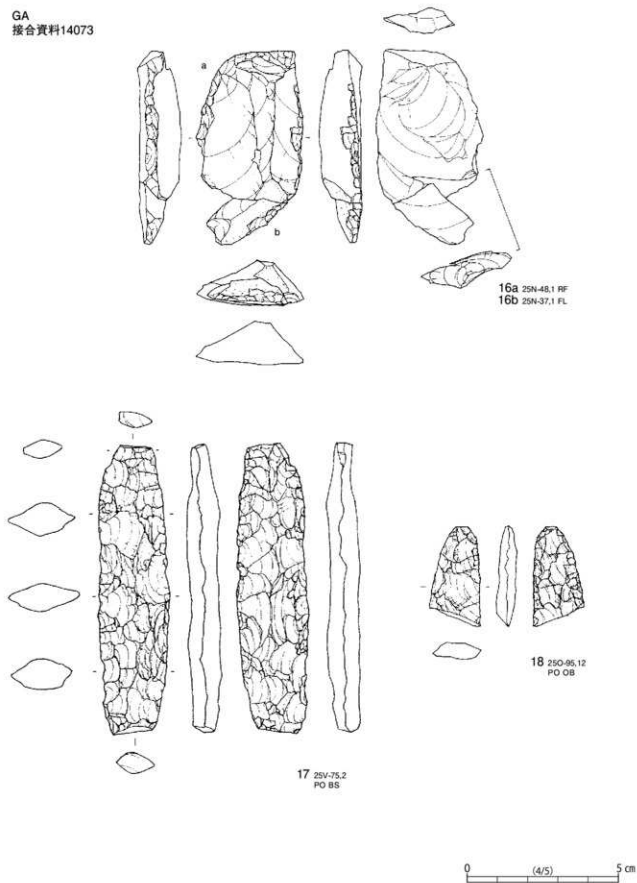


第212图 单独出土石器(1)



第213图 单独出土石器(2)

GA
接合資料14073



第214図 単独出土石器(3)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

概要

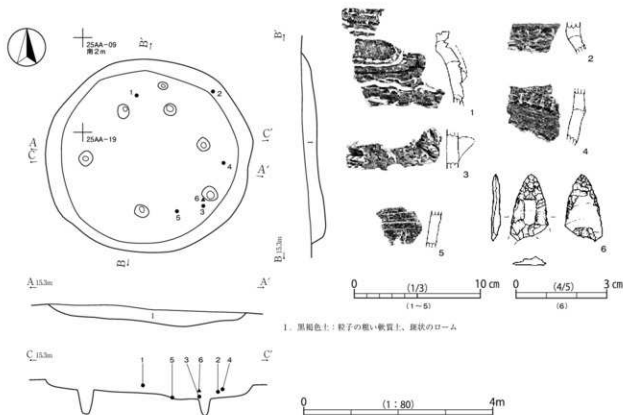
検出された遺構は、中期阿玉台式期の竪穴住居跡1軒・礫集中地点1か所のほか、早期～前期の時期と思われる陥穴21基が検出されている。また、濃密な遺物包含層を形成しているわけではないが、早期前半の遺物と早期後半の礫散布などが確認されている。陥穴など遺構の分布は、本遺跡に近接する大割遺跡や溜井台遺跡などでも地金堀やそこから延びる小支谷に面する地点で検出されているものの、内山遺跡では調査面積に比しては極めて散発的な検出状況であると言える。なお、出土遺物については第94・95表に観察表を掲載した。

1 竪穴住居跡

(7) SI-003 (第215図、図版9・10・88)

25Z-08・18、25AA-09・19グリッドに所在する。平面形は円形で、規模は直径約4.20m、確認面からの深さは0.51mである。床面は北西側が高く、南西側に向かって傾斜が認められた。炉は検出されなかった。床面からはピットが7基検出された。このうちP1～P6は、ほぼ等間隔に巡るように配置されており、柱穴と考えられる。ただし、P2・P3・P5・P6は、床面からの深さが30cm程度あるのに対し、P1・P4は15cm程度しかない。P7は15cmほどの深さをもつが、性格については不明である。覆土は上層が黒褐色土、下層が暗褐色土で、床面付近の土層には若干の焼土粒が含まれていた。帰属時期については、出土土器がいずれも中期中葉の阿玉台I b式のものであることから、阿玉台I b式期と考えられる。

出土遺物は土器片と石鏃で、量的に少ない。1・3は阿玉台I b式である。1は口縁部破片で、内面に



第215図 (7)SI-003

明瞭な稜が認められる。口唇部には角押文が施される。口縁部は断面三角形の隆線が棒状に貼付けられ、隆帯脇には沈線の区画文、その内側に角押文が施される。胴部にはヘラ状工具による波状文が引かれる。3は口縁部付近の破片で、一部が突起状になっている。欠損が激しいため、明確に断定できないが、阿玉台式に特徴的な扇状把手が付いていた可能性が考えられる。隆帯が貼付けられ、隆帯脇にはペン先状工具による押引文が認められる。2・4・5は阿玉台式前半期の胴部破片で、いずれも輪積痕が認められる。2・4は輪積痕にヒダ状の調整が施されている。5は半截竹管による平行沈線と輪積痕部分に刻みが認められる。これらは胴部破片のため、細別型式の比定が難しいが、遺構出土遺物に明確な阿玉台Ⅱ式の破片が見られないことから、阿玉台Ⅰb式の可能性が高いと考えられる。6は黒曜石製の石鏃である。両脚部を欠損する。

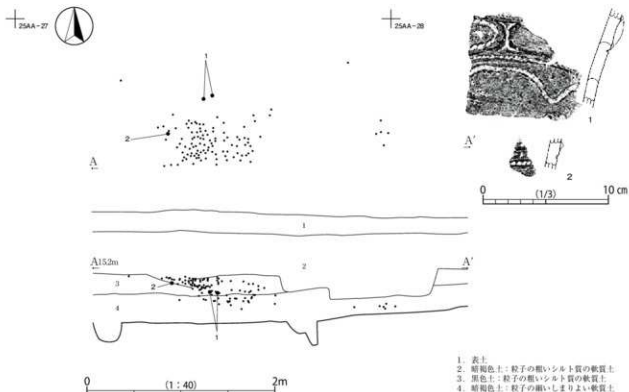
2 礫集中地点

(7)SX-002 (第216図、図版88)

25AA-27グリッドに所在する。調査段階では堅穴住居跡として調査したものの、堅穴の掘り方や、床面などが検出できなかったことから、堅穴住居跡ではないと判断された。また、土坑などの掘り込みも検出されなかったため、礫集中地点として扱うこととした。分布はⅡ層中の東西約1.2m、南北約0.75mの範囲を中心として、その周辺にも散漫な分布が見られた。層位的には高低差0.4mの範囲にまとまっている。礫とともに中期の土器片が含まれていたことから、中期の時期の可能性が高い。

遺物は土器2点、礫102点(総重量664.86g)が出土した。礫の石材の内訳は、チャート85点、砂岩4点、頁岩1点、珪岩3点、変成岩7点、ホルンフェルス1点、安山岩1点で、チャートが80%以上を占めている。

礫は重いもので50gのものがあるが、10gに満たないものが圧倒的である。多くの礫に被熱が認められる。



第216図 (7)SX-002

接合例はわずかに1例のみである。石器は出土していない。

1・2は阿玉台1b式である。1は断面三角形の隆帯で区画が作出され、隆帯脇には楔状工具による押し引文が施される。胴部には同様の工具による押し引文が波状に施される。2は断面三角形の微隆線が貼付けられ、角押し文が施される。いずれも胎土には雲母片が多量に含まれる。

3 陥穴

陥穴は21基検出されている。覆土中から遺物が出土したものは少ないが、平面形や規模、覆土の状況などから全て縄文時代の陥穴と判断したが、形態や深度にばらつきがあり、時期差を伴うと考えられる。

(1) SK-001 (第217図、図版10)

20Y-00・01・10・11グリッドに所在する。遺跡の東端に当たる。平面形は楕円形で、長軸方向はN-75°-Wである。規模は長軸長1.78m、短軸長1.45m、確認面からの深さ2.82mである。断面形は開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約1.00mから下はほぼ円筒状である。底面は比較的平坦で、形状は楕円形、規模は長軸長1.06m、短軸長0.40m～0.60mである。覆土の状況は、7層～9層は水平に堆積している。

遺物は出土していない。

(1) SK-002 (第217図、図版11)

20V-43・44グリッドに所在する。北東約5mにSK-003がある。平面形は楕円形で、長軸方向はN-45°-Eである。規模は長軸長2.66m、短軸長2.28mで、確認面からの深さは2.45mである。断面形は、開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約1.00mから下は円筒状である。底面は比較的平坦で、形状は長方形に近く長軸長1.50m、短軸長1.20mである。覆土の状況は、7層～10層は水平に堆積している。

遺物は出土していない。

(1) SK-003 (第217図、図版10)

20V-35グリッドに所在する。北西側の大部分が(1)SD-002と重複し、上部が削られている。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-73°-Wである。規模は長軸長2.84m、短軸長1.74m、検出面からの深さ3.02mである。断面形は中央より下の部分がわずかにオーバーハングし、深さ2.00m付近から急激にすぼまる。底面は比較的平坦で、形状は細長く長軸長1.98m、短軸長0.18mである。覆土の状況は、ロームブロックを主体とした7層～9層が半分以上の厚さで堆積している。

遺物は出土していない。

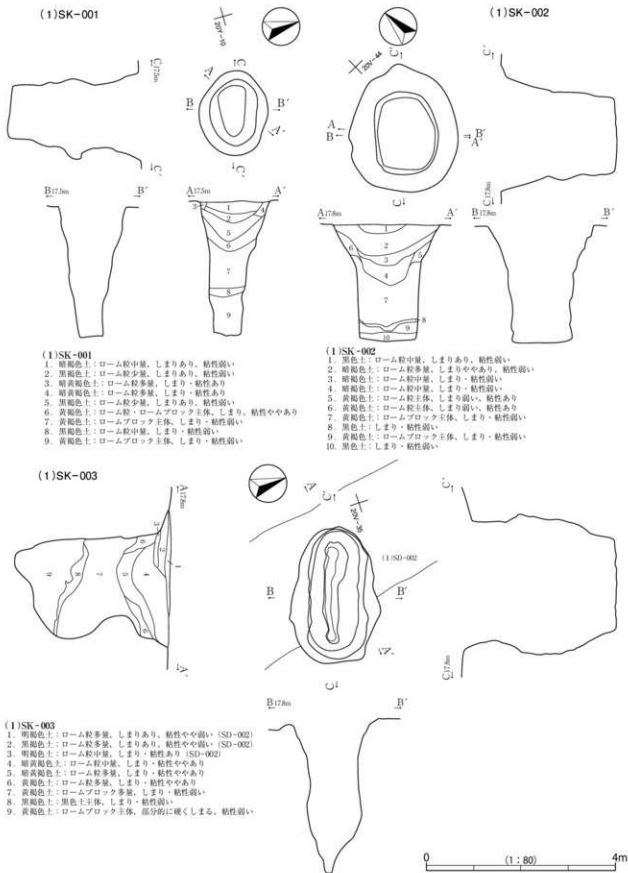
(1) SK-004 (第218図、図版11)

21V-85グリッドに所在する。西側80cmほどに(1)SD-002がある。平面形は楕円形で、長軸方向はN-55°-Wである。規模は長軸長2.68m、短軸長2.28m、検出面からの深さは2.44mである。断面形は逆台形である。底面は比較的平坦で、形状は楕円形で長軸長60cm、短軸長30cmと狭くなっている。覆土の状況は、下半部にロームブロックを主体とした5層が厚く堆積している。遺物は出土していない。

(2) SK-001 (第218図、図版11)

23X-86・96グリッドに所在する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-56°-Wである。規模は長軸長2.50m、短軸長0.74m、確認面からの深さ1.12mである。断面形は、長軸面はわずかにオーバーハングするが、短軸面は逆台形である。底面は比較的平坦で、形状は長楕円形で長軸長2.42m、短軸長0.16m～0.20mでかなり狭くなっている。覆土の状況は、4層はロームブロックを多量に含み、厚く堆積している。

遺物は出土していない。



第217図 (1)SK-001・SK-002・SK-003

(2) SK-002 (第218図、図版11)

25U-33・34グリッドに所在する。上層確認調査の時に、上端の一部を掘削してしまった。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸長3.32m、推定短軸長2.12mである。検出面からの深さは2.30m(標高14.40m)で湧水があり、それ以下は調査できなかった。断面形は長軸面ではわずかにオーバーハングするが、短軸面では逆台形である。覆土の状況は、最下部の10層はロームブロックを多量に含んでいる。遺物は出土していない。

(4) SK-002 (第218図、図版11)

21R-33・34グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-44°-Eである。規模は長軸長2.47m、短軸長1.83m、検出面からの深さは1.64mである。断面形は逆台形である。底面は凹凸が見られ、形状はやや不整形な楕円形で長軸長0.92m、短軸長0.45m～0.58mである。遺物は出土していない。

(4) SK-003 (第219図、図版11)

22P-33・43グリッドに所在する。西側の一部は攪乱により壊されている。平面形は不整形な円形であるが、下部は楕円形で、長軸方向はN-75°-Eである。規模は推定長軸長1.66m、短軸長1.64mである。検出面から深さ1.60m(標高15.1m)に達した時点で湧水があり、それ以下は調査できなかった。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ40cm～50cmから下は円筒状になると思われる。遺物は出土していない。

(4) SK-004 (第219図、図版12)

21S-96・97グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-32°-Wである。規模は長軸長2.31m、短軸長1.82m、検出面からの深さ1.74mである。断面形は開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約1.00m～1.10mから下は円筒状で、わずかにオーバーハングするところもある。底面は南東側がわずかに深く、形状は楕円形、規模は長軸長1.66m、短軸長0.86mである。埋土の状況は自然堆積と思われる。遺物は出土していない。

(4) SK-005 (第219図、図版12)

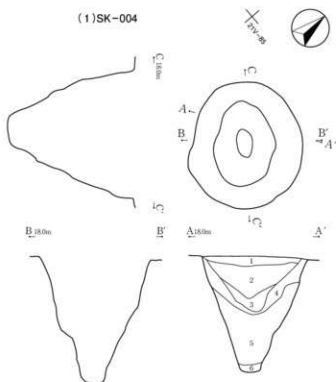
22T-13・14グリッドに所在する。北西側の一部は攪乱により壊されている。平面形は楕円形で、長軸方向はN-52°-Eである。規模は長軸長2.26m、推定短軸長1.66m、検出面からの深さ2.46mである。断面形は長軸面が逆台形で、短軸面の開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約1.20mから下は円筒状である。底面は比較的平坦で、形状は楕円形、規模は長軸67cm、短軸46cmと狭くなっている。覆土の状況は、6層はロームブロックを多量に含み、厚く堆積している。遺物は出土していない。

(5) SK-001 (第219図、図版12)

23Q-55・56・65・66グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-49°-Eである。規模は長軸長1.88m、短軸長1.62m、検出面からの深さ2.16mである。断面形は、長軸面は逆台形で、短軸面は開口部が朝顔形に開く形状で、深さ0.70m～0.80mから下は円筒状である。底面は中央部がわずかに深く、形状は長楕円形、規模は長軸長1.26m、短軸長0.50mである。遺物は出土していない。

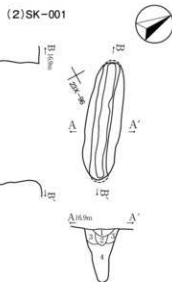
(5) SK-002 (第219図、図版12)

24R-52・62グリッドに所在する。北西側の一部は攪乱により壊されている。平面形は楕円形で、長軸方向はN-25°-Eである。規模は長軸長1.74m、短軸長1.28m、検出面からの深さ2.20mである。断面形は、長軸面は逆台形で、短軸面は開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約0.80mから下は円筒状である。底面は



(1)SK-004

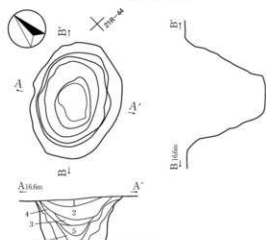
1. 褐色土：しまり・粘性弱い
2. 黒褐色土：しまり・粘性弱い
3. 褐色土：しまり・粘性弱い
4. 黄褐色土：ローム粒主体、しまり弱い、粘性ややあり
5. 褐色土：ロームブロック主体、しまり・粘性弱い
6. 黒褐色土：しまり・粘性弱い



(2)SK-001

1. 黒褐色土：ローム粒多量、しまり・粘性弱い
2. 黒褐色土：ローム粒中量、しまり・粘性弱い
3. 褐色土：ロームブロック多量、しまり・粘性弱い
4. 褐色土：ロームブロック多量、しまり・粘性非常に弱い

(4)SK-002

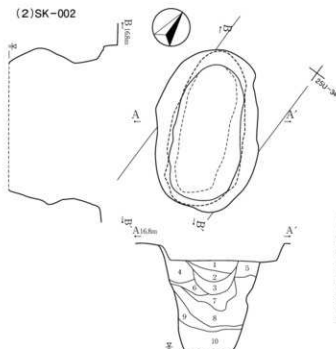


(4)SK-002

1. 褐色土：ローム粒（径1～2mm）微量
2. 黒褐色土：ローム粒（径2～5mm）微量
3. 黒褐色土：ローム粒（径2～5mm）微量
4. 褐色土：ローム粒（径2～5mm）少量
5. 褐色土：ローム粒（径1mm）微量
6. 褐色土：ローム（径2～5mm）少量
7. 褐色土：ローム粒（径2～5mm）中量
8. 黄褐色土：ローム粒主体

(2)SK-002

1. 褐色土：ローム粒多量、しまり・粘性やや弱い
2. 褐色土：ローム粒多量、ロームブロック中量、しまり・粘性やや弱い
3. 黒褐色土：ローム粒中量、しまり・粘性やや弱い
4. 暗黄褐色土：ローム粒多量、しまり・粘性やや弱い
5. 暗褐色土：ローム粒中量、しまり・粘性やや弱い
6. 暗褐色土：ローム粒中量、しまり・粘性やや弱い
7. 暗褐色土：ローム粒中量、しまり・粘性やや弱い
8. 褐色土：ローム粒多量、しまり・粘性弱い
9. 黄褐色土：ローム粒主体、しまり・粘性弱い
10. 褐色土：ロームブロック多量、しまり・粘性弱い



0 (1:80) 4m

第218図 (1)SK-004、(2)SK-001・SK-002、(4)SK-002

比較的平坦で、形状は楕円形、開口部とは軸方向をやや異にする。規模は長軸長0.70m、短軸長0.40mである。覆土の状況は、7層はロームブロックを主体とし、厚く堆積している。遺物は出土していない。

(5) SK-003 (第219図、図版12)

25Q-28・38グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-35°-Wである。規模は長軸長1.90m、短軸長1.46m、検出面からの深さ2.24mである。断面形は、開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約1.50mから下は円筒状である。底面は比較的平坦で、形状は楕円形、規模は長軸長0.68m、短軸長0.40mである。覆土の状況は、6層はロームブロックを主体とし、厚く堆積している。遺物は出土していない。

(5) SK-004 (第220図、図版12・13・88)

25R-02・03グリッドに所在する。東側1.20mに(5)SX-001がある。平面形は楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。規模は長軸長1.98m、短軸長1.48m、検出面からの深さ2.35mである。断面形は、開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約80cmから下は円筒状である。底面は中央部がわずかに深く、形状は楕円形、規模は長軸長1.06m、短軸長0.52mである。覆土の状況は、6層はロームブロックを主体とし、厚く堆積している。遺物は覆土内から尖頭器1点が出土している。1は黒曜石製で、先端部のみが遺存している。

(5) SK-005 (第220図、図版13)

23T-52・53・62・63グリッドの位置にあり、第4次調査地区との境界にあたる。本遺構は第4次調査時には検出できず、同地区の法面工事中にその存在を確認したもので、第4次調査区内については、検出面での記録にとどめた。平面形は楕円形で、長軸方向はN-3°-Wと想定できる。規模はいずれも現状で長軸長2.50m、短軸長1.61m、検出面からの深さ0.68mである。本来の底面は更に深くなるが、掘り切れていない。遺物は出土していない。

(5) SK-001 (第220図、図版12)

25R-03・04・13・14グリッドに所在する。西側1.20mに(5)SK-004がある。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-8°-Eである。規模は長軸長3.70m、短軸長2.56m、検出面からの深さが1.96mである。本遺跡で検出された陥穴の中で最も平面規模の大きなものである。断面形は逆台形である。底面は平坦で、形状は長楕円形で、規模は長軸長2.82m、短軸長0.96mである。覆土の状況は、6層～9層はロームブロックやローム粒が主体で、下部は水平堆積している。遺物は出土していない。

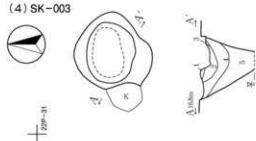
(11) SK-001 (第220図、図版13)

24J-41・42・51・52グリッドに所在する。平面形は楕円形で、長軸方向はN-35°-Eである。規模は長軸長2.05m、短軸長1.56mである。検出面から深さが1.64m(標高16.30m)に達した時点で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、底面は更に1.00m以上深くなると思われる。断面形は逆台形になると思われる。覆土の状況は、16層以下の状況が不明であるが、13層～16層はロームブロックを多量に含み、比較的レベルに堆積している。遺物は出土していない。

(14) SK-001 (第220図、図版13)

25J-13・14・23・24グリッドに所在する。平面形はやや不整形な楕円形で、長軸方向はN-28°-Eである。規模は長軸長2.29m、短軸長1.78mである。検出面から深さが1.58m(標高16.24m)に達した時点で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、底面は更に1.50m以上深くなると思われる。断面形は逆台形になると思われる。覆土の状況は、12層以下の状況が不明であるが、12層はロームブロックを多量に含み、比較的レベルに堆積している。遺物は出土していない。

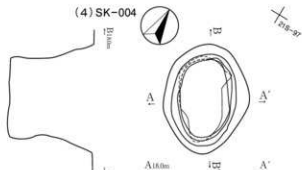
(4) SK-003



(4) SK-003

1. 暗褐色土：褐色土多量
2. 暗褐色土：ローム粒（径10-20mm）微量
3. 暗褐色土：褐色土多量
4. 褐色土：ローム粒（径2-5mm）少量
5. 暗褐色土：ローム粒（径10-20mm）微量、軟質

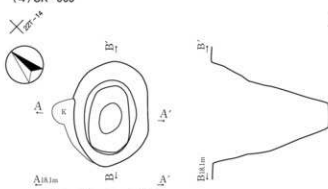
(4) SK-004



(4) SK-004

1. 暗褐色土：ローム粒（径2-5mm）少量
2. 暗褐色土：ローム粒（径2-5mm）少量
3. 褐色土：ローム粒（径2-5mm）微量、やや暗色
4. 褐色土：暗褐色土混入
5. 褐色土：ローム粒主体

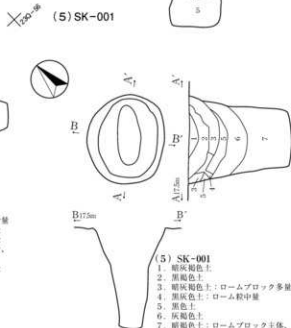
(4) SK-005



(4) SK-005

1. 暗褐色土：ローム粒（径5mm前後）少量
2. 褐色土：ローム粒（径2mm前後）少量
3. 褐色土：ローム粒（径2mm前後）少量
4. 褐色土：ローム粒（径2mm前後）少量、やや粒が大きい
5. 褐色土：ローム粒（径2mm前後）少量
6. 褐色土：ロームブロック多量

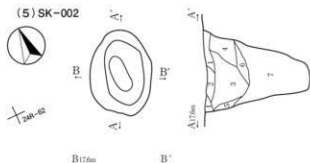
(5) SK-001



(5) SK-001

1. 暗灰褐色土
2. 黒褐色土
3. 暗灰褐色土：ロームブロック多量
4. 暗灰褐色土：ローム粒中量
5. 黒色土
6. 灰褐色土
7. 暗褐色土：ロームブロック主体、しまりなし

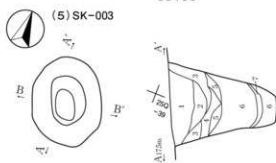
(5) SK-002



(5) SK-002

1. 暗灰褐色土：ロームブロック中量
2. 黒灰色土
3. 黒色土
4. 黒色土：ロームブロック中量
5. 黒色土：ロームブロック多量
6. 黒色土：ロームブロック少量
7. 暗灰褐色土：ロームブロック主体

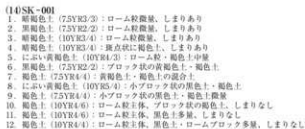
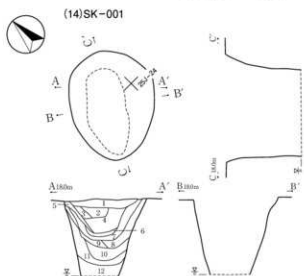
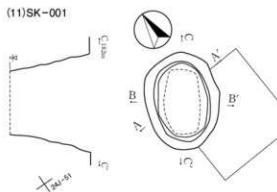
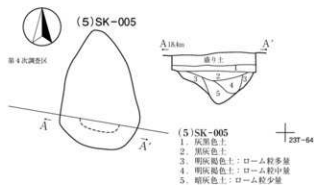
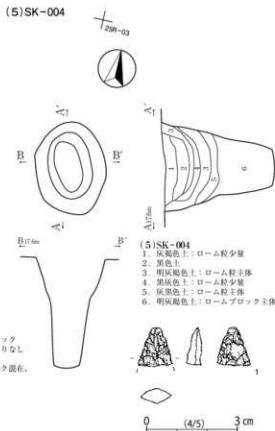
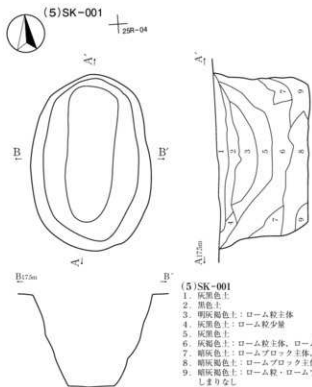
(5) SK-003



(5) SK-003

1. 灰褐色土
2. 黒色土
3. 暗灰褐色土
4. 暗灰褐色土
5. 暗灰褐色土：ローム粒主体
6. 暗灰褐色土：ロームブロック主体、しまりなし
7. 黒灰色土

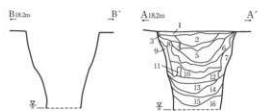
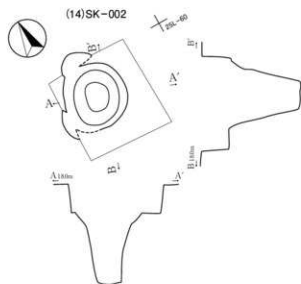
第219図 (4)SK-003・SK-004・SK-005、(5)SK-001・SK-002・SK-003



第220図 (5) SX-001・SK-004・SK-005、(11) SK-001、(14) SK-001

(14) SK-002 (第221図、図版13)

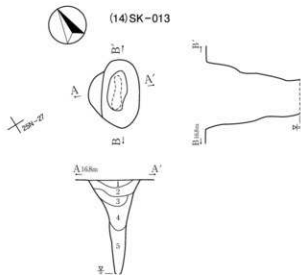
25K-59グリッドに所在する。下層確認調査時に検出したものである。平面形は楕円形になると思われる。長軸方向はN-20°-Eである。規模はいずれも推定で長軸長1.82m、短軸長1.55m、検出面からの深さ2.15mである。断面形は、開口部が朝顔形に開く形状で、深さ約90cmから下は円筒状である。底面は中央部がわずかに深く、形状は楕円形、規模は長軸長60cm、短軸長50cmである。覆土の状況は、発掘調査時の所見では、基本的にはローム粒と径5mmのハードロームを多量に含む暗褐色土あるいは暗黄褐色土で、上半部はしまり・粘性が弱く、下半部はローム粒とハードロームを含む割合が更に多くなる土層が堆積している。遺物は出土していない。



(14)SK-002

1. 明黒褐色土：黒色土主体、砂粒・ローム粒、しまりあり
2. 黒色土：黒色土主体、砂粒少量、しまりあり
3. 黒褐色土：ローム粒やや多量、粘性弱い
4. 黒色土：砂粒多量、しまりあり
5. 暗灰黒色土：ローム粒・砂粒、しまりあり
6. 暗褐色土：ローム粒・砂粒多量、粘性弱い
7. 褐色土：ローム粒・ロームブロック主体、粘性弱い
8. 暗褐色土：やや大粒のローム粒、しまりなし
9. 暗褐色土：ロームブロック（径10mm）主体、しまり弱い
10. 暗黄褐色土：ローム粒（径10-30mm）多量、しまりなし
11. 暗黄褐色土：ロームブロック塊
12. 暗灰褐色土：ロームブロック・砂粒混合土、粘性弱い
13. 暗灰黄褐色土：ローム粒・ロームブロック・砂粒・粘土質混合土、しまりなし
14. 明黒褐色土：ロームブロック多量、しまりなし
15. 明褐色土：ロームブロック（径2-5mm）混合土、粘性弱い
16. 明黒色土：ロームブロック主体、しまりあり

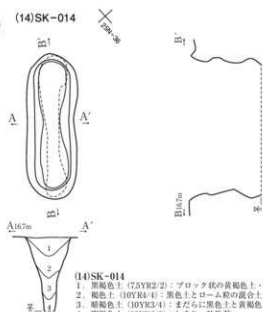
(14)SK-013



(14)SK-013

1. 暗褐色土 (75YR2/3)：しまりあり、粘性弱い、比較的均質な土層
2. 褐色土 (75YR4/4)：まだらに黄褐色土、しまり・粘性あり
3. 明褐色土 (75YR4/6)：しまり・粘性あり
4. 褐色土 (10YR4/6)：一部にロームブロック、しまり・粘性弱い
5. 暗褐色土 (10YR3/4)：一部にロームブロック、しまり弱い

(14)SK-014



(14)SK-014

1. 黒褐色土 (75YR2/2)：ブロック状の黄褐色土・褐色土
2. 褐色土 (10YR4/4)：黒色土とローム粒の混合土
3. 暗褐色土 (10YR3/4)：まだらに黒色土と黄褐色土
4. 明褐色土 (10YR6/6)：しまり・粘性弱い

0 (1:80) 4m

第221図 (14)SK-002・SK-013・SK-014

(14) SK-013 (第221図)

25N-17・27グリッドに所在する。南西6.60mに(14)SK-014がある。平面形は楕円形で、長軸方向はN-34°-Eである。規模は長軸長1.42m、短軸長0.96mである。検出面から深さが1.98m(標高14.7m)に達した時点で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、底面は更に1.00m以上深くなると思われる。断面形は、長軸面は逆台形、短軸面も部分的に開口部が朝顔形に開く形状をしているが、基本的には逆台形になると思われる。覆土の状況は、5層から底面までの土層が不明であるが、4層と5層はロームブロックを含んだ褐色土あるいは暗褐色土を呈していた。遺物は出土していない。

(14) SK-014 (第221図)

25N-35・36グリッドに所在する。北東6.60mに(14)SK-013がある。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-51°-Wである。規模は長軸長3.06m、短軸長1.00mである。検出面から深さが1.55m(標高15.05m)に達した時点で湧水があり、それ以下は調査できなかった。断面形は逆台形になると思われる。長軸面はわずかにオーバーハングし、短軸面は湧水面で幅30cm前後である。遺物は出土していない。

4 遺構外出土土器 (第222～224図、図版88～90)

遺構外の主にⅡ層の包含層などから出土した縄文土器は、調査面積に比して少なかった。時期は早期から中期までである。特筆されるのは、房総半島では出土例が限定的な押型土器が微量ではあるが出土している点である。早期では燃糸文系、三戸式や田戸下層式の沈線文系、押型文、条痕文系土器などが、また、前期では関山式、黒浜式、浮島式、興津式、十三菩提式などが出土している。中期では五頸ケ台式、阿玉台式、加曾利E式などが出土しており、いずれの時期もわずかな出土量で、分布に集中地点はなく散漫な出土である。

早期 1～30は燃糸文系土器である。1～13は口縁部、14～30は胴部である。1～3は施文が密である。21・22・28・29は底部に近い胴部である。概ね稲荷台式と考えられるが、30は稲荷原式の可能性がある。31～33は同一個体で押し状の刺突文が斜方向に施されている。三戸式ないしは田戸下層式であろう。34～36は無文で、沈線文に伴う土器であろう。焼成がよく、36は尖底部近くが縦の、胴部は横のナデ調整が施されている。34には焼成後の回転穿孔がある。37～44は無文土器は硬質の焼きで、胎土に粗い砂粒が多量に混入し、横方向のナデ調整に伴う砂粒の移動が器面に認められる。三戸式ないしは竹之内式に見られる特徴的な無文土器である。口唇部は45～47は沈線文系土器である。いずれも胴部で、45・47は太い沈線が施文されたもので田戸下層式、46は菱形格子目文が施文された三戸式であろう。48～60は押型土器で、同一個体と思われる。焼成が良く硬質で粗い砂粒が少ないが目立つ胎土である。器厚が薄いことから小型の深鉢と考えられる。48は口縁部、そのほかは胴部である。帯状山形押型文は48～51が横方向、52が縦・横両方向、53～60が縦方向の異方向施文が行われている。61～70は条痕文系土器で、胎土中に繊維が含まれている。69を除いては茎東条痕乃至は貝殻条痕を伴っている。また、61・62は口端が尖る口縁部で、いずれも口唇部に棒状工具によるキザミが施され、有段の64よりは古い時期の可能性が。62は焼成後の回転穿孔がある。69は尖底部である。64は有段の胴部で、野島式以降の時期と考えられる。

前期 71～76は関山式で、全て胎土中に繊維が含まれている。74は口縁部、71～73・75は胴部、76は底部で、上げ底である。71～73は末端環付の単節縄文が施文される。77～85は黒浜式で、全て胎土中に繊維が含まれている。77・79は口縁部、そのほかは胴部である。77は口唇部に小さな突起が見られる。77～

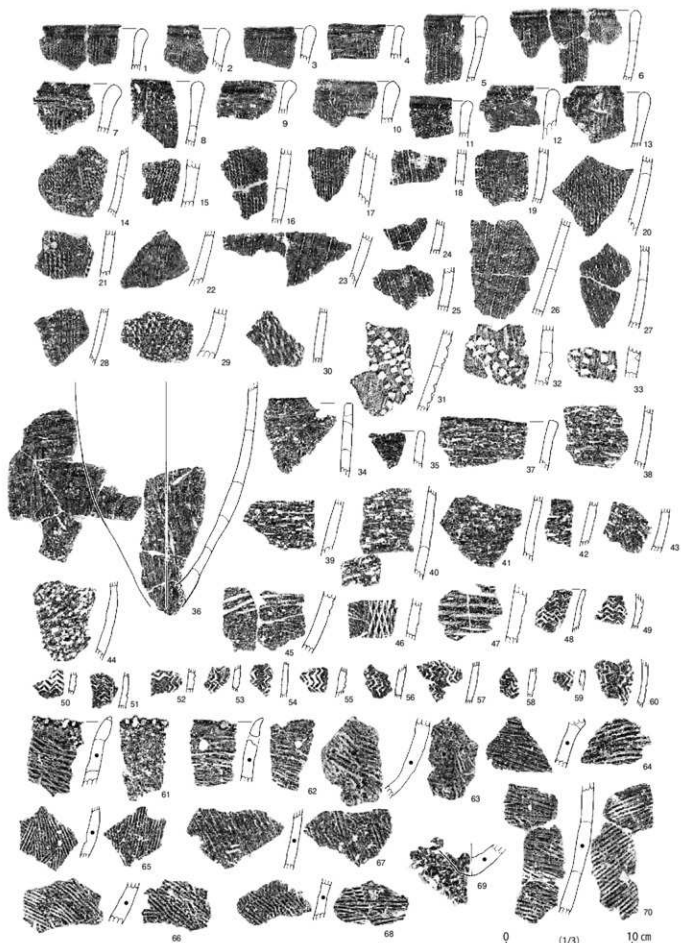
79・82・83は円形竹管文が施文される。86～117は浮島系土器である。86～94・97・100～102・106は浮島Ⅱ式である。86～89・100は口縁部、そのほかは胴部である。87は口唇部に刻みが施され、条線文が施文される。また、未貫通の補修孔がある。100は折返し口縁で、口縁部下端に鋸歯状の刻みが施され、変形爪形文が施文される。86は沈線文と変形爪形文、88・89・91は条線文、90・92は沈線文、93は沈線文と刺突文、94は菱形の沈線文、97は鋸歯状沈線文と波状貝殻文、101は変形爪形文、102・106は波状貝殻文が施文される。95・96・98・99は浮島Ⅱ式～浮島Ⅲ式である。全て胴部で、波状貝殻文が施文される。103～105・107～117は浮島Ⅲ式である。107～109は口縁部、そのほかは胴部である。107～109はいずれも口縁部上端に刻みを施し、三角文が施文される。116は口縁部下端～胴部で、口縁部下端に刺突文が施文される。103・105・106は波状貝殻文、104は三角文(波状貝殻文)、110～115・117は三角文が施文される。118～120は興津式である。118は口縁部、そのほかは胴部で、いずれも貝殻復縁文が施文される。121～125は十三菩提式で、全て胴部である。121～124は沈線文、125は結節浮線文と単節縄文が施文される。126・127は前期末葉から中期初頭で、いずれもZ字状結節文が施文される。

中期 128～137・141～143は五領ケ台式である。128a～128dは口縁部～胴部で、同一個体と思われる。いずれも折返し口縁で、単節縄文が施文され、128bを除いて結節文が見られる。129～137・141～143は胴部で、全て単節縄文が施文され、136を除いて結節文が見られる。138～140・144～147は五領ケ台Ⅱ式である。138～140は口縁部で、138は口縁部外面に刻みが施される。139・140は口唇部端が水平になる。139は平行沈線文に連続刺突文と交互刺突文、140は平行沈線文に連続刺突文と瘤状文が施文される。144～147は胴部である。144・145は平行沈線文に連続刺突文と交互刺突文、146は平行沈線文に連続刺突文147は平行沈線文と交互刺突文が施文される。148・149は阿玉台式である。いずれも胴部で、隆起線による杵状文が施文され、149には角押文が見られる。150～153は阿玉台Ⅰb式で、全て胴部である。150・151は粘土帯による杵状文に角押文、152は粘土帯による波状文、153は隆起線による杵状文に角押文が施文される。154は勝坂Ⅱ式である。胴部で、連続爪形文が施文される。155は沈線文が施文される。156は全体の器形を復元できた浅鉢で、無文である。口縁部内面に明瞭な角を作出していること、微量の雲母を伴い焼成が堅緻であることから五領ケ台式乃至は阿玉台式の時期であろう。157～159は加曾利EⅡ式である。157は口縁部で、複節縄文と磨消懸垂文が施文される。158・159は胴部で、単節縄文と磨消懸垂文が施文される。163は加曾利EⅢ式である。口縁部で、単節縄文と磨消区画文が施文される。160～162・164～168は加曾利E式に含まれるものである。164・165は口縁部で、いずれも沈線文が施文され、165には未貫通のものを含めて2つの補修孔が見られる。160～162・168は胴部で、160は円形刺突文と沈線文、161は円形刺突文、162は単節縄文と円形刺突文、166は単節縄文が施文される。167・168は底部で、167は単節縄文が施文され、168は無文である。

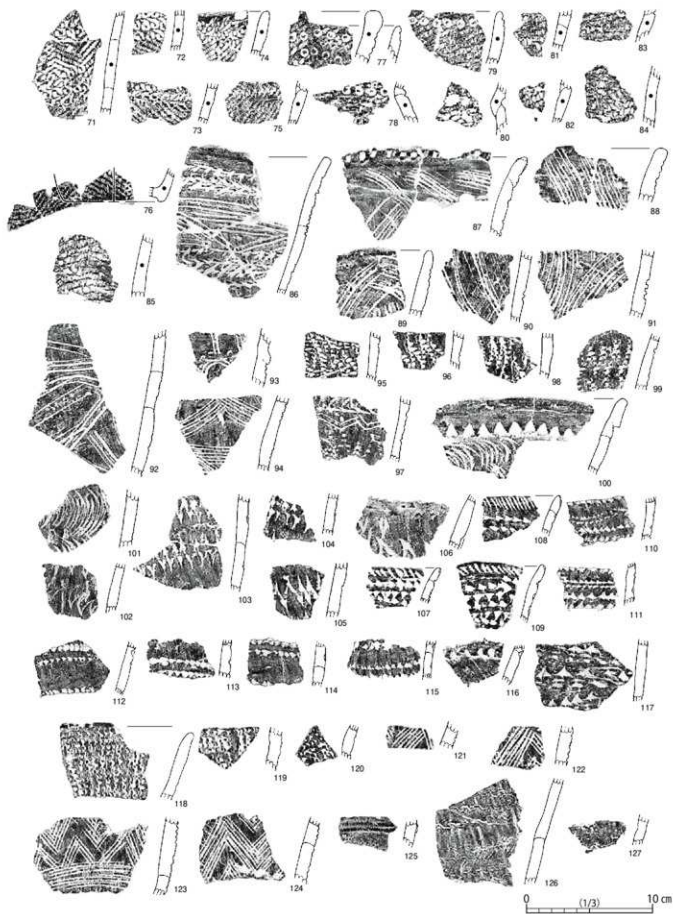
5 遺構外出土石器(第225～227図、図版91)

ここではグリッド出土及び遺構ではあるが遺構の時期とは明らかに異なるもので、縄文時代の石器をまとめることにした。わずかな点数ではあるが、有茎尖頭器が3点出土している点が注目される。石器の時期は、石鏃に関しては早期乃至は前期、敲石・磨石類は前期乃至は中期と推測される。

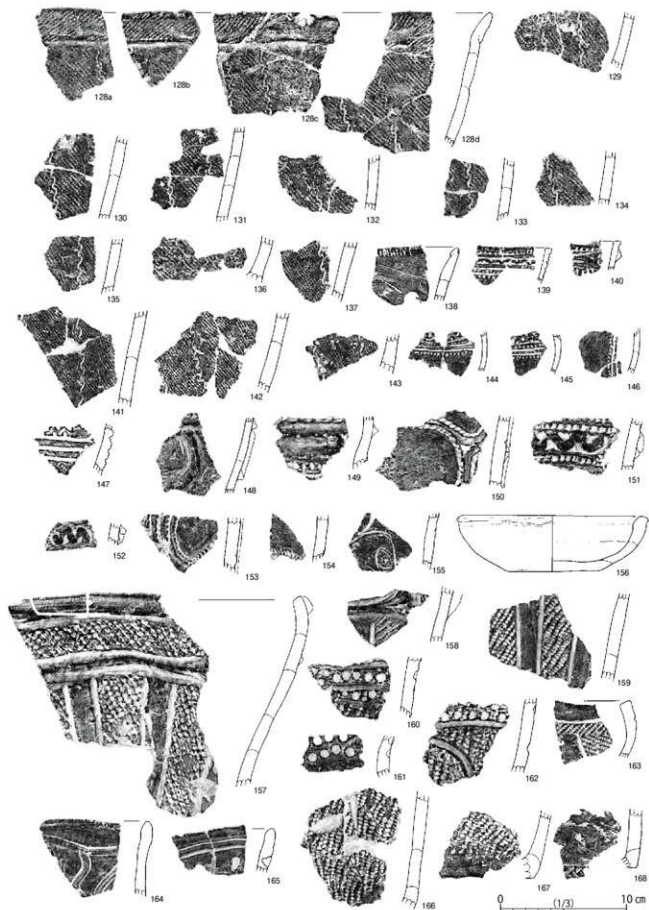
1～31は石鏃である。全て凹基と言えるもので、約半数は抉りの浅いものである。1は円脚鏃で、脚部を欠損する。石材は安山岩である。2～9は抉りが深いものである。形状は3が三角形で、そのほかが二等辺三角形である。5・6・8・9は脚部を欠損する。石材は2・3・4がチャート、2・5・9が黒



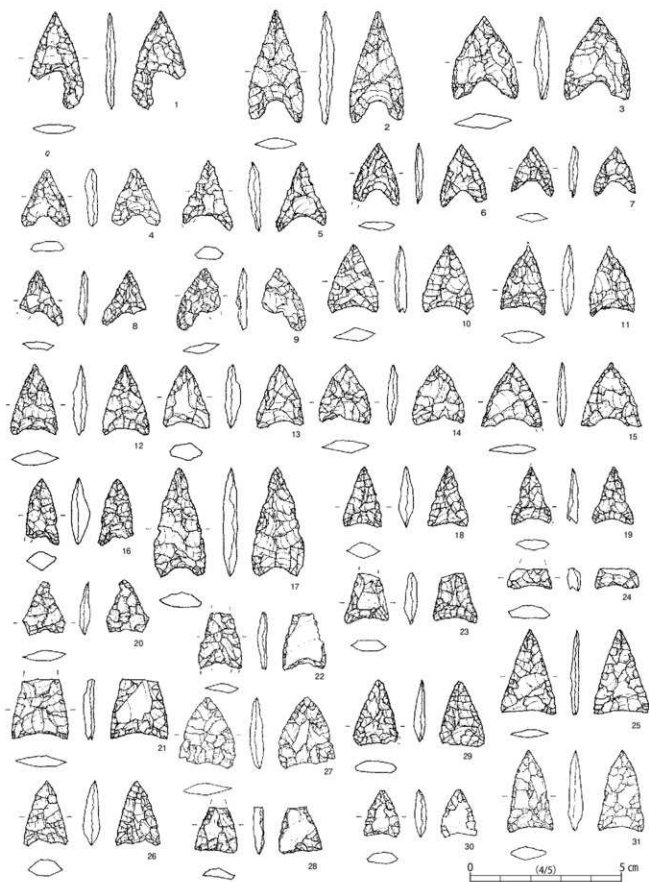
第222图 遗構外出土器(1)



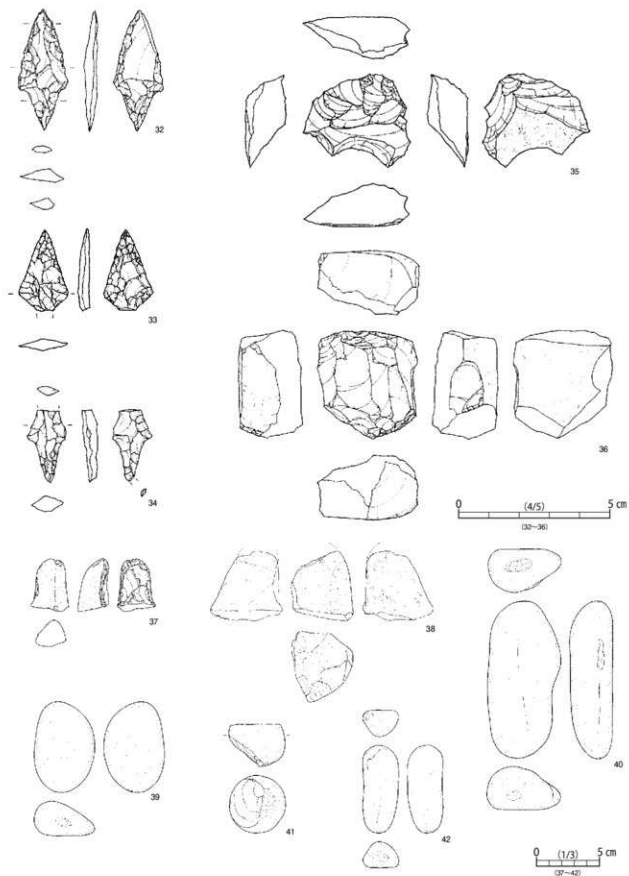
第223图 遺構外出土土器(2)



第224圖 遺構外出土土器(3)

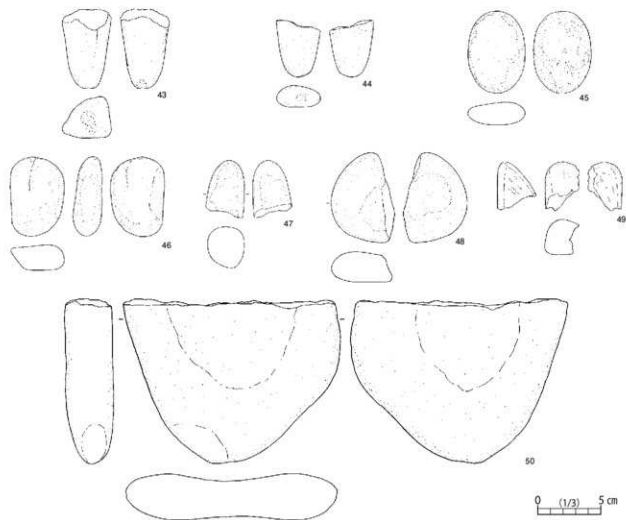


第225图 遺構外出土石器(1)



第226图 遺構外出土石器(2)

曜石である。10～31は挟りが浅いものである。形状は14・15が三角形で、9～13・16～31が二等辺三角形である。15・16は脚部を欠損する。19は先端部と脚部をわずかに欠損する。20は未製品かもしれない。21～24は先端部を大きく欠損する。22・28・30は素材の剥離面を大きく残している。27は先端部、28は脚部を欠損する。石材は13がホルンフェルス、15が安山岩、16が頁岩、17・20・26～28が黒曜石、30が流紋岩である。そのほかがチャートである。30は凸基で、基部を欠損する。石材はチャートである。32～34は有舌尖頭器で、32は茎を33は先端部を欠損する。32は素材の剥離面を大きく残している。石材は32がホルンフェルス、33がチャート、34が安山岩である。35・36は石核である。石材は、いずれも頁岩である。37は磔器である。頂部と側縁部に複数の敲打痕が見られ、一部を丁寧に調整剥離を施して握りやすくしている。下半部は欠損する。石材は石灰岩である。38はスタンプ形石器と考えられる。周囲から剥離調整を施して、平坦面を出している。39～44は敲石である。39・40・42は完形品で、39は楕円形の円磔の下端に敲打痕が見られる。40は両端のほかに側縁にも敲打痕が認められる。41は敲打により大きく欠損している。42は両端に敲打痕がある。石材は39・40・43～45が砂岩、41が変成岩、42が安山岩である。45～49は磨石である。45・46は完形品である。45は両面に磨耗痕が見られる。46は両面と両側縁に磨耗痕が見られる。47は両面と両側縁、48は両面、49は遺存している三面に磨耗痕が見られる。石材は45・48が砂岩、46が凝灰岩、47・49が安山岩である。50は石皿である。石材は多孔質安山岩である。



第227図 遺構外出土石器(3)

第94表 縄文時代土器観察表

() 測定値 () 現在品

附録番号	遺 積	時 期	型 式	器 種	注 量 (cm)	遺存状況	胎 土	色 調・焼 成	技 法	備 考		
第21500 -1	(7) SI-003	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	中粒砂粒・赤色 粘・雲母多量	内面	明褐色 (7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	漆器・内研文 押引文
					底径			明褐色 (7.5YR5-6)	外面	-		
第21500 -2	(7) SI-003	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	-	内面	明褐色 (7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	押引文
					底径			明褐色 (7.5YR5-6)	外面	-		
第21500 -3	(7) SI-003	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-4)	内面	ヘラナデ	角研文 押引文 尖輪
					底径			赤褐色 (7.5YR5-4)	外面	-		
第21500 -4	(7) SI-003	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-4)	内面	ヘラナデ	押引文
					底径			赤褐色 (10YR5-4)	外面	-		
第21500 -5	(7) SI-003	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR6/4)	内面	ヘラナデ	手織竹管文
					底径			赤褐色 (10YR6/4)	外面	-		
第21600 -1	(7) SX-002	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	-	内面	褐色 (7.5YR4/3)	内面	ヘラナデ	漆器による特殊文・内 研文 押引文
					底径			褐色 (7.5YR4/3)	外面	-		
第21600 -2	(7) SX-002	中期	阿玉台 1 b	深鉢	口径	-	-	内面	灰褐色 (7.5YR4/2)	内面	ヘラナデ	押引文
					底径			灰褐色 (7.5YR4/2)	外面	-		
第22200 -1	26T-74-85	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR4/3)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR4/3)	外面	-		
第22200 -2	26T-78	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR5-4)	外面	-		
第22200 -3	26T-78	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR5-4)	外面	-		
第22200 -2	26T-64	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	明褐色 (7.5YR5-6)	内面	-	熟赤文
					底径			明褐色 (7.5YR5-6)	外面	-		
第22200 -5	26U-24	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-3)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR5-3)	外面	-		
第22200 -6	26T-76-77	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (7.5YR5-4)	外面	-		
第22200 -7	26T-77	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR5-4)	外面	-		
第22200 -8	26U-20	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (7.5YR5-4)	外面	-		
第22200 -9	26T-76	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	明褐色 (7.5YR5-6)	内面	-	熟赤文
					底径			明褐色 (7.5YR5-6)	外面	-		
第22200 -10	25T-69	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-3)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (7.5YR5-3)	外面	-		
第22200 -11	25T・26T	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (7.5YR5-4)	外面	-		
第22200 -12	26T-75	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (7.5YR5-4)	外面	-		
第22200 -13	26T-84	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR4/3)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR4/3)	外面	-		
第22200 -14	26U-16	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (7.5YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (7.5YR5-4)	外面	-		
第22200 -15	26T-77	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	明褐色 (7.5YR5-6)	内面	-	熟赤文
					底径			明褐色 (7.5YR5-6)	外面	-		
第22200 -16	26T-65	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR5-4)	外面	-		
第22200 -17	26U-42	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR6/4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR6/4)	外面	-		
第22200 -18	(9) 第 9 149	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	赤褐色 (10YR5-4)	内面	-	熟赤文
					底径			赤褐色 (10YR5-4)	外面	-		
第22200 -19	(9) 第 1 149	早期	熟赤文	深鉢	口径	-	-	内面	明褐色 (7.5YR5-6)	内面	-	熟赤文
					底径			明褐色 (7.5YR5-6)	外面	-		

神戶番号	遺構	時期	型式	器種	注量(cm)	遺存状況	胎土	色調・焼成	技法	備考	
第2220 -20	26U-51	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR6-3)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR6-3)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -21	(9) 第14号	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(7.5YR5-4)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(7.5YR5-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -22	26T-69	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	-
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -23	26T-65	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	褐色(7.5YR4-3)	内面	-
					底径	-		外面	褐色(7.5YR4-3)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -24	26T-75	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v褐色(7.5YR5-4)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v褐色(7.5YR5-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -25	26T-65	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v褐色(7.5YR5-4)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v褐色(7.5YR5-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -26	26T-65	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v褐色(10YR5-4)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v褐色(10YR5-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -27	26T-85	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	灰青褐色(10YR4-2)	内面	-
					底径	-		外面	灰青褐色(10YR4-2)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -28	26T-85	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -29	26T-76	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	-
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -30	27O-78	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	内面	-
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -31	22V-16	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	明黄褐色(10YR6-6)	内面	ヘラナデ
					底径	-		外面	明黄褐色(10YR6-6)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -32	22V-16	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	内面	ヘラナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -33	22V-16	早期	照本文	深鉢	口径	-	胴部	内面	明黄褐色(10YR6-6)	内面	ヘラナデ
					底径	-		外面	明黄褐色(10YR6-6)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -34	27L-68	早期	照本文末	深鉢	口径	-	口縁部	内面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -35	27L-68	早期	照本文末	深鉢	口径	-	口縁部	内面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -36	27L	早期	照本文末	深鉢	口径	-	胴部-皿部	内面	12.45v褐色(7.5YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v褐色(7.5YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	<17.6>		底面	良好	底外面	-
第2220 -37	26T-68	早期	三戸	深鉢	口径	-	口縁部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -38	26T-77	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -39	26T-68	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -40	26T-68-69	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -41	26T-79	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR6-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -42	26T-68	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -43	26T-77	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -44	26T-68	早期	三戸	深鉢	口径	-	胴部	内面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	内面	ナデ
					底径	-		外面	12.45v黄褐色(10YR5-4)	外面	ヘラナデ
					器高	-		底面	良好	底外面	-
第2220 -45	26T-77	早期	沈線文	深鉢	口径	-	胴部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	-
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-
					器高	-		底面	良好	底外面	-

神戶番号	遺構	時期	型式	器種	注量 (cm)	遺存性	胎土	色調・焼成	技法	備考
第2290 -46	26U-18	早期	沈瀧文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	(注) 沈瀧文
第2290 -47	26T-66	早期	沈瀧文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量、褐色 粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	(注) 沈瀧文
第2290 -48	26T-67	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒微量	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -49	26T-67	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4-6) 外面 褐色 (7.5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -50	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4-6) 外面 褐色 (7.5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -51	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4-3) 外面 褐色 (7.5YR4-3) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -52	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (7.5YR4-6) 外面 褐色 (7.5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -53	26T-67	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 褐色 (5YR4-6) 外面 褐色 (5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -54	26T-76	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒	内面 赤褐色 (5YR4-6) 外面 赤褐色 (5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -55	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒	内面 褐色 (7.5YR4-6) 外面 褐色 (7.5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -56	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (5YR4-6) 外面 褐色 (5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -57	26T-57-68	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -58	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒多量	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -59	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒少量	内面 褐色 (5YR4-6) 外面 褐色 (5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -60	26T-77	早期	押型文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒・褐色粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	山形押型文
第2290 -61	25V-14	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	織線・砂粒・褐色 色粒少量	内面 橙色 (7.5YR6-6) 外面 橙色 (7.5YR6-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 条状文 口縁部 條状工具による押印
第2290 -62	24V-70	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	織線・砂粒多量	内面 C.L.赤褐色 (10YR5-4) 外面 C.L.赤褐色 (10YR5-4) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	表面条状文 簡形孔 工部局時代工場2号窯
第2290 -63	25V-04	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒	内面 明赤褐色 (5YR5-6) 外面 明赤褐色 (5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 表面条状文
第2290 -64	25V-05	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒	内面 C.L.赤褐色 (10YR5-3) 外面 C.L.赤褐色 (10YR5-3) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 表面条状文
第2290 -65	SD-002	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒少量	内面 C.L.赤褐色 (10YR5-4) 外面 C.L.赤褐色 (10YR5-4) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	表面条状文
第2290 -66	24V-95	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒	内面 明赤褐色 (5YR5-6) 外面 明赤褐色 (5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 表面条状文
第2290 -67	12(S) 903	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒少量	内面 赤褐色 (5YR4-6) 外面 赤褐色 (5YR4-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	表面条状文
第2290 -68	24V-93	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	砂粒	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 表面条状文
第2290 -69	24V-97	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 <2.4>	底面	織線・砂粒少量	内面 C.L.赤褐色 (10YR5-4) 外面 C.L.赤褐色 (10YR5-4) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 条状文 底面
第2290 -70	24V-84・ 25V-08-15	早期	条状文	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒	内面 黄褐色 (10YR5-6) 外面 黄褐色 (10YR5-6) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	織敷布 表面条状文
第2290 -71	26T-64・74	前期	周山	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	織線・砂粒・褐色 色粒少量	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 明褐色 (7.5YR5-6) 焼成 良好	内面 へろ書き 外面 - 底外面 -	玉瑠璃付卑細織文 (段多 条) LR+RL

群号	通巻	時期	型式	器種	注量 (cm)	遺存状況	胎土	色調・完成	技法	備考		
第2200 -72	26T-64	前期	岡山	深鉢	口径	-	銅部	内面	明水褐色(5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	土器(厚手)早期繩文(段多)
					底径	-		外面	明水褐色(5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -73	26T-64	前期	岡山	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	土器(厚手)早期繩文(段多)
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -74	26T-64	前期	岡山	深鉢	口径	-	口縁部	内面	紅褐色(10YR5-6)	内面	ヘラ磨き	早期縄文LR
					底径	-		外面	紅褐色(10YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -75	25U-97	前期	岡山	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(10YR5-6)	内面	ナデ	早期縄文(段多)LR+
					底径	-		外面	紅褐色(10YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -76	26T-64	前期	黒浜	深鉢	口径	-	底底	内面	褐色(5YR6-6)	内面	ヘラ磨き	早期縄文(段多)LR+
					底径	38.0		外面	褐色(5YR6-6)	外面	-	
					器高	<2.7>		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -77	250-21	前期	黒浜	深鉢	口径	-	口縁部	内面	紅褐色(10YR5-6)	内面	ヘラ磨き	円形竹管文 無銘縄文L
					底径	-		外面	紅褐色(10YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -78	250-20	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	円形竹管文 無銘縄文R
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -79	250-21	前期	黒浜	深鉢	口径	-	口縁部	内面	紅褐色(10YR6-6)	内面	ヘラ磨き	円形竹管文 無銘縄文L
					底径	-		外面	紅褐色(10YR6-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -80	250-41	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	無銘縄文L
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -81	14(2)34-9	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	無銘縄文L
					底径	-		外面	紅褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -82	250-41	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	円形竹管文 無銘縄文L
					底径	-		外面	紅褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -83	250-21	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	円形竹管文 無銘縄文L
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -84	250-30	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	無銘縄文L
					底径	-		外面	紅褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -85	250-21	前期	黒浜	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラ磨き	無銘縄文L
					底径	-		外面	紅褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -86	26T-27・ 64・26U-00	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	口縁部	内面	紅褐色(10YR5-6)	内面	ヘラナデ	土器文 変形彫文
					底径	-		外面	紅褐色(10YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -87	25U-67	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	口縁部	内面	褐色(7.5YR6-6)	内面	ヘラナデ	円形部刻文 条線文 土器通の補修孔あり
					底径	-		外面	褐色(7.5YR6-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -88	25W-32・ 81	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	口縁部	内面	紅褐色(10YR4-3)	内面	ヘラナデ	条線文
					底径	-		外面	紅褐色(10YR4-3)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -89	25V-80	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	口縁部	内面	紅褐色(10YR5-3)	内面	ヘラナデ	条線文
					底径	-		外面	紅褐色(10YR5-3)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -90	(2)S1-008	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(10YR6-6)	内面	ヘラナデ	土器文
					底径	-		外面	紅褐色(10YR6-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -91	25W-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(10YR6-6)	内面	ヘラナデ	条線文
					底径	-		外面	紅褐色(10YR6-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -92	25U-68	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	土器文
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -93	25V-91	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	土器文 刻文
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -94	26U-19	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(10YR5-3)	内面	ヘラナデ	変形の土器文
					底径	-		外面	紅褐色(10YR5-3)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -95	25U-99	前期	浮島Ⅱ Ⅲ	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	流注目録文
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -96	25U-99	前期	浮島Ⅱ Ⅲ	深鉢	口径	-	銅部	内面	紅褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	流注目録文
					底径	-		外面	紅褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	
第2200 -97	26U-20	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径	-	銅部	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	ヘラナデ	新編流注文 流注目録文
					底径	-		外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	-	
					器高	-		底外面	良好	底外面	-	

碑号番号	遺構	時期	型式	器種	法量(cm)	遺存状況	胎土	色調・地文	技法	備考
第2280 -98	25U-99	前期	浮島Ⅱ-Ⅰ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・赤色粘土量	内面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 外面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	流状目紋文
第2280 -99	(2)26-50	前期	浮島Ⅱ-Ⅰ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 外面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	流状目紋文
第2280 -100	25U-85-97	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 明褐色(10YR6-6) 外面 明褐色(10YR6-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	口縁部下端扇状刻み 表彫点刻文
第2280 -101	26U-08	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(10YR5-3) 外面 じいい黄褐色(10YR5-3) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	表彫点刻文
第2280 -102	26U-08	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(10YR5-3) 外面 じいい黄褐色(10YR5-3) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	流状目紋文
第2280 -103	25U-99	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	流状目紋文
第2280 -104	(2)SI-008	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文(流状目紋文)
第2280 -105	(2)SD-003	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 明褐色(5YR5-6) 外面 明褐色(5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	流状目紋文
第2280 -106	25V-82	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(10YR6-4) 外面 じいい黄褐色(10YR6-4) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	流状目紋文
第2280 -107	(2)SI-003	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒少量	内面 明褐色(7.5YR5-6) 外面 明褐色(7.5YR5-6) 地文 不具	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	口縁部刻み 三角文
第2280 -108	25U-69	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量・褐色粘土量	内面 明褐色(7.5YR5-6) 外面 明褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	口縁部刻み 三角文
第2280 -109	25U-28	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒・褐色粘土	内面 黒褐色(10YR3-2) 外面 黒褐色(10YR3-2) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	口縁部刻み 三角文
第2280 -110	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 灰黄褐色(10YR5-2) 外面 灰黄褐色(10YR5-2) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -111	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒少量	内面 じいい黄褐色(10YR5-3) 外面 じいい黄褐色(10YR5-3) 地文 不具	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -112	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(10YR4-3) 外面 じいい黄褐色(10YR4-3) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -113	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 外面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -114	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(10YR5-4) 外面 じいい黄褐色(10YR5-4) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -115	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 外面 じいい黄褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -116	25U-53	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒少量	内面 灰黄褐色(10YR5-2) 外面 灰黄褐色(10YR5-2) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	折返し口縁 刺突文
第2280 -117	25V-68	前期	浮島Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量・褐色粘土量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	三角文
第2280 -118	25V-56	前期	興津	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒多量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 地文 良好	内面 見れている 外面 - 底外面 -	耳状微線文
第2280 -119	(2)SI-008	前期	興津	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 地文 良好	内面 見れている 外面 - 底外面 -	耳状微線文
第2280 -120	(2)SI-008	前期	興津	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 地文 良好	内面 見れている 外面 - 底外面 -	耳状微線文
第2280 -121	25V-80	前期	十三吾鏡	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 明褐色(7.5YR5-6) 外面 明褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	沈線文
第2280 -122	25U-99	前期	十三吾鏡	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 明褐色(7.5YR5-6) 外面 明褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	沈線文
第2280 -123	25U-89	前期	十三吾鏡	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量	内面 明褐色(7.5YR5-6) 外面 明褐色(7.5YR5-6) 地文 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	沈線文

碑号番号	通称	時期	型式	部材	法量(cm)	遺存状況	胎土	色調・焼成	技法	備考
歌2200 -124	25U-97	前期	十三菩薩	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒 量	内面 じいい褐色(7.5YR5-4) 外面 じいい褐色(7.5YR5-4) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	沈黙文
歌2200 -125	26T-64	前期	十三菩薩	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量 量	内面 じいい黄褐色(10YR5-4) 外面 じいい黄褐色(10YR5-4) 焼成 良好	内面 底外側 外面 底外側 底外面 -	結節浮線文・早稲縄文L
歌2200 -126	21K-09	前期	末耆	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量 量	内面 暗褐色(10YR3-3) 外面 暗褐色(10YR3-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文
歌2200 -127	21L-21	前期	末耆	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒多量 量	内面 暗褐色(10YR3-2) 外面 暗褐色(10YR3-2) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	Z字状結節文
歌2200 -128a	26T-65	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部- 銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい黄褐色(10YR6-3) 外面 じいい黄褐色(10YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	早稲縄文L
歌2200 -128b	26T-77	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部- 銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい黄褐色(10YR6-3) 外面 じいい黄褐色(10YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -128c	26T-85-86	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部- 銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい黄褐色(10YR6-3) 外面 じいい黄褐色(10YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	早稲縄文L
歌2200 -128d	26T-77・ 78・26U-60	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部- 銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい褐色(7.5YR6-3) 外面 じいい褐色(7.5YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	早稲縄文L
歌2200 -129	26T-66	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい褐色(7.5YR6-3) 外面 じいい褐色(7.5YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -130	26T-88	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒 量	内面 じいい褐色(7.5YR6-3) 外面 じいい褐色(7.5YR6-3) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -131	26T-65・ 26U-50	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい褐色(7.5YR6-4) 外面 じいい褐色(7.5YR6-4) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -132	26T-77	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい褐色(7.5YR6-3) 外面 じいい褐色(7.5YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -133	26T-64・69	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい黄褐色(10YR6-3) 外面 じいい黄褐色(10YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -134	26T-67	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい褐色(5YR6-3) 外面 じいい褐色(5YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -135	26T-67	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい褐色(7.5YR6-3) 外面 じいい褐色(7.5YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -136	26T-74・85	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 褐色(5YR6-6) 外面 褐色(5YR6-6) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	早稲縄文L
歌2200 -137	27L-49	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい赤褐色(5YR5-2) 外面 じいい赤褐色(5YR5-2) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -138	26T-87	中期	五輪×台 Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	砂粒・白色粒・ 黒色粒多量	内面 じいい褐色(7.5YR5-3) 外面 じいい褐色(7.5YR5-3) 焼成 良好	内面 底外側 外面 底外側 底外面 -	口縁部刻み
歌2200 -139	26T-76・87	中期	五輪×台 Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色粒少量	内面 灰黄褐色(10YR4-2) 外面 灰黄褐色(10YR4-2) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	平行沈黙文・連続刻文 交互刻文
歌2200 -140	26T-87	中期	五輪×台 Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	口縁部	白色粒・灰母少 量	内面 暗灰色(5YR4-1) 外面 暗灰色(5YR4-1) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	平行沈黙文・連続刻文 幅状文
歌2200 -141	27L-49	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい赤褐色(5YR5-4) 外面 じいい赤褐色(5YR5-4) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -142	27L-49	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい赤褐色(5YR5-3) 外面 じいい赤褐色(5YR5-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -143	27L-49	中期	五輪×台	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	砂粒・白色粒多 量	内面 じいい黄褐色(10YR6-3) 外面 じいい黄褐色(10YR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	結節文・早稲縄文L
歌2200 -144	26T-76	中期	五輪×台 Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	白色粒・灰母少 量	内面 褐色(7.5YR6-6) 外面 褐色(7.5YR6-6) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	平行沈黙文・連続刻文 交互刻文
歌2200 -145	26T-76	中期	五輪×台 Ⅱ	深鉢	口径 - 底径 - 器高 -	銅部	白色粒少量	内面 じいい褐色(7.5YR5-4) 外面 じいい褐色(7.5YR5-4) 焼成 良好	内面 ヘラナテ 外面 - 底外面 -	平行沈黙文・連続刻文 交互刻文

種別番号	遺構	時期	型式	器種	法量 (cm)	遺存状況	胎土	色調・焼成	技法	備考	
第224回 -146	26T-84	中期	五葉台 Ⅱ	口徑	-	胴部	白色胎・雲母多量	内面	灰黄褐色 (10YR4/2)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	灰黄褐色 (10YR4/2)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -147	26T-74	中期	五葉台 Ⅱ	口徑	-	胴部	白色胎少量	内面	褐色 (7.5YR4/6)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	褐色 (7.5YR4/6)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -148	(7) SI-003	中期	阿玉台	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒・雲母多量	内面	紅褐色 (10YR5/4)	内面	荒れている
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -149	18W-90	中期	阿玉台	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒・雲母多量	内面	紅褐色 (10YR5/4)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -150	25AA-17	中期	阿玉台 1b	口徑	-	胴部	白色胎・赤色胎・雲母多量	内面	紅褐色 (7.5YR6/4)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (7.5YR6/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -151	25AA-17	中期	阿玉台 1b	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒・雲母多量	内面	紅褐色 (7.5YR5/4)	内面	荒れている
				底径	-			外面	紅褐色 (7.5YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -152	(7) SI-003	中期	阿玉台 1b	口徑	-	胴部	砂粒・白色胎・雲母多量	内面	紅褐色 (7.5YR5/4)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (7.5YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -153	(7) 第934 f	中期	阿玉台 1b	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒・雲母多量	内面	紅褐色 (10YR5/3)	内面	荒れている
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR5/3)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -154	(7) A-37	中期	聯珠Ⅱ	口徑	-	胴部	白色胎・雲母多量	内面	褐色 (5YR6/6)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	褐色 (5YR6/6)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -155	26T-87	中期	深鉢	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒多量	内面	紅褐色 (10YR5/4)	内面	荒れている
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -156	25O-83- 85-86	中期	浅鉢	口徑 (13.8)	-	40%	白色胎・砂粒少量	内面	紅褐色 (7.5YR6/4)	内面	ナデ
				底径 (7.0)	-			外面	紅褐色 (7.5YR6/4)	外面	ナデ
				器高 (4.4)	-			焼成	良好	底外面	ナデ
第224回 -157	24BB-30	中期	加曾利 EⅡ	口徑	-	口縁部	白色胎少量	内面	紅褐色 (10YR7/4)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR7/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -158	(7) SI-001	中期	加曾利 EⅡ	口徑	-	胴部	白色胎・赤色胎少量	内面	灰黄褐色 (10YR6/2)	内面	やや荒れている
				底径	-			外面	灰黄褐色 (10YR6/2)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -159	(7) A799f	中期	加曾利 EⅡ	口徑	-	胴部	白色胎・赤色胎少量	内面	紅褐色 (7.5YR5/4)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	紅褐色 (7.5YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -160	(7) SI-001	中期	加曾利E	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒少量	内面	黒色 (10YR2/1)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	黒色 (10YR2/1)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -161	23N-08	中期	加曾利E	口徑	-	胴部	白色胎少量	内面	紅褐色 (10YR7/4)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR7/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -162	(7) SI-001	中期	加曾利E	口徑	-	胴部	白色胎・砂粒少量	内面	紅褐色 (10YR5/3)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR5/3)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -163	22Y-82	中期	加曾利 EⅡ	口徑	-	口縁部	白色胎少量	内面	紅褐色 (10YR7/4)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR7/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -164	26T-78	中期	加曾利E	口徑	-	口縁部	白色胎・砂粒少量	内面	紅褐色 (7.5YR6/4)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (7.5YR6/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -165	26T-69-78	中期	加曾利E	口徑	-	口縁部	白色胎少量	内面	紅褐色 (10YR6/3)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR6/3)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -166	22V-14	中期	加曾利E	口徑	-	胴部	白色胎・赤色胎・砂粒少量	内面	明赤褐色 (5YR5/6)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	明赤褐色 (5YR5/6)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -167	22V-07	中期	加曾利E	口徑	-	底部	白色胎・赤色胎・砂粒少量	内面	明赤褐色 (5YR5/6)	内面	ヘラ磨き
				底径	-			外面	明赤褐色 (5YR5/6)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-
第224回 -168	22W-55	中期	加曾利E	口徑	-	底部	白色胎・砂粒少量	内面	紅褐色 (10YR5/4)	内面	ヘラナデ
				底径	-			外面	紅褐色 (10YR5/4)	外面	-
				器高	-			焼成	良好	底外面	-

第95表 縄文時代石器属性表

単位：最大長・幅・厚(mm) 重量(g) () 現在値

種別番号	出土位置	遺物番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
第22500-6	(7)SI-003	3	石鏃	黒曜石	21.4	11.8	3.2	0.62	
第22600-1	(5)SK-004	1	先端器	黒曜石	(11.9)	(10.5)	(4.3)	0.43	
第22500-1	15Q-81	2	石鏃	安山岩	(31.2)	(17.9)	3.4	(1.12)	円錐
第22500-2	17P-36	2	石鏃	チャート	37.8	18.1	4.9	2.09	
第22500-3	(2)SI-003	4	石鏃	チャート	26.8	21.8	4.9	2.20	
第22500-4	21K-08	1	石鏃	チャート	18.1	15.6	3.6	0.88	
第22500-5	表面採集	1	石鏃	黒曜石	(21.8)	(16.2)	3.7	(0.78)	
第22500-6	25S-16	7	石鏃	安山岩	(20.1)	(15.1)	3.0	0.72	
第22500-7	25O-83	1	石鏃	チャート	15.6	3.3	2.9	0.44	
第22500-8	25S-36	1	石鏃	チャート	(17.9)	(13.1)	2.4	(0.37)	
第22500-9	(1)9トレンチ	1	石鏃	黒曜石	(20.6)	(13.8)	3.1	(0.60)	
第22500-10	23N-22	1b	石鏃	チャート	22.2	16.8	3.5	1.10	
第22500-11	24P-83	1	石鏃	チャート	(22.2)	14.7	3.6	(1.02)	
第22500-12	25W-52	6	石鏃	チャート	29.0	15.2	4.2	1.18	
第22500-13	25V-27	2	石鏃	ホルンフェルス	20.4	15.2	4.7	1.31	
第22500-14	25O-94	1	石鏃	チャート	18.9	16.8	3.2	1.01	
第22500-15	26U-42	2	石鏃	安山岩	(20.8)	(19.5)	2.7	(0.91)	
第22500-16	25V-05	2	石鏃	頁岩	(21.2)	(11.0)	5.2	(0.83)	
第22500-17	24S-97	1	石鏃	黒曜石	35.4	16.9	4.4	2.23	
第22500-18	25O-95	1	石鏃	チャート	19.4	2.5	4.6	0.74	
第22500-19	27O-73	2	石鏃	チャート	(18.4)	(3.3)	3.1	(0.53)	
第22500-20	26L-91	1	石鏃	黒曜石	17.1	13.7	2.9	0.51	
第22500-21	25S-43	1	石鏃	チャート	(19.8)	18.7	3.2	(1.36)	
第22500-22	19W-92	1	石鏃	チャート	(18.1)	14.2	2.8	(0.71)	
第22500-23	25S-17	2	石鏃	チャート	(16.2)	14.6	3.4	(0.82)	
第22500-24	25O-92	1	石鏃	チャート	(6.6)	4.4	(3.4)	(0.34)	
第22500-25	(2)SK-004	1	石鏃	チャート	27.3	17.7	2.5	0.98	
第22500-26	21K-08	1	石鏃	黒曜石	21.6	14.5	4.9	1.11	
第22500-27	25N-15	7	石鏃	黒曜石	23.2	18.1	4.5	1.42	
第22500-28	23M-10	1	石鏃	黒曜石	(14.5)	14.1	3.1	(0.52)	
第22500-29	25O-94	2	石鏃	チャート	(21.5)	(14.5)	2.9	(0.80)	
第22500-30	27L-75	16	石鏃	流紋岩	15.1	11.4	3.4	0.48	
第22500-31	15P-93	1	石鏃	チャート	26.1	15	5.3	1.63	
第22600-32	17P-46	2	有茎先端器	ホルンフェルス	40.1	16.4	4.8	2.37	
第22600-33	(2)SD-003	2	有茎先端器	チャート	(26.2)	15.4	3.9	(1.29)	
第22600-34	(3)Cトレンチ	1	有茎先端器	安山岩	24.0	12.8	4.8	0.99	
第22600-35	24D-47	2	石核	頁岩	35.3	32.4	14.0	10.57	
第22600-36	25V-25	2	石核	頁岩	36.1	33.2	20.1	35.27	
第22600-37	26T-75	2	礫石	石灰岩	(57.1)	(43.6)	(35.1)	(99.52)	何らかの打
第22600-38	15P-68	7	スタンピング石器	粗粒玄武岩	53.7	46.3	54.3	167.68	
第22600-39	(2)SI-009	15	礫石	砂岩	106.1	71.6	38.8	416.31	
第22600-40	(2)SI-007	21	礫石	砂岩	186.0	83.4	50.9	1096.69	
第22600-41	(2)SI-008	29	礫石	変成岩	(56.1)	(62.2)	(67.7)	(292.31)	被熱 円錐使用
第22600-42	26T-28	2	礫石	安山岩	102.7	40.3	30.3	201.99	
第22700-43	26T-78	2	礫石	砂岩	(91.9)	(55.2)	(45.6)	(320.42)	
第22700-44	26T-77	2	礫石	砂岩	(64.5)	(52.4)	(26.1)	(123.57)	
第22700-45	26T-66	2	礫石	砂岩	95.4	66.8	26.9	256.85	被熱
第22700-46	25U-54	2	礫石	凝灰岩	92.5	63.3	33.2	282.52	被熱 両面と側縁に使用痕
第22700-47	26T-77	2	礫石	安山岩	(65.3)	(50.1)	(46.2)	(218.97)	被熱
第22700-48	24U-78	2	礫石	砂岩	(106.3)	(71.4)	(35.8)	(362.38)	
第22700-49	26T-57	2	礫石	安山岩	(52.4)	(50.0)	(33.2)	(102.36)	被熱
第22700-50	(15) 表面採集	1	石鏃	多孔質安山岩	(173.0)	(224.0)	(49.0)	(2300.0)	被熱

第4節 古墳時代の遺構と遺物

概要

検出された遺構は、中期の堅穴住居跡8軒と堅穴状遺構1基である。堅穴住居跡群は、台地の南東から入り込む小支谷の谷頭周辺に小規模な集落を形成しており、後期へと継続しない短期的な小規模集落である点に特徴がある。堅穴住居跡の規模は、一辺5m～6mの方形の堅穴で、炉および貯蔵穴などの施設を伴っている。遺構に伴出した遺物は、堅穴の遺存が総じて悪いものの、複数の高杯などが出土しているほか、3軒の堅穴からは白玉が出土している。なお、各遺構から出土した土器の観察表を第96表に掲載した。

1 堅穴住居跡

(2) SI-001 (第228図、図版14・15・92)

24V-21・22・31・32グリッドに所在する。当該時期の東西に並ぶ堅穴住居跡群のほぼ中央で、北東約30mに(2)SI-007、南西約25mに(2)SI-009、南約30mに(2)SI-002がある。平面形は長方形である。主軸方向はN-50°-Wである。規模は長軸長4.10m、短軸長3.53mである。確認面からの深さは、北東辺と南東辺で0.18mであり、北西辺と南西辺は壁溝まで削平されている。壁溝は全周する。南東壁中央部には、壁溝から直角に延びる長さ74cm、幅20cm、深さ16cmの間仕切り溝がある。炉は北西壁に寄った位置にある。焼土の範囲が3か所見られ、堅穴住居跡の規模に比べて炉が大きいことから、作り替えが行われたと思われる。主柱穴はP1～P4で、P1は径22cm、深さ27cmである。P2は長径30cm、短径26cm、深さ18cmである。P3は長径43cm、短径34cm、深さ35cmである。P4は長径26cm、短径22cm、深さ25cmである。P1とP4がほぼ中央部にあり、桁行が短くなっている。南東壁寄りにP5の出入口ピットがあり、長径26cm、短径20cm、深さ30cmである。貯蔵穴と考えられるP6は東隅にあり、平面形は隅丸長方形で、長さ78cm、幅63cm、深さ35cmである。

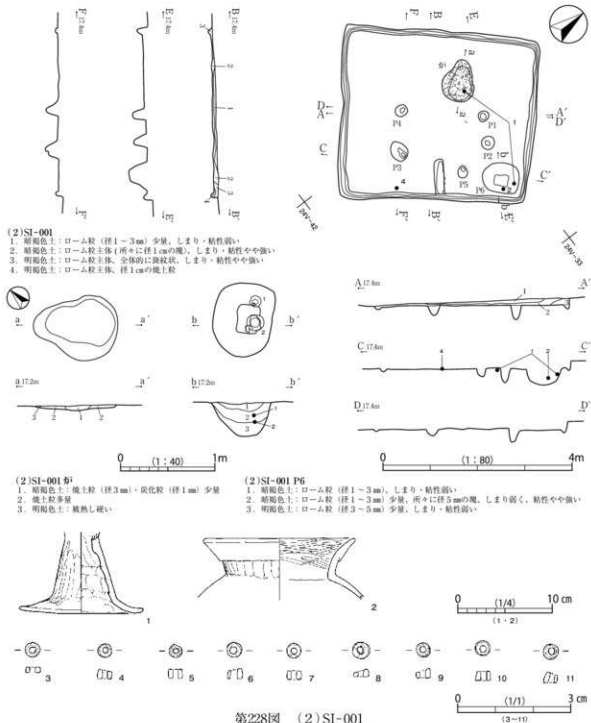
出土遺物の点数は20点ほどと少なく、小破片が多い。図示できたものは土器2点と白玉9点である。1・2は貯蔵穴内から出土し、1は炉跡内から出土した土器と接合している。3以外の白玉は覆土中で発見できたものである。

1は土師器高杯脚部である。ラッパ状に外反する屈曲脚で、脚柱部が「ハ」の字状に開き、裾部は強く屈曲して広がる。脚柱部内面に輪積痕が明瞭に残る。2は複合口縁の土師器壺で、口縁部内面には筋状のヘラ磨き痕が見られる。3～11は滑石製の白玉である。全て完成品であるが、表裏面が水平になっていないものが多い。最大径は3の4.4mmを除けば、全て3.3mm～4mmの間に収まる。最大厚は2mm未満のもの(3)、2mm～3mm未満のもの(4～10)、3mm～4mm未満のもの(11)に分けることができる。

出土土器から本堅穴の時期は、4世紀後葉と考えられる。

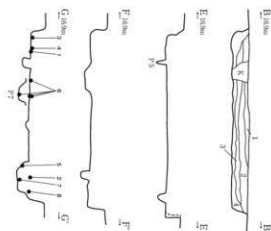
(2) SI-002 (第229・230図、図版15・92)

25V-03・04・12・13グリッドに所在する。当該時期の南北と東西に並ぶ堅穴住居跡群の内側で、北約30mに(2)SI-001、南西約25mに(2)SI-003がある。平面形は長方形である。主軸方向はN-68°-Wである。規模は長軸長4.38m、短軸長3.80mである。確認面からの深さは、北東辺と南東辺で0.31mであり、南隅周辺は確認トレンチによる検出作業で掘り過ぎてしまっている。壁溝は北東壁東側にだけ見られる。また、壁の中央部に壁溝から直角に延びる間仕切り溝が検出されており、長さ86cm、幅26cm、深さ2cmである。炉は北西壁に寄った位置にある。主柱穴はP1～P4で、P1は径20cm、深さ17cmである。P2は径22cm、深さ18cmである。P3は長径20cm、短径16cm、深さ17cmである。P4は長径16cm、短径10cm、深さ17cmであ



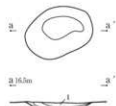
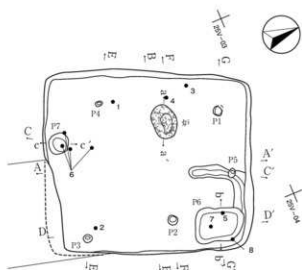
る。P2を除いていずれも隅に寄った位置にある。北東壁寄りの間仕切り溝の中にP5のピットがあり、長さ20cm、短径13cm、深さ9cmである。P6・P7は貯蔵穴で東隅と南西壁際にある。東隅のP6は貯蔵穴と考えられる。P6の平面形はやや歪んだ長方形で、長さ1.02m、幅0.76m、深さ26cmである。P7は、貯蔵穴の可能性あるほか入口のピットの可能性もある。平面形は円形で、径46cm、深さ23cmである。竪穴の覆土はローム粒を含んだ黒褐色土と暗褐色土である。

出土遺物の数量はさほど多くないが、図示できたものは土器8点で、そのほかは全て土師器甕の小破片



(2)SI-002

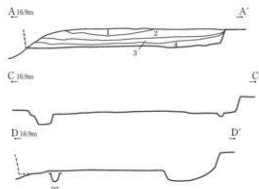
1. 黒褐色土：ローム粒中量、しまり・粘性弱い
2. 暗褐色土：ローム多量、しまり・粘性弱い
3. 黒褐色土：ローム多量、しまり・粘性あり
4. 暗褐色土：褐色土：ソフトローム多量、しまり・粘性あり



- (2)SI-002 P6
1. 暗褐色土：黄土・炭少量
 2. 暗褐色土：黄土多量、炭・粘土少量



0 (1:40) 1m



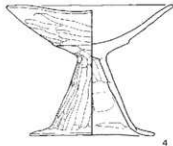
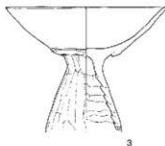
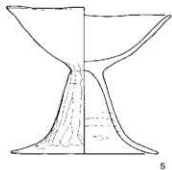
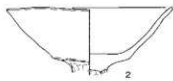
0 (1:80) 4m

(2)SI-002 P1

1. 褐色土：黄土中量
2. 赤褐色土：黄土主体
3. 褐色土：黄土多量

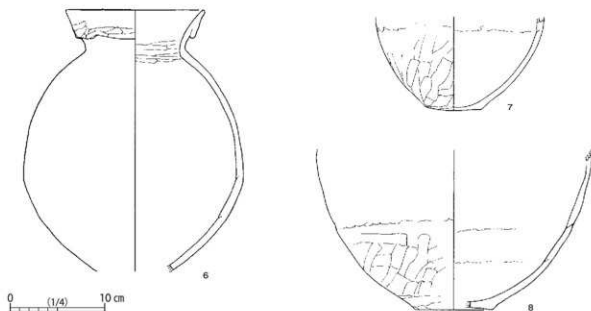
(2)SI-002 P7

1. 暗褐色土：粘性やや弱い
2. 暗褐色土：しまり・粘性弱い



0 (1/4) 10 cm

第229図 (2)SI-002(1)



第230図 (2)SI-002(2)

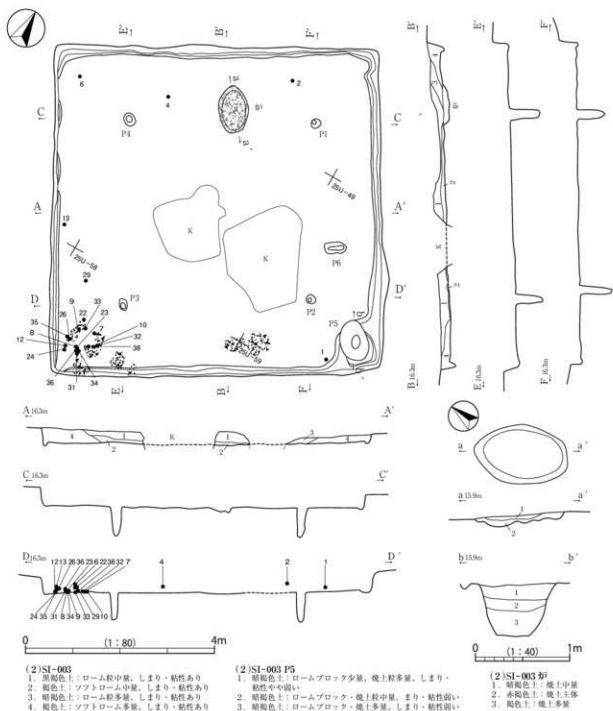
である。図示したものはいずれも床面あるいは貯蔵穴内から出土し、土師器埴や土師器高杯4・5は原形をとどめている。

1は土師器埴で、完形である。口縁部径が体部径より大きいもので、球形の体部から頸部で強く屈曲して口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部外面も含めて内外面は全てヘラナデ調整が施される。2～5は土師器高杯で、口縁部はいずれも口径が大きく、直線的に立ち上がる。2～4は杯部外面下端部に稜が作り出される。2は杯部だけである。口縁部内面の一部は被熱し、器表面がやや荒れている。3は裾部が欠損している。杯部外面下端部の稜は、ほかのものより強く作り出している。脚柱部は円柱状で、内面に輪積痕が明瞭に残る。4の脚部はラッパ状に外反する屈曲脚で、脚柱部が「ハ」の字状に開き、裾部は強く屈曲して広がる。5は杯部外面下端部に稜を作り出さず、口縁部は脚部との接合部分からわずかに内湾気味に立ち上がる。脚部はラッパ状に外反する屈曲脚で、脚柱部が「ハ」の字状に開き、裾部はやや緩やかに屈曲して広がる。脚部内外面の一部は被熱し、器表面がやや荒れている。6・7は土師器壺である。6は複合口縁壺で、底部が欠損している。口唇部端部と口縁部下端部は強いヘラナデにより面が作り出される。7は胴部下半から底部で、内外面ともにヘラナデ調整が施される。胴部中位の内外面に輪積痕が見られる。8は土師器甕で、胴部中から底部が遺存している。内外面ともにヘラナデ調整が施され、輪積痕が認められる。底部はやや上げ底である。

出土土器から本堅穴の時期は、4世紀後葉と考えられる。

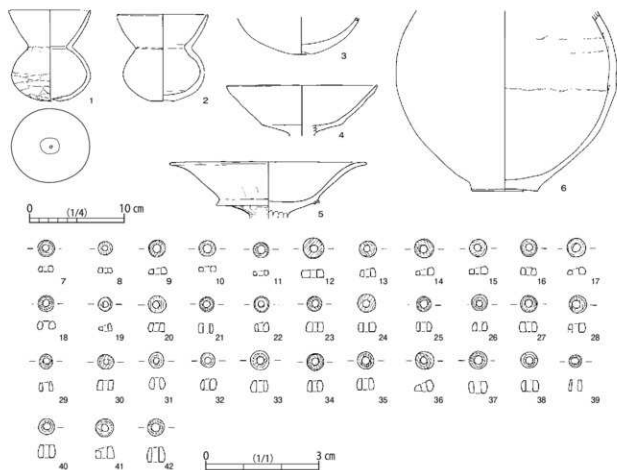
(2)SI-003(第231・232図、図版16・92・93)

25U・37・38・48・49・58・59グリッドに所在する。当該時期の南北に並ぶ堅穴住居跡群の南側で、北約25mに(2)SI-006、北西約25mに(2)SI-002、南約20mに(2)SI-008がある。平面形は方形である。主軸方向はN-29°-Wである。規模は長軸長6.96m、短軸長6.90mで、当該時期の堅穴住居跡群の中で最も規模が大きい。確認面からの深さは0.21mである。中央部に床面に2か所床面に達する掘乱を受けている。壁溝は南西壁の一部が途切れているが、ほぼ全周している。竈は北西壁に寄った位置にある。主柱穴



第231図 (2) SI-003(1)

はP1～P4で、P1は径20cm、深さ60cmである。P2は径20cm、深さ60cmである。P3は長径24cm、短径18cm、深さ55cmである。P4は長径30cm、短径24cm、深さ51cmである。P5は貯蔵穴と考えられ東隅に位置している。平面形は楕円形で、長さ84cm、幅58cm、深さ47cmである。貯蔵穴の周囲は一段低くなっており、壁溝と一体となっている。北東壁寄りのP6は長径48cm、短径22cm、深さ7cmで、位置的には出入口ピットの可能性がある。覆土は壁際と床面付近にローム粒を含んだ褐色土が堆積し、南東壁際に焼土がブロック状に堆



第232図 (2)SI-003(2)

積していた。

出土遺物の数量はさほど多くないが、図示できたものは土器6点と白玉36点である。そのほかは全て土師器甕・埴などの小破片である。土師器埴1・2はいずれも床面直上からはほぼ完形の状態出土した。白玉は14点は覆土中で検出したものであるが、そのほかの大部分は南隅からまとまって出土した。

1～3は土師器埴である。1・2は小形のもので、体部はやや扁平な球形で、口縁部よりも径が小さく、口縁部は頸部で強く屈曲してやや内湾気味に立ち上がる。1はほぼ完形で、口縁部のごく一部が半月形に欠損し、その破断面の状況は古い。体部最大径は8.3cmで、口径よりわずかに小さい。口縁部内外面と体部外面はヘラナデ調整、体部内面は指頭によるナデが施される。底部は上げ底で、外面から深く削り込んでいる。底部中央部には焼成後の穿孔がある。器面は内外面ともに被熱し、表面に剝離が見られる。2もほぼ完形で、口縁部の一部が欠損している。底部は平底で、体部最大径は8.6cmである。体部内面は指頭によるナデ、それ以外は全てヘラナデ調整が施される。3は大形のもので、体部最大径は13cm～14cmになると思われる。底部は小さく窪んでいる。内外面ともにヘラナデ調整が施される。4・5は土師器高杯で、いずれも杯部のみが遺存する。4は杯部外面下端部に稜を作り出し、口縁部は直線的に大きく開く。内外面ともに被熱し、器面がやや荒れている。5は杯部外面下端部が遺存していないが、接合面の状況から、貼り付け突帯が剥落している。口縁部は外反しながら大きく開く。6は土師器壺である。胴部は球形

で、最大径は23.3cmである。胴部外面はヘラケズリの後ヘラ磨き調整が施される。内面はヘラナデ調整で輪積痕が見られる。器面は内外面ともに荒れ、剥離が見られる。7～42は滑石製の白玉である。すべて完成品であるが、断面が台形のものが見られる。大きさでは、最大径は概ね4mm～5mmであるが、最大厚は2mm未満のもの(7～11)、2mm～3mm未満のもの(12～32)、3mm～4mm未満のもの(33～42)に分けることができる。

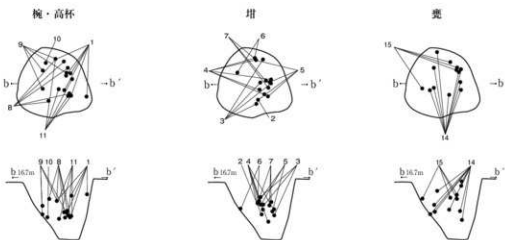
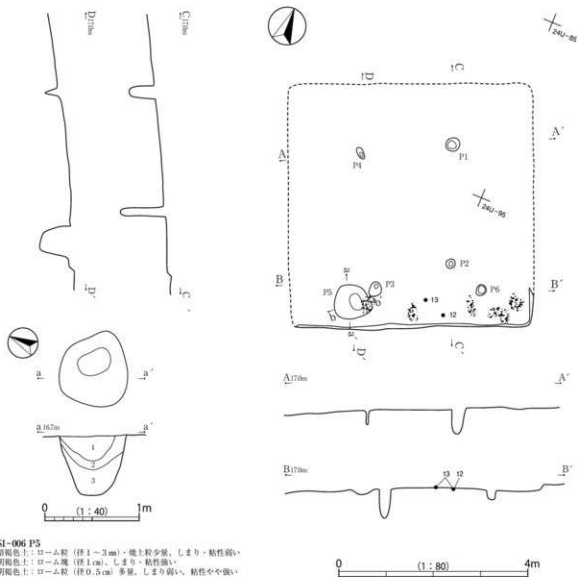
出土土器から本堅穴の時期は、5世紀前葉と考えられる。

(2) SI-006 (第233・234図、図版17・18・93)

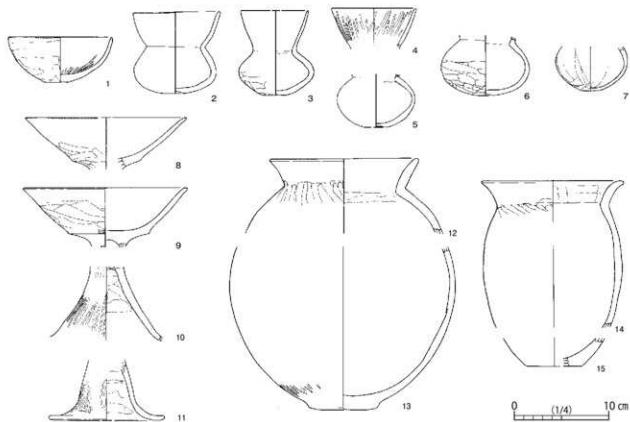
24U-83～85・94・95グリッドに所在する。当該時期の南北に並ぶ堅穴住居跡群のほぼ中央で、北約20mに(2)SI-009、南約25mに(2)SI-003がある。全体的に削平が著しく、わずかに南東壁と東隅を検出することができた。平面形は方形と考えられる。南東壁と主柱穴の位置などから主軸方向はN-22°-Wと想定した。規模は推定で一辺が5.16m、確認面からの深さ0.14mである。壁溝はない。炉は検出できなかったが、P1とP2、あるいはP1とP4の間にあったと思われる。主柱穴はP1～P4で、P1は径28cm、深さ45cmである。P2は径20cm、深さ90cmである。P3は長径32cm、短径24cm、深さ64cmである。P4は長径28cm、短径13cm、深さ31cmである。南東壁際の南隅に寄った位置にあるP5が貯蔵穴と考えられる。P5の平面形は台形で、長さ70cm、幅78cm、深さ56cmである。東隅近くにあるP6は、長径24cm、短径21cm、深さ20cmで、位置的には出入口ピットの可能性が考えられる。堅穴覆土は、削平が著しく堆積状況が記録できなかったが、南東壁際に焼土がブロック状に堆積していた。

出土遺物はそのほとんどがP5から出土している。図示できたものは土器11点で、土師器甕12以外はP5から出土したものである。P5から出土した遺物の垂直分布を見ると、底面より高い位置のものがほとんどで、意図的に廃棄されたと考えられる。

1は土師器椀である。底部は小さく、わずかに上げ底である。体部は内湾し、口縁部外面はヘラ状工具による面取りが行われている。内面には筋状のヘラ磨きが放射状に施される。2～7は土師器埴である。2はほぼ完形で、口縁部の一部が欠損している。体部は体部下半に最大径があるやや扁平な球形である。最大径は8.7cmで、口縁部径よりわずかに小さい。口縁部は頸部で強く屈曲してわずかに内湾気味に立ち上がる。内外面ともに丁寧なヘラ磨き調整が施されるが、被熱し器面がやや荒れている。3は体部がソロバン玉形である。最大径は8.0cmで、口縁部径より大きい。口縁部は頸部で強く屈曲してわずかに内湾気味に立ち上がる。体部下半部は被熱し、外面の器面がやや荒れている。4は口縁部で、内外面ともに筋状のヘラ磨きが施されているが、被熱し器面はやや荒れている。5～7は体部で、いずれも球形である。5は体部最大径8.2cmで、底部は小さく、わずかに上げ底である。外面は被熱し、器面がやや荒れている。6は体部最大径9.3cmで、底部は小さく、上げ底である。7は体部最大径7.6cmで、底部は小さく、平底である。外面の一部は被熱し、器面がやや荒れている。8～11は土師器高杯である。8・9は杯部で、いずれも杯部外面下端部に稜を作り出し、口縁部は直線的に大きく開く。9は外面の一部にハケ調整が残る。10・11は脚部で、10は裾部が遺存していないが、脚柱部が「ハ」の字状に開き、裾部が強く屈曲して広がると思われる。外面は筋状のヘラ磨き調整が施される。外面は被熱し、器面がやや荒れ、内面の器面は赤変している。11は脚柱部が中膨らみしている円柱状で、裾部が強く屈曲して広がると思われる。外面は筋状のヘラ磨きが施される。裾部内外面は被熱し、器面がやや荒れている。12～15は土師器甕である。12・13と14・15はいずれも口縁部と底部は接合していないが、同一個体と思われるものである。12は口縁



第233図 (2) SI-006 (1)



第234図 (2)SI-006(2)

部で、頸部で「く」の字状に強く屈曲する。13は球形の胴部で、最大径は胴部中央にあり、推定23.8cmである。底部はわずかに突出している。14は長胴で、胴部最大径14.7cmである。口縁部は頸部で屈曲し外反する。胴部内外面は被熱し器面が荒れている。15は底部である。

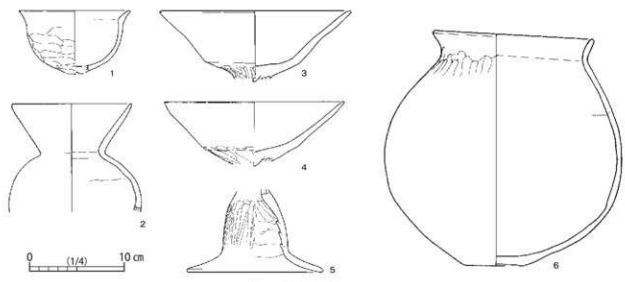
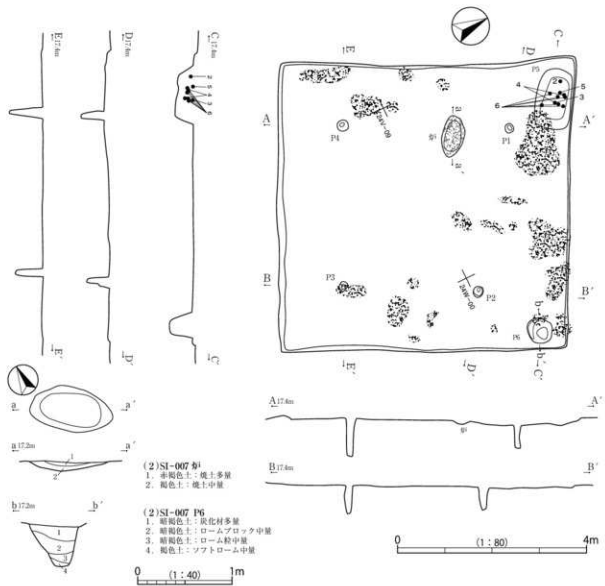
出土土器から本堅穴の時期は、5世紀中葉と考えられる。

(2)SI-007(第235図、図版17・18・93)

23V-98・99・23W-90・24W-00・24V-08・09グリッドに所在する。当該時期の東西に並ぶ堅穴住居跡群の東端で、西約30mに(2)SI-001、東約30mに(2)SK-004がある。平面形は方形である。主軸方向はN-64°-Wである。規模は長軸長6.20m、短軸長6.06m、確認面からの深さ0.08mである。壁溝はない。炉は北西壁に寄った位置にある。主柱穴はP1～P4で、P1は長径20cm、短径18cm、深さ49cmである。P2は長径23cm、短径20cm、深さ47cmである。P3は長径22cm、短径16cm、深さ58cmである。P4は径24cm、深さ82cmである。北隅のP5と東隅のP6は貯蔵穴と考えられる。P5の平面形は長方形で、長さ1.26m、幅0.73m、深さ0.34mである。P6の平面形は円形で、長径60cm、短径52cm、深さ47cmである。堅穴覆土の堆積状況は掘込みが浅く、記録できなかったが、床面近くには焼土がブロック状に堆積していた。

出土遺物は、P5からまとまって出土している。図示できたものは土器6点で、土師器碗1は一括資料、そのほかはP5から出土した。貯蔵穴内の垂直分布を見ると、全て底面より高い位置から出土していることから、意図的に廃棄されたと考えられる。

1は土師器碗である。底部が欠損しているが、底部は小さく、上げ底になると思われる。体部は内湾し、



第235図 (2) SI-007

口縁部は緩やかに外反する。2は土師器甕である。体部下半以下が欠損しているが、体部は球形になると思われる。最大径は体部にあり、推定14cmである。口縁部は頸部で強く屈曲して直線的に立ち上がる。口縁部内外面と体部外面はヘラ磨き調整が施されるが、体部外面の一部は被熱し、器面がやや荒れている。3～5は土師器高杯である。3・4は杯部で、いずれも杯部外面下端部に稜を作り出し、口縁部は直線的に大きく開く。いずれも脚柱天井部にホゾ状の粘土塊を充填している。3は内外面が被熱し、器面の剥落が著しい。5は脚部で、ラッパ状に外反する屈曲脚である。脚柱部は中膨らみした円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。脚柱部内面は輪積痕を明瞭に残し、天井部ホゾ穴状になっている。6は土師器甕である。胴部は球形で、口縁部は頸部で緩やかに屈曲し、短く外反する。最大径は胴部中央で、25.1cmである。胴部内面に輪積痕が残る。外面に一部にスズ状の付着物が見られる。

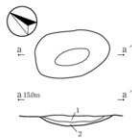
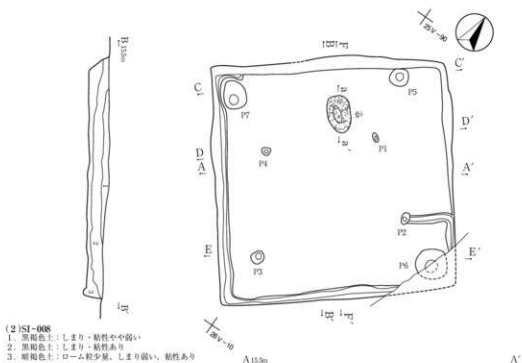
出土土器から本堅穴の時期は、5世紀中葉と考えられる。

(2) SI-008 (第236～238図、図版18・19・94・95)

25U-99・26U-09・25V-90・26V-00グリッドに所在する。当該時期の南北に並ぶ堅穴住居跡群の最南部で、北約20mに(2)SI-003がある。東隅とP6の貯蔵穴の一部は攪乱を受けている。平面形は方形である。主軸方向はN-38°-Wである。規模は長軸長5.20m、短軸長5.08m、確認面からの深さ0.40mである。壁溝は西隅から北東壁の一部まで巡る。北東壁の壁溝から直角に延びる間仕切り溝があり、長さ90cm、幅20cm、深さ2.3cmである。間仕切り溝の先には主柱穴P2がある。P2は北西壁に寄った位置にある。主柱穴はP1～P4で、P1は長径20cm、短径11cm、深さ7cmである。P2は長径26cm、短径18cm、深さ5cmである。P3は径26cm、深さ9cmである。P4は長径20cm、短径16cm、深さ6cmである。いずれも浅い主柱穴である。P6・P7は貯蔵穴と考えられ、P5は貯蔵穴の可能性もあるかもしれない。P5は北隅の壁際であり、平面形はほぼ円形で、長径42cm、短径38cm、深さ10cmである。P6は東隅にあり、平面形は隅丸の方形と思われる、推定径66cm、現存の深さ30cmである。P7は西隅にあり、平面形は楕円形で、長径62cm、短径46cm、深さ22cmである。いずれも、深さがほかの堅穴住居跡のものに比べると浅い。堅穴覆土は黒褐色土と暗褐色土で自然堆積と思われる。

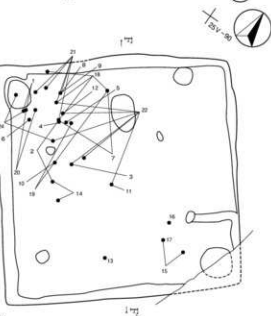
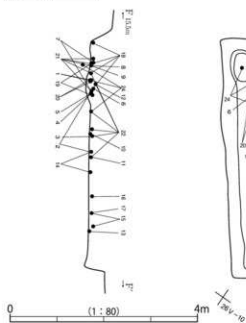
出土遺物は比較的多く出土し、図示できたものは土器24点で、当該時期の堅穴住居跡の中では最も多い。土師器甕1・5や土師器高杯6、土師器甕11のように完形に近い状態で出土したものもあるが、多くのものは破片の状態で出土している。平面分布では西隅から東隅にかけての場所に多く見られ、北隅にはほとんど見られない。また、接合状況は西隅のものと東隅のものが接合している状況が多く見られる。垂直分布では床面近くのものも多く、P7の中からは出土していない。

1～5は土師器甕で、1～3はやや大形、4・5は小形のものである。1～3はいずれも球形の胴部で、頸部で強く屈曲して、口縁部は直線的に開く。最大径はいずれも口縁部にある。1は胴部最大径が12cmで、底部はわずかに上げ底である。外面は被熱し、器面はやや荒れている。2は胴部最大径が11.5cmである。底部は上げ底で、かなり薄く仕上げている。3は胴部下半部から底部が欠損している。1・2に比べてやや器壁が厚く、口縁部端部はわずかに摘み上がる。胴部最大径は12.7cmである。胴部内面はヘラナデ及び指頭による押え調整が施される。4・5はいずれも球形の胴部で、頸部で強く屈曲して、口縁部は直線的に開く。最大径は口縁部にある。4は胴部最大径が7.4cmで、底部は平底である。頸部外面に筋状のヘラ磨き調整が施される。口唇部内面は強いヘラナデにより面を作り出している。5は胴部最大径が7.8cmである。底部は平底であるが、かなり薄く仕上げている。胴部内面に輪積痕が見られる。6～12は土師器

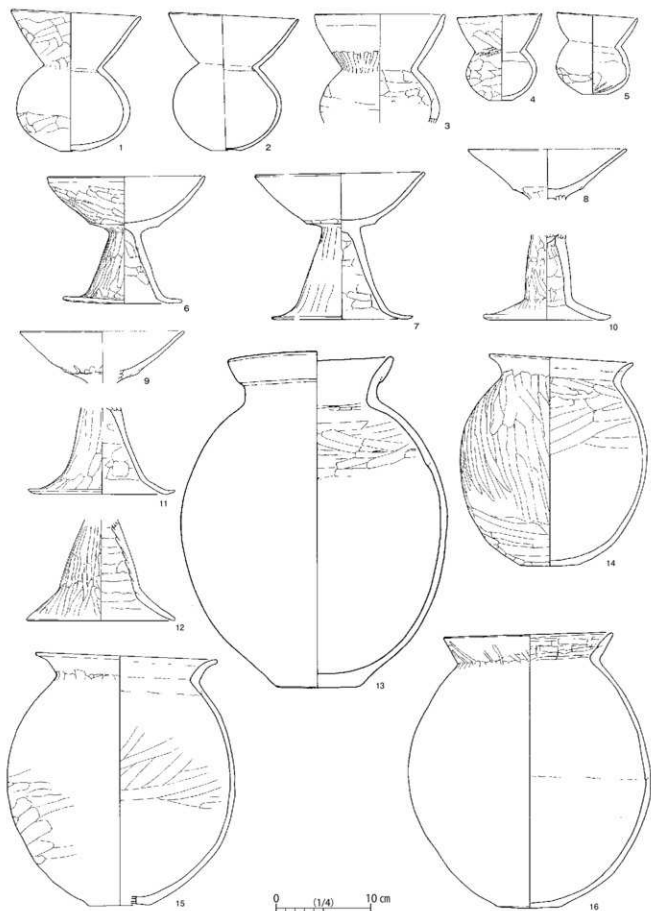


- (2) SI-008 91
 1. 赤褐色土：焼土主体
 2. 褐色土：焼土中層、炭化物少量

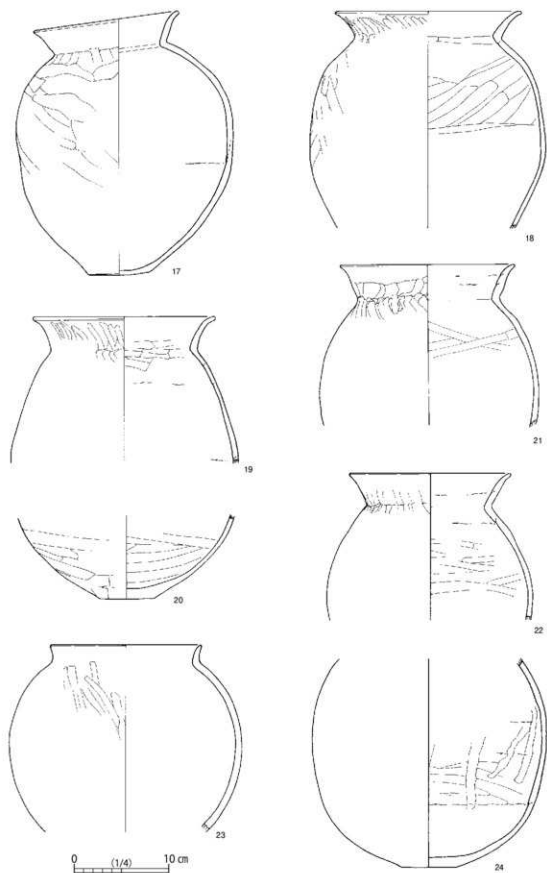
0 (1:40) 1m



第236図 (2) SI-008 (1)



第237图 (2) SI-008(2)



第238图 (2) SI-008(3)

高杯である。8・9は杯部、10～12は脚部で、胎土や色調などから全て別々の個体と思われる。杯部の下端に稜を作り出し、口縁部は大きく直線状に開く。脚部はラップ状に外反する屈曲脚である。6・7・11・12は脚柱部が「ハ」の字状に開き、裾部が強く屈曲して広がる。10は脚柱部が中膨らみした円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。6は杯部内面に部分的に筋状のヘラ磨きが施される。杯部と裾部には焼成時に生じたと思われる亀裂が見られる。7は外面が被熱し、器面がやや荒れている。8は内外面ともに被熱し、器面の剥離・摩滅が著しい。9は杯部下端部ヘラによる押さえの痕が見られる。内外面ともに被熱し、器面が荒れている。10は脚柱天井部にホゾ状の粘土塊を充填している。外面は被熱し、器面がやや荒れている。11は外面が被熱し、赤化している。12は内面に輪積痕を明瞭に残す。13～24は土師器である。23を除いて、いずれもやや長めの胴部で、最大径は胴部中位である。1は複合口縁で、頸部は強く屈曲する。胴部最大径は28.2cmである。全体的に被熱し、胴部内外面は器面の剥離が著しい。胴部外面の一部にはススの付着が見られる。14～19・21・22は口縁部が「く」の字状に外反する。14は胴部最大径が19.8cmで、外面の側面は被熱し、器面がやや荒れる。外面の一部にススの付着が見られる。15は胴部最大径が24cmで、底部は一部欠損しているが、上げ底になると思われる。16は胴部最大径が25.7cmで、口縁部は直線的である。口縁部外面に縦方向の筋状ヘラ磨きが施される。口縁部内外面に輪積痕が見られる。17は胴部最大径が22.9cmで、口縁部が水平ではなく、全体にやや不整形な器形である。胴部下半は被熱し、器面はやや荒れている。18は胴部最大径が24.9cmで、肩部内外面の一部にススの付着が見られる。19は胴部最大径が24.1cmで、外面は筋状のヘラ磨きが施される。20は胴部下半から底部で、接合しないが、19と同一個体と思われる。21は胴部最大径が23.1cmで、口縁部下半部にヘラナデ調整が施される。22は胴部最大径が21.8cmで、口縁部下半部にヘラナデ調整が施される。23は球形の胴部で、口縁部は短く立ち上がる。最大径は胴部で、24.6cmである。口縁部内面と外面は被熱し、器面がやや荒れている。24は口縁部が欠損する。胴部最大径は24.8cmである。外面にススの付着が見られる。

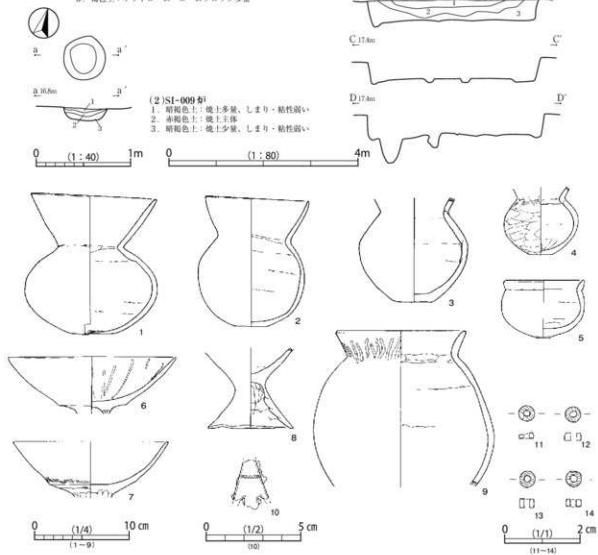
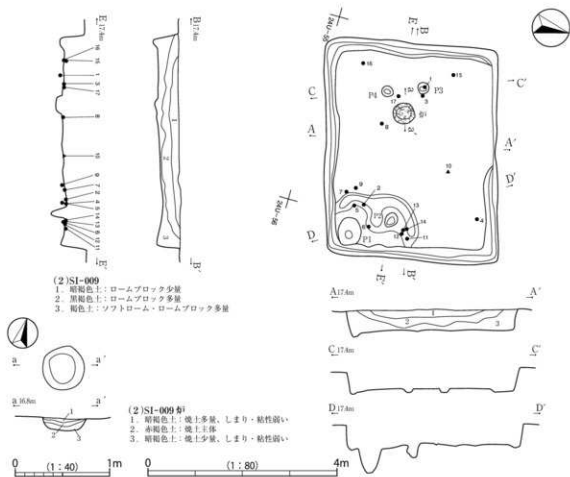
出土土器から本堅穴の時期は、5世紀中葉と考えられる。

2 堅穴状遺構

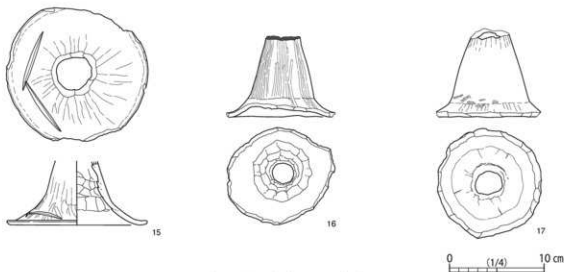
(2) SI-009 (第239・240図、図版19・20・96)

24U-45・46グリッドに所在する。当該時期の南北と東西に並ぶ堅穴住居跡群の接点部で、南約20mに(2)SI-006、東約25mに(2)SI-001が、また北西約70mに(4)SI-003が位置している。平面形は長方形を呈する。主軸方向はN-104°-Wで、規模は長軸長4.60m、短軸長3.60m、確認面からの深さ0.42mで遺存がよかった。壁溝は北西壁の西側半分を除いて巡っている。炉は南西壁寄りにあり、規模は小さいものの深さがありこの時期の一般的な炉とは異なっている。支柱穴と考えられるピットはなく、P1の貯蔵穴が東隅にある。貯蔵穴の平面形は楕円形で、長径58cm、短径48cm、深さ52cmである。P1の貯蔵穴寄りにP2の出入口ピットがあり、長径32cm、短径26cm、深さ30cmである。東隅周辺に床面より2cm～3cmのわずかな土手状の高まりがあり、P1の貯蔵穴とP2の出入口ピットを囲むように巡っている。堅穴内に降りる梯子から床に着地する際のステップ状の高まりと考えられる。炉の西側にP3・P4の小ピットがあり、いずれも径23cm、深さ8cmである。

出土遺物に高杯を転用した羽口が1点、羽口に転用目的で加工途中と考えられる高杯脚部2点が出土していること、堅穴の平面形が長方形を呈しており、一般的な堅穴と異なること、炉跡の径が小さいにもかかわらず深いことから鍛冶炉の可能性が高いことなどから、本堅穴が鍛冶関連の工房跡の可能性が考えら



第239図 (2) SI-009 (1)



第240図 (2)SI-009(2)

れる。土壌サンプルの採取をしていないため、鍛冶の証拠となる鍛造剥片や粒状滓は確認できていないが、隣接するP3・P4の近くから転用羽口が出土していることから、鍛冶炉に伴うフィグ施設に関連したビットの可能性が考えられる。堅穴覆土は褐色土・黒褐色土・暗褐色土の順に堆積し、最下層の褐色土中に焼土ブロックや遺物が多く含まれていた。

出土遺物はあまり多くはないが、図示できたものは土器9点、鉄製品1点、白玉4点、高杯の脚部を転用した羽口1点、高杯脚部を羽口に転用しようとした未製品2点がある。

1～4は土師器甕で、1～3はやや大形、4は小形のものである。1はやや扁平な球形の胴部で、頸部で強く屈曲して、口縁部は直線的に開く。最大径は胴部で、14cmである。頸部屈曲部には横方向に強く筋状ヘラ磨き調整が施される。底部は上げ底で薄く、焼成時の剥落で小さな孔が開いている。2・3はやや長胴の胴部で、3は口縁部が欠損しているが、2と同じ器形になると思われる。2は胴部最大径が11.2cmで、口縁部径とはほぼ同じである。口縁部は頸部でやや緩やかに屈曲し、内湾気味に立ち上がる。胴部内面は器面が荒れている。3は外面ハケ整形の後ヘラ磨き調整が施される。胴部内面は器面の剥離が著しい。

4は球形の胴部で、口縁部は頸部で強く屈曲して立ち上がる。外面はハケ整形の後ヘラナデ調整が施される。底部はわずかに上げ底である。5は土師器小形丸底甕である。胴部最大径は8.8cmで、口縁部径とはほぼ同じである。胴部は球形で、口縁部は肥厚し二重口縁のようになっている。胴部内外面は器面が荒れ、剥離が著しい。底部は磨滅している。6・7は土師器高杯の杯部で、下部に明瞭な稜を作り出し、口縁部は大きく直線的に開く。6は杯部内面に筋状のヘラ磨きが施される。7は杯部外面下部にハケ整形の痕が見られる。杯部内面は器面の剥離が著しい。8は小型の高杯で粗い作りである。脚部底面は磨滅して水平に加工調整されている。杯部内面は器面が荒れて、剥落が顕著で被熱による可能性が考えられる。9は土師器甕である。胴部はほぼ球形で、口縁部が「く」の字状に外反する。最大径は胴部で、19.1cmである。口縁部外面に筋状のヘラ磨きが施される。胴部内面は器面が荒れている。10は鉄鎌である。鎌身と茎部の一部が遺存する。逆刺部を有するものである。現存での鎌身長21mm、同茎部長6mm、同重さ1.92gである。工房での製品ないしは、素材の可能性もある。11～14は滑石製の白玉である。すべて完成品である。15～17は高杯脚部であるが、加工され羽口に転用されたもの、あるいは加工途中のものと考えられる。15は杯部との接合部に、粗い調整剥離が施されている。屈曲部外面に鉄器などを使用して切れ込みが2か所

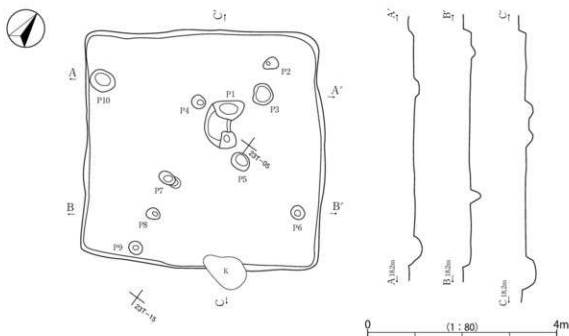
に入れられている。16・17のように裾部の調整を加える前の粗い分割作業として切れ込みが入れられたものと推測され、羽口転用の未製品と考えられる。16は裾部に細かい剥離が施されている。杯部との接合部にわずかだが溶変が認められ、転用後に実際に羽口として使用されたものと考えられる。17も裾部に細かい剥離が施されている。杯部との接合部は欠損しており、調整剥離を施して仕上げる段階なのか、あるいは転用後使用され欠損したのかは不明である。ただ、被熱の痕跡がほとんどみられないことから、加工途中の可能性の方が高いかもしれない。

出土土器から本壜穴の時期は、5世紀中葉と考えられる。

(4) SI-003 (第241図、図版20)

22T-94・95・23T-04・05グリッドに所在する。当該時期の南北と東西に並ぶ壜穴住居跡群から離れており、南東約70mに(2)SI-009がある。南東壁の一部は攪乱を受けている。平面形は方形である。主軸方向はN-36°-Wである。規模は長軸長5.04m、短軸長5.02m、確認面からの深さ0.14mである。壁溝と焔はない。ピットはいくつかあるが主柱穴と思われるものはない。P10は位置や大きさから貯蔵穴と考えられるが、焔や主柱穴がないことなどから断定することは難しい。ピットは10基ある。P1は2つのピットはつながったような形状で、全体としては長軸長1.0m、短軸長0.54mで、北側のピットが長径0.64m、短径0.40m、深さ0.14mで、南側のピットが長径0.33m、短径0.30m、深さ0.14mである。P2は長径33cm、短径27cmで、深さは記録がなく不明である。P3は長径44cm、短径42cmで、深さは記録がなく不明である。P4は長径32cm、短径26cm、深さ28cmである。P5は長径42cm、短径34cm、深さ14cmである。P6は長径30cm、短径28cm、深さ9cmである。P7は長径48cm、短径26cm、深さ24cmである。P8は長径31cm、短径23cm、深さ18cmである。P9は径28cm、深さ8cmである。P10は長径56cm、短径43cm、深さ27cmである。覆土は記録がなく不明である。

遺物は出土していないが、遺構の平面形から古墳時代中期の壜穴住居跡と考えられる。



第241図 (4)SI-003

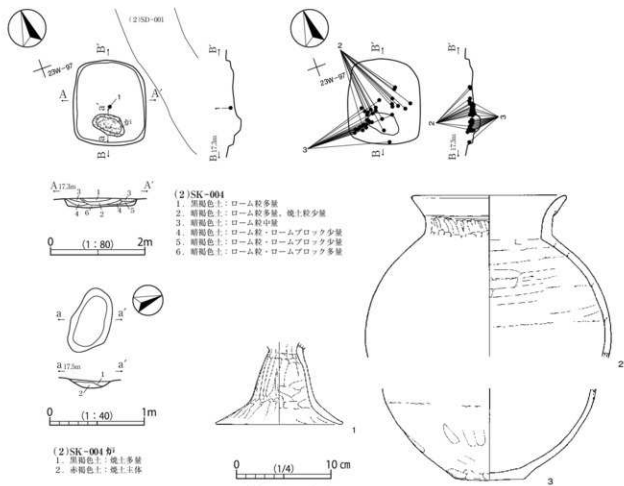
(2)SK-004(第242図、図版20・96)

23W-97グリッドに所在する。当該時期の東西に並ぶ堅穴住居跡群の東側で、西約30mに(2)SI-007がある。平面形は隅丸長方形である。主軸方向はN-15°-Eである。規模は長軸長3.62m、短軸長3.05m、確認面からの深さ0.38mである。南西壁寄りに炉がある。炉は短軸方向に並行して作られ、堅穴状遺構の規模と比べて大形である。壁溝や柱穴はない。堅穴覆土は暗褐色土が主体となり、上部に黒褐色土、最下部に褐色土が堆積する。

出土遺物の数量は50点ほどで、そのほとんどが図示した土器と接合した。図示できたものは土器3点である。出土遺物のほとんどが3点の土器と接合し、垂直分布が床面より少し高い位置であることから、本遺構の廃絶に伴って、まとめて廃棄したものと思われる。

1は土師器高杯脚部である。ラップ状に外反する屈曲脚で、脚柱部が中影らみした円柱状で、裾部は強く屈曲して広がる。脚柱部上端部はホゾ穴状になる。内外面ともに被熱し、器面はやや荒れている。2・3は土師器甕で、接合しないが同一個体と思われる。やや長い胴で、口縁部は複合口縁である。最大径は胴部で、26cmである。頸部外面に縦方向の筋状のヘラ磨きが施される。胴部下半部の内外面にススの付着が見られ、特に内面は著しい。

出土土器から本堅穴の時期は、5世紀中葉と考えられる。



第242図 (2)SK-004

第96表 古墳時代土器観察表

() 測定値 () 現在尺

碑号	造形	種類	器種	数量(個)	遺存度	胎土	色調・焼成	技法	備考
第2280号 -1	(2) SI-001	土師器	高杯	口径 - 底径 12.8 器高 <8.6>	脚部	白色砂粒・砂粒	内面 濃い黄褐色(10YR7/4) 外面 濃い黄褐色(10YR7/3) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 塗墨ナデ 外面 ヘラナデ	
第2280号 -2	(2) SI-001	土師器	甗	口径 15.9 底径 - 器高 <6.5>	口縁部・胴部	白色砂粒	内面 黄褐色(10YR7/6) 外面 褐色(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラ磨きヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	
第2290号 -1	(2) SI-002	土師器	甗	口径 9.6 底径 2.7 器高 8.7	100%	褐色砂粒・砂粒	内面 黄褐色(10YR8/6) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ	
第2290号 -2	(2) SI-002	土師器	高杯	口径 17.4 底径 - 器高 <7.2>	杯部	砂粒	内面 褐色(7.5YR6/6) 外面 褐色(5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 塗墨ナデ 外面 ヘラナデ	口縁部内面一部焼痕
第2290号 -3	(2) SI-002	土師器	高杯	口径 16.8 底径 - 器高 <13.2>	杯部・胴部	砂粒	内面 赤褐色(5YR5/6) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ヘラナデ	胴柱部内面輪痕が明瞭
第2290号 -4	(2) SI-002	土師器	高杯	口径 17.3 底径 13.2 器高 13.9	80%	赤色砂粒・砂粒	内面 赤褐色(5YR5/6) 外面 赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 塗墨ナデ 外面 ナデヘラナデ	
第2290号 -5	(2) SI-002	土師器	高杯	口径 17.2 底径 16.6 器高 15.7	90%	褐色砂粒・砂粒	内面 黄褐色(7.5YR5/6) 外面 黄褐色(10YR8/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	胴部内外面一部焼痕
第2300号 -6	(2) SI-002	土師器	甗	口径 14.2 底径 - 器高 <27.7>	口縁部・胴部下	褐色砂粒・砂粒	内面 濃い赤褐色(5YR4/3) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ	口縁部ヘラナデによる面取り
第2300号 -7	(2) SI-002	土師器	甗	口径 - 底径 5.8 器高 <9.9>	胴部下 一部	砂粒	内面 黄褐色(10YR8/6) 外面 黄褐色(10YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ヘラナデ	
第2300号 -8	(2) SI-002	土師器	甗	口径 - 底径 8(2) 器高 <16.9>	胴部下 一部	褐色砂粒・砂粒	内面 濃い褐色(7.5YR5/4) 外面 濃い黄褐色(10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	内外面輪痕
第2320号 -1	(2) SI-003	土師器	甗	口径 8.6 底径 2.0 器高 9.6	98%	白色砂粒多量	内面 黄褐色(7.5YR5/6) 外面 濃い黄褐色(7.5YR5/4) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	底部に焼成後の小孔 口縁部の一部欠失
第2320号 -2	(2) SI-003	土師器	甗	口径 9.5 底径 2.5 器高 9.2	95%	白色砂粒	内面 濃い赤褐色(7.5YR6/2) 外面 濃い赤褐色(7.5YR6/2) 焼成 良好	内面 ナデヘラ磨きヘラナデ 外面 ナデナデヘラ磨き	口縁部一部欠失
第2320号 -3	(2) SI-003	土師器	甗	口径 - 底径 1.8 器高 <3.9>	胴部下 一部	白色砂粒・小礫	内面 灰褐色(10YR4/7) 外面 濃い赤褐色(10YR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	
第2320号 -4	(2) SI-003	土師器	高杯	口径 15.9 底径 - 器高 (5.3)	杯部	石葉状・赤色砂粒・白色砂粒	内面 赤褐色(5YR5/6) 外面 赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	内外面焼痕・器面ややえられる
第2320号 -5	(2) SI-003	土師器	高杯	口径 (20.9) 底径 - 器高 (6.1)	杯部	石葉状・白色砂粒	内面 灰褐色(7.5YR4/2) 外面 黒褐色(7.5YR3/1) 焼成 良好	内面 ヘラ磨き 外面 ナデヘラ磨きヘラナデ	唇は接合部で割離
第2320号 -6	(2) SI-003	土師器	甗	口径 6.8 底径 <19.0> 器高 10.8	胴部・底	石葉状・砂粒	内面 黄褐色(7.5YR5/2) 外面 赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ磨きヘラ磨き	内外面割離
第2340号 -1	(2) SI-006	土師器	甗	口径 10.4 底径 2.3 器高 4.8	75%	砂粒	内面 褐色(5YR6/6) 外面 濃い赤褐色(7.5YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデナデ 放射状ヘラ磨き 外面 ナデヘラナデ	口縁部ヘラナデによる面取り
第2340号 -2	(2) SI-006	土師器	甗	口径 9.2 底径 1.9 器高 8.7	100%	砂粒	内面 褐色(7.5YR6/6) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外部内面焼痕・器面ややえられる
第2340号 -3	(2) SI-006	土師器	甗	口径 7.0 底径 2.0 器高 9.0	50%	褐色砂粒・砂粒多量	内面 褐色(7.5YR6/6) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外部内面下半部焼痕・器面ややえられる
第2340号 -4	(2) SI-006	土師器	甗	口径 8.8 底径 - 器高 <4.3>	口縁部	褐色砂粒・砂粒	内面 褐色(7.5YR6/6) 外面 褐色(7.5YR6/6) 焼成 良好	内面 筋状ヘラ磨き 外面 筋状ヘラ磨き	内外面焼痕・器面ややえられる
第2340号 -5	(2) SI-006	土師器	甗	口径 17.2 底径 (2.2) 器高 <5.6>	胴部・底	褐色砂粒・砂粒	内面 濃い黄褐色(10YR5/3) 外面 褐色(7.5YR7/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外部内面焼痕・器面ややえられる
第2340号 -6	(2) SI-006	土師器	甗	口径 - 底径 1.4 器高 <6.4>	胴部・底	褐色砂粒・砂粒	内面 褐色(5YR6/6) 外面 濃い赤褐色(7.5YR7/3) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	
第2340号 -7	(2) SI-006	土師器	甗	口径 - 底径 2.0 器高 <4.7>	胴部・底	褐色砂粒・砂粒	内面 黒色(N2/1) 外面 濃い黄褐色(10YR5/3) 焼成 良好	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外部一部焼痕・器面ややえられる
第2340号 -8	(2) SI-006	土師器	高杯	口径 116.9 底径 - 器高 <5.5>	杯部	褐色砂粒・砂粒	内面 濃い黄褐色(10YR6/4) 外面 黄褐色(10YR6/6) 焼成 良好	内面 ナデヘラ磨き 外面 ナデヘラナデ	
第2340号 -9	(2) SI-006	土師器	高杯	口径 17.2 底径 - 器高 <6.4>	杯部	褐色砂粒・砂粒	内面 褐色(7.5YR6/6) 外面 濃い赤褐色(7.5YR6/4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデナデ	
第2340号 -10	(2) SI-006	土師器	高杯	口径 - 底径 - 器高 <7.7>	胴柱部	砂粒・小礫	内面 赤褐色(5YR5/6) 外面 赤褐色(5YR5/6) 焼成 良好	内面 ナデ 筋面ナデ付け 外面 筋状ヘラ磨き	外部焼痕・器面ややえられる 内面焼痕・筋面赤褐色

練り番号	造柄	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	造寸度	胎土	色調・焼成	技法	備考
第2307	(2)	土師器	高杯	口径 -	底径 (12.1)	器高 <6.5>	脚部	砂粒	内面 褐色 (7.5YR6-6) 外面 明黄褐色 (10YR5-6)	内面 ナデヘラナデ 外面 筋状ヘラ磨き ナデ	器部内外面被熱し器面や穴 見れる
第2308	(2)	土師器	蓋	口径 -	底径 15.4	器高 -	口縁部- 脚部	砂粒	内面 にぶい褐色 (7.5YR7-4) 外面 明黄褐色 (10YR4-2)	内面 ナデ 外面 ナデヘラナデ	13と同一体
第2309	(2)	土師器	蓋	口径 -	底径 (7.1)	器高 (18.2)	胴部-底 部	砂粒	内面 にぶい褐色 (7.5YR7-4) 外面 明黄褐色 (10YR4-2)	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ一部筋状ヘラ磨き	12と同一体
第2310	(2)	土師器	蓋	口径 14.8	底径 (8.0)	器高 <15.5>	口縁部- 胴部下 手	褐色砂粒・雲母 粒・砂粒	内面 浅黄褐色 (7.5YR6-6) 外面 黄褐色 (7.5YR7-3)	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラ磨き	15と同一体
第2311	(2)	土師器	蓋	口径 -	底径 -	器高 <3.0>	胴部下 手	褐色砂粒・雲母 粒・砂粒	内面 浅黄褐色 (7.5YR6-6) 外面 黄褐色 (7.5YR7-3)	内面 ヘラナデ 外面 ヘラ磨き	14と同一体
第2312	(2)	土師器	小形丸 底蓋	口径 (11.1)	底径 (6.6)	器高 12.5	口縁部- 胴部下 手	赤色砂粒・白色 砂粒	内面 にぶい黄褐色 (10YR7-3) 外面 にぶい黄褐色 (10YR6-3)	内面 ナデヘラナデ 外面 ヘラ磨き	
第2313	(2)	土師器	用	口径 -	底径 22.5	器高 <11.5>	口縁部- 胴部中 位	赤色砂粒・白色 砂粒・砂粒	内面 褐色 (5YR6-6) 外面 褐色 (5YR6-6)	内面 ヘラ磨きヘラナデ 外面 ナデヘラ磨き	外面一部被熱し、器面や穴 見れる
第2314	(2)	土師器	高杯	口径 20.2	底径 -	器高 <7.3>	杯部	砂粒・砂粒	内面 褐色 (5YR6-6) 外面 褐色 (5YR6-6)	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨き	内外面被熱し、器面磨きし い
第2315	(2)	土師器	高杯	口径 19.0	底径 -	器高 <6.8>	杯部	赤色砂粒・白色 砂粒	内面 にぶい赤褐色 (5YR5-4) 外面 にぶい赤褐色 (5YR5-4)	内面 ヘラ磨き 外面 ヘラ磨きヘラナデ	
第2316	(2)	土師器	高杯	口径 -	底径 14.4	器高 <8.8>	脚部	赤色砂粒・白色 砂粒	内面 褐色 (5YR6-6) 外面 にぶい褐色 (7.5YR5-4)	内面 ナデ 外面 ヘラナデ	
第2317	(2)	土師器	蓋	口径 16.5	底径 6.0	器高 24.5	85%	白色砂粒・砂粒	内面 褐色 (5YR6-6) 外面 褐色 (7.5YR6-6)	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外面の一部スス付着 内面輪軸痕
第2318	(2)	土師器	用	口径 13.7	底径 2.4	器高 14.7	90%	白色砂粒多量	内面 明赤褐色 (2.5YR5-6) 外面 明赤褐色 (2.5YR5-6)	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外面被熱し、器面や穴見れる
第2319	(2)	土師器	用	口径 13.7	底径 3.2	器高 14.3	80%	白色砂粒多量	内面 にぶい褐色 (5YR6-4) 外面 にぶい赤褐色 (2.5YR5-4)	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ	
第2320	(2)	土師器	用	口径 13.5	底径 -	器高 <11.4>	口縁部- 胴部	小塵	内面 褐色 (2.5YR6-6) 外面 褐色 (2.5YR6-6)	内面 ナデヘラナデ 筋線による 押入 外面 ナデヘラ磨きヘラナデ	
第2321	(2)	土師器	用	口径 9.1	底径 2.4	器高 9.0	75%	白色砂粒	内面 にぶい褐色 (2.5YR6-4) 外面 にぶい褐色 (2.5YR6-4)	内面 ヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	口唇部内側ヘラナデによる面 取り
第2322	(2)	土師器	用	口径 8.5	底径 2.5	器高 8.4	100%	白色砂粒多量、 小塵	内面 にぶい褐色 (2.5YR6-4) 外面 褐色 (2.5YR6-6)	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ	内面輪軸痕
第2323	(2)	土師器	高杯	口径 16.6	底径 12.6	器高 17.8	90%	白色砂粒	内面 にぶい褐色 (5YR6-4) 外面 にぶい褐色 (5YR6-4)	内面 ナデ 外面 ナデヘラナデ	口縁部・胴部に焼成時に生じ た亀裂
第2324	(2)	土師器	高杯	口径 17.0	底径 11.0	器高 15.5	40%	赤色砂粒・白色 砂粒多量	内面 灰赤色 (2.5YR4-2) 外面 明赤褐色 (2.5YR5-6)	内面 ヘラ磨きヘラナデナデ 外面 ヘラナデナデ	被熱し、外面器面や穴見れる
第2325	(2)	土師器	高杯	口径 11.6	底径 -	器高 <5.3>	杯部	褐色砂粒・砂粒 多量	内面 褐色 (5YR6-6) 外面 褐色 (5YR6-6)	内面 - 外面 -	内外面被熱し、器面見れる
第2326	(2)	土師器	高杯	口径 17.2	底径 -	器高 <5.5>	杯部	褐色砂粒・砂粒	内面 褐色 (7.5YR6-6) 外面 にぶい褐色 (7.5YR6-4)	内面 - 外面 -	内外面被熱し、器面見れる
第2327	(2)	土師器	高杯	口径 -	底径 13.5	器高 <9.0>	脚部	褐色砂粒・砂粒	内面 明褐色 (2.5YR5-6) 外面 明褐色 (2.5YR5-6)	内面 筋線ナデ付け ナデ 外面 ヘラナデナデ	被熱し、部分的に器面や穴 見れる
第2328	(2)	土師器	高杯	口径 15.6	底径 10.6	器高 <9.2>	脚部	褐色砂粒・砂粒	内面 褐色 (7.5YR6-6) 外面 明赤褐色 (5YR5-6)	内面 ヘラナデナデ 外面 ヘラナデナデ	被熱し、外面赤化
第2329	(2)	土師器	高杯	口径 -	底径 15.4	器高 <10.7>	脚部	砂粒	内面 褐色 (5YR6-6) 外面 褐色 (5YR6-6)	内面 筋線押入 ナデ 外面 ヘラナデナデ	器口部内面輪軸痕明瞭
第2330	(2)	土師器	蓋	口径 17.5	底径 9.0	器高 35.4	80%	小石・石英粒・ 砂粒	内面 明褐色 (7.5YR5-6) 外面 褐色 (7.5YR6-6)	内面 ヘラ磨きヘラナデ 外面 ヘラナデ	全体の被熱し、器面見れ、 筋線が美しい
第2331	(2)	土師器	蓋	口径 15.3	底径 6.4	器高 22.3	95%	小石・赤石・砂 粒	内面 明赤褐色 (5YR5-6) 外面 褐色 (5YR6-6)	内面 ナデヘラナデ 外面 ナデヘラナデ	外面一部被熱し、器面や 穴見れる
第2332	(2)	土師器	蓋	口径 -	底径 -	器高 -			内面 褐色 (5YR6-6) 外面 褐色 (5YR6-6)	内面 ナデ 外面 ナデ	外面部分的にスス付着

種別番号	造柄	種類	器種	口径 底径 器高	容量(cm)	造作度	胎土	色調・焼成	技法	備考			
第2370 -15	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	190	85%	白美砂・砂粒多量	内面	褐色(25YR6/6)	内面	ナデヘラナデ		
				底径	96.4			外面	明赤褐色(25YR5/8)	外面	ナデヘラ割り		
第2370 -16	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	179	90%	白色砂粒・砂粒	内面	褐色(7.5YR6/6)	内面	ヘラ磨き・ヘラナデ	外面・器面は熟焼し、器面や中央部も	
				底径	70			外面	褐色(7.5YR6/6)	外面	ヘラ磨き・ヘラナデ		
第2380 -17	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	152	85%	白色砂粒	内面	赤褐色(2.5YR2/1)	内面	ナデヘラナデ	胴部下半部熟焼し、器面や中央部も	
				底径	6.4			外面	明赤褐色(2.5YR5/6)	外面	ナデヘラ割り		
第2380 -18	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	27.0	-	口縁部-胴部	内面	明赤褐色(5YR5/6)	内面	ナデヘラナデ	胴部内外面スス付着	
				底径	-			外面	明赤褐色(5YR5/6)	外面	ナデヘラナデ		
第2380 -19	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	139.4	-	口縁部-胴部	内面	褐色(5YR6/6)	内面	ナデヘラナデ	20と同一体	
				底径	-			外面	赤褐色(5YR4/6)	外面	ヘラナデ・ヘラ磨き		
第2380 -20	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	-	-	胴部-底部	内面	褐色(5YR6/6)	内面	ナデヘラナデ	19と同一体	
				底径	5.8			外面	赤褐色(5YR4/6)	外面	ヘラナデ		
第2380 -21	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	18.2	-	口縁部-胴部	赤色砂粒多量・白色砂粒	内面	褐色(5YR6/6)	内面	ナデヘラナデ	
				底径	-			外面	赤褐色(2.5YR5/6)	外面	ナデヘラナデ		
第2380 -22	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	16.8	-	口縁部-胴部	赤色砂粒・白色砂粒	内面	褐色(2.5YR6/6)	内面	ナデヘラナデ	
				底径	-			外面	褐色(2.5YR6/6)	外面	ナデヘラナデ		
第2380 -23	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	16.0	-	口縁部-胴部下半	小礫・石美砂・赤色砂粒	内面	褐色(5YR6/6)	内面	ナデヘラナデ	外面・口縁部内面熟焼し、器面や中央部も
				底径	-			外面	にぶい赤褐色(10YR6/3)	外面	ナデヘラナデ		
第2380 -24	(2)	SI-008	土師器 甕	口径	-	-	胴部	石美砂・小石	内面	明褐色(7.5YR5/6)	内面	ヘラナデ	外面スス付着
				底径	6.0			外面	明赤褐色(5YR5/6)	外面	ヘラナデ		
第2390 -1	(2)	SI-009	土師器 埴	口径	113.3	85%	小礫・石美砂	内面	暗褐色(7.5YR5/6)	内面	ヘラ磨き・ナデ	底部に整形不備による小孔	
				底径	4.2			外面	暗褐色(7.5YR5/6)	外面	ヘラ磨き		
第2390 -2	(2)	SI-009	土師器 埴	口径	11.0	95%	白色・黒色砂粒	内面	明赤褐色(5YR5/6)	内面	ヘラ磨き	器面内面の器面が見える	
				底径	3.5			外面	明赤褐色(2.5YR5/6)	外面	ヘラナデ		
第2390 -3	(2)	SI-009	土師器 埴	口径	-	-	胴部-底部	白色砂粒	内面	褐色(2.5YR6/6)	内面	ヘラ磨き・ヘラナデ	
				底径	3.8			外面	褐色(5YR6/6)	外面	ハケ磨き・ヘラ磨き		
第2390 -4	(2)	SI-009	土師器 埴	口径	-	-	胴部	白色砂粒	内面	灰黄褐色(10YR4/2)	内面	ヘラナデ	
				底径	3.3			外面	にぶい褐色(10YR5/4)	外面	ヘラナデ		
第2390 -5	(2)	SI-009	土師器 小形丸底甕	口径	8.6	95%	小石・白色砂粒	内面	褐色(7.5YR6/6)	内面	ヘラナデ	内外表面面熟焼し、調整が難しい	
				底径	11.4			外面	褐色(5YR6/8)	外面	ヘラ磨き		
第2390 -6	(2)	SI-009	土師器 高杯	口径	17.8	-	杯部	白色砂粒・砂粒	内面	明赤褐色(2.5YR5/6)	内面	ヘラナデ・ヘラ磨き	
				底径	-			外面	褐色(5YR6/6)	外面	ヘラナデ		
第2390 -7	(2)	SI-009	土師器 高杯	口径	16.4	-	杯部	石美砂・白色砂粒	内面	明赤褐色(2.5YR5/6)	内面	ヘラ磨き	
				底径	-			外面	明赤褐色(2.5YR5/6)	外面	ハケ磨き・ヘラ磨き		
第2390 -8	(2)	SI-009	土師器 高杯	口径	-	-	杯部下半-脚柱部	小石・白色・黒色砂粒	内面	褐色(7.5YR7/6)	内面	ヘラ磨き・指調ナデ	杯部・胴部は縦断面部分で再作
				底径	4.2			外面	褐色(7.5YR7/6)	外面	ヘラナデ		
第2390 -9	(2)	SI-009	土師器 甕	口径	13.8	60%	小石・白色砂粒多量	内面	明赤褐色(5YR5/6)	内面	ナデヘラナデ	胴部内面は器面が見え、ざらつく	
				底径	-			外面	明赤褐色(5YR5/8)	外面	ヘラ磨き		
第2400 -15	(2)	SI-009	土師器 高杯	口径	-	-	脚部	白色砂粒	内面	灰褐色(7.5YR4/2)	内面	指調押え・ナデ	胴部内面砥石として使用(使用後2条)
				底径	14.8			外面	黒褐色(7.5YR3/1)	外面	ヘラナデ		
第2400 -16	(2)	SI-009	土師器 高杯	口径	-	-	脚部	白色砂粒	内面	にぶい褐色(7.5YR6/6)	内面	指調ナデ・ハケ整形	口口として転用
				底径	-			外面	褐色(5YR6/6)	外面	ハケ整形後ヘラ磨き		
第2400 -17	(2)	SI-009	土師器 高杯	口径	-	-	脚部	白色砂粒	内面	明赤褐色(10YR2/6)	内面	指調ナデ・ヘラナデ・ナデ	口口として転用
				底径	-			外面	褐色(7.5YR6/6)	外面	ハケ整形後ヘラ磨き		
第2420 -1	(2)	SI-004	土師器 高杯	口径	-	-	胴部	黒色小石・白色砂粒	内面	にぶい赤褐色(10YR6/3)	内面	指調ナデ・ヘラナデ	内外面熟焼し、器面や中央部も
				底径	13.5			外面	にぶい赤褐色(10YR6/4)	外面	ヘラナデ		
第2420 -2	(2)	SK-001	土師器 甕	口径	-	-	口縁部-胴部	小石・石美砂	内面	明赤褐色(5YR5/6)	内面	ナデヘラナデ・ヘラ磨き	口縁部上部・胴部外面にスス付着
				底径	-			外面	明赤褐色(5YR5/6)	外面	ナデヘラナデ		
第2420 -3	(2)	SI-001	土師器 甕	口径	-	-	胴部-底部	石美砂	内面	灰褐色(5YR3/1)	内面	ヘラナデ	胴部下半-底部スス付着調整
				底径	7.4			外面	にぶい赤褐色(5YR4/4)	外面	ヘラナデ・ヘラ磨き		

第97表 古墳時代石製品属性表

神宮番号	調査回数	出土位置	注記番号	器種	石材	最大径 (mm)	孔径 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第228図-3	2	SI-001	36-7	白玉	滑石	4.4	1.3	1.5	0.04	覆土
第228図-4	2	SI-001	16	白玉	滑石	3.5	1.0	2.1	0.04	床直
第228図-5	2	SI-001	36-1	白玉	滑石	3.3	1.1	2.2	0.05	覆土
第228図-6	2	SI-001	36-5	白玉	滑石	3.7	1.7	2.2	0.06	覆土
第228図-7	2	SI-001	36-2	白玉	滑石	4.0	1.3	2.3	0.06	覆土
第228図-8	2	SI-001	36-6	白玉	滑石	3.9	1.2	2.3	0.05	覆土
第228図-9	2	SI-001	36-8	白玉	滑石	3.9	1.4	2.3	0.04	覆土
第228図-10	2	SI-001	36-3	白玉	滑石	4.0	1.5	2.5	0.07	覆土
第228図-11	2	SI-001	36-4	白玉	滑石	4.0	1.2	3.0	0.07	覆土
第232図-7	2	SI-003	7	白玉	滑石	4.5	1.6	1.5	0.05	床直
第232図-8	2	SI-003	8	白玉	滑石	3.6	1.1	1.6	0.03	床直
第232図-9	2	SI-003	22	白玉	滑石	4.4	2.0	1.7	0.04	床直
第232図-10	2	SI-003	26	白玉	滑石	4.2	1.8	1.4	0.04	床直
第232図-11	2	SI-003	32-8	白玉	滑石	3.9	1.9	1.6	0.03	覆土
第232図-12	2	SI-003	13	白玉	滑石	3.4	1.8	2.0	0.09	覆土
第232図-13	2	SI-003	16	白玉	滑石	4.2	1.9	2.0	0.06	覆土
第232図-14	2	SI-003	27	白玉	滑石	5.1	2.0	2.0	0.05	如覆土内一括
第232図-15	2	SI-003	31	白玉	滑石	4.5	1.8	2.0	0.06	床直一括
第232図-16	2	SI-003	32-14	白玉	滑石	4.4	1.8	2.0	0.05	覆土
第232図-17	2	SI-003	30	白玉	滑石	5.0	1.8	2.1	0.07	床直一括
第232図-18	2	SI-003	32-1	白玉	滑石	4.3	1.8	2.1	0.05	覆土
第232図-19	2	SI-003	32-9	白玉	滑石	3.7	1.2	2.2	0.03	覆土
第232図-20	2	SI-003	32-6	白玉	滑石	4.5	1.8	2.3	0.08	覆土
第232図-21	2	SI-003	32-11	白玉	滑石	3.9	1.8	2.3	0.05	覆土
第232図-22	2	SI-003	6	白玉	滑石	4.4	1.8	2.4	0.07	覆土
第232図-23	2	SI-003	11	白玉	滑石	4.0	1.2	2.4	0.06	床直
第232図-24	2	SI-003	15	白玉	滑石	4.8	1.3	2.4	0.08	床直
第232図-25	2	SI-003	32-3	白玉	滑石	4.2	1.9	2.4	0.06	覆土
第232図-26	2	SI-003	23	白玉	滑石	4.0	1.1	2.5	0.06	床直
第232図-27	2	SI-003	32-2	白玉	滑石	4.5	1.7	2.5	0.08	覆土
第232図-28	2	SI-003	32-13	白玉	滑石	4.7	1.8	2.5	0.07	覆土
第232図-29	2	SI-003	5	白玉	滑石	4.0	1.7	2.7	0.06	床直
第232図-30	2	SI-003	32-10	白玉	滑石	4.2	1.1	2.7	0.08	覆土
第232図-31	2	SI-003	14	白玉	滑石	4.1	1.5	2.8	0.07	覆土
第232図-32	2	SI-003	24	白玉	滑石	4.1	1.5	2.9	0.06	床直
第232図-33	2	SI-003	17	白玉	滑石	5.0	2.0	3.0	0.11	床直
第232図-34	2	SI-003	9	白玉	滑石	4.7	1.7	3.1	0.10	覆土
第232図-35	2	SI-003	10	白玉	滑石	4.5	1.8	3.1	0.09	床直
第232図-36	2	SI-003	12	白玉	滑石	5.0	1.7	3.1	0.09	覆土
第232図-37	2	SI-003	32-4	白玉	滑石	4.8	1.9	3.1	0.10	覆土
第232図-38	2	SI-003	25	白玉	滑石	4.5	1.9	3.2	0.09	床直
第232図-39	2	SI-003	32-5	白玉	滑石	3.4	1.5	3.2	0.05	覆土
第232図-40	2	SI-003	32-7	白玉	滑石	4.5	1.7	3.4	0.10	覆土
第232図-41	2	SI-003	29	白玉	滑石	4.9	1.7	3.5	0.12	床直一括
第232図-42	2	SI-003	32-12	白玉	滑石	4.4	1.9	3.9	0.10	覆土
第239図-11	2	SI-009	13	白玉	滑石	4.1	1.2	1.5	0.05	床直
第239図-12	2	SI-009	14	白玉	滑石	4.1	1.7	2.0	0.06	床直
第239図-13	2	SI-009	20	白玉	滑石	4.3	1.3	2.3	0.08	床直
第239図-14	2	SI-009	21	白玉	滑石	4.2	1.8	2.0	0.06	床直

第5節 平安時代の遺構と遺物

概要

検出された遺構は、堅穴住居跡8軒である。古墳時代中期の堅穴住居跡群と同様に、概ね台地の南東から入り込む小支谷の谷頭周辺にまとまっている。集落の時期はほぼ10世紀代の短期的な集落で、平安時代中葉の集落として貴重な資料を提供している。堅穴の規模は、一辺3m～4mの方形の小規模な堅穴が主体で、中には長方形の鍛冶関連の工房跡と考えられる堅穴も含まれている。出土遺物では土師器が主体で、須恵器がほとんどないのが特徴と言える。また、10世紀代に入っても墨書土器が出土している点は注目される。なお、各遺構から出土した土器の観察表を第100表に掲載した。

1 堅穴住居跡

(2) SI-004 (第243図、図版21・96)

26U-12-13-22・23グリッドに所在する。当該時期の堅穴住居跡の中で最も南にあり、北東約55mに(2) SI-005、北西約70mに(2) SI-010がある。平面形はやや不整形の小規模な堅穴である。主軸方向はN-14°-Wである。規模は長軸長3.16m、短軸長2.86m、確認面からの深さ0.36mである。壁溝は東辺から北西隅まで巡っている。カマドは北西壁のほぼ中央に作られているが、袖などは遺存せず、火床部と掘方を検出しただけである。ピットは4基検出したが、主柱穴と思われるものはない。P1は径15cm、深さ19cmである。P2は長径19cm、短径12cm、深さ20cmである。P3は長径25cm、短径13cm、深さ25cmである。P4は径15cm、深さ18cmである。床面はカマドの前から対壁に向かって硬化面が見られる。覆土は暗褐色土を主体とする自然堆積である。

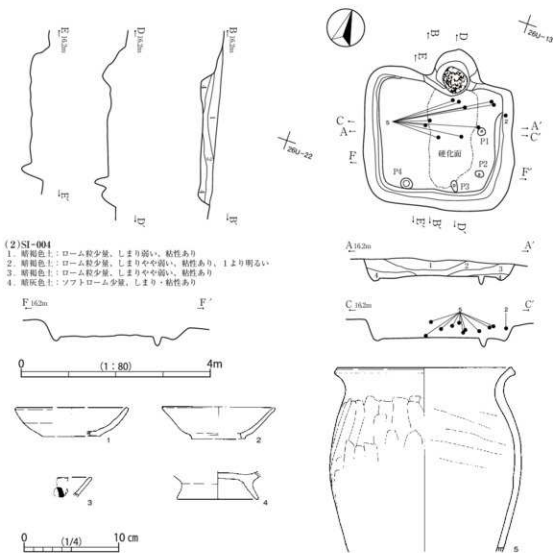
出土遺物は40点ほどで、全て破片である。図示できたものは土師器5点である。垂直分布を見ると2層からの出土が多いことから、本遺構がある程度埋まった時点で廃棄されたものと思われる。

1～3はロクロ土師器杯である。1は体部がわずかに内湾気味に立ち上がり、そのまま口縁部になる。底部は回転糸切り離しの後、周縁部に手持ちヘラ削り調整が施される。2は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。底部はやや突出し、回転糸切り離しの後、無調整である。3は口縁部の小破片で、外面に墨痕が見られる。4はロクロ土師器高台付杯である。底部は回転糸切り離しの後、高台部とともにナデ調整が施される。5は土師器甕である。最大径が胴部上半部にある長い胴部で、口縁部は頸部で緩やかに外反し、口唇部端部が短く摘み上がる。胴部最大径は23cmである。

出土土器から本堅穴の時期は、10世紀後葉と考えられる。

(2) SI-005 (第244～246図、図版22・23・96～98)

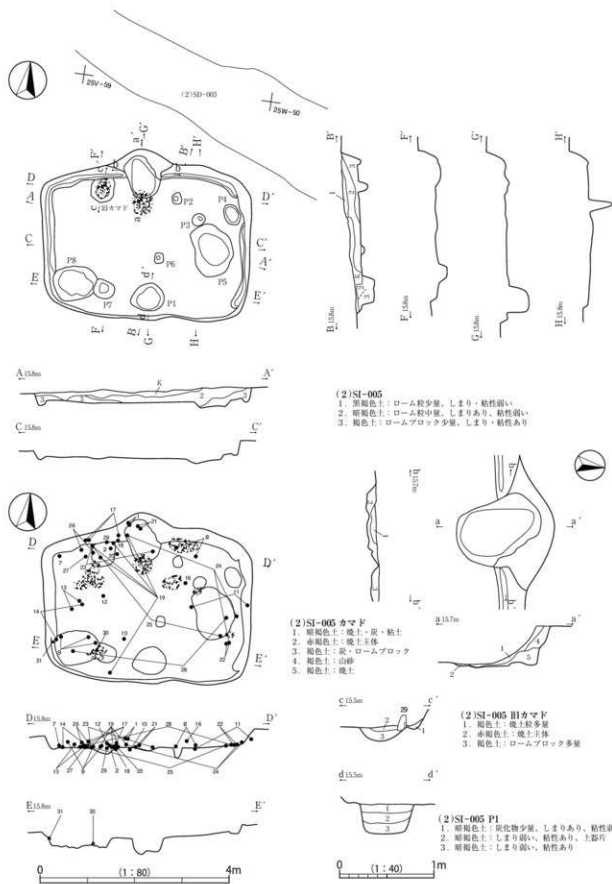
25V-58・59・68・69グリッドに所在する。当該時期の堅穴住居跡群の中では最も東にあり、南西約55mに(2) SI-004、北東約235mに(7) SI-001がある。北西隅から南東隅にかけて幅1mほどの攪乱を受けているが、床面までは及んでいない。平面形は長方形である。主軸方向はN-9°-Wである。規模は長軸長4.35m、短軸長3.32m、確認面からの深さ0.26mである。壁溝は南辺を除いてほぼ全周する。カマドは北壁のほぼ中央に作られているが、袖などは遺存せず、火床部と掘方を検出しただけである。カマド西側にある長径55cm、短径53cm、深さ12cmの皿状のピットは、底面が焼土化しており、旧カマドの火床部と思われる。ピットは8基検出したが、主柱穴と思われるものはない。位置や大きさなどからP1は貯蔵穴と思われる。P1は長径72cm、短径60cm、深さ33cmである。P2は長径23cm、短径20cm、深さ22cmである。P3は長径29cm、短径24cm、深さ38cmである。P4は長径45cm、短径32cm、深さ8cmである。P5は長径1.1m、



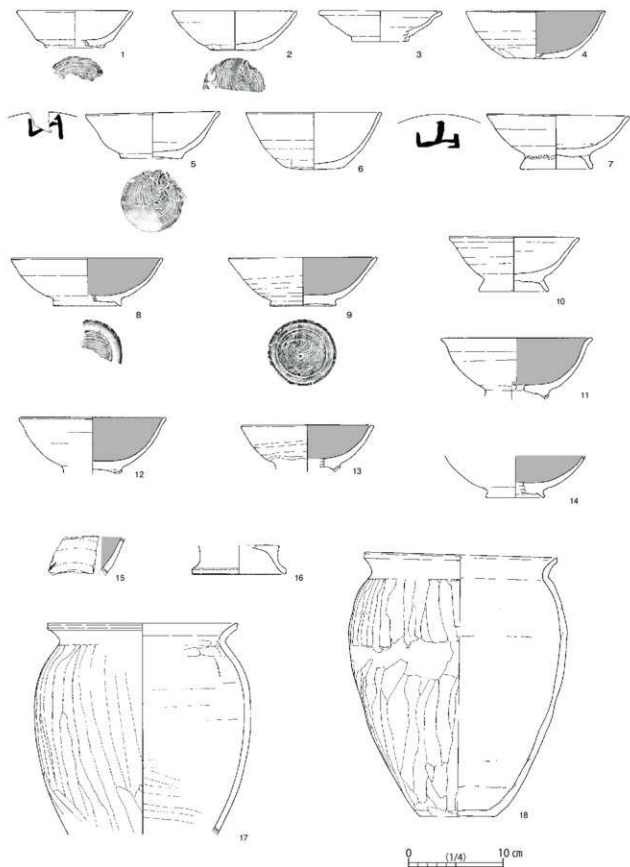
第243図 (2)SI-004

短径0.9m、深さ0.1mである。P6は長径24cm、短径20cm、深さ38cmである。P7は長径43cm、短径38cm、深さ20cmである。P8は長径95cm、短径70cm、深さ20cmである。覆土は褐色土、暗褐色土、黒褐色土の順に堆積する自然堆積である。

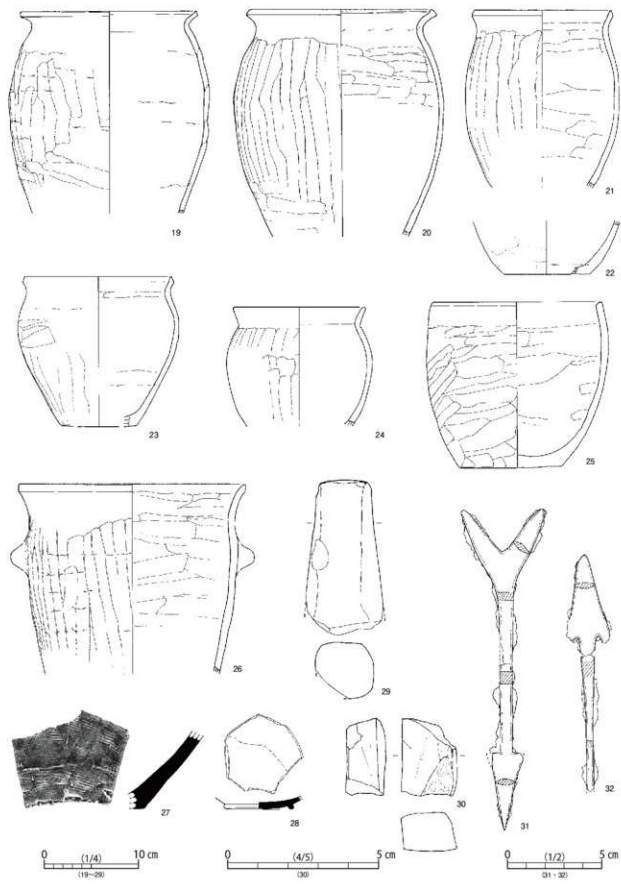
出土遺物は100点を超え、当該時期の竪穴住居跡の中で最も多い。図示できたものは土器26点、須恵器1点、土製品2点、石製品1点、鉄製品2点である。遺物はカマド西側に集中しており、土師器杯7や土師器甕17～20・25、土師器瓶26、土製支脚29などがまとまって出土している。土師器杯と土製支脚は正立し、土師器甕と土師器瓶は倒立して出土し、いずれも置かれた状態であると思われるが、18の土師器甕を除き、いずれも胴部下半が欠損し、25は南東側から出土した破片と接合していることから、北西から南東にかけて見られる攪乱により壊され、一部は失われ、一部は出土位置が乱されたと思われる。土師器甕21は底部が欠損し、残りの縦半分が遺存していることとカマド内の4・5層から出土していることから、カマド構築材の補強材として使用されたものと思われる。土師器杯3・5はP1の貯蔵穴、土師器杯4はP5から出土している。



第244図 (2)SI-005(1)



第245图 (2) SI-005(2)



第246图 (2) SI-005 (3)

1～16はロクロ土師器杯ないしは碗である。1は体部がわずかに外反気味に立ち上がり、そのまま口縁部になる。体部下端部に明瞭な稜を作り、底部は突出する。底部は回転糸切り離しの後、無調整である。2は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。体部下端部に指頭圧痕が見られるが、基本的に無調整である。底部は回転糸切り離しの後、無調整である。内外面の器面は被熱し、やや荒れている。3は体部内外面に強くロクロ目を残し、口縁部はわずかに積み上がる。底部は突出し、回転糸切り離しの後、無調整である。4～6は体部が深いものである。4は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。体部下端部は手持ちヘラ削り調整が施され、底部は回転糸切り離しの後、周縁部に手持ちヘラ削り調整が施される。内面はヘラ磨き調整が施される。5は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部が外反し、口唇部は肥厚する。底部は突出し、回転糸切り離しの後、無調整である。体部外面に「山」の墨書が見られる。6は体部が内湾気味に立ち上がり、そのまま口縁部になる。体部下端部は手持ちヘラ削り調整、底部は全面手持ちヘラ削り調整が施される。内面はヘラ磨き調整が施される。7～14は高台が付くものである。7は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。高台は高く、体部との接合部外面にはヘラによる押さえ痕が見られるが、底部外面も含めてナデ調整が施される。体部外面に「山」の墨書が見られる。8は体部が内湾気味に立ち上がり、そのまま口縁部になる。底部は回転糸切り離しの後、高台部とともに強いナデ調整が施され、体部下端部と底部に明瞭な稜を作り出している。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。9は体部が内湾気味に立ち上がり、そのまま口縁部になる。底部は厚く、回転糸切り離しの後、端部を積み上げるようにナデ調整を施し、短い高台を作り出している。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。10は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。高台部は高く、底部とともにナデ調整が施される。11は体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短く外反する。底部は高台部とともにナデ調整が施される。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。底部のほぼ中央部に焼成後の穿孔がある。高台部端部を除いて復元することができたが、比較的細かい破片の状態で出土した。12は体部が内湾して立ち上がり、口縁部が短くわずかに外反する。底部は回転糸切り離しの後、高台部とともにナデ調整が施される。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。13は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。体部外面下半部は回転ヘラ削り調整が施される。底部は高台部とともにナデ調整が施される。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。14は口縁部が欠損し、体部は内湾して立ち上がる。底部は回転糸切り離しの後、高台部とともに強いナデ調整が施され、体部下端部と底部に明瞭な稜を作り出している。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。15は体部破片で、内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。外面に墨書痕が見られる。16は脚状の高台部で、天井部を杯部底面と貼り合わせたとと思われる。上面が貼り合わせの面で、回転糸切り痕が見られる。脚柱部は直線的で裾部は外反し、端部は積み上がる口縁部のように作り出している。17～25は土師器甕である。17～21は最大径が胴部上半にある長胴の甕で、口縁部端部を積み上げる。18を除いていずれも底部が欠損するが、接合しなかった土器片の中に底部が含まれており、本来は完形に近いものが多かったと思われる。18は胴部から底部の内外面は器面が荒れている。20は胴部外面が被熱し、スガが付着している。また、内面の器面は剝離が見られる。22は底部で、長胴になるとと思われる。外面は被熱し、器面がやや荒れている。23～25は小形の甕で、最大径が胴部上半にある。23は口縁部端部が積み上がり、外面が被熱し、器面がやや荒れている。24は口縁部が直線的に立ち上がる。25は胴部が内湾気味に立ち上がり、内湾したまま口縁部になる。胴部外面下半部が被熱し、器面がやや荒れている。26は土師器甕である。

口縁部は緩やかに外反し、端部が痛み上がる。把手は遺存していないが、把手を貼り付けた痕が1か所見られる。甔の底部に該当する破片はない。27は須恵器甕で、外面は平行タタキ、内面はヘラナデ調整が施される。底部外面には繊維状の圧痕が見られる。28は転用甕である。灰軸陶器甕を使用したもので、全体的に朱墨が見られるが、特に、図示した破線の上部とその破断面の一部に朱墨がよく残っている。29は土製支脚で、下端部が欠損している。現存長は16.4cmで、天井部は一辺5cmの角が取れた方形である。全体的に被熱し、表面はやや荒れている。30は砥石で、下半部を欠損している。使用面はよく摩滅しているが、右下部分は細かな凹凸面が残っている。現存長60.4mm、最大幅41.8mm、最大厚30.6mm、現存重量105.55gである。石材は流紋岩である。31・32は鉄鏝である。31は雁股鏝で、ほぼ全体の形状を知ることができる。茎が特殊な形態である。鏝身長40mm、同幅45mm、寛被長88mm、同幅7mm、茎長41mm、同推定幅20mm、現存重さ27.59gである。32は逆剝部を持つもので、鏝身先端と茎を欠損している。現存の鏝身長47mm、同幅23mm、同茎長92mm、同幅4mm、同重さ17.43gである。

出土土器から本堅穴の時期は、10世紀後葉と考えられる。

(2) SI-010 (第247図、図版23・98)

24T-45・46・55・56グリッドに所在する。当該時期の堅穴住居跡群の中の西側で、北約45mに(4)SI-001・002、南東約70mに(2)SI-004、東約60mに(2)SI-011、西約280mに(14)SI-001がある。全体的に床面から5cm上まではゴルフ場造成により削平されている。平面形はほぼ方形である。主軸方向はN-84°-Eである。規模は長軸長3.52m、短軸長(主軸方向)3.30m、確認面からの深さ0.12mである。壁溝はない。カマドは東壁のほぼ中央に作られている。右側袖のごく一部が遺存していただけで、火床部は検出できなかった。ピットは4基検出したが、径や深さにばらつきがあり、主柱穴と判断しがたい。P1は径53cm、深さ28cmである。P2は長径40cm、短径34cm、深さ18cmである。P3は長径68cm、短径33cm、深さ65cmである。P4は長径47cm、短径52cm、深さ7cmである。P3は東西に長い楕円形で、柱の抜き取り痕の可能性が考えられる。また、深さも深いことから柱穴の可能性もある。覆土は5cm程度の厚さしか確認することはできなかったが、暗褐色土を主体として黄褐色土が混在し、粘性・しまりともにやや弱い土層が堆積している。

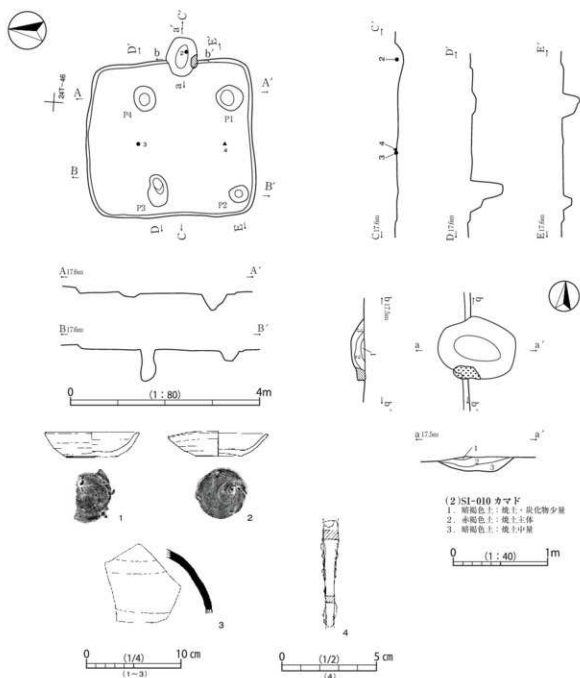
出土遺物の数量は少なく、図示できたものは土器2点、須恵器1点、鉄製品1点である。図示したものは全て土師器甕の小破片である。土師器杯1はカマド一括資料である。土師器杯2はカマドの中から、完形で伏せた状態で出土している。

1～2はロクロ土師器杯で、器高が3cm以下の小振りのものである。1は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。底部は回転糸切り離しの後、無調整である。2はやや歪んでいるが、基本的には1と同じ形の杯と思われる。底部は回転糸切り離しの後、無調整である。また、焼成前のヘラ描きが見られる。全体的に被熱し、器面がやや荒れている。3は灰軸陶器甕の肩部の破片である。内外面ともにナデ調整である。4は鉄鏝で、寛被部分と思われる。現存長57mm、幅8mm、厚さ5mm、現存重さ4.79gである。

出土土器から本堅穴の時期は、10世紀後葉と考えられ、あるいは11世紀前葉の時期となるかもしれない。

(2) SI-011 (第248図、図版24)

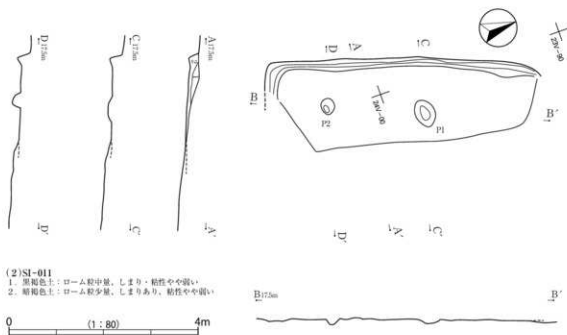
23U-99・23V-90・24U-09・24V-00グリッドに所在する。当該時期の堅穴住居跡群の中の北東側で、北西約70mに(4)SI-001・002、南東約65mに(2)SI-005、南西約60mに(2)SI-010がある。東側の大部



第247図 (2)SI-010

分はゴルフ場造成により削平され、北西壁と西隅及び床面の一部のみ検出できた。平面形は方形になると思われる。主軸方向は北西壁でN-21°-Eである。規模はいずれも現存長で、長軸長(主軸長)5.7m、短軸長1.92mである。確認面からの深さは最大で8cmである。壁溝は検出した範囲で全て巡っている。カマドは検出できなかった。ピットは2基検出したが、いずれも主柱穴と判断しがたい。P1は長径60cm、短径44cm、深さ8cmである。P2は長径32cm、短径28cm、深さ13cmである。堅穴の覆土は西側にわずかに遺存していただけで、暗褐色土、黒褐色土の順に堆積している。

出土遺物は全て土師器小破片の一括資料で、数量は少なく、図示できたものはない。図示できなかった



第248図 (2)SI-011

が、平安時代と思われるロクロ土師器杯・碗の小破片が見られることから、本遺構の時期を平安時代と想定した。

(4)SI-001(第249図、図版24)

23T-24・34グリッドに所在する。当該時期の竪穴住居跡群の中の北側で、南東約70mに(2)SI-011、南約45mに(2)SI-010がある。全体的に削平が著しく、遺構の掘込みは浅く、また、東側は確認トレンチを深く掘削したため、南壁の一部と西壁は検出できなかった。北側で(4)SI-002と重複し、遺物の出土状況などから本遺構の方が古い。平面形は方形あるいは東西方向に長い長方形になると思われる。主軸方向はN-31°-Wである。規模は長軸長3.58m、現存短軸長1.72m、確認面からの深さ0.06mである。壁溝はない。カマドは検出できなかった。ピットは5基検出し、P1は位置や大きさから貯蔵穴と思われ、他のピットで柱穴と思われるものはない。P1は長径54cm、短径38cm、深さ20cmである。P2は長径34cm、短径26cm、深さ16cmである。P3は長径30cm、短径23cm、深さ14cmである。P4は長径34cm、短径26cm、深さ29cmである。P5は長径42cm、短径37cm、深さ23cmである。

出土遺物の数量は土師器小破片が3点で、図示できたものはないが、本竪穴の時期は、10世紀代と推測される。

(4)SI-002(第249図、図版24・98)

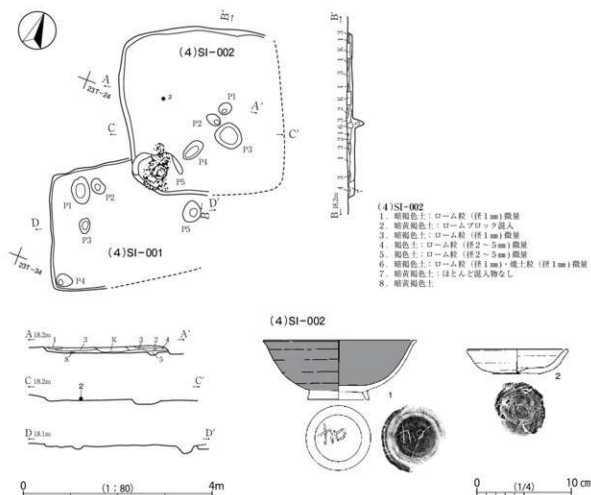
23T-14・24グリッドに所在する。当該時期の竪穴住居跡群の中で最も北側で、南東約70mに(2)SI-011、南約45mに(2)SI-010がある。全体的に削平が著しく、遺構の掘込みは浅く、また、東側は確認トレンチを深く掘削したため、南壁の一部と東壁は検出できなかった。平面形はほぼ方形になると思われる。主軸方向はN-22°-Wである。規模は長軸長(主軸長)3.54m、推定短軸長3.40m、確認面からの深さ0.10mである。壁溝はない。カマドは検出できなかった。ピットは5基検出したが、柱穴と思われるものはない。P6は長径27cm、短径23cm、深さ26cmである。P7は長径32cm、短径22cm、深さ25cmである。P8は

長径55cm、短径50cm、深さ4cmである。P9は長径52cm、短径28cm、深さ17cmである。P10は南隅にあり、長径1.0m、短径0.8m、深さ0.07mで、その中に径0.3m、深さ0.04mの小さなピットがある。深さが浅いが、貯蔵穴の可能性が考えられる。覆土はローム粒を含んだ暗褐色土や暗黄褐色土などが堆積している。P5の上には焼土粒を含んだ暗褐色土などが堆積し、調査時は(4)SI-001のカマドを想定していたが、調査成果を検討した結果、カマドではなく本遺構の廃絶に伴って堆積した土層と判断した。

出土遺物の数量は少なく、図示できたものは土器2点である。土師器高台付椀1は貯蔵穴の上に堆積していた焼土中から出土したものと一括資料が接合したものである。

1は内外面黒色処理の高台付椀で、体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。体部下端は回転ヘラ削り調整が施される。底部は回転糸切り離しの後、無調整である。内面はヘラ磨き調整が施され、黒色処理される。底部には焼成後に「加」の字が線刻されている。2はロクロ土師器杯で、器高が3cm以下の小振りのものである。体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。底部は回転糸切り離しの後、無調整である。底部内面の中央部を強く窪ませており、器壁がかなり薄くなっている。

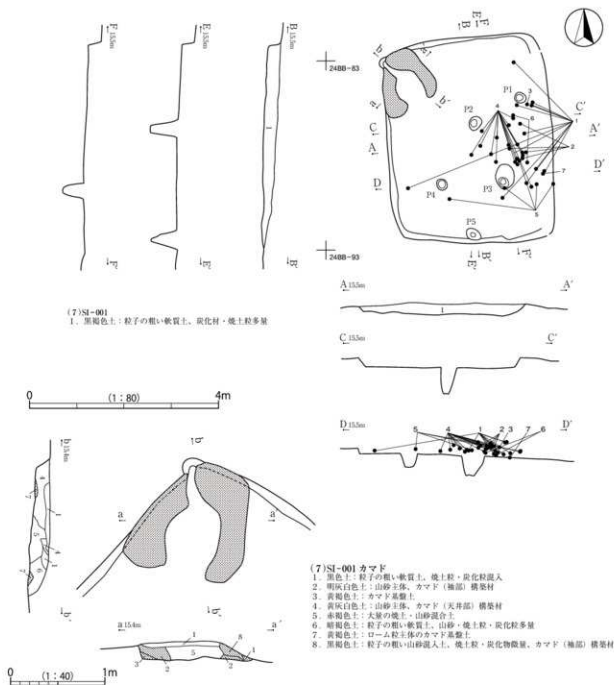
出土土器から本堅穴の時期は、10世紀後葉と考えられる。



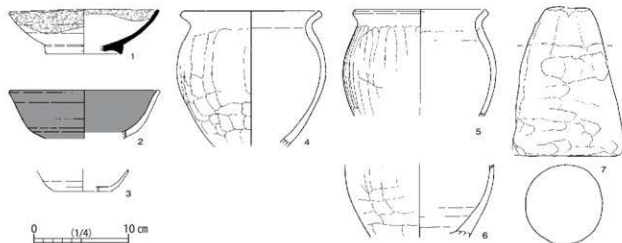
第249図 (4)SI-001・SI-002

(7)SI-001 (第250・251図、図版24・25)

24BB-73・74・83・84グリッドに所在する。本遺跡の中で最も東にあり、屋敷内遺跡に近接している。当該時期の竪穴住居跡群の(2)SI-005から東に約235m離れている。東に向かって緩やかに傾斜する場所で、床面が旧表土層と考えられる暗褐色土中に掘り込まれていたため、東壁と床面を明確にすることができなかった。床面については、カマドの火床面と覆土の1層の下面を参考にして推定した。平面形は長方形である。主軸方向(長軸方向)はN-3°-Wである。規模は長軸長4.36m、推定短軸長3.50m、確認面からの深さ0.44mである。壁溝はない。カマドは北西隅に作られている。軸は山砂を主体とした明灰白色土



第250図 (7)SI-001(1)



第251図 (7)SI-001(2)

や黒褐色土などで構築され、左袖は西壁に沿って1.1m、右袖は北壁から南東方向に1.2mほど遺存している。奥壁は火床面から斜度23°で立ち上がり、北西隅を20cmほど外側に掘り込んでいる。ピットは5基検出した。P3とP4は位置的には柱穴とも思われるが、判然としない。また、P5は位置的には出入口ピットになり得るものである。規模はいずれも径が現存値で、深さが推定値である。P1は径24cm、深さ34cmである。P2は長径31cm、短径27cm、深さ56cmである。P3は長径53cm、短径40cm、深さ44cmである。P4は長径24cm、短径22cm、深さ26cmである。P5は長径32cm、短径24cm、深さ52cmである。覆土は黒褐色土の単独土層で、自然堆積と思われる。

出土遺物は約100点で、図示できたものは灰軸陶器1点、土師器碗1点、土師器杯1点、土師器小型甕3点、支脚1点である。支脚を除いて、いずれも小破片で、接合資料も散在している状態である。垂直分布は推定の床面より高い位置から出土しており、本遺構が埋没していく過程で廃棄されたものと思われる。

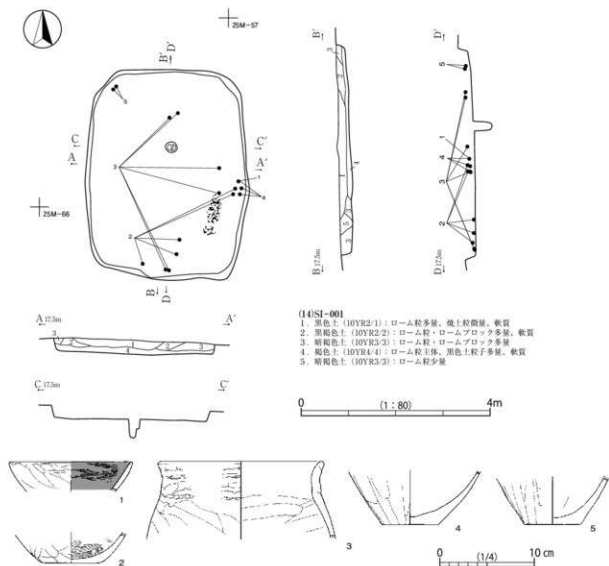
1は灰軸陶器碗である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに短く外反する。灰軸はつけ掛けにより口縁部内外面に施されており、焼成時に最上段に置かれたことにより、坏部内面全体に焼成時の降灰による釉がうすくかかっている。また、口縁部外面には、重ね焼きされた際にその下になっていた碗の口縁の一部が融着している。高台は三日月高台である。2は内外面黒色処理された高台付き碗である。底部が欠損しているが、体部が深く、口縁部がわずかに短く外反する。体部下端は回転ヘラ削り調整が施され、内面はヘラ磨き調整が施され光沢がある。内外面ともに黒色処理される特異な杯である。3は土師器杯である。底部から体部の一部だけが遺存している。底部は回転糸切り離した後、無調整である。体部下端部は回転ヘラ削り調整が施される。4～6は土師器甕である。4・5は最大径が胴部上位にあり、いずれも頸部が大きく外反し、口縁部端部はわずかに積み上がる。4は胴部最大径が15.8cmで、外面は被熱し、器面が荒れている。5は胴部最大径が推定16.1cmで、内面に輪積痕が見られる。6は胴部で、接合しないが、色調・胎土の状況などから5と同一個体と思われる。7は土製支脚である。円錐形で、高さ15.8cm、推定下端部径12.0cm、上端部径4.8cmである。全体的に被熱し、表面が荒れ、ザラついている。

1の灰軸陶器にみられるつけ掛けは、折戸53号窯式期の特徴であり、10世紀中葉の時期であることから本堅穴の時期も同様の時期と判断される。

(14) SI-001 (第252図、図版25・26・98)

25M-56・57・66・67グリッドに所在する。本遺跡の中で最も西にある。当該時期の竪穴住居跡群の(2) SI-010から西に約280m離れている。平面形はやや隅丸の長方形である。主軸方向(長軸方向)はN-2°-Eである。規模は長軸長4.46m、短軸長3.48m、確認面からの深さ0.32mである。平面形・規模・主軸方向などが(7) SI-001に類似している。壁溝はない。カマドは検出できなかった。ピットは中央のやや北寄りに1基検出した。規模は長径25cm、短径22cm、深さ42cmである。竪穴の覆土は最下部にローム粒を主体とした褐色土が見られるが、ほぼ水平に堆積していること、遺物がこの層から出土していないことから、この層が床面であった可能性が考えられる。さらに、南壁寄りの場所には、深さ10cm程度のピットがあった。

出土遺物は50点ほどと少なく、全て小破片で、図示できたものは土師器5点である。



第252図 (14) SI-001

1・2は土師器杯である。1は口縁部から体部の一部で、口縁部は直線的に開く。外面はヘラ削り調整、内面はヘラ磨き調整が施された後、黒色処理される。2は底部から体部の一部で、底部は平底で、体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部と体部外面はヘラ削り調整が施され、内面はヘラ磨き調整が施される。3～5は土師器甕である。3は最大径が胴部にあり、頸部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部が短く外反する。外面の口縁部直下には沈線状のヘラナデ痕が見られる。頸部外面には輪積痕が明瞭に残っている。4・5は底部で、いずれも底部外面は器面が荒れ、調整等が不明である。4は内面の器面が荒れている。

出土土器から本壜穴の時期は、10世紀後葉と考えられる。

第98表 平安時代石製品属性表

検出番号	調査次数	出土位置	注記番号	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第2468-30	2	SI-005	81	砥石	白色流紋岩質凝灰岩	56.2	42.7	30.7	104.58	細部破片。焼熱により弾け、ヒビあり。

第99表 鉄製品属性表

検出番号	調査次数	出土位置	遺物番号	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第2398-10	2	SI-009	23	鉄鏃	26.0	19.0	1.5	1.92	
第2468-31	2	SI-005	95	鉄鏃	169.0	44.0	6.5	27.59	
第2468-32	2	SI-005	101	鉄鏃	125.0	22.0	8.0	17.43	
第2478-4	2	SI-010	11	鉄鏃	57.0	8.0	5.0	4.79	

第100表 平安時代土器観察表

() 測定値() 推定値

群回番号	遺構	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底面形状	胎土	色調・焼成	技法	備考		
第2430回 -1	(2) SI-004	土師器	杯	口径	12(20)	20%	雲母粒・砂粒	内面	にぶい黄褐色(10YR6/4)	内面	ヘラナデ		
				底径	6(6)				外面	にぶい黄褐色(10YR6/4)	外面		ナデ
第2430回 -2	(2) SI-004	土師器	杯	口径	11(8)	25%	褐色砂粒・砂粒	内面	にぶい褐色(7.5YR5-6)	内面	ナデ		
				底径	5(7)				外面	にぶい褐色(7.5YR5-6)	外面		ナデ
第2430回 -3	(2) SI-004	土師器	杯	口径	-	-	口縁部	白色砂粒	内面	明褐色(7.5YR5-6)	内面	-	口縁部外面黒書
				底径	-					外面	明褐色(7.5YR5-6)	外面	
第2430回 -4	(2) SI-004	土師器	高台付 甕	口径	-	-	底部・高 台部	砂粒	内面	褐色(7.5YR4/3)	内面	ナデ	
				底径	9(6)					外面	にぶい黄褐色(10YR6/6)	外面	
第2430回 -5	(2) SI-004	土師器	甕	口径	18(2)	-	口縁部・ 胴部中央	砂粒	内面	にぶい褐色(7.5YR7-8)	内面	ナデヘラナデ	
				底径	5(9)					外面	褐色(5YR7-8)	外面	
第2430回 -1	(2) SI-005	土師器	杯	口径	12(20)	30%	白色砂粒・砂粒	内面	明赤褐色(5YR5-6)	内面	ナデ		
				底径	6(6)				外面	明赤褐色(5YR5-6)	外面		ナデ
第2430回 -2	(2) SI-005	土師器	杯	口径	13(1)	30%	白色砂粒・赤 色砂粒	内面	明赤褐色(5YR5-6)	内面	ナデ	内外面黒熟し、器面や や突れる	
				底径	5(4)				外面	褐色(5YR6-6)	外面		ナデ
第2430回 -3	(2) SI-005	土師器	杯	口径	12(6)	25%	砂粒	内面	褐色(5YR6-6)	内面	ナデ		
				底径	6(6)				外面	褐色(5YR6-6)	外面		ナデ
第2430回 -4	(2) SI-005	土師器	杯	口径	14(6)	30%	石灰粒	内面	褐色(7.5YR6-6)	内面	ヘラ磨き 黒色処理		
				底径	6(6)				外面	褐色(7.5YR6-6)	外面		ナデ 手持ちヘラ磨り
第2430回 -5	(2) SI-005	土師器	杯	口径	14(0)	80%	砂粒	内面	褐色(5YR7-6)	内面	ナデ	外部正面正設「山」黒 書	
				底径	6(4)				外面	褐色(5YR6-6)	外面		ナデ
第2430回 -6	(2) SI-005	土師器	杯	口径	14(2)	20%	白色砂粒	内面	褐色(7.5YR6-6)	内面	ヘラ磨き		
				底径	6(4)				外面	褐色(5YR6-6)	外面		ナデ 手持ちヘラ磨り
第2430回 -7	(2) SI-005	土師器	高台付 杯	口径	7(4)	60%	白色砂粒	内面	暗灰黄色(2.5Y4/2)	内面	ナデ	外部外面正設「山」黒 書	
				底径	1.5				外面	黒褐色(2.5Y3/1)	外面		ナデ
第2430回 -8	(2) SI-005	土師器	高台付 甕	口径	5(7)	30%	砂粒	内面	明褐色(5YR2/1)	内面	ヘラ磨き	内面黒色処理	
				底径	7(0)				外面	褐色(5YR6-6)	外面		ナデ
第2430回 -9	(2) SI-005	土師器	高台付 杯	口径	15(6)	30%	白色砂粒多量	内面	黒色(7.5YR2/1)	内面	ヘラ磨き 黒色処理	縁口上げ高台	
				底径	5(8)				外面	褐色(7.5YR6-6)	外面		ナデ
第2430回 -10	(2) SI-005	土師器	高台付 杯	口径	5(1)	60%	白色砂粒・赤 色砂粒	内面	褐色(5YR6-6)	内面	ナデ		
				底径	7(2)				外面	明赤褐色(5YR5-6)	外面		ナデ
第2430回 -11	(2) SI-005	土師器	高台付 甕	口径	15(9)	75%	白色砂粒多量	内面	暗褐色(5YR2/1)	内面	ヘラ磨き	内面黒色処理 底部に焼成後の孔	
				底径	-				外面	褐色(5YR6-6)	外面		ナデ
第2430回 -12	(2) SI-005	土師器	高台付 杯	口径	11(4)	20%	白色砂粒多 量・小礫	内面	黒色(7.5YR1.7/1)	内面	ヘラ磨き 黒色処理		
				底径	-				外面	にぶい褐色(7.5YR5-6)	外面		ナデ
第2430回 -13	(2) SI-005	土師器	杯	口径	13(8)	30%	石灰粒・白色 砂粒	内面	黒色(10YR1.7/1)	内面	ヘラ磨き 黒色処理		
				底径	-				外面	灰黄褐色(10YR4/2)	外面		ナデ 回転ヘラ磨り
第2430回 -14	(2) SI-005	土師器	高台付 杯	口径	-	-	体部・高 台部	石灰粒・白色 砂粒	内面	黒色(7.5YR2/1)	内面	ナデ	
				底径	6(1)					外面	褐色(5YR6-6)	外面	
第2430回 -15	(2) SI-005	土師器	杯	口径	-	-	体部	白色砂粒	内面	黒色(5YR2/1)	内面	ヘラ磨き 黒色処理	外部外面黒書
				底径	-					外面	にぶい褐色(5YR6-6)	外面	
第2430回 -16	(2) SI-005	土師器	高台付 甕	口径	-	-	高台部	白色砂粒	内面	褐色(7.5YR6-6)	内面	ナデ	高台付高台は回転未切 り
				底径	9(8)					外面	褐色(7.5YR6-6)	外面	
第2430回 -17	(2) SI-005	土師器	甕	口径	20(0)	-	口縁部・ 胴部下	石灰粒・白色 砂粒・砂粒	内面	褐色(5YR6-6)	内面	ナデヘラナデ	
				底径	-					外面	にぶい褐色(5YR6-6)	外面	
第2430回 -18	(2) SI-005	土師器	甕	口径	22(2)	100%	石灰粒・白色 砂粒	内面	灰褐色(5YR5-2)	内面	ナデヘラナデ	内外面胴部下部・底部 器面突れる	
				底径	8(0)				外面	にぶい赤褐色(5YR5/3)	外面		ナデヘラ磨りヘラナデ
第2430回 -19	(2) SI-005	土師器	甕	口径	18(6)	-	口縁部・ 胴部下	白色砂粒・小 礫多量	内面	にぶい褐色(7.5YR6-3)	内面	ナデヘラナデ	内外面輪縁部
				底径	-					外面	褐色(5YR6-6)	外面	
第2430回 -20	(2) SI-005	土師器	甕	口径	19(3)	-	口縁部・ 胴部下	小礫多量	内面	にぶい褐色(5YR6-3)	内面	ナデヘラナデ	黒熟し、外面又付着、 内面一部器面剥離
				底径	-					外面	褐色(5YR6-6)	外面	

練回番号	造 器	種 類	器 種	材 質	法 量(cm)	造 成 率	胎 土	色 調・焼 成	投 法	備 考
第2460回 -21	(2)SI-005	土師器	甕	美	口径 144 底径 - 器高 <187>	口縁部一帯 器下半	白色砂粒・木 塵	内面 ①:赤・赤褐色(SYR5-4) 外面 明赤褐色(SYR5-6) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 -	
第2460回 -22	(2)SI-005	土師器	甕	美	口径 90 底径 <52> 器高 -	底部	白色砂粒多量	内面 ①:赤・赤褐色(SYR5-3) 外面 ①:赤・赤褐色(SYR5-4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底面 ヘラナデ	外面焼熟し、器面やや 荒れる
第2460回 -23	(2)SI-005	土師器	甕	美	口径 1154 底径 8(1) 器高 159	50%	赤色砂粒・ 白色砂粒	内面 褐色(2SYR6-6) 外面 ①:赤・赤褐色(2SYR6-3) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 ヘラナデ	内面輪筋状 外面焼熟し、器面やや 荒れる
第2460回 -24	(2)SI-005	土師器	甕	美	口径 1136 底径 - 器高 <126>	口縁部一帯 器下半	白色砂粒多量	内面 ①:赤・赤褐色(SYR5-3) 外面 ①:赤・赤褐色(SYR5-4) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 -	
第2460回 -25	(2)SI-005	土師器	甕	美	口径 179 底径 11.0 器高 17.6	100%	赤色砂粒	内面 褐色(SYR6-3) 外面 褐色(SYR6-3) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 ヘラナデ	器部下手焼熟し、器面 やや荒れる
第2460回 -26	(2)SI-005	土師器	甕	美	口径 238 底径 - 器高 <200>	口縁部一帯 器	赤色砂粒	内面 褐色(SYR6-6) 外面 褐色(SYR6-3) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 -	器下半が所推定
第2460回 -27	(2)SI-005	磁器器	美	口径 - 底径 - 器高 -	器部下手・ 底部	小礫	内面 灰青褐色(10YR6-2) 外面 灰青褐色(10YR5-2) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 平打タタキヘラナデ 底面 織織の疋儀		
第2460回 -28	(2)SI-005	灰陶器	甕	美	口径 - 底径 7.8 器高 <1.5>	高台部	黒色砂粒少量	内面 灰青色(2SYR7-2) 外面 灰青色(2SYR7-2) 焼成 良好	内面 ヘラ 外面 ナダ 底面 ナデ	本器の転用現
第2460回 -29	(2)SI-005	土製品	支脚	美	口径 - 底径 - 器高 -	小礫	内面 - 外面 ①:赤・橙(7SYR6-4) 焼成 良好	内面 - 外面 - 底面 -		全体の焼熟し、器面 やや荒れる
第2470回 -1	(2)SI-010	土師器	杯	美	口径 100 底径 5.5 器高 2.7	65%	微細砂粒	内面 明赤褐色(SYR5-6) 外面 明赤褐色(SYR5-6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底面 回転糸切り無調整	
第2470回 -2	(2)SI-010	土師器	杯	美	口径 100 底径 5.0 器高 2.6	100%	石炭粒、微細 砂粒	内面 明赤褐色(10YR6-6) 外面 明赤褐色(10YR6-6) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底面 回転糸切り無調整	底部外面ヘラ焼き 口縁部内外面焼熟し、 やや荒れる
第2470回 -3	(2)SI-010	灰陶器	壺	美	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	黒色砂粒少量	内面 灰白色(2SYR7-1) 外面 灰青色(2SYR6-2) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデ 底面 -	
第2490回 -1	(4)SI-002	土師器	高台付 甕	美	口径 162 底径 10.0 器高 6.4	25%	石炭粒、微細 砂粒	内面 黒色(2SYR2-1) 外面 ①:赤・赤褐色(2SYR6-3) 焼成 良好	内面 ヘラ焼き 外面 コナロナデ 回転ヘラナデ 底面 回転糸切り	底部外面「加」線刷 内面灰色処理
第2490回 -2	(4)SI-002	土師器	杯	美	口径 108 底径 5.2 器高 2.6	70%	石炭粒、赤色 粒	内面 明赤褐色(SYR5-6) 外面 明赤褐色(SYR2-1) 焼成 良好	内面 コナロナデ 外面 コナロナデ 底面 回転糸切り無調整	外面・底部ス付着
第2510回 -1	(7)SI-001	灰陶器	甕	美	口径 159 底径 7(2) 器高 4.7	65%	白色砂粒・赤 粒	内面 灰オリーブ色(SYR6-2) 外面 黄褐色(2SYR6-1) 焼成 良好	内面 コナロナデ 外面 コナロナデ 底面 コナロナデ	つけ付け 焼成時の口 縁部の一部が破着
第2510回 -2	(7)SI-001	土師器	甕	美	口径 160 底径 - 器高 <5.1>	25%	微細砂粒	内面 黒色(10YR17-1) 外面 黒色(10YR17-1) 焼成 良好	内面 ヘラ焼き 外面 コナロナデ 回転ヘラナデ 底面 -	内面灰色処理
第2510回 -3	(7)SI-001	土師器	杯	美	口径 - 底径 6.0 器高 <2.0>	体部一底部 30%	石炭粒	内面 灰褐色(7SYR4-2) 外面 ①:赤・赤褐色(7SYR5-3) 焼成 良好	内面 コナロナデ 外面 コナロナデ 回転ヘラナデ 底面 回転ヘラナデ	
第2510回 -4	(7)SI-001	土師器	甕	美	口径 151 底径 - 器高 <14.2>	口縁部一帯 器60%	小石・砂粒多 量	内面 ①:赤・赤褐色(SYR6-4) 外面 褐色(2SYR6-6) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 -	外面焼熟し、器面荒れ る
第2510回 -5	(7)SI-001	土師器	甕	美	口径 144 底径 - 器高 <11.2>	口縁部一帯 器60%	小石・白色色 粒	内面 ①:赤・黄褐色(10YR7/4) 外面 ①:赤・黄褐色(10YR7/4) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 ナデヘラナデ 底面 -	6と同一体
第2510回 -6	(7)SI-001	土師器	甕	美	口径 - 底径 - 器高 <7.8>	胴部下半 器45%	小石・白色色 粒	内面 ①:赤・黄褐色(10YR6-4) 外面 ①:赤・黄褐色(10YR7-3) 焼成 良好	内面 ナデ 外面 コナロナデ 底面 -	5と同一体
第2510回 -7	(7)SI-001	土製品	支脚	美	口径 - 底径 - 器高 -	胴部	白色砂粒少量	内面 灰白色(10YR8-2) 外面 ①:赤・黄褐色(10YR8-4) 焼成 良好	内面 見えている 外面 - 底面 -	欠番
第2520回 -1	(4)SI-001	土師器	杯	美	口径 1130 底径 - 器高 <3.2>	口縁部一帯 器20%	石炭粒、白色 砂粒	内面 黒色(7SYR2-1) 外面 明褐色(7SYR5-6) 焼成 良好	内面 ヘラ焼き 外面 ヘラナデ 底面 -	内面灰色処理
第2520回 -2	(4)SI-001	土師器	杯	美	口径 - 底径 6.4 器高 <3.2>	体部一底部 75%	小石・白色色 粒	内面 褐色(7SYR6-6) 外面 ①:赤・褐色(7SYR5/4) 焼成 良好	内面 ヘラ焼き 外面 ナダヘラナデ 底面 ヘラナデ	
第2520回 -3	(4)SI-001	土師器	甕	美	口径 1176 底径 - 器高 <8.2>	口縁部一帯 器40%	赤色・白色色 粒	内面 褐色(7SYR6-6) 外面 ①:赤・赤褐色(10YR5-4) 焼成 良好	内面 ナダヘラナデ 外面 ナダヘラナデヘラナデ 底面 -	
第2520回 -4	(4)SI-001	土師器	甕	美	口径 - 底径 6.0 器高 <5.0>	胴部下半 器40%	小石・砂粒	内面 褐色(7SYR6-6) 外面 ①:赤・黄褐色(10YR5-4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ナダヘラナデ 底面 -	底部外面に疋儀
第2520回 -5	(4)SI-001	土師器	甕	美	口径 - 底径 <6.8> 器高 <5.1>	胴部下半・ 底部30%	石炭粒少量	内面 明赤褐色(10YR6-6) 外面 ①:赤・赤褐色(10YR5-4) 焼成 良好	内面 ヘラナデ 外面 ヘラナデ 底面 -	底部外面に疋儀

第6節 中・近世の遺構と遺物

概要

中世以降の活動の痕跡はいたって少なく、検出された遺構は地下式坑1基、井戸1基、土坑5基、溝3条などである。本遺跡に隣接する屋敷内遺跡や須賀井遺跡では、屋敷地と思われる台地整形区画や掘立柱建物跡、地下式坑などが検出されているが、内山遺跡では中世以降の痕跡は極めて希薄である。(1)SD-001・(2)SD-001・(3)SD-001などの各調査地点で検出されている溝は、屋敷内遺跡で検出された(27)SD-001の溝とつながる同一の溝と考えられる。

1 地下式坑

(4)SK-008(第253図、図版26)

本遺跡のほぼ中央に当たる21T-08・18グリッドに所在する。東約70mに(1)SD-002、西約40mに(4)SK-007がある。主室の平面形は楕円形であるが、底面での平面形は長方形である。確認面での規模は長軸長2.64m、短軸長1.90m、深さ0.90mである。底面の規模は長軸長1.82m、短軸長0.82mである。長軸方向はN-24°-Wである。出入口は南西長辺に作られ、長短軸交点から見た方向はN-114°-Wである。長さ0.85m、幅0.44m、主室底面からの高さは0.4m～0.66mである。覆土の観察では下半部にロームブロックやローム粒を主体としたと思われる褐色土層が厚く堆積しており、これらは天井部が崩れて堆積したものと思われる。その上には暗黄褐色土や暗褐色土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

2 井戸

(3)SK-001(第253図、図版26)

17W-80・81・90・91グリッドに所在する。本遺跡の北東端で、屋敷内遺跡に近接する。平面形は円形で、確認面での規模は径2.2mである。断面形は朝顔形に開く形状で、深さ1.2m前後から下が直径1.2mの円筒形になると思われる。確認面から深さ1.96m(標高14.86m)で湧水があり、それ以下は調査できなかったが、底面は更に1.5m以上深くなると思われることから井戸跡と考えられる。遺物は出土しなかった。

3 土坑

(2)SK-003(第253図、図版27)

本遺跡の南側に当たる25V-31グリッドに所在する。東13mに(2)SD-002と(2)SD-003との重複部がある。東41mに(2)SK-005がある。東側は上層確認トレンチにより確認面が深くなっている。平面形は楕円形になると思われる。確認面での規模は推定で、長径1.94m、短径1.74m、深さ0.83mである。底面は凹凸が見られる。遺物は出土しなかった。

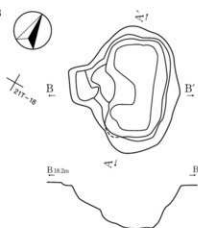
(2)SK-005(第253図、図版27)

本遺跡の南側に当たる25W-41・42グリッドに所在する。南2mに(2)SD-003、西41mに(2)SK-003がある。平面形はほぼ円形で、確認面での規模は長径1.54m、短径1.42m、深さ0.44mである。発掘調査時の所見では、土坑内には焼土及び被熱した跡などがないことから、覆土の4・5層の炭化材は土坑内で焼かれたものではないと思われる。炭化材が人為的に土坑内に敷き詰められたものか、廃棄されたものか判然としない。遺物は出土しなかった。

(2)SK-006(第253図、図版27)

23X-79・23Y-70グリッドに所在する。西約50mに(2)SD-001がある。平面形はわずかに長方形で、確認面での規模は長軸長1.25m、短軸長1.10m、深さ0.30mである。遺物は出土しなかった。

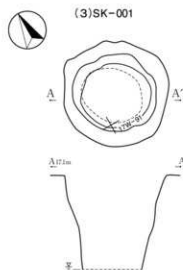
(4)SK-008



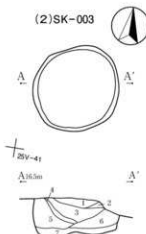
(4)SK-008

1. 暗褐色土：ローム粒（径5mm前後）微量
2. 褐色土：混入物なし
3. 暗褐色土：ロームブロック（径10~20mm）中量
4. 褐色土：混入物なし
5. 暗褐色土：混入物なし
6. 暗褐色土：ローム粒（径1mm前後）微量
7. 暗褐色土：ローム粒（径1mm前後）微量
8. 褐色土：混入物なし
9. 褐色土：ローム粒（径1mm前後）微量
10. 暗褐色土：混入物なし
11. 暗褐色土：混入物なし、10層より粘性なし
12. 暗褐色土：ローム粒（径1mm前後）微量
13. 暗褐色土：ローム粒（径2~5mm）少量
14. 暗褐色土：ローム粒（径2~5mm）少量
15. 暗褐色土：ローム粒（径2~5mm）少量
16. 褐色土：ブロッカ状
17. 暗褐色土：ローム粒（径2~5mm）少量
18. 褐色土：ブロッカ状
19. 暗褐色土：ローム粒（径5~10mm）少量
20. 褐色土：ブロッカ状
21. 褐色土：ブロッカ状
22. 褐色土：混入物なし、硬質

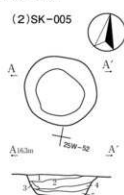
(3)SK-001



(2)SK-003



(2)SK-005



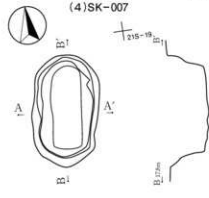
(2)SK-003

1. 黒色土：ローム粒（径1~2mm）少量、しまり・粘性弱い
2. 暗褐色土：ロームブロック（径5~10mm）少量、しまり・粘性弱い
3. 暗褐色土：ロームブロック（径5~10mm）少量、しまり・粘性弱い
4. 暗褐色土：ロームブロック（径10mm）少量、しまり・粘性弱い
5. 暗褐色土：ロームブロック（径30~50mm）少量、しまり・粘性弱い
6. 暗褐色土：ロームブロック（径10mm）少量、しまり・粘性やや強い
7. 褐色土：ロームブロック（径50mm）主体、しまり強い、粘性やや強い

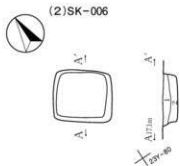
(2)SK-005

1. 暗褐色土：炭化物中量
2. 暗褐色土：ローム粒多量、炭化物中量
3. 褐色土：ローム粒中量、炭化物少量
4. 暗褐色土：ローム粒多量
5. 炭化材

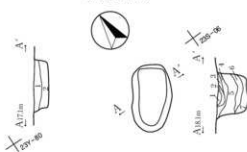
(4)SK-007



(2)SK-006



(4)SK-009



(4)SK-007

1. 暗褐色土：ローム粒（径2mm）少量
2. 暗褐色土：ローム粒（径2mm）中量
3. 黒褐色土：ローム粒（径2mm）少量
4. 褐色土：ローム粒（径2mm）微量
5. 褐色土：ローム粒（径2mm）微量
6. 暗黄褐色土：ローム粒（径2mm）微量
7. 暗黄褐色土：ロームブロック（径10~50mm）中量
8. 褐色土：ローム粒（径1mm）微量

(2)SK-006

1. 暗褐色土：ローム粒少量、しまり・粘性弱い
2. 暗褐色土：ローム粒中量、炭化材多量、しまり・粘性弱い

(4)SK-009

1. 褐色土：ローム粒（径1~2mm）少量
2. 褐色土：ローム粒（径1~2mm）少量
3. 褐色土：ローム粒（径1~2mm）少量
4. 暗褐色土：褐色土：ローム粒（径1~2mm）中量
5. 褐色土：ローム粒（径10~20mm）多量
6. 暗褐色土：ローム粒（径10~20mm）少量
7. 暗褐色土：ローム粒（径10~20mm）多量

第253図 (4)SK-008、(3)SK-001、(2)SK-003・SK-005・SK-006、(4)SK-007・SK-009

(4) SK-007 (第253図、図版27)

本遺跡のほぼ中央に当たる21S-18グリッドに所在する。東約40mに(4)SK-008、南西約80mに(4)SK-009がある。平面形は楕円形で、主軸方向はN-9°-Eである。確認面での規模は長径2.36m、短径1.38m、深さ0.78mである。断面形は逆台形である。底面の平面形はほぼ長方形で、長軸長1.74m、短軸長0.63mである。底面は比較的平坦である。覆土は自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

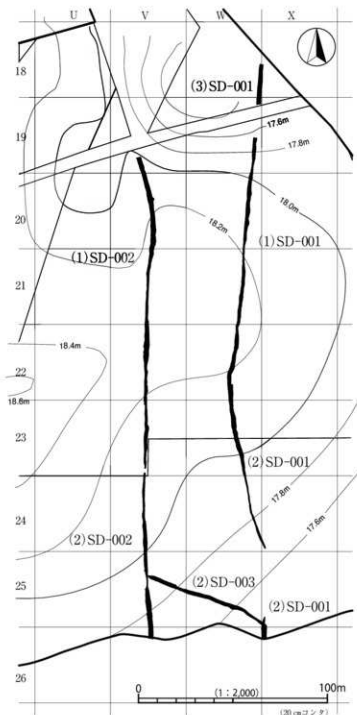
(4) SK-009 (第253図、図版27)

本遺跡のほぼ中央やや南側に当たる22S-95・23S-05グリッドに所在する。周辺に当該時期の遺構はなく、東約120mに(2)SD-002、北東約80mに(4)SK-007がある。南側半分は上層確認トレンチにより確認面が深くなっている。平面形はやや不整形な隅丸の長方形で、主軸方向はN-41°-Eである。確認面での規模は推定で、長軸長1.44m、短軸長0.82m、深さ0.64mである。断面形は箱形である。底面は多少凹凸が見られる。覆土は5層~7層がローム粒を多く含む比較的水平的に堆積していることなどから、人為的に埋め戻されたと思われる。それより上の土層は自然堆積と思われる。遺物は出土しなかった。

4 溝

(1) SD-001・(2) SD-001・(3) SD-001 (第254～256図・259図、図版27～29)

調査年次が異なるが、同一の溝である。また、(3)SD-001の北側にある屋敷内遺跡(27)SD-001も走行方向などから同一の溝と考えられる。本遺跡の東側を南北に走り、北は(3)SD-001の18W-59・18X-50グリッドから南は(2)SD-001の29X-10グリッドに所在し、南側は調査区域外に続いている。(2)SD-001は24X-90グリッドで一旦途切れるが、(2)SD-003と重複する25X-80グリッドの位置で再び検出することができた。(2)SD-003の南北に走る溝と並行する形で、土層断面の観察により本遺構の方が新しい。規模は現状での総延長274.2m、幅0.5m~2.7m、確認面からの深さ0.12m~0.78mである。約34mの途中で



第254図 溝分布図

途切れている長さを含めると、現状での総延長は308.2mになる。走行方向は(3)SD-001と(1)SD-001がN-7°-Eである。(2)SD-001はN-10°-Wであるが、(2)SD-003と重複する部分ではN-4°-Eとなっている。断面形はおおむね薬研掘りである。(2)SD-001のセクションB-B'の位置に本遺構より新しい掘り込みが見られるが、規模・性格など詳細は不明である。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土が主体で、22W-95グリッドのセクションF-F'では最下部の土層が硬くしまり、硬化面となっており、道路として使用されていた可能性がある。

遺物は、(1)SD-001の一括資料として土師器小破片が1点出土しているだけで、本遺構に伴うと思われるものはなかった。

(1)SD-002・(2)SD-002(第254・257・258図、図版28・29)

調査年次が異なるが、同一の溝である。東側にある(1)SD-001・(2)SD-001・(3)SD-001と約50mの間隔を保ち、並行するように南北に走り、北は(1)SD-002の19V-73グリッド、南は(2)SD-002の26V-15グリッドに所在する。23V-84・94グリッドで途切れているが、本来は続いていたもので、掘込みが浅く検出できなかったものである。(1)SD-002の北側と(2)SD-002の南側は未調査区に続いている。25V-24・34・44グリッド周辺はゴルフ場造成に伴う攪乱を受けている。規模は現状での総延長262.9m、幅0.8m～3.6m、確認面からの深さ0.12m～0.44mである。走行方向は(2)SD-002がN-8°-Wで、(1)SD-001がN-2°-Eとわずかに向きを変え、20V-35グリッド付近でN-17°-Wの方向に屈曲している。断面形は逆台形あるいは鍋底形である。覆土は黒褐色土・暗褐色土が主体で、おおむね最下部の土層は硬くしまり、硬化面となっており、道路として使用されていた可能性がある。

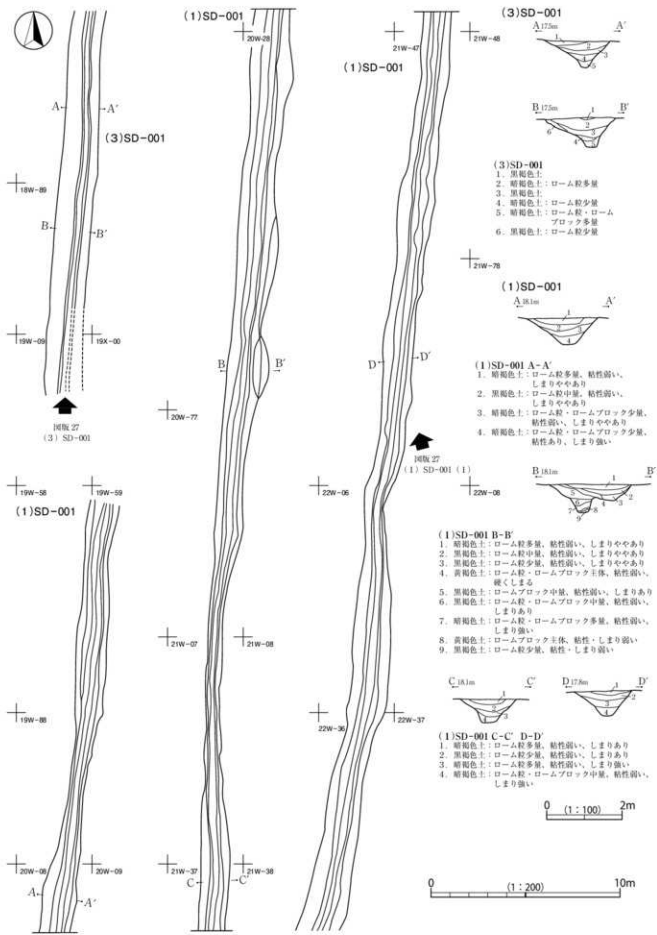
遺物は土師器小破片だけで、本遺構が古墳時代中期の堅穴住居群の中を走っていることから、これらの遺物が混入したと思われる。本遺構に伴うと思われる遺物はない。

(2)SD-003(第259図、図版29・99)

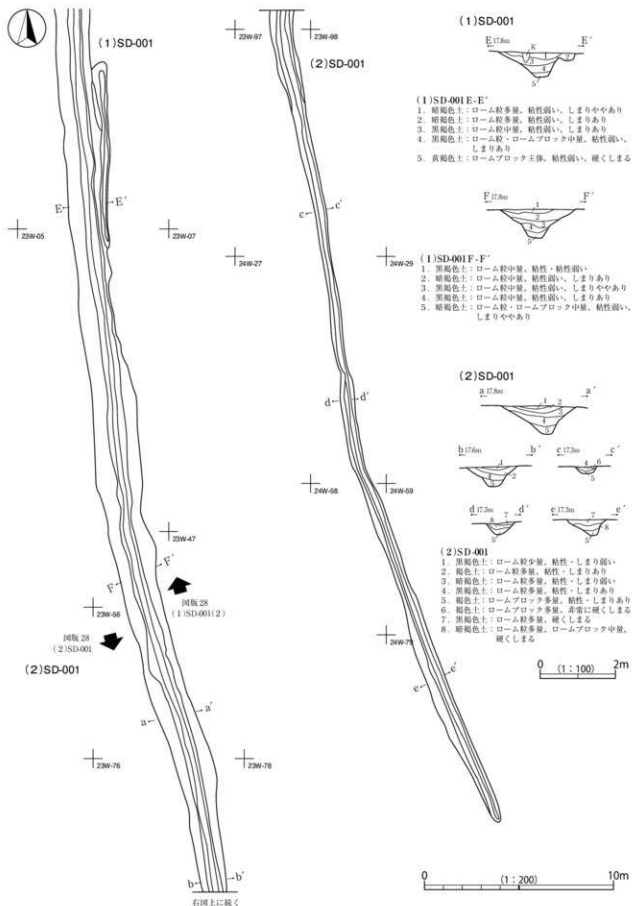
本遺跡の南端に当たり、(1)SD-001・(2)SD-001・(3)SD-001と(1)SD-002・(2)SD-002との間を斜めにつなぐように東西に走る。西は25V-35グリッド、南は26X-10グリッドに所在する。西端は途切れているが、立ち上がっているのではなく、掘込みが浅くなっているために検出できなかったと思われる。しかし、(2)SD-002の西側では、本遺構に続くと思われる遺構が検出されていない。南側は(2)SD-001と重複し、土層断面の観察から本遺構の方が古い。また、本遺構は未調査区に続いている。規模は現状での総延長75.0m、幅1.2m～1.8m、確認面からの深さ0.23m～0.34mである。走行方向はN-73°-Wで、25X-90グリッド付近でN-2°-Eの方向に屈曲している。断面形は浅い鍋底形である。屈曲部分にビット状の掘込みが見られるが、詳細は不明である。覆土は黒褐色土・暗褐色土が主体で、おおむね最下部の土層は硬くしまり、硬化面となっている。

遺物は土師器小破片が大多数で、本遺構が古墳時代中期の堅穴住居跡群に隣接していることから、これらの遺物が混入したと思われる。本遺構に伴うと思われる遺物は、図示できた捏鉢と山茶碗と思われる小破片1点である。

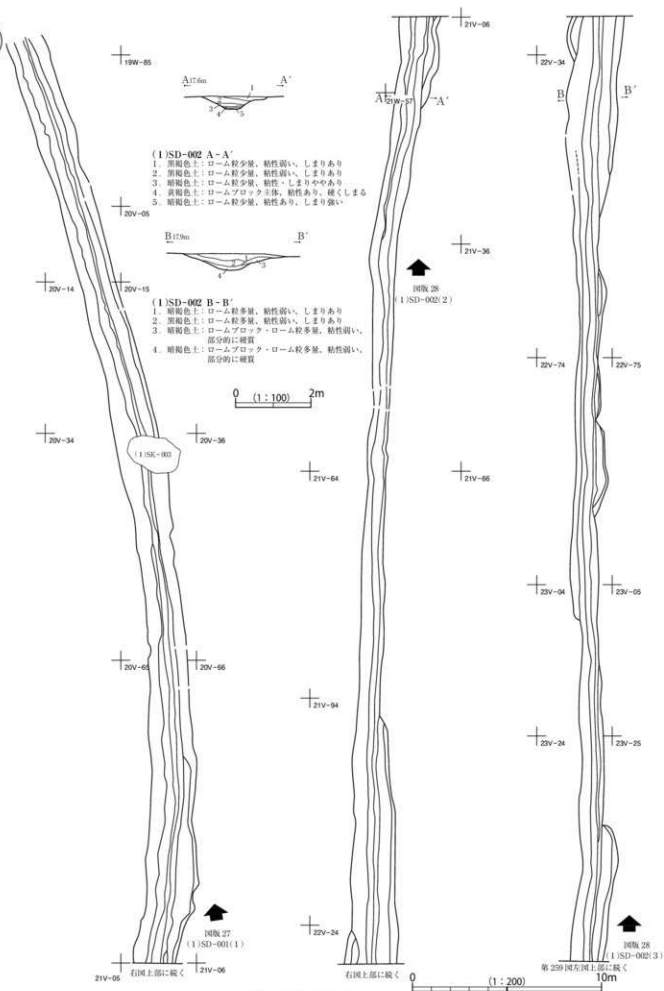
1は在地産の捏鉢である。底部と胴部の一部が遺存している。推定底径16.3cm、現存器高6.5cmである。胴部外面はナデ、下端部はヘラナデ調整が施される。内面はナデで、図示した破線からは使用による摩滅が見られる。胎土は比較的精緻で、小石や5mm程度の砂粒が含まれる。焼成は良好で、色調は内面が暗灰褐色(2.5Y5/2)、外面がにぶい黄色(2.5Y6/3)である。



第255図 (3)SD-001、(1)SD-001



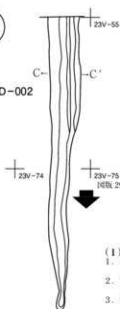
第256図 (1)SD-001、(2)SD-001



第257図 (1)SD-002

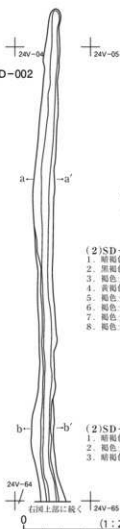


(1)SD-002



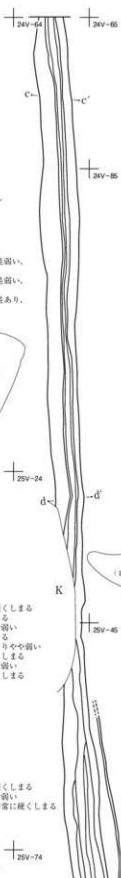
- (1)SD-002 C-C'
1. 暗褐色土：ローム粒多量、粘性弱い、しまりあり
 2. 黒褐色土：ローム粒中量、粘性弱い、しまりあり
 3. 黄褐色土：ローム粒多量、粘性あり、部分的に硬質

(2)SD-002

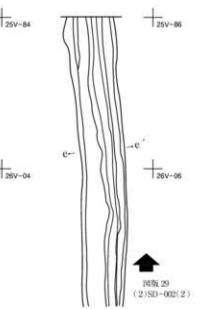


- (2)SD-002 a-a'
1. 暗褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる
 2. 黒褐色土：ローム粒中量、硬くしまる
 3. 褐色土：ローム粒中量、しまりやや弱い
 4. 黄褐色土：ローム粒多量、硬くしまる
 5. 褐色土：ロームブロック少量、しまりやや弱い
 6. 褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる
 7. 褐色土：ローム粒多量、しまりやや弱い
 8. 褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる

- (2)SD-002 b-b'
1. 暗褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる
 2. 褐色土：ローム粒中量、しまりやや弱い
 3. 暗褐色土：ロームブロック多量、非常に硬くしまる



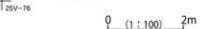
(1)SD-001



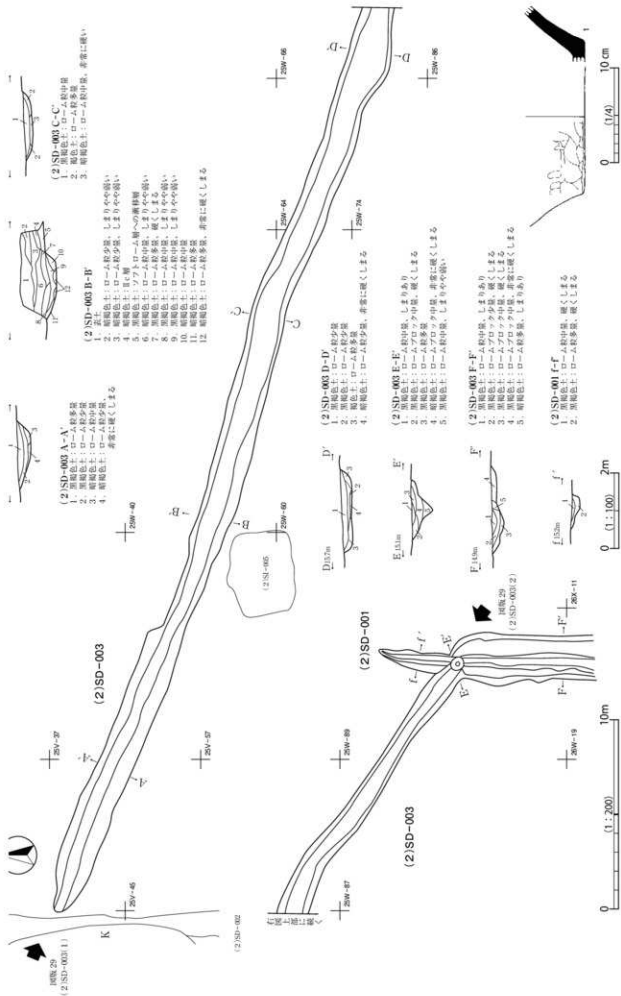
- (2)SD-002 e-e'
1. 暗褐色土：ローム粒多量、硬くしまる
 2. 暗褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる
 3. 黒褐色土：ローム粒多量、ロームブロック少量、しまりやや弱い
 4. 褐色土：ローム粒多量、硬くしまる

- (2)SD-002 d-d'
1. 暗褐色土：ローム粒少量、しまりやや弱い
 2. 暗褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる
 3. 暗褐色土：ローム粒多量、しまりやや弱い
 4. 暗褐色土：ローム粒多量、しまりやや弱い
 5. 褐色土：ローム粒多量、しまりやや弱い
 6. 褐色土：ローム粒多量、硬くしまる
 7. 褐色土：ローム粒多量、しまりやや弱い
 8. 黄褐色土：ローム粒多量、硬くしまる
 9. 黄褐色土：ローム粒主体

- (2)SD-002 e-e'
1. 暗褐色土：ローム粒多量、非常に硬くしまる
 2. 暗褐色土：ローム粒中量、しまりやや弱い
 3. 黒褐色土：ローム粒少量、しまりやや弱い
 4. 暗褐色土：ローム粒少量、しまりやや弱い
 5. 黒褐色土：ローム粒少量、しまりやや弱い
 6. 暗褐色土：ローム粒多量、しまりやや弱い
 7. 暗褐色土：ローム・ロームブロック少量、しまりやや弱い
 8. 暗褐色土：ローム粒・ロームブロック中量、硬くしまる



第258図 (1)SD-002、(2)SD-002



(2)SD-003 C-C'

1. 黒色土：ローム状多量
2. 黒色土：ローム状中量
3. 黒色土：ローム状少量、非常に硬い

(2)SD-003 B-B'

1. 黄土
2. 黒色土：ローム状少量、しまりや中硬い
3. 黒色土：ローム状少量、しまりや中硬い
4. 黒色土：ローム状少量、しまりや中硬い
5. 黒色土：ローム状少量、しまりや中硬い
6. 黒色土：ローム状中量、しまりや中硬い
7. 黒色土：ローム状中量、しまりや中硬い
8. 黒色土：ローム状中量、しまりや中硬い
9. 黒色土：ローム状中量、しまりや中硬い
10. 黒色土：ローム状中量、しまりや中硬い
11. 黒色土：ローム状多量
12. 黒色土：ローム状多量、非常に硬くしまる

(2)SD-003 A-A'

1. 黒色土：ローム状多量
2. 黒色土：ローム状中量
3. 黒色土：ローム状中量
4. 黒色土：ローム状中量、非常に硬くしまる

(2)SD-003 D-D'

1. 黒色土：ローム状少量
2. 黒色土：ローム状少量
3. 黒色土：ローム状少量
4. 黒色土：ローム状少量、非常に硬くしまる

(2)SD-003 E-E'

1. 黒色土：ローム状中量、しまりやあり
2. 黒色土：ローム状中量、硬くしまる
3. 黒色土：ローム状中量、硬くしまる
4. 黒色土：ローム状中量、非常に硬くしまる
5. 黒色土：ローム状中量、しまりや中硬い

(2)SD-003 F-F'

1. 黒色土：ローム状中量、しまりやあり
2. 黒色土：ローム状少量、硬くしまる
3. 黒色土：ローム状中量、硬くしまる
4. 黒色土：ローム状中量、硬くしまる
5. 黒色土：ローム状多量、しまりやあり

(2)SD-001 F-F'

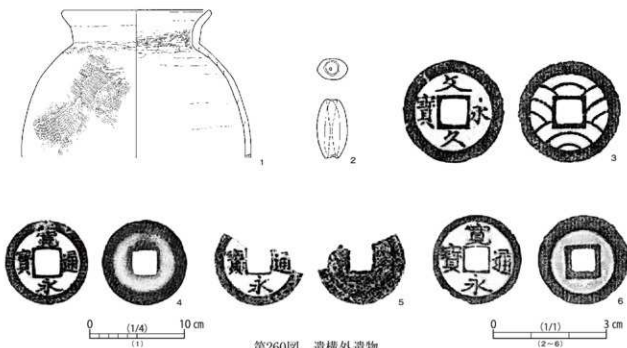
1. 黒色土：ローム状中量、硬くしまる
2. 黒色土：ローム状多量、硬くしまる

第259図 (2)SD-001・SD-003

第7節 遺構外遺物 (第260図、図版99)

ここでは、遺構の時期とは明らかに異なる時期の遺物とグリッド・トレンチの一括資料を遺構外遺物として扱い、図示した。

1は土師器甕である。最大径は胴部で、24.2cmである。胴部は球形になるものと思われ、頸部が強く屈曲し、口縁部は外反する。内面には輪積痕が残る。胴部外面にススが附着している。(2)SD-002の23V-84グリッド周辺の一括資料である。2はヒスイ製の珠である。色は緑と淡緑が縞状に混ざり合っている。古墳時代のもと考えられる。第4次調査地区の22P-36・46グリッド付近に設定された36トレンチの一括資料である。3～6銭貨である。3は文久永寶で裏面は波型である。第18次調査区の18T-56グリッドの一括資料である。4～6は寛永通寶で、4・5は新寛永、6は古寛永である。4は第2次調査区の23W-85、5は第14次調査地区の27L-88グリッド、6は第20次調査のトレンチ内から出土した。



第260図 遺構外遺物

第101表 遺構外遺物土器観察表

神田番号	遺構	種類	器種	法量 (cm)	遺存状況	胎土	色調・焼成	技法	備考
第260図 -1	その他	土師器	甕	口径 (15.9) 底径 - 器高 <15.5>	胴部40%	小石・白色砂粒	内面 土褐色 (10YR5/4) 外面 土褐色 (10YR3/1) 焼成 良好	内面 ハラナデ ハケ整形 外面 ハケ磨き ハケ整形	胴部外面スス附着

第102表 遺構外遺物石製品観察表

神田番号	調査回数	出土位置	注記番号	器種	石材	最大径 (mm)	孔径 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第260図-2	4	36トレンチ	2	珠	翡翠	15.3	7.9	5.5	0.98	塵土

第103表 銭貨計測表

神田番号	図版番号	銭貨名	遺構	遺物番号	計測値: mm g () 現存値					備考	
					縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚		重量
第260図-3	図版99	文久永寶	18T-56	1	27.0	20.8	8.7	6.8	1.1	3.7	流型
第260図-4	図版99	寛永通寶	23W-85	1	22.4	17.5	7.7	6.6	1.0	1.8	新寛永
第260図-5	図版99	寛永通寶	27L-88	3	-	-	6.8	5.8	1.0	(1.2)	60%残 新寛永
第260図-6	図版99	寛永通寶	26トレンチ	1	23.8	19.7	6.9	5.7	0.9	2.7	古寛永

第3章 総括

第2章において、内山遺跡(1)～(20)までの各地点における調査成果を詳述した。本報告書においては(20)地点までの報告となるが、今後調査が予定されているが未調査となっている面積がわずかであることから、今回の本報告書が、内山遺跡における総合的報告書といてよい。内山遺跡における成果のうち、最も注目されるのが旧石器時代の成果である。第4及び第5文化層としたブロック群は合わせて30ブロックに及んでいる。また、第6文化層の細石器石器群も特筆されるものである。縄文時代では、微量ではあるが千葉県内では出土例の少ない早期押形文土器が出土している点が注目される。古墳時代及び平安時代では、いずれの時代も小規模かつ短期的な集落の様相を示している点が注目され、それぞれの時期の周辺集落との関連を考えるうえで、興味ある資料を提供している。以下各時代の総括について記すことにしたい。

第1節 旧石器時代

検出されたブロックは60か所で、立川ローム層Ⅸ層～Ⅲ層まで6枚の文化層を設定した。調査区内の旧地形は、中央に埋没谷が走る東西二つの台地に分かれ、埋没谷や湧水点の周辺に多数のブロックが濃密に分布している。各文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 総計295点の石器・礫、10か所のブロックで構成され、Ⅸ層中部～上部の石器群と推定される。10か所のブロックのうち、東側台地の南東、谷に面した緩斜面に位置する7か所のブロックがユニット1を構成する。ユニット1の石器分布は、谷に向かって開く扇状の形をしており、東側は調査区外の国道16号の下まで続いていると予想される。

定型的な石器はなく、剥片・砕片・石核で構成される。縦長剥片・石刃の割合が高い。石材はチャート、ガラス質黒色安山岩、頁岩などで構成される。第1文化層では母岩分類は行っていないが、報告者の所見としては縦長剥片の素材には単独母岩が多い。いわゆる搬入石刃を特徴とする石器群である。石刃の形態は、打面が厚く幅広いものが多い。縦長剥片・石刃の背面構成から剥離工程を観察すると、石核の小口面から剥離されたものが多いことがわかる。

斜面部に位置し土層断面への投影が難しい点、定型的な石器を欠く点から、細かい編年の位置づけを判断する事は難しい。ここでは、縦長剥片・石刃の技術形態から、Ⅸ層下部段階の柏市中山新田Ⅰ遺跡下層よりは新しく、Ⅸ層上部段階の柏市原山遺跡Ⅱa文化層よりは古いという年代観を想定しておく。

第2文化層 総計56点の石器・礫、3か所のブロックで構成され、Ⅷ層～Ⅵ層の石器群と推定される。出土層位が第二暗色帯上半にまとまる一群について、上下の文化層とは石器群の様相が区別されるブロックを抽出し文化層を設定した。3か所のブロックは、それぞれ独立して分布する小規模な単独ブロックで、石器群の様相も齊一的ではないため、複数時期に細分される可能性が高い。

24W-78ブロックからは定型的な小型のナイフ形石器が出土している。石材は透明度の高い黒曜石で、薄手の石刃あるいは縦長剥片を素材とする両側縁ブランディング加工のナイフ形石器である。

第3文化層 総計842点の石器・礫、11か所のブロックで構成され、Ⅴ層～Ⅳ層下部の石器群と推定される。11か所のブロックのうち、調査区北側の5か所のブロックで構成されるユニット3と16Q-15プロ

くは、中央の埋没谷と遺跡北側の谷に挟まれた標高の低い位置に分布し、調査区南側の270-62ブロックも中央の埋没谷沿いの標高の低い位置に分布する。

角錐状石器と切出形ナイフ形石器に特徴づけられる文化層であるが、北側のユニット3の15P-78ブロック・15P-97ブロック・16P-16ブロックと南側の270-62ブロックは角錐状石器を欠く。石材は黒曜石とガラス質黒色安山岩、頁岩などで構成される。石材消費傾向は、ユニット・ブロック毎に異なる。16Q-15ブロックでは、角錐状石器と黒曜石という器種/石材の構造がみられる。一方でユニット3では、ナイフ形石器と黒曜石、角錐状石器と黒色頁岩という構造がみられる。また、角錐状石器を欠くユニット3ブロックでは、黒曜石、一方で270-62ブロックでは、頁岩・ガラス質黒色安山岩を用いて剥片を生産しており、上記の一群とは全く異なる石材消費傾向がみとれる。各群は、いわゆるIV下V層的な石器群の様相を示す点、礫群を伴う点では共通項が認められるが、三者三様の石材消費傾向からは、石材入手経路の違いが石材消費戦略上の工程差が想定できる。

類似する石器群としては、柏市小山台遺跡第4文化層、富士見遺跡第4文化層などがあげられる。

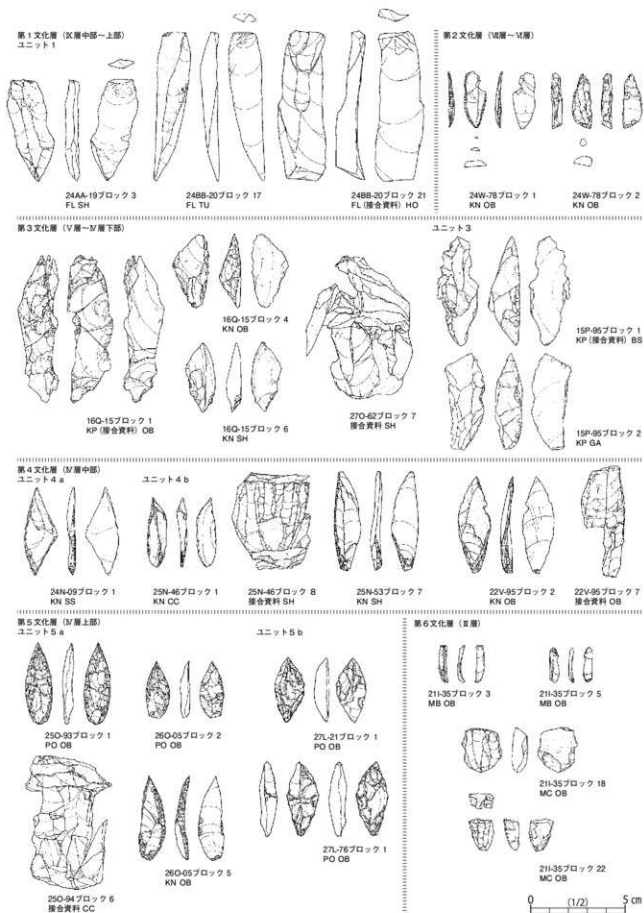
第4文化層 総計1,011点の石器・礫、20か所のブロックで構成され、IV層中部の石器群と推定される。4か所のユニットに大別される。西側台地のユニット4aとユニット4bは、中央の埋没谷に張り出した微高地に集中する12か所のブロックで構成され、東側台地のユニット4cとユニット4dは台地の平坦面に広く分布する5か所のブロックで構成される。東側台地では、ユニット4cと22V-95ブロックで約120m離れてブロック間接合がみられ、母岩共有も多岐みられる。東側台地の一群は、広い範囲に分布するが同時性が高い石器群であると考えられる。

石刃生産と二側縁を裁断するナイフ形石器製作を技術基盤とする、いわゆる砂川期に属する石器群である。ただし、石刃生産を示す接合資料やナイフ形石器が出土しているのに対し、砂川期の石器群によくみられる彫器や搔器類はほとんど出土していない。いずれのユニット・ブロックでも石刃生産技術とナイフ形石器の技術形態に共通項がみとめられる。石刃生産では、比較的小型の原石を用いている。片面あるいは両面に打面を作出し、打面再生と打面調整を繰り返して作業面長を徐々に減じながら、小型で長狭な石刃を連続剥離している。最終的に両極打法になる例もみとめられる。ナイフ形石器は、縦長剥片あるいは石刃を素材とし、対向する二側縁を裁断して基部と先端が鋭くなる柳葉形の器体を整形する。打点は基部側になるものと打点側になるもの両方がある。裏面基部に平坦調整を施す例もみとめられる。

広い範囲に分布する石器群で上記の共通する技術基盤がみとめられるが、石材の選択性は、東西の台地で異なる。西側台地の一群は頁岩類やメノウなどの硬質石材が集中的に用いられるのに対し、東側台地の一群は黒曜石が集中的に用いられる。一方、ガラス質黒色安山岩は、石刃生産やナイフ形石器の素材として、両者に共通して一定数用いられる。なお、西側台地では、第5文化層で硬質石材と黒曜石を主体としてナイフ形石器と尖頭器が伴う一群を検出している。分布範囲が近接するため本文化層との区別が問題となる。報告者の所見としては、石刃生産技術には共通項が認められるが、ナイフ形石器の技術形態が異なる点、母岩の共有関係も認められない点から、両者は異なる時期に帰属すると判断した。

下総台地北西部において、本文化層のように多量の接合資料を持つ砂川期の石器群が検出されることは稀であり、他の砂川期の石器群とは石材消費戦略上の位置づけが異なると考えられる。類似する石器群としては柏市小山台遺跡第5文化層などがあげられる。

第5文化層 総計1,167点の石器・礫、10か所のブロックで構成され、IV層上部の石器群と推定される



第261図 文化層別主要石器

10か所のブロックのうち8か所のブロックが中央の埋没谷沿いの標高が低い位置に分布し、ユニット5 aとユニット5 bを構成する。

ナイフ形石器と尖頭器を伴う石器群である。ユニット5 aとユニット5 bでそれぞれ様相が異なる。ユニット間で母岩共有はみとめられず、時期的に細別される可能性もある。また第4文化層との異同や前後関係も問題となろう。ユニット5 aは、硬質石材と黒曜石がそれぞれ母岩ごとに狭い範囲にまとまる5か所のブロックで構成され、小型の両面調整の尖頭器、硬質石材を用いた石刃生産を示す接合資料がみとめられる。石刃生産技術は概ね第4文化層と共通し、硬質石材を用いて、打面再生と打面調整を繰り返して石刃を連続剥離している。一方、ユニット5 bは黒曜石を主体とし、有極尖頭器を特徴的に伴う。石刃生産を示す接合資料は認められない。ナイフ形石器は両ユニットで出土している。第4文化層と同様に裁断加工を基本とするが、基部が尖鋭に整形されず丸みを帯びるものが多い。

第6文化層 総計433点の石器・礫、6か所のブロックで構成され、Ⅲ層の石器群と推定される。礫群が主体になるブロックである。文化層内の各ブロックの同時性は確かではないが、出土層位がソフトローム層上位に集まり、第4・5文化層と区別される一群について文化層を設定した。

2II-35ブロックでは稜柱型細石刃核が出土している。いずれも小型の細石刃核である。最終剥離が石核底面を取り込み、作業面が大きく削られた状態で廃棄されているものが多い。石材消費の末端的様相を示す。類似する石器群としては柏市屋敷内遺跡Ⅱ層～Ⅲ層上部文化層、柏市小山台遺跡第6文化層、流山市市野谷入台遺跡第5文化層などがあげられる。

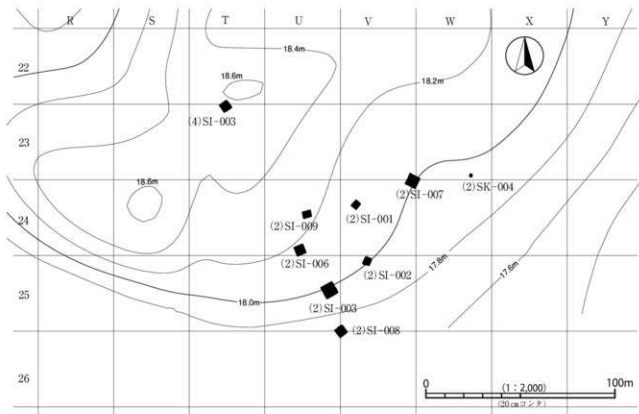
第2節 縄文時代

検出された遺構は、中期阿玉台式期の堅穴住居跡1軒・礫集中地点1か所、早期～前期と思われる陥穴21基が検出され、集中度は低いが、早期前半の遺物散布と早期後半の礫散布がみられた。遺構は全て南側の地金堀から延びる小支谷に面した台地上にあり、遺跡北側に当たる第3・12・15・16・18・19次調査地区では検出されていない。陥穴は本遺跡に近接する大割遺跡や溜井台遺跡などでも地金堀やそこから延びる小支谷に面する場所にみられ、一帯が狩猟の場として利用されていたことが窺える。

調査面積に比して縄文時代の遺物量は少なく、通常千葉県内でみられる遺物包含層としてのⅡ層の遺存も悪く、明らかな遺物の集中的出土はみられなかった。出土した早期土器の中に山形押型文土器が含まれていた。出土地点についてはまとまりがあり、焼成、胎土が類似することから1個体の可能性が高い。焼成が良く硬質で粗い砂粒が少ないが目立つ。器厚が薄いことから小型の深鉢と考えられる。器形は口縁部が緩く外反し、胴部は緩く膨らむようである。施文された山形押型文は帯状を呈し、一部の破片では横施文と縦施文の異方向施文が認められる。その施文は、口縁部に横方向、その直下から縦施文が行われている。中島宏による1帯型に相当する(中島 2004)。単純な帯状山形文であることから横式1式に比定される。周辺からは、非常に散漫に稲荷台式や古い時期の沈線文系土器が出土しており、これらと押型文土器との関連性を詳しく検討するデータには乏しい。内山遺跡内から出土している土器のうち三戸式ないしは田戸下層式の古い時期の土器に押型文土器が並行する可能性が高いと推測される。

第3節 古墳時代

検出された古墳時代の遺構は、中期の堅穴住居跡8軒と堅穴状遺構1基である。第262図に示したように、

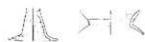


第262図 古墳時代遺構分布図

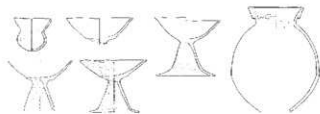
やや離れた場所にある(4)SI-003を除くと、地金堀と呼ばれる谷津から延びる小支谷の谷頭部に当たり、周辺では最も高い場所集落が展開している。確認面での標高は、(4)SI-003が18mと高く、(2)SI-008の17mに向かって緩い傾斜面となっている。堅穴住居跡からは小形の埴や杯部下端部に稜を作り出し、脚部が「ハ」の字状に開く高杯、複合口縁の壺、球形胴部の甕などが共通して出土しており、時期的には、4世紀後葉～5世紀中葉にかけての集落と考えられ、短期的な集落といえよう。(2)SI-002や(2)SI-003は4世紀後葉の集落初期の堅穴と考えられ、その規模は小規模である。5世紀に入ると(2)SI-003のような一辺約7mの堅穴が現れる。堅穴の構造は、方形を呈する平面形で主軸方位は北東方向をとるものが主体で、カマドが堅穴の主軸線からやや東にずれているものが多い。いわゆる貯蔵穴は北東コーナーのものが主体である。(2)SI-009のみ長方形の平面形を呈する特異な形態で、高杯を転用した羽口やその未成品を伴うことから鍛冶関連の工房跡の可能性が高い。

本遺跡に隣接する屋敷内遺跡では、中期前半の堅穴住居跡2軒(堅穴住居跡の炉と考えられる土坑を含む)・遺物集中地点1か所・溝1条が検出され、単一時期の遺構群であり、前後の時期の遺構は全くない。利根川に面する台地上の富士見遺跡では前期2軒と中期7軒、隣接する駒形遺跡では前期2軒と中期1軒の堅穴住居跡が検出されている。これらは遺跡北側にある小支谷を中心に分布しており、前期が4軒、中期が8軒の堅穴住居跡からなる集落であったと考えられる。しかし、駒形遺跡と富士見遺跡・大松遺跡の南側にある小支谷沿いには、前期・中期の集落は全くみられず、駒形遺跡と大松遺跡の境から後期の堅穴住居跡が1軒検出されているだけである。北側の小支谷の最深部に当たる矢船Ⅱ遺跡では、中期の堅穴住居跡12軒が検出されている。本遺跡から東に約1km離れ、利根川により樹枝状に大きく開析された台地上

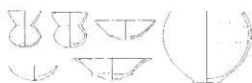
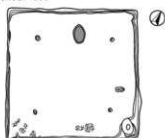
(2)SI-001



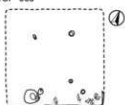
(2)SI-002



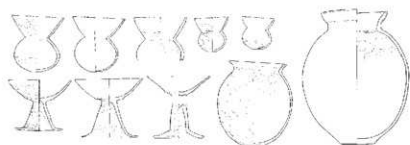
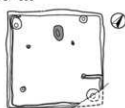
(2)SI-003



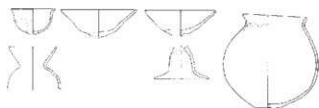
(2)SI-006



(2)SI-008



(2)SI-007



(2)SI-009



竪穴 S=1.200

遺物 S-1/10

第263図 古墳時代の竪穴住居跡と出土遺物

にある田中小遺跡では、前期の14軒、中期5軒、後期2軒の竪穴住居跡が検出され、未調査の範囲が広いものの、時期が下るとともに竪穴住居跡は減少傾向にあるとされている。このほかには、原畑遺跡や寺下前遺跡・花前Ⅲ遺跡から中期の竪穴住居跡が2軒～3軒検出されているだけである。

本遺跡から南東に約3.7km離れ、手賀沼に注ぐ大堀川右岸の台地上に所在する呼塚遺跡は、前期から中期にかけての方形環濠や大型竪穴住居跡をはじめ多数の竪穴住居跡が検出され、東海系・畿内系・北陸系などの外来系土器も出土し、この地域の拠点集落と考えられている。呼塚遺跡以外では、田中小遺跡でタタキ目をもつ畿内系甕や北陸系器台など、胸形遺跡で北陸系器台、富士見遺跡でグリッド一括資料であるがS字状口縁台付き甕が出土している。これらの遺跡は、呼塚遺跡の影響のもとに形成された分村的な集落であったと思われる。中期になるとさらに拡散し、本遺跡や矢船Ⅱ遺跡などの分村が出現し、原畑遺跡や寺下前遺跡・花前(Ⅲ)遺跡・鴻ノ巣遺跡などにごく小規模な集落がみられるようになる。しかし、拠点集落である呼塚遺跡は後期以降集落が継続することではなく、大堀川を挟んだ手賀沼の北岸に当たる中馬場遺跡に拠点が移ることになる。こうした状況と軌を一にするように、本遺跡を含めほとんどの遺跡で後期まで集落は続かず、田中小遺跡や大松遺跡・花前(Ⅲ)遺跡などでわずかに1軒～2軒の竪穴住居跡がみられるだけとなる状況は、地勢的な変化だけでなく、政治的な変化などが地域集団の動静に大きく関与している可能性が高いのだろう。

第4節 平安時代

検出された遺構は、竪穴住居跡8軒である。これらは、2軒の竪穴住居跡を除いて古墳時代中期の竪穴住居跡の分布範囲と概ね重複しており、地金堀と呼ばれる谷津から延びる小支谷の谷頭部に当たり、周辺では最も高い場所に集落が展開している。竪穴住居跡の位置関係は(4)SI-001と002は重複し、(7)SI-001と(14)SI-001を除いた6軒は、互いに50m～60m離れているが比較的まとまっている。(7)SI-001は東に約230m、(14)SI-001は西に約280m離れた場所にあり、集落の一部とはいえないような位置関係にある。

竪穴の構造は、隅丸方形の一辺4m前後の小規模なものが主体である。竪穴の主軸方位は北や西、東を向くものなどがあり一定していない。カマド位置は、主軸上の北側だけでなく、隅カマドなどもある。出土土器は土師器主体で、須恵器がほとんどないのが本遺跡の特徴であり、(2)SI-005で甕の小破片が数点見られるだけである。また、土師器甕は口縁部端部を摘まみ上げる長胴の甕で、常態型甕は全くみられない。灰釉陶器が(7)SI-001から1点出土している。この甕は、灰釉のつけ掛けによるもので折戸53号窯式期の特徴であり、年代としては10世紀中葉の年代が与えられている。また、杯ないしは碗とも呼ぶような土師器類は、全てロクロ成形で、内面だけにとどまらず外面も黒色処理されているものがあり、特異なものも含まれる。口径に対して底径が1/2以下のものが主体で、器形を3種に分けることができる。

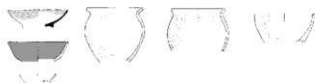
A類 口径が14cm～16cmで器高が5cmのもの

B類 口径が12cm～13cmで器高が3cm～4cmのもの

C類 口径が10cm～11cmで器高が3cm以下のもの

A類は内面が黒色処理されミガキ調整されるもので、A類からC類へと小型化し、そのまま時間的推移を示している。これらの土器と土師器高台付杯や碗、土師器甕との共伴関係により竪穴住居跡をI期～Ⅲ期に区分することができる。

(7)SI-001



(14)SI-001

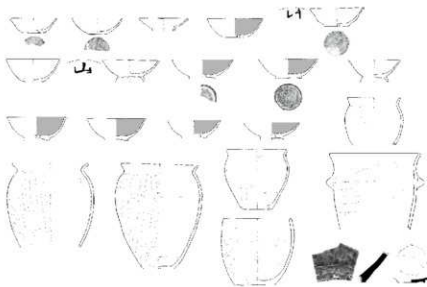


I期

(2)SI-004

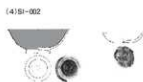
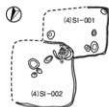


(2)SI-005



II期

(4)SI-001・SI-002



(2)SI-010



III期

竪穴 S=1/200

遺物 S=1/10

第264図 平安時代の竪穴住居跡と出土遺物

I期は、(7)SI-001と(14)SI-001で、土師器杯はA類からなり、(7)SI-001のものは底径がやや大きく、(14)SI-001のものは体部外面に手持ちヘラ削り調整が施され、古い様相を示している。年代は(7)SI-001出土の灰軸陶器碗の折戸53窯式期に相当する時期、10世紀前半期に該当する。

II期は、(2)SI-004・005と(4)SI-001で、(2)SI-005出土資料が代表する。土師器高台付杯の割合が高く、土師器杯はA類とB類が共存している。年代はI期に続く10世紀後葉に該当する。

III期は、(2)SI-010と(4)SI-002で、土師器杯はC類である。年代は10世紀後葉～11世紀前葉に該当する。(4)SI-001・002については、002から土師器高台付杯と土師器杯C類が出土しているが、001→002の新旧関係があることから、001に土師器高台付杯、002に土師器杯C類が伴うと推定される。

以上のように、本遺跡では10世紀前半のI期～11世紀前葉のIII期までの3時期にわたって2軒～3軒の竪穴住居跡が営まれていたと考えられる。

周辺の状況を見ると、本遺跡の北側には8世紀前半～11世紀代まで継続して集落が営まれていた花前I～III遺跡があり、特に、花前VII期(9世紀後半～10世紀前半)から花前IX期(10世紀後半)の期間は、花前II遺跡における鉄生産が最も盛行し、それに関連する花前I・III遺跡では集落規模が拡大する。これらの遺跡に先行する集落は、8世紀前半～中葉の竪穴住居跡12軒と掘立柱建物跡3棟・小鍛冶関連遺構1基が検出された水砂遺跡と、それに続くと思われる8世紀後半～9世紀前半の竪穴住居跡8軒が検出された館林遺跡がある。これらの遺跡は、利根川から延びる同じ小支谷に面した台地上に所在し、製鉄遺跡であることと一定数の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が存在していることなどから、この地域で継続的に存在した主要な集落であったと思われる。これらの外縁部に存在する遺跡として、本遺跡や中山新田I～III遺跡・聖人塚遺跡・駒形遺跡・大松遺跡などがあるが、これらは8世紀中葉～10世紀代にわたって竪穴住居跡が1軒～2軒単位で短期間存在しているものであり、一つの遺跡で継続して集落が営まれずに推移するらしい。同様に本遺跡も花前II遺跡の鉄生産の活発化に呼応して、小規模な単位で集落が始まり、薪炭の調達など鉄生産に何らかの関連性を持ちながら、概ね10世紀代に存続した小規模集落ではないかと推測される。

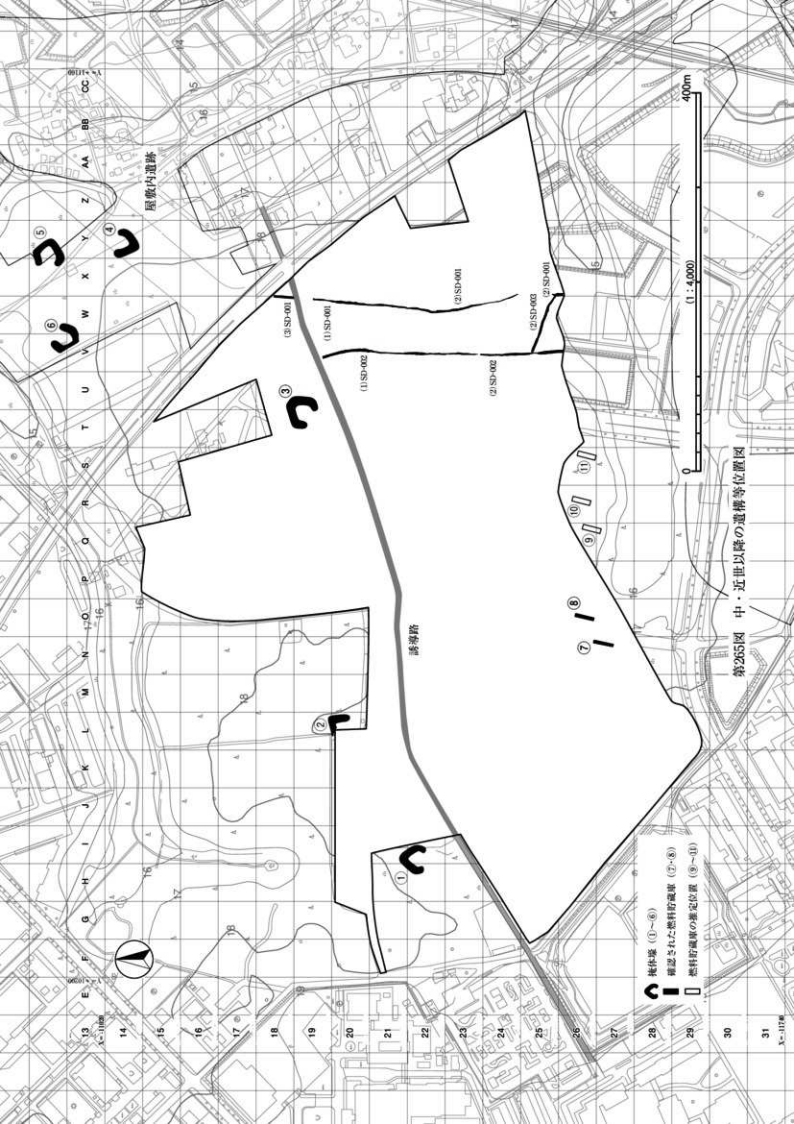
第5節 中・近世以降

1 中・近世

検出された遺構は、地下式坑1基、井戸1基、土坑5基、溝3条である。本遺跡に隣接する屋敷内遺跡や須賀井遺跡では屋敷地と思われる台地整形区画や掘立柱建物跡、地下式坑などが検出されているが、本遺跡では屋敷地に関連すると思われる遺構は全く見られない。(1)SD-001・(2)SD-001・(3)SD-001は屋敷内遺跡の(27)SD-001と同一の溝であり、西側に並走する(1)SD-002・(2)SD-002などととも畑地と牧とを画する溝(欄列)として作られたと思われる。

2 近代

内山遺跡の西側には、かつて柏飛行場が所在していた。1938年に完成した柏飛行場は、全長1,500m、幅60mのコンクリート舗装された滑走路1本と飛行機分散秘匿用誘導路3本を備え、戦闘機を隠すための掩体壕が周辺地区に配置されていた。日本で初のロケット推進戦闘機「秋水」が飛んだことでも知られている。柏北部中央地区土地区画整理事業地内の遺跡のうち、屋敷内遺跡及び内山遺跡内に柏飛行場関連遺構が点在し、内山遺跡の範囲内には、掩体壕と1945年に設置された秋水配備のための燃料貯蔵車庫の一部



屋敷内道路

誘導路

400m

1 : 4,000

第265図 中・近世以降の電線等位置図

- ①~⑥ 構体跡
- ⑦~⑧ 認定された地質的遺産
- ⑨~⑪ 地質的遺産の準位置

の存在が確認されていた。本件について、千葉県教育委員会は柏市教育委員会と協議を行い、発掘調査対象範囲に柏飛行場関連施設があった場合、埋蔵文化財としての記録保存の対象とはしないが、写真や簡易な記録にはとどめる措置を講じることとした。そこで本項では、これまで事業地内で行った柏飛行場関連施設の掩体壕及び燃料貯蔵庫の調査概要を記すこととする。

これまでに実施された内山遺跡(1)～(20)までの調査地点内で確認された施設は、土手状の高まりが確認できた掩体壕1基③と燃料貯蔵庫とみられる施設2基⑦・⑧である。

掩体壕 第265図①～⑥は、内山遺跡周辺も含めた掩体壕の位置を示している。仮に西側から東に向かって番号を付した。全て無蓋の掩体壕で、平面形はカニの爪状を呈する特異な形態を呈している。

①はこんぶくろ池自然博物館の整備に伴い保存措置が講じられた掩体壕で、周囲の整備が行われてかつての形態をよく残している。②はこんぶくろ池自然博物館用地内に一部が残っている。区画整理事業地内の部分は、区画整理事業開始以前に既に失われている。

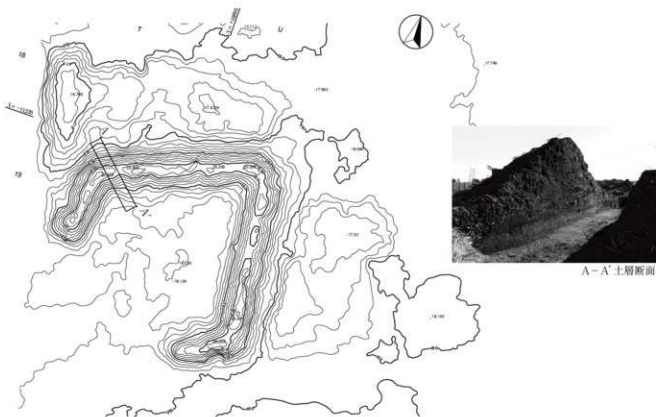
③が内山遺跡(19)の調査地点に位置した掩体壕である。ほぼかつての形状を残していると考えられ、柏市教育委員会によって測量が行われている。第266図に測量図と土層断面図を掲載した。開口部の広さは約12m、最大規模は奥行き約30m、横幅約40mの規模で、格納部の内側規模は、奥行き約20m、幅約20mである。現地表面からマウンドの最高位までは約2.3mある。2式戦闘機(全長8.9m)などであれば、機体を格納するには十分な規模であったと考えられる。マウンドの土層の堆積状況から、掩体壕外縁部だけでなく内側からも削土してマウンドの構築に使用していると考えられ、周囲は窪地となって残っている。第265図の④～⑥は、区画整理事業地内の屋敷内遺跡内で確認されており、ほぼ③の掩体壕と同規模である。

なお、内山遺跡中央を東西方向に走る現道が、各掩体壕への移動に使用された誘導路と考えられる。

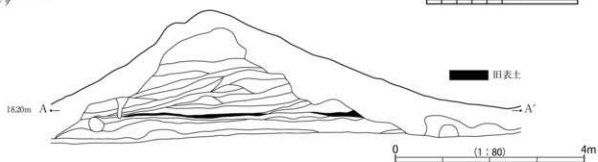
燃料貯蔵庫 1945(昭和20)年4月、秋水開発のための陸軍の特務部隊が秋水配備のための実験・訓練・研究を開始したとされており、花野井、大室地区には秋水の燃料貯蔵庫が設けられることになったという。陸軍航空本部による工事が行われ、その施設の一部が内山遺跡内に残っていた。1960年代に開業した柏ゴルフ倶楽部のゴルフコース内に築山として盛土され、保存されていたものである。第265図の⑦が内山遺跡(14)の調査区内に、また⑧が内山遺跡(9)の調査区にかかる隣接地に所在することが確認され、燃料貯蔵庫の外形や内部の状況などが明らかになった。また、調査予定地以外のこんぶくろ池自然博物館一号近隣公園内では、第265図⑨～⑪の3つの燃料貯蔵庫の所在が確認されている。燃料貯蔵庫群は、東から入り込むごく浅い谷の北側斜面に沿って設置されていたと考えられる。

⑧が内山遺跡(9)の調査区内に一部がかり、トレンチによる確認が行われた燃料貯蔵庫である。検出状況を第267図に示した。燃料貯蔵庫の鉄筋コンクリート製ヒューム管のうちの最も奥に位置する部分が検出され、その先のトレンチからはやや位置がずれた2本目の損壊したヒューム管が確認された。また、その延長線上にはコンクリート製の緑石がトレンチ内で確認されている。3連の燃料貯蔵庫であった可能性が高く、⑦と同じように入口部のヒューム管は失われていると考えられる。

⑦が内山遺跡(14)の調査区内に位置していた燃料倉庫である。明らかになった躯体の状況を第268図に示した。躯体は、鉄筋コンクリート製のヒューム管3本を連結していたと考えられるが、既に入り口部の1本は失われており、中央のヒューム管は、天井部の一部が失われていた。ヒューム管3本を連結した貯蔵庫の推定規模は、約7.4mである。ヒューム管1本の規模は、外径2.4m、有効長2.5mである。ヒューム管の設置に伴う特別な基礎の養生は行われていないようである。ヒューム管内には幅0.5mのコンクリ-



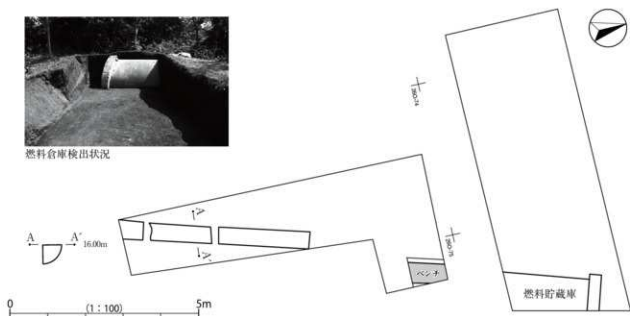
※柏市教育委員会提供
※20cmコンテ



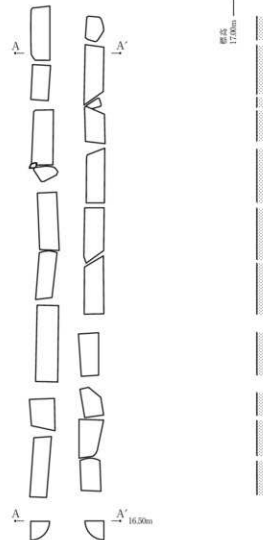
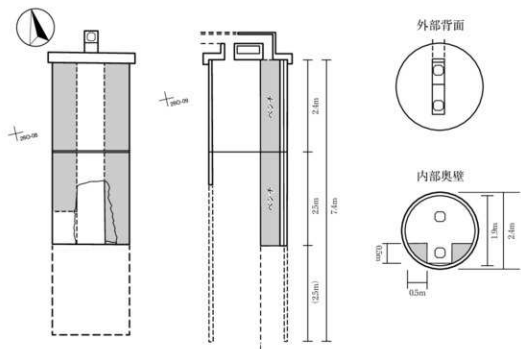
第266図 内山遺跡(19)に位置する掩体塚③



燃料倉庫検出状況



第267図 内山遺跡(9)に位置する燃料貯蔵庫⑧



内部構造



燃料貯蔵庫全景

第268図 内山遺跡(14)に位置する燃料貯蔵庫⑦

ト製ベンチが左右に設置されており、秋水に使用される液体燃料を専用のガラス瓶に詰めてそこに置いていたと考えられる。奥壁はコンクリートの流し込みによるもので、上下に八角形の換気孔が設置され、外側に設置されたコンクリート製の四角い煙突に繋がって換気されていたと考えられる。煙突上部は失われており、その構造は不明である。倉庫の出入口の構造や扉の有無なども不明である。入口部近くからコンクリート製の縁石が2条並んで前方13m付近まで確認することができた。縁石両端の幅は約2mであることから、車両での進入が可能ないように設置されていたと推測される。倉庫が谷部に位置し、水はけの悪い柔らかい地面であったことから、縁石が設置されたのであろう。ただ、当時の特兵隊員で燃料業務に従事していた方の略図によれば、入口部はヒューム管から直角に曲がるL字方向であったという。入口部の構造がその設置場所によって異なっていたのか、あるいは終戦後に改変されたのかは不明である。

こんぶくろ池自然博物公園一号近隣公園内には、燃料倉庫跡が埋まっていると考えられるマウンドが3基残っており、施設規模は、⑦や⑧と同規模と推測される。

参考文献

- 栗田尚弥 2007『歴史ガイドかしわ』柏市教育委員会
上山和雄編著 2015『柏にあった陸軍飛行場-「秋水」と軍関連施設-』芙蓉書房出版
柏市 2000『柏市史 近代編』
第五回地域史懇合呼びかけ人 2020『第五回地域史懇合報告書 地域史・学校・博物館』
中島宏 2004『掘沢式押型文土器の型式学的検討』『埼玉県立歴史資料館研究紀要』第26号

写 真 图 版



正覚寺
山内氏
墓所

とんぼくろ池

正覚寺山内氏墓所

赤死池

内山遺跡

興協前遺跡

屋敷内遺跡

北花崎遺跡

大宮遺跡

須賀井遺跡

岩野台遺跡

原山遺跡

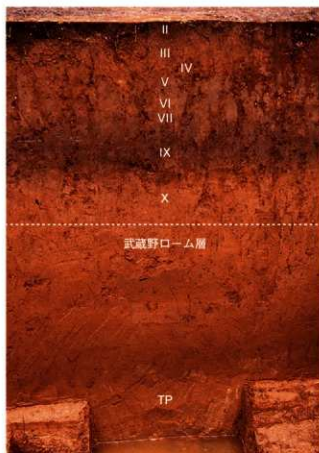
正覚寺山内氏墓所

正覚寺山内氏墓所

正覚寺山内氏墓所

須賀井遺跡

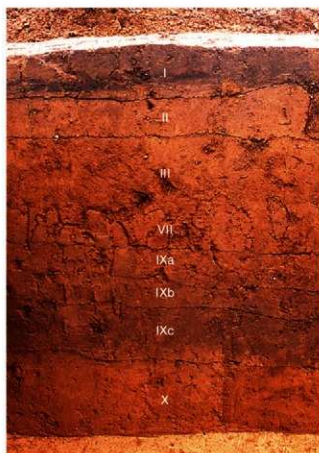
内山遺跡周辺航空写真



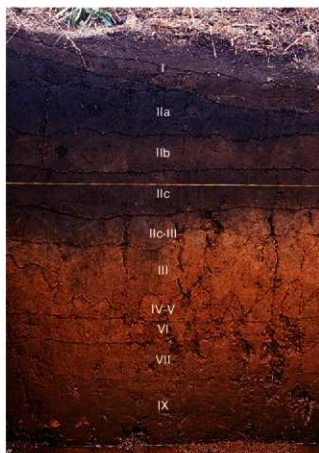
22V-84 東壁セクション



20V-46 東壁セクション



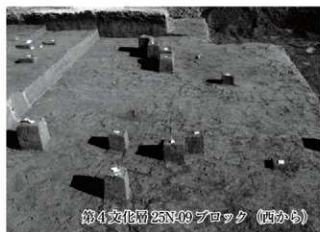
26L-94 東壁セクション



26M-72 東壁セクション









第4文化層21V-90ブロック(北東から)



第4文化層21V-66ブロック(南から)



第4文化層21V-66ブロック
旧石器拡張区セクション(東から)



第4文化層22V-95ブロック(南から)



第5文化層ユニット5a東側(南から)



第5文化層ユニット5a東側(南から)



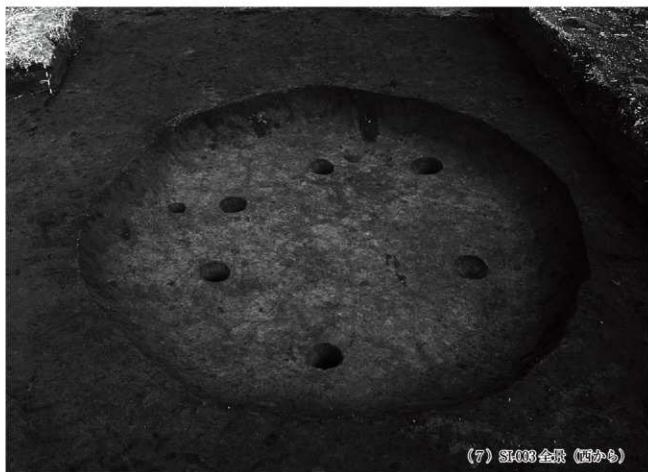
第5文化層27L-03ブロック(西から)

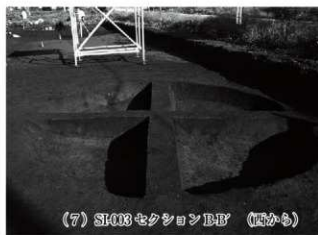


第5文化層27L-21ブロック(西から)











(1) SK-002 全景 (北から)



(1) SK-004 全景 (南東から)



(2) SK-001 全景 (東から)



(2) SK-002 全景 (南から)

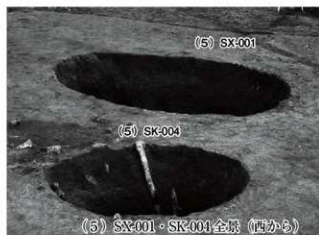


(4) SK-002 全景 (東から)



(4) SK-003 全景 (南西から)









(2) SI001 遺物出土 (北から)



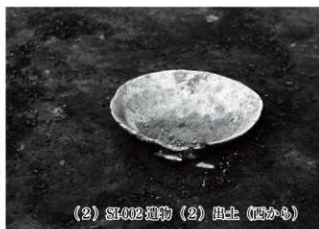
(2) SI001 貯蔵穴遺物出土 (南から)



(2) SI002 遺物出土 (北から)



(2) SI002 遺物 (1) 出土 (北西から)



(2) SI002 遺物 (2) 出土 (西から)



(2) SI002 遺物 (3・4) 出土 (北から)



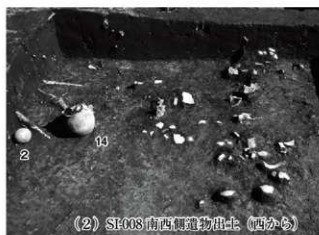
(2) SI002 遺物 (5・7) 出土 (北から)



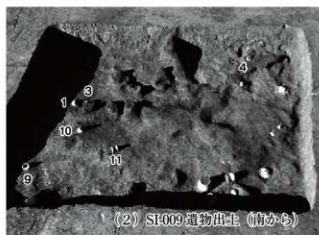
(2) SI002 遺物 (6) 出土 (西から)











(2) SK009遺物出土 (南から)



(2) SK009貯蔵穴周辺遺物出土 (北西から)



(4) SK003全景 (南西から)



(2) SK004全景 (南から)



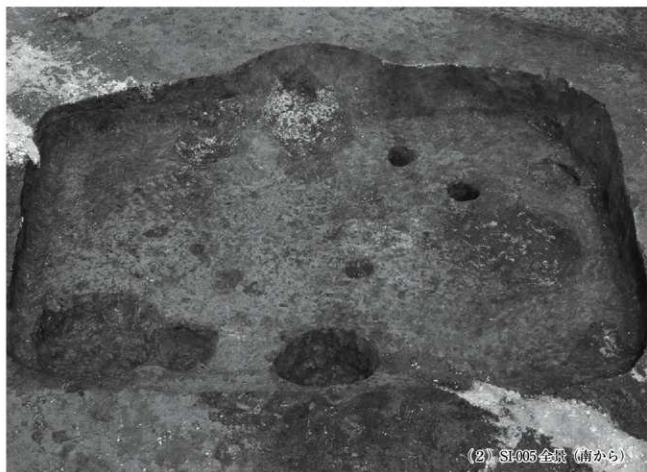
(2) SK004遺物出土 (南から)



(2) SI004全景 (俯み)



(2) SI004遺物出土 (俯み)

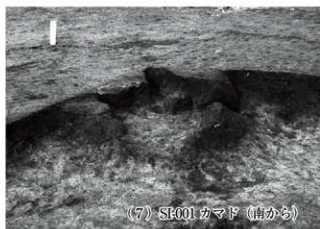








(7) SI001 全景 (東から)



(7) SI001 カマド (南から)

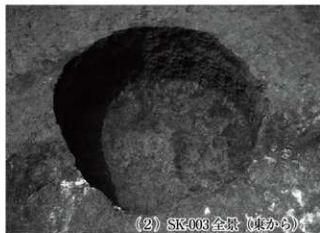


(14) SI001 遺物出土 (北から)

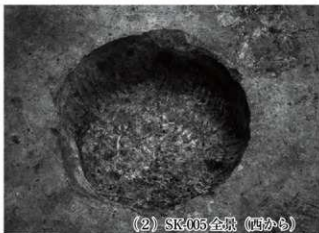


(14) SI001 セクション A-A' (北から)





(2) SK-003 全景 (東から)



(2) SK-005 全景 (西から)



(2) SK-006 全景 (西から)



(4) SK-007 全景 (南から)



(4) SK-009 全景 (北東から)

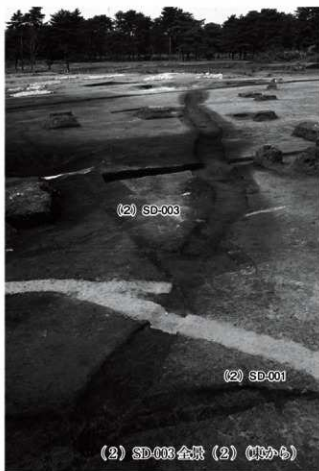
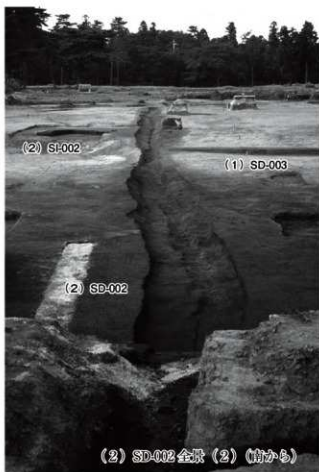
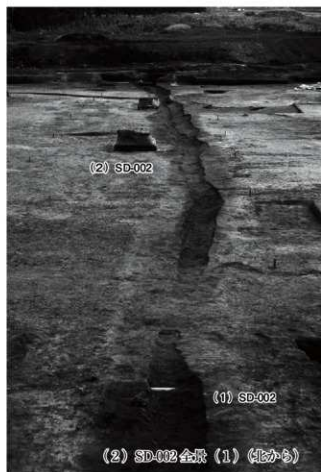


(3) SD-001 全景 (南から)



(1) SD-001 全景 (1) (南から)





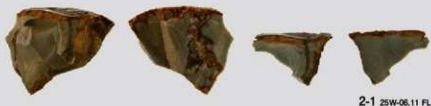
第1文化層 25W-06ブロック出土石器 (1)

SH
接合資料02012



1 a 25W-06,21 FL
1 b 25W-06,24 FL

SH
接合資料02013



2-1 25W-06,11 FL



2-2 25W-06,27 FL



2-3 25W-06,6 FL

SH
接合資料02011



3 a 25W-06, 9 GE
3 b 25W-06, 3a GE
3 c 25W-06, 3b GE
3 d 25W-06,15 GE
3 e 25W-15, 6 GE
3 f 25W-15, 5 GE
3 g 25W-06,28 GE
3 h 25W-06,16 GE
3 i 25W-06,25 GE
3 j 25W-06,23 GE
3 k 25W-06,12 GE

第1文化層 25W-06ブロック出土石器(2)

GA
接合資料02014

第1文化層 23AA-99ブロック出土石器

1 8ブロック-266
FL RH2 8ブロック-202
FL SH3 8ブロック-259
FL SH4 8ブロック-204
FL BS

第1文化層 24AA-19ブロック出土石器



1 Bブロック-83
GR CC



2 Bブロック-71
RF CC



3 Bブロック-76
FL SH



4 Bブロック-87
FL SH



5 Bブロック-80
FL SH



6 Bブロック-74
FL CH



7a Bブロック-77 FL
7b Bブロック-257 CH



8 Bブロック-79
FL BS



9 Bブロック-214
FL BS



10 Bブロック-81
FL CC

CH
接合資料07004

第1文化層 24BB-20ブロック出土石器 (1)



1 Bブロック-208
RF TU



2 Bブロック-209
FL GA



3 Bブロック-16
FL GA



4 Bブロック-206
FL GA



5 Bブロック-207
FL GA

第1文化層 248B-20ブロック出土石器(2)

6 Bブロック-231
FL GA7 Bブロック-13
FL GASH
接合資料070108a Bブロック-253 FL
8b Bブロック-58 FL9 Bブロック-238
FL SH10 Bブロック-15
FL SHBS
接合資料0700211a Bブロック-56 FL
11b Bブロック-53 FL12 Bブロック-59
FL BS13 Bブロック-25
FL BS14 Bブロック-52
FL CHCH
接合資料0700315a Bブロック-227 FL
15b Bブロック-228 FL16 Bブロック-54
FL TU18 Bブロック-21
FL RH17 Bブロック-220
FL TU

第1文化層 24BB-20ブロック出土石器 (3)



19 Bブロック-64
FL TO



20 Bブロック-10
FL SS

HO
接合資料07008



21a Bブロック-249 FL
21b Bブロック- 22 FL

第1文化層 24BB-31ブロック出土石器 (1)



1 Bブロック-38
RF CH

CH
接合資料07006



2-1a Bブロック-37 FL
2-1b Bブロック-35 CH



2-2 Bブロック-240 FL



2-3 Bブロック-40 CH



2-4a Bブロック-241 FL
2-4b Bブロック- 41 FL

第1文化層 24BB-31ブロック出土石器 (2)

BS

接合資料07001



第1文化層 24BB-61ブロック出土石器

CH

接合資料07009



CH

接合資料07007



第1文化層 24AA-58ブロック出土石器



1 Bブロック-106
RF CH



2 Bブロック-115
RF SS



3 Bブロック-100
FL GA

CH
接合資料07005



4-1 Bブロック-108 FL



4-2 Bブロック-154 CO

第1文化層 24AA-55ブロック出土石器



1 Bブロック-179
CO CH



2 Bブロック-180
CO CH

第2文化層 19Q-43ブロック出土石器 (1)



1 19Q-43.6
FL SS



2 19Q-52.102
FL SS

第2文化層 19Q-43ブロック出土石器 (2)

GA

接合資料12038



3-1 19Q-43.1 FL

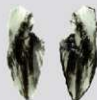


3-2 19Q-53.3 FL



3-3 19Q-53.2 FL

第2文化層 24W-78ブロック出土石器

1 24W-78.4
KN OB2 24W-78.6
KN OB3 24W-78.5
MF OB

第2文化層 24Z-22ブロック出土石器



1 Aブロック-14
RF CH



2 Aブロック-6
HS AN

第3文化層 15P-66ブロック出土石器



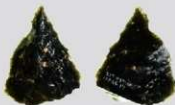
1 15P-77.8
KP OB1007



2 15P-75.50
KN OB



3 15P-66.54
KN SH



4 15P-66.17
RF OB1008



5 15P-77.3
RF OB1008



6 15P-67.8
RF OB1008

7 15P-66.15
RF GA

SH
接合資料20058

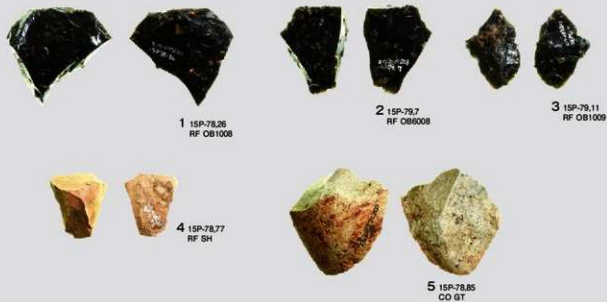


8-1 15P-66.14 FL



8-2 15P-66.11 FL

第3文化層 15P-78ブロック出土石器



第3文化層 15P-95ブロック出土石器 (1)

BS0008

接合資料20059



第3文化層 15P-95ブロック出土石器 (2)



第3文化層 15P-97ブロック出土石器



第3文化層 16Q-15ブロック出土石器(1)

OB1003

接合資料12029



1-1 16Q-15.3 FL



1-2 16Q-25.2 FL



1-3 16Q-15.80 CH



1-4a 16Q-25.10 KP

1-4b 16Q-25. 9 KP

2 16Q-15.4
KP OB10033 16Q-25.7
KP OB10034 16Q-14.4
KN OB10035 16Q-15.18
KN OB10036 16Q-15.21
KN SH10087 16Q-25.1
RF OB1003

OB1003

接合資料12020

8 a 16Q-14.6 FL
8 b 16Q-14.7 FL

OB1003

接合資料12026

9 a 16Q-12, 1 FL(ブロック外)
9 b 16Q-24, 1 FL
9 c 16Q-15.89 FL

第3文化層 16Q-15ブロック出土石器 (2)

OB1003
接合資料12022



10a 16Q-15,40 FL
10b 16Q-14,17 CH

OB1003
接合資料12021



11a 16Q-14, 3 FL
11b 16Q-15,20 FL

OB1003
接合資料12025



12a 16Q-15,16 FL
12b 16Q-15,17 FL

OB1003
接合資料12023



13-1 16Q-14,1 FL

13-2a 16Q-15,26 FL
13-2b 16Q-15,23 CH

第3文化層 18T-71ブロック出土石器

OB2002
接合資料16001



1 a 18T-71,1 FL(-底)
1 b 18T-70,7a FL

第3文化層 18U-46ブロック出土石器



1 18U-56,3
KP SS0009



2 18U-56,2
KN OB

第3文化層 21S-69ブロック出土石器

HO
接合資料040011 a 21S-78, 2 FL
1 b 21S-78, 6 FL
1 c 21S-78,10 FL

第3文化層 270-62ブロック出土石器 (1)

GA2001
接合資料09018GA2001
接合資料090191 270-71.2
KN GA20012 a 270-62,20 FL
2 b 270-62,14 RF3 a 270-62,8 RF
3 b 270-72,3 RFSH0004
接合資料09025

4-1 270-71,7 FL



4-2 270-71,8 FL

第3文化層 270-62ブロック出土石器(2)

GA1002
接合資料09016



5-1 270-62.21 FL



5-2 270-62.17 FL



5-3 270-62.19 FL



5-4 270-62.7 CO

GA2001
接合資料09017



6-1 270-62.28 FL



6-2 270-62.22 FL

6-3 270-62.15 CO

第3文化層 270-62ブロック出土石器 (3)

SH2006

接合資料09001



7-1 270-62.16 FL



7-2 270-62.9 FL



7-3 270-62.4 FL



7-4 270-62.24 FL



7-5 270-62.11 FL



7-6 270-61.1 FL



7-7 270-62.10 FL



7-8 270-62.8 CO

SH2002

接合資料09002



8-2 270-62.5 CO



8-1 270-62.27 FL

第4文化層 19Q-11ブロック出土石器 (1)



1 19Q-21.2
KN HS0001



2 19Q-21.1
RF BS0001



3 18Q-92.3
FL HO0001



4 19Q-02.17
FL SH0003



5 19Q-02.14
CO SH0002



6 19Q-02.101
CO SH0002

SH0003
接合資料12034



7-1 19Q-02.19 FL

7-2a 19Q-02.10 FL
7-2b 19Q-12, 3 FL

HO0002
接合資料12036



8-1 19Q-11.18 FL



8-2 19Q-11.22 FL

第4文化層 19Q-11ブロック出土石器 (2)

HO0002
接合資料12036

8-3 19Q-11.25 CO

SH0003
接合資料12033

9-1 19Q-02.12 FL



9-2 19Q-02.15 FL



9-3 19Q-02.11 FL



9-4 19Q-02.7 FL



9-5 19Q-02.4 FL

9-6a 19Q-02.16 FL
9-6b 19Q-02.16 FL

第4文化層 19Q-11ブロック出土石器 (3)

SH0003
接合資料12035



10-1 19Q-02,20 FL



10-2 19Q-11,12 FL



10-3 19Q-02,8 CO

第4文化層 23N-31ブロック出土石器 (1)

RH0002
接合資料10001



1 a 23N-31,22 KN
1 b 23N-31,29 KN



2 23N-31,11
FL SH

第4文化層 23N-31ブロック出土石器(2)

GA3001

接合資料10002



3-1 23N-31.16 FL



3-2 23N-31.10 FL



3-3 23N-31.21 FL



3-4 23N-31.6 FL

3-5a 23N-31.15 FL
3-5b 23N-31.14 FL

3-6 23N-31.9 FL



3-7 23N-31.13 FL

第4文化層 23N-31ブロック出土石器 (3)

GA3001

接合資料10005



4-1a 23N-31.20 FL

4-1b 23N-31.18 FL



4-2 23N-31.3 FL

4-3 23N-31.17 FL

SH2004

接合資料10003



5-1 23N-31.27 RF

5-2 23N-31.2 FL

5-3 23N-31.25 RF

HS0002

接合資料10004



6-1 23N-31.7 FL

6-2 23N-31.4 FL

第4文化層 23N-63ブロック出土石器

1 23N-63.1
RF SS単独2 23N-64.2
FL SH単独3 23N-63.1
CO RH単独

第4文化層 24N-15ブロック出土石器

1 23N-95.1
SP OB2 24N-16.1
FL RH3 24N-26.4
FL SS

第4文化層 24N-09ブロック出土石器



1 24N-09.1
KN SS単独



2 24N-18.10
KN SS001



3 24N-09.5
FL SS

SH1003
接合資料11005



4a 24N-19.2 FL
4b 24N-09.3 FL

SH
接合資料11001



5a 23N-98.3 FL
5b 23N-98.2 FL

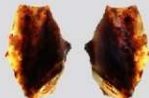
第4文化層 25N-06ブロック出土石器 (1)



1 25N-06.1
KN CC3001



2 25N-06.2
KN CC3003



3 25N-06.10
KN CC3001



4 25N-06.4
KN SS単独



5 25N-05.2
RF SH2003



6 25N-26.2
MF CC1004

CC3003
接合資料14033



7a 24N-87.3 FL
7b 24N-86.3 FL

第4文化層 25N-06ブロック出土石器(2)

8 25N-07.4
FL CC40039 25N-25.5
FL SH単独10 24N-86.7
FL SH11 25N-15.4
FL BS000412 25N-26.1
FL GA400613 25N-15.2
FL HS単独14 25N-25.9
CO SS単独15 25N-06.3
CO BS000416 24N-86.31
HS AN

第4文化層 25N-06ブロック出土石器 (3)

CC1004
接合資料14069



17-1 25N-36,4 FL



17-2 25N-06,14 FL

SS2001
接合資料14041



18-1 25N-25,3 FL



18-2 25N-25,6 FL

BS0004
接合資料14072



19-1 25N-06,7 FL



19-2 25N-15,3 FL

第4文化層 25N-09ブロック出土石器

1 25N-08.1
KN CC10012 24N-06.4
RF HS00063 25N-08.3
FL CC30044 25N-08.5
FL CC20035 25N-09.1
FL CC2003

第4文化層 25N-18ブロック出土石器

1 25N-18.2
KN CC3002CC3002
接合資料140702a 25N-28.2 FL
2b 25N-18.3 FL

第4文化層 25O-10ブロック出土石器 (1)

CC3005
接合資料140031 25O-20.2
FL CC40032-1 24N-06.43 FL
(25N-06ブロック)

2-2 25O-20.8 FL

第4文化層 250-10ブロック出土石器 (2)

SH1002

接合資料14031



3-1 25N-10,45 FL



3-2 250-20,6 FL



3-3 250-10,26 FL



3-4 250-10,29 CO

第4文化層 25N-46ブロック出土石器 (1)



1 25N-47,39
KN CC2501



2 25N-46,3
KN GA4003



3 25N-47,108
RF SS2002



4 25N-46,4
FL SH0006



5 25N-47,8
FL SS3001



6 25N-47,73
FL GA4003



7 25N-47,42
CO SS1001

第4文化層 25N-46ブロック出土石器(2)

SH2001

接合資料14023



8-1 25N-47,34 FL



8-2 25N-47,44 FL



8-3 25N-47,105 FL



8-4 25N-47,72 FL



8-5 25N-47,7 FL



8-6 25N-47,6 FL



8-7 25N-47,5 FL



8-8 25N-47,43 FL



8-9 25N-47,96 FL



8-10 25N-47,103 FL



8-11 25N-47,76 FL



8-12 25N-47,58 CO

SH2001

接合資料14037



9-1a 25N-47,18 FL

9-1b 25N-47,41 FL



9-2 25N-47,32 FL

第4文化層 25N-46ブロック出土石器 (3)

SH2001
接合資料14054



SH2001
接合資料14055



SH2003
接合資料14063



SS3002
接合資料14049



SS3001
接合資料14050



第4文化層 25N-46ブロック出土石器 (4)

CC2001
接合資料1403015-1a-25N-47, 109 FL
15-1b-25N-47, 49 FL

15-2 25N-47, 22 FL

CC2001
接合資料14079

16-1 25N-47, 3 FL

16-2 25N-75, 1 FL
(25N-53ブロック)

第4文化層 25N-53ブロック出土石器 (1)

SS1002
接合資料140711 25N-54, 9
KN GA40032 25N-54, 12
KN GA40043 25N-53, 2
KN SS20014a 25N-53, 5 KN
4b 25N-53, 14 KN5 25N-53, 7
KN SS10016 25N-64, 13
KN SH10057 25N-64, 8
KN SH準種8 25N-62, 1
KN CC20019 25N-54, 3
KN CC200110 25N-52, 1
KN CC11 25N-52, 2
KN CC100412 25N-63, 2
FL GA4003

第4文化層 25N-53ブロック出土石器（2）



13 25N-64.4
FL GA4003



14 25N-63.5
FL SS1001



15 25N-53.10
FL SS単独



16 25N-53.24
FL CC3001



17 25N-64.19
FL CC3004



18 25N-52.3
FL CC単独



19 25N-54.13
FL CC4008



20 25N-53.11
FL RH0003

GA4007
接合資料14016



21-1 25N-64.11 FL



21-2 25N-64.3 FL

第4文化層 25N-53ブロック出土石器 (3)

GA4007

接合資料14016



21-3 25N-64,6 FL



21-4 25N-64,18 FL



21-5 25N-64,14 CO

GA4006

接合資料14022



22-1 25N-64,23 FL



22-2 25N-64,20 RF

22-3 25N-28,6 FL
(25N-067ブロック)

22-4 25N-64,12 CO

GA4003

接合資料14005



23-2 25N-64,15 FL



23-1 25N-54,18 FL

第4文化層 25N-53ブロック出土石器 (4)

GA4003

接合資料14034



24-1 25N-54,20 FL



24-2 25N-54,19 FL

SS2002

接合資料14061



25-1 25N-53,19 FL



25-2 25N-53,16 FL



25-3 25N-52,5 FL

SS1003

接合資料14048



26-1 25O-20,7 FL
(25O-10ブロック)



26-2 25N-54,15 CO

SS2001

接合資料14081



27-1 25N-53,4 FL



27-2 25N-34,1 CO
(ブロック外)

第4文化層 25N-53ブロック出土石器 (5)

CC2001

接合資料14032



CC4004

接合資料14077



第4文化層 25N-51ブロック出土石器



第4文化層 23P-43ブロック出土石器



第4文化層 25S-15ブロック出土石器(1)



1 25S-05.2
KN GA4004



2 25S-05.6
RF RH



3 25S-05.1
FL GA



4 25S-16.3
FL GA



5 25S-25.5
FL GA

OB6003
接合資料05011



6a 25S-15.36a FL
6b 25S-16, 1 FL
6c 25S-15.50 CH

SH1015
接合資料05004



7a 25S-15.26 FL
7b 25S-15.39 FL
7c 25S-15.44 FL
7d 25S-15.40 CH

TO
接合資料05007



8-1 25S-15.12 FL



8-2 25S-15.20 CO

第4文化層 25S-15ブロック出土石器 (2)

TO
接合資料05012



第4文化層 25S-26ブロック出土石器



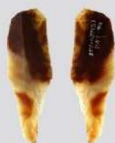
OB3004
接合資料05008



第4文化層 24T-90ブロック出土石器



1 25T-00.1
FL GA4005



2 24T-90.1
FL CC標識

GA4005
接合資料05010



3-1 25T-00.3 CO



3-2 25T-00.2 FL



3-3 25T-00.5 FL



3-4 25T-00.4 CO

第4文化層 21V-66ブロック出土石器 (1)

1 21V-67.4
KN OB60012 21V-66.20
KN OB6001OB6001
接合資料010153a 21V-76.71 KN
3b 21V-68. 4 KN
(21V-967ロック)4 21V-76.27
KN OB60015 21V-76.13
KN OB60016 21V-76.56
KN OB60017 21V-76.41
RF OB10018 21V-76.75
RF OB10019 21V-76.50
RF OB300510 21V-66.15
RF OB600111 21V-66.14
RF OB600112 21V-76.17
RF OB600113 21V-75.3
RF CC単独OB1001
接合資料0100814a 21V-66.16 RF
14b 21V-75. 4 RF15 21V-76.47
MF OB600116 21V-76.58
FL OB600117 21V-66.24
FL GAOB6001
接合資料01014

18-1 21V-76.60 FL



18-2 21V-76.32 FL

第4文化層 21V-66ブロック出土石器(2)

OB1001
接合資料01013



19-1 21V-66,4 FL
(21V-66ブロック)



19-2 21V-66,18 FL

OB6001
接合資料01001



20-1 21V-76,65 FL



20-2 21V-76,40 FL



20-3 21V-66,12 CO

GA
接合資料01010



第4文化層 21V-66ブロック出土石器 (3)

GA

接合資料01010



21-1 21V-76.33 FL



21-2 21V-76.9 FL

GA4008

接合資料01004



22-1 21V-76.45 FL



22-2a 21V-76.34 FL
22-2b 21V-76.22 FL



22-3 21V-76.78a FL

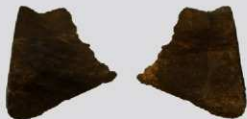
第4文化層 21V-66ブロック出土石器 (4)

GA4008

接合資料01004



22-4a 21V-76.24 FL
22-4b 21V-76.36 FL



22-5 21V-66.3a FL



22-6 21V-76.15 FL



22-7 21V-76.35 FL



22-8 21V-76.38 FL



22-9a 21V-76.44 FL
22-9b 21V-76.23 FL

GA4008

接合資料01006



23-1 21V-76.43 FL



23-2 21V-76.69 FL

第4文化層 21V-66ブロック出土石器 (5)

GA4008
 接合資料01007



24-1 21V-7637 FL
 24-2 21V-7639 FL



24-1 21V-7637 FL

第4文化層 21V-96ブロック出土石器



1 21V-96.5
KN OB6001



2 21V-95.3
FL GA

OB6001
接合資料01002



3a 22V-06.6 FL
3b 22V-08.3 FL

OB6001
接合資料01009



4a 22V-05. 6 FL
4b 22V-06.13 FL

第4文化層 22V-95ブロック出土石器 (1)



1 22V-85.24
KN OB3005



2 22V-85.5
KN OB6001



3 22V-84.3b
KN OB6001



4 22V-96.4
KN SS0006



5 22V-84.13
KN SS0006

OB6001
接合資料01003



7-1a 25S-05.12 FL
(25S-157ブロック)
7-1b 22V-85.18 FL



6 22V-84.3a
RF OB6001



7-2 22V-96.3 CO

第4文化層 22V-95ブロック出土石器 (2)

GA4001
接合資料01005

8-1 22V-85.15 FL



8-2 22V-85.16 FL



8-3 22V-85.20 FL



8-4 22V-94.3c FL

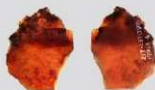


8-5 22V-85.6 FL



8-6 22V-85.9 CO

第5文化層 17P-68ブロック出土石器

1 17P-68.4
RF CC2 17P-68.3
CO MS

第5文化層 25O-93ブロック出土石器 (1)

OB5001
接合資料090321 25O-93.7
PO OB50012 25O-93.22
PO OB50013 25O-92.4
PO BS4a 25O-93.12 PO
4b 25O-93.19 PO

第5文化層 250-93ブロック出土石器(2)



5 250-92.13
PO GA半片



6 250-92.18
RF OB5001



7 250-93.32
RF OB半片



8 250-93.4
RF OB2001



9 250-93.25
RF OB5001

OB5011
接合資料09028



10-1 250-93.26 FL



10-2 250-93.4 FL

OB2001
接合資料09031



11a 250-92.19 PO
11b 250-92.16 PO

第5文化層 250-85ブロック出土石器

1 250-86.4
PO OB2001

CH0004 接合資料09020

2a 250-85, 19 FL
2b 250-85, 4 FLCH0004
接合資料09009

4-1 250-85.4 FL



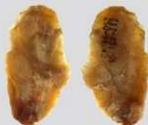
4-2 250-85.3 FL

3 250-86.7
FL CC4006

第5文化層 250-94ブロック出土石器 (1)

1 250-94.9
RF CC1002CC4005
接合資料09014CC4005
接合資料090302a 250-95, 7 RF
(250-85ブロック)
2b 250-94, 13 RF

3-1 250-94.38 FL



3-2 250-94.43 FL

第5文化層 250-94ブロック出土石器 (2)

CC4005

接合資料09027



4-1 250-94,29 FL

4-2 250-94,30 FL

SH

接合資料09021



5 a 250-02, 9 GE
(250-037ブロック)
5 d 250-94,28 GE
5 c 250-94,10 GE

CC1002

接合資料09010



6-1 250-94,32 FL

6-2 250-94,15 FL



6-3 250-94,12 FL

6-4 250-94,41 FL

6-5 250-94,45 FL



6-6 250-94,11 FL



6-7 250-94,36 FL



6-8 250-94,39 FL



6-9 250-94,17 FL

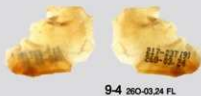
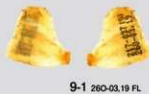


6-10 250-95,5 CO
(250-857ブロック)

第5文化層 260-03ブロック出土石器 (1)



CC4001 接合資料09015

CC4002
接合資料09012CC4001
接合資料09013

第5文化層 260-03ブロック出土石器 (2)

CC4001

接合資料09013



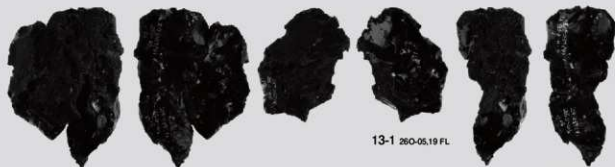
CC4006

接合資料09011

第5文化層 260-05ブロック出土石器 (1)



第5文化層 260-05ブロック出土石器(2)

7 260-05,14
SP OB50118 250-96,1
RF OB50029 260-05,36
RF OB500110 260-05,17
RF GA準器11 260-05,47
MF OB501112 260-05,25
FL OB5011OB2003
接合資料09022

13-1 260-05,19 FL

13-2a 260-06,20 FL
13-2b 260-06,15 FLOB2001
接合資料09024

14-1 260-06,4 FL



14-2 260-05,38 FL

第5文化層 260-05ブロック出土石器 (3)

OB5011
接合資料09026



15-1 260-16,1 FL



15-2 260-05.33 FL

OB2001
接合資料09023



16-1 260-05.32 FL



16-2 260-06,10 FL



16-3 260-06.7 CO

第5文化層 27L-03ブロック出土石器



1 27L-13.2
PO OB3003



2 27L-03.1
PO OB4001



3 27L-13.9
RF OB4001

SH1016
接合資料14044



4 a 27L-13.34 MF
4 b 27L-13, 6 MF

OB5004
接合資料14064



5-1 27L-13.64 FL



5-2 27L-03.5 FL

第5文化層 27L-21ブロック出土石器(1)



1 27L-10.4
PO OB4001



2 27L-22.6
PO OB4001



3 27L-10.1
PO OB3003



4 27L-10.18
PO OB4001



7 27K-19.11
RF OB4005

OB3006
接合資料14065



5a 27L-10.15 KN
5b 27L-10.16 KN

6 27L-11.56
GR SH1016



8 27L-10.13
RF OB4001



9 27L-21.19
RF OB4001



10 27L-01.6
FL OB4001

OB4001
接合資料14058



11a 27L-01.14 FL
11b 27L-01. 8 FL

OB3006
接合資料14067



12a 27L-11.34 FL
12b 27L-11. 3 FL



13 27L-21.8
FL GA 848

OB3006
接合資料14066



14a 27L-10. 8 FL
14b 27L-11.113 FL

第5文化層 27L-21ブロック出土石器(2)

OB3006
接合資料14057



OB3002
接合資料14062



OB3002
接合資料14082



OB3006
接合資料14060



第5文化層 27L-21ブロック出土石器 (3)

SS3002

接合資料14075



第5文化層 27L-76ブロック出土石器 (1)



OB1002
接合資料14047



OB3007
接合資料14076



第5文化層 27L-76ブロック出土石器 (2)

OB
接合資料14078



第5文化層 26T-03ブロック出土石器

MS0002
接合資料02005



第6文化層 15Q-52ブロック出土石器



第6文化層 15Q-91ブロック出土石器



第6文化層 211-35ブロック出土石器



单独出土石器 (1)



1 S1003-8
MB OB



2 18P-07.5
MC RH



3 24V-76.2
MC OB



4 24V-07.27
MC OB



5 22W-86.3
PO HS



6 25U-43.3
PO HS



7 27L-07.1
PO OB



8 23O-20.2
KN OB



9 26O-04.6
KN SS0008



10 23P-83.1
TP OB



11 15Q-18.101
RF OB



12 20V-46.3
RF OB



13 23N-08.2
FL CH



14 25N-39.2
FL GA4003

単独出土石器 (2)



15 SD002-2
FL BS

GA
接合資料14073



16a 25N-48.1 RF
16b 25N-37.1 FL



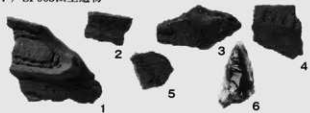
17 25V-75.2
PO BS



18 25O-95.12
PO OB

縄文時代出土遺物 (1)

(7) SI-003出土遺物



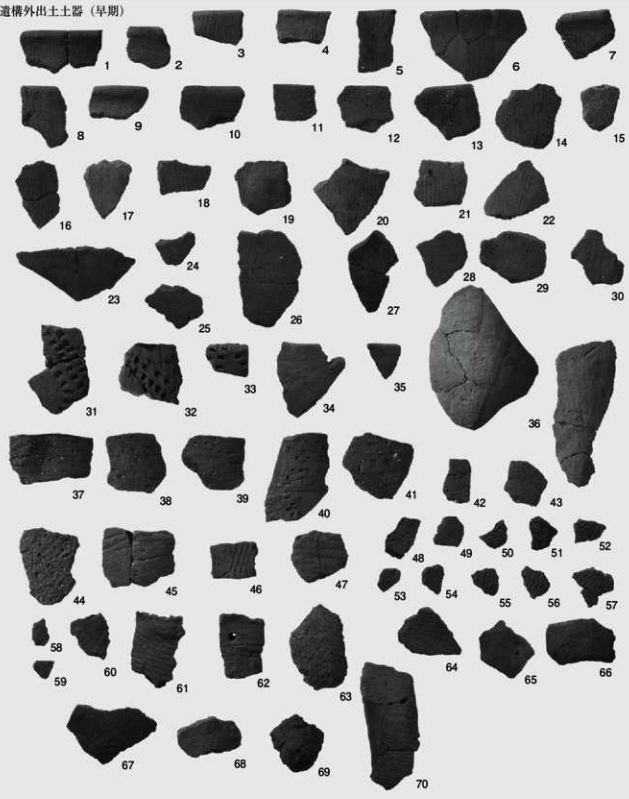
(7) SX-002出土遺物



(5) SK-004
出土遺物

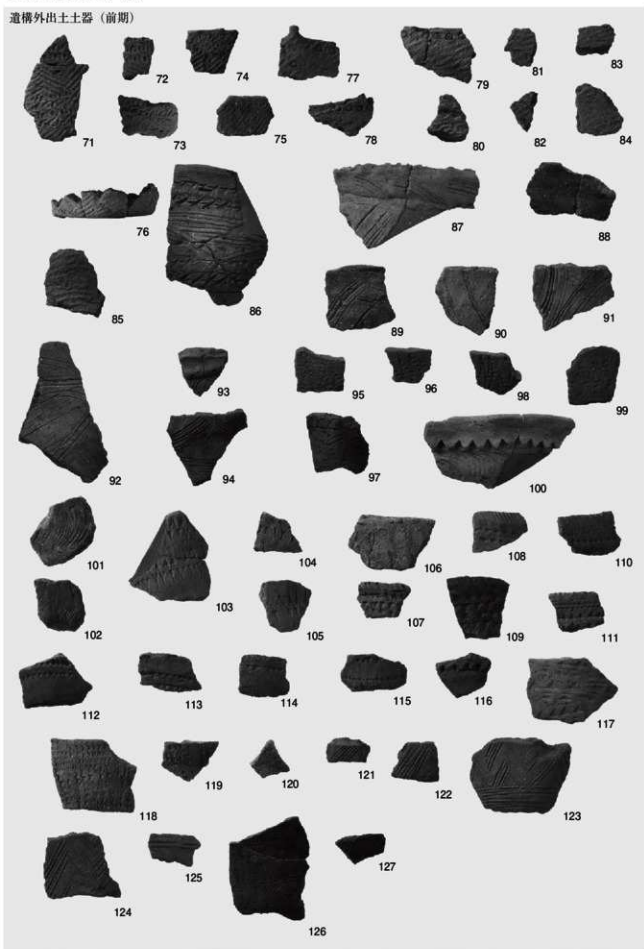


遺構外出土土器 (早期)



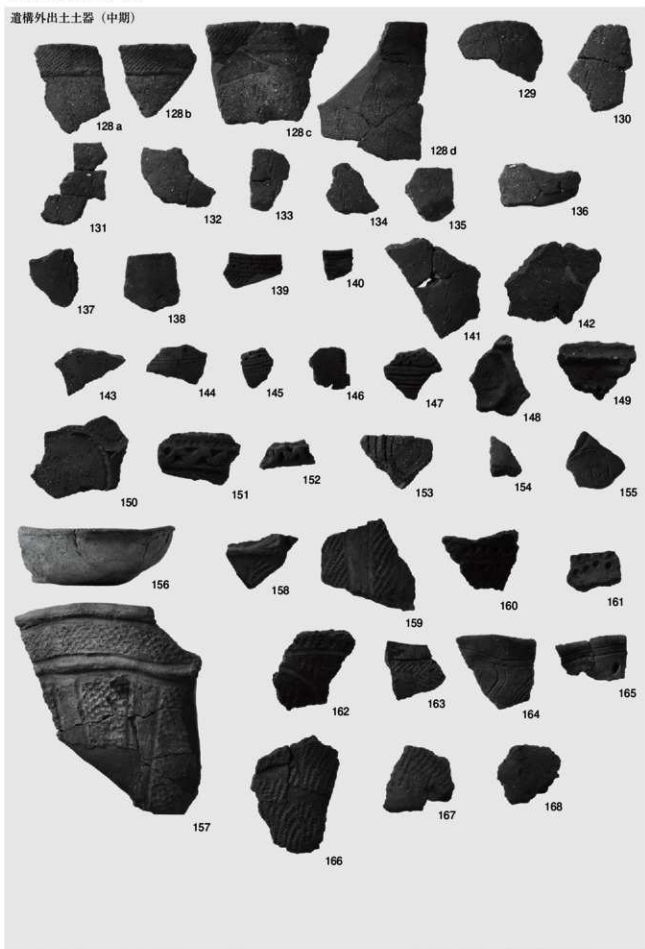
繩文時代出土遺物 (2)

遺構外出土土器 (前期)



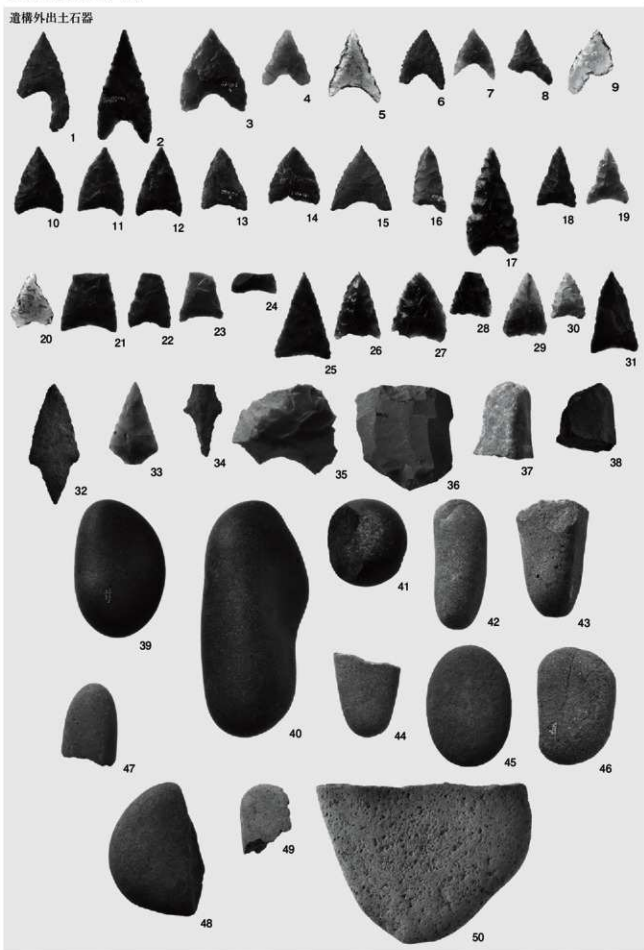
縄文時代出土遺物 (3)

遺構外出土土器 (中期)



繩文時代出土遺物 (4)

遺構外出土石器



古墳時代出土遺物 (1)

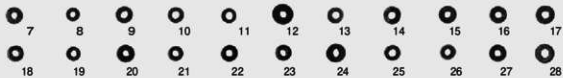
(2) SI-001出土遺物



(2) SI-002出土遺物



(2) SI-003出土遺物 (1)



古墳時代出土遺物 (2)

(2) SI-003出土遺物 (2)



(2) SI-006出土遺物



(2) SI-007出土遺物



古墳時代出土遺物 (3)

(2) SI-008出土遺物 (1)



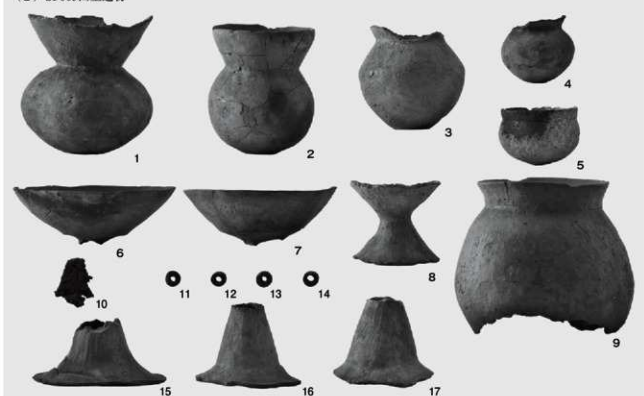
古墳時代出土遺物 (4)

(2) SI-008出土遺物 (2)



古墳時代出土遺物 (5)・平安時代出土遺物 (1)

(2) SI-009出土遺物



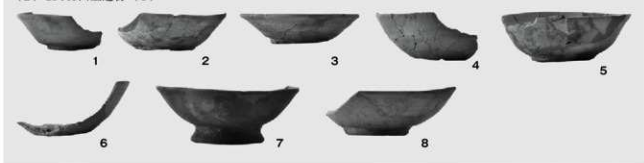
(2) SK-004出土遺物



(2) SI-004出土遺物

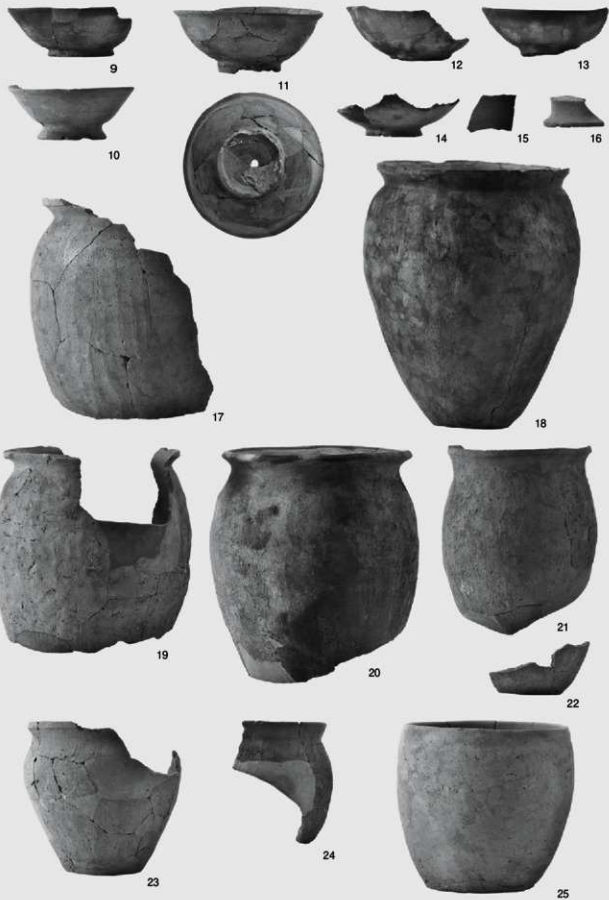


(2) SI-005出土遺物 (1)



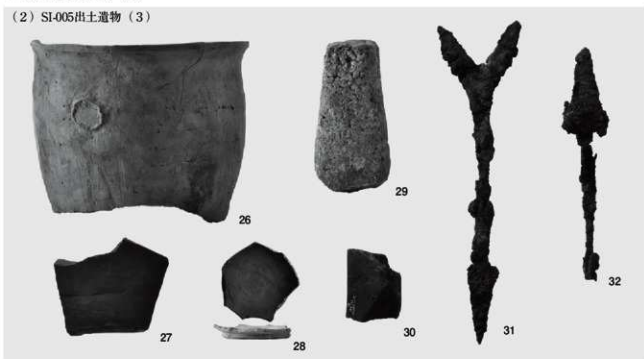
平安時代出土遺物 (2)

(2) SI-005出土遺物 (2)

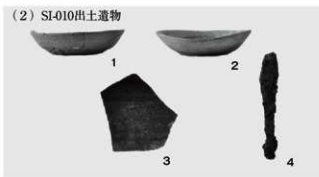


平安時代出土遺物 (3)

(2) SI-005出土遺物 (3)



(2) SI-010出土遺物



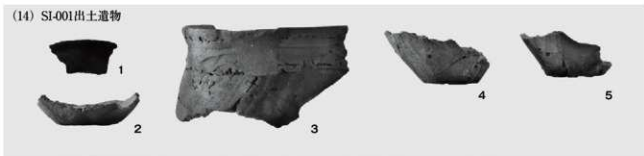
(4) SI-002出土遺物



(7) SI-001出土遺物



(14) SI-001出土遺物

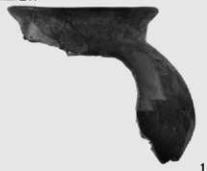


その他出土遺物

(2) SD-003出土遺物



遺構外出土遺物



報告書抄録

ふりがな	かしわはくふちゅうおうちくまいどうふんかざいちようきほうこくしょ9							
書名	柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書9							
副書名	柏市内山遺跡(1)～(20)							
席次	9							
シリーズ名	千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第46集							
編著者名	渡邊 玲 金丸 誠 蜂屋孝之 田島 新 小澤政彦							
編集機関	千葉県教育委員会							
所在地	〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL043-223-4129							
発行年月日	西暦2023年3月6日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
内山遺跡	柏市正連寺 394-31ほか	12217	037	35度 54分 1秒	139度 56分 57秒	20030414～ 20201113	192,247.7㎡	土地区画整理
				世界測地系				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
内山遺跡 (1)～(20)	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点 60か所		旧石器時代石器		AT降灰後のナイフ形石器・尖頭器・細石刃等の石器群が出土している。	
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 環集中地点 陥穴 遺物包含層	1軒 1か所 21基 1か所	縄文時代土器・石器		早期燃糸文土器とともに押型文土器が出土した。	
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 竪穴状遺構	8軒 1基	土師器・鉄器・白玉・支脚		中期の集落跡で、鍛冶関連の工房跡が検出された。	
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡	8軒	土師器・須恵器・灰軸陶器・鉄器・支脚・墨書土器・砥石		平安時代の集落跡としては、最も新しい時期である。	
	集落跡 墓域	中世～近世	地下式坑 井戸 土坑 溝	1基 1基 5基 3条	控鉢・山茶碗・近世銭貨			
要約	本遺跡は、地金堀とその支流により解析された標高12m～19mの低地上にある。旧石器代は、遺物集中地点が60か所検出され、Ⅱ層～Ⅴ層までの6文化層に比定される。縄文時代は、中期の竪穴住居跡1軒と環集中地点1か所・早期～前期の陥穴21基・早期の遺物包含層などが検出された。古墳時代は、中期の竪穴住居跡8軒と竪穴状遺構1基が検出され、鍛冶関連の工房跡とみられる遺構も含まれている。平安時代は、ほぼ10世紀代の平安時代中葉の竪穴住居跡8軒が検出された。中世～近世では、地下式坑1基・井戸1基・土坑5基・溝3条などが検出された。							

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第46集

柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書9

— 柏市内山遺跡(1)～(20) —

令和5年3月6日発行

編集・発行 千葉県教育委員会
千葉県中央区市場町1-1
印刷 株式会社 弘文社
市川市市川南2-7-2
